

## 6.1. 評価の進め方

### 6.1.1. 評価方針

ダム等管理フォローアップ制度は、適切なダム管理を行っていく重要性を鑑み、事業の効果や環境への影響等を分析、評価し、必要に応じて改善措置を講じる取り組みである。各ダムで5年ごとに過去の調査結果の分析・評価を行い、定期報告書を作成する。

ここでは、室生ダムの河川水辺の国勢調査の結果を活用し、生物に関する評価としてダム湖及びその周辺の環境特性の把握を行い、生物の生息・生育状況に変化が生じているかどうかを整理した。

検証、評価する項目は以下のとおりである。

生物の生息・生育状況の変化の検証

生物の生息・生育状況の変化の評価

### 6.1.2. 評価手順

生物に関する評価の手順は、図 6.1.2-1 に示すとおり、収集した資料をもとに基礎情報としてダム湖及びその周辺の環境の把握を行った。

次に区域ごとに生物の生息・生育状況の変化の把握を行った。それぞれ、環境条件の変化やそれに伴う生物の生息・生育状況の変化を把握し、その変化がダムによる影響を受けているか検証した。その結果を受け、生物の生息・生育状況の変化に対する評価を行った。

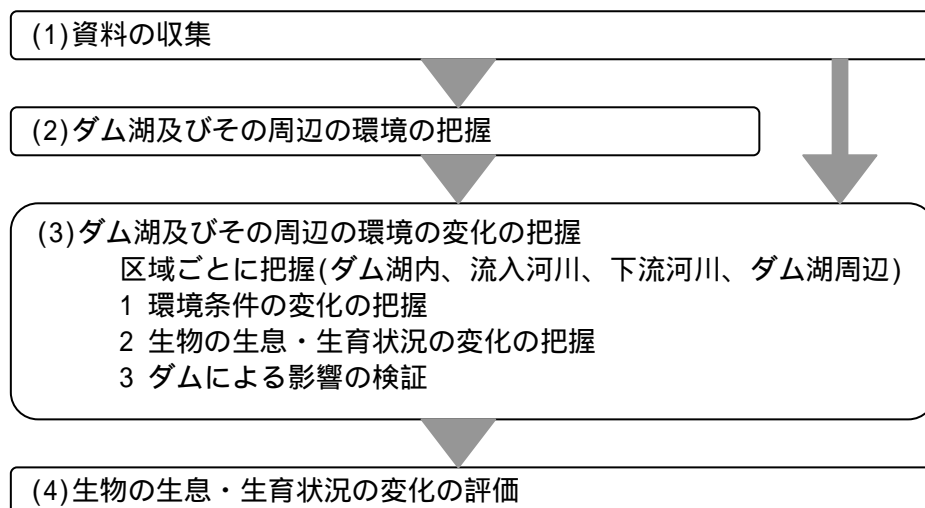


図 6.1.2-1 生物の評価の手順

### 6.1.3. 資料の収集

#### 1) 資料の収集

室生ダム及びその周辺に生息・生育する動植物の整理にあたっては、平成4年度から平成20年度までに実施されている「河川水辺の国勢調査報告書(ダム湖版)」を使用した。使用した文献のリストは、表6.1.3-1に示すとおりである。

表 6.1.3-1 使用文献一覧

資料番号	区分	資料名	発行年月
資料-1	国勢調査	貯水池魚介類調査(その2)報告書 室生ダム	平成5年2月
資料-2		名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務報告書 室生ダム	平成6年3月
資料-3		名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(植物調査、陸上昆虫類等調査)報告書 室生ダム	平成7年3月
資料-4		名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(底生動物調査)報告書 室生ダム	平成8年3月
資料-5		名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(魚介類調査)報告書 室生ダム	平成9年3月
資料-6		名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(鳥類調査)報告書 室生ダム	平成10年3月
資料-7		名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類調査・陸上昆虫類等調査) 室生ダム 報告書	平成11年3月
資料-8		平成11年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査業務 報告書	平成12年3月
資料-9		平成11年度 名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務報告書(室生ダム・植物調査)	平成12年1月
資料-10		平成12年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査業務(室生ダム・底生動物)報告書	平成13年3月
資料-11		平成13年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(魚介類調査)報告書	平成14年3月
資料-12		平成14年度 河川水辺の国勢調査(鳥類調査)報告書 室生ダム	平成15年3月
資料-13		平成15年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(陸上昆虫類等)報告書	平成16年3月
資料-14		平成15年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告書	平成16年3月
資料-15		木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(その3)報告書	平成17年3月
資料-16		平成16年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(陸上植物調査)報告書	平成17年3月
資料-17		平成17年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(底生動物調査)報告書	平成18年2月
資料-18		平成18年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(鳥類調査)報告書	平成19年6月
資料-19		平成19年度 木津川ダム 河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)報告書	平成20年3月
資料-20		平成20年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(底生動物調査)報告書	平成21年3月
資料-21		他	平成18年度 木津川ダム湖水質調査(その2)業務 報告書

(2)調査実施状況の整理

これまでに実施されている生物調査の実施状況は、表 6.1.3-2 に示すとおりであり、水域に係る調査としては、魚介類、底生動物、動植物プランクトン、陸域に係る調査としては、植物、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等が実施されている。

表 6.1.3-2 調査実施年度一覧

調査年度	調査番号	資料名	対象生物								
			魚介類	底生動物	プランクトン	動植物	植物	鳥類	哺乳類	爬虫類・両生類	陸上昆虫等
H4	1	貯水池魚介類調査(その2)報告書 室生ダム									
H5	2	名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務報告書 室生ダム									
H6	3	名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(植物調査、陸上昆虫類等調査)報告書 室生ダム									
H7	4	名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(底生動物調査)報告書 室生ダム									
H8	5	名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(魚介類調査)報告書 室生ダム									
H9	6	名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務(鳥類調査)報告書 室生ダム									
H10	7	名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類調査・陸上昆虫類等調査) 室生ダム 報告書									
H11	8	平成 11 年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査業務 報告書									
H11	9	平成 11 年度 名張川上流ダム群 河川水辺の国勢調査業務報告書(室生ダム・植物調査)									
H12	10	平成 12 年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査業務(室生ダム・底生動物)報告書									
H13	11	平成 13 年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(魚介類調査)報告書									
H14	12	平成 14 年度 河川水辺の国勢調査(鳥類調査)報告書 室生ダム									
H15	13	平成 15 年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(陸上昆虫類等)報告書									
H15	14	平成 15 年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告書									
H16	15	木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(その3)報告書									
H16	16	平成 16 年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(陸上植物調査)報告書									
H17	17	平成 17 年度 河川水辺の国勢調査(室生ダム)(底生動物調査)報告書									
H18	18	平成 18 年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(鳥類調査)報告書									
H18	19	平成 18 年度 木津川ダム湖水質調査(その2)業務 報告書									
H19	20	平成 19 年度 木津川ダム 河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)報告書									
H20	21	平成 20 年度 木津川ダム群 河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(底生動物調査)報告書									

(3)調査内容の整理

これまでに実施されている生物調査の調査内容は表6.1.3-3に、調査位置は図6.1.3-2に、調査の区域区分を図6.1.3-1に示す。

表 6.1.3-3(1) 調査内容一覧:魚介類

調査地区										調査内容						
区分	H4		H5		H8		H13		H19		H4	H5	H8	H13	H19	
調査番号	1		2		5		11		19		1	2	5	11	20	
下流河川					No.1	下流河川(宇陀川)	St.1	下流河川	淀室下1	ダムサイト直下	-	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水80分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網150分、セルびん4個、はえなわ4本、潜水観察0.5h	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、どう2個、カゴ網2個、潜水観察2h	
ダム湖	St.2	湖心	St.3	湖底の平らな部分	No.2	湖内湾入部	St.2	湖肢	淀室湖2	湖岸部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(18mm)中層90m、タモ網60分、セルビン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、セルびん10個、はえなわ4本、カニカゴ4個、どう4個	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層1枚・中層2枚、セルびん2個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
									淀室湖3	宇陀川流入部	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
							St.9	河川流入部	淀室湖6	深谷川流入部	-	-	-	刺網(15mm)表層1枚・中層2枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚、投網(12mm)10回・(18mm)20回、タモ網140分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.3	天満川流入部	St.2(1)	天満川流入部	No.3	河川流入点(天満川)	St.3	河川流入部	淀室湖7	天満川流入部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルビン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)20回・(18mm)15回、タモ網120分、セルびん15個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚・中層2枚、投網(12mm)20回・(18mm)10回、タモ網110分、セルびん4個、はえなわ4本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.4	宇陀川流入部	St.1(1)	宇陀川流入部	No.5	河川流入点(宇陀川)	St.5	ダム湖内			刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルビン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表層180m、投網(12mm)17回・(18mm)18回、タモ網120分、セルびん16個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚、タモ網20分	-	
			St.1(2)	宇陀川流入部									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-
		St.1-1	ダムサイト								刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-	-	-
		St.1-2	ダムサイト(船着場)								モンドリ、目視	-	-	-	-	-
							St.7	最深部			-	-	-	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚	-	
							St.8	河川流入部			-	-	-	刺網(15mm)表層1枚、底層1枚、刺網(50mm)表層2枚、投網(12mm)15回・(18mm)25回、タモ網90分、セルびん4個、はえなわ1本	-	
流入河川							St.10	流入河川	淀室入1	流入河川深谷川	-	-	-	投網(18mm)21回、タモ網75分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.6	流入河川	St.2(2)	天満川流入部	No.4	流入河川(天満川)	St.4	流入河川	淀室入2	流入河川天満川	投網(12mm)3回	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網60分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h		
	St.5	宇陀川(高倉橋付近)			No.6	流入河川(宇陀川)	St.6	流入河川	淀室入3	流入河川宇陀川	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水60分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)25回・(18mm)26回、タモ網120分、セルびん4個、はえなわ2本、潜水観察20分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
その他								淀室他1	水質保全ダム湛水域	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
時期	-		-		-		-		初夏		-		-		H19.6.5~9	
	夏季		-		夏季		夏季		夏季		H4.8.12~14		-		H19.8.27~29	
	秋季		秋季		秋季		秋季		-		H4.10.12~14		H5.9.20~22		H8.7.23~24、29~30 H8.10.16~18 H13.7.31、8.1~6 H13.10.23~31	

表 6.1.3-3(2) 調査内容一覧:底生動物

調査年度		H5	H7	H12	H17	H20	
調査番号		2	4	10	17	21	
調査地点	区分	下流河川	放水口	(定量・定性)No.1	(定量・定性)No.1	(定量・定性)St.1	淀室下1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	(定点)No.2,No.3,No.4 (定性)1,2,3,4,5	(定点)St.2,St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7	(定点)St.2,St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7,8	淀室湖1,淀室湖2,淀室湖3, 淀室湖6,淀室湖7
		流入河川	天満川(早瀬,植物帯), 高倉橋(平瀬,植物帯), 内牧川(平瀬,植物帯)	(定量・定性)No.5,No.6,No.7	(定量・定性)St.5,St.6,St.7	(定量・定性)St.5,St.6,St.7	淀室入1,淀室入2,淀室入3
		その他	-	-	-	-	淀室他1(水質保全ダム)
調査方法	定点調査	採泥器等による採取 (0.25m <sup>2</sup> )	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回程度	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回	
	定性調査		ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	
	定量調査		サーバーネット(25cm×25cm)	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×6回	
調査時期	夏季	-	H7.7.20~21、8.23	H12.7.19~21	H17.10.19~20	H20.8.25~26	
	冬季	-	H7.12.20~21	H12.11.8~9	H18.1.14~15	-	
	早春季	-	H8.2.21~22	H13.1.12~13	H17.7.2~3	H20.4.21~22	
	その他	H5.9.21	-	-	-	-	

表 6.1.3-3(3) 調査内容一覧:動植物プランクトン

調査年度		H5	H11	H16	H18	
調査番号		2	8	15	19	
調査地点	区分	下流河川	放水口	No.1	No1(放水口)	淀室下-1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	No.2,No.3,No.4,	No.2(網場),No.3(湖心),No.4(赤人橋)	淀室湖-1
		流入河川	天満川,内牧川,高倉橋	No.5,No.6,No.7	No.5(天満川),No.6(内牧川),No.7(宇陀川)	-
植物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19~20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18~19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18~19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6
動物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19~20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18~19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18~19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6

表 6.1.3-3(4) 調査内容一覧:植物

調査年度		H6	H11	H16	
調査番号		3	9	16	
調査地点	区分	下流河川	-	-	植物相調査(6 下流河川) 群落組成調査(No.23)
		流入河川	-	-	植物相調査(7 流入河川) 群落組成調査(No.27)
		ダム湖 周辺	植物相調査, 植生分布調査, 群落組成調査(No.1~ No.27)	植物相調査, 植生分布調査, 群落組成調査(No.1~ No.27)	植物相調査 (1スギ-ヒノキ植林,2コナラ群落,3 アカマツ群落,4 林縁部,5 林縁部 -2,8 沢筋,その他) 植生分布調査, 群落組成調査 (No.1~No.22,No.24~No.26)
植物相調査	調査数量	ルート:29.2km	ルート:21.2km	ルート:18.1km	
	調査時期	春季	H6.4.28、6.1~4	H11.5.28~30	H16.5.23~24
		夏季	-	H11.8.13、15	H16.8.6~11
秋季	H6.10.21~22、28、 11.3~4	-	H16.10.11~13、15		
植生分布調査	調査数量	面積:741.89ha	面積:741.25ha	面積:770.46ha	
	調査時期	春季	H6.4.28、6.24	-	-
		夏季	-	-	H16.8.9~11
秋季	-	H11.10.12~14	-		
群落組成調査	調査数量	27 地点	27 地点	27 地点	
	調査時期	夏季	H6.8.22~25	H11.8.10~13、15	H16.8.7~11
秋季		-	-	H16.10.11~12	

表 6.1.3-3(5) 調査内容一覧:鳥類

調査年度		H5	H9	H14	H18・19	
調査番号		2	6	12	18	
調査地点	区分	下流河川	-	-	ラインセンサス(5-1)	スポットセンサス(淀室下1)
		ダム湖内	定点記録(P1~P3)	定点記録(P1~P3)	定点記録(P-1~P-3)	船上センサス(淀室湖8)
		流入河川	-	-	ラインセンサス(5-2)	スポットセンサス(淀室入3)
		ダム湖周辺	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+定位記録法(1,2,3,6) ラインセンサス(4-1,4-2) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+スポットセンサス(淀室周1~淀室周3) 定点センサス(淀室周4,淀室周5) 夜間調査、移動中
ラインセンサス	調査数量	7.2km (2回×1~2日)	7.2km (2回×1日)	3.9km (2回×2~3日)	-	
	調査時期	春季	H5.5.28	H9.5.8	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.11	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.8	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.27	H15.1.28、30	-
ラインセンサス + スポットセンサス	調査数量	-	-	-	センサス2.1km+スポット9地点 (スポット1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
スポットセンサス	調査数量	-	-	-	9地点(1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
環境に応じた確認 ラインセンサス法 + 定位記録法	調査数量	-	-	1.3km+80分	-	
	調査時期	春季	-	-	H14.5.8~10	-
		夏季	-	-	H14.6.13~14	-
		秋季	-	-	H14.10.8~9	-
		冬季	-	-	H15.1.28、30	-
定点センサス	調査数量	-	-	-	1箇所30分	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
定位記録法	調査数量	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	-	
	調査時期	春季	H5.5.28~29	H9.5.7	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.12	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.9	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.26	H15.1.28~30	-
船上センサス	調査数量	-	-	-	2人×1日(80~85分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.12
		冬季	-	-	-	H19.1.30
夜間	調査数量	2人×1日	2人×1日	2人×1日	3人×1日(180分)	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.15
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.10
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.29
移動中の確認	調査数量	3人×1日	3人×1日	2人×2日	2人×2日	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.16~17
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.22~23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.12~13
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.30~31



表 6.1.3-3(6) 調査内容一覧:両生類・爬虫類・哺乳類

調査年度		H5	H10	H15			
調査番号		2	7	14			
調査地点	区分	下流河川	-	-	5-1 河畔(流出河畔)		
		流入河川	-	-	5-2 河畔(流入河畔),その他(深谷川))		
		ダム湖周辺	フィールドサイン・目撃法, トラップ法:地点1~地点3	フィールドサイン・目撃法, カメカゴ(No1~No.4) トラップ法(No1~No4) 自動撮影法(No1~No2)	1 スギ-ヒノキ群落,2 コナラ群落, 3 アカマツ群落,4-1 林縁部,4-2 林縁部, 6 沢筋,7-2 その他(荷阪川)		
両生類 爬虫類 哺乳類	フィールド サイン法 目撃法	調査数量	ルート延長:22.0km	ルート延長:26.0km	ルート延長:18.5km		
		調査時期	春季	H5.5.28~29	H10.5.14~16	H15.5.19~22	
			夏季	H5.8.24~26	H10.8.6~8	H15.8.4~6	
			秋季	H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16	
			冬季	H6.1.25~26 (哺乳類調査のみ)	H11.1.21~22 (哺乳類調査のみ)	H16.1.20~22 (哺乳類調査のみ)	
両生類 爬虫類	墜落缶	調査数量	-	-	1 地点(20 個)		
		調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22	
			夏季	-	-	-	
			秋季	-	-	H15.10.14~16	
			冬季	-	-	-	
	カメカゴ (カメトラップ)	調査数量	-	3 地点(1 地点 1 個)	4 地点(1 地点 1 個)		
		調査時期	春季	-	H10.5.14~15	H15.5.19~22	
			夏季	-	H10.8.6~7	-	
			秋季	-	-	H15.10.14~16	
			冬季	-	-	-	
哺乳類	トラップ法調査	マウス	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 20 個)	3 地点(1 地点 30 個)	8 地点(1 地点 30 個)	
			調査時期	春季	H5.5.28~30	H10.5.14~16	H15.5.19~22
				夏季	H5.8.24~26	-	-
				秋季	H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16
				冬季	H6.1.25~27	-	-
		モグラ	調査数量	-	1 地点(5 対)	1 地点(春 1 個、秋 9 個)	
			調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22
				夏季	-	-	-
				秋季	-	H10.10.13~14	H15.10.14~16
				冬季	-	-	-
	カゴ罠	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 1 個)	-	3 地点 1 地点(春 10 個、秋 5 個)		
		調査時期	春季	H5.5.28~30	-	H15.5.19~22	
			夏季	H5.8.24~26	-	-	
			秋季	H5.9.28~30	-	H15.10.14~16	
			冬季	H6.1.25~27	-	-	
			調査数量	-	2 地点	3 地点	
			自動撮影法	調査時期	春季	-	H15.5.19~22
夏季	-	-		-			
秋季	-	H10.10.13~14		H15.10.14~16			
冬季	-	H11.1.21~22		-			
その他		-	モリアオガエル補足調査 (H10.6.11) オオサンショウウオ夜間 調査 (H10.8.6~7、10.12、 H11.1.21)	-			

表 6.1.3-3(7) 調査内容一覧:陸上昆虫類等

調査年度		H6	H10	H15	
調査番号		3	7	13	
調査地点	区分	下流河川	-	-	5-1 河畔(流出河畔)
		流入河川	-	-	5-2 河畔(流入河畔)
		ダム湖周辺	任意採集(R-1~R-3) トラップ(B-1~B4,L-1~L-3)	任意採集(R-1~R-3) トラップ(B-1~B4,L-1~L-3)	1 スギ-ヒノキ群落, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4-1 林縁部,4-2 林縁部, 6 沢筋,その他(荷阪川)
任意採集	調査数量		3 ルート	3 ルート	8 ルート
	調査時期	春季	H6.5.25	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.15	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.6	H10.10.6~9	H15.10.7~9
ピットフォール トラップ	調査数量		4 地点 (ビニールコップ 120 個)	3 地点 (ビニールコップ 90 個)	8 地点 (ビニールコップ 240 個)
	調査時期	春季	H6.5.22~25	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.14~17	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.5~8	H10.10.6~9	H15.10.6~9
ライトトラップ	調査数量		3 地点(ボックス法 3 個)	3 地点 (カーテン法 3 個、 ボックス法 3 個)	8 地点 (カーテン法夏のみ 1 個、 ボックス法 8 個)
	調査時期	春季	H6.5.22~24	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.14~16	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.5~7	H10.10.6~9	H15.10.6~9
その他		-	ゲンジボタル補足調査 H10.6.11~12	ライトトラップ(カーテン法) は夏季調査のみ 1 地点実施。 任意採集は既定 8 ルートのほ か範囲全域を対象とした調査 を毎回実施	



図 6.1.3-1 調査の区域区分

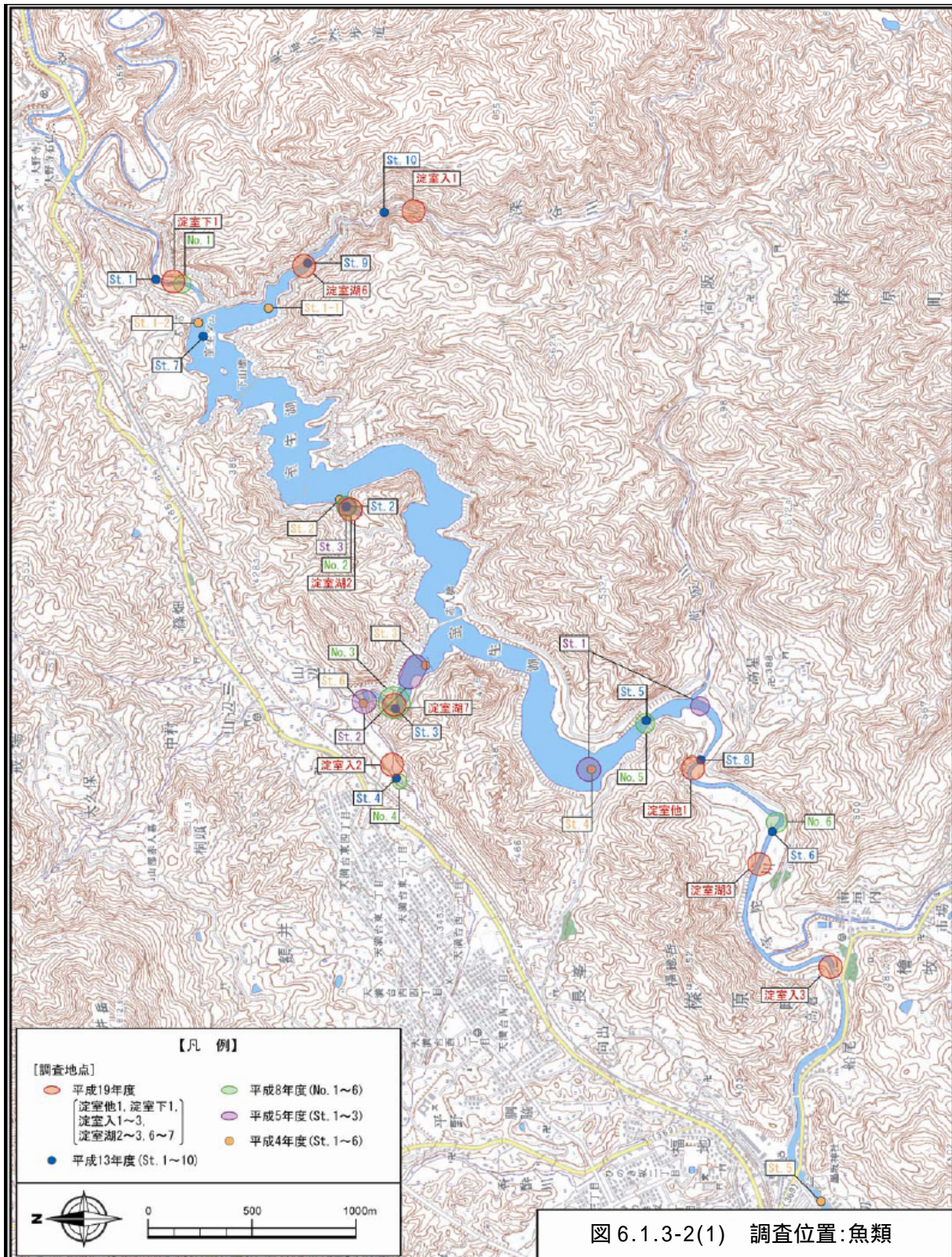


図 6.1.3-2(1) 調査位置:魚類



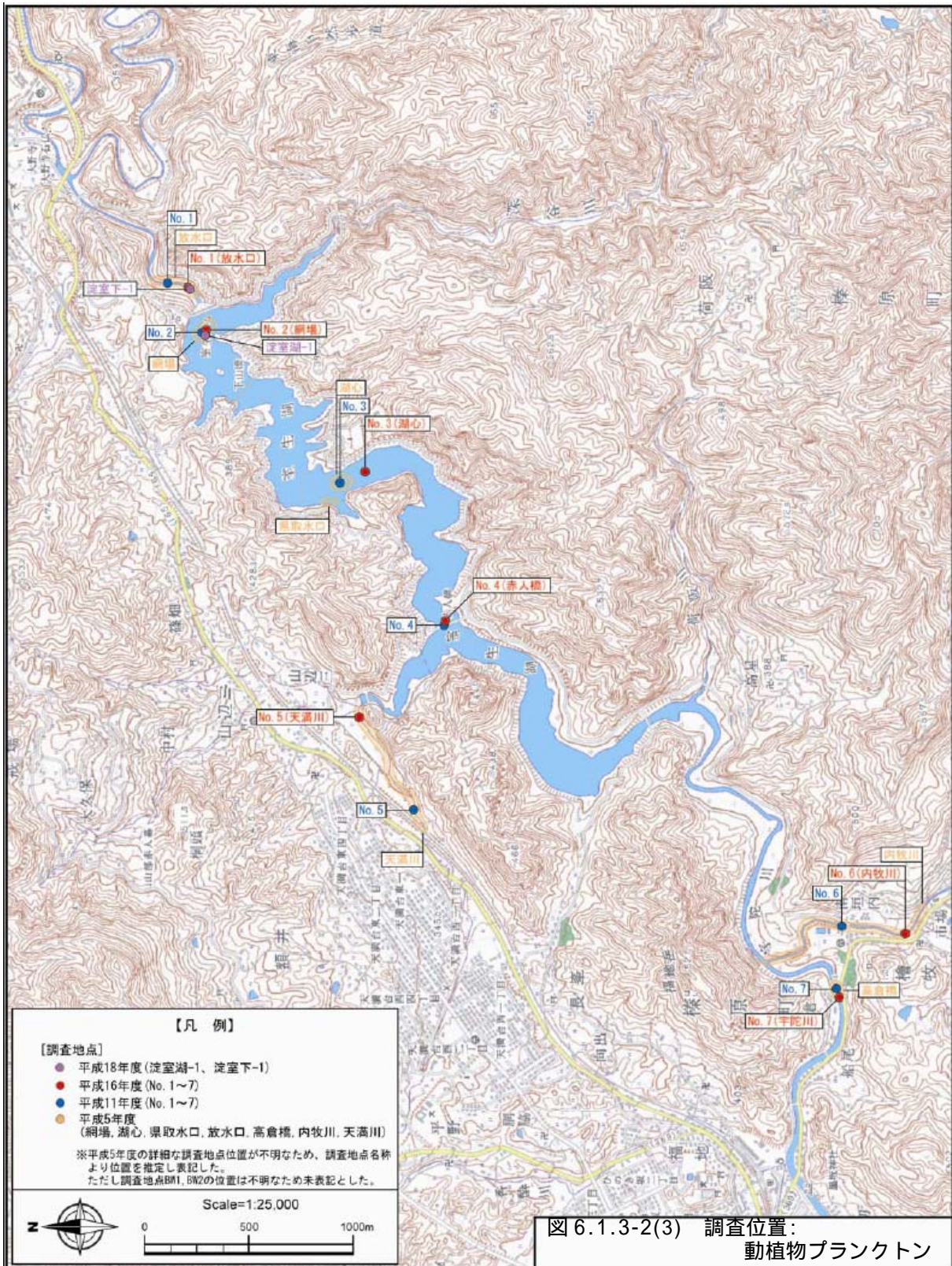


図 6.1.3-2(3) 調査位置：  
動植物プランクトン

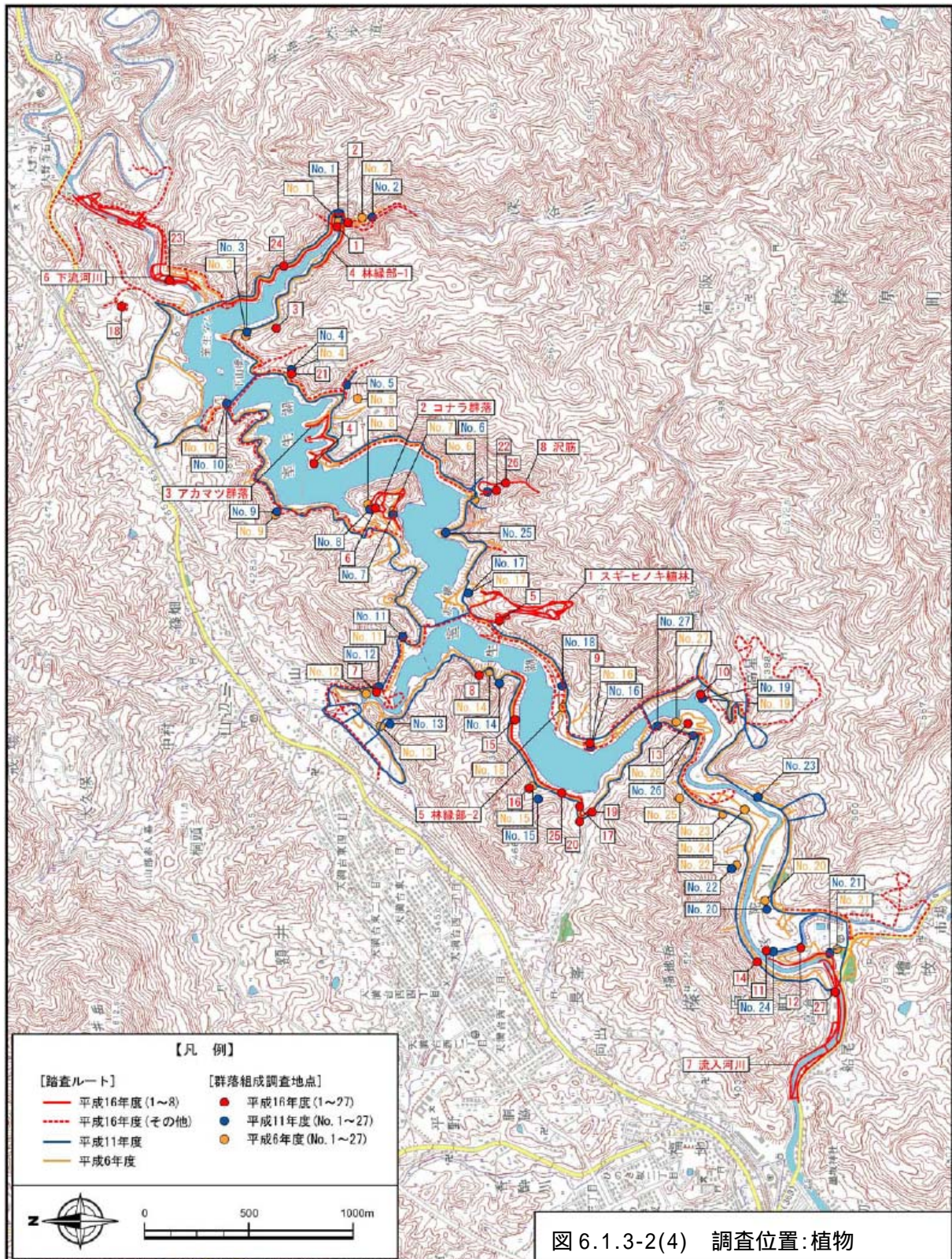
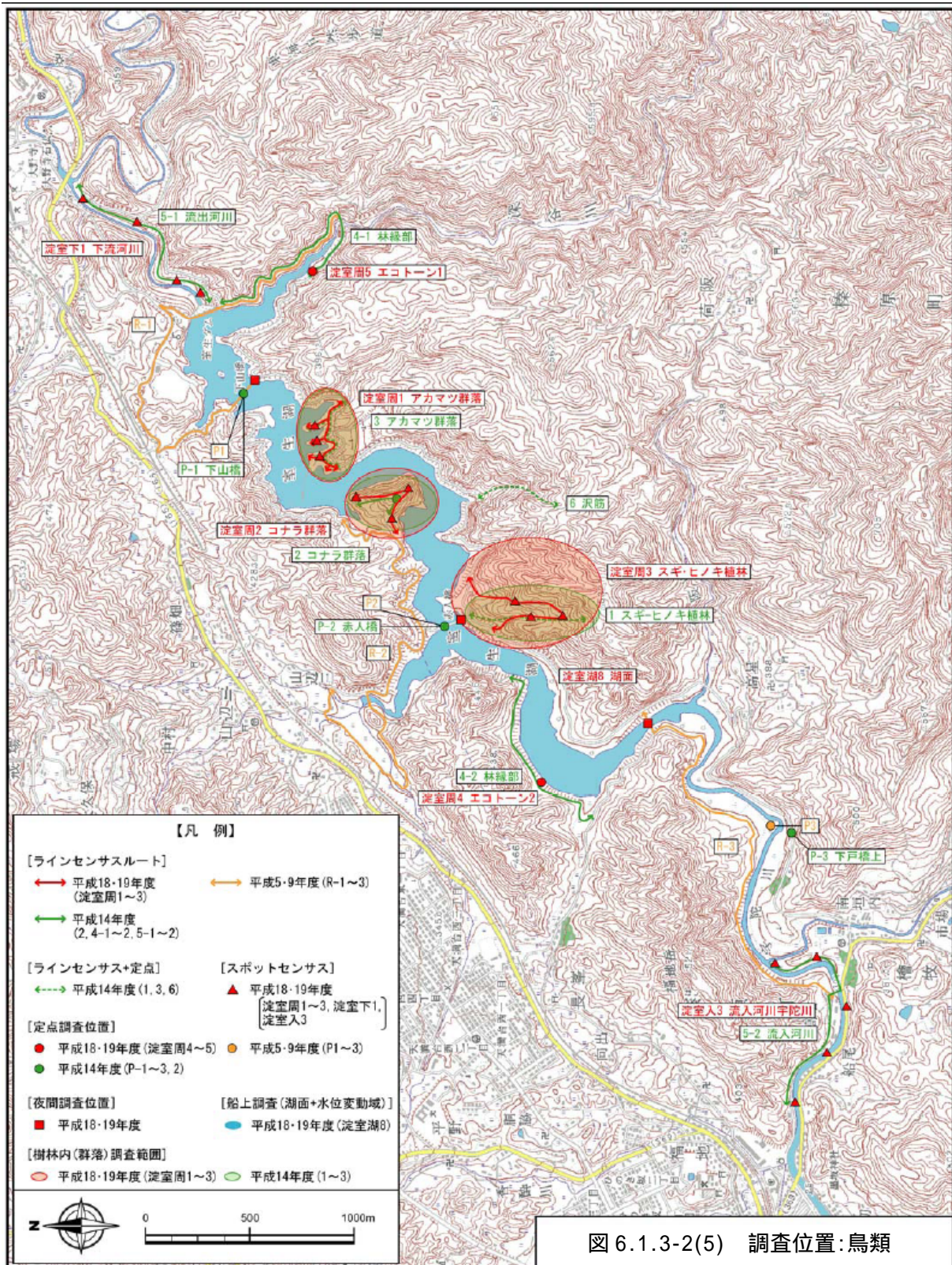
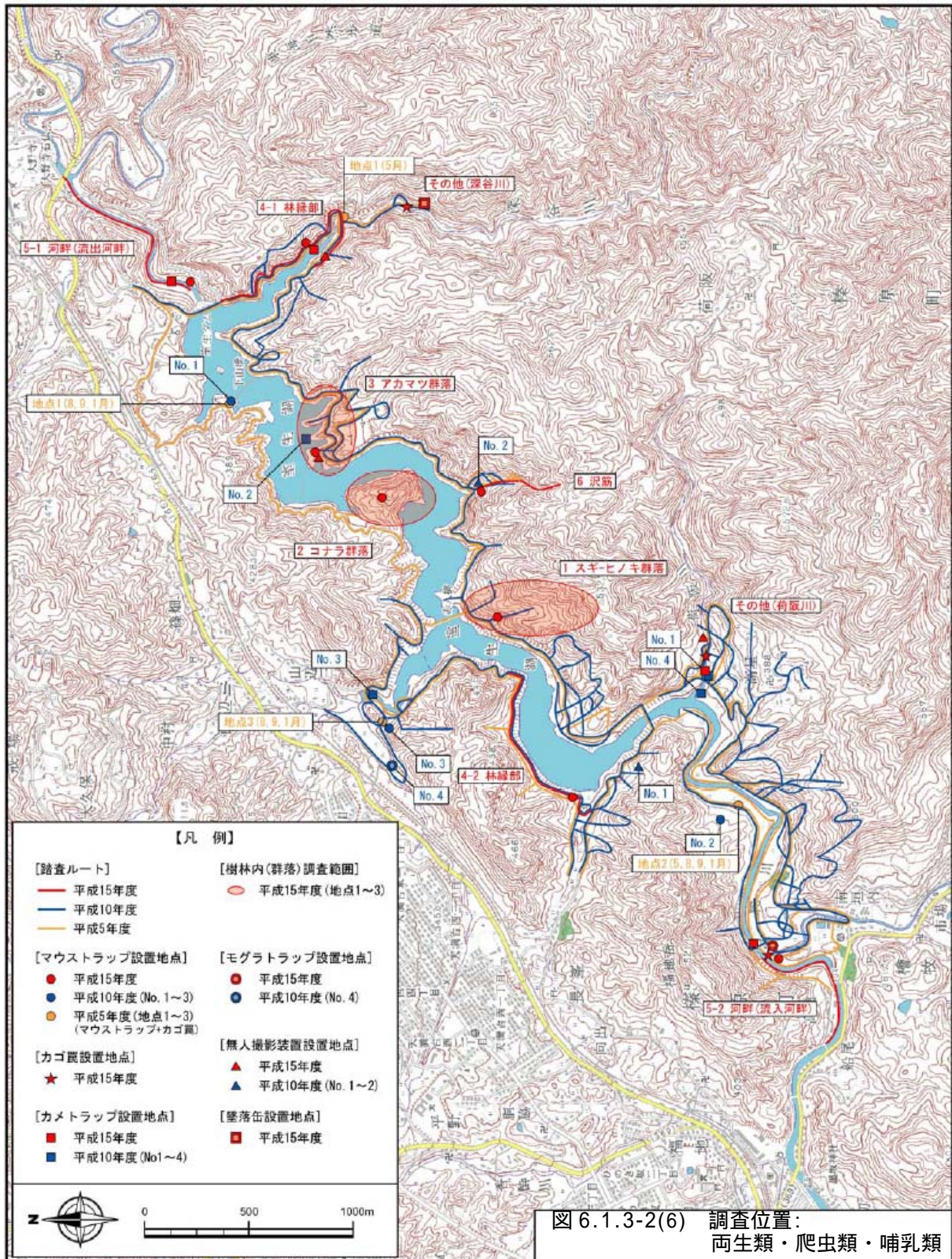
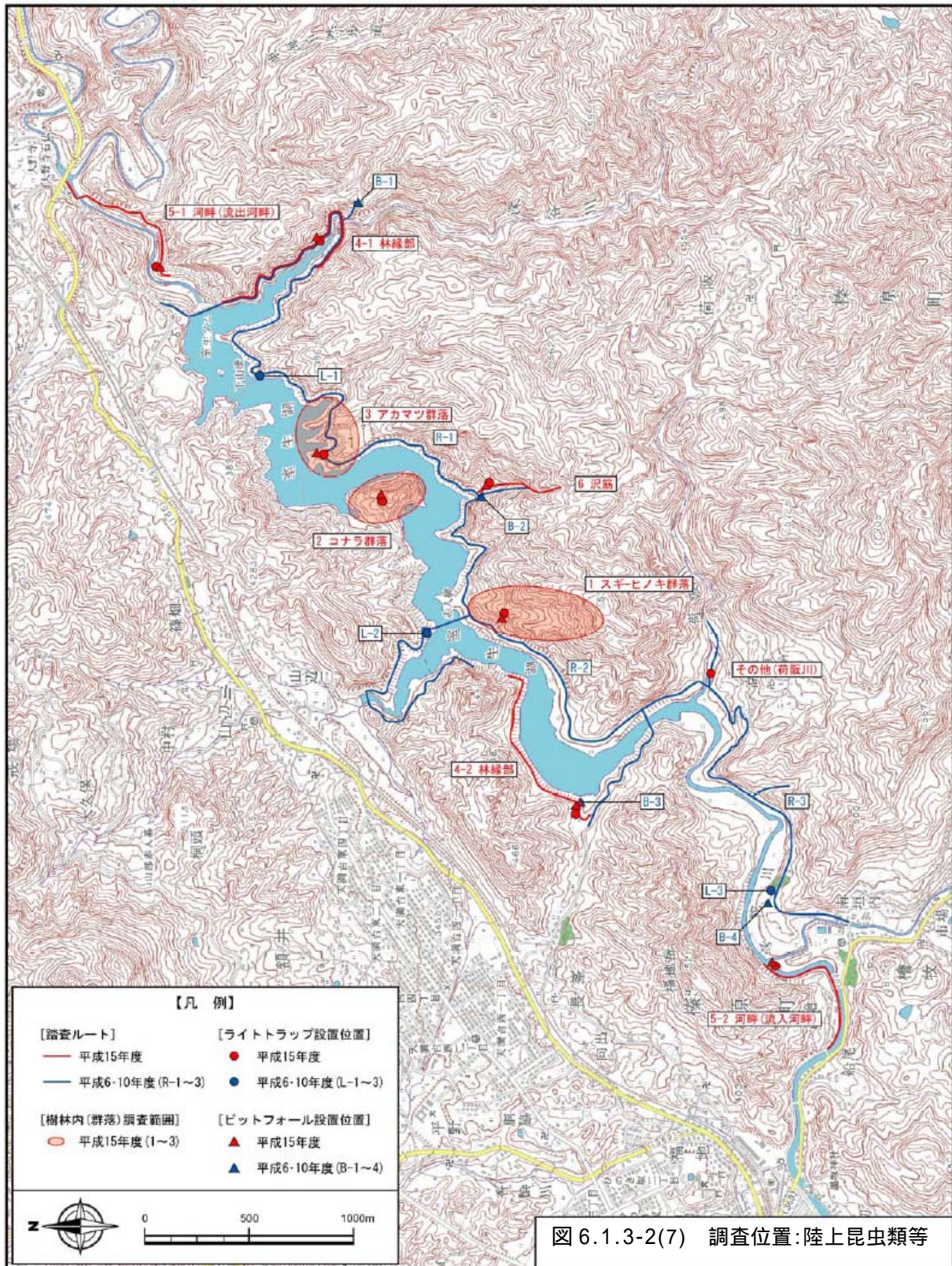


図 6.1.3-2(4) 調査位置:植物









(4)調査地点・定線等の設定方法の変更について

「河川水辺の国勢調査(ダム湖版)」では、平成13年度から植物・動物と生息・生育環境(場)との関係を目的に含めることとして、陸域部分(植物、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等)の調査について、調査地点・定線等の設定方法を変更している。

具体的には、植物群落については、ダム湖及びその周辺を代表する環境として、既往の現存植生図から読み取った調査範囲内の植物群落別面積のうち、面積の大きな群落等区分(開放水面を除く)の上位1~3位を抽出し、調査対象環境として設定している。また、群落以外については、以下に示すように、開放水面、林縁部、河畔、沢筋の環境に区分し、調査を実施している。

なお、これまでに実施されている調査対象環境は表6.1.3-4、環境の概要は表6.1.3-5に示すとおりである。

- ・開放水面:開放水面(ダム湖)(鳥類調査のみ対象)
- ・林縁部:道路沿いや木本植物群落の境界等の林縁環境
- ・河畔:流入河川沿い、下流河川沿いの環境
- ・沢筋:原則として、ダム湖に流入する沢沿いの環境

表6.1.3-4 調査対象環境一覧

調査項目		植物調査 (植物相調査)	鳥類調査	両生類・爬虫類哺乳類調査	陸上昆虫類等調査
調査対象環境		H16	H14、H18・19	H15	H15
植物群落	第1位群落	面			
	第2位群落	面			
	第3位群落	面			
群落以外	開放水面	面	-	-	-
	林縁部	線			
	河畔	線			
	沢筋	線			

注)1. :調査環境 - :対象外

表 6.1.3-5 調査対象環境の概要

調査対象環境名		調査対象区域名	調査地点概要
植物群落	第一位群落	スギ - ヒノキ植林	赤人橋右岸側の樹高 15m 程度のスギ - ヒノキ植林。西向きの斜面の山腹に比較的広い面積で成立しており、適度に手入れされているが、林内はやや暗い。土壌は適潤性～湿性である。低木層にはクロモジ、ヤマウルシ等がみられる。
	第二位群落	コナラ群落	下山橋と赤人橋の中間、左岸側の半島に分布するコナラ林で、コナラ、ヤマザクラ、ネジキ等がみられる。北向きの斜面は比較的緩やかであるため、土壌が発達しているが、東、南、西の各斜面は急傾斜となっており、土壌の発達は不良である。林内は適度に手入れされている。半島尾根部はアカマツが分布するが、大半が枯れている。
	第三位群落	アカマツ群落	下山橋上流左岸側の入り組んだ地形に分布するアカマツ林で、アカマツ、コナラ、ソヨゴ等がみられるが、規模は大きくない。土壌は乾性である。松枯れが進んでおり、林内にアカマツの倒木が点在している。
群落以外	林縁部	林縁 - 1	山側斜面には小規模ながら谷地形が多く、急斜面であるため道路脇には崩積土がみられ土壌は礫質である。また、両側を尾根に囲まれているため暗い。山側斜面の大半をコナラ林が占め、植生はイヌシデやイヌビワ、アケビ等のマント群落やカラムシ、アカソ、イタドリ等のソデ群落がみられる。
		林縁 - 2	山腹斜面を切り通して造られた狭い道のため、両側は樹林となっており、比較的薄暗い。山側の斜面にはスギが植林された緩やかな傾斜もみられるが、大半は急傾斜の崖状になっている。植生は草本類が少なく木本類が多くみられる。平地にはイタチハギ等が繁茂している。
	河畔	下流河川	両岸は急傾斜の山付となっており、河床に大礫が多い。上流側にある管理用道路は明るく、河畔にはアカメガシワ、ネコヤナギ等の樹林やツルヨシ等の草がみられるが、下流側はスギ - ヒノキ植林になっており、日当たりも悪い。
		流入河川	河川周辺には人家や耕作地が多く、比較的開けた環境にあり、日当りは良い。河床は礫～砂質であり、ツルヨシやオギ、ミゾソバ等の草が多くみられる。堤防上には遊歩道があり、水辺にも降りられるなど、親水的な整備が行われている。下流域には「平成榛原子供のもり公園」があり、湖畔がレクリエーション整備されている。
特殊な環境	沢筋	赤人橋より上流右岸側のスギ植林内の沢筋で、大きな崖地があり、イワタバコ等がみられる。比較的流量の少ない沢であり、伏流している箇所もみられる。林内は余り手入れされておらず林内は薄暗いものの、林床にはシダ植物が多く、ゼンマイ、シケチシダ、ジュウモンジシダ等がみられる。沢の上流側は岩盤が露出し、沢筋のやや上部にはミカエリソウ、ヤハズアジサイ等がみられる。	
その他の区域			ダム湖沿いの道路は、ほとんど山地帯に接しており、全体的に山地帯の環境が多くみられる。ダム湖の北側には水田地帯が広がっているほか、流入河川沿いは比較的明るい草が形成されている。

## 6.2. ダム湖及びその周辺の環境の把握

### 6.2.1. 流域の概況

室生ダムは奈良県宇陀市室生区(旧・宇陀郡室生村)大野地先、淀川水系木津川左支名張川の小左支川である宇陀川に位置し、淀川水系木津川上流総合開発の一環として、名張川支川宇陀川中流部に昭和49年竣工した堤高63.5m、堤頂長175mの重力式コンクリートダムで、洪水調節、灌漑、発電、上水道用水の補給を目的として建設された多目的ダムである。

また、ダム湖へ流入する宇陀川は、室生火山群や高見山地の山岳地帯に端を発し、室生川と合流する。なお、淀川水系である木津川は、布引山地を源とし、上野盆地を通過した後、鈴鹿、布引山地を源とする柘植川、服部川と合流して岩倉峡を右流し、大河原地点で左支川の名張川と合流した後、笠置、加茂を経て八幡付近で淀川に合流する流域面積1,596km<sup>2</sup>の一級河川である。

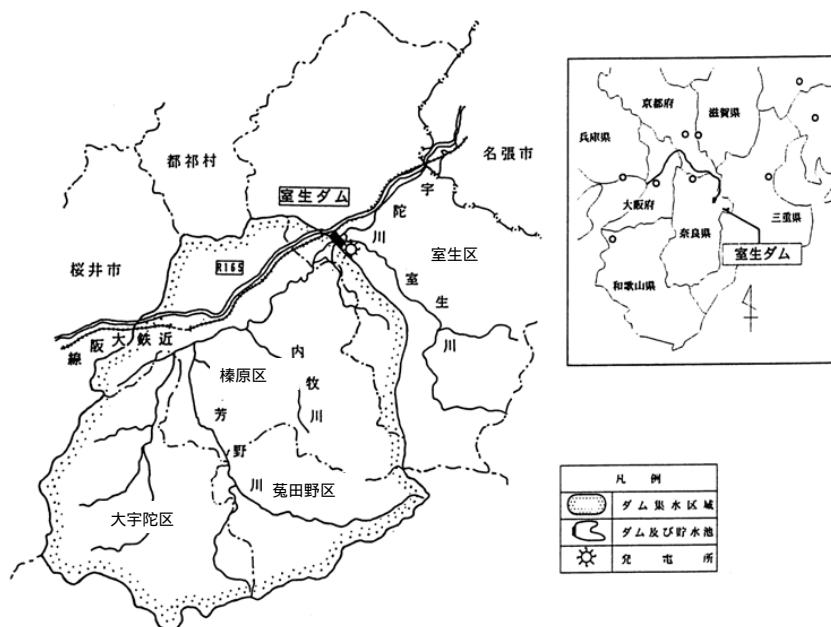


図 6.2.1-1 宇陀川流域図

室生ダムは、「室生湖」と呼ばれており、コイ(平成14年度以降の放流は実施されていない)やゲンゴロウブナの放流が行われ、特にゲンゴロウブナ釣りが盛んである。また、外来種であるオオクチバス(ブラックバス)やブルーギルが生息している。

ダム湖周辺は、スギ・ヒノキ植林及び二次林として成立したコナラ群落が大半を占めており、草地はダム湖岸やダム湖上下流の宇陀川流域に小規模ながら形成されている。また、付近には高倉・南垣内・高星等の集落があり、いずれも小規模な集落がみられるなど、比較的人為の影響を受けた場所といえる。

このほか、下戸橋から下流のダム湖及びその周辺は、広く室生赤目青山国定公園に指定されている。

(1)自然公園等の状況

室生ダム周辺には、「室生赤目青山国定公園」が分布している。室生赤目青山国定公園の概要を表 6.2.1-1、その位置を図 6.2.1-2 に示す。

表 6.2.1-1 室生赤目青山国定公園の概要

関係自治体		奈良県桜井市・奈良市・宇陀市・曽爾村・御杖村・東吉野村、三重県						
沿革		昭和 45 年 12 月 28 日 室生赤目青山国定公園指定						
地種別面積 (ha)		特別保護地区	特別地域				普通地域	公園区域
			第 1 種	第 2 種	第 3 種	合計		
奈良県	桜井市	-	-	1	56	57	-	57
	奈良市	-	-	48	78	126	-	126
	宇陀市	-	172	109	3,500	3,781	78	3,859
	曽爾村	36	240	744	2,930	3,914	248	4,198
	御杖村	-	-	31	794	825	-	825
	東吉野村	-	145	313	3,193	3,651	28	3,679
	小計	36	557	1,246	10,551	12,354	354	12,744
三重県		31	550	2,268	10,431	13,249	284	13,564
合計		37	1,107	3,514	20,982	25,603	638	26,308

注)1. 出典: 奈良県農林部森林保全課 自然公園 HP([http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-2952.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-2952.htm))

奈良県自然公園 HP によると、室生赤目青山国定公園は、奈良・三重の県境にまたがる室生火山群の地形・景観、布引山系の丘陵景観及び高見山地の森林景観を保護し、その利用を増進するため大和青垣国定公園とともに昭和 45 年末に指定された公園である。

公園区域は、大和高原南部地区(貝ヶ平山、額井岳)、室生火山群地域(倶留尊山、鎧岳、赤目溪谷)、高見山地(三峰山、高見山)、青山高原の四地域に大別され、地域ごとにそれぞれ地形地質学的に特異な景観をなしている。

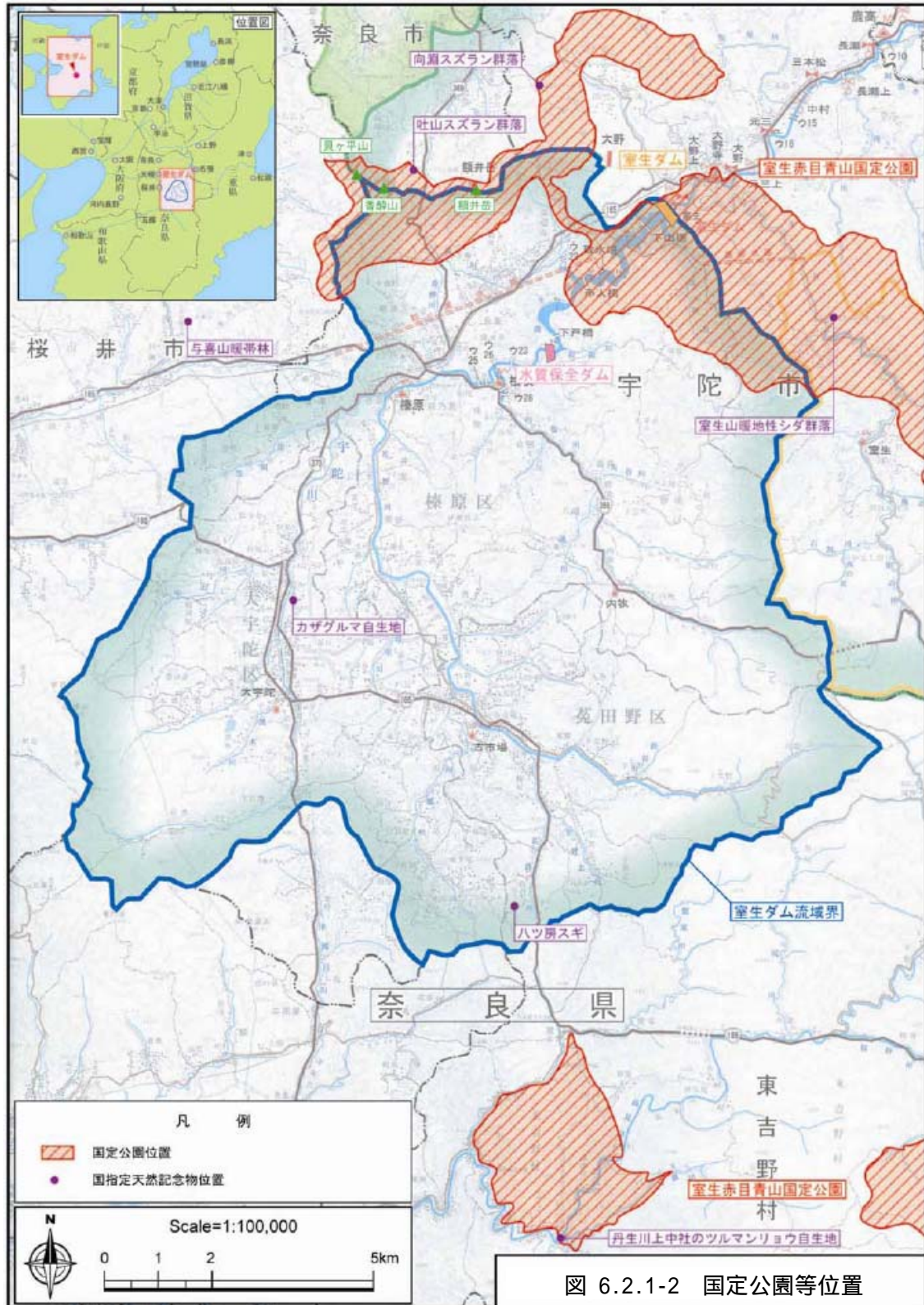
大和高原南部地域は、初瀬宇陀川断層崖を構成する貝ヶ平山・香酔山・額井岳が山岳景観を呈し、室生火山群は、小太郎岩・鎧岳・兜岳・屏風岩・香落溪・赤目四十八滝等火山群を代表する柱状節理の火山地形に優れている。

高見山地の高見山は、中央構造線に接して屹立する独立峰であり、これに続く台高山脈一帯は壮大な山岳景観をなし、また、奥香肌峡は溪谷美に優れたところでもある。

植生としては、高見山地にブナ・ツガ・ウラジロモミ等の原生林が残されている。また、採草地や萱場として利用されてきた倶留尊高原・大洞山・青山高原の一部には草原が残され、特に倶留尊山麓に広がるススキ草原は、特定植物群落に選定され、里人による火入れ等によりその植生が維持されている。

本公園地域は、植物学上、暖帯性植物の北限地帯と高地性植物の南限地帯の交錯した位置にあり、室生山暖地性のシダ群落、丹生川上中社のツルマンリョウ自生地、吐山・向淵のスズラン群落等は天然記念物に指定されている。

また、仏教美術の歴史的景観が残る室生寺・大野寺・奥山愛宕神社・北畠神社・戒長寺等の古社寺が多く、歴史的文化財に恵まれ、それらを結ぶように東海自然歩道も整備されているため、自然探勝・登山・ハイキングの好適地として、広く利用されている。



## (2)動植物

### 1)魚介類

これまでに実施されている魚介類の調査内容を表 6.2.1-2 に示す。

#### (a)魚類

##### a)魚類の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、1綱6目10科31種の魚類の生息が確認されている。確認種の一覧は、表 6.2.1-3 に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、一般的に河川の上～中流域を生息場所とするカワムツ、カワヨシノボリや、中～下流を生息場所とするオイカワ、コウライニゴイ、コウライモロコ、ヌマチチブ、回遊魚であるアユ(放流されている)、ウキゴリ(湖沼等による陸封型も多い)、トウヨシノボリ(湖沼・ため池等による陸封型も多い)等が確認されている。

確認種をダム湖内や流入河川、下流河川といった環境区分別にみると、ほとんどの環境で出現している種は、オイカワ、コウライモロコ、ウキゴリ、トウヨシノボリであり、カワムツ、カワヨシノボリ等は流入河川で多く確認されている。また、少数ながらも流入河川やダム湖内でメダカやアマゴ等も確認されている。

このほか、平成 20 年 2 月 7 日に室生ダム湖内において、アユの再生産についての基礎情報を得ることを目的として、ダムサイト付近、天満川流入地点付近、宇陀川流入地点付近(水質保全ダム直上を含む)の 3 地点において、捕獲調査が実施されている。その結果、ダムサイト付近で 1 個体、天満川流入地点付近で 58 個体(目視を含めると 158 個体以上)のアユの仔魚が確認され、室生ダムにおいてはアユが再生していることが明らかとなったが、宇陀川流入地点及び水質保全ダム直上では仔アユは確認されていない。

なお、宇陀川漁業協同組合からの聞き取り調査によると、宇陀川流入地点にて琵琶湖産のアユを放流しているとのことである。



表 6.2.1-2 調査内容一覧:魚介類

調査地区										調査内容						
区分	H4		H5		H8		H13		H19		H4	H5	H8	H13	H19	
調査番号	1		2		5		11		19		1	2	5	11	20	
下流河川					No.1	下流河川(宇陀川)	St.1	下流河川	淀室下1	ダムサイト直下	-	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水80分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網150分、セルびん4個、はえなわ4本、潜水観察0.5h	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、どう2個、カゴ網2個、潜水観察2h	
ダム湖	St.2	湖心	St.3	湖底の平らな部分	No.2	湖内湾入部	St.2	湖肢	淀室湖2	湖岸部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(18mm)中層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、セルびん10個、はえなわ4本、カニカゴ4個、どう4個	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層1枚・中層2枚、セルびん2個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
									淀室湖3	宇陀川流入部	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
							St.9	河川流入部	淀室湖6	深谷川流入部	-	-	-	刺網(15mm)表層1枚・中層2枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚、投網(12mm)10回・(18mm)20回、タモ網140分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.3	天満川流入部	St.2(1)	天満川流入部	No.3	河川流入点(天満川)	St.3	河川流入部	淀室湖7	天満川流入部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)20回・(18mm)15回、タモ網120分、セルびん15個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚・中層2枚、投網(12mm)20回・(18mm)10回、タモ網110分、セルびん4個、はえなわ4本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.4	宇陀川流入部	St.1(1)	宇陀川流入部	No.5	河川流入点(宇陀川)	St.5	ダム湖内			刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表層180m、投網(12mm)17回・(18mm)18回、タモ網120分、セルびん16個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚、タモ網20分	-	
			St.1(2)	宇陀川流入部							刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-	-	-
		St.1-1	ダムサイト								刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-	-	-
		St.1-2	ダムサイト(船着場)								モンドリ、目視	-	-	-	-	-
							St.7	最深部			-	-	-	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚	-	
							St.8	河川流入部			-	-	-	刺網(15mm)表層1枚、底層1枚、刺網(50mm)表層2枚、投網(12mm)15回・(18mm)25回、タモ網90分、セルびん4個、はえなわ1本	-	
流入河川							St.10	流入河川	淀室入1	流入河川深谷川	-	-	-	投網(18mm)21回、タモ網75分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.6	流入河川	St.2(2)	天満川流入部	No.4	流入河川(天満川)	St.4	流入河川	淀室入2	流入河川天満川	投網(12mm)3回	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網60分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水70分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)2回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.5	宇陀川(高倉橋付近)			No.6	流入河川(宇陀川)	St.6	流入河川	淀室入3	流入河川宇陀川	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水60分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)25回・(18mm)26回、タモ網120分、セルびん4個、はえなわ2本、潜水観察20分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
その他								淀室他1	水質保全ダム湛水域	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	初夏季	-	-	-	-	H19.6.5~9	
	夏季	-	-	-	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	H4.8.12~14	-	H8.7.23~24、29~30	H13.7.31、8.1~6	H19.8.27~29	
	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	H4.10.12~14	H5.9.20~22	H8.10.16~18	H13.10.23~31	-	

表 6.2.1-3 確認種一覧:魚類

No.	網名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	コイ					
2				ゲンゴロウブナ					
3				ギンブナ					
4				ニゴロブナ					
5				オオキンブナ					
-				フナ属					
6				ワタカ					
7				ハス					
8				オイカワ					
9				カワムツ					
10				モツゴ					
11				タモロコ					
12				ホンモロコ					
13				カマツカ					
14				コウライニゴイ					
15				ニゴイ					
-				ニゴイ属					
16				スゴモロコ					
17		コウライモロコ							
-		スゴモロコ属							
18			ドジョウ	ドジョウ					
19		ナマズ	ギギ	ギギ					
20			ナマズ	ナマズ					
21		サケ	アユ	アユ					
22			サケ	アマゴ					
23		ダツ	メダカ	メダカ					
24		タウナギ	タウナギ	タウナギ					
25		スズキ	ハゼ	スミウキゴリ					
26				ウキゴリ					
27				トウヨシノボリ					
28				カワヨシノボリ					
-	ヨシノボリ属								
29	ヌマチチブ								
30		サンフィッシュ	ブルーギル						
31		ユ	オオクチバス(ブラックバス)						
1網6目10科31種					16種	15種	21種	25種	28種

注)1.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

b)魚類の放流状況

室生ダム及びその周辺における魚類の放流状況は、表 6.2.1-4 に示すとおり、室生漁業協同組合及び宇陀川漁業共同組合によって、毎年度定期的に行われている。

平成元年度以降に放流されている種は、アユ、ゲンゴロウブナ、コイの3種であり、コイは平成14年度以降の放流は実施していない。また、アユは主に流入河川及び下流河川、ゲンゴロウブナ及びコイは主にダム湖内に放流している。放流位置を図 6.2.1-3 に示す(平成元年度から平成3年度の放流位置は不明のため未表記とした)。

表 6.2.1-4 (1) 室生ダム及びその周辺における魚類の放流実績

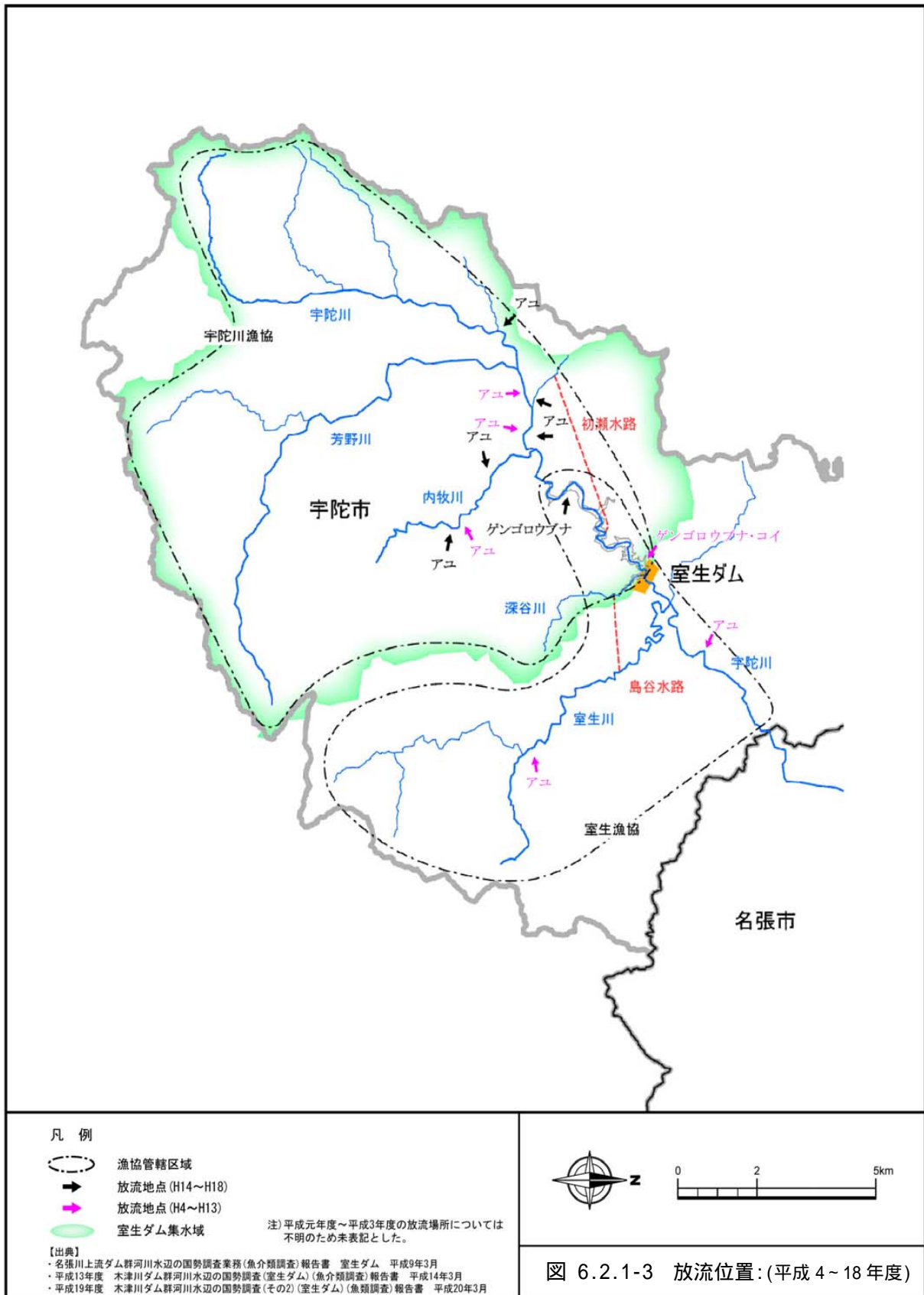
種名 (和名)	放流場所	放流年度								
		H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
アユ	流入河川	500	500	500	500	500	500	250	250	350
	下流河川	100	100	100	100	200	100	100	100	
	位置不明									
ゲンゴロウブナ	ダム湖内	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
コイ	ダム湖内	300	300	300	300	300	300	300	300	300
合計		1900	1900	1900	1900	2000	1900	1650	1650	1650

注)1.放流量の単位は kg/年である。

表 6.2.1-4 (2) 室生ダム及びその周辺における魚類の放流実績

種名 (和名)	放流場所	放流年度								
		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
アユ	流入河川	350	350	350	350	60	60	60	60	60
	下流河川									
	位置不明					60	60	60	60	60
ゲンゴロウブナ	ダム湖内	1000	1000	1000	1000	600	600	600	600	600
コイ	ダム湖内	300	300	300	300					
合計		1650	1650	1650	1650	720	720	720	720	720

注)1.放流量の単位は kg/年である。



c)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表6.2.1-5に示すとおり、7科13種である。ただし、これらの種のうち、3科7種は人為的な放流等が由来であると考えられ、自然分布と考えられる種は、5科6種である。

表6.2.1-5 重要種一覧:魚類

分類	No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度				
				1	2	3	4	H4	H5	H8	H13	H19
自然分布	1	コイ	ワタカ			EN	郷土					
	2	ギギ	ギギ				希少					
	3	サケ	アマゴ			NT						
	4	メダカ	メダカ			VU	希少					
	5	ハゼ	ウキゴリ				希少					
	6		カワヨシノボリ				希少					
	5科6種				0種	0種	3種	5種	2種	2種	3種	4種
放流等由来	7	コイ	ゲンゴロブナ			EN						
	8		ニゴロブナ			EN						
	9		ハス			VU						
	10		ホンモロコ			CR						
	11		スゴモロコ			NT						
	12	アユ	アユ			NT	絶寸					
	13	タウナギ	タウナギ			EN						
3科7種				0種	0種	7種	1種	4種	3種	4種	6種	6種
7科13種				0種	0種	10種	6種	6種	5種	7種	10種	11種

注)1.分類 自然分布 - 自然分布であると考えられる重要種。  
放流等由来 - 釣りの対象として放流されたり、アユ等の放流に混雑してきた可能性が高いと考えられる種。

【選定基準】

- ・1:「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・2:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種 緊急 - 緊急指定種
- ・3:「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 汽水・淡水魚類 - 」  
(環境省 2007年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・4:「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2007年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

d) 外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-6 に示すとおり、2 科 3 種である。

表 6.2.1-6 外来種一覧:魚類

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H4	H5	H8	H13	H19
1	タウナギ	タウナギ							
2	サンフィッシュ	ブルーギル	特定						
3		オオクチバス(ブラックバス)	特定						
2 科 3 種			2 種	3 種	3 種	3 種	2 種	2 種	2 種

【選定基準】

- ・ 1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年 法律第78号)  
 特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
 注意 - 要注意外来生物
- ・ 2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
 - 掲載されている種

(b) エビ・カニ・貝類

a) エビ・カニ・貝類の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、3 綱 4 目 8 科 11 種のエビ・カニ・貝類の生息が確認されている。確認種の一覧は、表 6.2.1-7 に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、ダム湖内や流入河川ではスジエビやテナガエビ、下流河川ではカワニナ等のマキガイ類が多く確認されている。

表 6.2.1-7 確認種一覧:エビ・カニ・貝類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
					H4	H5	H8	H13
1	マキガイ	ニナ	タニシ	オオタニシ				
2				ヒメタニシ				
3			カワニナ	カワニナ				
4				チリメンカワニナ				
5		モノアラガイ	モノアラガイ					
6	ニマイガイ	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ				
7	甲殻	エビ	テナガエビ	テナガエビ				
8				スジエビ				
9			ヌマエビ	ミナミヌマエビ				
10			アメリカザリガニ	アメリカザリガニ				
11			サワガニ	サワガニ				
3 綱 4 目 8 科 11 種					4 種	6 種	9 種	8 種

b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-8 に示すとおり、3科3種である。

表 6.2.1-8 重要種一覧:エビ・カニ・貝類

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度			
			1	2	3	4	H4	H5	H8	H13
1	タニシ	オオタニシ			NT					
2	モノアラガイ	モノアラガイ			NT					
3	シジミ	マシジミ			NT					
3科3種			0種	0種	3種	0種	0種	1種	2種	1種

【選定基準】

- ・1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種 緊急 - 緊急指定種
- ・3: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 汽水・淡水魚類 - 」  
(環境省 2007年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・4: 「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2007年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

c)外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-9 に示すとおり、1科1種である。

表 6.2.1-9 外来種一覧:エビ・カニ・貝類

No	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度			
			1	2	H4	H5	H8	H13
1	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	注意					
1科1種			1種	1種	0種	1種	1種	1種

【選定基準】

- ・1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年 法律第78号)  
特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
注意 - 要注外来生物
- ・2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
- 掲載されている種

2)底生動物

これまでに実施されている底生動物の調査内容を表6.2.1-10に示す。

(a)底生動物の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、13綱27目112科321種の底生動物の生息が確認されている。確認された底生動物の分類群毎の集計結果は、表6.2.1-10に示すとおりである。また、確認種の一覧については資料編に添付した。

近年に実施した調査においては、ダム湖内の湖岸部では底生動物の確認種数は少なく、そのなかで比較的多数確認されたのはハエ目である。また、流入部ではスジエビ、テナガエビといったエビ類やユスリカ科等が多く、その他に少数ではあるものの、アオサナエやホンサナエといった種が確認されている。また、流入河川である天満川は、住宅地を流れる主要な流入河川であり、アカマダラカゲロウやミツオミジカオフトバコカゲロウ等が多く確認されている。同様に流入河川である深谷川は、山地を流れる溪流で、人為的な影響をほとんど受けておらず、その環境を反映して主に溪流に生息するカゲロウ目、トビケラ目等が多く確認されている。一方、下流河川ではアカマダラカゲロウやHコカゲロウ、カワニナ属等が多く確認されている。そのほか、水質保全ダム上流ではスジエビやユスリカ科等が確認されている。

表6.2.1-10 分類群別確認種数一覧:底生動物

綱名	目名	H5		H7		H12		H17		H20		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
普通海綿	ザラカイメン					1	1	1	1	1	1	1	1
ヒドロ虫	無鞘					1	1	1	1			1	1
ウズムシ	ウズムシ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ひも(紐)形動物門	-					1	1	1	1	1	1	1	1
線形動物門	-							1	1			1	1
マキガイ	ニナ	1	1	2	4	2	3	2	3	2	3	2	4
	モノアラガイ	1	1	1	1	3	3	2	2	4	7	4	7
ニマイガイ	イシガイ					1	1	1	1			1	1
	マルスダレガイ			1	1	2	2	2	2	2	2	3	3
ミミズ	オヨギミミズ							1	1	1	1	1	1
	ナガミミズ	1	2	4	5	4	4	4	8	6	11	8	15
ヒル	ノドビル			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
クモ	ダニ							1	1			1	1
甲殻	ワラジムシ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ヨコエビ					1	1					1	1
	エビ	1	1	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4
昆虫	カゲロウ	4	9	9	27	9	31	11	43	11	41	12	53
	トンボ	4	5	7	14	8	22	8	21	8	20	8	29
	カワゲラ	1	1	3	7	6	13	7	13	5	12	7	17
	カメムシ	1	2	3	4	4	8	5	9	5	8	6	12
	アミメカゲロウ			1	1	2	3	1	2	2	3	3	4
	トビケラ	3	5	7	18	18	34	18	33	14	29	20	48
	チョウ					1	1	1	1	1	1	2	2
	ハエ	4	16	3	32	11	30	11	40	6	35	12	81
コウチュウ	1	1	3	3	7	14	6	17	7	17	8	29	
コケムシ	掩喉							2	2			2	2
	櫛口							1	1			1	1
13綱27目112科321種		23科	45種	50科	124種	88科	180種	94科	211種	82科	199種	112科	322種



表 6.2.1-11 調査内容一覧:底生動物

調査年度		H5	H7	H12	H17	H20	
調査番号		2	4	10	17	21	
調査地点	区分	下流河川	放水口	(定量・定性)No.1	(定量・定性)No.1	(定量・定性)St.1	淀室下1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	(定点)No.2, No.3, No.4 (定性)1,2,3,4,5	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7,8	淀室湖1, 淀室湖2, 淀室湖3, 淀室湖6, 淀室湖7
		流入河川	天満川(早瀬,植物帯), 高倉橋(平瀬,植物帯), 内牧川(平瀬,植物帯)	(定量・定性)No.5, No.6, No.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	淀室入1, 淀室入2, 淀室入3
		その他	-	-	-	-	淀室他1(水質保全ダム)
調査方法	定点調査	採泥器等による採取 (0.25m <sup>2</sup> )	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回程度	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回	
	定性調査		ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	
	定量調査		サーバーネット(25cm×25cm)	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×6回	
調査時期	夏季	-	H7.7.20~21, 8.23	H12.7.19~21	H17.10.19~20	H20.8.25~26	
	冬季	-	H7.12.20~21	H12.11.8~9	H18.1.14~15	-	
	早春季	-	H8.2.21~22	H13.1.12~13	H17.7.2~3	H20.4.21~22	
	その他	H5.9.21	-	-	-	-	

(b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-12 に示すとおり、8 科 12 種である。

表 6.2.1-12 重要種一覧:底生動物

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度				
			1	2	3	4	H5	H7	H12	H17	H20
1	タニシ	オオタニシ			NT						
2	ヒラマキガイ	ヒラマキガイモドキ			NT						
3	シジミ	マシジミ			NT						
4	ムカシトンボ	ムカシトンボ				希少					
5	ヤンマ	マルタンヤンマ				希少					
6	サナエトンボ	ミヤマサナエ				希少					
7		キロサナエ				希少					
8		ホンサナエ				希少					
9		アオサナエ				希少					
10	コオイムシ	コオイムシ			NT	希少					
11		オオコオイムシ				希少					
12	ホタル	ゲンジボタル				郷土					
8 科 12 種			0 種	0 種	4 種	9 種	0 種	4 種	6 種	5 種	7 種

【選定基準】

- ・1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種 緊急 - 緊急指定種
- ・3: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 昆虫類・貝類・その他の無脊椎動物 - 」  
(環境省 2006・2007年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・4: 「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2008年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

(c)外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-13 に示すとおり、3 科 3 種である。

表 6.2.1-13 外来種一覧:底生動物

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H5	H7	H12	H17	H20
1	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ							
2	サカマキガイ	サカマキガイ							
3	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	注意						
3 科 3 種			1 種	3 種	1 種	2 種	2 種	2 種	3 種

【選定基準】

- ・1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年 法律第78号)  
特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
注意 - 要注意外来生物
- ・2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
- 掲載されている種

### 3)動植物プランクトン

これまでに実施されている動植物プランクトンの調査内容を表6.2.1-14に示す。

#### (a)植物プランクトン

##### a)植物プランクトンの状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、8網16目39科148種の植物プランクトンの生息が確認されている。確認された植物プランクトンの分類群毎の集計結果を表6.2.1-15に示す。また、確認種の一覧については資料編に添付した。

近年に実施した調査においては、植物プランクトンは放水口及び湖内の網場、湖心に多く、流入河川では少ない確認となっており、最も種数が多いのは珪藻網、次いで緑藻網となっている。

表6.2.1-14 調査内容一覧:動植物プランクトン

調査年度		H5	H11	H16	H18	
調査番号		2	8	15	19	
調査地点	区分	下流河川	放水口	No.1	No1(放水口)	淀室下-1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	No.2,No.3,No.4,	No.2(網場),No.3(湖心),No.4(赤人橋)	淀室湖-1
		流入河川	天満川,内牧川,高倉橋	No.5,No.6,No.7	No.5(天満川),No.6(内牧川),No.7(宇陀川)	-
植物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19~20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18~19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18~19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6
動物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19~20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18~19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18~19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6

表 6.2.1-15 分類群別確認科種数一覧:植物プランクトン

綱名	目名	H5		H11		H16		H18		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
藍藻	クロオコックス	1	4	1	6	1	3	1	4	1	9
	ネンジュモ	2	4	2	5	2	3	2	3	2	12
紅藻	アクロカエチウム	1	1							1	1
クリプト藻	クリプトモナス	1	2	1	2	1	2	1	2	1	3
渦鞭毛藻	ペリディニウム	2	2	3	4	3	3	2	2	4	7
黄金色藻	オクロモナス	1	1	2	7	2	4	1	2	2	7
珪藻	中心	3	12	4	14	2	11	3	8	4	16
ミドリムシ藻	ミドリムシ	1	2	1	3	1	1			1	3
珪藻	羽状	5	23	5	38	4	20	4	10	5	55
緑藻	オオヒゲマワリ	2	6	2	6	2	6	2	4	2	9
	ヨツメモ	2	2	1	1			1	1	2	2
	クロコックム	7	13	9	26	6	12	6	8	9	31
	ヒビミドロ	2	2	1	1					2	3
	カエトフォラ	1	1	1	1					1	2
	サヤミドロ			1	1					1	1
	ホシミドロ	1	2	1	5	1	3	1	2	1	9
8綱16目39科152種		32科	77種	35科	120種	25科	68種	24科	46種	39科	170種

b)重要種の状況

これまでの調査の結果、重要種は確認されていない。

c)外来種の状況

これまでの調査の結果、外来種は確認されていない。

(b)動物プランクトン

a)動物プランクトンの状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、11綱16目37科96種の動物プランクトンの生息が確認されている。確認された動物プランクトンの分類群毎の集計結果は、表6.2.1-16に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、動物プランクトンは、単生殖巣綱(輪虫類)の種数が最も多く、次いで葉脚綱が多く確認されている。

表 6.2.1-16 分類群別確認科種数一覧:動物プランクトン

綱名	目名	H5		H11		H16		H18		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
藍藻	クロオコックス	1	4	1	6	1	3	1	4	1	9
	ネンジュモ	2	4	2	5	2	3	2	3	2	12
紅藻	アクロカエチウム	1	1							1	1
クリプト藻	クリプトモナス	1	2	1	2	1	2	1	2	1	3
渦鞭毛藻	ペリディニウム	2	2	3	4	3	3	2	2	4	7
黄金色藻	オクロモナス	1	1	2	7	2	4	1	2	2	7
珪藻	中心	3	12	4	14	2	11	3	8	4	16
ミドリムシ藻	ミドリムシ	1	2	1	3	1	1			1	3
珪藻	羽状	5	23	5	38	4	20	4	10	5	55
緑藻	オオヒゲマワリ	2	6	2	6	2	6	2	4	2	9
	ヨツメモ	2	2	1	1			1	1	2	2
	クロコックム	7	13	9	26	6	12	6	8	9	31
	ヒビミドロ	2	2	1	1					2	3
	カエトフォラ	1	1	1	1					1	2
	サヤミドロ			1	1					1	1
	ホシミドロ	1	2	1	5	1	3	1	2	1	9
8綱16目39科152種		32科	77種	35科	120種	25科	68種	24科	46種	39科	170種

b)重要種の状況

これまでの調査の結果、重要種は確認されていない。

c)外来種の状況

これまでの調査の結果、外来種は確認されていない。

4)植物

これまでに実施されている植物の調査内容を表 6.2.1-17 に示す。

(a)植物相

a)植物相の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、141科 1042種の植物種の生育が確認されている。確認された植物の分類群毎の集計結果は、表 6.2.1-18 に示すとおりである。また、確認種の一覧については資料編に添付した。

調査対象区域のほぼすべては、スギ - ヒノキ植林、コナラ群落やアカマツ群落といった代償植生となっているが、近年の調査において、ヤブツバキクラスの標徴種である常緑広葉樹のアラカシ、シロダモ、ヒサカキ、ヤブツバキ、常緑性シダ類のベニシダ、ヤマイタチシダ、襲速紀(そはやき)要素(小泉源一の造語で九州山地一帯から豊予海峡を経て四国から紀伊半島にかけて分布している植物)であるヤハズアジサイ、モチツツジ等が確認されている。

表 6.2.1-17 調査内容一覧:植物

調査年度		H6	H11	H16	
調査番号		3	9	16	
調査地点	区分	下流河川	-	-	植物相調査(6 下流河川) 群落組成調査(No.23)
		流入河川	-	-	植物相調査(7 流入河川) 群落組成調査(No.27)
		ダム湖 周辺	植物相調査, 植生分布調査, 群落組成調査(No.1~No.27)	植物相調査, 植生分布調査, 群落組成調査(No.1~No.27)	植物相調査 (1 スギ-ヒノキ植林, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4 林縁部, 5 林縁部-2, 8 沢筋, その他) 植生分布調査, 群落組成調査 (No.1 ~ No.22, No.24 ~ No.26)
植物相 調査	調査時期	調査数量	ルート:29.2km	ルート:21.2km	ルート:18.1km
		春季	H6.4.28、6.1~4	H11.5.28~30	H16.5.23~24
		夏季	-	H11.8.13、15	H16.8.6~11
		秋季	H6.10.21~22、28、11.3~4	-	H16.10.11~13、15
植生分布 調査	調査時期	調査数量	面積:741.89ha	面積:741.25ha	面積:770.46ha
		春季	H6.4.28、6.24	-	-
		夏季	-	-	H16.8.9~11
		秋季	-	H11.10.12~14	-
群落組成 調査	調査時期	調査数量	27 地点	27 地点	27 地点
		夏季	H6.8.22~25	H11.8.10~13、15	H16.8.7~11
		秋季	-	-	H16.10.11~12

表 6.2.1-18 分類群別確認科種数一覧:植物

分類	H6		H11		H16		合計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
高等植物	123	617	128	683	137	845	141	1042
シダ植物	18	59	18	74	21	100	21	118
種子植物	105	558	110	609	116	745	120	924
裸子植物	5	7	4	6	4	6	5	9
被子植物	100	551	106	603	112	739	115	915
双子葉植物	87	436	92	464	95	538	96	673
離弁花類	59	286	63	298	66	342	67	422
合弁花類	28	150	29	166	29	196	29	251
単子葉植物	13	115	14	139	17	201	19	242

b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-19 に示すとおり、47 科 90 種である。

表 6.2.1-19 (1) 重要種一覧:植物

No.	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度		
			1	2	3	4	5	6	H6	H11	H16
1	イワヒバ	イワヒバ									
2	シノブ	シノブ									
3	シシラン	シシラン									
4	チャセンシダ	ハウピシダ							希少		
5		アオガネシダ							希少		
6	オシダ	ミドリカナワラビ					A	危惧			
7		メヤブソテツ					準				
8		ミヤコヤブソテツ							希少		
9	ヒメシダ	イワハリガネワラビ						希少			
10	ウラボシ	イワヤナギシダ									
11	ニレ	コバノチョウセンエノキ					C				
12	イラクサ	ミヤコミズ				VU	準	注目			
13	キンボウゲ	ハンショウヅル							希少		
14		シロバナハンショウヅル					準	希少			
15		トウゴクサバノオ									
16	ウマノスズクサ	ホソバウマノスズクサ							希少		
17		ミヤコアオイ									
18	モウセンゴケ	モウセンゴケ							希少		
19	アブラナ	コイヌガラシ				NT	C	希少			
20	ユキノシタ	ヤハズアジサイ									
21		チャルメルソウ									
22		タコノアシ					NT	C	危惧		
23		ジンジソウ									
24		ダイヤモンドソウ								希少	
25	バラ	エドヒガン							不足		
26		ヤマイバラ							希少		
27		ユキヤナギ						準	希少		
28	マメ	ヒメノハギ					A				
29		イタチササゲ						A			
30	カタバミ	エゾタチカタバミ							希少		
31	フウロソウ	ヒメフウロ					C				
32	ニシキギ	サワダツ							希少		
33	ブドウ	ヤマブドウ							希少		
34	シナノキ	ヘラノキ					C				
35	ジンチョウゲ	コショウノキ							希少		
36	グミ	ナツグミ							不足		
37	スミレ	ナガバノスミレサイシン							絶寸		
38		アケボノスミレ						A	絶寸		
39	ウリ	ゴキヅル							希少		
40	ミソハギ	ミズマツバ				VU	C	希少			
41	セリ	カノツメソウ					準	希少			
42	イチヤクソウ	ギンリョウソウ									
43		イチヤクソウ								希少	

表 6.2.1-19(2) 重要種一覧:植物

No.	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度			
			1	2	3	4	5	6	H6	H11	H16	
44	ツツジ	コバノミツバツツジ										
45	リンドウ	リンドウ										
46		センブリ										
47	ガガイモ	イケマ							危惧			
48	ムラサキ	サウルリソウ						準	危惧			
49	シソ	カワミドリ							危惧			
50		ミズトラノオ				VU	A					
51		マネキグサ				NT	準	希少				
52		メハジキ							希少			
53		ラショウモンカズラ							希少			
54		イヌゴマ							希少			
55		ゴマノハグサ	コシオガマ							危惧		
56	オオヒナノウスツボ								絶寸			
57	オオヒキヨモギ					VU	準	危惧				
58	キツネノマゴ	スズムシバナ					A					
59	イワタバコ	イワタバコ										
60	キキョウ	バアソブ				VU	A	不足				
61	キク	ヌマダイコン							希少			
62		オケラ						C	絶寸			
63	オモダカ	ヘラオモダカ							危惧			
64	ユリ	ショウジョウバカマ										
65		ノカンゾウ							希少			
66		イワギボウシ										
67		ササユリ							希少			
68		コオニユリ										
69		ホトトギス								危惧		
70		ヤマホトトギス								希少		
71	ミズアオイ	ミズアオイ				NT	A	絶滅				
72	アヤメ	ヒオウギ							危惧			
73	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ						B	危惧			
74	イネ	コゴメカゼクサ						A	絶寸			
75		コメガヤ							希少			
76		ウキシバ						C	危惧			
77	ガマ	コガマ						C	希少			
78	カヤツリグサ	ヤブスゲ						A				
79		シロガヤツリ						A	希少			
80		コアゼテンツキ						B				
81	ラン	シュンラン							危惧			
82		ツチアケビ							希少			
83		ミヤマウズラ							希少			
84		ムヨウラン							危惧			
85		ジガバチソウ						C	危惧			
86		クモキリソウ										
87		コ克蘭							希少			
88		オオバノトンボソウ							希少			
89		カヤラン							希少			
90		クモラン							希少			
47科90種			0種	0種	28種	9種	31種	62種	47種	26種	52種	



【選定基準】

- ・ 1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・ 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種 緊急 - 緊急指定種
- ・ 3: 「国立、国定公園特別地区内 指定植物図鑑 - 南関東・東海・北近畿編 - 」  
(環境庁 1983年)  
- 「室生赤目青山国定公園」において、指定植物に指定されているもの
- ・ 4: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 植物I - 」(環境省 2007年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・ 5: 「改訂・近畿地方の保護上重要な植物 - レッドデータブック近畿2001 - 」  
(レッドデータブック近畿研究会編 2001年)  
絶: 絶滅種 A: 絶滅危惧種A B: 絶滅危惧種B C: 絶滅危惧種C  
準: 準絶滅危惧種
- ・ 6: 「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~ 奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編 ~ 」  
(奈良県農林部森林保全課 2008年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

c)外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-20 に示すとおり、33 科 105 種である。

表 6.2.1-20 (1) 外来種一覧:植物

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度			
			1	2	H6	H11	H16	
1	ミズワラビ	ホウライシダ						
2	イラクサ	ナンバンカラムシ						
3	タデ	シャクチリソバ						
4		ヒメスイバ						
5		アレチギシギシ						
6		ナガバギシギシ						
7		エゾノギシギシ	注意					
8		ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ					
9		ザクロソウ	クルマバザクロソウ					
10	ナデシコ	オランダミミナグサ						
11		コハコベ						
12	アカザ	アカザ						
13		アリタソウ						
14	ヒユ	ホソバツルノゲイトウ						
15		ホソアオゲイトウ						
16		ホナガアオゲイトウ						
17	フウチョウソウ	セイヨウフウチョウソウ						
18	アブラナ	オランダガラシ	注意					
19	ベンケイソウ	ツルマンネングサ						
20	マメ	イタチハギ	注意					
21		アレチヌスビトハギ						
22		アメリカヌスビトハギ						
23		コメツブウマゴヤシ						
24		ハリエンジュ	注意					
25		コメツブツメクサ						
26		ムラサキツメクサ						
27		シロツメクサ						
28	カタバミ	ムラサキカタバミ	注意					
29		オッタチカタバミ						
30	トウダイグサ	オオニシキソウ						
31		コニシキソウ						
32		ナンキンハゼ						
33	ニガキ	シンジュ						
34	スミレ	アメリカスミレサイシン						
35	ウリ	アレチウリ	特定					
36	アカバナ	メマツヨイグサ	注意					
37		オオマツヨイグサ						
38		マツヨイグサ						
39	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ						
40	アカネ	メリケンムグラ						
41	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	注意					
42		マメアサガオ						
43		アサガオ						
44	ムラサキ	コンフリー						
45	クマツツラ	ヤナギハナガサ						

表 6.2.1-20 (2) 外来種一覧:植物

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H6	H11	H16
46	シソ	ヒメオドリコソウ					
47	ナス	アメリカイヌホオズキ					
48		テリミノイヌホオズキ					
49	フジウツギ	フサフジウツギ					
50	ゴマノハグサ	ツタバウンラン					
51		マツバウンラン					
52		タケトアゼナ					
53		アメリカアゼナ					
54		オオカワヂシャ	特定				
55		タチイヌノフグリ					
56		オオイヌノフグリ					
57	オミナエシ	ノヂシャ					
58	キク	ブタクサ	注意				
59		オオブタクサ	注意				
60		オオホウキギク					
61		ヒロハホウキギク					
62		ホウキギク					
63		アメリカセンダングサ	注意				
64		アレチノギク					
65		オオアレチノギク	注意				
66		ベニバナボロギク					
67		アメリカタカサブロウ					
68		ダンドボロギク					
69		ヒメムカシヨモギ	注意				
70		ケナシヒメムカシヨモギ					
71		ハキダメギク					
72		チチコグサモドキ					
73		ウスベニチチコグサ					
74		ククイモ	注意				
75		オオハンゴンソウ	特定				
76		ノボロギク					
77		セイタカアワダチソウ	注意				
78		オニノゲシ					
79		ヒメジョオン	注意				
80		セイヨウタンポポ	注意				
81		オオオナモミ	注意				
82		トチカガミ	オオカナダモ	注意			
83	ミズアオイ	ホテイアオイ	注意				
84	アヤメ	キショウブ	注意				
85		ニワゼキショウ					
86		ヒメヒオウギズイセン					
87	イグサ	コゴメイ					
88	イネ	コヌカグサ					
89		メリケンカルカヤ	注意				
90		ヒメコバンソウ					
91		イヌムギ					
92		カモガヤ	注意				
93		シナダレスズメガヤ	注意				
94		オオニワホコリ					
95		コスズメガヤ					
96		オニウシノケグサ	注意				
97		ネズミムギ	注意				
98		オオクサキビ					

表 6.2.1-20(3) 外来種一覧:植物

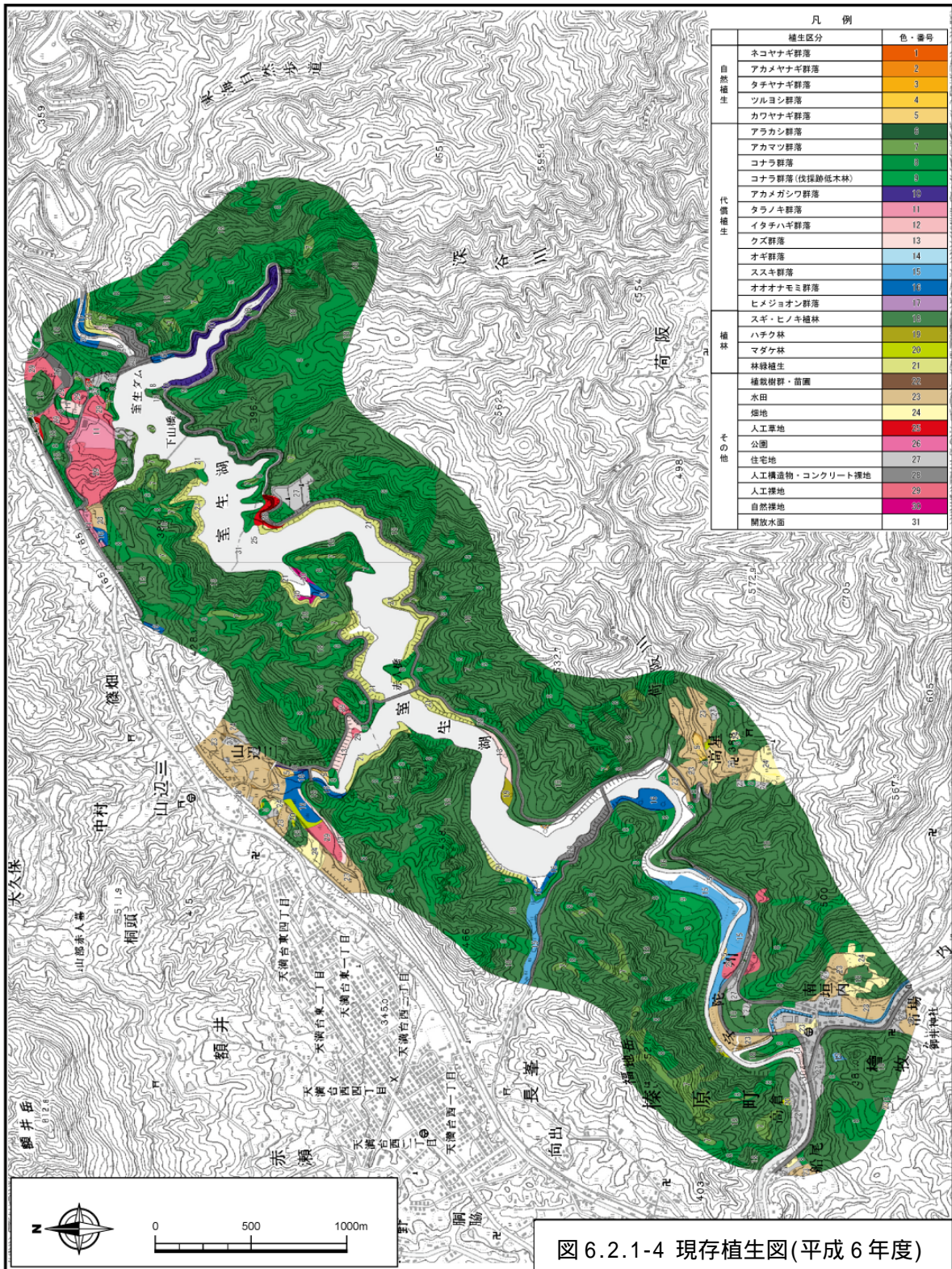
No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H6	H11	H16
99	イネ	シマスズメノヒエ					
100		キシウスズメノヒエ	注意				
101		モウソウチク					
102		ナガハグサ					
103		オオスズメノカタビラ					
104		セイバンモロコシ					
105		ナギナタガヤ					
33科 105種			29種	105種	53種	55種	82種

【選定基準】

- ・ 1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年 法律第78号)  
 特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
 注意 - 要注意外来生物
- ・ 2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
 - 掲載されている種

(b)植生分布

室生ダム周辺は、日本の植生体系としてはヤブツバキクラス域に属し、常緑広葉樹林の生育域に該当する。しかし、現況の植生は人為的な影響により、常緑広葉樹林は一部にアラカシ群落を確認できるのみであり、最も広域に分布しているのはスギ - ヒノキ植林である。次いで広域に分布しているのは斜面の中腹を中心に分布しているコナラ群落で、斜面上部や尾根部周辺にはアカマツ群落が分布している。これら3群落で対象範囲全体の約70%を占めている。このほか自然植生としてネコヤナギ群落、アカメヤナギ群落、ツルヨシ群落等が、代償植生としてアカメガシワ群落、タラノキ群落、ススキ群落等がわずかながら分布している。図 6.2.1-4 ~ 図 6.2.1-6 に現存植生図を示す。



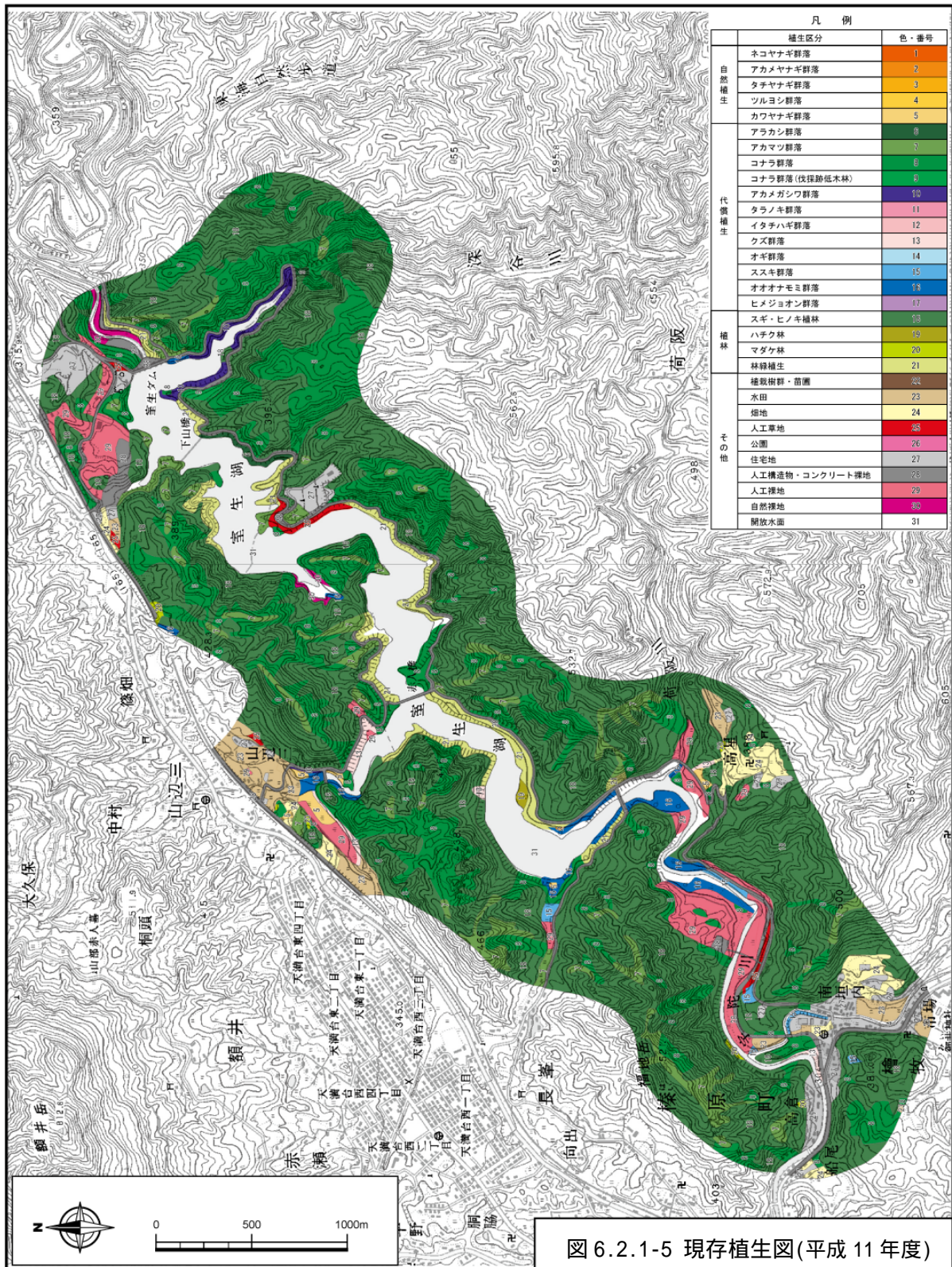


図 6.2.1-5 現存植生図(平成 11 年度)

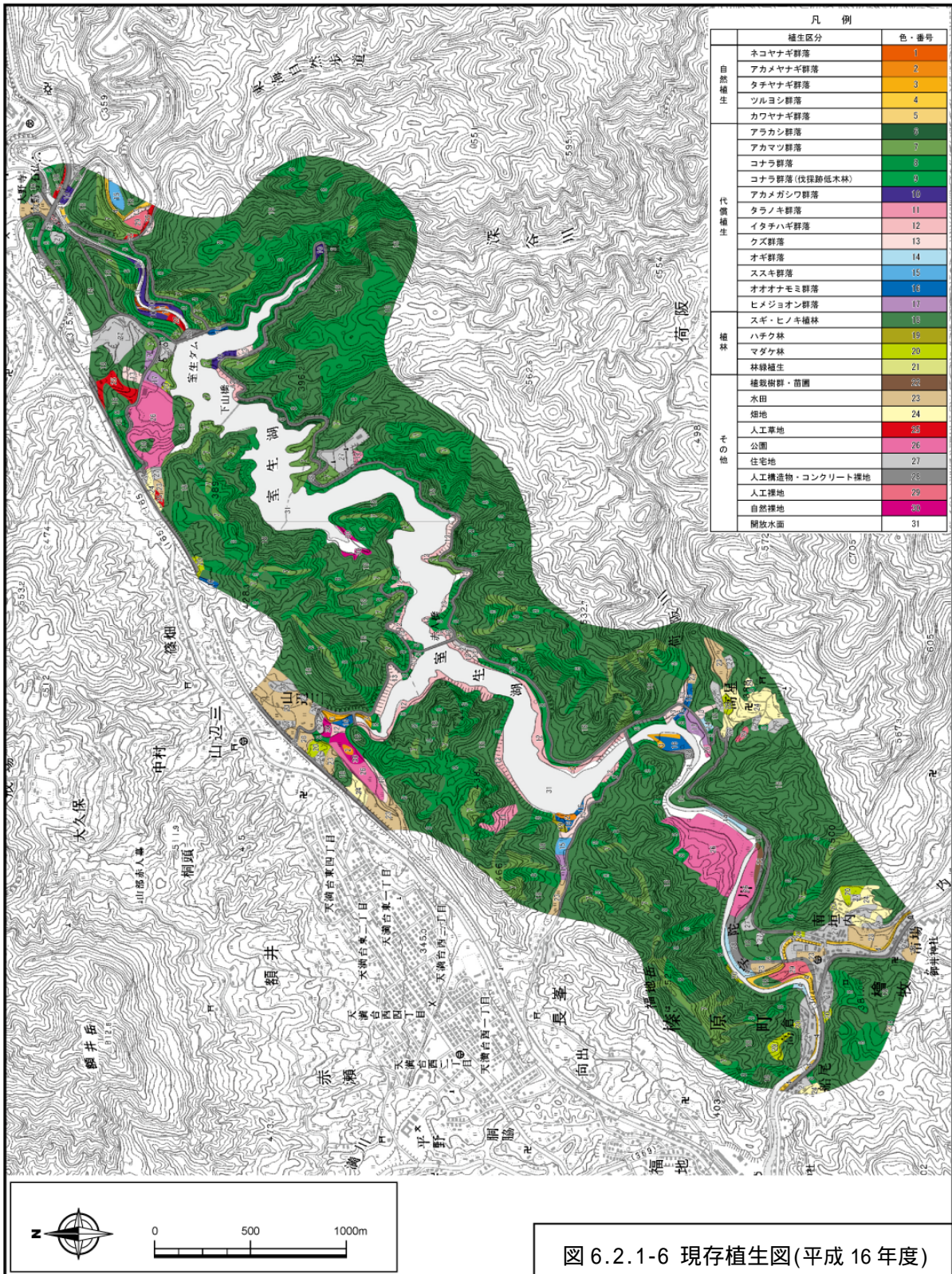


図 6.2.1-6 現存植生図(平成 16 年度)

## 5)鳥類

これまでに実施されている鳥類の調査内容を表 6.2.1-21 に示す。

### (a)鳥類の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、16 目 36 科 107 種の鳥類の生息が確認されている。確認種の一覧は、表 6.2.1-22 に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、ダム湖周辺のスギ - ヒノキ植林やコナラ群落ではヒヨドリ、エナガ、ウグイス、ヤマガラ等、アカマツ群落では半島状に突き出た地形のごく狭い林分で、エナガ、ヒヨドリ、シジュウカラ等が確認されている。また、ダム湖内では湖面上空を飛翔する鳥類も含め、カワウ、マガモ、カルガモ、コシアカツバメ等が確認されている。流入河川周辺では、カルガモ、イワツバメ、ホオジロ等、下流河川ではキセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワガラス等が確認されており、流入、下流河川沿いには集落や農耕地も広がり、水辺から樹林に至る多様な環境を反映して鳥類相も豊かになっている。



表 6.2.1-21 調査内容一覧:鳥類

調査年度		H5	H9	H14	H18・19	
調査番号		2	6	12	18	
調査地点	区分	下流河川	-	-	ラインセンサス(5-1)	スポットセンサス(淀室下1)
		ダム湖内	定点記録(P1~P3)	定点記録(P1~P3)	定点記録(P-1~P-3)	船上センサス(淀室湖8)
		流入河川	-	-	ラインセンサス(5-2)	スポットセンサス(淀室入3)
		ダム湖周辺	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+定位記録法(1,2,3,6) ラインセンサス(4-1,4-2) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+スポットセンサス(淀室周1~淀室周3) 定点センサス(淀室周4,淀室周5) 夜間調査、移動中
ラインセンサス	調査数量	7.2km (2回×1~2日)	7.2km (2回×1日)	3.9km (2回×2~3日)	-	
	調査時期	春季	H5.5.28	H9.5.8	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.11	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.8	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.27	H15.1.28、30	-
ラインセンサス + スポットセンサス	調査数量	-	-	-	センサス2.1km+スポット9地点 (スポット1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
スポットセンサス	調査数量	-	-	-	9地点(1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
環境に応じた確認 ラインセンサス法 + 定位記録法	調査数量	-	-	1.3km+80分	-	
	調査時期	春季	-	-	H14.5.8~10	-
		夏季	-	-	H14.6.13~14	-
		秋季	-	-	H14.10.8~9	-
		冬季	-	-	H15.1.28、30	-
定点センサス	調査数量	-	-	-	1箇所30分	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
定位記録法	調査数量	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	-	
	調査時期	春季	H5.5.28~29	H9.5.7	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.12	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.9	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.26	H15.1.28~30	-
船上センサス	調査数量	-	-	-	2人×1日(80~85分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.12
		冬季	-	-	-	H19.1.30
夜間	調査数量	2人×1日	2人×1日	2人×1日	3人×1日(180分)	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.15
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.10
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.29
移動中の確認	調査数量	3人×1日	3人×1日	2人×2日	2人×2日	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.16~17
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.22~23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.12~13
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.30~31

表 6.2.1-22(1) 確認種一覧:鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H9	H14	H18・19
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ				
2			アカエリカイツブリ				
3	ペリカン	ウ	カワウ				
4	コウノトリ	サギ	ゴイサギ				
5			ササゴイ				
6			アマサギ				
7			ダイサギ				
8			チュウサギ				
9			コサギ				
10			アオサギ				
11			カモ	カモ	オシドリ		
12	マガモ						
13	カルガモ						
14	コガモ						
15	ヒドリガモ						
16	カワアイサ						
17	タカ	タカ	ミサゴ				
18			ハチクマ				
19			トビ				
20			オオタカ				
21			ツミ				
22			ハイタカ				
23			オオノスリ				
24			ノスリ				
25			サシバ				
26			クマタカ				

表 6.2.1-22(2) 確認種一覧:鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H9	H14	H18・19
27	キジ	キジ	コジュケイ				
28			キジ				
29			ヤマドリ				
30	ツル	クイナ	バン				
31	チドリ	チドリ	コチドリ				
32			イカルチドリ				
33			ケリ				
34		シギ	キアシシギ				
35			イソシギ				
36			ヤマシギ				
37			オオジシギ				
38	ハト	ハト	キジバト				
39			アオバト				
40	カッコウ	カッコウ	カッコウ				
41			ツツドリ				
42			ホトトギス				
43	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				
44			アオバズク				
45			フクロウ				
46	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ				
47	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ				
48	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ				
49			カワセミ				
50	キツツキ	キツツキ	アオゲラ				
51			アカゲラ				
52			オオアカゲラ				
53			コゲラ				
54	スズメ	ツバメ	ツバメ				
55			コシアカツバメ				
56			イワツバメ				
57		セキレイ	キセキレイ				
58			ハクセキレイ				
59			セグロセキレイ				
60			ピンズイ				
61		サンショウクイ	サンショウクイ				
62		ヒヨドリ	ヒヨドリ				
63		モズ	モズ				
64		カワガラス	カワガラス				
65		ミソサザイ	ミソサザイ				
66		イワヒバリ	カヤクグリ				
67		ツグミ	ルリビタキ				
68			ジョウビタキ				
69			ノビタキ				
70	トラツグミ						
71	アカハラ						
72	シロハラ						
73	ツグミ						

表 6.2.1-22(3) 確認種一覧:鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H9	H14	H18・19
74	スズメ	ウグイス	ヤブサメ				
75			ウグイス				
76			メボソムシクイ				
77			センダイムシクイ				
78			キクイタダキ				
79		ヒタキ	キビタキ				
80			オオルリ				
81			サメビタキ				
82			エゾビタキ				
83		コサメビタキ					
84		カササギヒタキ	サンコウチョウ				
85		エナガ	エナガ				
86		シジュウカラ	コガラ				
87			ヒガラ				
88			ヤマガラ				
89			シジュウカラ				
90		メジロ	メジロ				
91		ホオジロ	ホオジロ				
92			カシラダカ				
93			ミヤマホオジロ				
94			アオジ				
95			クロジ				
96		アトリ	アトリ				
97			カワラヒワ				
98			マヒワ				
99			ベニマシコ				
100			ウソ				
101			イカル				
102			シメ				
103		ハタオリドリ	スズメ				
104		ムクドリ	ムクドリ				
105		カラス	カケス				
106			ハシボソガラス				
107			ハシブトガラス				
-			カラス属				
16目 36科 107種				77種	75種	75種	68種

注)1.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

(b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-23 に示すとおり、22 科 53 種である。

表 6.2.1-23(1) 重要種一覧:鳥類

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度			
			1	2	3	4	5	H5	H9	H14	H18・19
1	サギ	ゴイサギ					注目				
2		ササゴイ				準絶	不足				
3		チュウサギ			NT	準絶	不足				
4	カモ	オシドリ			DD	準絶	注目				
5		カワアイサ					希少				
6	タカ	ミサゴ			NT		危惧				
7		ハチクマ			NT	危惧	危惧				
8		オオタカ		国内	NT		希少				
9		ツミ					希少				
10		ハイタカ			NT		希少				
11		ノスリ					希少				
12		サシバ			VU	危惧	危惧				
13		クマタカ		国内	EN	危惧	準絶				
14	チドリ	コチドリ				準絶					
15		イカルチドリ				準絶	希少				
16	シギ	キアシシギ				危惧					
17		イソシギ				準絶	希少				
18		ヤマシギ					希少				
19		オオジシギ			NT						
20	ハト	アオバト				準絶	希少				
21	カッコウ	カッコウ				準絶	希少				
22		ツツドリ				準絶	希少				
23		ホトトギス					準絶				
24	フクロウ	オオコノハズク					危惧				
25		アオバズク				準絶	希少				
26		フクロウ				危惧	希少				
27	ヨタカ	ヨタカ			VU	準絶	危惧				
28	カワセミ	ヤマセミ					希少				
29	キツツキ	アオゲラ				準絶					
30		アカゲラ				準絶	希少				
31		オオアカゲラ				準絶	希少				
32	セキレイ	ビンズイ					希少				
33	サンショウクイ	サンショウクイ			VU		危惧				
34	カワガラス	カワガラス					希少				
35	イワヒバリ	カヤクグリ					危惧				

表 6.2.1-23 (2) 重要種一覧:鳥類

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度			
			1	2	3	4	5	H5	H9	H14	H18・19
36	ツグミ	ルリビタキ					希少				
37	ウグイス	メボソムシクイ				準絶	希少				
38		センダイムシクイ				準絶	希少				
39		キクイタダキ				準絶	危惧				
40	ヒタキ	キビタキ				準絶	希少				
41		オオルリ				準絶					
42		サメビタキ				準絶	不足				
43		エゾビタキ				準絶					
44		コサメビタキ				準絶	希少				
45	カササギヒタキ	サンコウチョウ				準絶	希少				
46	シジュウカラ	コガラ				準絶	希少				
47	ホオジロ	ミヤマホオジロ				準絶	希少				
48		アオジ				準絶					
49		クロジ				準絶	危惧				
50	アトリ	ベニマシコ				準絶					
51		ウソ				準絶					
52		イカル					郷土				
53		シメ				準絶					
22科 53種			0種	2種	11種	35種	43種	33種	31種	32種	31種

【選定基準】

- ・ 1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・ 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種 緊急 - 緊急指定種
- ・ 3: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 鳥類 - 」(環境省 2006年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・ 4: 「近畿地区鳥類レッドデータブック 絶滅危惧種判定システムの開発」  
(江崎保男・和田 岳編著 2002年)  
近畿地方に生息する鳥類のうち、繁殖個体群、越冬個体群、通過個体群に分けて奈良県における希少性判定を行ったもの  
危機 - 危機的絶滅危惧 絶滅 - 絶滅危惧 準絶 - 準絶滅危惧 注目 - 要注目
- ・ 5: 「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~ 奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編 ~ 」  
(奈良県農林部森林保全課 2007年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

(c) 外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-24 に示すとおり、1 科 1 種である。

表 6.2.1-24 外来種一覧：鳥類

No	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度			
			1	2	H5	H9	H14	H18・19
1	キジ	コジュケイ						
1 科 1 種			0 種	1 種	1 種	1 種	1 種	1 種

【選定基準】

- ・ 1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年法律第78号)  
 特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
 注意 - 要注意外来生物
- ・ 2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
 - 掲載されている種

6) 両生類・爬虫類・哺乳類

これまでに実施されている両生類・爬虫類・哺乳類の調査内容を表 6.2.1-25 に示す。

(a) 両生類

a) 両生類の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、2 目 6 科 12 種の両生類の生息が確認されている。確認種の一覧は、表 6.2.1-26 に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、ダム湖周辺の林内に存在する沢筋では、タゴガエルやニホンヒキガエル等が確認されているが、その他の林床植生環境は乏しく、乾燥しているため確認数は少ない。また、周辺の水田地帯や河川沿いでヌマガエルとツチガエル等が確認されている。一方、流入河川の草地ではトノサマガエルやアマガエル等が確認され、下流河川では河川沿いでトノサマガエルやカジカガエル等が確認されている。

このほか、他項目の調査時には、流入河川の深谷川で国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが確認されている。

表 6.2.1-25 調査内容一覧:両生類・爬虫類・哺乳類

調査年度		H5	H10	H15		
調査番号		2	7	14		
調査地点	区分	下流河川	-	-	5-1 河畔(流出河畔)	
		流入河川	-	-	5-2 河畔(流入河畔), その他(深谷川))	
		ダム湖周辺	フィールドサイン・目撃法, トラップ法:地点1~地点3	フィールドサイン・目撃法, カメカゴ(No1~No.4) トラップ法(No1~No4) 自動撮影法(No1~No2)	1 スギ-ヒノキ群落, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4-1 林縁部, 4-2 林縁部, 6 沢筋, 7-2 その他(荷阪川)	
両生類 爬虫類 哺乳類	フィールド サイン法 目撃法	調査数量	ルート延長:22.0km	ルート延長:26.0km	ルート延長:18.5km	
		調査時期	春季 H5.5.28~29	H10.5.14~16	H15.5.19~22	
		夏季 H5.8.24~26	H10.8.6~8	H15.8.4~6		
		秋季 H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16		
		冬季 H6.1.25~26 (哺乳類調査のみ)	H11.1.21~22 (哺乳類調査のみ)	H16.1.20~22 (哺乳類調査のみ)		
両生類 爬虫類	墜落缶	調査数量	-	-	1 地点(20 個)	
		調査時期	春季 -	-	H15.5.19~22	
		夏季 -	-	-		
		秋季 -	-	H15.10.14~16		
		冬季 -	-	-		
	カメカゴ (カメトラップ)	調査数量	-	3 地点(1 地点 1 個)	4 地点(1 地点 1 個)	
		調査時期	春季 -	H10.5.14~15	H15.5.19~22	
		夏季 -	H10.8.6~7	-		
		秋季 -	-	H15.10.14~16		
		冬季 -	-	-		
哺乳類	トラップ法調査	トラマウス	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 20 個)	3 地点(1 地点 30 個)	8 地点(1 地点 30 個)
			調査時期	春季 H5.5.28~30	H10.5.14~16	H15.5.19~22
			夏季 H5.8.24~26	-	-	
			秋季 H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16	
			冬季 H6.1.25~27	-	-	
		トラップ	調査数量	-	1 地点(5 対)	1 地点(春 1 個、秋 9 個)
			調査時期	春季 -	-	H15.5.19~22
			夏季 -	-	-	
			秋季 -	H10.10.13~14	H15.10.14~16	
			冬季 -	-	-	
	カゴ罠	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 1 個)	-	3 地点 1 地点(春 10 個、秋 5 個)	
		調査時期	春季 H5.5.28~30	-	H15.5.19~22	
		夏季 H5.8.24~26	-	-		
		秋季 H5.9.28~30	-	H15.10.14~16		
		冬季 H6.1.25~27	-	-		
自動撮影法 調査	調査数量	-	2 地点	3 地点		
	調査時期	春季 -	-	H15.5.19~22		
	夏季 -	-	-	-		
	秋季 -	H10.10.13~14	H15.10.14~16			
	冬季 -	H11.1.21~22	-			
その他	-	-	モリアオガエル 補足調査 (H10.6.11) オオサンショウウオ 夜間調査 (H10.8.6~7、10.12、 H11.1.21)	-		



表 6.2.1-26 確認種一覧:両生類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
				H5	H10	H15
1	サンショウウオ	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ			
2		イモリ	イモリ			
3	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル			
4		アマガエル	アマガエル			
5		アカガエル	タゴガエル			
6			ヤマアカガエル			
7			トノサマガエル			
8			ヌマガエル			
9		アオガエル	ウシガエル			
10			ツチガエル			
11			シュレーゲルアオガエル			
12			カジカガエル			
2目6科12種				11種	10種	11種

注)1. :「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」  
6月、8月調査時に確認された。

b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-27 に示すとおり、3科3種である。

表 6.2.1-27 重要種一覧:両生類

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H5	H10	H15
1	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特別	国際	VU	注目			
2	イモリ	イモリ			NT				
3	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				危惧			
3科3種			1種	1種	2種	2種	2種	3種	

注)1. :オオサンショウウオは、平成19年度 魚類調査時に確認されている。

【選定基準】

- ・1:「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・2:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種  
緊急 - 緊急指定種
- ・3:「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 爬虫類・両生類 - 」  
(環境省 2006年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・4:「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2007年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

c)外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-28 に示すとおり、1科1種である。

表 6.2.1-28 外来種一覧:両生類

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H5	H10	H15
1	カエル	ウシガエル	特定				
1科1種			1種	1種	1種	1種	1種

【選定基準】

- ・ 1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年 法律第78号)  
 特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
 注意 - 要注意外来生物
- ・ 2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
 - 掲載されている種

(b)爬虫類

a)爬虫類の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、2目5科12種の爬虫類の生息が確認されている。確認種の一覧は、表 6.2.1-29 に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、ダム湖周辺の林内に存在する沢筋では、ミシシッピアカミミガメ、イシガメ等、林縁部の草本群落ではトカゲ、カナヘビ等が確認されているが、その他の林床植生環境は乏しく、乾燥しているため確認数は少ない。また、林縁の路上ではシマヘビ、アオダイショウ等が確認されている。一方、流入河川では確認個体数は少ないがクサガメやカナヘビ等が確認されている。

表 6.2.1-29 確認種一覧:爬虫類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
				H5	H10	H15
1	カメ	イシガメ	クサガメ			
2			ミシシippアカミミガメ			
3			イシガメ			
4	トカゲ	トカゲ	トカゲ			
5		カナヘビ	カナヘビ			
6		ヘビ	シマヘビ			
7			ジムグリ			
8			アオダイショウ			
9			シロマダラ			
10			ヒバカリ			
11			ヤマカガシ			
12		クサリヘビ	マムシ			
2目5科12種				12種	10種	10種

b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-30 に示すとおり、3科7種である。

表 6.2.1-30 重要種一覧:爬虫類

	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H5	H10	H15
1	イシガメ	イシガメ			DD	危惧			
2	ヘビ	ジムグリ				不足			
3		アオダイショウ				希少			
4		シロマダラ				不足			
5		ヒバカリ				不足			
6		ヤマカガシ				希少			
7	クサリヘビ	マムシ				希少			
3科7種			0種	0種	1種	7種	7種	5種	5種

【選定基準】

- ・ 1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・ 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種  
緊急 - 緊急指定種
- ・ 3: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 爬虫類・両生類 - 」  
(環境省 2006年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・ 4: 「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2007年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

c)外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-31 に示すとおり、1科1種である。

表 6.2.1-31 外来種一覧:爬虫類

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H5	H10	H15
1	イシガメ	ミシシippアカミミガメ					
1科1種			0種	1種	1種	1種	1種

【選定基準】

- ・ 1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年 法律第78号)  
 特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
 注意 - 要注意外来生物
- ・ 2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
 - 掲載されている種

(c)哺乳類

a)哺乳類の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、7目11科20種の哺乳類の生息が確認されている。確認種の一覧は、表 6.2.1-32 に示すとおりである。

近年に実施した調査においては、ダム湖周辺の林内ではシカやノウサギ、ニホンリス、タヌキ、イノシシ等の足跡、糞、食痕、掘り返し等が多く確認されている。また林縁部の道路上はフィールドサインが確認されやすいため、テンの糞や、草本群落ではシカ、ノウサギの食痕等が確認されている。一方、流入河川の河川敷砂地では、モグラ属の坑道が多数あり、コウベモグラが捕獲されている。また、水際の泥地ではタヌキやホンドジカ等の足跡が多く確認され、下流河川では河川沿い等でシカの食痕が多く確認されている。その他、高星地区の神社でムササビ、島谷導水路内でモモジロコウモリ、テングコウモリ、ユビナガコウモリ等も確認されている。

表 6.2.1-32 確認種一覧:哺乳類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
				H5	H10	H15
1	モグラ	モグラ	ヒミズ			
2			コウベモグラ			
-			モグラ属			
3	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ			
4		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ			
5			ユビナガコウモリ			
6			テングコウモリ			
-			ヒナコウモリ科			
7	サル	オナガザル	ニホンザル			
8	ウサギ	ウサギ	ノウサギ			
9	ネズミ	リス	ニホンリス			
10			ムササビ			
11		ネズミ	アカネズミ			
12			ヒメネズミ			
13			カヤネズミ			
-			ネズミ科			
14	ネコ	イヌ	タヌキ			
15			キツネ			
16		イタチ	テン			
17			イタチ属			
18			アナグマ			
19	ウシ	イノシシ	イノシシ			
20		シカ	ホンドジカ			
7目 11科 20種				11種	17種	18種

注1. 種名に「・・・属」「・・・科」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-33 に示すとおり、3科5種である。

表 6.2.1-33 重要種一覧:哺乳類

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H5	H10	H15
1	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ				希少			
2	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ				希少			
3		ユビナガコウモリ				希少			
4		テングコウモリ			VU	危惧			
5	ネズミ	カヤネズミ				希少			
3科5種			0種	0種	1種	5種	0種	4種	4種

【選定基準】

- ・ 1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・ 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種  
緊急 - 緊急指定種
- ・ 3: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 哺乳類 - 」(環境省 2007年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・ 4: 「大切にしたい奈良県の野生動植物 ~奈良県版レッドデータブック 脊椎動物編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2007年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

c)外来種の状況

これまでの調査の結果、外来種は確認されていない。

7)陸上昆虫類等

これまでに実施されている陸上昆虫類等の調査内容を表 6.2.1-34 に示す。

(a)陸上昆虫類等の状況

これまでの調査の結果、室生ダム及びその周辺においては、24 目 406 科 2858 種の陸上昆虫類等の生息が確認されている。確認された陸上昆虫類等の分類群毎の集計結果は表 6.2.1-35 に示すとおりである。また、確認種の一覧については資料編に添付した。

近年に実施した調査においては、ダム湖周辺は樹林環境が多く、ヒロオビウスグロアツバやノコギリクワガタ等、樹林性のガ類やコウチュウ目が多く確認され、河川沿いやダム湖沿いに分布する草地ではショウリョウバッタ、ヒゲシロスズ、ツマグロオオヨコバイ、セアカゴミムシ等の草地性のカメムシ目やバッタ目等が確認されている。また、流入河川や下流河川では幼虫期を水中で過ごすカゲロウ目やトビケラ目が多く確認されたほか、トンボ目のオナガサナエ等水域環境に強く依存する種も確認されている。

表 6.2.1-34 調査内容一覧:陸上昆虫類等

調査年度		H6	H10	H15	
調査番号		3	7	13	
調査地点	区分	下流河川	-	5-1 河畔(流出河畔)	
		流入河川	-	5-2 河畔(流入河畔)	
		ダム湖周辺	任意採集(R-1~R-3) トラップ(B-1~B4,L-1~L-3)	任意採集(R-1~R-3) トラップ(B-1~B4,L-1~L-3)	1 スギ-ヒノキ群落, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4-1 林縁部,4-2 林縁部, 6 沢筋,その他(荷阪川)
任意採集	調査数量		3 ルート	3 ルート	8 ルート
	調査時期	春季	H6.5.25	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.15	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.6	H10.10.6~9	H15.10.7~9
ピットフォール トラップ	調査数量		4 地点 (ビニールコップ 120 個)	3 地点 (ビニールコップ 90 個)	8 地点 (ビニールコップ 240 個)
	調査時期	春季	H6.5.22~25	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.14~17	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.5~8	H10.10.6~9	H15.10.6~9
ライトトラップ	調査数量		3 地点(ボックス法 3 個)	3 地点 (カーテン法 3 個、 ボックス法 3 個)	8 地点 (カーテン法夏のみ 1 個、 ボックス法 8 個)
	調査時期	春季	H6.5.22~24	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.14~16	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.5~7	H10.10.6~9	H15.10.6~9
その他		-	ゲンジボタル補足調査 H10.6.11~12	ライトトラップ(カーテン法) は夏季調査のみ 1 地点実施。 任意採集は既定 8 ルートのほ か範囲全域を対象とした調査 を毎回実施	

表 6.2.1-35 分類群別確認科種数一覧:陸上昆虫類

目名	H6		H10		H15		合計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
クモ	26	126	20	121	26	144	31	240
トビムシ	5	7	7	9	9	11	10	17
カマアシムシ	1	1					1	1
コムシ	1	1					1	1
イシノミ	1	1			1	2	1	2
カゲロウ	5	7	6	7	7	11	9	16
トンボ	5	16	9	22	7	24	9	30
ゴキブリ	2	2	3	3	2	2	3	3
カマキリ	1	2	2	4	1	2	2	5
シロアリ			1	1	1	1	1	1
ハサミムシ	1	1	2	2	3	3	3	4
カワゲラ	2	5	3	3	4	5	6	10
バッタ	8	38	8	40	10	60	11	77
ナナフシ			1	1	1	2	1	2
チャタテムシ			1	1	8	12	8	12
カメムシ	32	148	36	136	39	178	45	287
アザミウマ			1	1	2	2	3	3
アミメカゲロウ	8	15	5	7	8	12	11	25
シリアゲムシ	1	1	1	2	2	3	2	3
トビケラ	16	27	14	20	20	27	21	37
チョウ	39	397	38	376	50	507	59	819
ハエ	39	130	47	165	46	113	60	273
コウチュウ	42	323	46	288	62	483	65	771
ハチ	18	99	21	110	42	125	43	219
24目 406科 2858種	253科	1347種	272科	1319種	351科	1729種	406科	2858種

(b)重要種の状況

これまでの調査により確認された重要種は、表 6.2.1-36 に示すとおり、25科 30種である。



表 6.2.1-36 重要種一覧:陸上昆虫類

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H6	H10	H15
1	ミズグモ	ミズグモ			VU				
2	サナエトンボ	オグマサナエ			VU				
3	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				希少			
4	トンボ	ネキトンボ				希少			
5	コオロギ	カワラスズ				不足			
6	バッタ	カワラバッタ				希少			
7		ダイリフキバッタ				希少			
8	ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ			VU				
9	コオイムシ	コオイムシ			NT	希少			
10	シリアゲムシ	プライヤシリアゲ				注目			
11	アシエダトビケラ	コバントビケラ				希少			
12	フトヒゲトビケラ	フタスジキソトビケラ				希少			
13	クロツツトビケラ	クロツツトビケラ				希少			
14	シジミチョウ	シルビアシジミ本土亜種			CR+EN	絶寸			
15	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			NT	希少			
16		オオウラギンスジヒョウモン				希少			
17		メスグロヒョウモン				希少			
18		クモガタヒョウモン				希少			
19	ヤガ	シロシタバ				希少			
20	オサムシ	アオヘリアオゴミムシ			CR+EN				
21		スナハラゴミムシ			NT				
22	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			NT	危惧			
23	コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			NT				
24	シデムシ	ヤマトモンシデムシ			NT				
25	センチコガネ	オオセンチコガネ				郷土			
26	コガネムシ	マルエンマコガネ				危惧			
27	タマムシ	ヤマトタマムシ				郷土			
28	ホタル	ゲンジボタル				郷土			
29	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ			VU				
30	ベッコウバチ	アケボノベッコウ			DD				
25科 30種			0種	0種	13種	21種	15種	11種	14種

【選定基準】

- ・ 1: 「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)  
特別 - 特別天然記念物 天然 - 天然記念物
- ・ 2: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)  
国内 - 国内希少野生動植物種 国際 - 国際希少野生動植物種  
緊急 - 緊急指定種
- ・ 3: 「環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて - 昆虫類 - 」  
(環境省 2007年)  
EX - 絶滅 EW - 野生絶滅 CR - 絶滅危惧IA類 EN - 絶滅危惧IB類  
VU - 絶滅危惧II類 NT - 準絶滅危惧 DD - 情報不足  
LP - 絶滅のおそれのある地域個体群
- ・ 4: 「大切にしたい奈良県の野生動植物  
~奈良県版レッドデータブック 植物・昆虫類編~」  
(奈良県農林部森林保全課 2008年)  
絶滅 - 絶滅種 絶寸 - 絶滅寸前種 危惧 - 絶滅危惧種 希少 - 希少種  
不足 - 情報不足種 注目 - 注目種 郷土 - 郷土種

(c)外来種の状況

これまでの調査により確認された外来種は、表 6.2.1-37 に示すとおり、20 科 23 種である。

表 6.2.1-37 外来種一覧:陸上昆虫類

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H6	H10	H15
1	コオロギ	カンタン					
2	ヒロズコガ	コクガ					
3	ハマキガ	ナシヒメシンクイ					
4	シロチョウ	モンシロチョウ					
5	ツトガ	シバツトガ					
6	メイガ	チャマダラメイガ					
7	チョウバエ	ホシチョウバエ					
8	ニセケバエ	ナガサキニセケバエ					
9	ショウジョウバエ	キロショウジョウバエ					
10	コガネムシ	シロテンハナムグリ					
11	シバンムシ	タバコシバンムシ					
12	ナガシンクイムシ	ケヤキヒラタキクイムシ					
13	テントウムシ	クモガタテントウ					
14	キシムシ	ウスバキスイ					
15	ケシキスイ	ウスチャデオキスイ					
16		クリイロデオキスイ					
17	ホソヒラタムシ	フタトゲホソヒラタムシ					
18	ゴミムシダマシ	ヒメゴミムシダマシ					
19	カミキリムシ	ツシマムナクボカミキリ					
20		ラミーカミキリ					
21	ハムシ	アズキマメゾウムシ					
22		ブタクサハムシ					
23	ゾウムシ	イネミズゾウムシ					
20 科 23 種			0 種	23 種	8 種	11 種	13 種

【選定基準】

- ・ 1: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年法律第78号)  
 特定 - 特定外来生物(第一次選定種・第二次選定種・第三次選定種)  
 注意 - 要注意外来生物
- ・ 2: 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2003年)  
 - 掲載されている種

### 6.3. 生物の生息・生育状況の変化の検証

ダムによる生物への影響について検証するため、これまで実施されてきた調査の結果を比較し、生物の生息・生育状況の変化を把握した。また、変化の把握にあたっては、種相の変化に着目するとともに、個体数の変化が把握できるものについては、一定の傾向を把握するために、その増減の推移の状況を把握した。ただし、調査は各実施年度によって、調査時期や調査地点数、調査手法等が異なり、単純に各調査年度で確認された種数・個体数の増減を比較することは困難な状況にあった。そのため、努力量が一定となるように留意し、比較を行った。

なお、比較に際しては、経年変化とともに調査地域をダム湖内、流入河川、下流河川及びダム湖周辺の4つの区域に区分し、区域ごとの特徴の把握に努めた。

各区域における調査対象生物は表6.3-1、調査地域の区分は図6.3-1に示すとおりである。

表 6.3-1 各区域における調査対象生物

区域	対象項目
ダム湖内	魚介類、底生動物、動植物プランクトン、鳥類
流入河川	魚介類、底生動物、動植物プランクトン、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等
下流河川	魚介類、底生動物、動植物プランクトン、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等
ダム湖周辺	植物、鳥類、哺乳類、爬虫類、両生類、陸上昆虫類等



図 6.3-1 調査の区域区分

### 6.3.1. ダム湖内における変化の検証

#### (1)生物の生息・生育状況の変化の把握

##### 1)魚介類

##### (a)魚類

魚類の調査は、これまでに計5回実施されている。しかし、各調査年度ともに、実施した調査地点数や調査回数が異なっている。そのため、魚類の変化の整理にあたっては、調査地点数及び調査回数を考慮に入れて、1地点/調査回あたりの確認個体数を算出し、比較することとした。

各調査年度におけるダム湖内の調査地点数、及び調査回数は表6.3.1-1に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表6.3.1-2に示すとおりであり、経年とともに調査手法に若干の違いがみられている。

また、調査実施時におけるダム湖内の水位を、図6.3.1-1～図6.3.1-5に示す。調査実施時の貯水位は概ね290m前後であり、平成13年度は他の年に比べ夏季の貯水位が低かった。

表 6.3.1-1 調査実施状況一覧:魚類

調査年度 数量	調査年度				
	H4	H5	H8	H13	H19
調査地点数	5	3	4	7	5
調査回数	2	1	2	2	2
調査時期	8月・10月	9月	7月・10月	8月・10月	6月・8月

表 6.3.1-2 調査内容一覧:魚介類

調査地区										調査内容						
区分	H4		H5		H8		H13		H19		H4	H5	H8	H13	H19	
調査番号	1		2		5		11		19		1	2	5	11	20	
下流河川					No.1	下流河川(宇陀川)	St.1	下流河川	淀室下1	ダムサイト直下	-	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水80分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網150分、セルびん4個、はえなわ4本、潜水観察0.5h	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、どう2個、カゴ網2個、潜水観察2h	
ダム湖	St.2	湖心	St.3	湖底の平らな部分	No.2	湖内湾入部	St.2	湖肢	淀室湖2	湖岸部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(18mm)中層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、セルびん10個、はえなわ4本、カニカゴ4個、どう4個	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層1枚・中層2枚、セルびん2個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
									淀室湖3	宇陀川流入部	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
							St.9	河川流入部	淀室湖6	深谷川流入部	-	-	-	刺網(15mm)表層1枚・中層2枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚、投網(12mm)10回・(18mm)20回、タモ網140分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.3	天満川流入部	St.2(1)	天満川流入部	No.3	河川流入点(天満川)	St.3	河川流入部	淀室湖7	天満川流入部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)20回・(18mm)15回、タモ網120分、セルびん15個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚・中層2枚、投網(12mm)20回・(18mm)10回、タモ網110分、セルびん4個、はえなわ4本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.4	宇陀川流入部	St.1(1)	宇陀川流入部	No.5	河川流入点(宇陀川)	St.5	ダム湖内			刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)17回・(18mm)18回、タモ網120分、セルびん16個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚、タモ網20分	-	
			St.1(2)	宇陀川流入部									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-
		St.1-1	ダムサイト													
		St.1-2	ダムサイト(船着場)									モンドリ、目視				
							St.7	最深部							刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚	
							St.8	河川流入部							刺網(15mm)表層1枚、底層1枚、刺網(50mm)表層2枚、投網(12mm)15回・(18mm)25回、タモ網90分、セルびん4個、はえなわ1本	
流入河川							St.10	流入河川	淀室入1	流入河川深谷川				投網(18mm)21回、タモ網75分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.6	流入河川	St.2(2)	天満川流入部	No.4	流入河川(天満川)	St.4	流入河川	淀室入2	流入河川天満川	投網(12mm)3回	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網60分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水70分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)2回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.5	宇陀川(高倉橋付近)			No.6	流入河川(宇陀川)	St.6	流入河川	淀室入3	流入河川宇陀川	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水60分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)25回・(18mm)26回、タモ網120分、セルびん4個、はえなわ2本、潜水観察20分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
その他								淀室他1	水質保全ダム湛水域						投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
時期	-	-	-	-	-	-	-	-	-	初夏	-	-	-	-	H19.6.5~9	
	夏季	-	-	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	H4.8.12~14	-	H8.7.23~24、29~30	H13.7.31、8.1~6	H19.8.27~29	
	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	H4.10.12~14	H5.9.20~22	H8.10.16~18	H13.10.23~31	-	

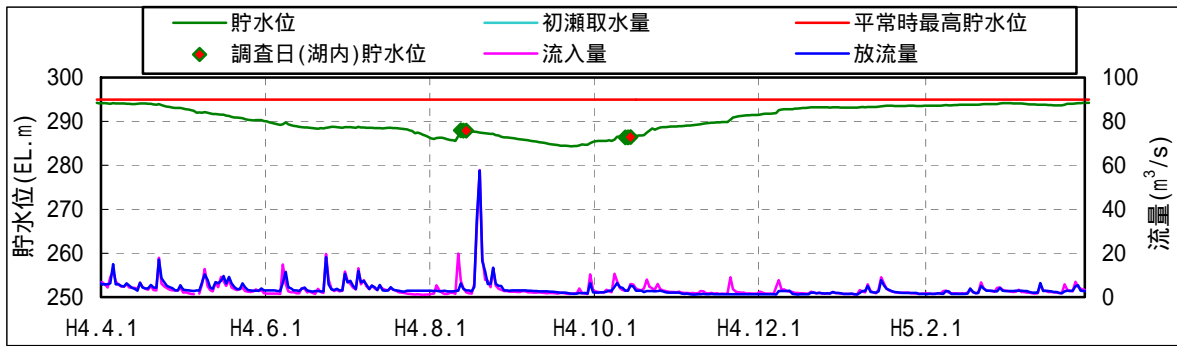


図 6.3.1-1 調査実施時の流況(平成 4 年度)

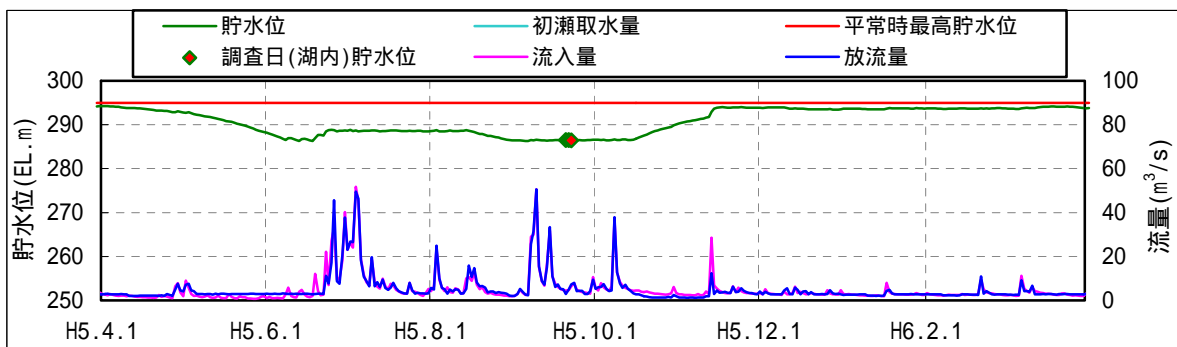


図 6.3.1-2 調査実施時の流況(平成 5 年度)

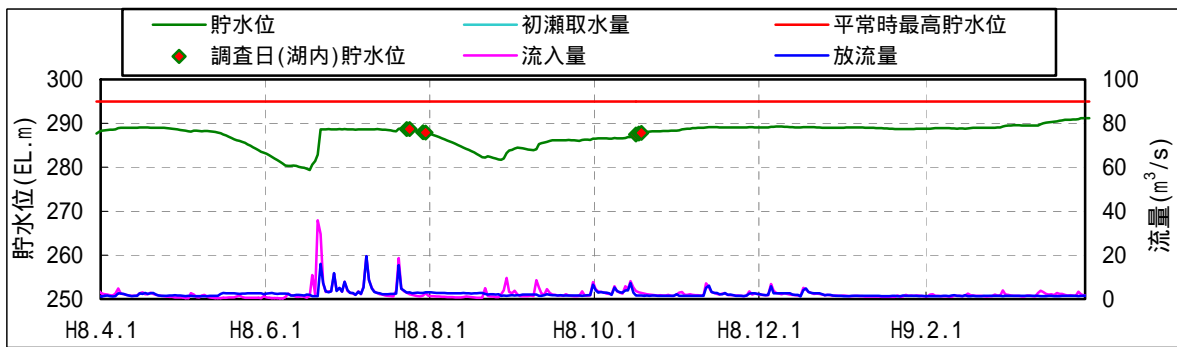


図 6.3.1-3 調査実施時の流況(平成 8 年度)

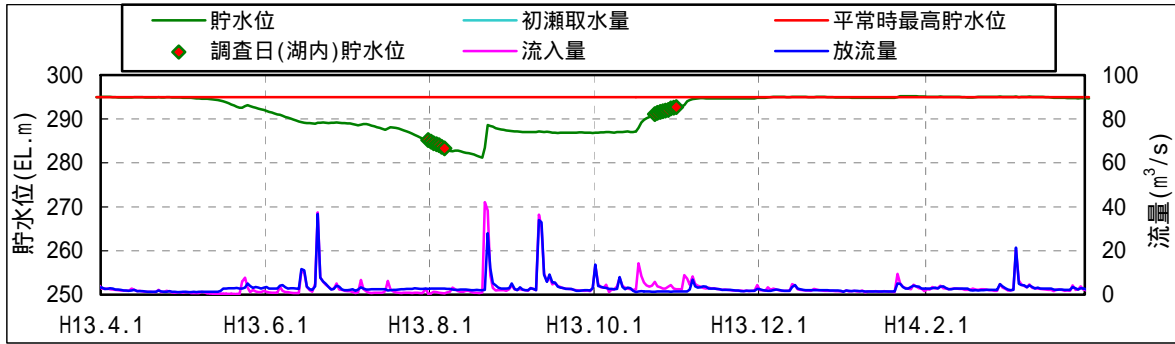


図 6.3.1-4 調査実施時の流況(平成 13 年度)

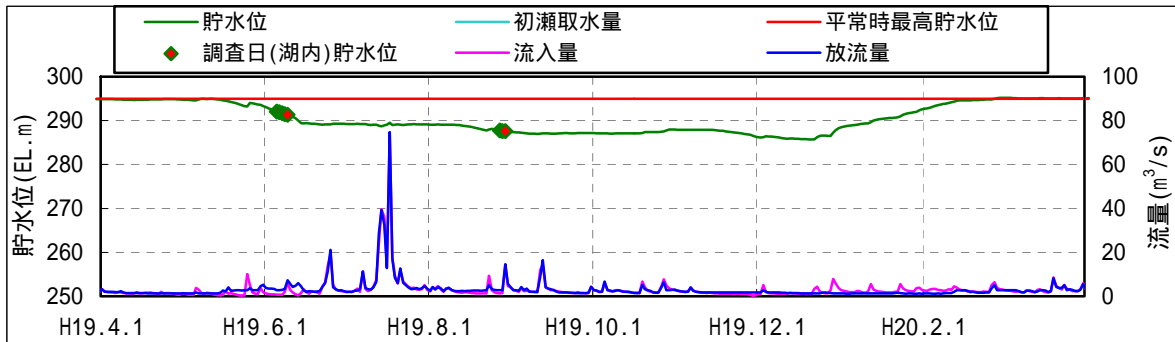


図 6.3.1-5 調査実施時の流況(平成 19 年度)



a) 魚類相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された魚類の一覧は表 6.3.1-3、またその推移は図 6.3.1-6～図 6.3.1-8 に示すとおりである。なお、魚類相の変化にあたっては、目視確認による個体数は、不明瞭な点が多いことから(“+(1 個体未満/100m<sup>2</sup>)”や“++++(1000 個体程度以上/100m<sup>2</sup>)”と記載してある)、目視確認による個体を除外して整理することとした。

ダム湖内の魚類については、ゲンゴロウブナやギンブナ、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)等の主に止水環境を好む種が大半を占めており、このほかオイカワやカワムツ、ギギ、ナマズといった河川中流や緩やかな流れを好む種が確認されている。また、確認種数については、経年とともに増加する傾向がみられ、平成 4 年度から平成 19 年度にかけては、約 2.5 倍となっている。

個体数については、平成 5 年度は個体数が非常に多い状況にあったが、その他の調査年度は概ね 50～100 個体で推移している。なお、平成 5 年度に多く確認されているのはオイカワである。また、優占種の推移についてみると、平成 4 年度では 60%以上を占めていたギンブナが経年とともに減少傾向にある。また、平成 5 年度ではオイカワが多くなる傾向はあるが、以降は概ね 20%程度で推移している。また、トウヨシノボリやカワムツといった種が増加することはあるが、これらの種の増加は一時的なものとなっており、平成 13 年度から平成 19 年度にかけては、ウキゴリ、ブルーギルが急激に増加する傾向がみられている。

このほか、平成 20 年 2 月には、アユの再生産についての基礎情報を得ることを目的として、ダムサイト付近、天満川流入地点付近、宇陀川流入地点付近(水質保全ダム直上を含む)の 3 地点において、捕獲調査が実施されている。その結果、ダムサイト付近で 1 個体、天満川流入地点付近で 58 個体(目視を含めると 158 個体以上)のアユの仔魚が確認され、室生ダムにおいてはアユが再生していることが明らかとなったが、宇陀川流入地点及び水質保全ダム直上では仔アユは確認されていない。なお、宇陀川漁業協同組合からの聞き取り調査によると、琵琶湖産のアユを放流しているとのことである。

表 6.3.1-3 経年確認種一覧:魚類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度					
					H4	H5	H8	H13	H19	
1	硬骨魚	コイ	コイ	コイ	0.6	1.0	0.6	0.3	0.9	
2				ゲンゴロウブナ	0.5		0.6	1.2	0.3	
3				ギンブナ	30.0	30.0	14.8	0.8	4.6	
4				ニゴロブナ				0.1		
5				オオキンブナ					0.3	
-				フナ属			1.0		1.2	
6				ワタカ			0.1			
7				ハス			0.8	0.9	0.5	
8				オイカワ	9.8	84.7	17.5	12.4	10.5	
9				カワムツ		2.3	6.1	19.2	0.5	
10				モツゴ			0.1	0.1	0.1	
11				タモロコ			0.1		1.0	
12				ホンモロコ		32.0	3.1	1.1	0.1	
13				カマツカ			2.6	1.1	0.5	
14				コウライニゴイ					5.9	
15				ニゴイ	0.6	13.7	5.1	2.9		
-				ニゴイ属					4.5	
16				スゴモロコ	1.4	20.3			0.6	
17			コウライモロコ			10.4	8.7	10.4		
-			スゴモロコ属			8.8		0.4		
18				ドジョウ	ドジョウ			0.6		
19			ナマズ	ナマズ	ナマズ	0.2	2.0	1.0	0.2	0.6
20				ギギ	ギギ	0.4	2.3	0.4	1.9	1.3
21			サケ	サケ	アマゴ				0.1	
22				アユ	アユ		3.3	0.5	3.9	1.0
23			ダツ	メダカ	メダカ					0.3
24			タウナギ	タウナギ	タウナギ				0.1	0.1
25			スズキ	ハゼ	スミウキゴリ					0.3
26					ウキゴリ		0.3	0.5	2.1	13.3
27					トウヨシノボリ		22.7	23.6	4.7	1.6
28					カワヨシノボリ				2.1	
-		ヨシノボリ属			2.2			0.2		
29		ヌマチチブ					3.2	4.6		
30		サンフィッシュ	ブルーギル	2.5	1.3	0.5	0.4	9.2		
31			オオクチバス	1.2	3.0	2.0	1.4	0.4		
1 綱 6 目 10 科 31 種					11 種	14 種	20 種	23 種	26 種	
					49.4 個体	219.0 個体	100.3 個体	69.1 個体	75.8 個体	

- 注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。  
2.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。  
3.平成20年2月に実施されている仔アユ調査の結果は含んでいない。

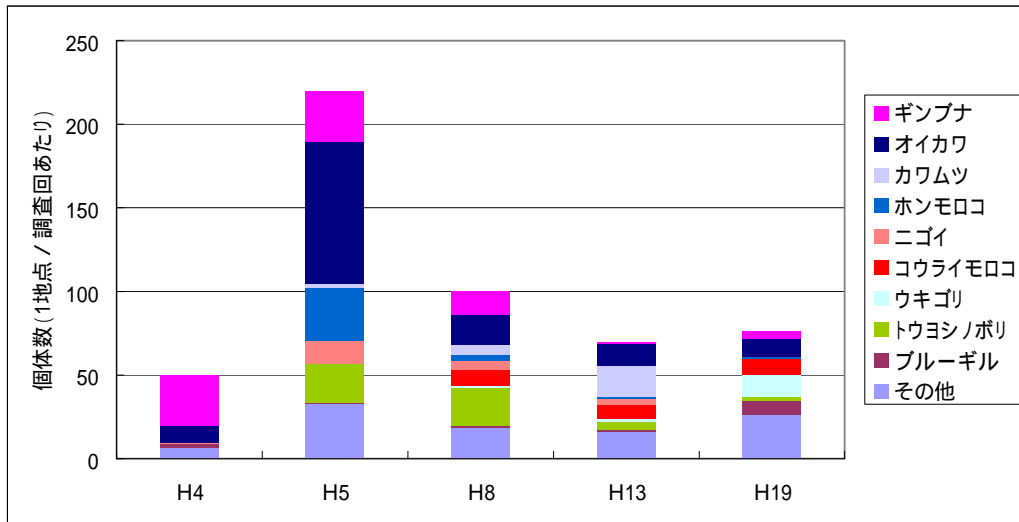


図 6.3.1-6 種別確認個体数の推移: 魚類

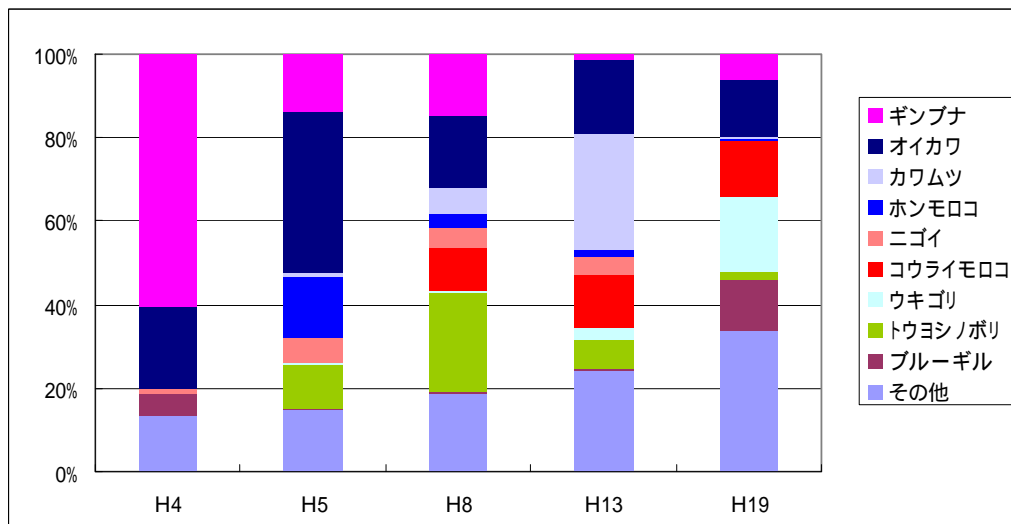


図 6.3.1-7 種別確認割合の推移: 魚類

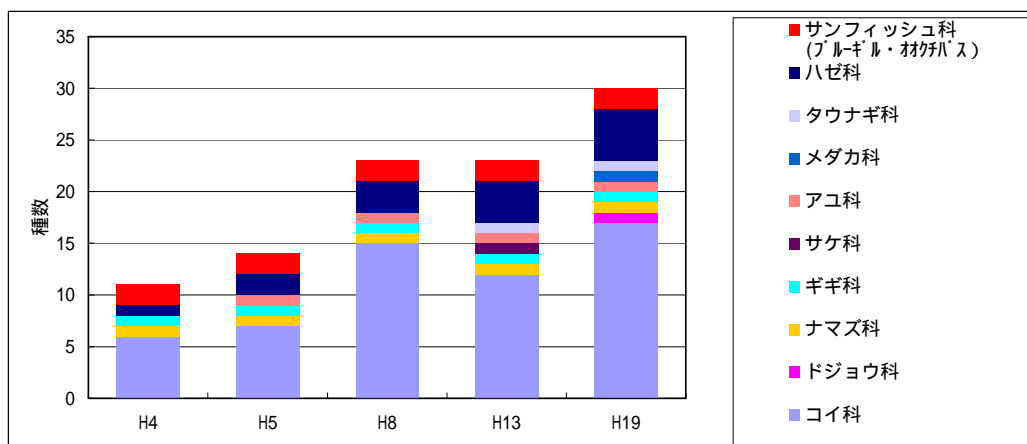


図 6.3.1-8 確認種数の推移: 魚類

b)ダム湖を主な生息環境とする魚類の変化の整理

ダム湖内を主な生息環境とする魚類の変化については、魚類相の変化の整理と同様に、目視確認による個体数は不明瞭な点が多いことから、目視確認による個体を除外して整理することとした。また、ダム湖を主な生息場所とする種の変化は、ダム湖内及び流入河川において生息が確認された種のうち、そのほとんど(90%以上)がダム湖内で確認され、かつ、回遊魚以外の種について整理を行った。

ダム湖内を主な生息場所とする種の一覧は表6.3.1-4、またその推移は図6.3.1-9～図6.3.1-11に示すとおりである。

ダム湖内を主な生息場所とする種は、ゲンゴロウブナやギンブナ等のフナ属や、ホンモロコ、ニゴイ等のコイ科に属する種が多くを占めているほか、ナマズ、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)が継続的に確認されている。また、経年的な種数の変化は、平成4年度から平成8年度にかけて増加する傾向にあり、以降は横ばいの状態となっている。なお、調査開始から継続的に確認されているのは、ギンブナ、ナマズ、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)、及びニゴイ類の5種である。

個体数については、調査年度によって変動があり、平成4年度から平成5年度にかけては増加し、以降平成13年度までは減少している。この増減の要因は、主にギンブナ、ホンモロコ、ニゴイの個体数変動に拠る。また、平成13年度から平成19年度にかけては、増加に転じており、コウライニゴイや、ブルーギル等が増加傾向にある。

表6.3.1-4 経年確認種一覧:ダム湖内主な生息場所とする魚類

No.	網名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	0.5		0.6	1.2	0.3
2				ギンブナ	30.0	30.0	14.8	0.8	4.6
3				ニゴロブナ				0.1	
-				フナ属			1.0		1.2
4				ワタカ			0.1		
5				ホンモロコ		32.0	3.1	1.1	0.1
6				コウライニゴイ					5.9
7				ニゴイ	0.6	13.7	5.1	2.9	
-				ニゴイ属					4.5
8				スゴモロコ属			8.8		0.4
9				ナマズ	ナマズ	ナマズ	0.2	2.0	1.0
10	サンフィッシュ	ブルーギル	2.5		1.3	0.5	0.4	9.2	
11		オオクチバス	1.2		3.0	2.0	1.4	0.4	
1網2目3科11種					6種	6種	9種	8種	9種
					35.0	82.0	37.0	8.2	27.2
					個体	個体	個体	個体	個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

2.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

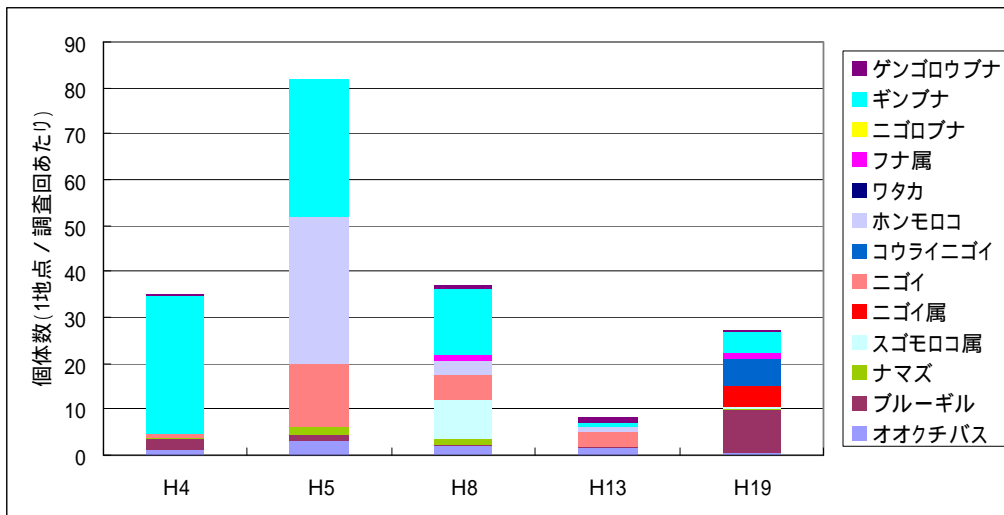


図 6.3.1-9 種別確認個体数の推移:ダム湖内を主な生息場所とする魚類

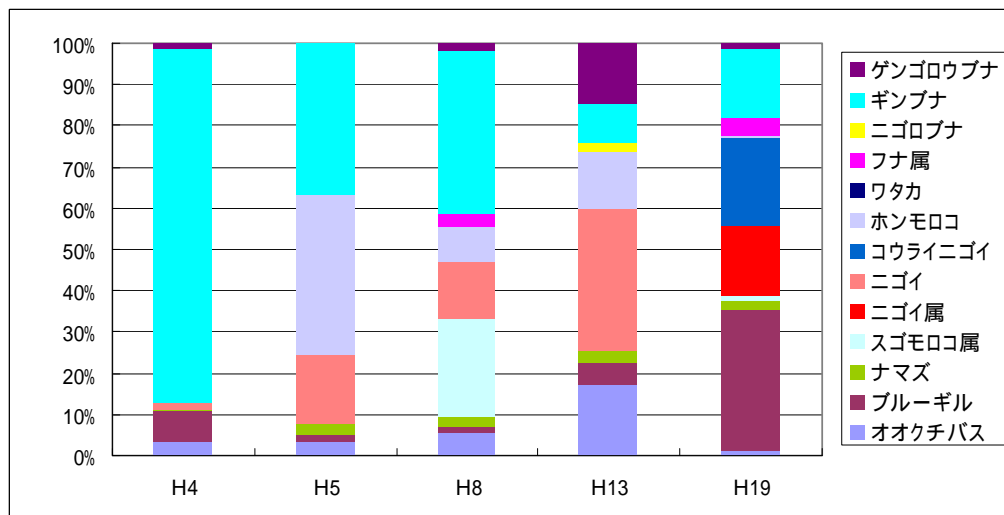


図 6.3.1-10 種別確認割合の推移:ダム湖内を主な生息場所とする魚類

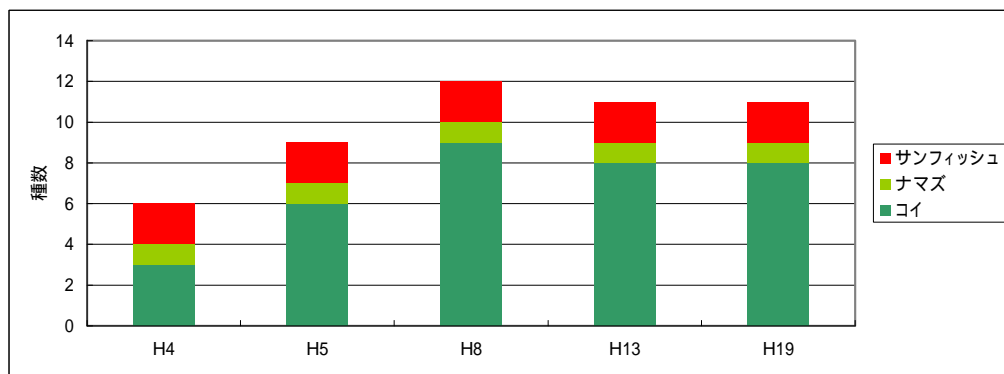


図 6.3.1-11 確認種数の推移:ダム湖内を主な生息場所とする魚類

c) 回遊性魚類の変化の整理

回遊性魚類の変化については、魚類相の変化の整理と同様に、目視確認による個体数は、不明瞭な点が多いことから、目視確認による個体を除外して整理することとした。

また、回遊性魚類の変化は、これまでの調査でダム湖内及び流入河川において生息が確認された種のなかで、繁殖形態等の生態的な条件から、本来であれば回遊性となる種について既存文献を参考に抽出し、これらの種について整理を行った。なお、抽出した種のほとんどは、ダム湖等の河川横断構造物がある場合は、容易に陸封する種であり、また平成 19 年度に実施した陸封アユ再生調査によると、室生ダムではアユの再生産が確認されている。加えて、平成 4 年度については、報告書の記載として“ヨシノボリ”が確認されているが、種名の特定が困難なため、本報告では「ヨシノボリ属」(回遊性は不明)として扱っている。

これまでの調査において、ダム湖内で確認された回遊性魚類の一覧は表 6.3.1-5、またその推移は図 6.3.1-12～図 6.3.1-14 に示すとおりである。

回遊性魚類については、アマゴといった遡河回遊魚や、アユ、スミウキゴリ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブといった両側回遊魚がこれまでの調査で確認されている。確認種数については、平成 13 年度までは増加する傾向にあり、以降平成 19 年度までは横ばいの状態となっている。確認個体数については、平成 5 年度から平成 8 年度にかけては概ね横ばいの状態で、平成 12 年度に一度減少するものの、平成 19 年度にはまた増加に転じている。また、優占種の推移についてみると、平成 8 年度まではトウヨシノボリが確認割合の 85%以上を占めていたが、平成 13 年度には約 33%、平成 19 年度には約 8%にまで減少している。また、これに変わって平成 13 年度にはヌマチチブ及びウキゴリの個体数が増加し、平成 19 年度にはウキゴリが約 64%、ヌマチチブが約 22%を占める結果となっている。このほか、平成 5 年度から継続的に確認されているアユについては、流入河川である宇陀川やその支流となる内牧川において稚魚放流が実施されていることから、確認された個体は出水時等にダム湖内に流下してきた個体を確認したものと考えられる。

室生ダムは、平成 12 年度に主な流入河川である宇陀川の流入点付近に水質保全ダムが建設されている。この水質保全ダムには、魚道は設置されているものの、設置以前のような疎通状況にはなっていないものと考えられる。種相の変化がみられたのが平成 13 年度であることを勘案すると、それぞれの回遊性種の産卵時期の違いや、その年々の流量、魚道の状況等の違いによって、遡上・降河の条件が変化している可能性があると考えられる。なお、平成 17 年度に実施された水質保全ダムの魚道遡上調査では、アユをはじめ、オイカワ類、スゴモロコ類、ギギ、ナマズ等の魚類の遡上を確認された。

このほか、前述したとおり、室生ダム湖内においては、天満川流入地点付近をはじめ

としてダムサイトについてもアユの再生産が確認されているが、宇陀川流入地点及び水質保全ダム直上では仔アユは確認されていない。

表 6.3.1-5 経年確認種一覧:回遊性魚類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	サケ	サケ	アマゴ				0.1	
2			アユ	アユ		3.3	0.5	3.9	1.0
3		スズキ	ハゼ	スミウキゴリ					0.3
4				ウキゴリ		0.3	0.5	2.1	13.3
5				トウヨシノボリ		22.7	23.6	4.7	1.6
6				ヌマチチブ					3.2
1綱2目3科6種					0種	3種	3種	5種	5種
					0.0 個体	26.3 個体	24.6 個体	14.1 個体	20.8 個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。  
2.平成20年2月に実施されている仔アユ調査の結果は含んでいない。

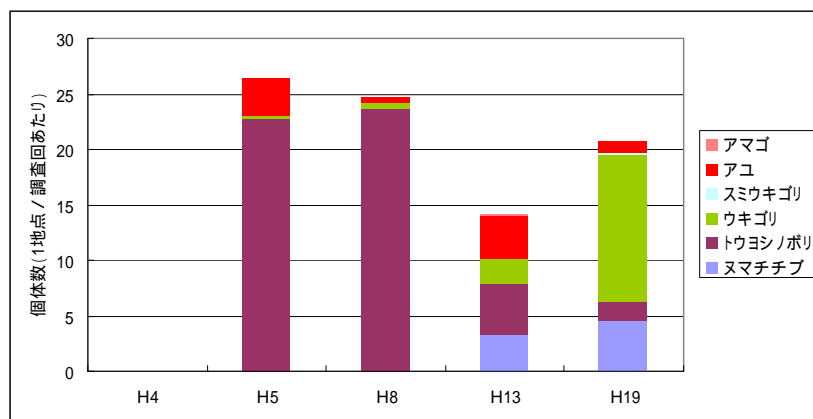


図 6.3.1-12 種別確認個体数の推移:回遊性魚類

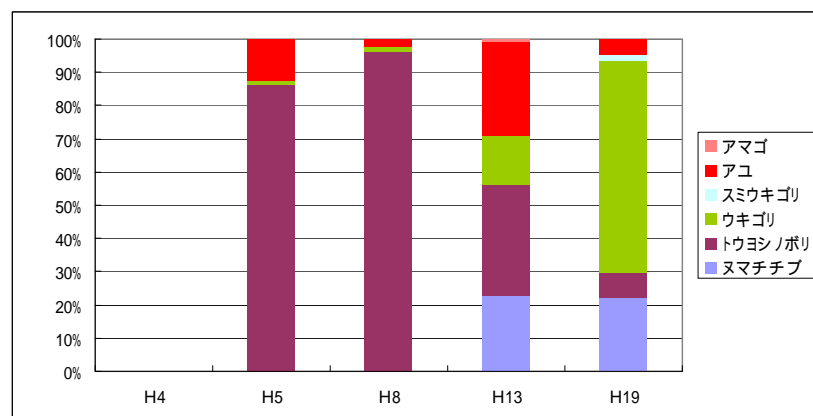


図 6.3.1-13 種別確認割合の推移:回遊性魚類

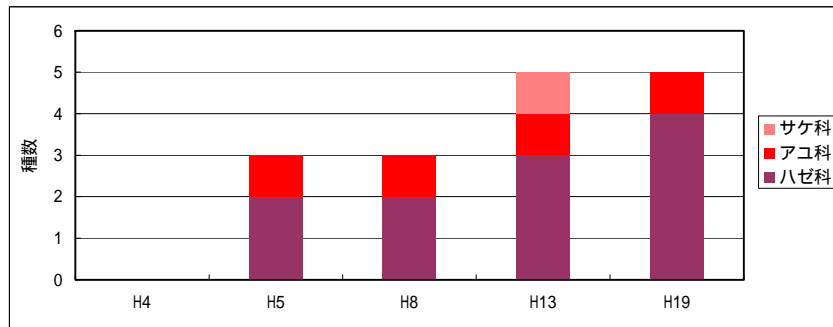


図 6.3.1-14 確認種数の推移:回遊性魚類

#### d)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された重要種の一覧は、表 6.3.1-6、またその推移は図 6.3.1-15～図 6.3.1-17 に示すとおりである。

ダム湖内における重要種については、自然分布と考えられる種は、平成 4 年度から平成 13 年度にかけては 1 種から 4 種へと増加し、以降平成 19 年度までは概ね横ばいとなっている。また、放流等が由来であると考えられる種は、経年とともに増加し平成 19 年度では 6 種が確認されている。

個体数については、自然分布と考えられる種のうち、ギギ及びウキゴリは経年とともに増加する傾向にあり、特にウキゴリについては、近年、急増する傾向にある。また、ワタカ、アマゴ、メダカ、カワヨシノボリは単年度の確認となっている。放流等が由来であると考えられる種については、ホンモロコが減少傾向にあり、アユやゲンゴロウブナは調査年度ごとにばらつきがある。なお、前述のとおり、室生ダムにおいては、アユの再生産が確認されている。



表 6.3.1-6 経年確認種一覧:重要種

分類	No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度				
				1	2	3	4	H4	H5	H8	H13	H19
自然分布	1	コイ	ワタカ			EN	郷土			1		
	2	ギギ	ギギ				希少	4	7	3	27	13
	3	サケ	アマゴ			NT					2	
	4	メダカ	メダカ			VU	希少					3
	5	ハゼ	ウキゴリ				希少		1	4	30	133
	6		カワヨシノボリ				希少					29
5科6種				0種	0種	3種	5種	1種 4 個体	2種 8 個体	3種 8 個体	4種 88 個体	3種 149 個体
放流等由来	7	コイ	ゲンゴロウブナ			EN		5		5	17	3
	8		ニゴロブナ			EN					2	
	9		ハス			VU				6	12	5
	10		ホンモロコ			CR			96	25	16	1
	11		スゴモロコ			NT		14	61			6
	12	アユ	アユ				絶寸		20	4	155	16
	13	タウナギ	タウナギ			EN					1	1
3科7種				0種	0種	6種	1種	2種 19 個体	3種 177 個体	4種 40 個体	6種 203 個体	6種 32 個体
7科13種				0種	0種	9種	6種	3種 23 個体	5種 185 個体	7種 48 個体	10種 291 個体	9種 181 個体

- 注)1.表中の数は、確認個体数を示す(目視・潜水観察による個体を含む)。  
 2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB  
 3.分類 自然分布 - 自然分布であると考えられる重要種。  
 放流等由来 - 釣りの対象として放流されたり、アユ等の放流に混雑してきた可能性が高いと考えられる種。  
 4.平成20年2月に実施されている仔アユ調査の結果は含んでいない。

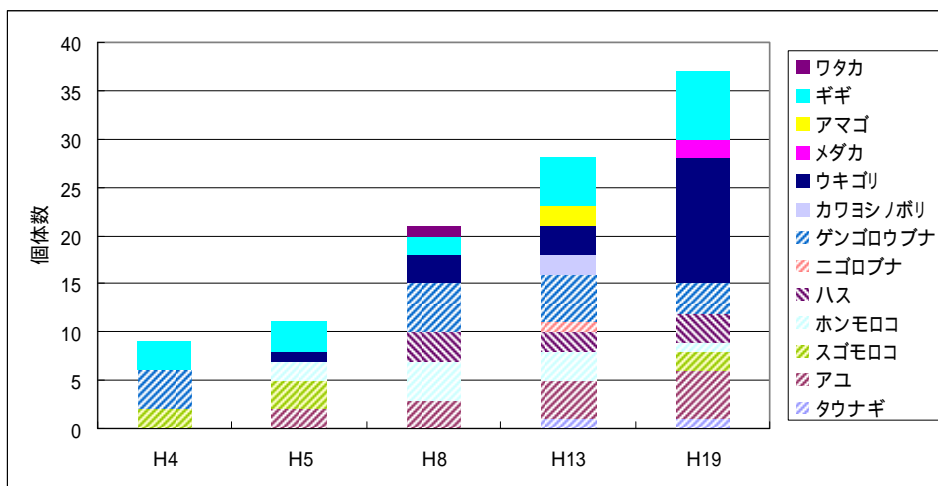


図 6.3.1-15 種別確認個体数の推移:重要種

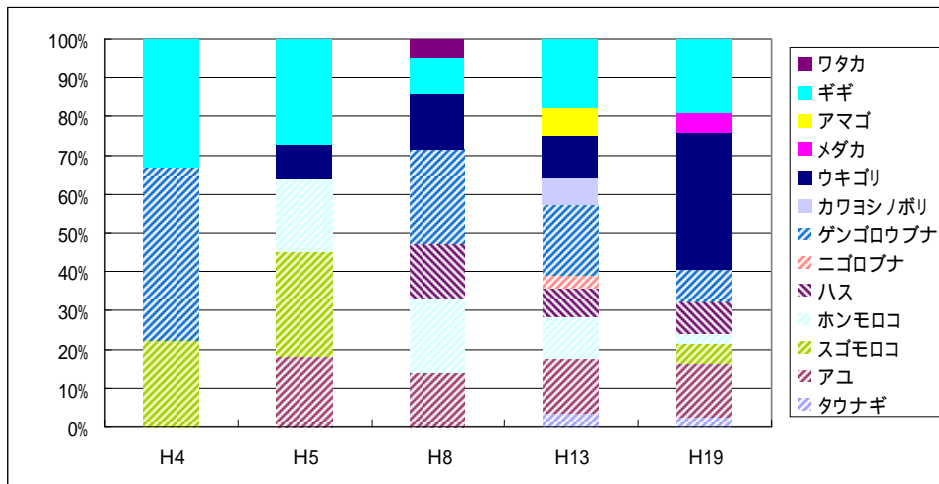


図 6.3.1-16 種別確認割合の推移:重要種

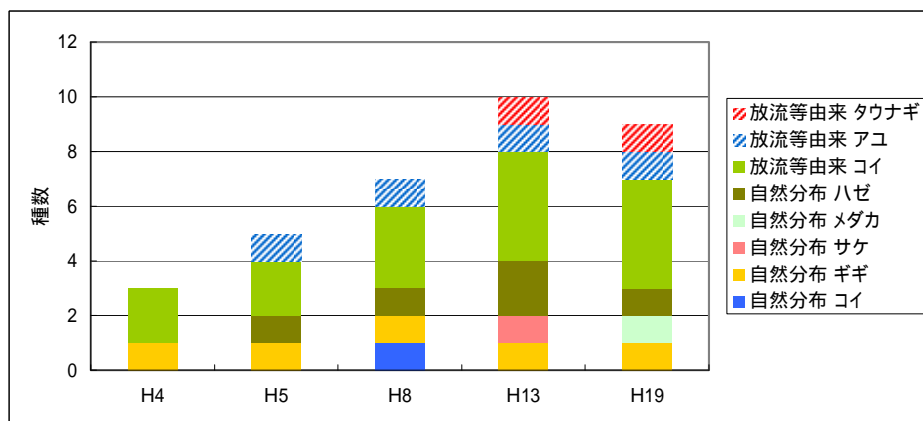


図 6.3.1-17 確認種数の推移:重要種

e) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された外来種の一覧は、表 6.3.1-7、またその推移は図 6.3.1-18～図 6.3.1-20 に示すとおりである。

ダム湖内における外来種の種数については、平成 4 年度から継続的にブルーギル及びオオクチバス(ブラックバス)が確認されているほか、平成 13 年度からは、タウナギが新たに確認されている。

個体数については、オオクチバス(ブラックバス)については各調査年度ともに 4～7 個体の範囲で推移しているが、ブルーギルについては変動がみられ、平成 4 年度から平成 5 年度にかけては減少したものの、以降は徐々に増加、平成 19 年度には急増し、20 個体以上が確認されている。このほか、タウナギは平成 13 年度、平成 19 年度に各 1 個体が確認されている。

表 6.3.1-7 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H4	H5	H8	H13	H19
1	タウナギ	タウナギ						1	1
2	サンフィッシュ	ブルーギル	特定		8	2	3	5	21
3		オオクチバス	特定		6	4	4	7	5
2科3種			2種	3種	2種 14 個体	2種 6 個体	2種 7 個体	3種 13 個体	3種 27 個体

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。  
2.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック  
3.確認個体数には、目視・潜水観察による個体を含む。

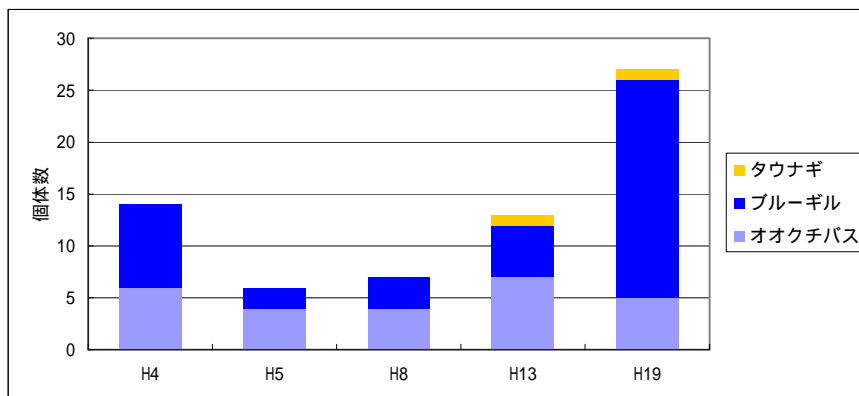


図 6.3.1-18 種別確認個体数の推移:外来種

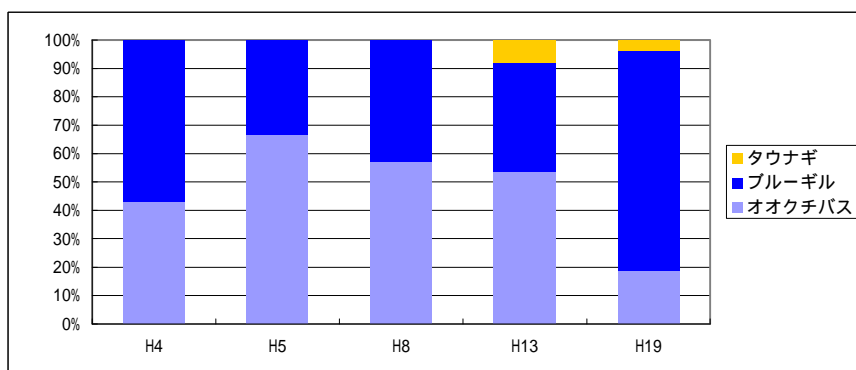


図 6.3.1-19 種別確認割合の推移:外来種

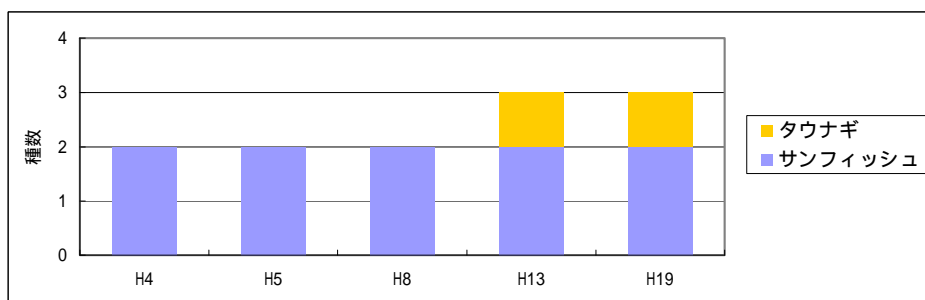


図 6.3.1-20 確認種数の推移:外来種

(b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の調査は、これまでに計4回実施されている。しかし、各調査年度ともに、実施した調査地点数や調査回数が異なっている。そのため、エビ・カニ・貝類の変化の整理にあたっては、調査地点数及び調査回数を考慮に入れて、1地点/調査回あたりの確認個体数を算出し、比較することとした。

各調査年度におけるダム湖内の調査地点数及び調査回数は表6.3.1-8に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表6.1.3-3に示すとおりであり、経年とともに調査手法に若干の違いがみられている。

なお、調査実施時におけるダム湖内の水位を、図6.3.1-1~5に示す。調査実施時の貯水位は概ね290m前後であり、平成13年度は夏季の貯水位が低かった。

表6.3.1-8 調査実施状況一覧:エビ・カニ・貝類

調査年度 数量	調査年度			
	H4	H5	H8	H13
調査地点数	5	3	4	7
調査回数	2	1	2	2
調査時期	8月・10月	9月	7月・10月	8月・10月

a)エビ・カニ・貝類相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認されたエビ・カニ・貝類の一覧は表6.3.1-9、またその推移は図6.3.1-21~図6.3.1-23に示すとおりである。なお、エビ・カニ・貝類相の変化にあたっては、目視確認による個体数は、個体数が不明であることから、その個体を除外して整理することとした。

ダム湖内のエビ・カニ・貝類については、テナガエビやスジエビといったエビ類のほか、ヒメタニシやカワニナ、マシジミ等の貝類が確認されている。また、確認種数については、経年とともに増加する傾向がみられ、平成13年度では6種が確認されている。

個体数については、平成4年度から平成8年度にかけては、増加傾向にあったが、平成13年度には減少に転じている。なお、減少の主要因は、スジエビに起因している。

表 6.3.1-9 経年確認種一覧:エビ・カニ・貝類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	
1	マキガイ	ニナ	タニシ	オオタニシ		1.0			
2				ヒメタニシ	0.2	4.0			
3			カワニナ	カワニナ		0.7	0.9	0.9	
4			モノアラガイ	モノアラガイ	モノアラガイ			0.4	
5	ニマイガイ	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ			0.1	0.1	
6	甲殻綱	エビ	テナガエビ	テナガエビ	1.4	3.3	0.6	1.1	
7				スジエビ	0.1	11.3	26.4	11.7	
8			アメリカザリガニ	アメリカザリガニ					0.1
9			サワガニ	サワガニ				0.1	0.6
3綱4目7科9種					3種	5種	6種	6種	
					1.7 個体	20.3 個体	28.5 個体	14.6 個体	

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

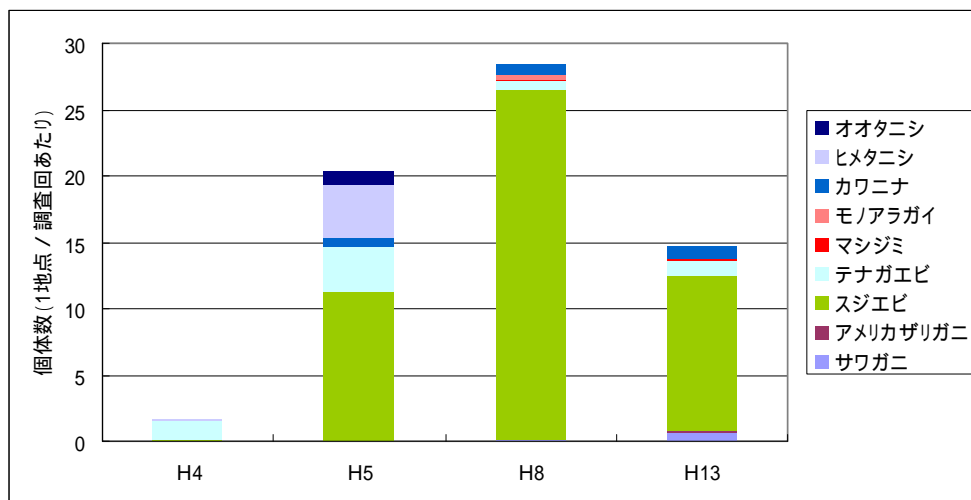


図 6.3.1-21 種別確認個体数の推移:エビ・カニ・貝類

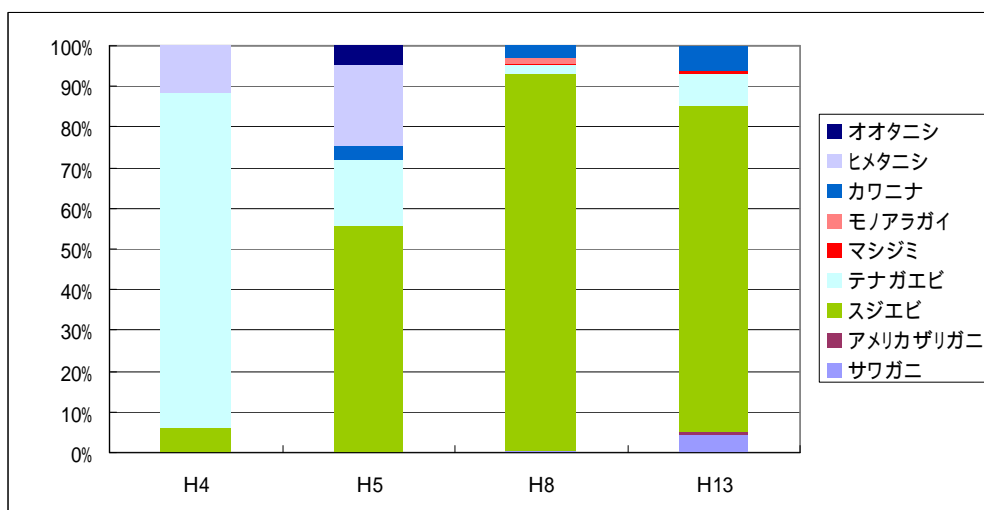


図 6.3.1-22 種別確認割合の推移:エビ・カニ・貝類

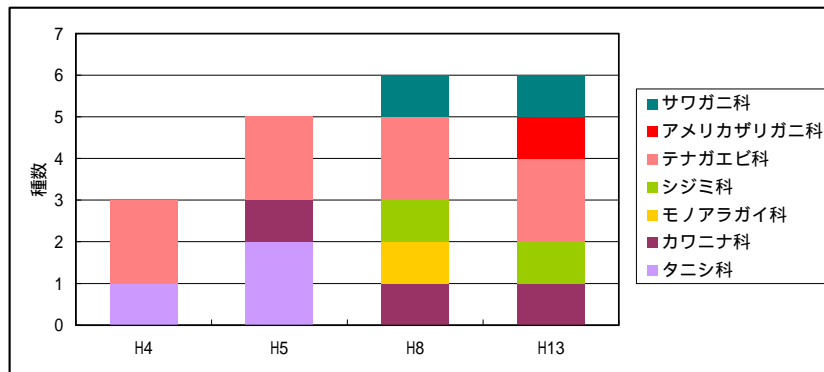


図 6.3.1-23 確認種数の推移:エビ・カニ・貝類

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された重要種の一覧は表 6.3.1-10 に示すとおりである。

ダム湖内における重要種については、平成 5 年度にオオタニシが 3 個体、平成 8 年度にモノアラガイが 3 個体、マシジミが 1 個体、平成 13 年度にマシジミが 2 個体確認されている。

表 6.3.1-10 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度			
			1	2	3	4	H4	H5	H8	H13
1	タニシ	オオタニシ			NT			3		
2	モノアラガイ	モノアラガイ			NT				3	
3	シジミ	マシジミ			NT				1	2
3科3種			0種	0種	3種	0種	0種	1種	2種	1種

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された外来種の一覧は表 6.3.1-11 に示すとおりである。

ダム湖内における外来種については、平成 13 年度にアメリカザリガニが 2 個体確認されているが、平成 4 年度、平成 5 年度、平成 8 年度では外来種は確認されていない。

表 6.3.1-11 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H4	H5	H8	H13	
1	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	要注意						2
1科1種			1種	1種	0種	0種	0種	0種	1種

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

2)底生動物

底生動物の調査は、これまでに計5回実施されている。このうち、平成7年度、平成12年度、平成17年度調査については年3回の実施、平成20年度は年2回の実施、平成5年度は年1回の実施となっている。平成7年度から平成17年度にかけては、定性採集を実施した調査地点数が増加傾向にあるが、平成20年度は5箇所と減少している。なお、平成20年度調査結果には、水質保全ダムにおける調査結果を含む。

各調査年度におけるダム湖内の調査地点数、及び調査回数は表6.3.1-12に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表6.3.1-13に示すとおりである。

また、調査実施時におけるダム湖内の水位を、図6.3.1-24～図6.3.1-27に示す。調査実施時の貯水位は概ね290m程度である。貯水位と底生生物の個体数の関係については、調査年によって定性採取の調査箇所数が異なっていることから、水位の影響については不明である。

表 6.3.1-12 調査実施状況一覧:底生動物

調査年度		調査年度				
		H5	H7	H12	H17	H20
調査 地点数	定点採集	3	3	2	2	2
	定性採集	-	5	7	8	5
調査回数		1	3	3	3	2
調査時期		9月	7～8月 12月・2月	7月・11月 1月	7月・10月 1月	4月・8月

表 6.3.1-13 調査内容一覧:底生動物

調査年度		H5	H7	H12	H17	H20	
調査番号		2	4	10	17	21	
調査地点	区分	下流河川	放水口	(定量・定性)No.1	(定量・定性)No.1	(定量・定性)St.1	淀室下1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	(定点)No.2, No.3, No.4 (定性)1,2,3,4,5	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7,8	淀室湖1, 淀室湖2, 淀室湖3, 淀室湖6, 淀室湖7
		流入河川	天満川(早瀬,植物帯), 高倉橋(平瀬,植物帯), 内牧川(平瀬,植物帯)	(定量・定性)No.5, No.6, No.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	淀室入1, 淀室入2, 淀室入3
		その他	-	-	-	-	淀室他1(水質保全ダム)
調査方法	定点調査	採泥器等による採取 (0.25m <sup>2</sup> )	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回程度	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回	
	定性調査		ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	
	定量調査		サーバーネット(25cm×25cm)	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×6回	
調査時期	夏季	-	H7.7.20~21、8.23	H12.7.19~21	H17.10.19~20	H20.8.25~26	
	冬季	-	H7.12.20~21	H12.11.8~9	H18.1.14~15	-	
	早春季	-	H8.2.21~22	H13.1.12~13	H17.7.2~3	H20.4.21~22	
	その他	H5.9.21	-	-	-	-	



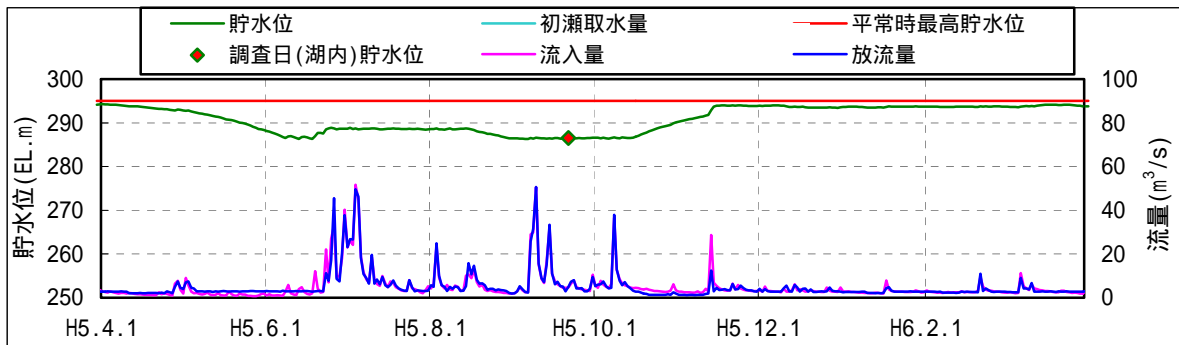


図 6.3.1-24 調査実施時の流況(平成 5 年度)

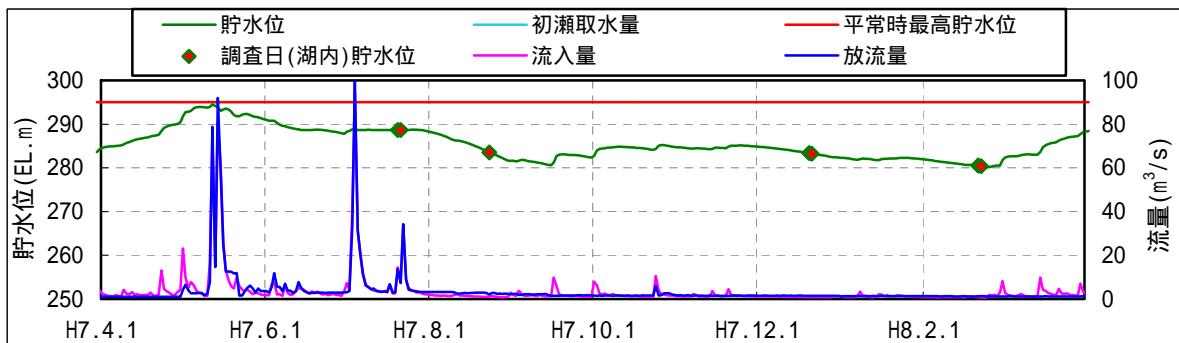


図 6.3.1-25 調査実施時の流況(平成 7 年度)

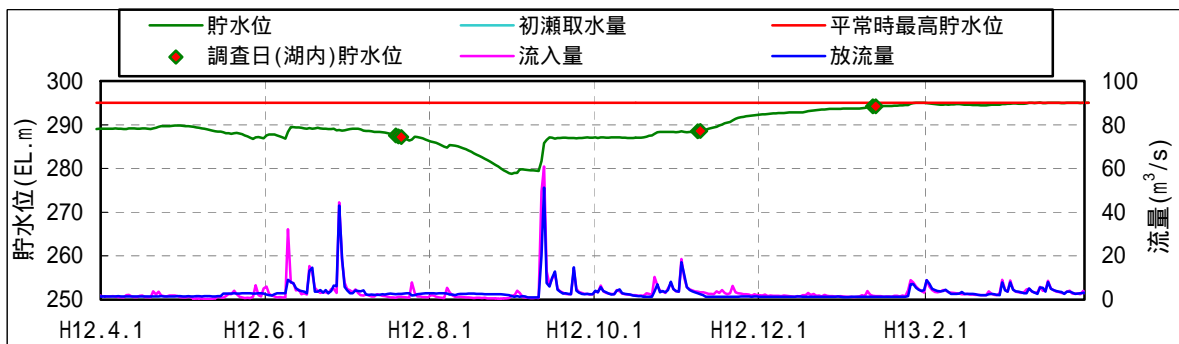


図 6.3.1-26 調査実施時の流況(平成 12 年度)

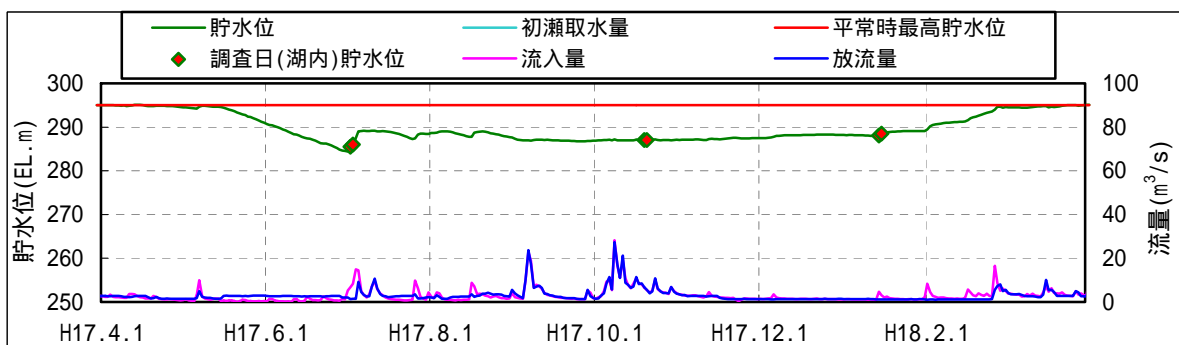


図 6.3.1-27 調査実施時の流況(平成 17 年度)

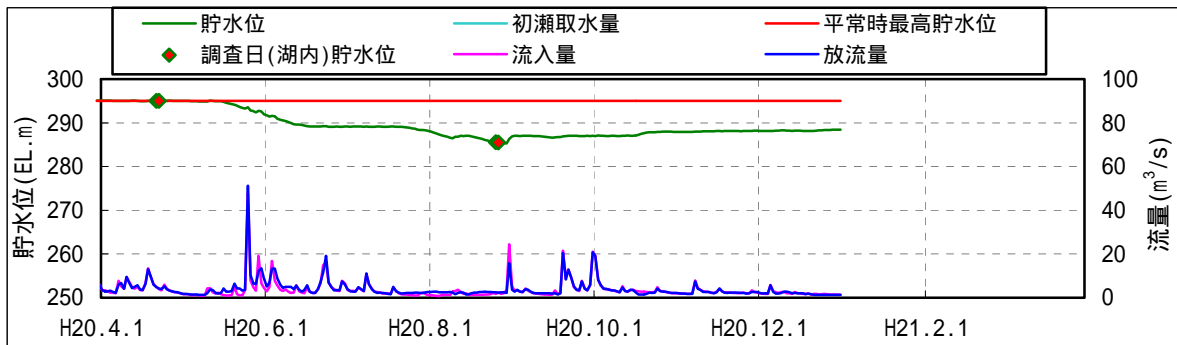


図 6.3.1-28 調査実施時の流況(平成 20 年度)

(a)底生動物相の変化の整理

これまでの調査においてダム湖内で確認された底生動物の綱目別科種数表は、表 6.3.1-14 に、またその推移は図 6.3.1-29～図 6.3.1-30 に示すとおりである。

ダム湖内の底生動物については、ハエ目を中心として、カゲロウ目やトンボ目、コウチュウ目、カメムシ目、ナガミミズ目等が確認されている。また、確認種数については、平成 5 年度が 5 種と最も少なく、平成 7 年度では 27 種、平成 12 年度では 71 種と増加するが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 39 種と平成 12 年度の半数程度にまで減少する結果となっている。また、この種数の増減について、分類群に着目して推移をみると、確認種数が最も多い平成 12 年度では、カゲロウ目、トンボ目、ハエ目といった分類群の出現種数が多い状況にあり、その多くはヒラタカゲロウ類やシマトビケラ類といった流水性種で占められていた。

表 6.3.1-14 経年分類群別確認種数一覧:底生動物

綱名	目名	H5		H7		H12		H17		H20		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
マキガイ	ニナ			2	2	2	2	1	1			2	3
	モノアラガイ					1	1			1	1	2	2
ニマイガイ	マルスダレガイ									1	1	1	1
ミミズ	オヨギミミズ							1	1			1	1
	ナガミミズ	1	2	1	2	4	4	3	3	3	4	4	6
ヒル	ノドビル									1	1	1	1
甲殻	ワラジムシ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	エビ			2	2	3	4	1	2	2	3	3	4
昆虫	カゲロウ	1	1	2	2	8	15	2	2	7	8	10	21
	トンボ			4	6	7	13	5	6	3	7	7	19
	カワゲラ					3	3	2	2			3	4
	カメムシ					2	4	5	7	2	2	5	8
	アミメカゲロウ					2	2					2	2
	トビケラ					3	4	1	1	1	1	4	5
	ハエ	1	2	1	12	4	14	3	12	1	10	5	28
コウチュウ					3	4	2	6			3	9	
6 綱 16 目 54 科 115 種		3 科	5 種	13 科	27 種	43 科	71 種	27 科	44 種	23 科	39 種	54 科	115 種

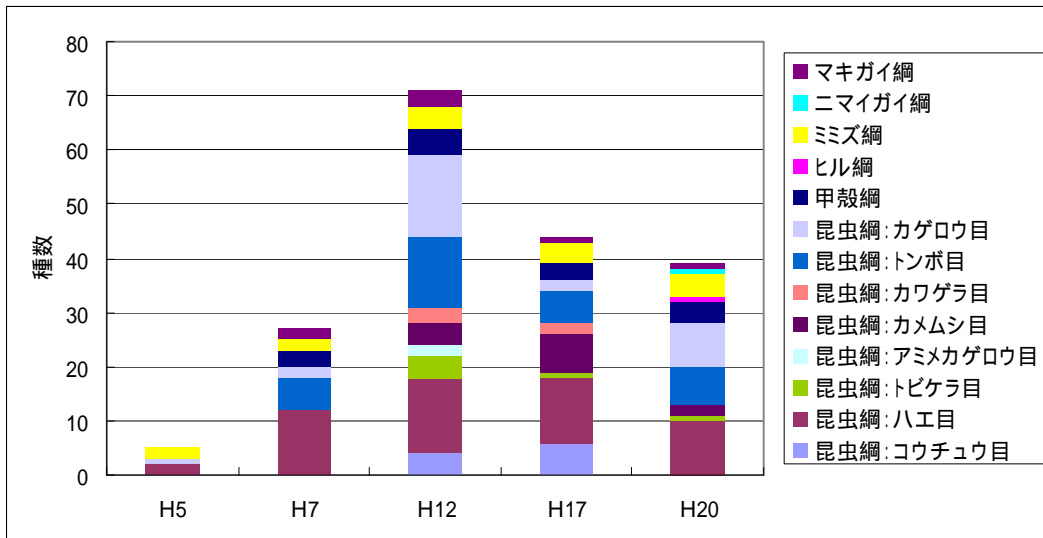


図 6.3.1-29 分類群別確認種数の推移:底生動物

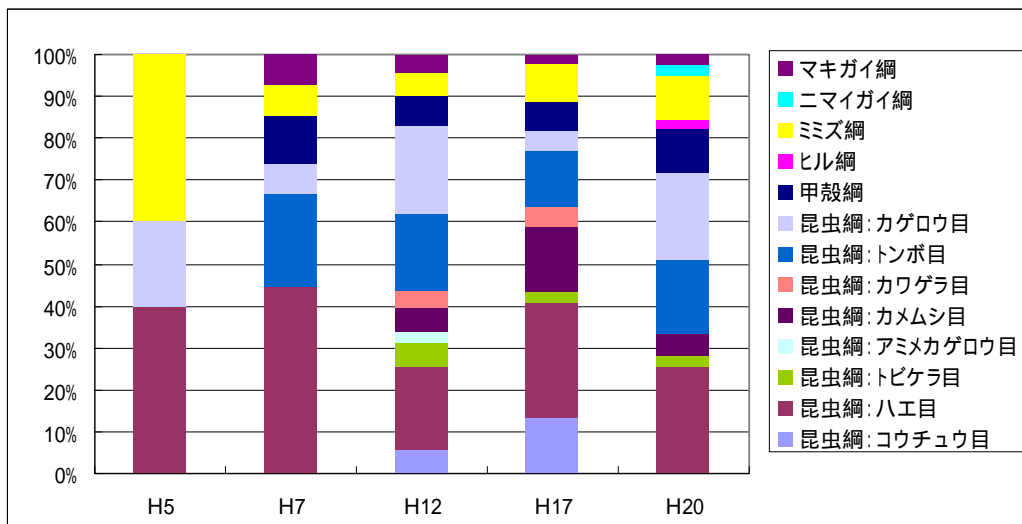


図 6.3.1-30 分類群別確認割合の推移:底生動物

(b) 優占種の変化の整理

ダム湖内においては、平成7年度から平成17年度にかけて、最深部(基準点)及び中央部(赤人橋)の2箇所定定量調査を実施している。また、平成20年度では最深部(基準点)及び水質保全ダムの2箇所定定量調査を実施している。以下にこれらの調査地点ごとの優占種の変化を整理した。なお、平成20年度に実施されている水質保全ダムにおける調査は単年度のみの結果であるが、今後は継続的に調査が実施すると想定されることから、調査結果を記載することとした。

a) 最深部(基準点)

最深部(基準点)における優占種(定量採集)の一覧は表6.3.1-15、また定量採集調査の結果の推移は図6.3.1-31～図6.3.1-32に示すとおりである。

最深部(基準点)における生息量は減少傾向にあり、平成12年度では無生物状態となっている。なお、平成7年度ではユリミミズやLimnodrilus属等のイトミミズ科のみの確認であったが、平成17年度にはイトミミズ科に加えて、Einfeldia属等のユスリカ科、平成20年ではCorbicula属、アカマダラカゲロウ、Cheumatopsyche属、Tanytarsus属が確認されている。ただし確認種は、強腐水性種の確認割合が高い状態となっている。

また、生活型別の出現個体数(m<sup>2</sup>あたり)について着目すると(図6.3.1-33～図6.3.1-34参照)、土砂が堆砂する湖沼環境を反映して、いずれの調査についても掘潜型が優占する結果となっている。

表 6.3.1-15 優占種の推移:底生動物(最深部)

	夏季				冬季				早春			
	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標
H7	ユリミミズ	163	100%	ps	ユリミミズ	52	100%	ps	Limnodrilus属	52	100%	ps
H12	確認なし				確認なし				確認なし			
H17	確認なし				イトミミズ科	9	25%	ps	イトミミズ科	9	100%	-
					Einfeldia属	27	75%	-				
H20	Corbicula属	7	25%	-	未調査				イトミミズ科	37	100%	ps
	アカマダラカゲロウ	7	25%	m								
	Cheumatopsyche属	7	25%	-								
	Tanytarsus属	7	25%	-								

注) 上位3種までを計上している。また、個体数はm<sup>2</sup>あたりの個体数を示す。

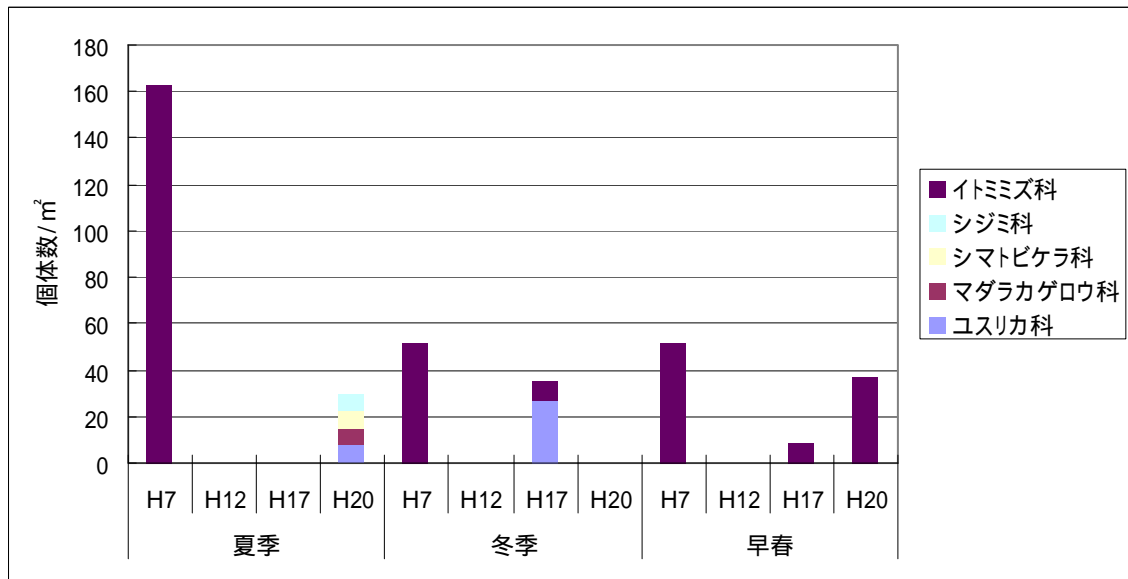


図 6.3.1-31 科別確認個体数の推移:底生動物(最深部)

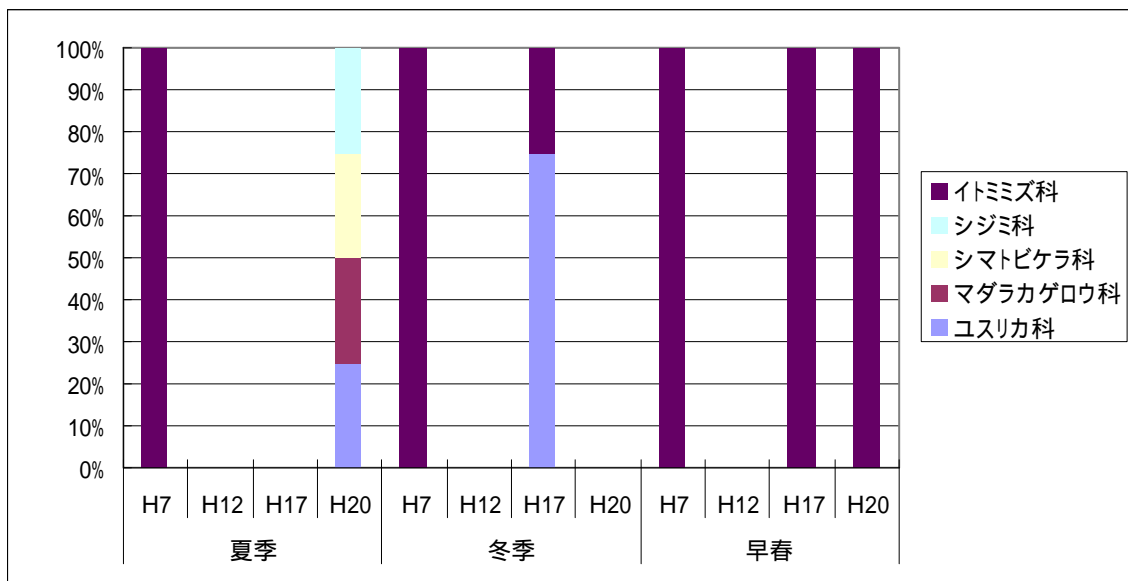


図 6.3.1-32 科別確認割合の推移:底生動物(最深部)

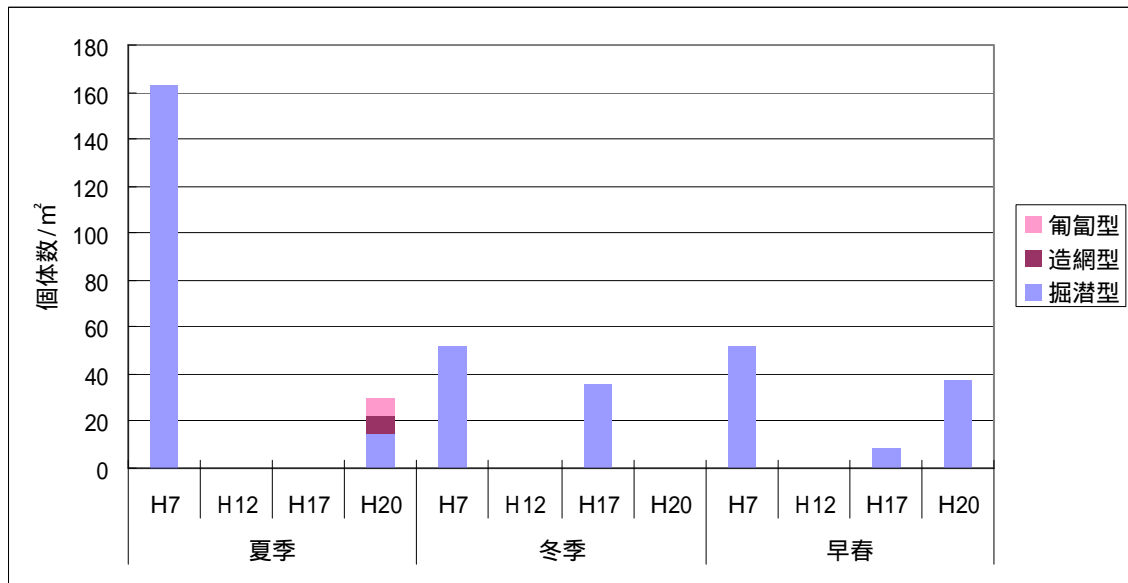


図 6.3.1-33 生活型別確認個体数の推移:底生動物(最深部)

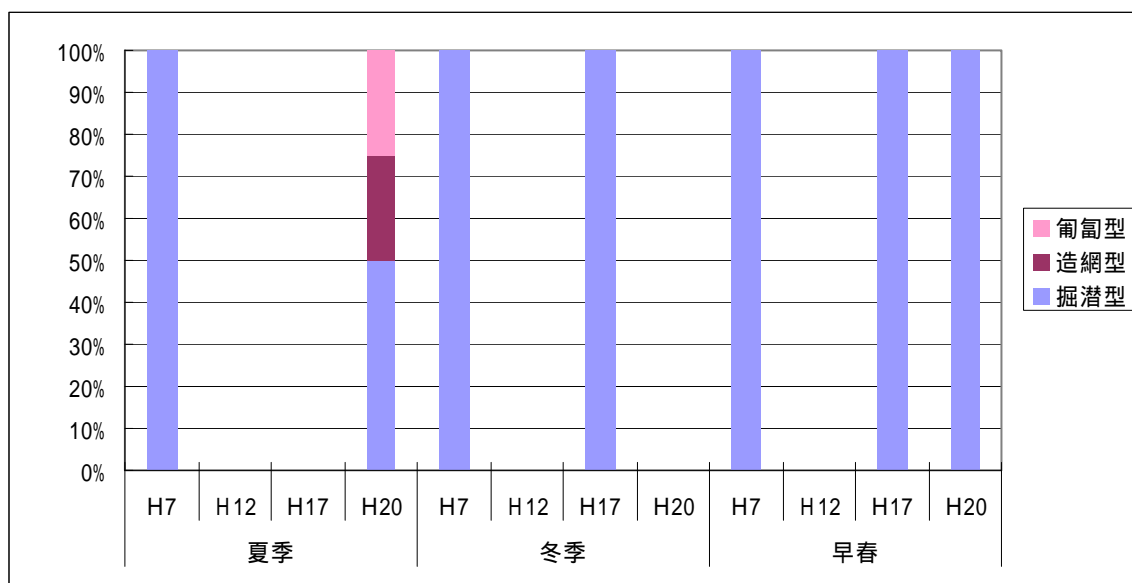


図 6.3.1-34 生活別確認割合の推移:底生動物(最深部)

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鉤着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

b)中央部(赤人橋)

中央部(赤人橋)における優占種(定量採集)の一覧は表 6.3.1-16、また定量採集調査の結果の推移は図 6.3.1-35～図 6.3.1-36 に示すとおりである。

生息量は概ね減少傾向にあり、平成 17 年度の冬季では、一時、無生物状態となっている。確認されている種は、ユリミズ等のイトミズ科や、Einfeldia 属等のユスリカ科であり、強腐水性種の確認割合が高い状態となっている。

なお、平成 20 年度は、平成 18 年度の調査地点の見直しにより、赤人橋地点を変更したために、調査は実施されなかった。

また、生活型別の出現個体数(m<sup>2</sup>あたり)について着目すると(図 6.3.1-37～図 6.3.1-38 参照)、土砂が堆砂する湖沼環境を反映して、いずれの調査についても掘潜型が優占する結果となっている。

表 6.3.1-16 優占種の推移:底生動物(中央部;赤人橋)

	夏季				冬季				早春			
	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標
H7	ユリミズ	1582	59%	ps	ユリミズ	326	54%	ps	ユリミズ	163	50%	ps
	Chironomus strenzkei	471	18%	ps	フチグロユスリカ	274	46%	-	Chironomus strenzkei	111	34%	ps
	Procladius 属 PA	240	9%	ps					Polypedilum 属 PE	52	16%	-
	イトミズ	240	9%	-								
H12	イトミズ科	89	92%	ps	Glyptotendipes 属	96	34%	-	Paratendipes 属 PB	59	50%	-
	Chironomus 属	7	8%	ps	イトミズ科	59	21%	ps	ユスリカ亜科	59	50%	-
					Chironomus 属	44	16%	ps				
					Polypedilum 属	44	16%	-				
H17	エラミズ	9	100%	ps	確認なし				Einfeldia 属	293	70%	-
									Chironomus 属	62	15%	ps
									イトミズ科	36	9%	ps

注)上位 3 種までを計上している。また、個体数は m<sup>2</sup>あたりの個体数を示す。

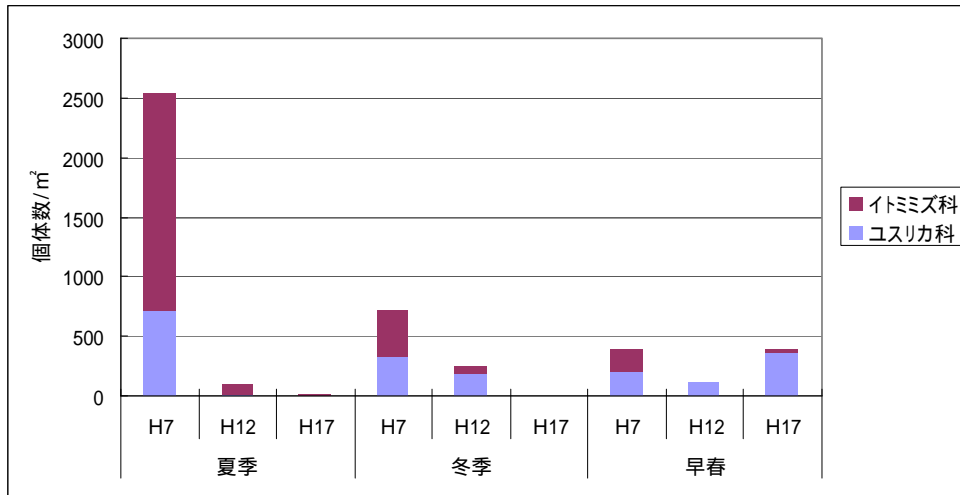


図 6.3.1-35 科別確認個体数の推移:底生動物(中央部;赤人橋)

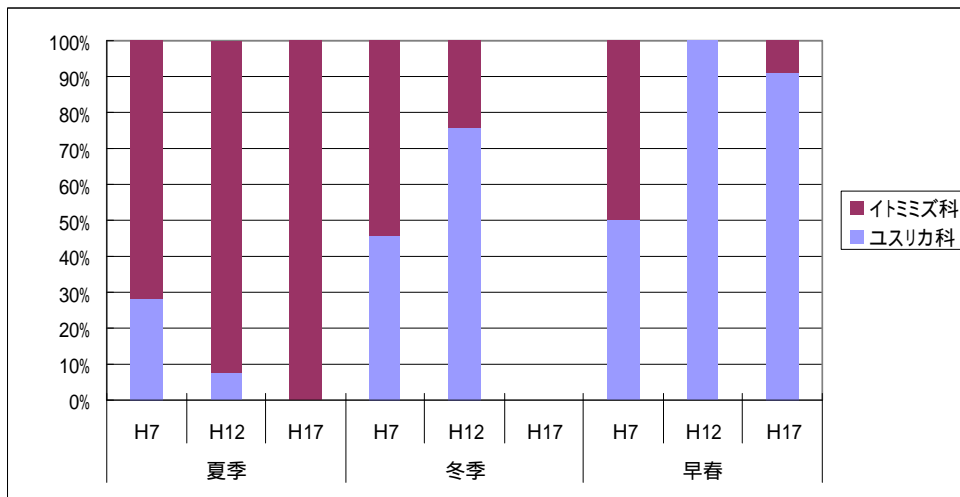


図 6.3.1-36 科別確認割合の推移:底生動物(中央部;赤人橋)

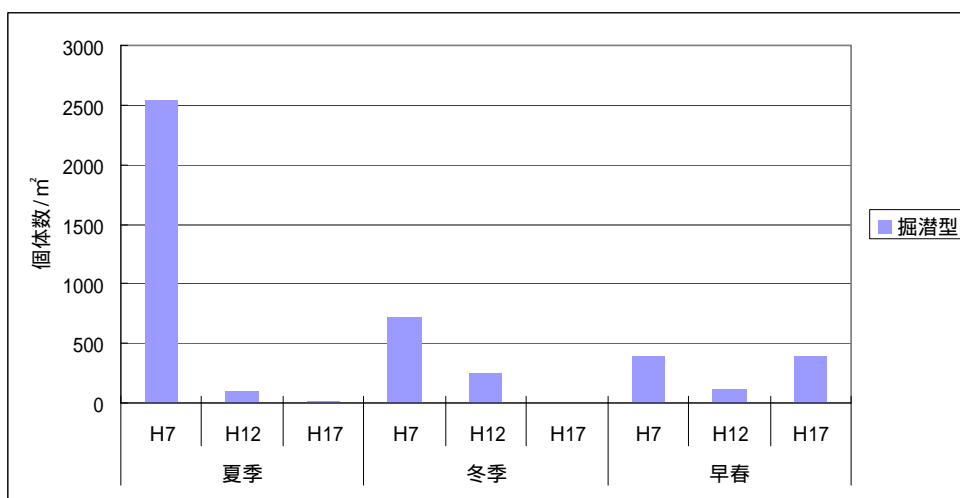


図 6.3.1-37 生活型別確認個体数の推移:底生動物(中央部;赤人橋)



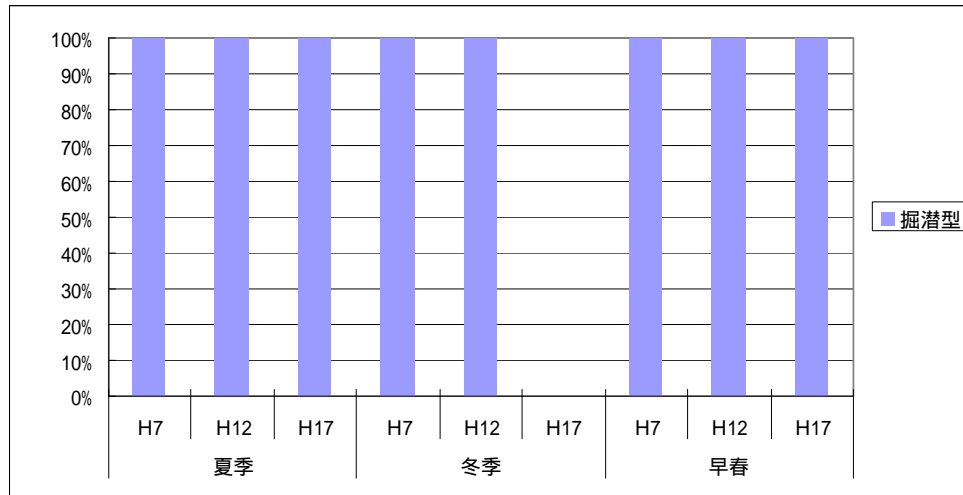


図 6.3.1-38 生活型別確認割合の推移:底生動物(中央部;赤人橋)

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鉤着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

c)水質保全ダム

水質保全ダムにおける優占種(定量採集)の一覧は表 6.3.1-17、また定量採集調査の結果の推移は図 6.3.1-39～図 6.3.1-40 に示すとおりである。

調査は平成 20 年度のみとなっているが、夏季、早春季ともに生息量は少ない状況にある。

また、生活型別の出現個体数(㎡あたり)について着目すると(図 6.3.1-41～図 6.3.1-42 参照)、土砂が堆砂する湖沼環境を反映して、いずれの調査についても掘潜型が優占する結果となっている。

表 6.3.1-17 優占種の推移:底生動物(水質保全ダム)

	夏季				冬季				早春			
	種名(和名)	個体数	割合	指標	種名(和名)	個体数	割合	指標	種名(和名)	個体数	割合	指標
H20	イトミミズ科	30	81%	-	未調査				Limnodrilus 属	15	68%	-
	コヤマトシボ	7	19%	m					Tanytarsus 属	7	32%	ps

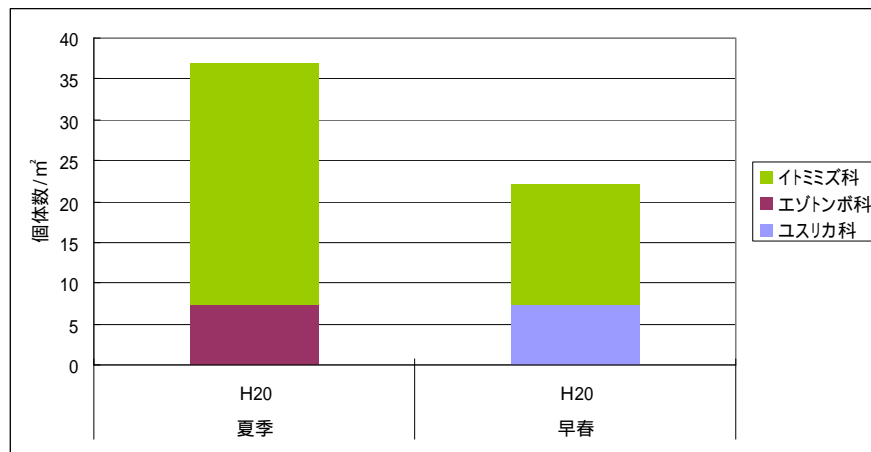


図 6.3.1-39 科別確認個体数の推移:底生動物(水質保全ダム)

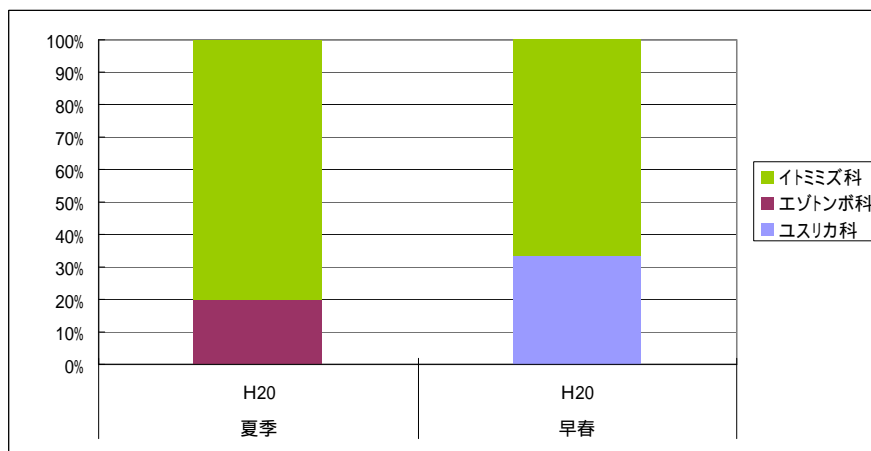


図 6.3.1-40 科別確認割合の推移:底生動物(水質保全ダム)

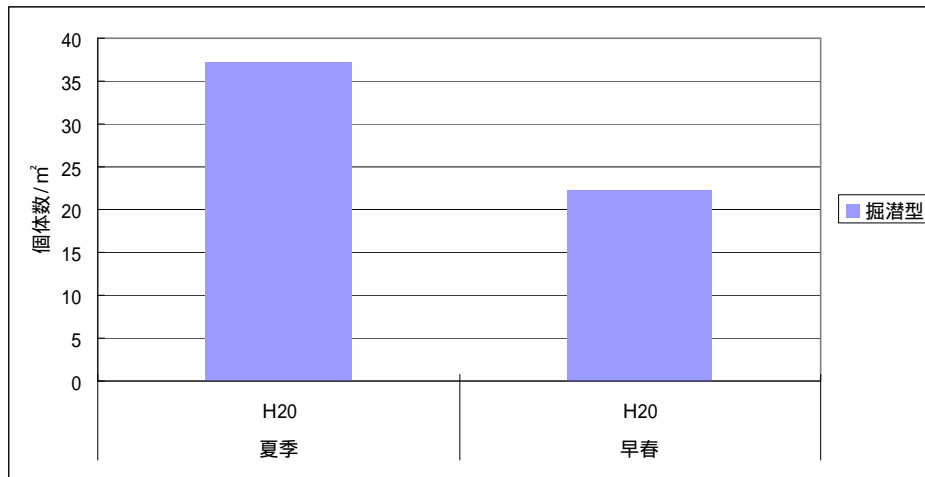


図 6.3.1-41 生活型別確認個体数の推移:底生動物(水質保全ダム)

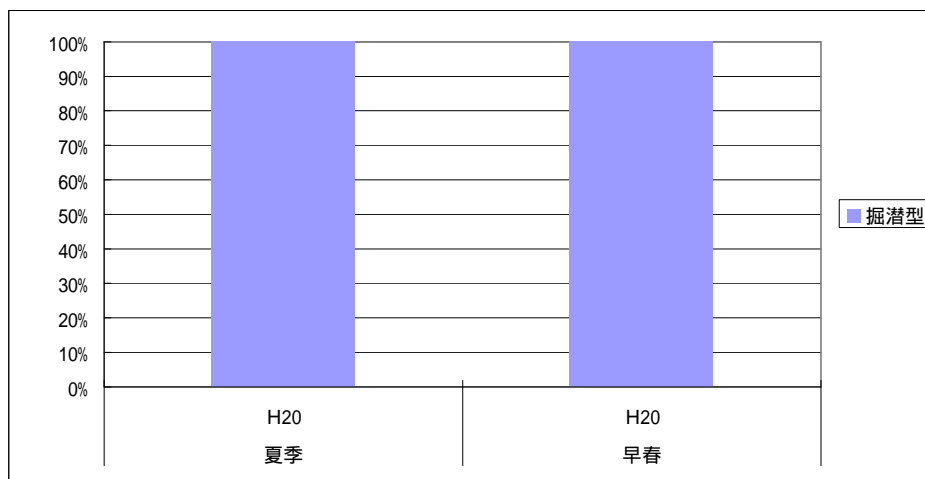


図 6.3.1-42 生活型別確認割合の推移:底生動物(水質保全ダム)

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鉤着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

(c)ダム湖湖岸の底生動物の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖湖岸で確認された底生動物(定性採集)の綱目別種数表は表 6.3.1-18、またその推移は 図 6.3.1-43～図 6.3.1-44 に示すとおりである。なお、平成 5 年度調査については、定量調査のみの結果であることから、平成 7 年度から平成 20 年度までに実施している 4 回の調査結果について整理することとした。

ダム湖湖岸の底生動物については、ハエ目を中心として、カゲロウ目やトンボ目、コウチュウ目、ナガミズ目等が確認されている。また、確認種数についてみると、平成7年度から平成12年度にかけては26種から69種へと増加傾向にあったが、平成17年度については44種、平成20年度では35種と減少する結果となっている。

また、この種数の増減について、分類群に着目して推移をみると、確認種数が最も多い平成12年度では、カゲロウ目やトンボ目、ハエ目といった分類群の出現種数が多い状況にあり、その多くは流水性種で占められている。

表 6.3.1-18 経年分類群別確認種数一覧:ダム湖湖岸の底生動物

綱名	目名	H7		H12		H17		H20		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
マキガイ	ニナ	2	2	2	2	1	1			2	3
	モノアラガイ			1	1			1	1	2	2
ミミズ	オヨギミミズ					1	1			1	1
	ナガミミズ	1	1	4	4	3	3	3	3	4	9
ヒル	ノドビル							1	1	1	1
甲殻	ワラジムシ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	エビ	2	2	3	4	1	2	2	3	3	4
昆虫	カゲロウ	2	2	8	15	2	2	6	7	10	20
	トンボ	4	6	7	13	5	7	3	7	7	21
	カワゲラ			3	3	2	2			3	5
	カメムシ			2	4	5	7	2	2	5	8
	アミメカゲロウ			2	2					2	2
	トビケラ			3	4	1	1			4	5
	ハエ	1	12	4	12	3	11	1	10	5	36
コウチュウ			3	4	2	6			3	9	
5綱 15目 53科 111種		13科	26種	43科	69種	27科	44種	20科	35種	53科	111種

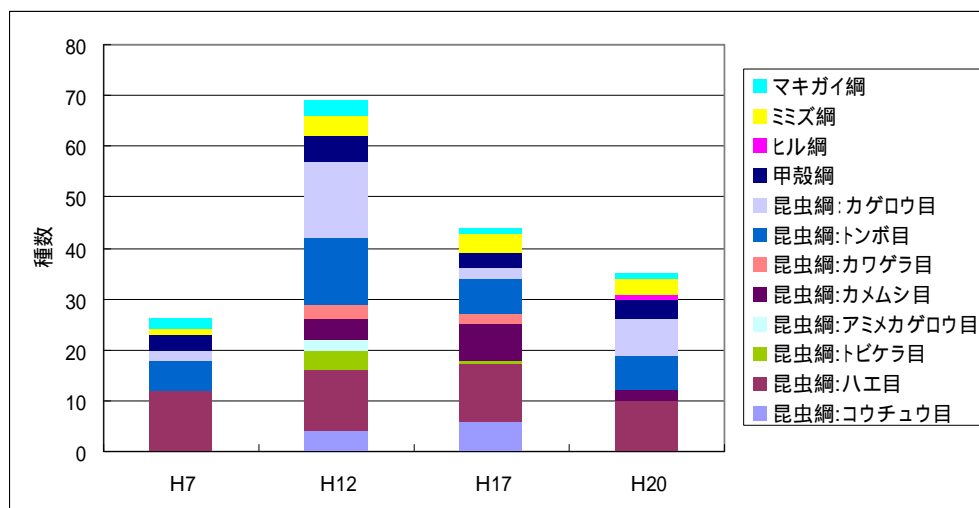


図 6.3.1-43 分類群別確認種数の推移:ダム湖湖岸の底生動物

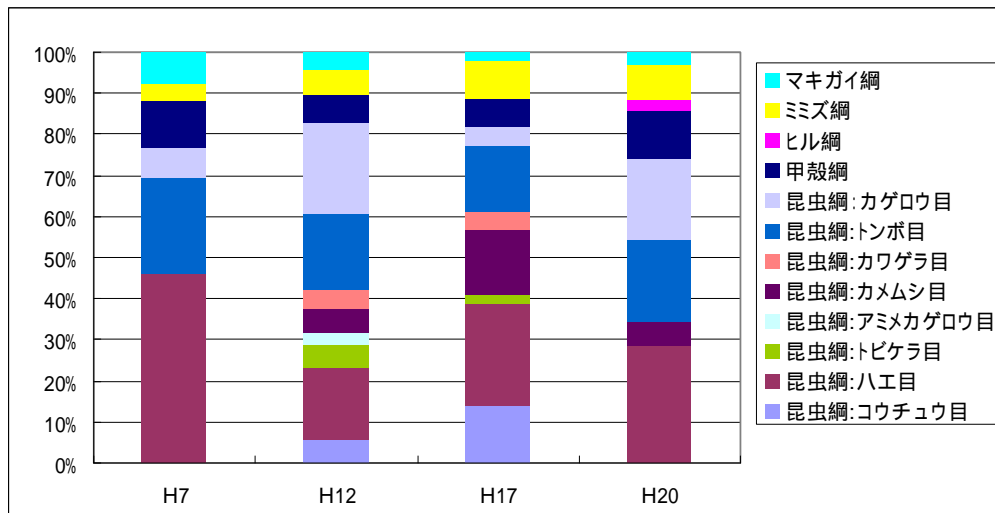


図 6.3.1-44 分類群別確認割合の推移:ダム湖湖岸の底生動物

(d)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された重要種の一覧は表 6.3.1-19 に示すとおりである。

ダム湖内における重要種については、平成 7 年度にオオタニシが 4 個体、平成 17 年度にコオイムシ 2 個体、平成 20 年度にホンサナエが 8 個体、アオサナエが 3 個体確認されているが、平成 5 年度、平成 12 年度では重要種は確認されていない。

表 6.3.1-19 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度				
			1	2	3	4	H5	H7	H12	H17	H20
1	タニシ	オオタニシ			NT			4			
2	サナエトンボ	ホンサナエ				希少					8
3		アオサナエ				希少					3
4	コオイムシ	コオイムシ			NT					2	
3科4種			0種	0種	2種	2種	0種	1種	0種	1種	2種

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

(e)外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された外来種の一覧は表 6.3.1-20 に示すとおりである。

ダム湖内における外来種については、平成 12 年度にサカマキガイが 1 個体、アメリカザリガニが 1 個体、平成 20 年度にコシダカヒメモノアラガイが 1 個体確認されているが、平成 5 年度、平成 7 年度、平成 17 年度では外来種は確認されていない。

表 6.3.1-20 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H5	H7	H12	H17	H20
1	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ							1
2	サカマキガイ	サカマキガイ					1		
3	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	要注意				1		
3科3種			1種	3種	0種	0種	2種	0種	1種

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

### 3)動植物プランクトン

ダム湖内における動植物プランクトンの調査は、これまでに計4回実施されている。調査地点数については、いずれの調査回も3地点で実施しているが、調査地点については、平成5年度と平成11年度・平成16年度で若干異なっている。また、調査時期については、4回/年実施されている。なお、各調査年度におけるダム湖内の調査数量、及び調査時期の詳細については、表6.3.1-21に示すとおりである。

また、調査実施時におけるダム湖内の水位は、図6.3.1-45～図6.3.1-48に示すとおり、春季及び冬季における水位は高く、夏季及び秋季では、水域が低くなる傾向は、各調査実施年度ともに概ね同様の傾向を示している。

表 6.3.1-21 調査内容一覧:動植物プランクトン

調査年度		H5	H11	H16	H18	
調査番号		2	8	15	19	
調査地点	区分	下流河川	放水口	No.1	No1(放水口)	
	ダム湖内	網場,湖心,県取水口	No.2,No.3,No.4,	No.2(網場),No.3(湖心),No.4(赤人橋)	淀室湖-1	
	流入河川	天満川,内牧川,高倉橋	No.5,No.6,No.7	No.5(天満川),No.6(内牧川),No.7(宇陀川)	-	
植物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19～20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18～19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18～19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6
動物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19～20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18～19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18～19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6

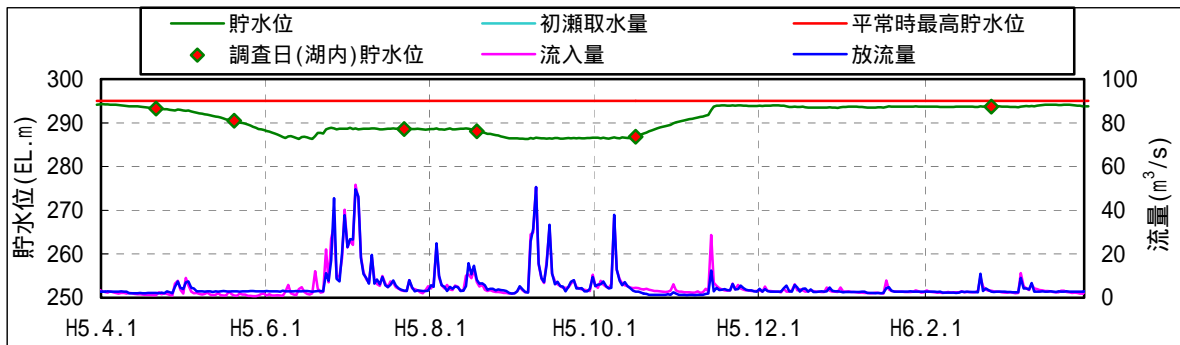


図 6.3.1-45 調査実施時の流況(平成 5 年度)

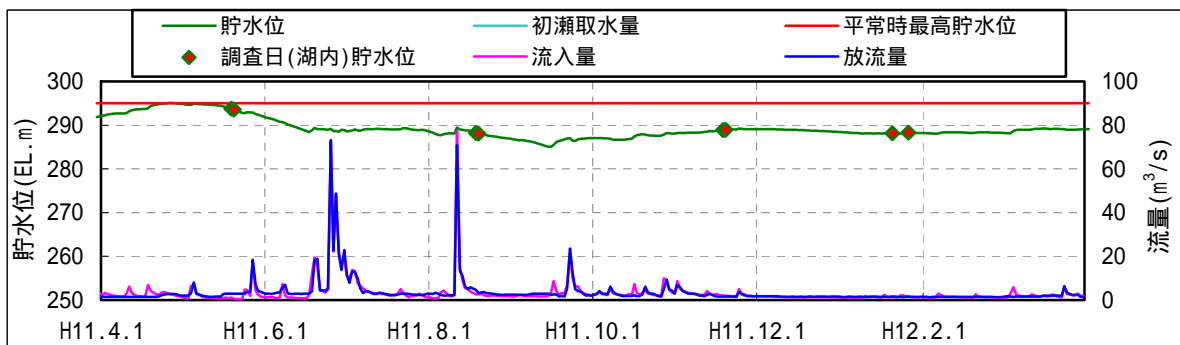


図 6.3.1-46 調査実施時の流況(平成 11 年度)

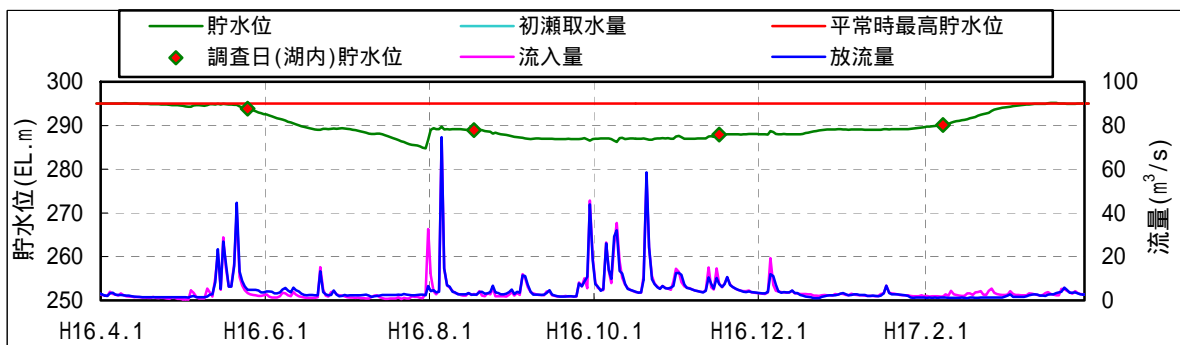


図 6.3.1-47 調査実施時の流況(平成 16 年度)

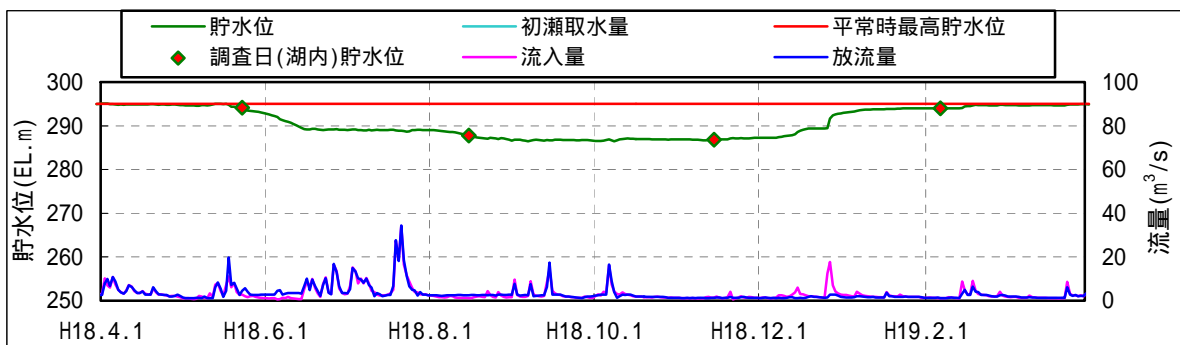


図 6.3.1-48 調査実施時の流況(平成 18 年度)

(a)植物プランクトン

a)植物プランクトン相および優占種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された植物プランクトンの優占種の一覧は表 6.3.1-22、またその推移については図 6.3.1-49～図 6.3.1-50 に示すとおりである。

各調査年度で確認された植物プランクトンの総個体数は、平成 5 年度で約 83,000,000 個体、平成 11 年度で約 155,000,000 個体、平成 16 年度で約 60,000,000 個体、平成 18 年度で約 62,000,000 個体となった。優占した綱及び種は、平成 5 年度は藍藻類の *Microcystis aeruginosa*、平成 11 年度は珪藻類の *Aulacoseira distans*、平成 16 年度は藍藻類の *Microcystis aeruginosa*、平成 18 年度は藍藻類の *Microcystis wesenbergii* であった。

平成 5 年度、平成 16 年度で優占種となった *Microcystis aeruginosa*(藍藻類)は、悪臭や毒を形成するいわゆるアオコの一種である。その発生時期は夏季に最も多く確認されている。平成 11 年度で優占種となった *Aulacoseira distans*(珪藻類)は、秋季及び冬季に多数確認されている。

表 6.3.1-22 優占種の推移:植物プランクトン

H5				H11			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Microcystis aeruginosa</i>	藍藻	14,192,000	25.7	<i>Aulacoseira distans</i>	珪藻	47,801,000	33.7
<i>Aulacoseira italica</i>	珪藻	6,524,000	11.8	<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	18,624,000	13.1
<i>Carteria globulosa</i>	緑藻	5,243,000	9.5	<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	15,507,000	10.9
<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	4,687,000	8.5	<i>Aphanocapsa sp.</i>	藍藻	10,944,000	7.7
<i>Cyclotella sp.</i>	珪藻	4,118,000	7.5	<i>Cyclotella meneghiniana</i>	珪藻	8,416,000	5.9
<i>Anabaena sp.</i>	藍藻	3,964,000	7.2	<i>Fragilaria crotonensis</i>	珪藻	6,289,000	4.4
<i>Cyclotella meneghiniana</i>	珪藻	2,510,000	4.5	<i>Crucigenia tetrapedia</i>	緑藻	5,781,000	4.1
<i>Coelastrum cambricum</i>	緑藻	1,680,000	3.0	<i>Coelastrum microporum</i>	緑藻	4,560,000	3.2
<i>Cryptomonas sp.</i>	クリプト藻	1,484,000	2.7	<i>Cryptomonas sp.</i>	クリプト藻	2,851,000	2.0
<i>Raphidiopsis sp.</i>	藍藻	1,483,000	2.7	<i>Aulacoseira italica</i>	珪藻	2,207,000	1.6
<i>Aulacoseira distans</i>	珪藻	1,375,000	2.5	<i>Phormidium tenue</i>	藍藻	2,203,000	1.6
<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	1,243,000	2.3	<i>Scenedesmus ecornis</i>	緑藻	1,761,000	1.2
<i>Cyclotella stelligera</i>	珪藻	718,000	1.3	<i>Eudorina elegans</i>	緑藻	1,736,000	1.2
<i>Chlamydomonas sp.</i>	緑藻	707,000	1.3	<i>Pediastrum simplex</i>	緑藻	1,673,000	1.2
<i>Aphanocapsa sp.</i>	藍藻	675,000	1.2				
<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	648,000	1.2				
H16				H18			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Microcystis aeruginosa</i>	藍藻	35,115,700	57.1	<i>Microcystis wesenbergii</i>	藍藻	15,300,000	24.6
<i>Synura uvella</i>	黄金色藻	10,038,100	16.3	<i>Fragilaria crotonensis</i>	珪藻	9,239,000	14.8
<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	4,801,950	7.8	<i>Microcystis aeruginosa</i>	藍藻	8,700,000	14.0
<i>Microcystis wesenbergii</i>	藍藻	1,965,000	3.2	<i>Chlamydocapsa gigas</i>	緑藻	6,561,000	10.5
<i>Eudorina elegans</i>	緑藻	1,611,300	2.6	<i>Aphanocapsa elachista</i>	藍藻	6,120,000	9.8
<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	1,336,300	2.2	<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	3,065,000	4.9
<i>Volvox aureus</i>	緑藻	1,269,000	2.1	<i>Eudorina elegans</i>	緑藻	2,928,000	4.7
<i>Cryptomonas ovata</i>	クリプト藻	1,228,200	2.0	<i>Cryptomonas ovata</i>	クリプト藻	2,824,000	4.5
<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	686,850	1.1	<i>Volvox aureus</i>	緑藻	1,800,000	2.9
				<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	1,793,000	2.9
				<i>Ceratium hirundinella</i>	渦鞭毛藻	924,000	1.5
				<i>Aulacoseira distans</i>	珪藻	650,000	1.0
				<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	636,000	1.0

注)1.表中の種は、確認割合 1.0%以上の種を示した。



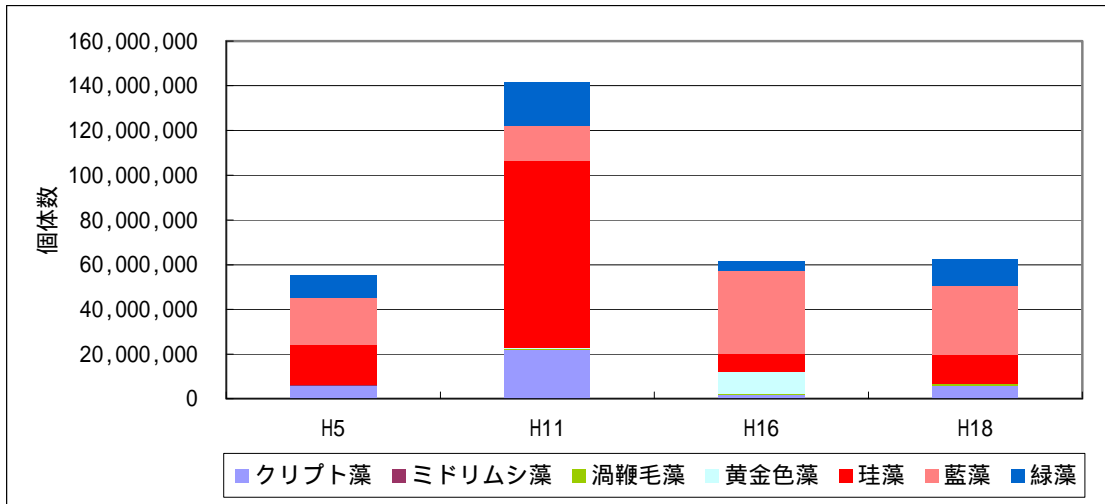


図 6.3.1-49 網別確認個体数の推移:植物プランクトン

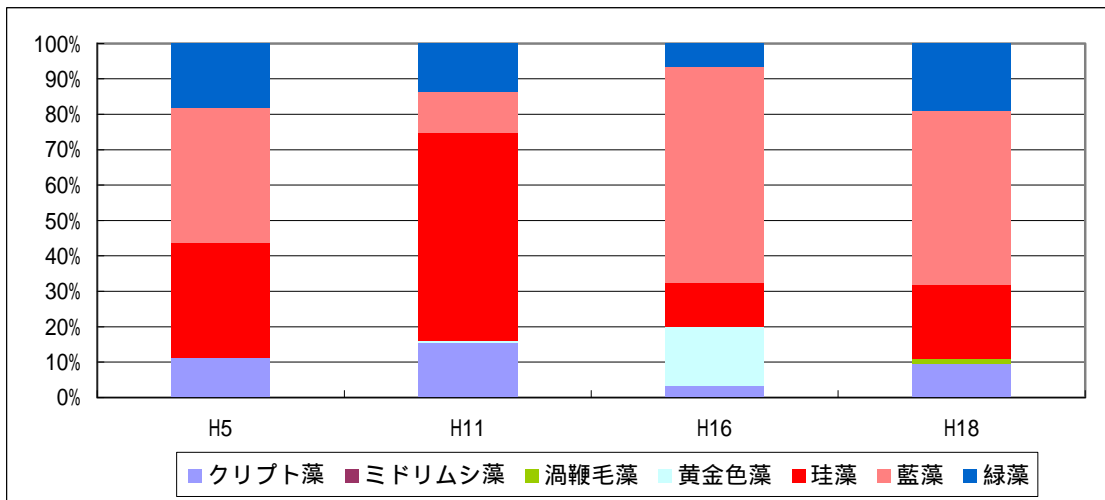


図 6.3.1-50 網別確認割合の推移:植物プランクトン

(b)動物プランクトン

a)動物プランクトン相および優占種の変化の整理

ダム湖内及びその周辺で確認された動物プランクトンの優占種の一覧は表 6.3.1-23、またその推移については図 6.3.1-51～図 6.3.1-52 に示すとおりである。

各調査年度で確認された動物プランクトンの総個体数は、平成 5 年度で約 700,000 個体、平成 11 年度で約 80,000,000 個体、平成 16 年度で約 57,660,000 個体、平成 18 年度で約 189,740 個体となった。優占した門及び種は、平成 5 年度は繊毛虫の *Epistylis sp.*、平成 11 年度は繊毛虫の *Strombidium viride*、平成 16 年度は繊毛虫の *Tintinnidium fluviatile*、平成 18 年度は節足動物の *Copepoda* となった。

平成 5 年度で優占種となった *Epistylis sp.* は、初夏から秋季にかけて増加することが知られている。

表 6.3.1-23 優占種の推移:動物プランクトン

H5				H11			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Epistylis sp.</i>	繊毛虫	153917	26.8	<i>Strombidium viride</i>	繊毛虫	26840094	33.7
<i>Copepoda</i>	節足動物	135494	23.6	<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>	輪形動物	15217823	19.1
<i>Keratella cochlearis f. macracantha</i>	輪形動物	86552	15.1	<i>Epistylis sp.</i>	繊毛虫	12792093	16.1
<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>	輪形動物	70369	12.3	<i>Tintinnidium fluviatile</i>	繊毛虫	5697172	7.2
<i>Diurella stylata</i>	輪形動物	31269	5.4	<i>Codonella cratera</i>	繊毛虫	2940861	3.7
<i>Arcella vulgaris</i>	肉質鞭毛虫	20000	3.5	<i>Paradileptus sp.</i>	繊毛虫	2630325	3.3
<i>Bosminopsis deitersi</i>	節足動物	16213	2.8	<i>Copepoda</i>	節足動物	1960719	2.5
<i>Keratella quadrata quadrata</i>	輪形動物	10057	1.8	<i>CILIOPHORA</i>	繊毛虫	1218197	1.5
<i>Monostyla lunaris</i>	輪形動物	10000	1.7	<i>Conochilus unicornis</i>	輪形動物	1060409	1.3
<i>Synchaeta sp.</i>	輪形動物	9788	1.7	<i>Leucophrydium putrinum</i>	繊毛虫	1032500	1.3
<i>Bosmina longirostris</i>	節足動物	8612	1.5	<i>Asplanchna priodonta</i>	輪形動物	984612	1.2
<i>Kellicottia longispina longispina</i>	輪形動物	6634	1.2	<i>Diurella stylata</i>	輪形動物	975770	1.2
H16				H18			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Tintinnidium fluviatile</i>	繊毛虫	2E+07	36.9	<i>Copepoda</i>	節足動物	27722	14.6
<i>Codonella cratera</i>	繊毛虫	2E+07	32.3	<i>Codonella cratera</i>	繊毛虫	27600	14.5
<i>Carchesium sp.</i>	繊毛虫	3E+06	6.3	<i>Asplanchna priodonta</i>	輪形動物	23856	12.6
<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>	輪形動物	3E+06	5.8	<i>Tintinnidium fluviatile</i>	繊毛虫	22526	11.9
<i>Carchesium polypinum</i>	繊毛虫	2E+06	3.8	<i>Synchaeta stylata</i>	輪形動物	17249	9.1
<i>Copepoda</i>	節足動物	2E+06	3.7	<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>	輪形動物	12987	6.8
<i>Synchaeta stylata</i>	輪形動物	1E+06	2.3	<i>Carchesium sp.</i>	繊毛虫	12500	6.6
<i>Conochilus unicornis</i>	輪形動物	1E+06	1.9	<i>Kellicottia longispina longispina</i>	輪形動物	8747	4.6
<i>Kellicottia longispina longispina</i>	輪形動物	701133	1.3	<i>Strombidium viride</i>	繊毛虫	6250	3.3
<i>Bosmina longirostris</i>	節足動物	565380	1.0	<i>Ceriodaphnia quadrangula</i>	節足動物	5715	3.0
				<i>Trichocerca capucina</i>	輪形動物	4491	2.4
				<i>Daphnia hyalina</i>	節足動物	4330	2.3
				<i>Cyclopoida</i>	節足動物	3643	1.9
				<i>Bosmina longirostris</i>	節足動物	3432	1.8
				<i>Conochilus unicornis</i>	輪形動物	2539	1.3
				<i>Ploesoma truncatum</i>	輪形動物	2516	1.3

注)1.表中の種は、確認割合 1.0%以上の種を示した。

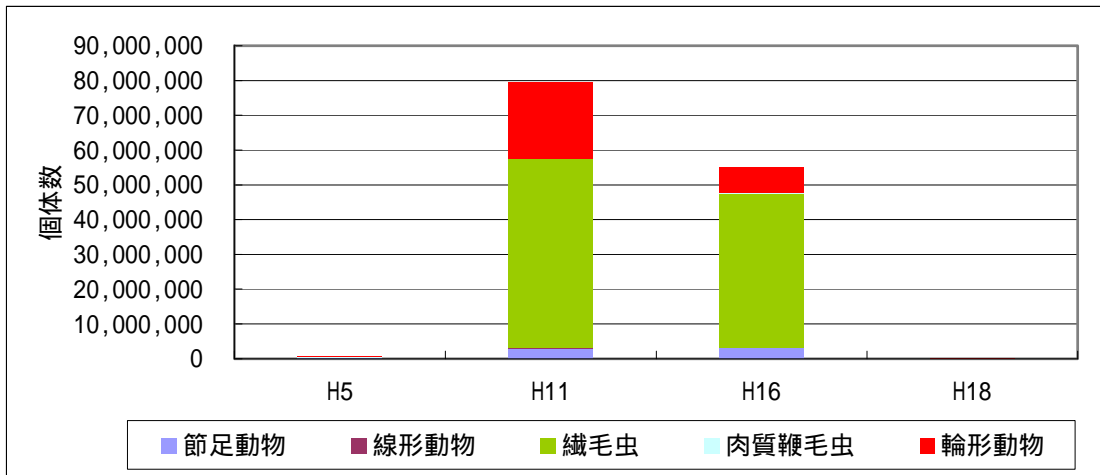


図 6.3.1-51 門別確認個体数の推移:動物プランクトン

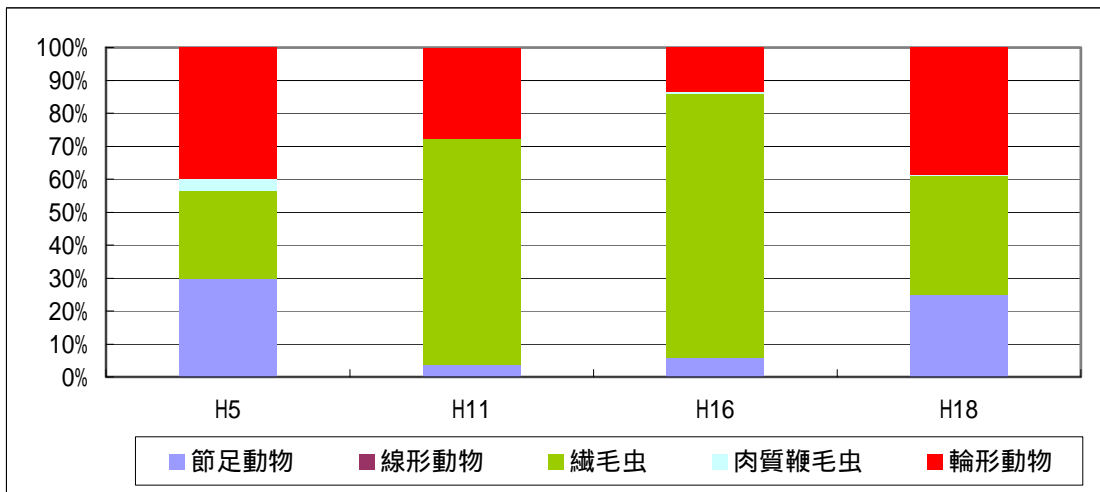


図 6.3.1-52 門別確認割合の推移:動物プランクトン

#### 4)鳥類

ダム湖内における鳥類の調査は、これまでに計4回実施されているが、調査年度によって、調査手法及び調査地点等が若干異なっている。

なお、調査手法については、平成5年度及び平成9年度は、ラインセンサス法及び定点観察法を中心とした調査を実施しているが、平成14年度ではこれらに加えて、環境に応じた確認調査(ラインセンサス法+定位確認法)が追加され、平成19年度ではラインセンサス法+スポットセンサス法、スポットセンサス法、定点センサス法、船上センサス法など、それぞれの調査対象種群に対して、効果的な調査手法となっている。

以上のように、鳥類調査については、調査手法及び調査地点等が変化していることから、変化の整理にあたっては、各年度の全調査日の累積確認数を比較し、その推移を整理することとした。なお、調査手法及び調査地点等の調査については、表6.3.1-24に示すとおりである。

表 6.3.1-24 調査内容一覧:鳥類

調査年度		H5	H9	H14	H18・19	
調査番号		2	6	12	18	
調査地点	区分	下流河川	-	-	ラインセンサス(5-1)	スポットセンサス(淀室下1)
		ダム湖内	定点記録(P1~P3)	定点記録(P1~P3)	定点記録(P-1~P-3)	船上センサス(淀室湖8)
		流入河川	-	-	ラインセンサス(5-2)	スポットセンサス(淀室入3)
		ダム湖周辺	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+定位記録法(1,2,3,6) ラインセンサス(4-1,4-2) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+スポットセンサス(淀室周1~淀室周3) 定点センサス(淀室周4,淀室周5) 夜間調査、移動中
ラインセンサス	調査数量	7.2km (2回×1~2日)	7.2km (2回×1日)	3.9km (2回×2~3日)	-	
	調査時期	春季	H5.5.28	H9.5.8	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.11	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.8	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.27	H15.1.28、30	-
ラインセンサス + スポットセンサス	調査数量	-	-	-	センサス2.1km+スポット9地点 (スポット1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
スポットセンサス	調査数量	-	-	-	9地点(1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
環境に応じた確認 ラインセンサス法 + 定位記録法	調査数量	-	-	1.3km+80分	-	
	調査時期	春季	-	-	H14.5.8~10	-
		夏季	-	-	H14.6.13~14	-
		秋季	-	-	H14.10.8~9	-
		冬季	-	-	H15.1.28、30	-
定点センサス	調査数量	-	-	-	1箇所30分	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
定位記録法	調査数量	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	-	
	調査時期	春季	H5.5.28~29	H9.5.7	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.12	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.9	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.26	H15.1.28~30	-
船上センサス	調査数量	-	-	-	2人×1日(80~85分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.12
		冬季	-	-	-	H19.1.30
夜間	調査数量	2人×1日	2人×1日	2人×1日	3人×1日(180分)	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.15
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.10
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.29
移動中の確認	調査数量	3人×1日	3人×1日	2人×2日	2人×2日	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.16~17
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.22~23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.12~13
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.30~31

(a)鳥類相の変化の整理

これまでの調査においてダム湖内で確認された鳥類(水辺に生息する種)の一覧を 表 6.3.1-25 に示す。ダム湖を利用していた鳥類としては、これまでの調査において、カイツブリ科、ウ科、サギ科、カモ科、クイナ科、チドリ科、シギ科、カワセミ科の 8 科 25 種が確認されている。

これらの鳥類は、ダム湖の利用形態において、主にダム湖水面(開放水面)を利用する種と、湖岸を利用する種があることから、利用形態毎に鳥類相の変化を整理した。

表 6.3.1-25 経年確認種一覧:鳥類(水辺に生息する種)

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度					
				H5	H9	H14	H18・19		
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	12	9	8	7		
2			アカエリカイツブリ	1					
3	ペリカン	ウ	カワウ	52	21	54	56		
4		サギ	ゴイサギ	3	9	12	3		
5			ササゴイ	4	1				
6			アマサギ			14			
7			ダイサギ			1	2		
8			チュウサギ	1					
9			コサギ	1		2			
10			アオサギ	45	16	15	5		
11			カモ	カモ	オシドリ	23	13	14	2
12					マガモ	73	66	30	77
13	カルガモ				37	25	54		
14	コガモ	9			5	2			
15	ヒドリガモ				32				
16	カワアイサ						1		
17	ツル	クイナ	バン	1					
18	チドリ	チドリ	コチドリ			2			
19			イカルチドリ			5			
20			ケリ	2					
21		シギ	キアシシギ				5		
22			イソシギ			1			
23			オオジシギ		1				
24	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	9	11	5	2		
25			カワセミ	4	4	7			
6目8科25種				15種	13種	16種	11種		
				240 個体	225 個体	197 個体	214 個体		

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認数を示している。

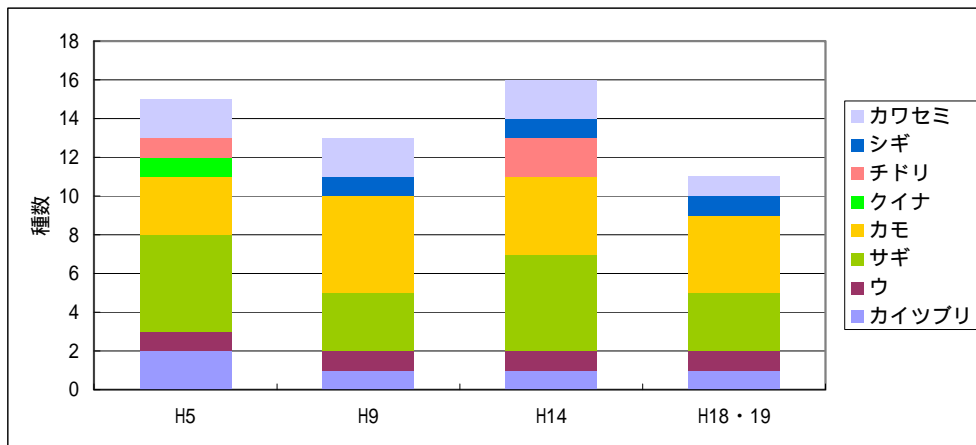


図 6.3.1-53 科別確認種数の推移:鳥類(水辺に生息する種)

a)主にダム湖水面を利用する鳥類の変化の整理

これまでの調査において確認されたダム湖水面を利用する種の一覧は表 6.3.1-26、またその推移は図 6.3.1-54～図 6.3.1-56 に示すとおりである。

主にダム湖水面を利用している種としては、カイツブリ、カワウ、オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ等が確認されており、このうち、カイツブリ、カワウ、オシドリ、マガモについては継続的に確認されている。一方、アカエリカイツブリ、バンは平成 5 年度に確認された以降は確認されておらず、ヒドリガモは平成 9 年度のみ確認である。このほか、カワアイサが平成 18・19 年度に新たに確認されている。

確認種数は 6～7 種であり各年度間での変動は少なく、安定している。総個体数は、平成 14 年度に減少しているものの、平成 18・19 年度には増加しており、年変動はあるが減少傾向はみられなかった。

表 6.3.1-26 経年確認種一覧:主にダム湖水面を利用する種

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H9	H14	H18・19
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	12	9	8	7
2			アカエリカイツブリ	1			
3	ペリカン	ウ	カワウ	52	21	54	56
4	カモ	カモ	オシドリ	23	13	14	2
5			マガモ	73	66	30	77
6			カルガモ		37	25	54
7			コガモ	9	5	2	
8			ヒドリガモ		32		
9			カワアイサ				1
10	ツル	クイナ	バン	1			
4目4科10種				7種	7種	6種	6種
				171 個体	183 個体	133 個体	197 個体

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認数を示している。

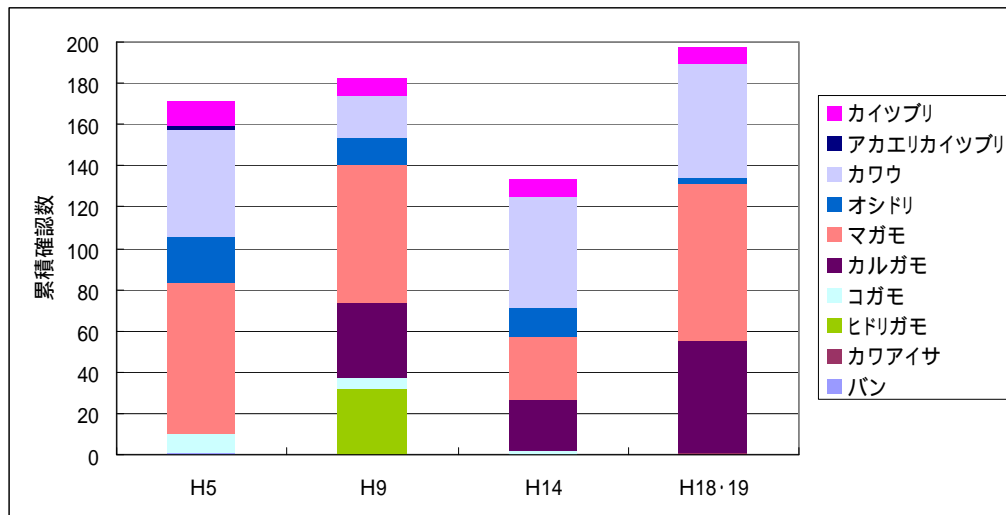


図 6.3.1-54 種別確認個体数の推移:主にダム湖水面を利用する鳥類

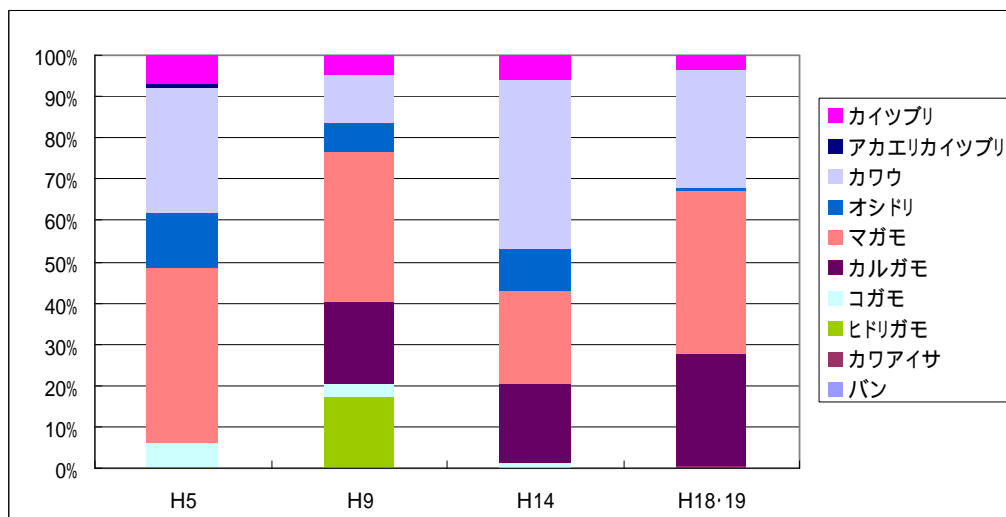


図 6.3.1-55 種別確認割合の推移:主にダム湖水面を利用する鳥類

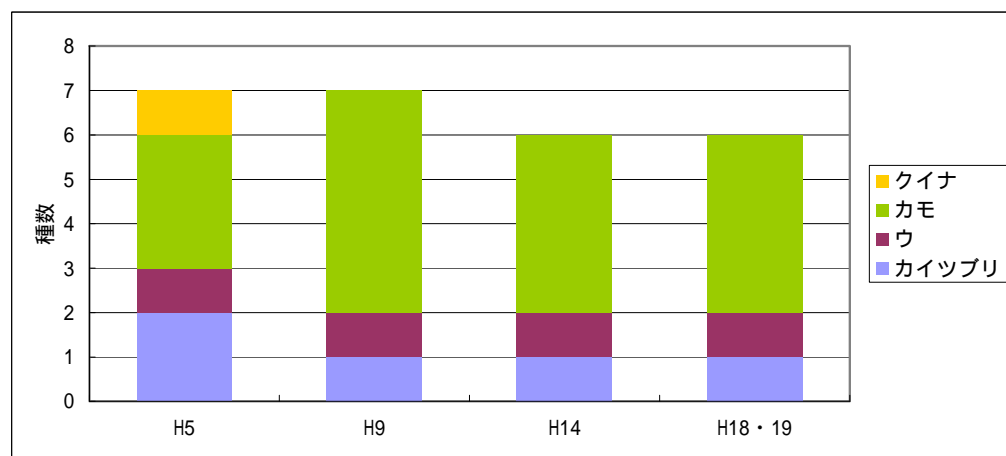


図 6.3.1-56 確認種数の推移:主にダム湖水面を利用する鳥類



b)主にダム湖湖岸を利用する鳥類の変化の整理

これまでの調査において確認されたダム湖湖岸部を利用する種の一覧は表 6.3.1-27、またその推移は図 6.3.1-57～図 6.3.1-59 に示すとおりである。

主にダム湖湖岸を生息場所として利用する種としては、ゴイサギやアオサギ等のサギ類のほか、シギ・チドリ類、ヤマセミ、カワセミ等が確認されており、このうち、ゴイサギ、アオサギ、ヤマセミの 3 種については継続的に確認されている。また、カワセミについては、平成 5 年度から平成 14 年度まで確認されている。このほかの種については、ばらつきがみられ、特にシギ・チドリ類については単年度の確認となっている。また、平成 18・19 年度については、確認種数・個体数ともに少ない状況にある。

表 6.3.1-27 経年確認種一覧:主にダム湖湖岸を利用する鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H9	H14	H18・19
1	コウノトリ	サギ	ゴイサギ	3	9	12	3
2			ササゴイ	4	1		
3			アマサギ			14	
4			ダイサギ			1	2
5			チュウサギ	1			
6			コサギ	1		2	
7			アオサギ	45	16	15	5
8	チドリ	チドリ	コチドリ			2	
9			イカルチドリ			5	
10			ケリ	2			
11		シギ	キアシシギ				5
12			イソシギ			1	
13			オオジシギ		1		
14	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	9	11	5	2
15			カワセミ	4	4	7	
3目4科15種				8種	6種	10種	5種
				69 個体	42 個体	64 個体	17 個体

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認個体数を示している。

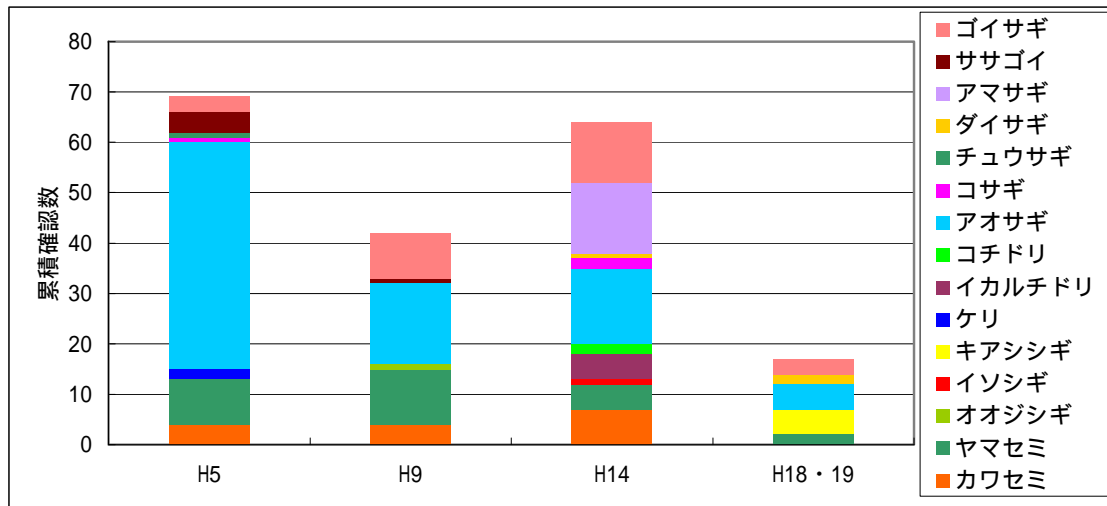


図 6.3.1-57 種別確認個体数の推移:主にダム湖湖岸を利用する鳥類

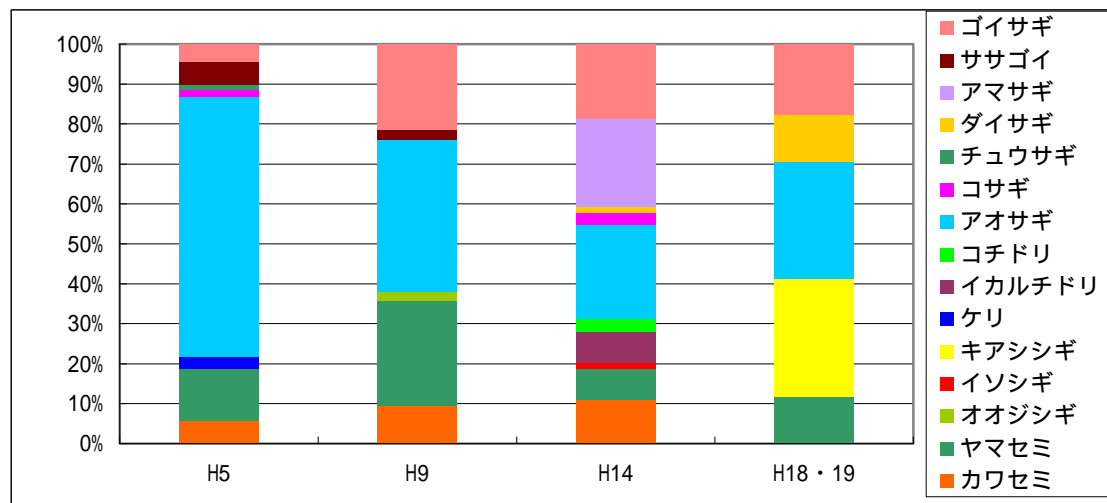


図 6.3.1-58 種別確認割合の推移:主にダム湖湖岸を利用する鳥類

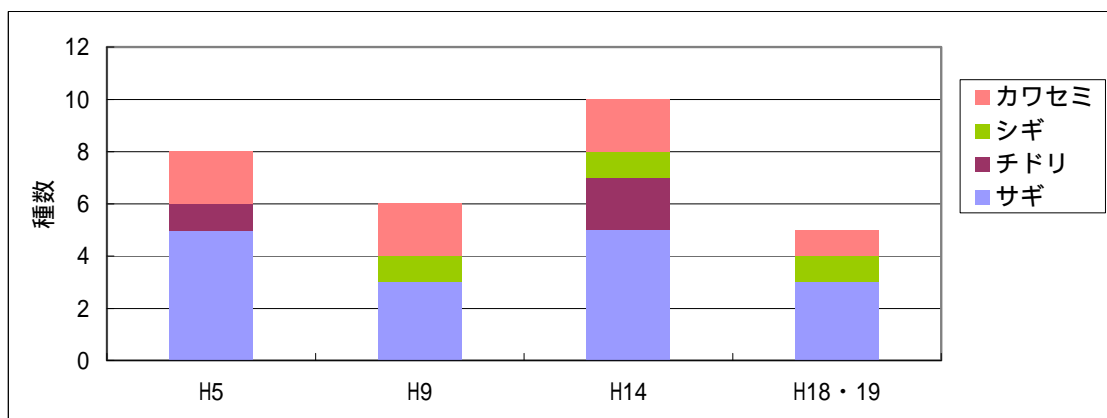


図 6.3.1-59 確認種数の推移:主にダム湖湖岸を利用する鳥類

(b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖内で確認された水辺に生息する種の重要種の一覧は表 6.3.1-28、またその推移は図 6.3.1-60～図 6.3.1-62 に示すとおりである。

ダム湖内における重要種の種数については、ゴイサギ、ササゴイ、チュウサギ、オシドリ、カワアイサ、コチドリ、イカルチドリ、キアシシギ、イソシギ、オオジシギ、ヤマセミの 11 種が確認されており、このうち、ゴイサギ、オシドリ、ヤマセミの 3 種が継続的に確認されている。また、ササゴイは平成 5 年度から平成 9 年度、カワアイサは平成 18・19 年度にそれぞれ確認されている。シギ・チドリ類に関しては、単年度の確認である。

個体数についてみると、ゴイサギは平成 5 年度から平成 14 年度にかけて増加傾向にあったが、平成 18・19 年度には減少に転じている。また、オシドリ及びヤマセミは近年減少傾向にある。総じて、平成 19 年度における確認個体数は少ない状況にある。

表 6.3.1-28 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度			
			1	2	3	4	5	H5	H9	H14	H18・19
1	サギ	ゴイサギ					注目	3	9	12	3
2		ササゴイ				準絶	不足	4	1		
3		チュウサギ			NT	準絶	不足	1			
4	カモ	オシドリ			DD	準絶	注目	23	13	14	2
5		カワアイサ					希少				1
6	チドリ	コチドリ				準絶				2	
7		イカルチドリ				準絶	希少			5	
8	シギ	キアシシギ				危惧					5
9		イソシギ				準絶	希少			1	
10		オオジシギ			NT				1		
11	カワセミ	ヤマセミ					希少	9	11	5	2
5科11種			0種	0種	3種	7種	8種	5種 40 個体	5種 35 個体	6種 39 個体	5種 13 個体

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:近畿レッド 5:奈良県 RDB

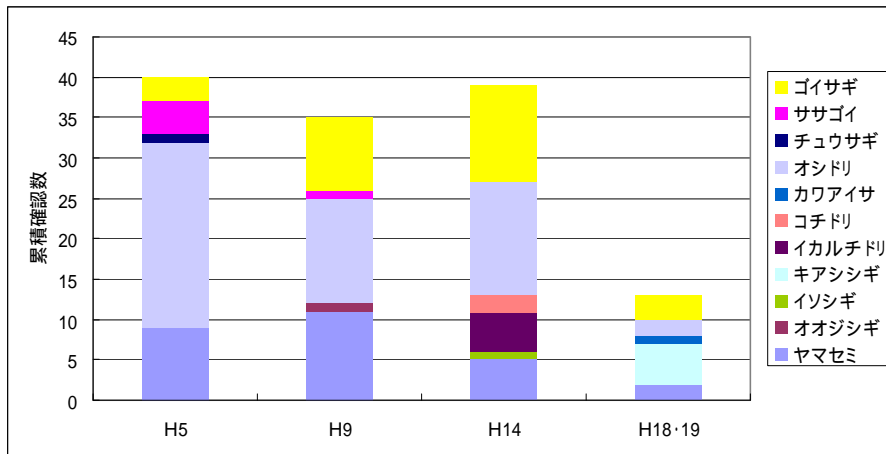


図 6.3.1-60 種別確認個体数の推移:重要種

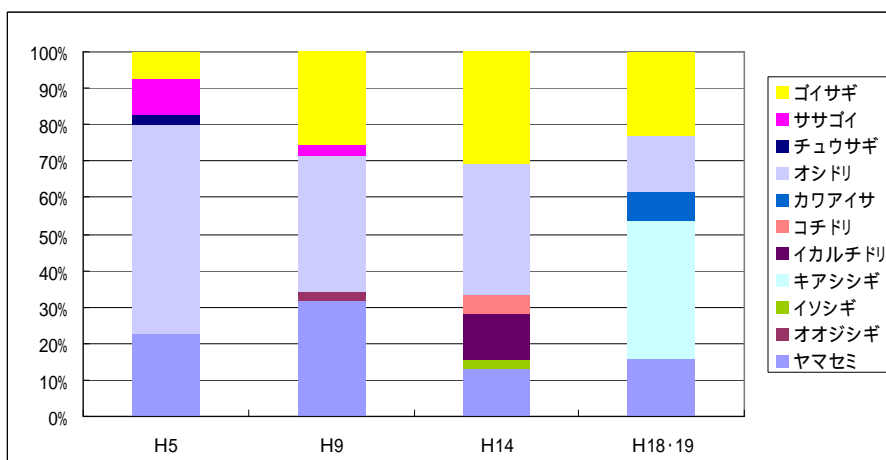


図 6.3.1-61 種別確認割合の推移:重要種

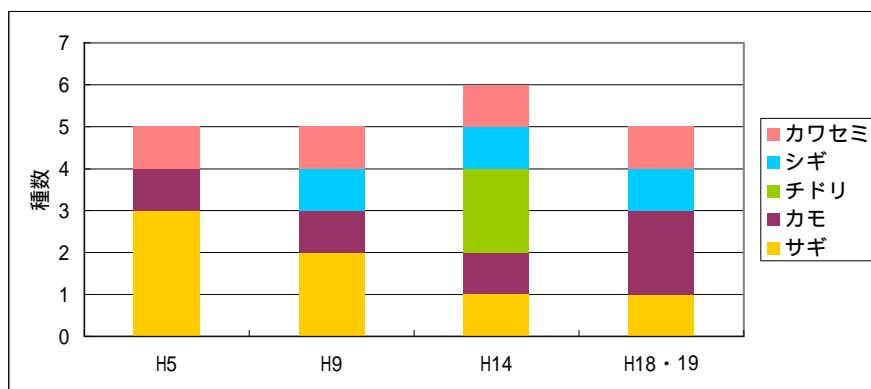


図 6.3.1-62 確認種数の推移:重要種

(c) 外来種の変化の整理

これまでの調査では、ダム湖内において外来種は確認されていない。

(2)ダムによる影響の検証

ダムの存在・供用に伴って、室生ダム湖内に生じる環境条件の変化により、ダム湖内等に生息する多様な生物の生息・生育環境に影響を及ぼすものと想定される。

そこで、室生ダム湖内における環境条件の変化、またそれにより生じる生物の生息・生育状況の変化を 図 6.3.1-63 のとおり整理し、生物の生息・生育状況の変化の検証を行った。

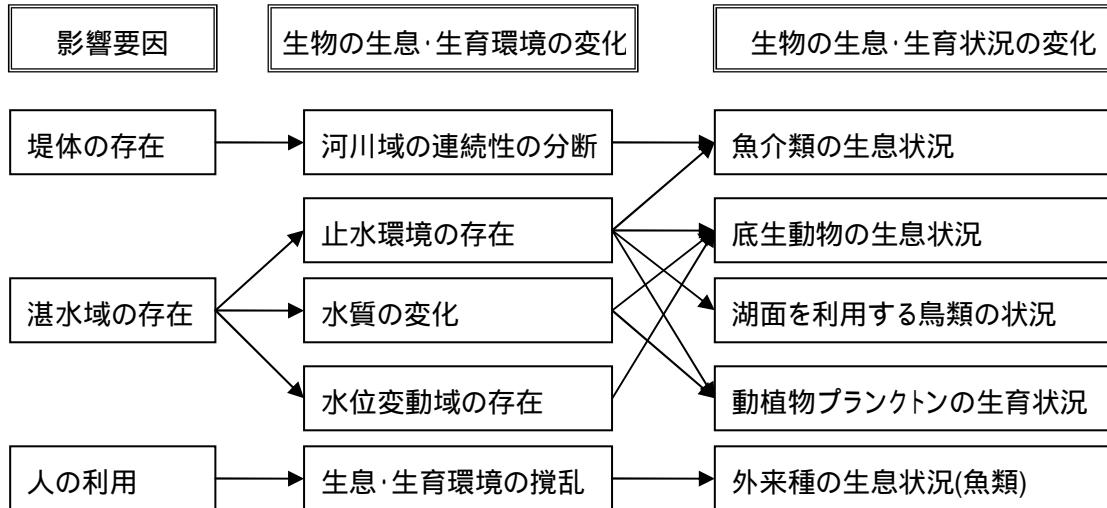


図 6.3.1-63 生物の生息・生育状況の変化と影響要因

1)ダム湖内の生物の生息・生育状況の変化の整理結果

(a)魚介類

a)魚類の生息状況の変化の整理結果

魚類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.1-29 に示す。

表 6.3.1-29 ダム湖内における魚類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
魚類相の変化	種数	・平成 4 年度は 11 種の確認であったが、経年的に増加し、平成 19 年度では 26 種と、約 2.5 倍になっている。
生息状況の変化	優占種の変化	・平成 4 年度はギンブナ、平成 5 年度はオイカワが優占し、平成 8 年度から 19 年度にかけては、概ね 3~4 種が各 10~25%の割合で確認されており、平成 19 年度ではウキゴリ、オイカワ、コウライモロコの確認割合が 20%前後となっている。 ・平成 19 年度では、ブルーギルが増加する傾向がみられている。
	ダム湖内に生息する魚類の状況	・主な構成種は、フナ類やニゴイ類等のコイ科魚類、ナマズ、ブルーギル、オオクチバスで、平成 4 年度から継続的に確認されている。 ・確認個体数は、年度によって変動している。 ・確認割合は、ギンブナが減少傾向する一方で、ニゴイ類が増加、また平成 19 年度にはブルーギルが増加する傾向を示している。
	回遊性魚類の状況	・回遊性種は、これまでの調査で 6 種確認されている。 ・平成 8 年度まではトウヨシノボリが確認割合のほとんどを占めていたが、平成 13 年度から減少、ウキゴリやヌマチチブが増加傾向を示し、平成 19 年度ではウキゴリが半数以上を占めている。 ・アユについては、室生ダムにおいて、再生産されていることが明らかとなっている。
	重要種の状況	自然分布と考えられる種 ・継続的に確認されているのはギギであり、平成 5 年度から確認され始めたウキゴリは、平成 19 年度に増加する傾向がみられる。 放流等が由来と考えられる種 ・継続的な確認は少なく、スゴモロコやホンモロコ、アユといった種がある年度に多数確認されることがある。 ・ゲンゴロウブナはダム湖内、アユは流入河川に、毎年放流が実施されており、アユについて再生産が確認されている。
	外来種の状況	・平成 4 年度から継続的にブルーギル及びオオクチバス(ブラックバス)が確認され、平成 19 年度ではブルーギルの増加が著しい。 ・平成 13 年度以降にタウナギが確認されている。

b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.1-30 に示す。

表 6.3.1-30 ダム湖内におけるエビ・カニ・貝類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・平成 4 年度から平成 8 年度にかけて確認種数は増加する傾向にあるが、平成 8 年度から平成 13 年度にかけては横ばいになっている。
生息状況の変化	ダム湖内に生息するエビ・カニ・貝類の状況	・確認個体数は平成 4 年度から平成 8 年度までは増加傾向にあったが、以降平成 13 年度にかけては、減少に転じている。これはスジエビの確認個体数に起因する。 ・確認割合は、経年とともに、タニシ類が減少、スジエビ等のエビ類が増加傾向にある。
	重要種の状況	・これまでの調査では、オオタニシ、モノアラガイ、マシジミの 3 種が確認されているが、そのほとんどは単年度の確認であり、個体数も少ない。
	外来種の状況	・平成 13 年度にアメリカザリガニが 2 個体確認されている。

(b)底生動物の生息状況の変化の整理結果

底生動物の生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.1-31 に示す。

表 6.3.1-31 ダム湖内における底生動物の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
底生動物相の変化	種数	・平成 5 年度が 5 種と最も少なく、平成 7 年度では 27 種、平成 12 年度では 71 種と増加するが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 39 種と減少に転じている。 ・平成 12 年度から平成 20 年度にかけての減少の主要因は、ヒラタカゲロウ類やシマトビケラ類といった流水性種であった。
生息状況の変化	優占種の変化	・ダム湖の深部では、イトミミズ科及びユスリカ科の 2 種が継続的に確認されているが、そのほとんどは強腐水性種となっている。 ・ダムサイトに近い最深部(基準点)では、無生物となる状態もしばしば見受けられる。
	ダム湖湖岸に生息する底生動物の状況	・平成 7 年度は 26 種、平成 12 年度では 69 種が確認されていたが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 35 種と減少している。 ・確認種数が最も多い平成 12 年度は、カゲロウ目、トンボ目、ハエ目といった種群が多く、これらの多くは流水性種である。
	重要種の状況	・平成 7 年度調査時にオオタニシ 4 個体、平成 17 年度調査時にコオイムシが 2 個体、平成 20 年度にホンサナエが 8 個体、アオサナエが 3 個体確認されている。
	外来種の状況	・平成 12 年度にサカマキガイ及びアメリカザリガニが各 1 個体、平成 20 年度にコシダカヒメモノアラガイが 1 個体確認されている。

(c) 動植物プランクトンの生息・生育状況の変化の整理結果

a) 植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況の変化の整理結果を表 6.3.1-32 に示す。

表 6.3.1-32 ダム湖内における植物プランクトンの生育状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
植物プランクトン相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度が 59 種、平成 11 年度は 94 種、平成 16 年度は 64 種、平成 18 年度は 37 種と、増減している。
生育状況の変化	優占種の変化	・平成 5 年度及び平成 16 年度、平成 18 年度は藍藻類で、平成 11 年度は珪藻類であった。 ・季節的には、夏季は藍藻類、緑藻類、秋季から冬季にかけては珪藻類が優占する傾向がみられている。

b) 動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況の変化の整理結果を表 6.3.1-33 に示す。

表 6.3.1-33 ダム湖内における動物プランクトンの生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
動物プランクトン相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度が 30 種、平成 11 年度は 65 種、平成 16 年度は 62 種、平成 18 年度は 31 種と、増減している。
生息状況の変化	優占種の変化	・これまでの調査において、原生生物である繊毛虫類が優占する傾向がみられている。

(d) 鳥類の生息状況の変化の整理結果

鳥類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.1-34 に示す。

表 6.3.1-34 ダム湖内における鳥類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
鳥類相の変化	種数	・調査実施年度によって、11～16 種とばらつきがみられるが、確認種数の大きな変動はなく、比較的安定している。
生息状況の変化	ダム湖内(開放水面)を利用する鳥類の状況	・水辺を利用する種として、カイツブリ、カワウ、オシドリ、マガモが継続的に確認されている。また、カルガモは平成 9 年度から平成 18・19 年度、コガモは平成 5 年度から平成 14 年度まで継続して確認されている。 ・その他の種については、いずれも単年度の確認となっている。
	ダム湖湖岸を利用する鳥類の状況	・確認個体数は平成 14 年度にかけては一時増加する傾向がみられたが、以降は減少する傾向にある。 ・水辺を利用する種として、ゴイサギ、アオサギ、ヤマセミが継続して確認され、カワセミが平成 18・19 年度以外で確認されている。その他の種については、単年度の確認が多い状況にある。
	重要種の状況	・これまでの調査で確認されている重要種は、11 種で、このうち、ゴイサギ、オシドリ、ヤマセミについては、継続的に確認されている。また、その他の種については、単年度の確認が多い状況にある。 ・重要種の確認種数は大きな変化はないものの、確認個体数において、平成 18・19 年度に減少がみられる。



2)ダムの存在・供用による生物への影響の整理結果

(a)魚介類

a)魚類

ダムの存在・供用による魚類への影響の整理結果を 表 6.3.1-35 に示す。

表 6.3.1-35 ダムの存在・供用による魚類への影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在・供用に伴う影響
魚類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在
	ダム湖内に生息する魚類の状況	・止水環境の存在
	回遊性魚類の状況	・止水環境の存在 ・河川域の連続性の分断(水質保全ダムの存在を含む)
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

b)エビ・カニ・貝類

ダムの存在・供用によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果を 表 6.3.1-36 に示す。

表 6.3.1-36 ダムの存在・供用によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在・供用に伴う影響
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	ダム湖内に生息するエビ・カニ・貝類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(b)底生動物

ダムの存在・供用による底生動物への影響の整理結果を 表 6.3.1-37 に示す。

表 6.3.1-37 ダムの存在・供用による底生動物への影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在・供用に伴う影響
底生動物相の変化	種数	・止水環境の存在 ・水質の変化
生息状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在 ・水質の変化
	ダム湖湖岸に生息する底生動物の状況	・止水環境の存在 ・ダム湖湖岸の水位変動域の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(c)動植物プランクトン

a)植物プランクトン

ダムの存在・供用による植物プランクトンへの影響の整理結果を表 6.3.1-38 に示す。

表 6.3.1-38 ダムの存在・供用による植物プランクトンへの影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在・供用に伴う影響
植物プランクトン相の変化	種数	・止水環境の存在 ・水質の変化
生育状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在 ・水質の変化

b)動物プランクトン

ダムの存在・供用による動物プランクトンへの影響の整理結果を表 6.3.1-39 に示す。

表 6.3.1-39 ダムの存在・供用による動物プランクトンへの影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在・供用に伴う影響
動物プランクトン相の変化	種数	・止水環境の存在 ・水質の変化
生息状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在 ・水質の変化

(d)鳥類

ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果を表 6.3.1-40 に示す。

表 6.3.1-40 ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在・供用に伴う影響
鳥類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	ダム湖内に生息する鳥類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

3)ダムの存在・供用以外の考えうる因子の整理結果

(a)魚介類

a)魚類

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による魚類への整理結果を表 6.3.1-41 に示す。

表 6.3.1-41 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による魚類への影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在以外の影響
魚類相の変化	種数	・放流(漁業・遊漁)
生息状況の変化	優占種の変化	・放流(漁業・遊漁)
	ダム湖内に生息する魚類の状況	・放流(漁業・遊漁)
	回遊性魚類の状況	・放流(漁業・遊漁)
	重要種の状況	・放流(漁業・遊漁)
	外来種の状況	・放流(漁業・遊漁)

(b)動植物プランクトン

a)植物プランクトン

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による植物プランクトンへの影響の整理結果を表 6.3.1-42 に示す。

表 6.3.1-42 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による  
植物プランクトンへの影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在以外の影響
植物プランクトン相の変化	種数	・ダム湖への流入水質
生育状況の変化	優占種の変化	・ダム湖への流入水質

b)動物プランクトン

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による動物プランクトンへの影響の整理結果を表 6.3.1-43 に示す。

表 6.3.1-43 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による  
動物プランクトンへの影響の整理結果

検 討 項 目		ダムの存在以外の影響
動物プランクトン相の変化	種数	・ダム湖への流入水質
生息状況の変化	優占種の変化	・ダム湖への流入水質

4)ダム湖内の生物の変化に対する影響の検証結果

(a)魚介類

a)魚類

魚類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.1-44 に示す。

表 6.3.1-44(1) ダム湖内の魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
魚類相の変化	種数	・平成4年度は11種の確認であったが、経年的に増加し、平成19年度では26種と、約2.5倍になっている。	・止水環境の存在	・放流(漁業・遊漁)	・アユやゲンゴロウブナの放流に伴って、あるいはオオクチバス(ブラックバス)、ブルーギルのように、意図的に放流された魚類が多く定着しているものと考えられる。
	優占種の変化	・平成4年度はギンブナ、平成5年度はオイカワが優占し、平成8年度から19年度にかけては、概ね3~4種が各10~25%の割合で確認されており、平成19年度ではウキゴリ、オイカワ、コウライモロコの確認割合が20%前後となっている。 ・平成19年度では、ブルーギルが増加する傾向がみられている。	・止水環境の存在	・放流(漁業・遊漁)	・調査実施年度によって、優占種が変化していることから、一概には言えないが、直近の調査ではブルーギルが急速に増加する傾向がみられており、このような外来種の影響によって、種相が変化している可能性はあると考えられる。
	ダム湖内に生息する魚類の状況	・主な構成種は、フナ類やニゴイ類等のコイ科魚類、ナマズ、ブルーギル、オオクチバスで、平成4年度から継続的に確認されている。 ・確認個体数は、年度によって変動している。 ・確認割合は、ギンブナが減少傾向する一方で、ニゴイ類が増加、また平成19年度にはブルーギルが増加する傾向を示している。	・止水環境の存在	・放流(漁業・遊漁)	・調査実施年度によって、優占種が変化していることから、一概には言えないが、直近の調査ではブルーギルが急速に増加する傾向がみられており、このような外来種の影響によって、種相が変化している可能性はあると考えられる。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.3.1-44(2) ダム湖内の魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
生息状況の変化	回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回遊性種は、これまでの調査で 6 種確認されている。</li> <li>・平成 8 年度まではトウヨシノボリが確認割合のほとんどを占めていたが、平成 13 年度から減少、ウキゴリやヌマチチブが増加傾向を示し、平成 19 年度ではウキゴリが半数以上を占めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・河川域の連続性の分断(水質保全ダムの存在を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質保全ダムが設置された平成 12 年度前後で、種構成が大きく変化しているため、河川域の連続性の分断については、影響が及んでいる可能性があると考えられる。</li> <li>・確認されている種の多くは、継続的に確認されており、陸封・再生産している可能性もあると考えられる。</li> </ul>
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然分布と考えられる種</li> <li>・継続的に確認されているのはギギであり、平成 5 年度から確認され始めたウキゴリは、平成 19 年度に増加する傾向がみられる。</li> <li>放流等が由来と考えられる種</li> <li>・継続的な確認は少なく、スゴモロコやホンモロコ、アユといった種がある年度に多数確認されることがある。</li> <li>・ゲンゴロウブナはダム湖内、アユは流入河川に、毎年放流が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然分布と考えられる種</li> <li>・種によって増減はみられるが、重要種は主に流水性種で構成されていることから、止水環境の存在による影響はあると考えられる。</li> <li>放流等が由来と考えられる種</li> <li>・ゲンゴロウブナ、ホンモロコ等の止水性種にとっては、影響はほとんどないと考えられる。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 4 年度から継続的にブルーギル及びオオクチバス(ブラックバス)が確認され、平成 19 年度ではブルーギルの増加が著しい。</li> <li>・平成 13 年度以降にタウナギが確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・生息環境の攪乱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルーギルは、近年増加傾向にあり、ダム湖の止水環境に適応していると考えられる。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- △:変化がほとんどみられないもの
- ×:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.1-45 に示す。

表 6.3.1-45 ダム湖内のエビ・カニ・貝類の変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
エビ・カニ・貝類相の変化	種数 ・平成 4 年度から平成 8 年度にかけて確認種数は増加する傾向にあるが、平成 8 年度から平成 13 年度にかけては横ばいになっている。	・止水環境の存在	-	・エビ類は河川緩流部やダム湖を恒常的な生息環境として利用している。 ・エビ類以外は流入河川等から一時的に流下してきたものであると考えられる。	×
生息状況の変化	ダム湖内に生息するエビ・カニ・貝類の状況 ・確認個体数は平成 4 年度から平成 8 年度までは増加傾向にあったが、以降平成 13 年度にかけては、減少に転じている。これはスジエビの確認個体数に起因する。 ・確認割合は、経年とともに、タニシ類が減少、スジエビ等のエビ類が増加傾向にある。	・止水環境の存在	-	・平成 8 年度から平成 13 年度にかけてのスジエビの減少は、肉食性魚類等の影響が及んでいる可能性があるが、変化の要因については不明である。	
	重要種の状況 ・これまでの調査では、オオタニシ、モノアラガイ、マシジミの 3 種が確認されているが、そのほとんどは単年度の確認であり、個体数も少ない。	・止水環境の存在	-	・確認された重要種は、水位変動の大きなダム湖を好適な生息環境とはしないことから、周辺環境から一時的に移動してきた個体が確認された可能性がある。	
	外来種の状況 ・平成 13 年度にアメリカザリガニが 2 個体確認されている。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	・止水環境の存在により生息が可能になったと考えられるが、定着しているかどうかは不明である。	

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(b)底生動物

底生動物の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.1-46 に示す。

表 6.3.1-46 ダム湖内の底生動物の変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
底生動物相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 5 年度が 5 種と最も少なく、平成 7 年度では 27 種、平成 12 年度では 71 種と増加するが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 39 種と減少に転じている。</li> <li>・平成 12 年度から平成 20 年度にかけての減少の主要因は、ヒラタカゲロウ類やシマトビケラ類といった流水性種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・水質の変化</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認種数の増減については、主に流水性種の出現状況に左右されており、このような状況は、ダム湖の貯水位、調査箇所・採取回数等の仕事量の影響によると考えられる。</li> <li>・水質保全ダムの設置以降に、確認種数が減少していることから、宇陀川流入部付近の環境の変化が影響を与えている可能性もあると推察される。</li> </ul>
	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム湖の深部では、イトミミズ科及びユスリカ科の 2 種が継続的に確認されているが、そのほとんどは強腐水性種となっている。</li> <li>・ダムサイトに近い最深部(基準点)では、無生物となる状態もしばしば見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・水質の変化</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム湖底の嫌気化といった環境条件の変化による可能性があると考えられる。</li> </ul>
生息状況の変化	ダム湖湖岸に生息する底生動物の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 7 年度は 26 種、平成 12 年度では 69 種が確認されていたが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 35 種と減少している。</li> <li>・確認種数が最も多い平成 12 年度は、カゲロウ目、トンボ目、ハエ目といった種群が多く、これらの多くは流水性種である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・ダム湖湖岸の水位変動域の存在</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認種数の増減については、主に流水性種の出現状況に左右されており、このような状況は、ダム湖の貯水量の影響によると考えられる。</li> <li>・水質保全ダムの設置以降に、確認種数が減少していることから、宇陀川流入部付近の環境の変化が影響を与えている可能性もあると推察される。</li> </ul>
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 7 年度調査時にオオタニシ 4 個体、平成 17 年度調査時にコオイムシが 2 個体、平成 20 年度にホンサナエが 8 個体、アオサナエが 3 個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認された重要種は、水位変動の大きなダム湖を好適な生息環境とはしないことから、周辺環境から一時的に移動してきた個体が確認された可能性がある。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 12 年度にサカマキガイ及びアメリカザリガニが各 1 個体、平成 20 年度にコシダカヒメモノアラガイが 1 個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・生息環境の攪乱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魚類の放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在により生息が可能になったと考えられるが、定着しているかどうかは不明である。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

:室生ダムの影響がみられるもの

×:変化がほとんどみられないもの

:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(c) 動植物プランクトン

a) 植物プランクトン

植物プランクトンの変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 1-47 に示す。

表 6. 3. 1-47 ダム湖内の植物プランクトンの変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
ト植物相の 種数の 変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 59 種、平成 11 年度は 94 種、平成 16 年度は 64 種、平成 18 年度は 37 種と、増減している。	・止水環境の存在 ・水質の変化	・ダム湖への流入水質	・確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。	△
生育状況の 変化	優占種の変化	・平成 5 年度、平成 16 年度及び平成 18 年度は藍藻類で、平成 11 年度は珪藻類であった。 ・季節的には、夏季は藍藻類、緑藻類、秋季から冬季かけては珪藻類が優先する傾向がみられている。	・止水環境の存在 ・水質の変化	・ダム湖への流入水質	・止水環境に適応した種が優占していると考えられる。 ・夏季にアオコの発生原因である藍藻類が多くみられるが流入河川の水質やダム湖の存在等、複合的な要因があるものと考えられる。	●

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b) 動物プランクトン

動物プランクトンの変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 1-48 に示す。

表 6. 3. 1-48 ダム湖内の動物プランクトンの変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
ト動物相の 種数の 変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 30 種、平成 11 年度は 65 種、平成 16 年度は 62 種、平成 18 年度は 33 種と、増減している。	・止水環境の存在 ・水質の変化	・ダム湖への流入水質	・確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。	△
の生息 状況 変化	優占種の変化	・経年を通して、原生生物である繊毛虫類が優占する傾向がみられている。	・止水環境の存在 ・水質の変化	・ダム湖への流入水質	・止水環境に適応した種が優占していると考えられる。 ・流入河川の水質やダム湖の存在等、複合的な要因があるものと考えられる。	●

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの





### 6.3.2. 流入河川における変化の検証

#### (1)生物の生息・生育状況の変化の検証

##### 1)魚介類

##### (a)魚類

魚類の調査は、これまでに計5回実施されている。しかし、各調査年度ともに、実施した調査地点数や調査回数が異なっている。そのため、魚類の変化の整理にあたっては、調査地点数及び調査回数を考慮に入れて、1地点/調査回あたりの確認個体数を算出し、比較することとした。

各調査年度における流入河川の調査地点数及び調査回数は、表6.3.2-1に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表6.3.2-2に示すとおりであり、経年とともに調査手法が多様化する傾向がみられる。

また、流入河川については、本流となる宇陀川のほか、市街地を貫流し流入する天満川、山間溪流となる深谷川の3河川で実施しており、それぞれ河川の特徴が異なることから、流入河川全体の変化を示すとともに、各河川についても変化を整理することとした。

また、調査実施時における流入河川の水位は、図6.3.2-1～図6.3.2-5に示すとおりである。

表6.3.2-1 調査実施状況一覧:魚類

調査地点数 及び回数		調査年度				
		H4	H5	H8	H13	H19
調査 地点数	宇陀川	1		1	1	1
	天満川	1	1	1	1	1
	深谷川				1	1
調査回数		2	1	2	2	2
調査時期		8月・10月	9月	7月・10月	8月・10月	6月・8月

表 6.3.2-2 調査内容一覧:魚介類

調査地区										調査内容						
区分	H4		H5		H8		H13		H19		H4	H5	H8	H13	H19	
調査番号	1		2		5		11		19		1	2	5	11	20	
下流河川					No.1	下流河川(宇陀川)	St.1	下流河川	淀室下1	ダムサイト直下	-	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水80分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網150分、セルびん4個、はえなわ4本、潜水観察0.5h	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、どう2個、カゴ網2個、潜水観察2h	
ダム湖	St.2	湖心	St.3	湖底の平らな部分	No.2	湖内湾入部	St.2	湖肢	淀室湖2	湖岸部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(18mm)中層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、セルびん10個、はえなわ4本、カニカゴ4個、どう4個	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層1枚・中層2枚、セルびん2個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
									淀室湖3	宇陀川流入部	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
							St.9	河川流入部	淀室湖6	深谷川流入部	-	-	-	刺網(15mm)表層1枚・中層2枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚、投網(12mm)10回・(18mm)20回、タモ網140分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.3	天満川流入部	St.2(1)	天満川流入部	No.3	河川流入点(天満川)	St.3	河川流入部	淀室湖7	天満川流入部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)20回・(18mm)15回、タモ網120分、セルびん15個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚・中層2枚、投網(12mm)20回・(18mm)10回、タモ網110分、セルびん4個、はえなわ4本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.4	宇陀川流入部	St.1(1)	宇陀川流入部	No.5	河川流入点(宇陀川)	St.5	ダム湖内			刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表層180m、投網(12mm)17回・(18mm)18回、タモ網120分、セルびん16個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚、タモ網20分	-	
			St.1(2)	宇陀川流入部									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-
		St.1-1	ダムサイト									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-	-
		St.1-2	ダムサイト(船着場)									モンドリ、目視	-	-	-	-
							St.7	最深部				-	-	-	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚	-
							St.8	河川流入部				-	-	-	刺網(15mm)表層1枚、底層1枚、刺網(50mm)表層2枚、投網(12mm)15回・(18mm)25回、タモ網90分、セルびん4個、はえなわ1本	-
流入河川							St.10	流入河川	淀室入1	流入河川深谷川	-	-	-	投網(18mm)21回、タモ網75分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.6	流入河川	St.2(2)	天満川流入部	No.4	流入河川(天満川)	St.4	流入河川	淀室入2	流入河川天満川	投網(12mm)3回	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網60分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
	St.5	宇陀川(高倉橋付近)			No.6	流入河川(宇陀川)	St.6	流入河川	淀室入3	流入河川宇陀川	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水60分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)25回・(18mm)26回、タモ網120分、セルびん4個、はえなわ2本、潜水観察20分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h	
その他								淀室他1	水質保全ダム湛水域	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
時期											初夏	-	-	-	H19.6.5~9	
		夏季	-		夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	夏季	H4.8.12~14	-	H8.7.23~24、29~30	H13.7.31、8.1~6	H19.8.27~29
		秋季	秋季		秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	秋季	H4.10.12~14	H5.9.20~22	H8.10.16~18	H13.10.23~31	-

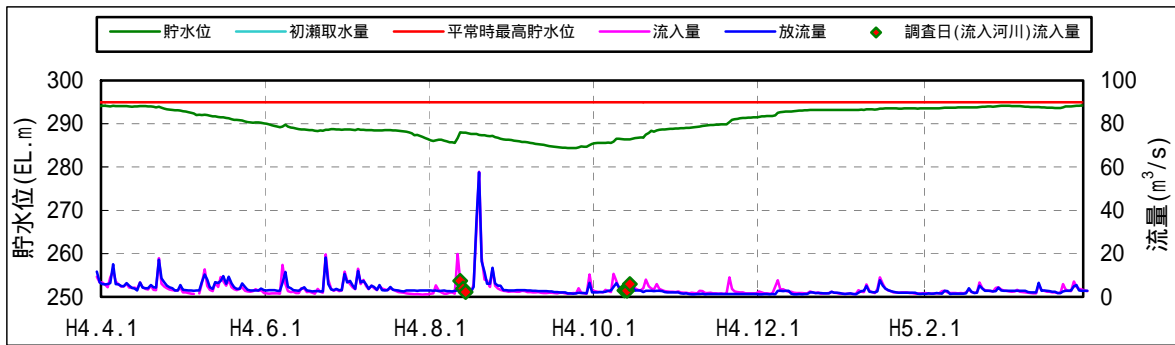


図 6.3.2-1 流入河川における調査実施時の流況(平成 4 年度)

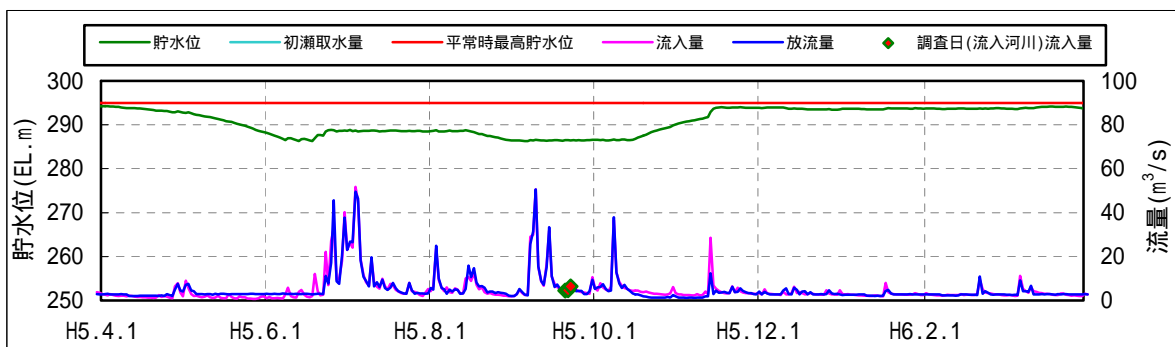


図 6.3.2-2 流入河川における調査実施時の流況(平成 5 年度)

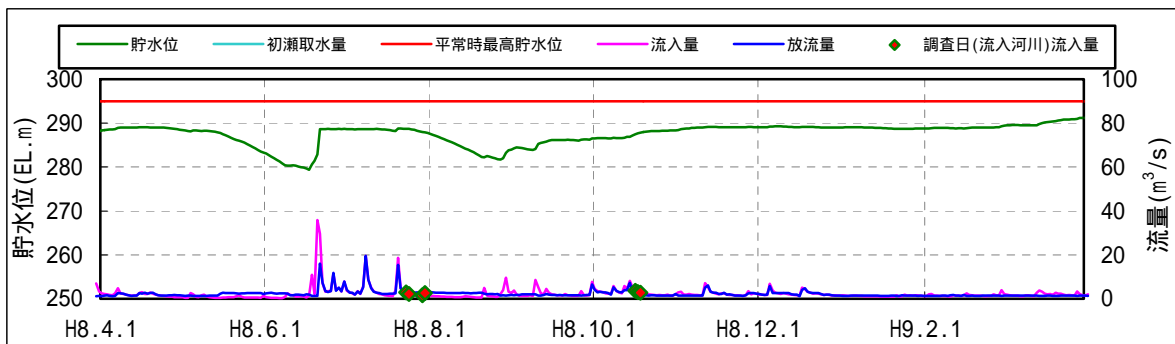


図 6.3.2-3 流入河川における調査実施時の流況(平成 8 年度)

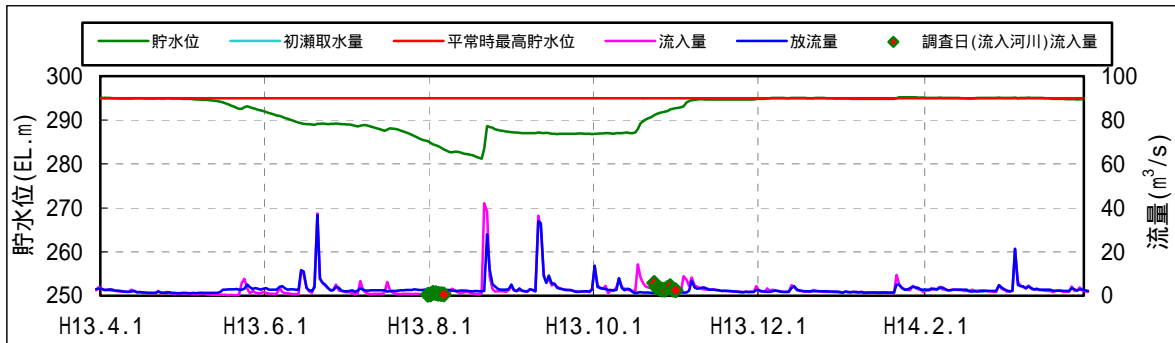


図 6.3.2-4 流入河川における調査実施時の流況(平成 13 年度)

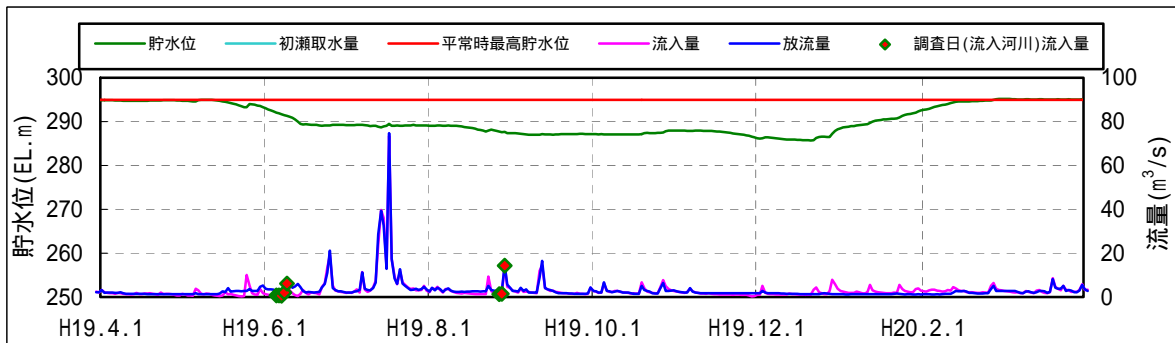


図 6.3.2-5 流入河川における調査実施時の流況(平成 19 年度)

a) 魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された魚類の一覧は表 6.3.2-3、また、その推移は図 6.3.2-6～図 6.3.2-8 に示すとおりである。

流入河川の魚類については、オイカワやカワムツ等の河川中流域を主な生息場所とする種のほか、アマゴといった渓流性魚類が確認されている。また、確認種数については、平成 4 年度から平成 5 年度にかけて半減しているが、これは調査地点及び回数が少ないことに起因していると考えられる。なお、平成 4 年度と調査地点・回数が同等となる平成 13 年度では 10 種、また平成 19 年度には 23 種と多くの種が確認されている。

個体数については、平成 4 年度から平成 5 年度までは、概ね横ばいとなっているが、平成 8 年度からは増加し、平成 19 年度には平成 4 年度の約 4 倍弱にまで増加している。優占種の推移についてみると、経年とともに変化がみられる。平成 4 年度はオイカワが確認個体数の 74% を占めていたが、平成 5 年度以降は減少し、10～20% 程度で推移している。また、平成 5 年度にはトウヨシノボリが確認個体数の 60% を占め優占種となるが、オイカワと同様に平成 8 年度以降は減少に転じ、平成 19 年度ではわずか 2% の出現となっている。平成 8 年度及び平成 13 年度では、カワムツが確認個体数の 44～48% を占めるが、平成 19 年度は減少傾向にある。なお、平成 19 年度は目立った優占種はないが、コウライモロコやウキゴリといった種が増加傾向にある。

表 6.3.2-3 経年確認種一覧:魚類

No.	網名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	コイ				5.0	3.3
2				ギンブナ	0.3		1.0	0.5	0.5
3				オオキンブナ			1.5	0.3	
4				ハス	0.5				0.3
5				オイカワ	36.8	5.0	32.5	100.5	37.3
6				カワムツ	0.5	7.0	59.0	79.0	58.3
7				モツゴ					0.3
8				タモロコ			0.5		1.5
9				ホンモロコ					0.2
10				カマツカ	0.8		8.5	11.0	6.0
11				コウライニゴイ					0.3
12				ニゴイ	0.3			0.5	
13				スゴモロコ	5.8				0.3
14				コウライモロコ			23.0	97.8	30.2
15					ドジョウ	ドジョウ		2.0	
16		ナマズ	ナマズ	ナマズ	0.3				0.2
17			ギギ	ギギ	1.0				5.8
18		サケ	サケ	アマゴ					0.2
19			アユ	アユ	1.8	3.0	1.5	71.3	2.8
20		ダツ	メダカ	メダカ					0.3
21		タウナギ	タウナギ	タウナギ				1.0	0.8
22		スズキ	ハゼ	ウキゴリ	0.5	2.0	7.0	9.5	17.3
23				トウヨシノボリ		29.0	59.5	21.0	4.0
24				カワヨシノボリ				13.8	13.7
-				ヨシノボリ属	1.3				1.2
25				ヌマチチブ					1.5
26		サンフィッシュ	オオクチバス			0.5			
1網6目9科25種					12種	6種	7種	10種	23種
					49.5	48.0	194.0	411.5	189.2
					個体	個体	個体	個体	個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

2.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

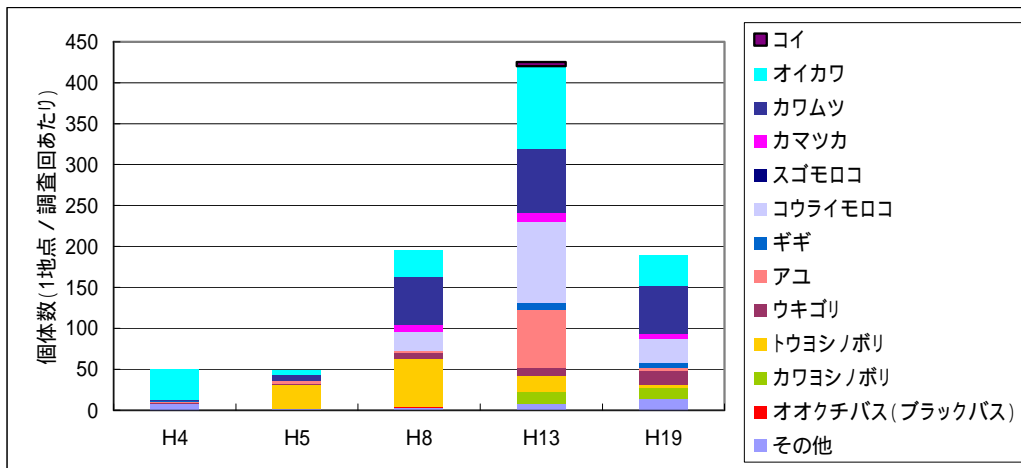


図 6.3.2-6 種別確認個体数の推移:魚類

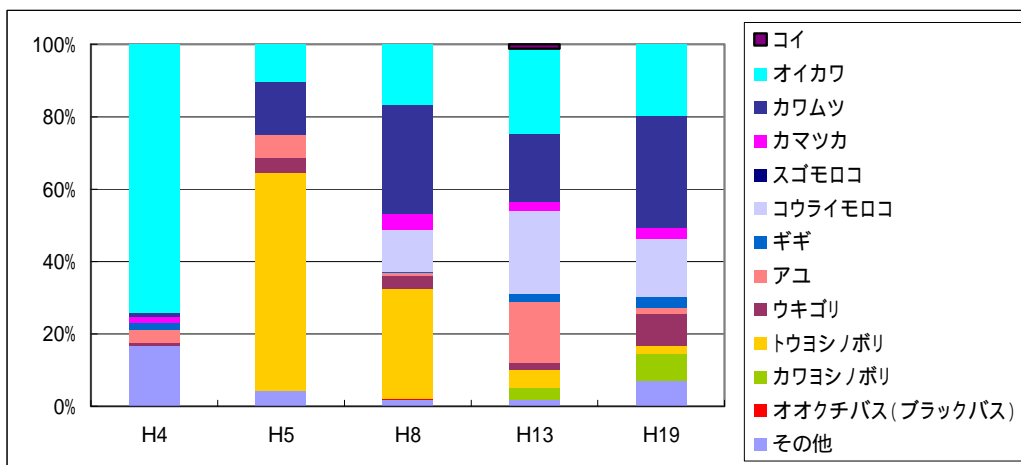


図 6.3.2-7 種別確認割合の推移:魚類

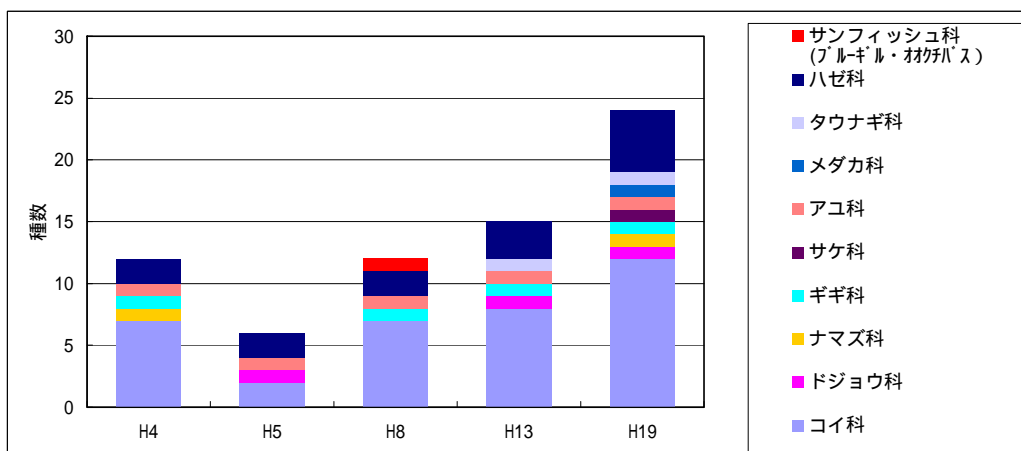


図 6.3.2-8 確認種数の推移:魚類



宇陀川の魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(宇陀川)で確認された魚類の一覧は表 6.3.2-4、またその推移は図 6.3.2-9～図 6.3.2-11 に示すとおりである。

宇陀川の魚類相については、オイカワやモロコ類、カワムツ、カマツカ等のコイ科魚類のほか、ギギ、アユ、ウキゴリ、ヨシノボリ類等が確認されている。確認種数については、平成 4 年度から平成 19 年度にかけて、約 2 倍になっている。

個体数については、種数と同様に、平成 4 年度から平成 19 年度にかけて、約 2 倍に増加している。主な確認種は平成 4 年度、平成 19 年度ともにオイカワであり、平成 19 年度ではオイカワのほかに、コウライモロコも比較的多く確認されている。また、優占種の推移についてみると、平成 4 年度では確認割合の 76%を占めていたオイカワが経年とともに減少し、平成 19 年度では 36%となっている。一方、増加傾向にあるのがコウライモロコで、平成 14 年度では確認されていないが、平成 19 年度の確認割合は 27%となっている。また、平成 19 年度はオイカワとコウライモロコを併せた出現頻度が約 63%を占める結果となっている。なお、平成 4 年度、平成 19 年度ともに、これらの種以外は 10%以下の確認割合となっている。

表 6.3.2-4 経年確認種一覧:魚類(宇陀川)

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
					H4	H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	コイ			5.0	3.3
2				ギンブナ	0.3		0.5	0.5
3				ハス	0.5	1.5		0.3
4				オイカワ	36.3	22.5	87.5	35.2
5				カワムツ		16	24.5	4.2
6				モツゴ				0.2
7				タモロコ		0.5		1.5
8				ホンモロコ				0.2
9				カマツカ	0.8	8.5	11	6.0
10				コウライニゴイ				0.3
11				ニゴイ	0.3		0.5	
12				スゴモロコ	5.8			0.3
13				コウライモロコ		20.5	90	26.3
14			ドジョウ	ドジョウ				0.3
15		ナマズ	ナマズ	ナマズ	0.3			0.2
16			ギギ	ギギ	1.0	0.5	9	5.8
17		サケ	アユ	アユ	1.8	1	69	1.8
18		ダツ	メダカ	メダカ				0.3
19		タウナギ	タウナギ	タウナギ			0.5	0.5
20		スズキ	ハゼ	ウキゴリ	0.5	0.5		2.3
21				トウヨシノボリ		26.5	9.0	0.5
22				カワヨシノボリ				8.2
-				ヨシノボリ属	0.5			0.2
23		サンフィッシュ	オオクチバス		0.5			
1 綱 6 目 8 科 22 種					11 種	11 種	11 種	21 種
					47.8 個体	98.5 個体	306.5 個体	98.5 個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。  
2.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

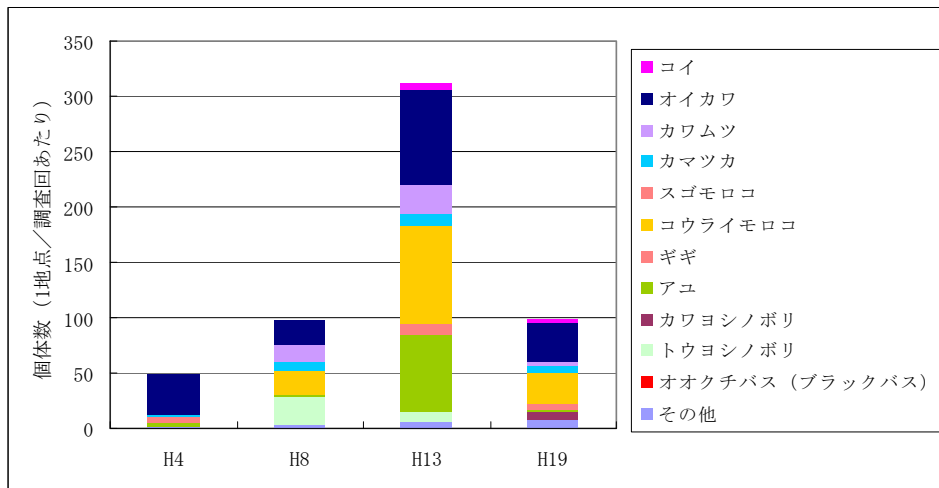


図 6.3.2-9 種別確認個体数の推移: 魚類(宇陀川)

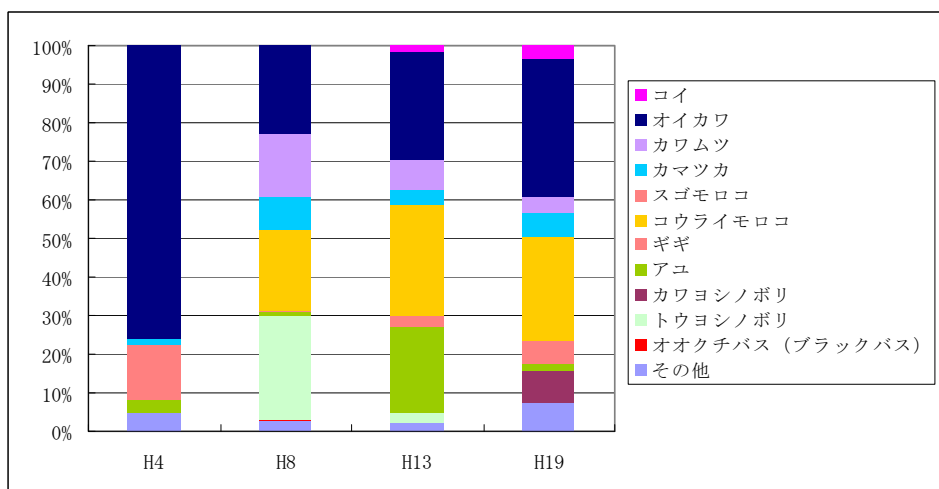


図 6.3.2-10 種別確認割合の推移: 魚類(宇陀川)

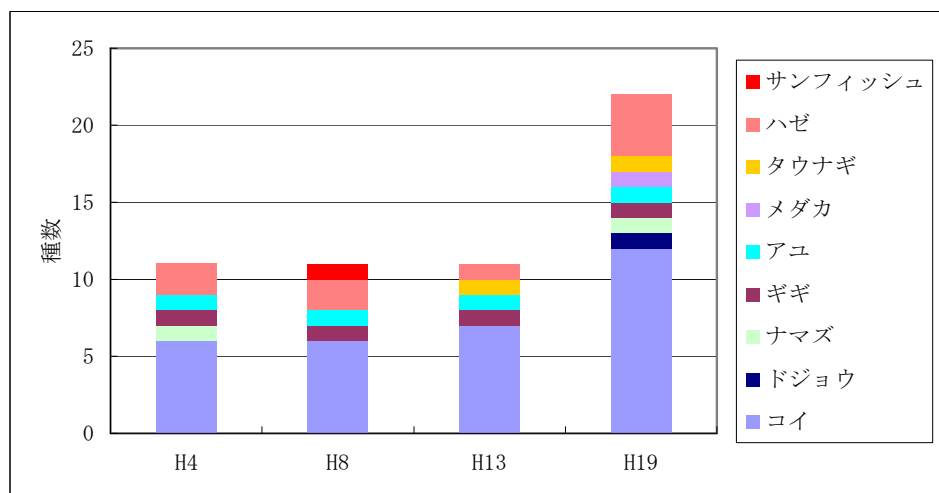


図 6.3.2-11 科別確認種数の推移: 魚類(宇陀川)

### 天満川の魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(天満川)で確認された魚類の一覧は表 6.3.2-5、またその推移は図 6.3.2-12～図 6.3.2-14 に示すとおりである。

天満川の魚類については、オイカワやカワムツ、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ等が生息しており、宇陀川と同様の種構成となっている。確認種数については、平成 4 年度から平成 19 年度にかけて、増加する傾向がみられ、平成 4 年度が 3 種であったのに対して、平成 19 年度は 10 種と約 3 倍になっている。

個体数については、平成 4 年度から平成 8 年度にかけては、増加傾向にあったが、以降は減少に転じている。また、優占種の推移についてみると、平成 5 年度にはトウヨシノボリ、平成 8 年度にはカワムツが急増しており、これらの増加の結果、平成 8 年度の確認個体数が最も多くなっている。平成 13 年度以降は両種ともに減少に転じており、トウヨシノボリは平成 19 年度にはほとんど確認されなくなっている。なお、平成 19 年度にはウキゴリが増加する傾向がみられている。

表 6.3.2-5 経年確認種一覧:魚類(天満川)

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	ギンブナ			1.0		
2				オオキンブナ				0.3	
3				オイカワ	0.5	5.0	10.0	13.0	2.2
4				カワムツ	0.5	7.0	43.0	22.3	17.0
5				コウライモロコ			2.5	7.8	3.8
6				ドジョウ	ドジョウ		2.0		0.3
7		サケ	アユ	アユ		3.0	0.5	2.3	1.0
8		タウナギ	タウナギ	タウナギ				1.0	0.3
9		スズキ	ハゼ	ウキゴリ		2.0	7.0	9.0	15.0
10				トウヨシノボリ		29.0	33.0	12.0	3.5
11				カワヨシノボリ					0.2
-				ヨシノボリ属	0.8				0.5
12	ヌマチチブ							1.5	
1 綱 4 目 5 科 12 種					3 種	6 種	7 種	9 種	10 種
					1.8 個体	48.0 個体	97.0 個体	67.8 個体	47.3 個体

注)1. 表中の数は、1 地点/調査回あたりの個体数を示す。

2. 種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

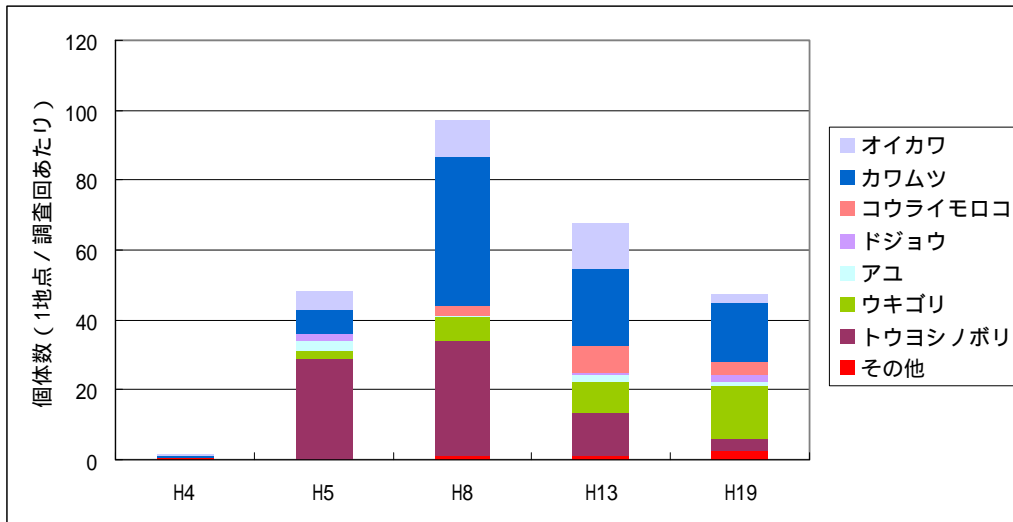


図 6.3.2-12 種別確認個体数の推移: 魚類(天満川)

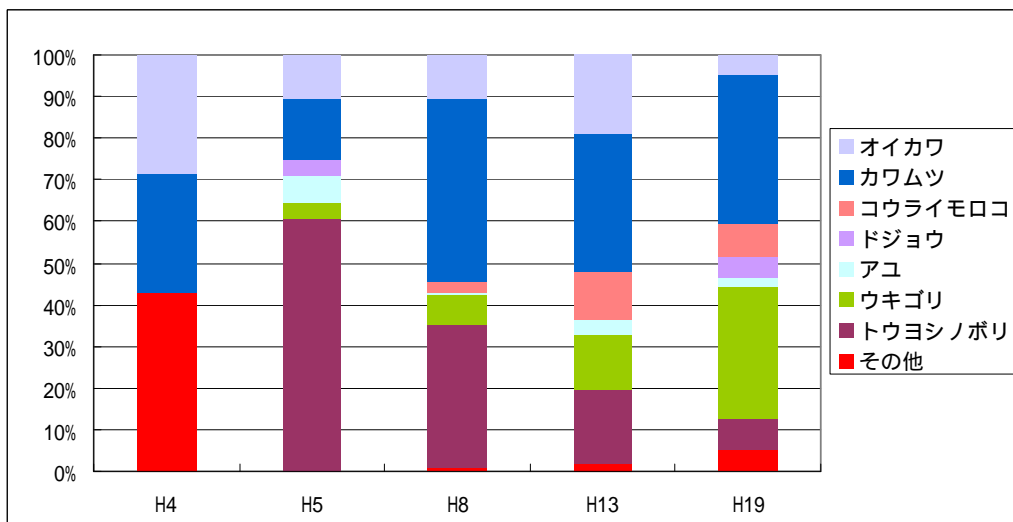


図 6.3.2-13 種別確認割合の推移: 魚類(天満川)

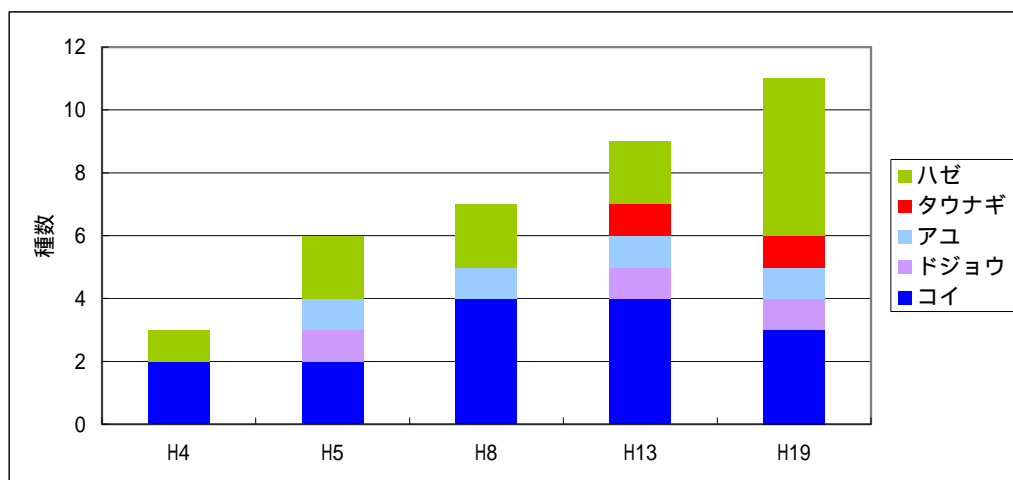


図 6.3.2-14 科別確認種数の推移: 魚類(天満川)

### 深谷川の魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(深谷川)で確認された魚類の一覧は表 6.3.1-6、またその推移は図 6.3.2-15～図 6.3.2-17 に示すとおりである。

深谷川の魚類については、カワムツやカワヨシノボリといった種が中心であり、このほかに溪流魚性魚類であるアマゴといった種が確認されている。確認種数については、平成 13 年度から平成 19 年度にかけて、増加する傾向がみられ、平成 13 年度は 2 種であったのに対して、平成 19 年度は 4 種になっている。

個体数については、平成 13 年度から平成 19 年度にかけて増加する傾向がみられている。なお、優占種の推移についてみると、両調査年度ともにカワムツが優占するが、平成 19 年度ではその割合は高く確認個体の 85%がカワムツで占められている。また、その一方で第二優占種となるカワヨシノボリが減少傾向にある。

表 6.3.2-6 経年確認種一覧:魚類(深谷川)

No.	網名	目名	科名	種名(和名)	調査年度	
					H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	カワムツ	64.5	111.5
2				モツゴ		0.5
3		サケ	サケ	アマゴ		0.5
4		スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	27.5	16
-				ヨシノボリ属		1.5
1 網 3 目 3 科 4 種					2 種	4 種
					92.0	130.0
					個体	個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

2.種名に「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

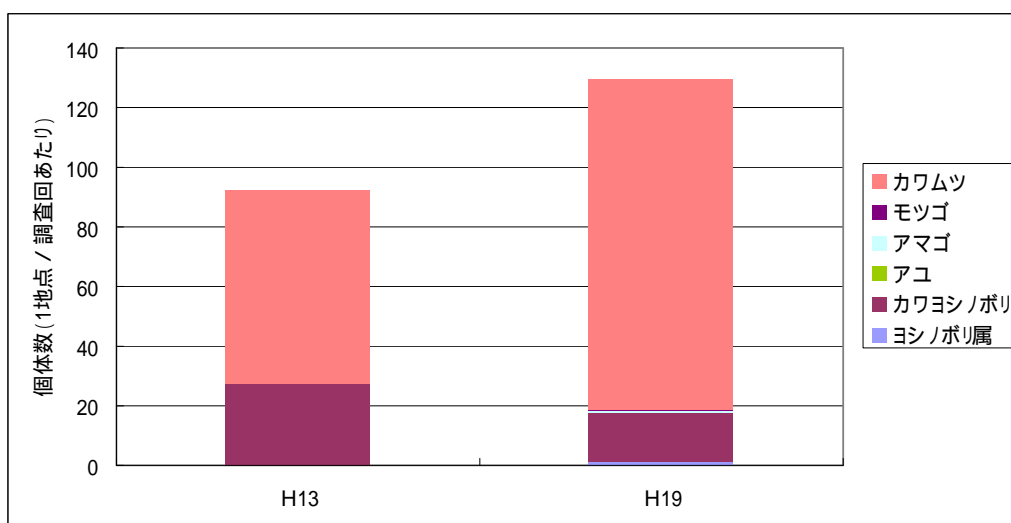


図 6.3.2-15 種別確認個体数の推移:魚類(深谷川)

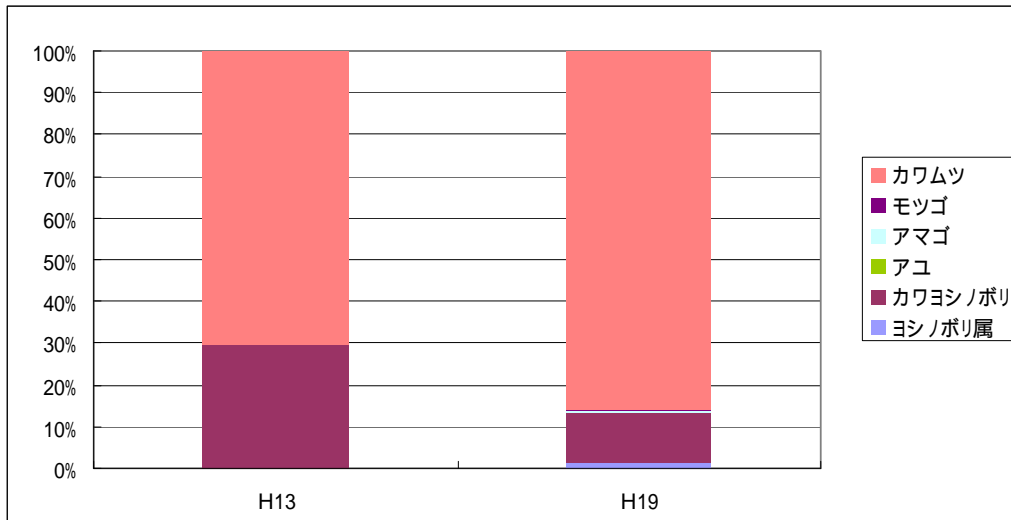


図 6.3.2-16 種別確認割合の推移: 魚類(深谷川)

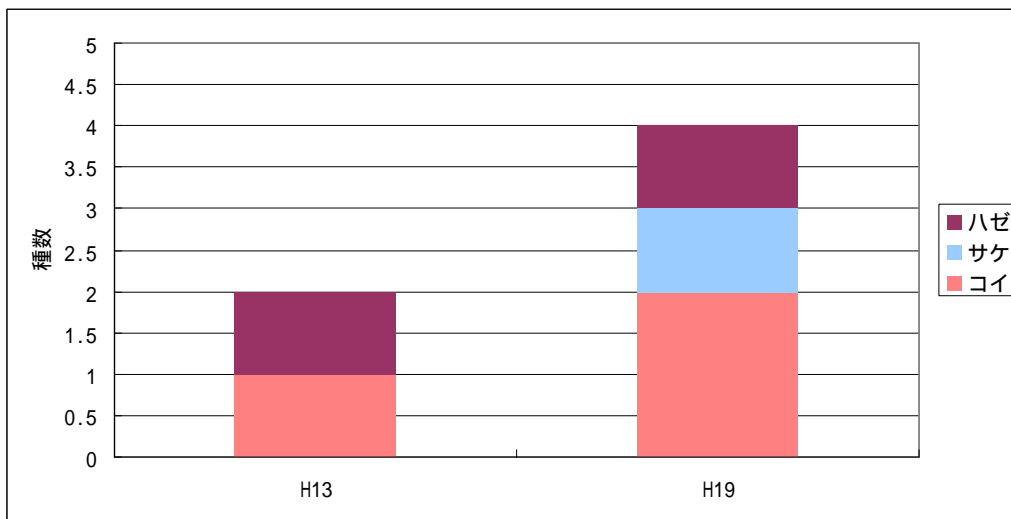


図 6.3.2-17 科別確認種数の推移: 魚類(深谷川)

b)回遊性魚類の変化の整理

回遊性魚類の変化は、これまでの調査で流入河川において生息が確認された種のなかで、繁殖形態等の生態的な条件から、本来であれば回遊性となる種について既存文献を参考に抽出し、これらの種について整理を行った。なお、抽出した種のほとんどは、ダム湖等の河川横断構造物がある場合、容易に陸封する種であり、また平成 19 年度に実施した陸封アユ再生調査によると、室生ダムではアユの再生産が確認されている。

これまでの調査において、流入河川で確認された回遊性魚類の一覧は表 6.3.2-7、またその推移は図 6.3.2-18～図 6.3.2-20 に示すとおりである。

回遊性魚類については、これまでの調査により、アマゴといった遡河回遊魚や、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブといった両側回遊魚が確認されている。また、確認種数については、平成 4 年度から平成 5 年度にかけては 2～3 種であるが、平成 19 年度には 5 種と増加している。

個体数については、平成 4 年度から平成 5 年度にかけて急増、平成 8 年度までは増加を示していたが、以降は減少に転じ、平成 13 年度から平成 19 年度にかけては概ね横ばいとなっている。また、優占種の推移についてみると、平成 5 年度及び平成 8 年度ではトウヨシノボリが優占種となり、両年度ともに確認個体数の 80%以上を占めていた。しかし、平成 13 年度には 52%に減少し、平成 19 年度では 15%になっている。一方、増加を示しているのがウキゴリであり、平成 4 年度から徐々に増加し、平成 13 年度から平成 19 年度にかけては、2 倍程度の生息量となっている。このほか、経年的にアユが確認されているが、個体数は少ない状況にある。

表 6.3.2-7 経年確認種一覧:回遊性魚類

No	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	サケ	サケ	アマゴ					0.2
2			アユ	アユ	1.8	3.0	0.5	2.3	2.8
3		スズキ	ハゼ	ウキゴリ	0.5	2.0	7.0	9.0	17.3
4				トウヨシノボリ		29.0	33.0	12.0	4.0
5				ヌマチチブ					1.5
1 綱 2 目 3 科 5 種					2 種	3 種	3 種	3 種	5 種
					2.3 個体	34.0 個体	40.5 個体	23.3 個体	25.8 個体

注)1.表中の数は、1 地点/調査回あたりの個体数を示す。

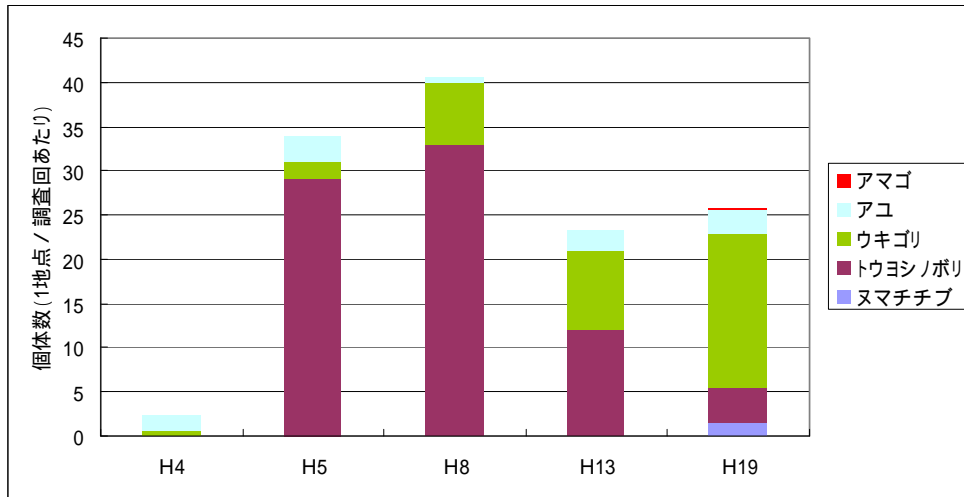


図 6.3.2-18 種別確認個体数の推移:回遊性魚類

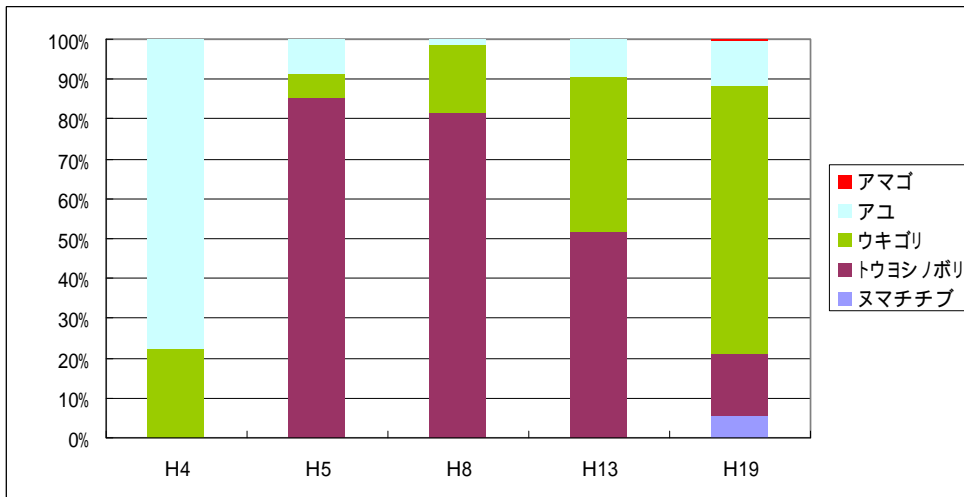


図 6.3.2-19 種別確認割合の推移:回遊性魚類

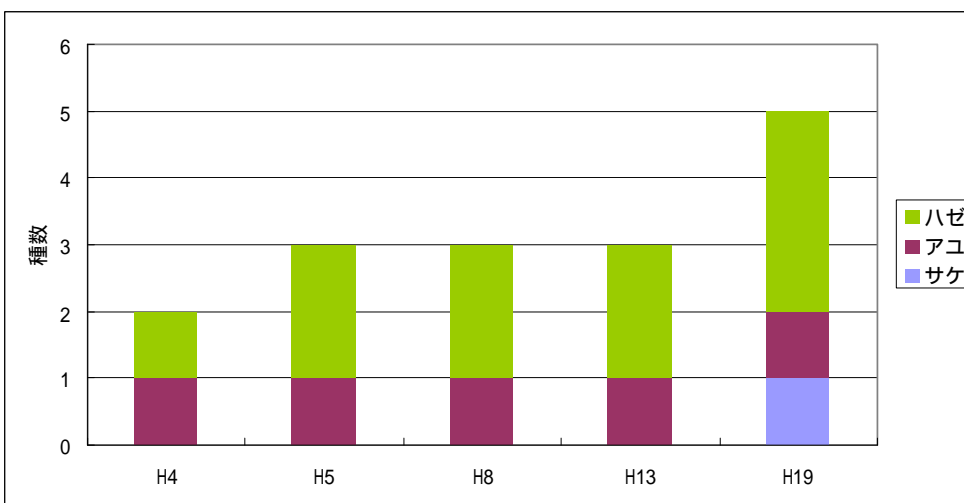


図 6.3.2-20 確認種数の推移:回遊性魚類



宇陀川の魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(宇陀川)で確認された回遊性魚類の一覧は表 6.3.2-8、またその推移は図 6.3.2-21～図 6.3.2-23 に示すとおりである。

回遊性魚類については、これまでの調査により、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリが確認されている。また、種数については、平成 4 年度から平成 19 年度にかけては 2～3 種で推移しており、大きな違いはみられない。

個体数については、増加傾向にあるが、流入河川全体の割合と比較すると、回遊性魚類の確認個体数は、非常に少ない状態となっている。なお、増加傾向にある種はウキゴリであり、このほか平成 19 年度ではトウヨシノボリも確認されている。

表 6.3.2-8 経年確認種一覧:回遊性魚類(宇陀川)

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度	
					H4	H19
1	硬骨魚	サケ	アユ	アユ	1.8	1.8
2		スズキ	ハゼ	ウキゴリ	0.5	2.3
3				トウヨシノボリ		0.5
1 綱 2 目 2 科 3 種					2 種	3 種
					2.3 個体	4.7 個体

注)1.表中の数は、1 地点/調査回あたりの個体数を示す。

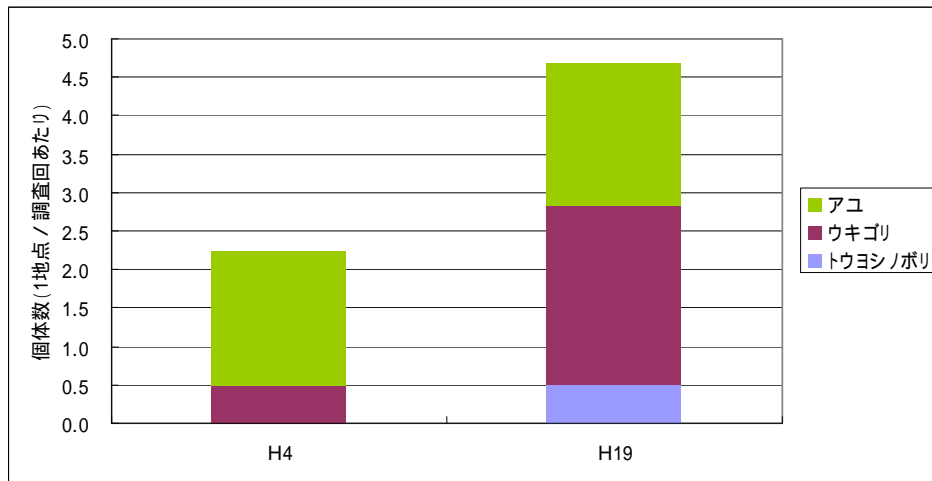


図 6.3.2-21 種別確認個体数の推移:回遊性魚類(宇陀川)

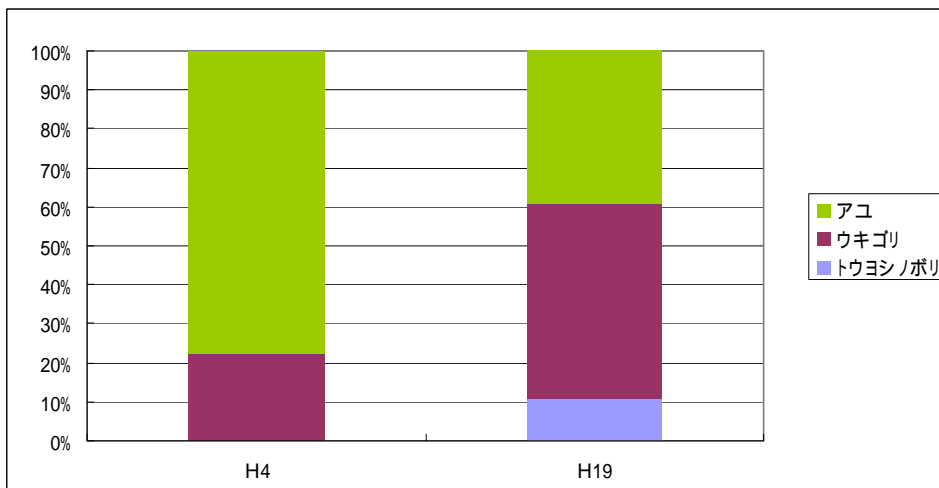


図 6.3.2-22 種別確認割合の推移:回遊性魚類(宇陀川)



図 6.3.2-23 確認種数の推移:回遊性魚類(宇陀川)

天満川の魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(天満川)で確認された回遊性魚類の一覧は表 6.3.2-9、またその推移は図 6.3.2-24～図 6.3.2-26 に示すとおりである。

回遊性魚類については、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブといった種が確認されている。また、確認種数については、平成 4 年度では確認されていないが、平成 5 年度から平成 12 年度までは 3 種、平成 19 年度にはヌマチチブが新たに確認されて 4 種となっている。

個体数については、平成 5 年度から平成 8 年度にかけては増加しているが、以降は減少傾向にあり、平成 13 年度から平成 19 年度にかけては微減傾向にある。また、優占種の推移についてみると、平成 5 年度から平成 8 年度まではトウヨシノボリが優占種となり、両年度ともに 80%以上を占めていた。しかし、平成 12 年度には 52%に減少、平成 19 年度では 17%になっている。一方、増加を示しているのがウキゴリであり、平成 5 年度から徐々に増加し、平成 19 年度では確認個体数の 71%を占めるまでに増加している。このほか、経年的にアユが確認されているが、個体数は少ない状況にある。

表 6.3.2-9 経年確認種一覧:回遊性魚類(天満川)

No	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度				
					H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚	サケ	アユ	アユ		3.0	0.5	2.3	1.0
2		スズキ	ハゼ	ウキゴリ		2.0	7.0	9.0	15.0
3				トウヨシノボリ		29.0	33.0	12.0	3.5
4				ヌマチチブ					1.5
1 綱 2 目 2 科 4 種					0 種	3 種	3 種	3 種	4 種
					0.0 個体	34.0 個体	40.5 個体	23.3 個体	21.0 個体

注)1.表中の数は、1 地点/調査回あたりの個体数を示す。

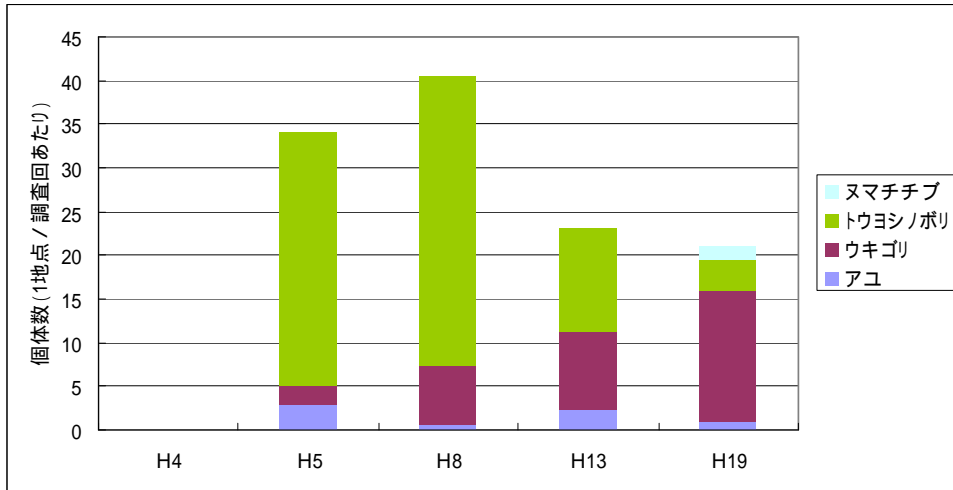


図 6.3.2-24 種別確認個体数の推移: 回遊性魚類(天満川)

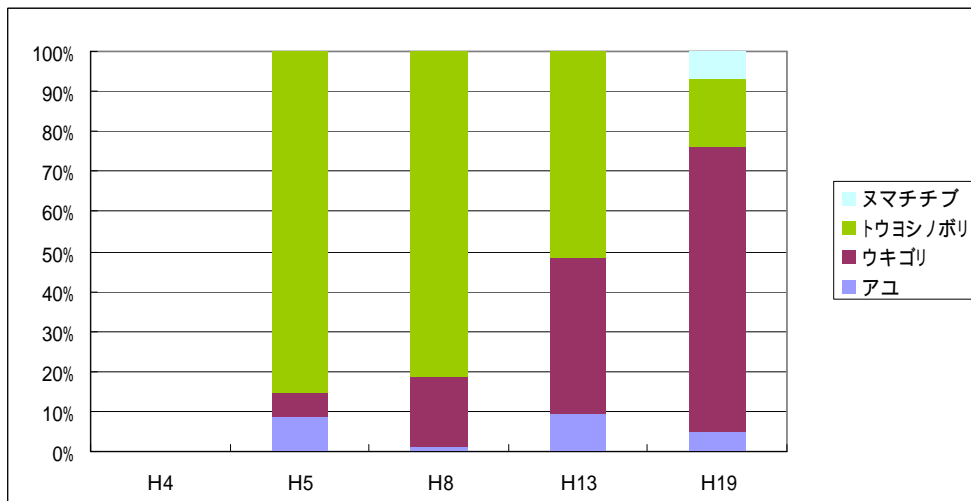


図 6.3.2-25 種別確認割合の推移: 回遊性魚類(天満川)

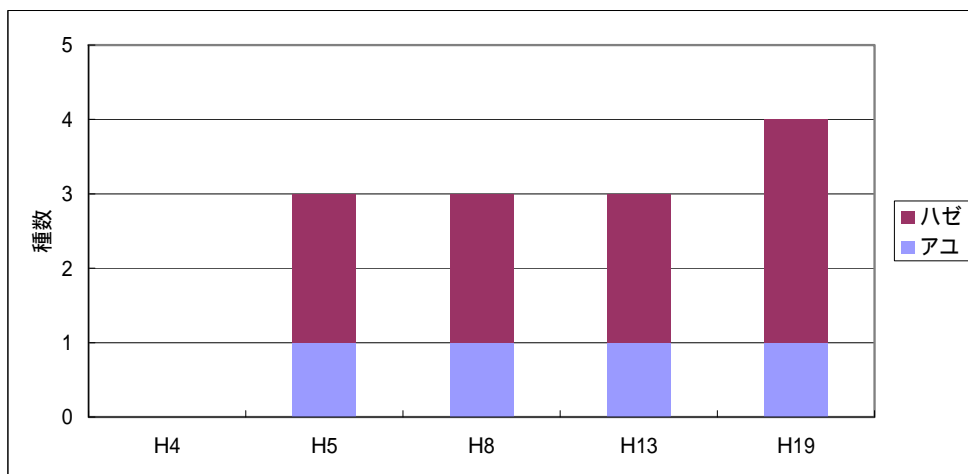


図 6.3.2-26 確認種数の推移: 回遊性魚類(天満川)

### 深谷川の魚類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(深谷川)で確認された回遊性魚類の一覧は表 6.3.2-10 に示すとおりである。

回遊性魚類については、アマゴ1種が確認されている。また、確認年度は平成19年度のみであり、また個体数も非常に少ない状況となっている。

表 6.3.2-10 経年確認種一覧:回遊性魚類(深谷川)

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度	
					H13	H19
1	硬骨魚	サケ	サケ	アマゴ		0.5
1綱1目1科1種					0種	1種
					0.0 個体	0.5 個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

### c)重要種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.2-11、またその推移は図 6.3.2-27～図 6.3.2-29 に示すとおりである。

流入河川における重要種については、自然分布と考えられるギギ、アマゴ、メダカ、ウキゴリ、カワヨシノボリの5種、放流が由来であると考えられる種は、ハス、ホンモロコ、スゴモロコ、アユ、タウナギの5種がそれぞれ確認されている。

個体数については、自然分布であると考えられる種は、経年とともに概ね増加する傾向がみられており、特にウキゴリの増加が著しい。また、放流等が由来であると考えられる種については、平成4年度が最も多く、平成5年度から平成12年度までは少なくなっていたが、平成13年度には増加に転じている。

以下に各流入河川別の確認状況について示す。

### 宇陀川

平成4年度では、自然分布であると考えられるギギ、ウキゴリは少数の確認であり、放流が由来であると考えられるスゴモロコやアユが比較的多く確認されていた。しかし、平成19年度には自然分布であると考えられるこれらの2種は、大きく増加するとともに、新たに多くのカワヨシノボリが確認されているほか、メダカも確認されている。一方、放流等が由来であると考えられる種については、スゴモロコが減少しているほかは、平成19年度に新たにタウナギが確認されている。なお、アユは微増となっている。

天満川

自然分布と考えられるウキゴリやカワヨシノボリ、放流等が由来であると考えられるアユ、タウナギの4種が確認されている。このうち、ウキゴリは平成5年度から確認されているが、徐々に個体数は増加し、平成19年度には90個体が確認されている。また、アユは平成5年度から継続的に確認されているが、いずれの調査年度も10個体以下となっている。このほか、タウナギは平成13年度に4個体、平成19年度に2個体がそれぞれ確認されている。

深谷川

自然分布と考えられるアマゴ、カワヨシノボリのほか、放流等が由来であると考えられるアユ(潜水観察)が確認されている。このうち、アマゴ及びアユは、平成19年度に各1個体のみの確認である。また、カワヨシノボリは平成13年度に55個体が確認されているが、平成19年度には32個体と減少傾向にある。

表 6.3.2-11 経年確認種一覧:重要種

分類	No.	科名	種名(和名)	河川名	選定基準				調査年度					
					天然	保存法	環境省	奈良県	H4	H5	H8	H13	H19	
自然分布	1	ギギ	ギギ	宇陀川				希少	4				35	
	2	サケ	アマゴ	深谷川			NT						1	
	3	メダカ	メダカ	宇陀川			VU	希少					2	
	4	ハゼ	ウキゴリ	宇陀川				希少	2				14	
				天満川						2	14	36	90	
	5	カワヨシノボリ		宇陀川				希少					49	
				天満川									1	
				深谷川								55	32	
	4科5種					0種	0種	2種	4種	2種	1種	1種	2種	5種
										6	2	14	91	224
									個体	個体	個体	個体	個体	
放流等由来	6	コイ	ハス	宇陀川			VU		2				2	
	7		ホンモロコ	宇陀川			CR						1	
	8		スゴモロコ	宇陀川			NT		23				2	
	9	アユ	アユ	宇陀川				絶寸	7				11	
				天満川						3	1	9	6	
				深谷川									1	
	10	タウナギ	タウナギ	宇陀川			EN						3	
天満川											4	2		
3科5種					0種	0種	4種	1種	3種	1種	1種	2種	5種	
									32	3	1	13	28	
									個体	個体	個体	個体	個体	
7科10種					0種	0種	6種	5種	5種	2種	2種	4種	10種	
									38	5	15	104	252	
									個体	個体	個体	個体	個体	

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

3.自然分布 - 自然分布であると考えられる重要種。

放流等由来 - 釣りの対象として放流されたり、アユなどの放流に混雑してきた可能性が高いと考えられる種。

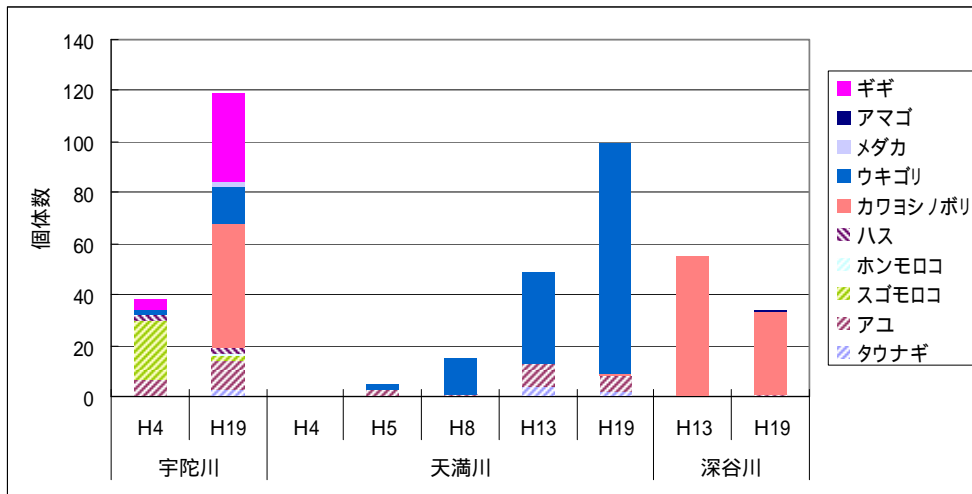


図 6.3.2-27 種別確認個体数の推移:重要種

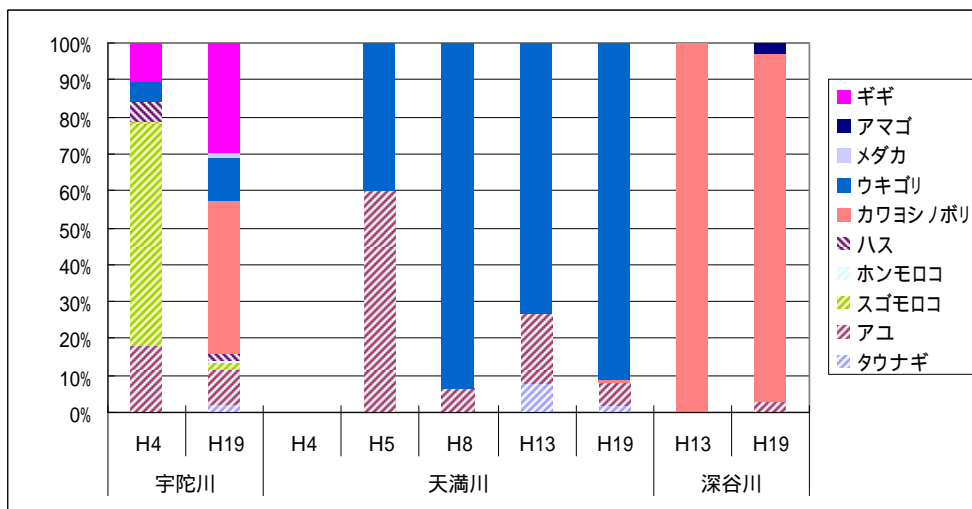


図 6.3.2-28 種別確認割合の推移:重要種

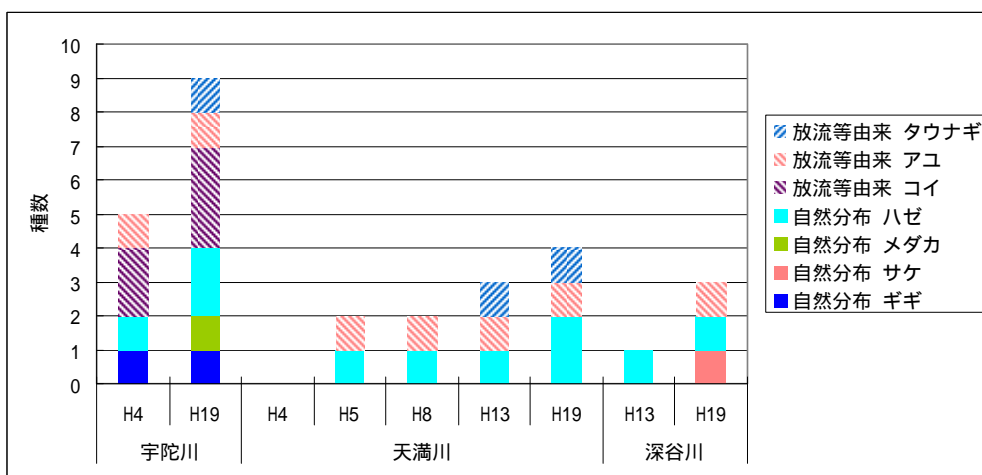


図 6.3.2-29 確認種数の推移:重要種

d) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された外来種の一覧は表 6.3.2-12 に示すとおりである。

流入河川の外来種については、平成 8 年度までは確認されていないが、平成 13 年度に 4 個体、平成 19 年度に 5 個体のタウナギが確認されている。

表 6.3.2-12 経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	河川名	選定基準		調査年度				
				1	2	H4	H5	H8	H13	H19
1	タウナギ	タウナギ	宇陀川							3
			天満川						4	2
1科1種				0種	1種	0種	0種	0種	1種	1種
						0 個体	0 個体	0 個体	4 個体	5 個体

注)1. 表中の数は、確認個体数を示す

2. 選定基準 1: 特定外来生物法 2: 外来種ハンドブック

(b) エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の調査は、これまでに計 4 回実施されている。しかし、各調査年度ともに、実施した調査地点数や調査回数が異なっている。そのため、エビ・カニ・貝類の変化の整理にあたっては、調査地点数及び調査回数を考慮に入れて、1 地点/調査回あたりの確認個体数を算出し、比較することとした。

各調査年度における流入河川の調査地点数及び調査回数は、表 6.3.2-13 に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表 6.3.2-2 に示すとおりであり、経年とともに調査手法が多様化する傾向がみられる。

また、流入河川については、本流となる宇陀川のほか、市街地を貫流し流入する天満川、山間溪流となる深谷川の 3 河川で実施しているが、宇陀川は平成 4 年度、深谷川は平成 13 年度のみの実施となっている。そのため、全体の変化の整理とともに、経年的に調査が実施されている天満川の変化についても整理した。

また、調査実施時における流入河川の水位は、図 6.3.2-1～図 6.3.2-5 に示すとおりである。

表 6.3.2-13 調査実施状況一覧: エビ・カニ・貝類

調査地点数 及び回数		調査年度			
		H4	H5	H8	H13
調査 地点数	宇陀川	1			
	天満川	1	1	1	1
	深谷川				1
調査回数		2	1	2	2
調査時期		8月・10月	9月	7月・10月	8月・10月



a)エビ・カニ・貝類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認されたエビ・カニ・貝類の一覧は表 6.3.2-14、またその推移は図 6.3.2-30～図 6.3.1-31 に示すとおりである。

流入河川のエビ・カニ・貝類については、カワニナやスジエビといった種が継続的に確認されているほか、マシジミ、テナガエビ、サワガニといった種が確認されている。確認種数については、各調査年度ともに3～4種で大きな違いはみられない。

個体数については、平成4年度から平成8年度までは増加傾向にあり、以降、平成13年度にかけては概ね横ばいとなっている。なお、個体数の増減には、スジエビの増減に拠るところが大きい。

表 6.3.2-14 経年確認種一覧:エビ・カニ・貝類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
					H4	H5	H8	H13
1	マキガイ	ニナ	カワニナ	カワニナ	0.5	2.0	4.5	6.0
2	ニマイガイ	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ				0.3
3	甲殻	エビ	テナガエビ	テナガエビ	0.5			
4				スジエビ	0.5	4.0	52.5	33.3
5			サワガニ		1.0	2.5	4.8	
3綱3目4科5種					3種	3種	3種	4種
					1.5 個体	7.0 個体	59.5 個体	44.3 個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

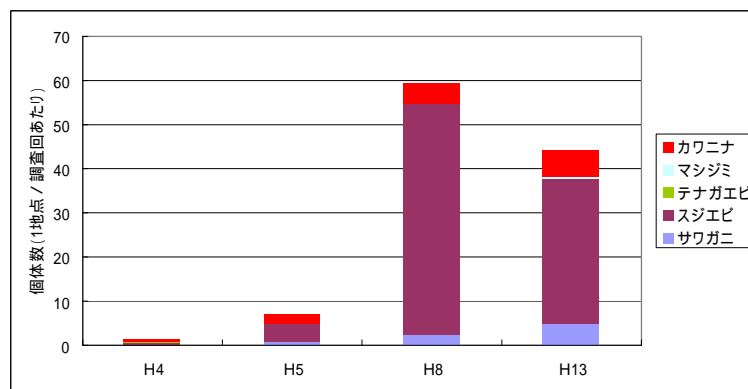


図 6.3.2-30 種別確認個体数の推移:エビ・カニ・貝類

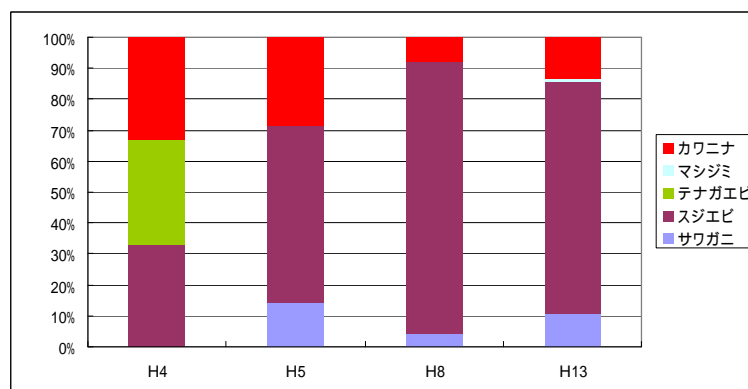


図 6.3.2-31 種別確認割合の推移:エビ・カニ・貝類

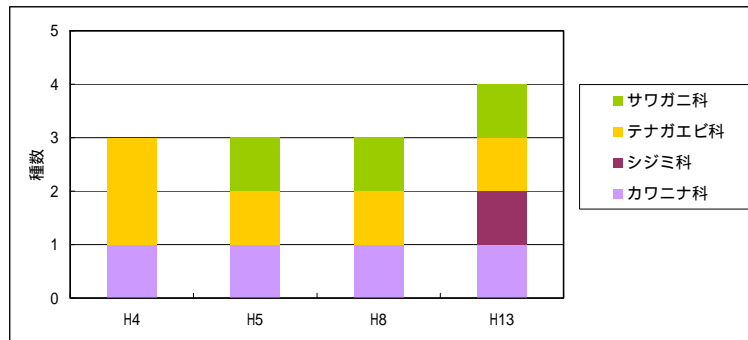


図 6.3.2-32 確認種数の推移:エビ・カニ・貝類

天満川のエビ・カニ・貝類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川(天満川)で確認されたエビ・カニ・貝類の一覧は表 6.3.2-15、またその推移は図 6.3.2-33～図 6.3.2-35 に示すとおりである。

流入河川のエビ・カニ・貝類については、カワナやスジエビといった種が継続的に確認されているほか、マシジミ、テナガエビ、サワガニといった種が確認されている。確認種数については、各調査年度ともに微増傾向にあり、平成 13 年度では 4 種が確認されている。

個体数については、平成 4 年度から平成 8 年度までは増加傾向にあり、以降、平成 13 年度にかけては減少傾向にある。なお、個体数の増減には、スジエビの増減に拠るところが大きい。

表 6.3.2-15 経年確認種一覧:エビ・カニ・貝類(天満川)

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
					H4	H5	H8	H13
1	マキガイ	ニナ	カワナ	カワナ	0.3	2.0	4.5	2.8
2	ニマイガイ	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ				0.3
3	甲殻	エビ	テナガエビ	テナガエビ	0.5			
4				スジエビ		4.0	52.5	33.3
5			サワガニ	サワガニ		1.0	2.5	1.3
3綱3目4科5種					2種	3種	3種	4種
					0.8 個体	7.0 個体	59.5 個体	37.5 個体

注)1.表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。

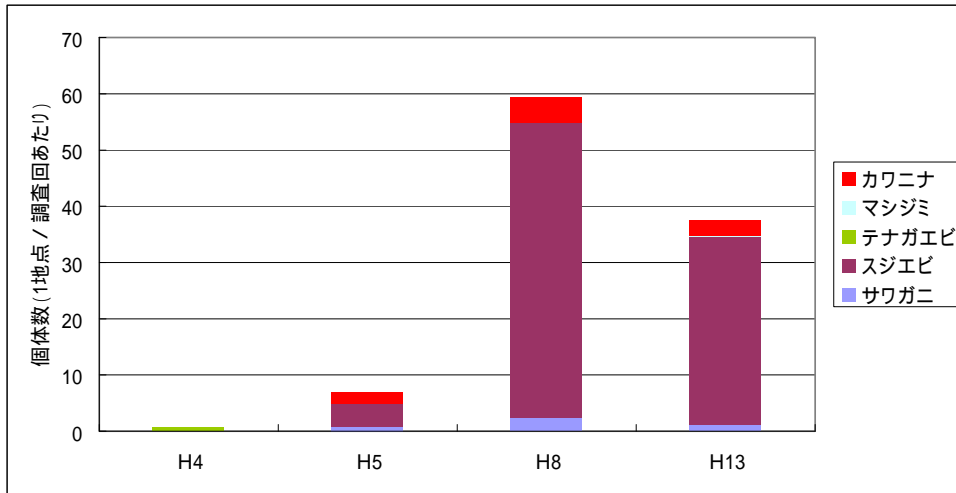


図 6.3.2-33 種別確認個体数の推移:エビ・カニ・貝類(天満川)

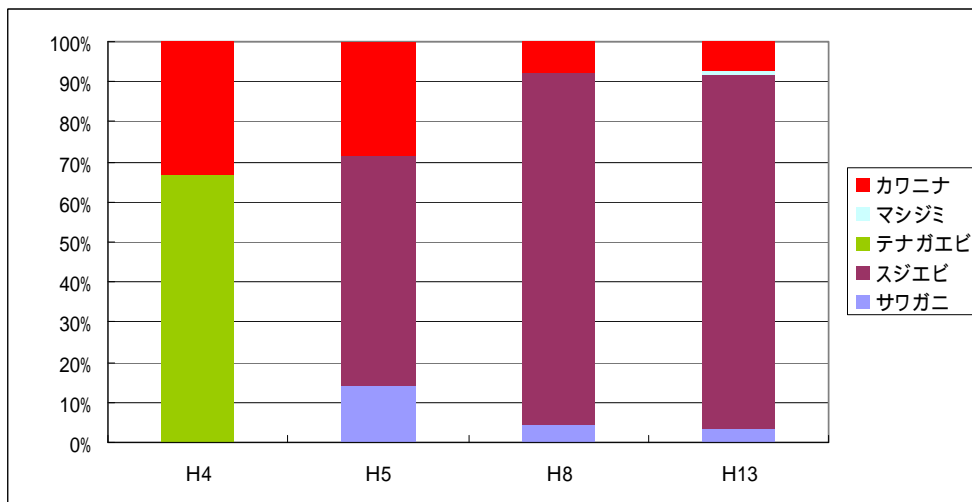


図 6.3.2-34 種別確認割合の推移:エビ・カニ・貝類(天満川)

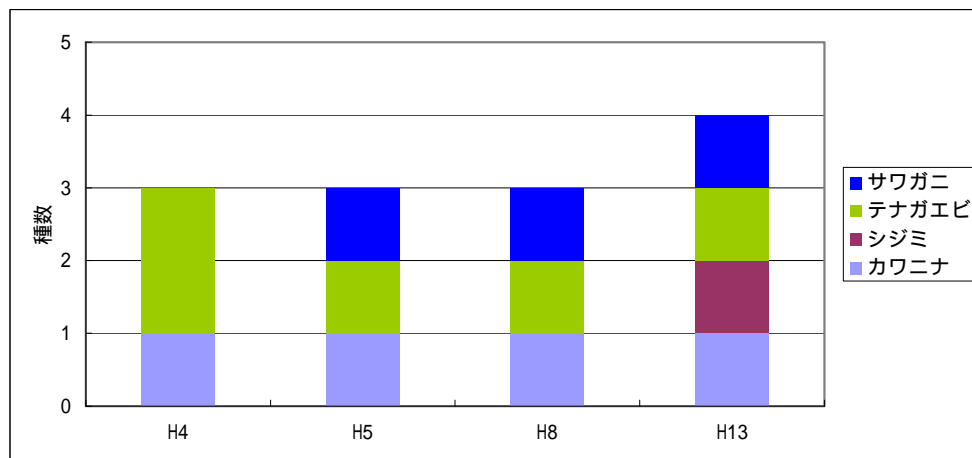


図 6.3.2-35 確認種数の推移:エビ・カニ・貝類(天満川)

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.2-16 に示すとおりである。

流入河川における重要種については、平成 13 年度にマシジミが 1 個体確認されている。

表 6.3.2-16 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	河川名	選定基準				調査年度			
				1	2	3	4	H4	H5	H8	H13
1	シジミ	マシジミ	天満川			NT					1
1科1種				0種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	1種

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川では外来種は確認されていない。

2)底生動物

底生動物の調査は、これまでに計 5 回実施されている。このうち、平成 7 年度、平成 12 年度、平成 17 年度調査については年 3 回の実施、平成 20 年度は年 2 回の実施、平成 5 年度は年 1 回の実施となっている。また、調査手法については、平成 5 年度以外は定量採集及び定性採集を実施しているが、平成 5 年度調査は定量採集調査のみとなっている。

各調査年度における流入河川の調査地点、及び調査回数は表 6.3.2-17 に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表 6.3.2-18 に示すとおりである。

また、調査実施時における流入河川の水量は、図 6.3.2-36～図 6.3.2-40 に示すとおりである。

表 6.3.2-17 調査実施状況一覧:底生動物

調査地点数及び回数			調査年度				
			H5	H7	H12	H17	H20
調査 地点数	宇陀川	定量採集	1	1	1	1	3
		定性採集	-	3	4	4	4
	天満川	定量採集	1	1	1	1	3
		定性採集	-	1~2	4	4	4
	深谷川	定量採集	1	1	1	1	3
		定性採集	-	2	4	4	4
調査回数			1	3	3	3	2
調査時期			9月	7~8月 12月・2月	7月・10月 1月	7月・10月 1月	8月・4月

注)1. :調査実施時期によって、調査箇所数が異なる

表 6.3.2-18 調査内容一覧:底生動物

調査年度		H5	H7	H12	H17	H20	
調査番号		2	4	10	17	21	
調査地点	区分	下流河川	放水口	(定量・定性)No.1	(定量・定性)No.1	(定量・定性)St.1	淀室下1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	(定点)No.2, No.3, No.4 (定性)1,2,3,4,5	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7,8	淀室湖1, 淀室湖2, 淀室湖3, 淀室湖6, 淀室湖7
		流入河川	天満川(早瀬,植物帯), 高倉橋(平瀬,植物帯), 内牧川(平瀬,植物帯)	(定量・定性)No.5, No.6, No.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	淀室入1, 淀室入2, 淀室入3
		その他	-	-	-	-	淀室他1(水質保全ダム)
調査方法	定点調査	採泥器等による採取 (0.25m <sup>2</sup> )	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回程度	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回	
	定性調査		ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	
	定量調査		サーバーネット(25cm×25cm)	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×6回	
調査時期	夏季	-	H7.7.20~21、8.23	H12.7.19~21	H17.10.19~20	H20.8.25~26	
	冬季	-	H7.12.20~21	H12.11.8~9	H18.1.14~15	-	
	早春季	-	H8.2.21~22	H13.1.12~13	H17.7.2~3	H20.4.21~22	
	その他	H5.9.21	-	-	-	-	

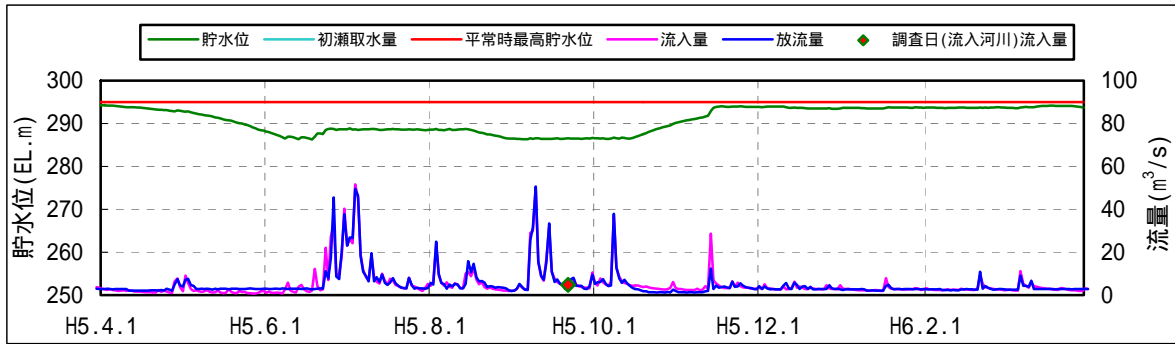


図 6.3.2-36 調査実施時の流況(平成 5 年度)

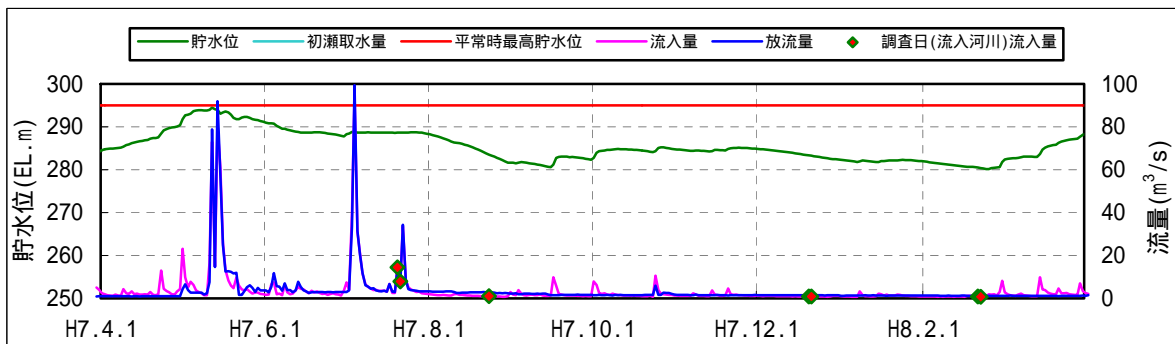


図 6.3.2-37 調査実施時の流況(平成 7 年度)

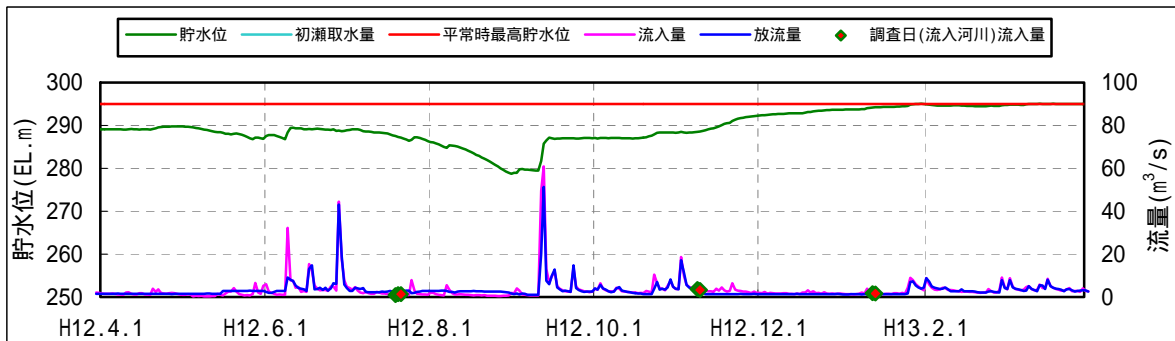


図 6.3.2-38 調査実施時の流況(平成 12 年度)

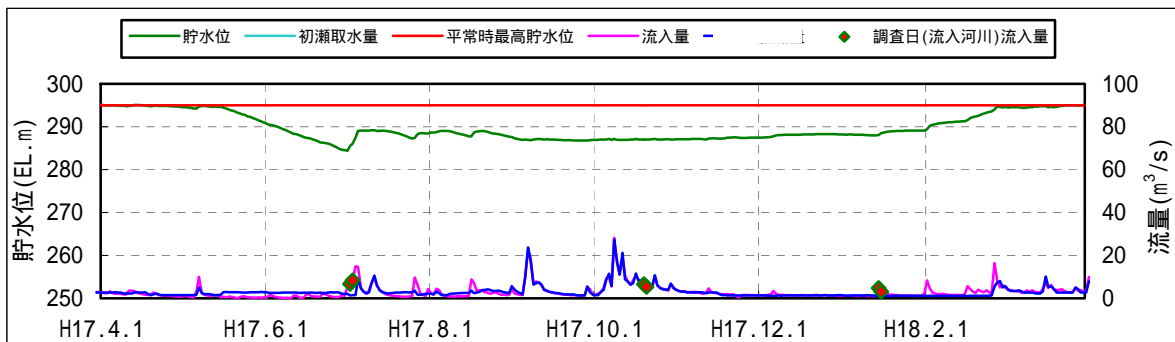


図 6.3.2-39 調査実施時の流況(平成 17 年度)

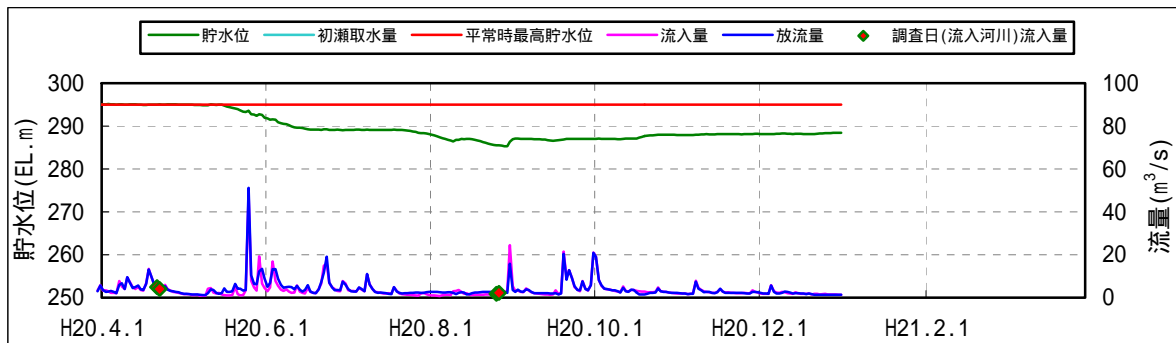


図 6.3.2-40 調査実施時の流況(平成 20 年度)

(a)底生動物相の変化の整理

これまでの調査において流入河川で確認された底生動物の綱目別科種数表は、表 6.3.2-19、またその推移については図 6.3.2-41～図 6.3.2-42 に示すとおりである。

流入河川の底生動物については、いずれの調査年度においてもカゲロウ目のヒラタカゲロウ科やコカゲロウ科、シマトビケラ科等をはじめとした流水性種が優占している。また、確認種数については、平成 5 年度から平成 17 年度にかけて増加し、以降は概ね横ばいとなっている。なお、増加の割合が高い分類群は、カゲロウ目やハエ目である。また、トンボ目、カワゲラ目、トビケラ目については、平成 7 年度から平成 12 年度にかけて種数が増加し、以降平成 20 年度までは概ね横ばいとなっているが、そのほとんどが継続的な確認となっている。

なお、平成 5 年度は、定量採集のみの実施であることから、確認種数が極端に少なくなっているものと考えられる。

表 6.3.2-19 経年分類群別確認種一覧:底生動物

綱名	目名	H5		H7		H12		H17		H20		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
普通海綿	ザラカイメン							1	1			1	1
ウズムシ	ウズムシ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ひも(紐)形動物門						1	1	1	1	1	1	1	1
線形動物門								1	1			1	1
マキガイ	ニナ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	モノアラガイ	1	1	1	1	2	2	2	2	3	4	4	5
ニマイガイ	マルスタレガイ					2	2	2	2	2	2	3	3
ミミズ	オヨギミミズ							1	1	1	1	1	1
	ナガミミズ			4	4	4	4	3	7	6	10	8	14
ヒル	ノドビル			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
クモ	ダニ							1	1			1	1
甲殻	ワラジムシ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ヨコエビ					1	1					1	1
	エビ	1	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3
昆虫	カゲロウ	4	9	9	27	8	28	10	42	10	38	10	50
	トンボ	4	5	6	10	7	18	7	19	8	19	8	26
	カワゲラ			3	7	6	12	7	13	5	12	7	17
	カメムシ	1	2	3	4	4	8	3	7	4	7	6	11
	アミメカゲロウ			1	1	2	3	1	2	1	2	2	3
	トビケラ	3	5	6	13	17	32	17	28	12	23	20	46
	チョウ					1	1	1	1			2	2
	ハエ	3	12	3	29	11	28	10	36	6	31	12	72
コウチュウ	1	1	1	1	6	9	5	11	7	14	7	21	
11 綱 23 目 102 科 283 種		20 科	38 種	43 科	103 種	79 科	156 種	80 科	182 種	73 科	171 種	102 科	283 種

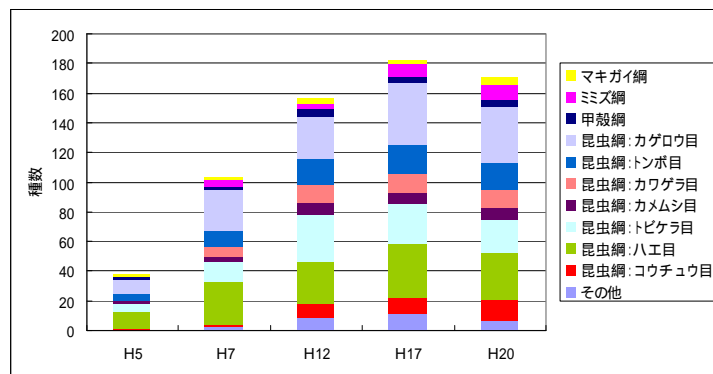


図 6.3.2-41 分類群別確認種数の推移:底生動物

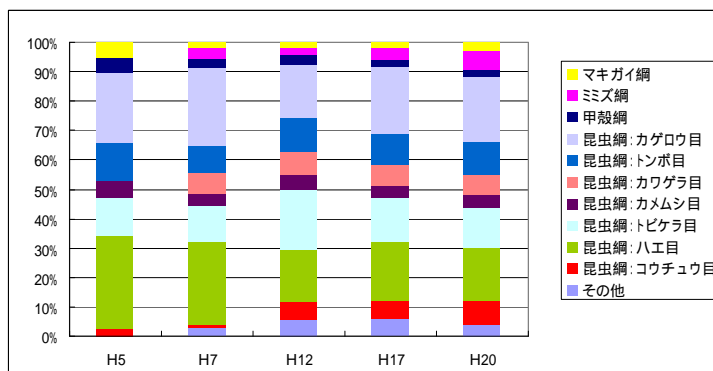


図 6.3.2-42 分類群別確認割合の推移:底生動物



(b) 優占種の変化の整理

流入河川の調査については、本流となる宇陀川のほか、市街地を貫流し流入する天満川、山間溪流となる深谷川の3河川で実施している。これらの河川は、それぞれの特徴が異なることから、各河川ごとに優占種の変化を整理することとした。

なお、これまでの調査では、平成5年度については1回のみ調査であるが、その他の調査年度は概ね夏季・冬季・早春季の3回(平成20年度は夏季・早春季の2回)の調査を実施しているため、変化の整理にあたっては、平成7年度から平成20年度までに実施している4回の調査結果について整理することとした。

a) 宇陀川における優占種の変化の整理

宇陀川における優占種(定量採集)の推移の一覧は、表6.3.2-20、図6.3.2-43～図6.3.2-44に示すとおりである。

優占種については、平成7年度はウルマーシマトビケラやCheumatopsyche属等のシマトビケラ科が上位となる傾向がみられるが、平成12年度以降はミズミズ科やAntocha属、エリユスリカ亜科といった種が第一優占種となる傾向がみられる。個体数については、調査実施年度や時期によってばらつきがみられるが、平成20年度が特に多い状況になっている。ただし、この増加は確認されている種のうち、アカマダラカゲロウが非常に多く確認されたことに起因している。なお、このような優占種や生息量の大きな変化は、出水による影響の可能性があると考えられる。宇陀川の上流側には、ダム等の出水をコントロールするような施設は設置されていない。そのため、出水時の掃流効果によって、優占種が大きく変化しているものと考えられる。また、水質指標に着目してみると、平成7年度では貧腐水性種～中腐水性種が多くを占めていたが、経年とともに貧腐水性種が減少する傾向がみられる。また、生活型別の出現個体数(m<sup>2</sup>あたり)について着目すると(図6.3.2-45～図6.3.2-46)、調査時期によって違いはみられるものの、概ねの傾向としては、掘潜型が増加する傾向がみられている。

表 6.3.2-20 優占種の推移:底生動物(宇陀川)

	夏季				冬季				早春			
	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標
H7	コガタシマトビケラ	256	28%	m	ウルマーシマトビケラ	172	42%	os	Cheumatopsyche属	246	54%	-
	オニヤンマ	208	22%	m	Cheumatopsyche属	168	41%	-	ウルマーシマトビケラ	144	31%	os
	ウルマーシマトビケラ	80	9%	os	Calopsectra属CA	8	2%	-	シロハラコカゲロウ	14	3%	os
	キロカワカゲロウ	80	9%	m	ナミイシビル	8	2%	m				
					Baetis属	8	2%	-				
H12	ウルマーシマトビケラ	1670	26%	os	ミズミズ科	1856	84%	m	Antocha属	272	77%	os
	ユスリカ亜科	1372	21%	-	ナガミズ目	90	4%	-	イトミズ科	38	11%	ps
	Cheumatopsyche属	1178	18%	-	エリユスリカ亜科	88	4%	-	Brillia属	16	5%	-
H17	Cheumatopsyche属	262	19%	-	Cheumatopsyche属	438	18%	-	エリユスリカ亜科	590	33%	-
	Hydropsyche属	140	10%	m	ミズミズ科	300	12%	m	ミズミズ科	394	22%	m
	ウルマーシマトビケラ	140	10%	os	ギフシマトビケラ	248	10%	m	Psychomyia属	216	12%	m
	ギフシマトビケラ	140	10%	m								
H20	アカマダラカゲロウ	6250	47%	m	未調査				イトミズ科	820	19%	ps
	ミツオミジカオフトバコカゲロウ	1210	9%	-					Orthocladius属	611	14%	-
	Cheumatopsyche属	1084	8%	-					Psychomyia属	355	8%	m

注)上位3種までを計上している。また、個体数はm<sup>2</sup>あたりの個体数を示す。

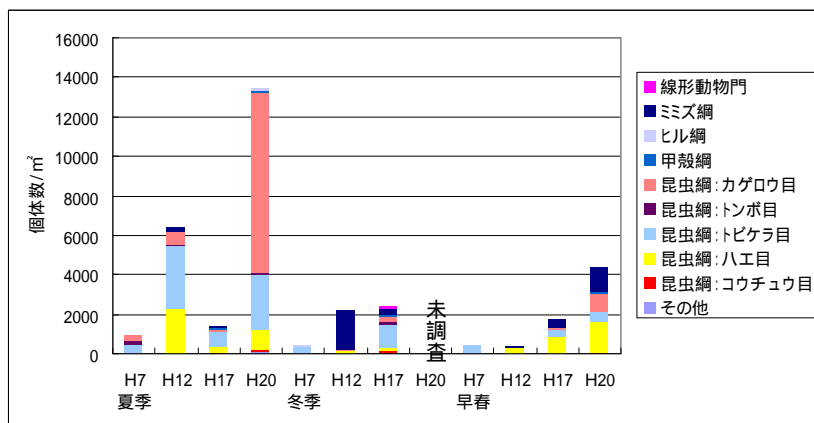


図 6.3.2-43 分類群別確認個体数の推移:優占種(宇陀川)

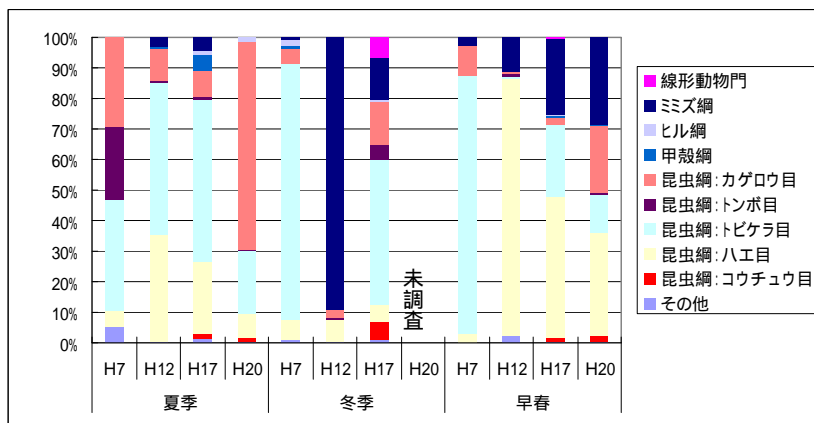


図 6.3.2-44 分類群別確認割合の推移:優占種(宇陀川)

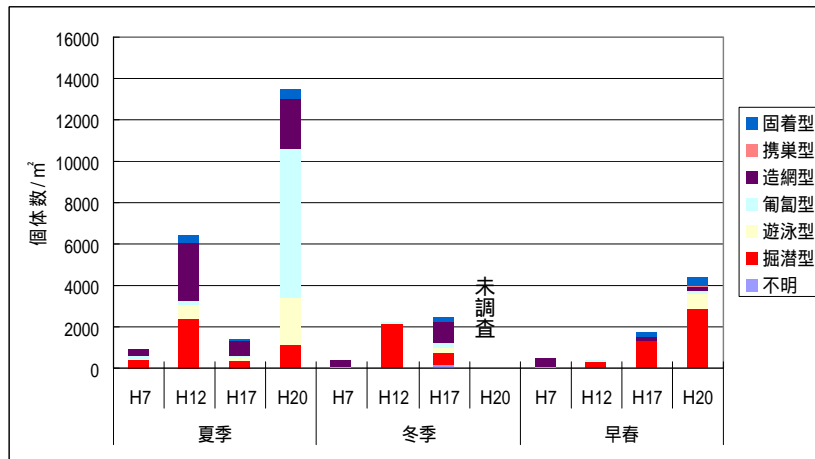


図 6.3.2-45 生活型別確認個体数の推移:優占種(宇陀川)

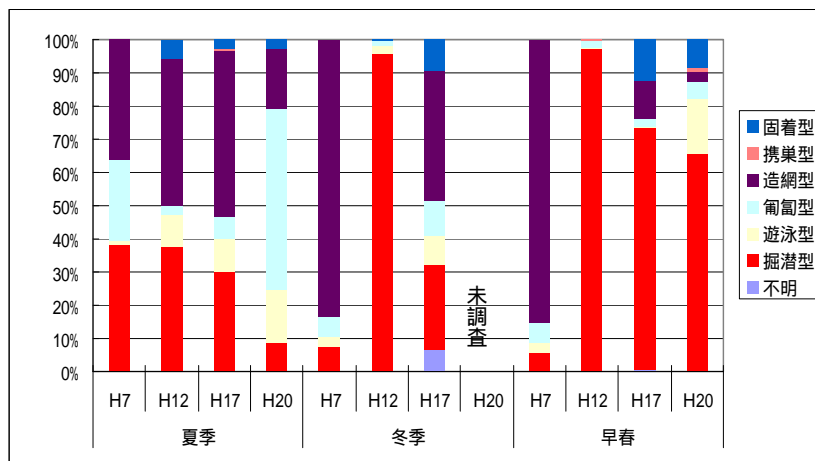


図 6.3.2-46 生活型別確認割合の推移:優占種(宇陀川)

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鉤着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

b)天満川における優占種の変化の整理

天満川における優占種(定量採集)の推移の一覧は表 6.3.2-21、図 6.3.2-47～図 6.3.2-48 に示すとおりである。

優占種については、平成7年度ではウルマーシマトビケラや Cheumatopsyche 属等のシマトビケラ科が上位となる傾向がみられるが、平成17年度になるとミズミズ科やミズムシ(甲殻綱)、エリユスリカ亜科が優占する傾向がみられている。また、平成20年度については、ウルマーシマトビケラや Cheumatopsyche 属等のシマトビケラ科が上位となる傾向がみられる。個体数については、季節によってばらつきはみられるが、概して平成12年度及び平成20年度が多くなる傾向がみられている。このような優占種や生息量の大きな変化は、出水による影響であると想定される。天満川の上流側には、ダム等の出水をコントロールするような施設は設置されていない。そのため、出水時の掃流効果によって、優占種が大きく変化しているものと考えられる。また、水質指標に着目してみると、平成17年度は中腐水性種が優占しているが、他の調査年度では、貧腐水性種が優占種に含まれている。

また、生活型別の出現個体数(m<sup>2</sup>あたり)について着目すると(図6.3.2-49～図6.3.2-50参照)、調査時期によって違いはみられるものの、造網型や遊泳型、掘潜型が優占する傾向がみられている。

表 6.3.2-21 優占種の推移:底生動物(天満川)

	夏季				冬季				早春			
	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標
H7	ウルマーシマトビケラ	736	77%	os	Cheumatopsyche 属	200	63%	-	オオクマダラカゲロウ	208	36%	os
	コガタシマトビケラ	168	18%	-	オオヤマシマトビケラ	32	10%	-	シロハラコカゲロウ	148	26%	os
	ヤマトコカゲロウ	16	2%	-	ミズムシ	20	6%	m	ミズムシ	60	10%	m
	アカマダラカゲロウ	16	2%	m	オオクマダラカゲロウ	20	6%	os	Cheumatopsyche 属	60	10%	-
H12	ウルマーシマトビケラ	2226	44%	os	Cheumatopsyche 属	1396	23%	-	シロハラコカゲロウ	334	30%	os
	サホコカゲロウ	828	16%	m	シロハラコカゲロウ	1258	21%	os	Antocha 属	238	21%	os
	Baetis 属	458	9%	-	ウルマーシマトビケラ	660	11%	os	ウルマーシマトビケラ	216	19%	os
H17	Cheumatopsyche 属	164	23%	-	ミズミズ科	612	35%	m	エリユスリカ亜科	174	28%	-
	ミズムシ	106	15%	m	エリユスリカ亜科	218	13%	-	ミズミズ科	100	16%	m
	Simulium 属	90	12%	-	Cheumatopsyche 属	212	12%	-	ミズムシ	54	9%	m
H20	Cheumatopsyche 属	1840	37%	-	未調査				Orthocladius 属	409	18%	-
	Hydropsyche 属	643	13%	-					Nais 属	398	17%	m
	ウルマーシマトビケラ	537	11%	os					ウルマーシマトビケラ	323	14%	os

注)上位3種までを計上している。また、個体数は m<sup>2</sup>あたりの個体数を示す。

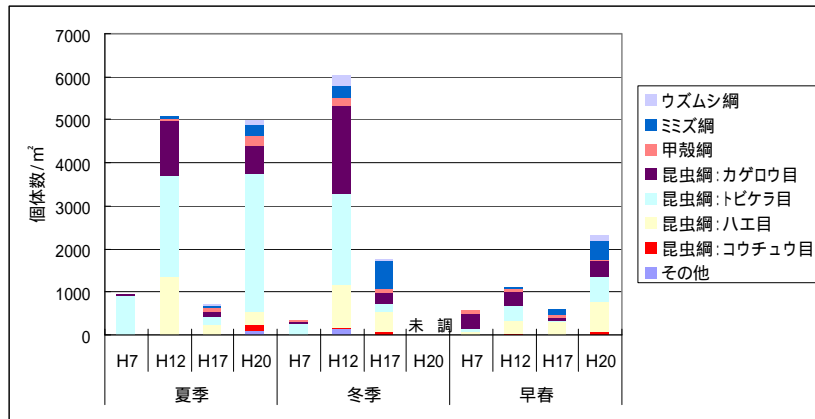


図 6.3.2-47 分類群別確認個体数の推移:底生動物(天満川)

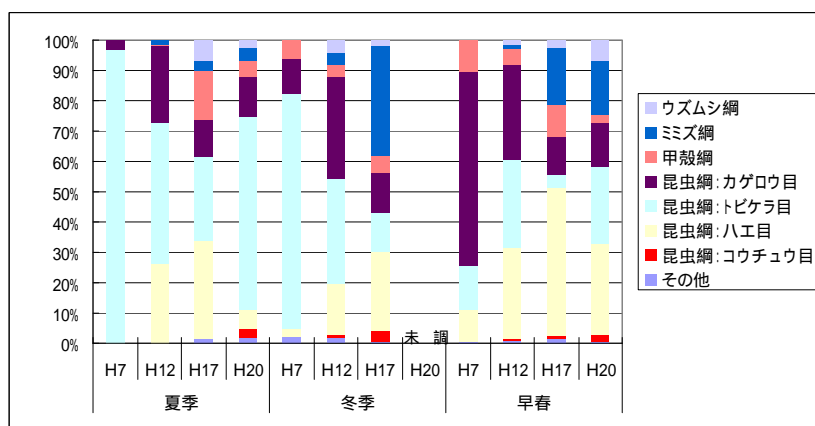


図 6.3.2-48 分類群別確認割合の推移:底生動物(天満川)

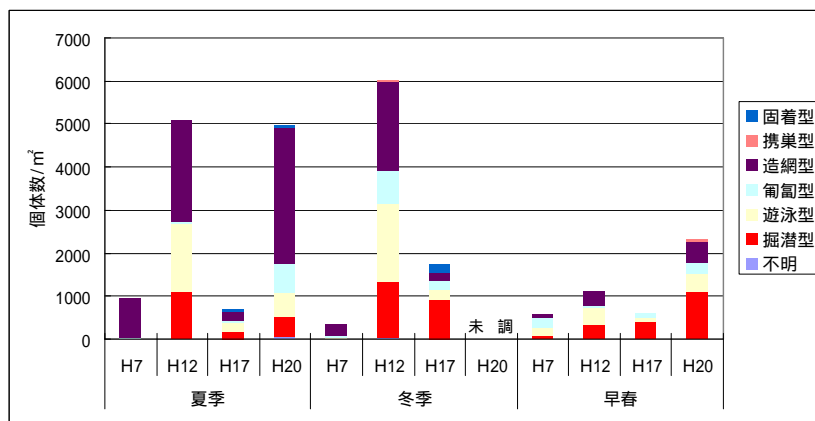


図 6.3.2-49 生活型別確認個体数の推移:底生動物(天満川)

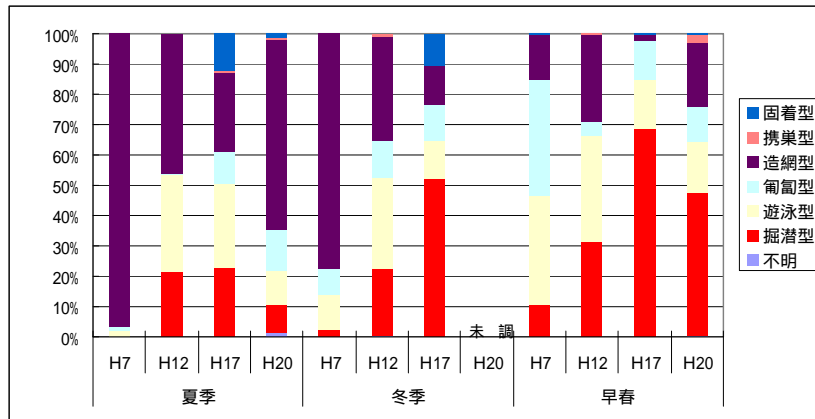


図 6.3.2-50 生活型別確認割合の推移:底生動物(天満川)

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鈎着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

c) 深谷川における優占種の変化の整理

深谷川における優占種(定量採集)の推移の一覧は、表 6.3.2-22、図 6.3.2-51 ~ 図 6.3.2-52 に示すとおりである。

優占種については、平成 7 年度ではカワゲラ類やオオマダラカゲロウといったカゲロウ類が上位を占めていたが、経年とともにこれらの種群は減少、平成 17 年度にはコカゲロウ類やユスリカ類、Simulium 属といった種が優占種となっている。また、個体数については、若干のばらつきはみられるものの、概ね増加傾向にある。なお、水質指標に着目してみると、いずれの調査年度も、貧腐水性種が優占種となっており、良好な水質が維持されていることがうかがえる結果となっている。

また、生活型別の出現個体数(m<sup>2</sup>あたり)について着目すると(図6.3.2-53~図6.3.2-54参照)、調査時期によって違いはみられるものの、概ねの傾向としては、夏季や冬季では匍匐型、早春季では匍匐型に加えて遊泳型が優占する傾向がみられている。

表 6.3.2-22 優占種の推移:底生動物(深谷川)

	夏季				冬季				早春			
	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標
H7	サワガニ	48	17%	os	アミメカワゲラ科	224	28%	-	マエグロヒメフタオカゲロウ	83	67%	os
	Paragnetina 属	48	17%	os	オオマダラカゲロウ	116	14%	m	オオクママダラカゲロウ	13	11%	os
	ムカシトンボ	32	11%	os	ヒゲナガカワトビケラ	116	14%	os	アミメカワゲラ科	9	7%	-
	Togoperla 属	32	11%	os								
H12	Microtendipes 属	172	13%	-	Epeorus 属	290	14%	-	シロハラコカゲロウ	214	16%	os
	Simulium 属	154	11%	-	シロハラコカゲロウ	268	13%	os	ナミヒラタカゲロウ	156	12%	os
	Polypedilum 属	130	10%	-	Lepidostona 属	140	7%	-	ヨシノコカゲロウ	128	9%	os
H17	Simulium 属	560	28%	-	シロハラコカゲロウ	32	8%	os	Prosimum 属	686	14%	-
	ヨシノマダラカゲロウ	502	25%	os	オオヤマシマトビケラ	32	8%	m	シロハラコカゲロウ	498	10%	os
	シロハラコカゲロウ	144	7%	os	Simulium 属	32	8%	-	ヨシノコカゲロウ	414	8%	os
H20	ヨシノコカゲロウ	136	13%	os					Paraleptophlebia 属	238	18%	os
	Ecdyonurus 属	123	12%	os					ヨシノコカゲロウ	232	17%	os
	カワゲラ科	75	7%	-					シロハラコカゲロウ	109	8%	os

注) 上位 3 種までを計上している。また、個体数は m<sup>2</sup> あたりの個体数を示す。

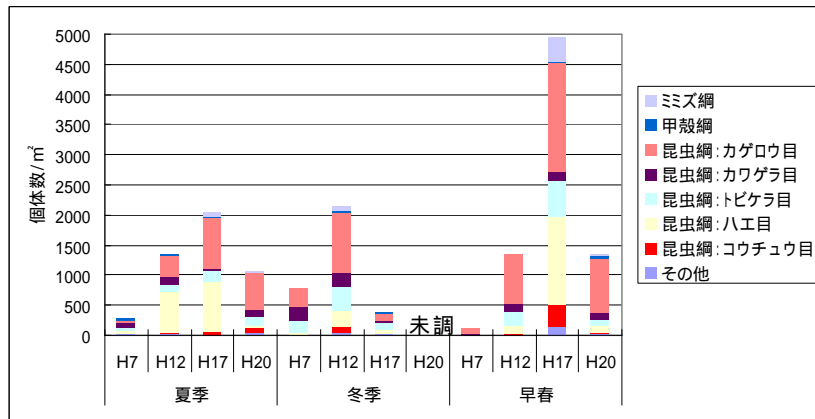


図 6.3.2-51 目別確認個体数の推移:底生動物(深谷川)

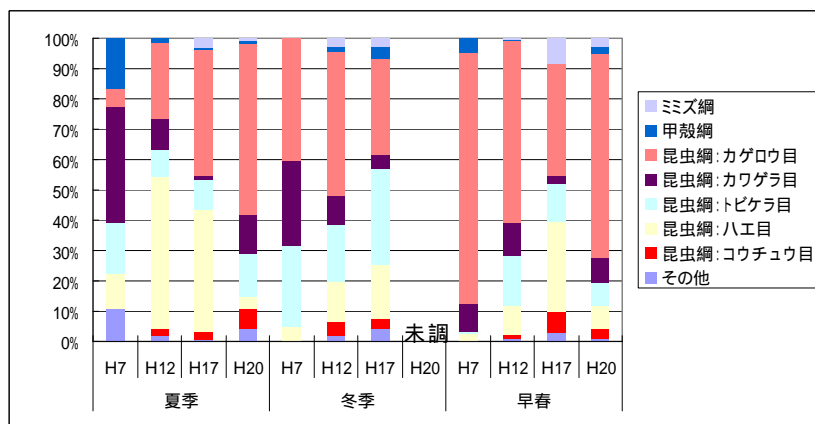


図 6.3.2-52 目別確認割合の推移:底生動物(深谷川)

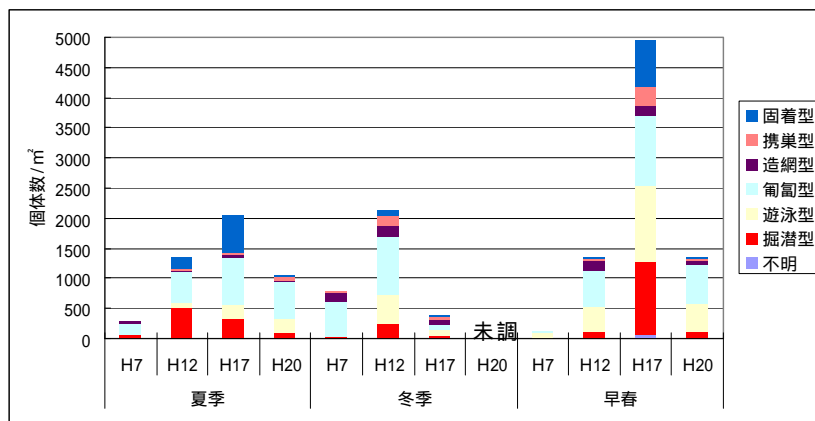


図 6.3.2-53 生活型別確認個体数の推移:底生動物(深谷川)



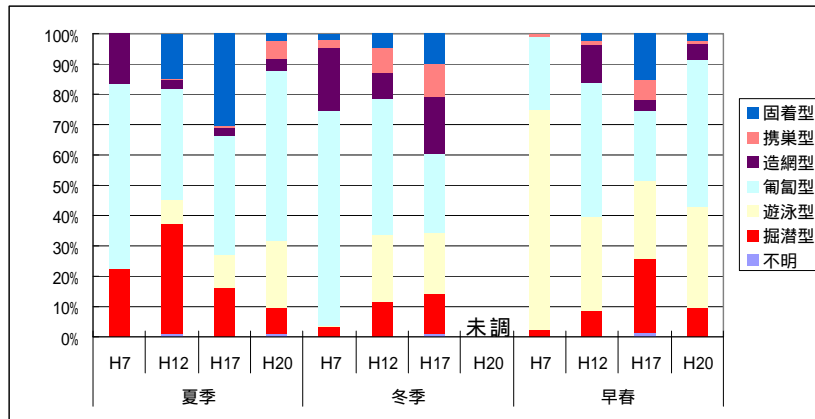


図 6.3.2-54 生活型別確認種数の推移:底生動物(深谷川)

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鉤着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

(d)重要種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.2-23 に示すとおりである。

流入河川における重要種については、これまでの調査で 10 種が確認されている。また、継続的に確認されている種は少なく、ムカシトンボのみが平成 7 年度から平成 20 年度にかけて確認されている程度である。なお、ムカシトンボは、深谷川のみでの確認であり、個体数は経年とともに、減少傾向にある。

表 6.3.2-23 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				河川名	調査年度					
			1	2	3	4		H5	H7	H12	H17	H20	
1	ヒラマキガイ	ヒラマキガイモドキ			NT		宇陀川						1
2	シジミ	マシジミ			NT		宇陀川			22			
							天満川			2			
3	ムカシトンボ	ムカシトンボ				希少	深谷川		8	4	1	1	
4	ヤンマ	マルタンヤンマ				希少	宇陀川			1			
5	サナエトンボ	ミヤマサナエ				希少	宇陀川					4	
6		キイロサナエ				希少	宇陀川			1			
7		ホンサナエ				希少	宇陀川					4	2
							天満川					4	
8	アオサナエ				希少	宇陀川			1	1	5		
						天満川						1	
9	コオイムシ	オオコオイムシ				希少	天満川					1	
10	ホタル	ゲンジボタル				郷土	天満川					1	
							深谷川				1	11	1
7科10種			0種	0種	2種	8種		0種	1種	6種	4種	7種	

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

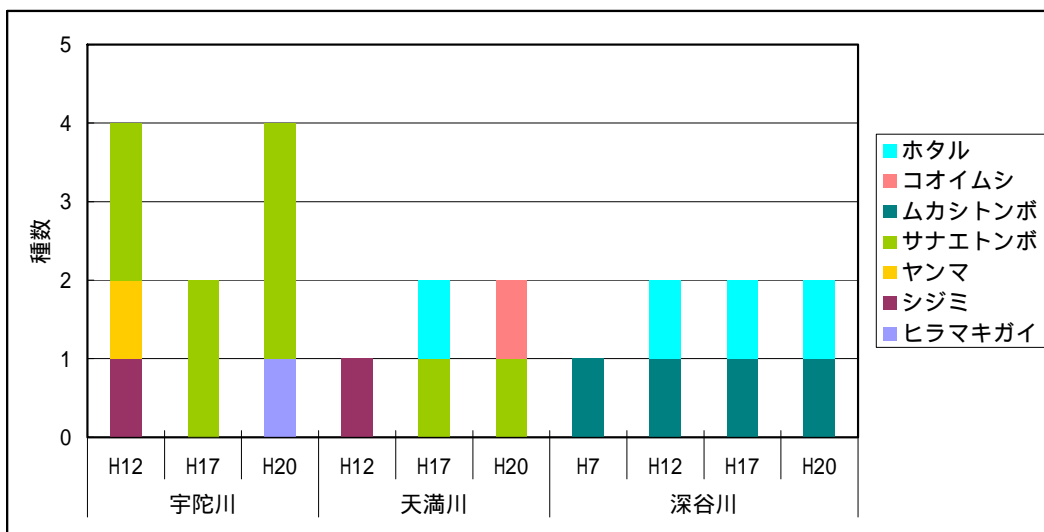


図 6.3.2-55 科別確認種数の推移:重要種

(e) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された外来種の一覧は表 6.3.2-24 に示すとおりである。

流入河川における外来種については、これまでの調査でコシダカヒメモノアラガイ、サカマキガイ、アメリカザリガニの3種が確認されている。このうち、サカマキガイは調査を開始した平成5年度から天満川で継続的に確認されており、H20年度では増加する傾向がみられている。また、平成7年度からは、宇陀川でも確認されている。また、アメリカザリガニは平成12年度に初めて確認され、以降、平成20年度でも確認されている。

表 6.3.2-24 外来種の経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		河川名	調査年度				
			1	2		H5	H7	H12	H17	H20
1	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			宇陀川					1
					天満川					1
2	サカマキガイ	サカマキガイ			宇陀川		7	18	2	8
					天満川	1	4	8	4	53
					内牧川	1				
3	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	注意		宇陀川			5	2	3
3科3種			1種	3種	-	1種	1種	2種	2種	3種

注)1. 表中の数は、1地点/調査回あたりの個体数を示す。  
2. 選定基準 1: 特定外来生物法 2: 外来種ハンドブック

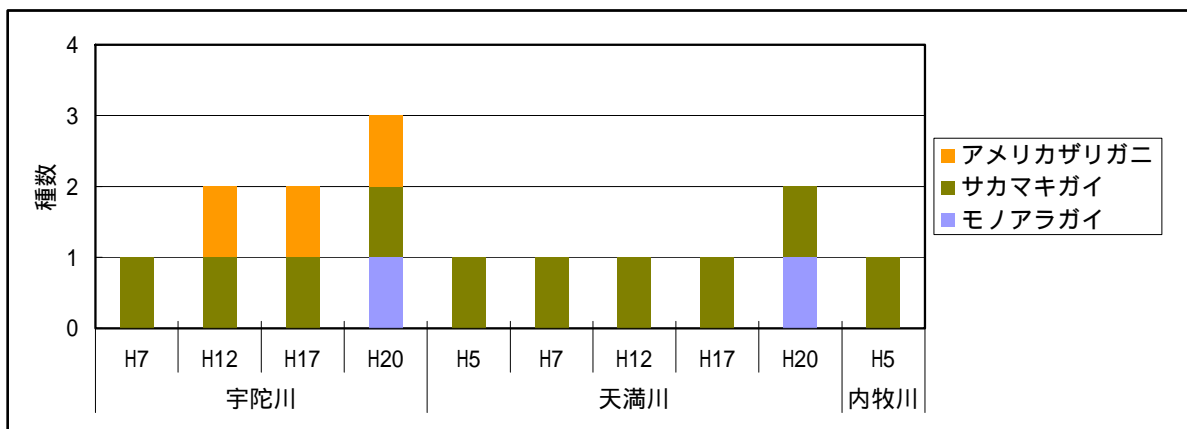


図 6.3.2-56 確認種数の推移: 外来種

### 3)動植物プランクトン

流入河川における動植物プランクトンの調査は、これまでに計3回実施されている。調査地点数については、いずれの調査回も宇陀川、内牧川、天満川の3地点で実施しており、調査時期については4回/年実施されている。なお、各調査年度におけるダム湖周辺の調査数量、及び調査時期の詳細については、表6.3.2-25に示すとおりである。

また、調査実施時における流入河川の水量は図6.3.2-57～図6.3.2-59に示すとおりである。

表6.3.2-25 調査内容一覧:動植物プランクトン

調査年度		H5	H11	H16	H18	
調査番号		2	8	15	19	
調査地点	区分	下流河川	放水口	No.1	No1(放水口)	淀室下-1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	No.2,No.3,No.4,	No.2(網場),No.3(湖心),No.4(赤人橋)	淀室湖-1
		流入河川	天満川,内牧川,高倉橋	No.5,No.6,No.7	No.5(天満川),No.6(内牧川),No.7(宇陀川)	-
植物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19～20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18～19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18～19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6
動物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径30cm、NXX 25) 各1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4層	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19～20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18～19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18～19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6

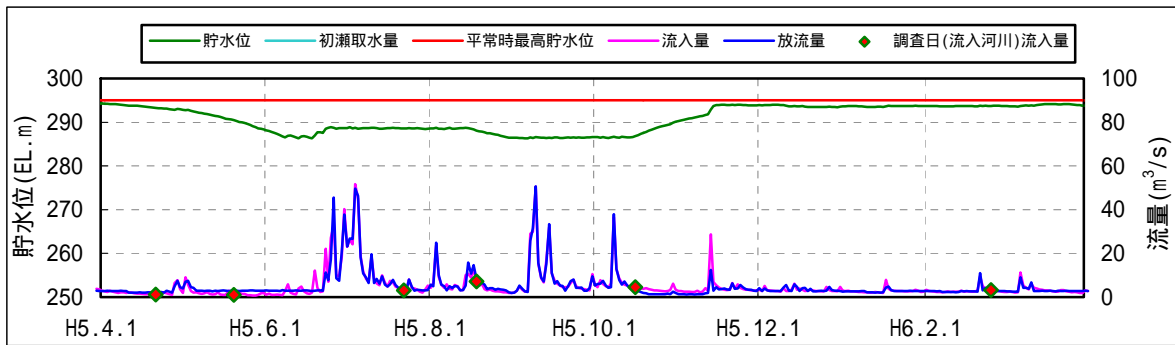


図 6.3.2-57 調査実施時の流況(平成 5 年度)

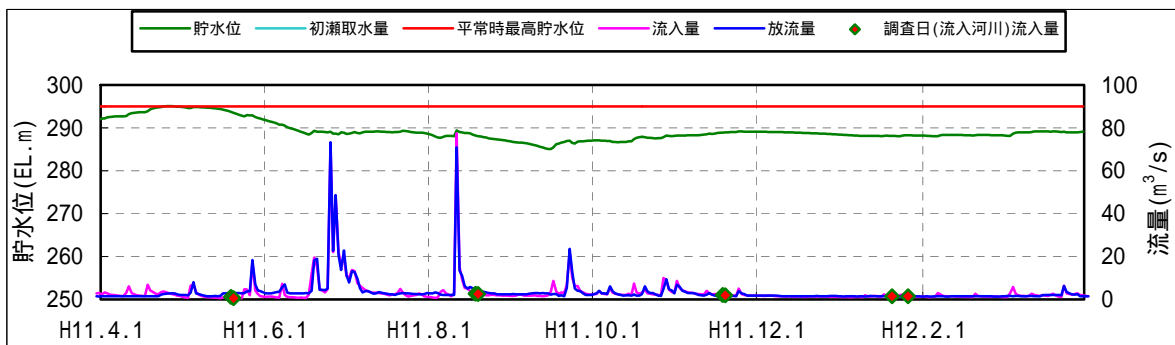


図 6.3.2-58 調査実施時の流況(平成 11 年度)

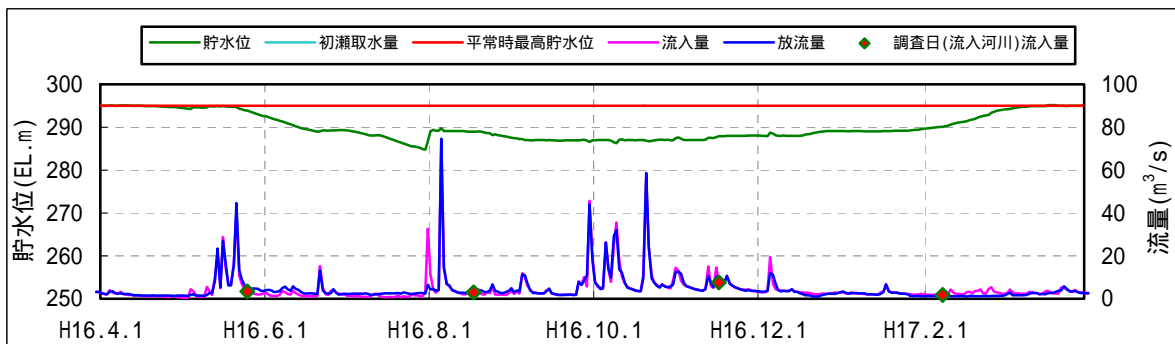


図 6.3.2-59 調査実施時の流況(平成 16 年度)

(a)植物プランクトン

a)植物プランクトン相および優占種の変化の整理

流入河川で確認された植物プランクトンの優占種の一覧は表 6.3.2-26、またその推移については図 6.3.2-60～図 6.3.2-61 に示すとおりである。

各調査年度で確認された植物プランクトンの総個体数は、平成 5 年度で 2,975,000 個体、平成 11 年度で 4,475,000 個体、平成 16 年度で 539,750 個体となった。優占した綱及び種は、平成 5 年度は珪藻類で *Cymbella turgidula*、平成 11 年度は緑藻類で *Micractinium pusillum*、平成 16 年は珪藻類で *Navicula radiosa* となった。

平成 5 年度で優占種となった珪藻類の *Cymbella turgidula* は、止水域や河川下流に多い出現する傾向がある。また、平成 11 年度の優占種である *Micractinium pusillum* は、小さな池や養魚池、水たまりなど小規模な水域に出現する極めて普通な種である。第二位の珪藻類の *Cyclotella meneghiniana* は、ダム湖等の富栄養化した止水域に多産することが報告されている。平成 16 年の優占種である *Navicula radiosa* は、様々な水質の場所に出現するが、比較的流れの強い場所には出現しない種である。

表 6.3.2-26 優占種の推移:植物プランクトン

H5				H11				H16			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Cymbella turgidula</i>	珪藻	1076000	36.2	<i>Micractinium pusillum</i>	緑藻	578,000	12.9	<i>Navicula radiosa</i>	珪藻	329,300	61.0
<i>Encyonema minutum</i>	珪藻	434000	14.6	<i>Cyclotella meneghiniana</i>	珪藻	468,000	10.5	<i>Cryptomonas ovata</i>	クリプト藻	39,500	7.3
<i>Carteria globulosa</i>	緑藻	427000	14.4	<i>Staurisira construens</i> var. <i>binodis</i>	珪藻	468,000	10.5	<i>Synedra ulna</i>	珪藻	37,300	6.9
<i>Chlamydomonas</i> sp.	緑藻	140000	4.7	<i>Melosira varians</i>	珪藻	387,000	8.6	<i>Synura uvela</i>	黄金色藻	28,000	5.2
<i>Navicula</i> sp.	珪藻	126000	4.2	<i>Eudorina elegans</i>	緑藻	304,000	6.8	<i>Melosira varians</i>	珪藻	23,900	4.4
<i>Synedra ulna</i>	珪藻	109000	3.7	<i>Pandorina morum</i>	緑藻	244,000	5.5	<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	19,000	3.5
<i>Navicula viridula</i>	珪藻	80000	2.7	<i>Encyonema minutum</i>	珪藻	218,000	4.9	<i>Rhodomonas</i> sp.	クリプト藻	10,800	2.0
<i>Melosira varians</i>	珪藻	59000	2.0	<i>Phormidium tenue</i>	藍藻	188,000	4.2	<i>Cymbella turgidula</i>	珪藻	10,100	1.9
<i>Navicula cryptocephala</i>	珪藻	54000	1.8	<i>Nitzschia palea</i>	珪藻	145,000	3.2	<i>Nitzschia paleacea</i>	珪藻	9,100	1.7
<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	53000	1.8	<i>Nitzschia acicularis</i>	珪藻	127,000	2.8	<i>Nitzschia acicularis</i>	珪藻	8,300	1.5
<i>Navicula pupula</i>	珪藻	50000	1.7	<i>Nitzschia paleacea</i>	珪藻	110,000	2.5				
<i>Anabaena flos-aquae</i>	藍藻	48000	1.6	<i>Scenedesmus quadricauda</i>	緑藻	96,000	2.1				
<i>Bacillaria paradoxa</i>	珪藻	36000	1.2	<i>Scenedesmus eornis</i>	緑藻	92,000	2.1				
<i>Cocconeis</i> sp.	珪藻	31000	1.0	<i>Diatoma vulgare</i>	珪藻	74,000	1.7				
<i>Nitzschia acicularis</i>	珪藻	31000	1.0	<i>Gomphonema angustatum</i>	珪藻	63,000	1.4				
<i>Rhodomonas</i> sp.	クリプト藻	29000	1.0	<i>Navicula cryptocephala</i>	珪藻	55,000	1.2				
				<i>Phormidium retzii</i>	藍藻	54,000	1.2				
				<i>Synedra ulna</i>	珪藻	51,000	1.1				
				<i>Cryptomonas</i> sp.	クリプト藻	48,000	1.1				
				<i>Koliella elongata</i>	緑藻	46,000	1.0				
				<i>Phormidium</i> sp.	藍藻	46,000	1.0				
				<i>Gomphoneis quadripunctatum</i>	珪藻	45,000	1.0				
				<i>Navicula radiosa</i>	珪藻	43,000	1.0				

注)1.表中の種は、確認割合 1.0%以上の種を示した。

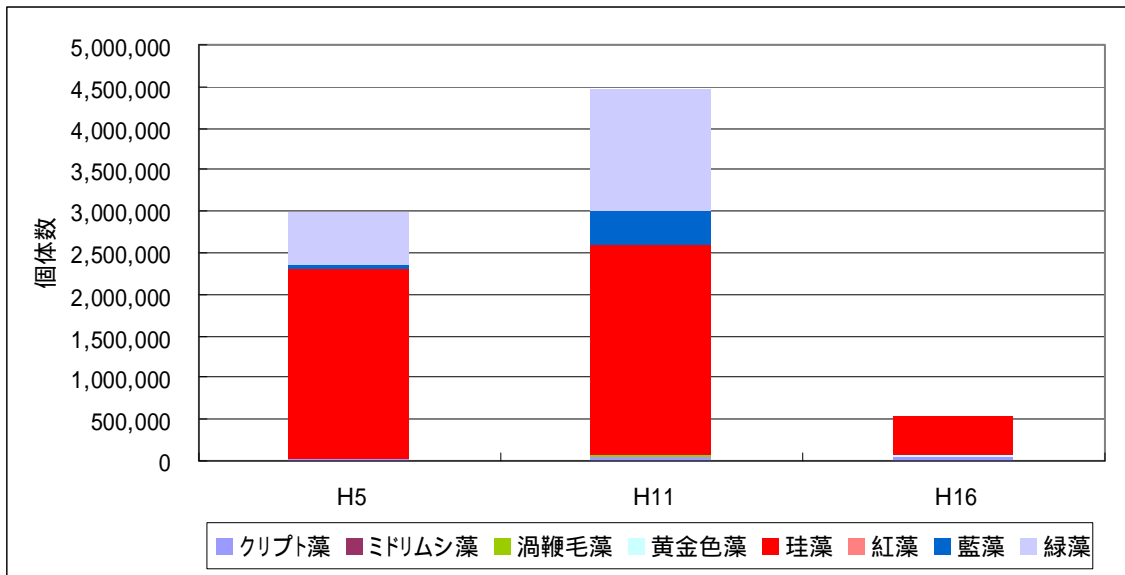


図 6.3.2-60 網別確認個体数の推移:植物プランクトン

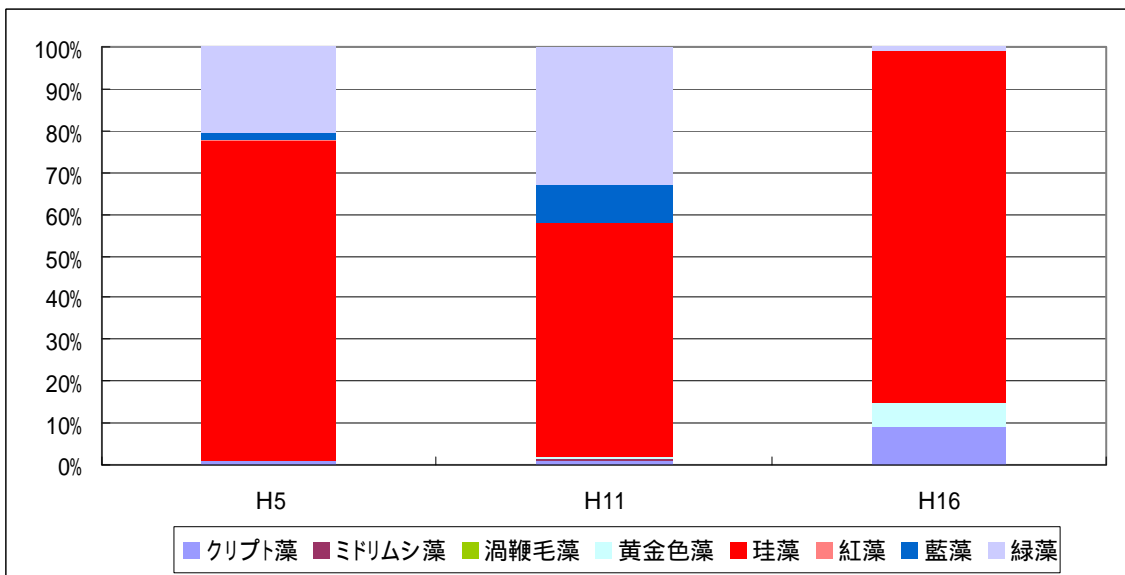


図 6.3.2-61 網別確認割合の推移:植物プランクトン

(b)動物プランクトン

a)動物プランクトン相および優占種の変化の整理

流入河川で確認された動物プランクトンの優占種の一覧は表 6.3.2-27、またその推移については図 6.3.2-62～図 6.3.2-63 に示すとおりである。

各調査年度で確認された動物プランクトンの総個体数は、平成 5 年度で 22,200 個体、平成 11 年度で 388,000 個体、平成 16 年度で約 957,000 個体となった。優占した門及び種は、平成 5 年度は肉質鞭毛虫で *Arcella vulgaris*(ナベカムリ)、平成 11 年度は輪形動物の *Monostyla bulla*(タマゴガタエナガワムシ)であった。平成 16 年度は繊毛虫で *Codonella cratera*(スナカラムシ)となった。

確認種は、全国的に普通にみられ、水草のある場所を好む *Arcella vulgaris*(ナベカムリ)、富栄養化した水域に多く、湖沼やダム湖で夏に現存量を増加させる *Codonella cratera*(スナカラムシ)であった。

表 6.3.2-27 優占種の推移:動物プランクトン

H5				H11				H16			
学名	門名	個体数	割合 (%)	学名	門名	個体数	割合 (%)	学名	門名	個体数	割合 (%)
<i>Arcella vulgaris</i>	肉質鞭毛虫	10500	47.3	<i>Monostyla bulla</i>	輪形動物	58300	15.0	<i>Codonella cratera</i>	繊毛虫	223000	23.3
<i>Tintinnidium</i> sp.	繊毛虫	10000	45.0	<i>Vorticella</i> sp.	繊毛虫	56150	14.5	<i>Tintinnidium fluviatile</i>	繊毛虫	202000	21.1
<i>Diffugia corona</i>	肉質鞭毛虫	1050	4.7	<i>Arcella vulgaris</i>	肉質鞭毛虫	29150	7.5	<i>Carchesium</i> sp.	繊毛虫	180000	18.8
Copepoda	節足動物	650	2.9	<i>Glaucora scintillans</i>	繊毛虫	25000	6.4	<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>	輪形動物	71900	7.5
				<i>Askenasia volvox</i>	繊毛虫	22500	5.8	<i>Diffugia corona</i>	肉質鞭毛虫	40000	4.2
				<i>Centropyxis aculeata</i>	肉質鞭毛虫	21500	5.5	<i>Didinium nasutum</i>	繊毛虫	38000	4.0
				<i>Leucophrydium putrinum</i>	繊毛虫	17500	4.5	<i>Arcella vulgaris</i>	肉質鞭毛虫	36915	3.9
				<i>Tintinnidium fluviatile</i>	繊毛虫	14050	3.6	<i>Synchaeta stylata</i>	輪形動物	30360	3.2
				<i>Strombidium viride</i>	繊毛虫	12500	3.2	<i>Colurella obtusa</i>	輪形動物	20000	2.1
				CILIOPHORA	繊毛虫	11000	2.8	<i>Monostyla lunaris</i>	輪形動物	18000	1.9
				<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>	輪形動物	10650	2.7	<i>Strombidinopsis gyrans</i>	繊毛虫	18000	1.9
				<i>Epistylis</i> sp.	繊毛虫	10000	2.6	<i>Trichocerca capucina</i>	輪形動物	15700	1.6
				<i>Trichocerca</i> sp.	輪形動物	10000	2.6	<i>Diffugia limetica</i>	肉質鞭毛虫	14230	1.5
				<i>Brachionus angularis angularis</i>	輪形動物	7700	2.0	<i>Centropyxis aculeata</i>	肉質鞭毛虫	12600	1.3
				<i>Amphileptus claparedii</i>	繊毛虫	7500	1.9	<i>Paradi leptus robustus</i>	繊毛虫	12000	1.3
				<i>Carchesium polypinum</i>	繊毛虫	7500	1.9				
				<i>Euchlanis dilatata</i>	輪形動物	6750	1.7				
				<i>Diffugia corona</i>	肉質鞭毛虫	5100	1.3				
				NEMATODA	線形動物	5100	1.3				
				<i>Euglypha</i> sp.	肉質鞭毛虫	5000	1.3				
				<i>Lepadella oblonga</i>	輪形動物	5000	1.3				
				<i>Notholca labis</i>	輪形動物	5000	1.3				
				<i>Strombidinopsis gyrans</i>	繊毛虫	5000	1.3				
				Copepoda	節足動物	4650	1.2				
				<i>Rotaria</i> sp.	輪形動物	4000	1.0				
				<i>Paramecium</i> sp.	繊毛虫	3750	1.0				

注)1.表中の種は、確認割合 1.0%以上の種を示した。



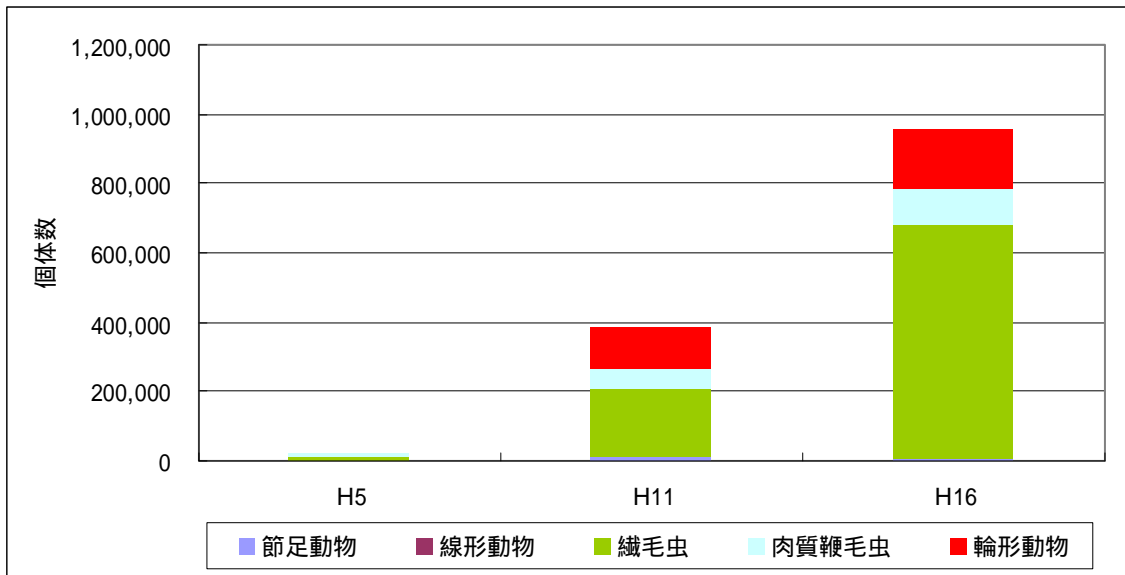


図 6.3.2-62 門別確認個体数の推移:動物プランクトン

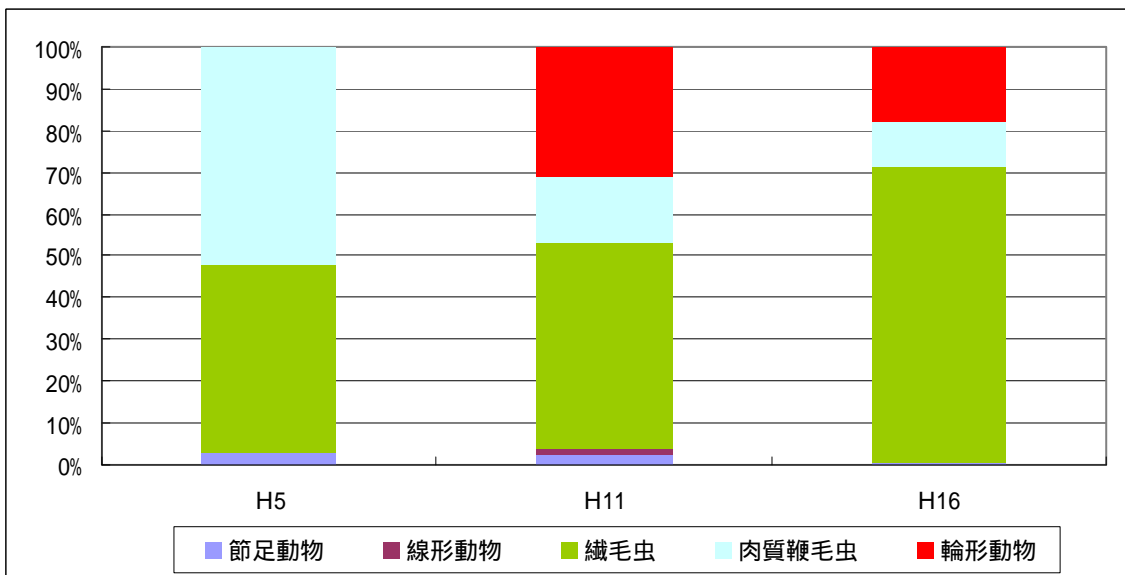


図 6.3.2-63 門別確認割合の推移:動物プランクトン

4)植物

流入河川における植物調査は平成 16 年度より開始されているため、それ以前の調査結果との比較は行わないこととした。

(a)植物相の変化の整理

平成 16 年度において、流入河川で確認された植物の科種数は表 6.3.2-28 に示すとおりである。

調査結果は、調査対象地域が河川沿いであることを反映して、ネコヤナギ、オニグルミ、ミゾソバ、ツルヨシ等の河川沿いや湿った環境を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。

表 6.3.2-28 分類群別確認種数一覧:植物

分類	H16	
	科数	種数
高等植物	60	205
シダ植物	7	13
種子植物	53	192
裸子植物	0	0
被子植物	53	192
双子葉植物	46	143
離弁花類	34	98
合弁花類	12	45
単子葉植物	7	49

(b)重要種の確認状況の整理

平成 16 年度調査において、流入河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.2-29 に示すとおりである。

確認された重要種は、いずれも河原等に生育する種であり、調査対象地域における代表的な重要種であると考えられる。

表 6.3.2-29 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度
			1	2	3	4	5	6	
1	ウリ	ゴキヅル						希少	
2	シソ	メハジキ						希少	
2科2種			0種	0種	0種	0種	0種	2種	2種

注)1.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:国立、国定公園指定植物 4:環境省 RL2007  
5:改訂・近畿 RDB 6:奈良県 RDB

(c) 外来種の確認状況の整理

平成16年度調査において、流入河川で確認された外来種の一覧は表6.3.2-30に示すとおりである。

確認されている外来種のうち、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオハンゴンソウの3種については、特定外来生物法の指定種に該当しており、今後の生育状況等については、注意が必要であると考えられる。

表6.3.2-30 (1) 経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度	
			1	2	H16	
1	イラクサ	ナンバンカラムシ				
2	タデ	シャクチリソバ				
3		ナガバギシギシ				
4		エゾノギシギシ	要注意			
5	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ				
6	ナデシコ	コハコベ				
7	ヒユ	ホソアオゲイトウ				
8	フウチョウソウ	セイヨウフウチョウソウ				
9	ベンケイソウ	ツルマンネングサ				
10	マメ	アレチヌスビトハギ				
11		ムラサキツメクサ				
12		シロツメクサ				
13	カタバミ	オッタチカタバミ				
14	トウダイグサ	コニシキソウ				
15	スミレ	アメリカスミレサイシン				
16	ウリ	アレチウリ	特定			
17	アカバナ	メマツヨイグサ	要注意			
18	ヒルガオ	アサガオ				
19	ゴマノハグサ	ツタバウンラン				
20		オオカワヂシャ	特定			
21		オオイヌノフグリ				
22	オミナエシ	ノヂシャ				
23	キク	オオブタクサ	要注意			
24		ヒロハホウキギク				
25		アメリカセンダングサ	要注意			
26		ベニバナボロギク				
27		アメリカタカサブロウ				
28		ダンドボロギク				
29		ヒメムカシヨモギ	要注意			
30		ハキダメギク				
31		オオハンゴンソウ	特定			
32		セイタカアワダチソウ	要注意			
33		セイヨウタンポポ	要注意			
34		オオオナモミ	要注意			
35		イグサ	コゴメイ			
36		イネ	イヌムギ			
37	オニウシノケグサ		要注意			
38	ネズミムギ		要注意			
39	オオクサキビ					
40	シマスズメノヒエ					
41	キシウスズメノヒエ		要注意			

表 6.3.2-30 (2) 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度
			1	2	
42	イネ	オオスズメノカタビラ			H16
43		セイバンモロコシ			
44		ナギナタガヤ			
19科 44種			14種	44種	44種

注)1.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

#### 5)鳥類

流入河川における鳥類調査は、平成 14 年度より開始されているため、平成 14 年度及び平成 18・19 年度の調査結果による比較を行なった。ただし、調査手法については、平成 14 年度ではラインセンサス法を実施しているが、平成 19 年度ではスポットセンサス法と異なる調査手法を実施していることから、変化の整理にあたっては、各年度の全調査日の累積確認数を比較し、その推移を整理することとした。なお、調査手法及び調査地点等の調査については、表 6.3.2-31 に示すとおりである。

表 6.3.2-31 調査内容一覧:鳥類

調査年度		H5	H9	H14	H18・19	
調査番号		2	6	12	18	
調査地点	区分	下流河川	-	-	ラインセンサス(5-1)	スポットセンサス(淀室下1)
		ダム湖内	定点記録(P1~P3)	定点記録(P1~P3)	定点記録(P-1~P-3)	船上センサス(淀室湖8)
		流入河川	-	-	ラインセンサス(5-2)	スポットセンサス(淀室入3)
		ダム湖周辺	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+定位記録法(1,2,3,6) ラインセンサス(4-1,4-2) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+スポットセンサス(淀室周1~淀室周3) 定点センサス(淀室周4,淀室周5) 夜間調査、移動中
ラインセンサス	調査数量	7.2km (2回×1~2日)	7.2km (2回×1日)	3.9km (2回×2~3日)	-	
	調査時期	春季	H5.5.28	H9.5.8	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.11	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.8	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.27	H15.1.28、30	-
ラインセンサス + スポットセンサス	調査数量	-	-	-	センサス2.1km+スポット9地点 (スポット1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
スポットセンサス	調査数量	-	-	-	9地点(1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
環境に応じた確認 ラインセンサス法 + 定位記録法	調査数量	-	-	1.3km+80分	-	
	調査時期	春季	-	-	H14.5.8~10	-
		夏季	-	-	H14.6.13~14	-
		秋季	-	-	H14.10.8~9	-
		冬季	-	-	H15.1.28、30	-
定点センサス	調査数量	-	-	-	1箇所30分	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
定位記録法	調査数量	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	-	
	調査時期	春季	H5.5.28~29	H9.5.7	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.12	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.9	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.26	H15.1.28~30	-
船上センサス	調査数量	-	-	-	2人×1日(80~85分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.12
		冬季	-	-	-	H19.1.30
夜間	調査数量	2人×1日	2人×1日	2人×1日	3人×1日(180分)	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.15
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.10
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.29
移動中の確認	調査数量	3人×1日	3人×1日	2人×2日	2人×2日	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.16~17
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.22~23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.12~13
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.30~31

(a)鳥類相の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された鳥類の一覧は表 6.3.2-32 に示すとおりである。

流入河川の鳥類相については、ダイサギ、コサギ等のサギ類、オシドリ、カルガモ等のカモ類、キセキレイ、セグロセキレイ等のセキレイ類、コチドリ、ヤマシギ等のシギ・チドリ類、カワセミ類、カワガラス等の水辺の鳥類のほか、河川上空で採餌や探餌を行うトビ、ツバメ、イワツバメ等が確認されている。また、河川の草地から樹林にかけて生息するホオジロや樹林性のヒヨドリの個体数が多く確認されているほか、ヤマガラ、メジロ、イカル、カケス等の樹林性の種も確認されている。

種数についてみると、平成 14 年度の 26 種から、平成 18・19 年度は 32 種に増加している。個体数については、平成 14 年度から平成 18・19 年度にかけて、大きな変化はみられなかった。確認個体数の多い種は、平成 14 年度、平成 18・19 年度ともにヒヨドリ、ホオジロ、スズメであり、平成 14 年度ではカシラダカ、平成 18・19 年度ではキセキレイ、ウグイス等も比較的多く確認されている。

また、水辺を生息場所として利用する種について着目すると、図 6.3.2-64～図 6.3.2-66 に示すとおり、継続的に確認されているのはカワウ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイの 4 種である。このうち、カワウ、セグロセキレイはわずかに減少し、キセキレイは増加、カワセミの個体数に変化はみられていない。その他の種については、単年度の確認であり、平成 14 年度にのみ確認された種は、ダイサギ、アオサギ、マガモ、コチドリの 4 種、平成 18・19 年度に新たに確認された種は、コサギ、オシドリ、カルガモ、ヤマセミ、ハクセキレイ、カワガラスの 6 種であった。なお、カモ類については、マガモからオシドリ・カルガモに構成種が変化している。また、サギ類に関しては、ダイサギ・アオサギといった大型のサギ類からコサギに構成種が変化している。

表 6.3.2-32 経年確認種一覧:鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
				H14	H18・19	
1	ペリカン	ウ	カワウ	5	3	
2	コウノトリ	サギ	ダイサギ	1		
3			コサギ		1	
4			アオサギ	7		
5	カモ	カモ	オシドリ		1	
6			マガモ	7		
7			カルガモ		7	
8	タカ	タカ	トビ		2	
9	キジ	キジ	コジュケイ		2	
10			チドリ	コチドリ	1	
11			シギ	ヤマシギ		1
12	ハト	ハト	キジバト	5	1	
13	カッコウ	カッコウ	ホトトギス		1	
14	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ		1	
15			カワセミ	2	2	
16	キツツキ	キツツキ	アカゲラ		1	
17			コゲラ	2		
18	スズメ	ツバメ	ツバメ	3	1	
19			イワツバメ		24	
20		セキレイ	キセキレイ	2	9	
21			ハクセキレイ		5	
22			セグロセキレイ	10	8	
23		ヒヨドリ	ヒヨドリ	19	26	
24		モズ	モズ	1	2	
25		カワガラス	カワガラス		1	
26		ツグミ	ツグミ	2		
27		ウグイス	ウグイス	2	8	
28		シジュウカラ	ヤマガラ		3	
29			シジュウカラ	7	3	
30		メジロ	メジロ	4	3	
31		ホオジロ	ホオジロ	25	28	
32		チドリ	カシラダカ	12		
33			アオジ	3	2	
34		アトリ	カワラヒワ	10		
35			ベニマシコ		3	
36			イカル		3	
37			シメ	1		
38		ハタオリドリ	スズメ	21	10	
39		カラス	カケス	2	2	
40			ハシボソガラス	3	1	
41	ハシブトガラス		17	8		
10目 25科 41種				26種	32種	
				174 個体	173 個体	

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認数を示している。

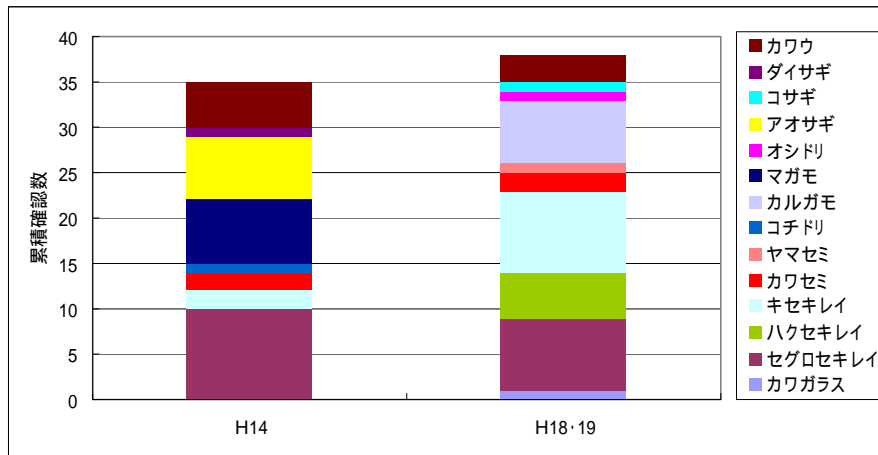


図 6.3.2-64 種別確認個体数の推移:水辺を利用する鳥類  
(陸域を主に利用する種は含まない)

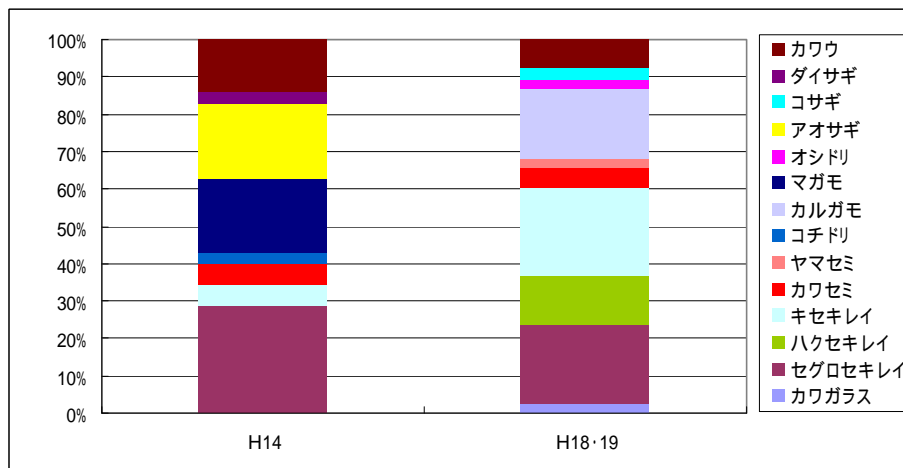


図 6.3.2-65 種別確認割合の推移:水辺を利用する鳥類  
(陸域を主に利用する種は含まない)

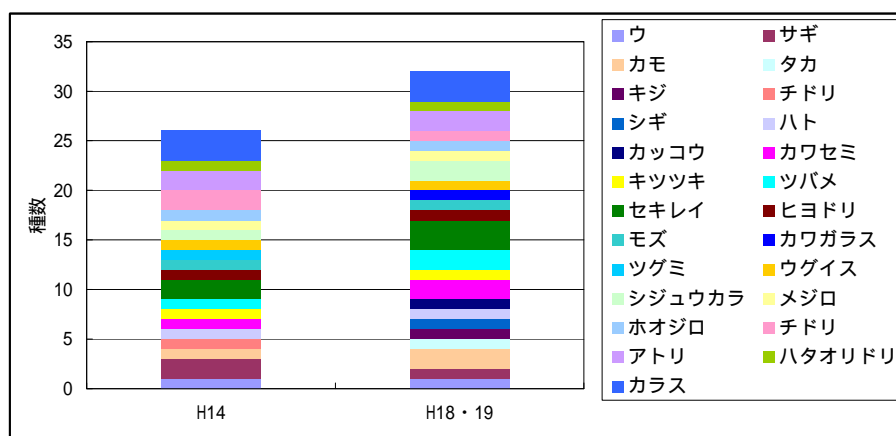


図 6.3.2-66 科別確認種数の推移:水辺を利用する鳥類  
(陸域を主に利用する種は含まない)



(b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された重要種は表 6.3.2-33、またその推移は図 6.3.2-67～図 6.3.2-68 に示すとおりである。

流入河川における重要種の種数については、オシドリ、コチドリ、ヤマシギ、ホトトギス、ヤマセミ、アカゲラ、カワガラス、アオジ、ベニマシコ、イカル、シメ、の 11 種が確認されており、このうち、継続的に確認されているのはアオジ 1 種である。そのほかの種は、いずれも単年度の確認である。

個体数についてみると、平成 14 年度から平成 19 年度にかけては増加する傾向がみられた。また、種数についても、平成 19 年度には平成 14 年度の 3 倍に増加している。ただし、いずれの種も確認個体数は 1～3 個体程度である。

表 6.3.2-33 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度	
			1	2	3	4	5	H14	H18・19
1	カモ	オシドリ			DD	準絶	注目		1
2	チドリ	コチドリ				準絶		1	
3	シギ	ヤマシギ					希少		1
4	カッコウ	ホトトギス				準絶			1
5	カワセミ	ヤマセミ					希少		1
6	キツキ	アカゲラ				準絶	希少		1
7	カワガラス	カワガラス					希少		1
8	ホオジロ	アオジ					準絶	3	2
9	アトリ	ベニマシコ				準絶			3
10		イカル					郷土		3
11		シメ				準絶		1	
9科11種			0種	0種	1種	6種	7種	3種	9種

注)1. 表中の数は、全調査日の累積確認個体数を示す。

2. 選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省RL2007 4:近畿レッド 5:奈良県RED

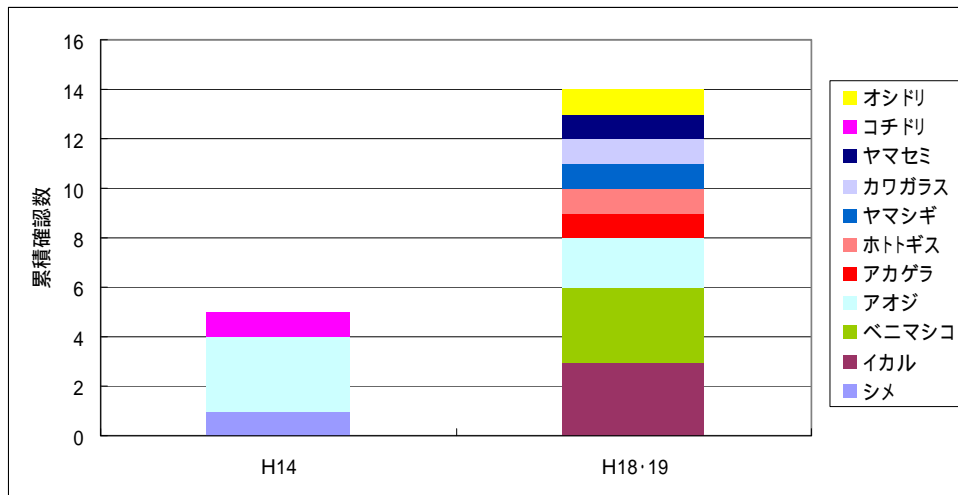


図 6.3.2-67 種別確認個体数の推移:重要種

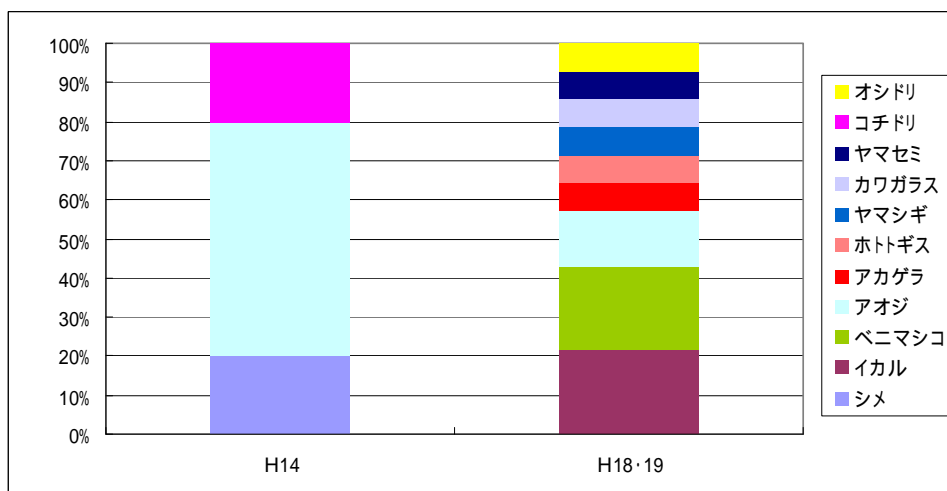


図 6.3.2-68 種別確認割合の推移:重要種

(c) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された外来種の一覧は表 6.3.2-34 に示すとおり、コジュケイ 1 種である。

流入河川の外来種については、平成 14 年度には確認されていないが、平成 18・19 年度には 2 個体が確認されている。

表 6.3.2-34 経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度	
			1	2	H14	H18・19
1	キジ	コジュケイ				2
1 科 1 種			0 種	1 種	0 種	1 種

注)1. 表中の数は、確認個体数を示す。

2. 選定基準 1: 特定外来生物 2: 外来種ハンドブック

6) 両生類・爬虫類・哺乳類

流入河川における両生類・爬虫類・哺乳類調査は、平成 15 年度より開始されているため、それ以前の調査結果との比較は行わないこととした。

なお、確認状況は確認地点数と確認個体数(確認痕跡数)が混在していたため、確認地点数をデータとして扱った。

(a) 両生類

a) 両生類相の変化の整理

平成 15 年度において流入河川で確認された両生類の一覧は表 6.3.2-35 に示すとおりである。

確認種についてみると、オオサンショウウオ、イモリ、アマガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエルの 5 種が確認されている。なお、これらの確認種は、オオサンショウウオを除き、ダム湖周辺においても確認されている種であった。

また、両生類は産卵場所、あるいは幼生の生息場所が水域となることから、表 6.3.2-36 に示すとおり、生活史のステージ段階別による確認状況の整理を行った。その結果、トノサマガエルの確認数のうち 2 地点が幼体であった。また、シュレーゲルアオガエルの確認は卵塊によるものであった。

表 6.3.2-35 確認種一覧:両生類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度
				H15
1	サンショウウオ	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	2
2		イモリ	イモリ	1
3	カエル	アマガエル	アマガエル	3
4		アカガエル	トノサマガエル	3
5		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	1
2目5科5種				5種

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

2. :「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」の6月、8月調査時において各1個体が確認されている。

表 6.3.2-36 確認内容一覧:両生類

No.	種名(和名)	確認内容							合計
		捕獲	目撃	鳴き声	死体	卵塊	幼体	成体	
1	オオサンショウウオ	1	1						2
2	イモリ				1				1
3	アマガエル			2				1	3
4	トノサマガエル						2	1	3
5	シュレーゲルアオガエル					1			1

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

2. :「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」の6月、8月調査時において各1個体が確認されている。

b)重要種の変化の整理

平成15年度調査において、流入河川で確認された重要種は表6.3.2-37に示すとおりである。

流入河川における重要種は、オオサンショウウオ、イモリの2種が確認されている。なお、オオサンショウウオは平成19年度に実施した魚類調査時に、深谷川で確認されている。また、イモリは死体が1地点で確認されている。

表 6.3.2-37 確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度
			1	2	3	4	H15
1	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特別	国際	VU	注目	
2	イモリ	イモリ			NT		
2科2種			1種	1種	2種	1種	2種

注)1.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2006 4:奈良県 RDB

2. :「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」の6月、8月調査時において各1個体が確認されている。

c)外来種の変化の整理

平成15年度調査において、流入河川では外来種は確認されていない。

(b)爬虫類

a)爬虫類相の変化の整理

平成 15 年度において流入河川で確認された爬虫類の一覧は表 6.3.1-38 に示すとおりである。

確認種についてみると、クサガメ、カナヘビの 2 種が確認されている。なお、これらの 2 種は、いずれもダム湖周辺においても確認されている種であった。

表 6.3.2-38 確認種一覧:爬虫類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度
				H15
1	カメ	イシガメ	クサガメ	3
2	トカゲ	カナヘビ	カナヘビ	2
2 目 2 科 2 種				2 種

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

b)重要種の変化の整理

平成 15 年度調査において、流入河川では重要種は確認されていない。

c)外来種の変化の整理

平成 15 年度調査において、流入河川では外来種は確認されていない。

(c)哺乳類

a)哺乳類相の変化の整理

平成 15 年度において流入河川で確認された哺乳類の一覧は表 6.3.2-39 に示すとおりである。

確認種についてみると、コウベモグラ、ノウサギ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ属の一種、イノシシ、ホンドジカの 8 種が確認されている。

なお、これらの確認種は、トラップで捕獲されたコウベモグラを除き、ダム湖周辺においても確認されている種であった。

表 6.3.2-39 確認種一覧:哺乳類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度
				H15
1	モグラ	モグラ	コウベモグラ	2
-			モグラ属	15
2	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	5
3	ネズミ	ネズミ	カヤネズミ	2
-			ネズミ科	4
4	ネコ	イヌ	タヌキ	7
5			キツネ	1
6		イタチ	イタチ属	7
7	ウシ	イノシシ	イノシシ	1
8		シカ	ホンドジカ	9
5目7科8種				8種

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

2.種名に「・・・属」「・・・科」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

b)重要種の変化の整理

平成 15 年度調査において、流入河川で確認された重要種は表 6.3.2-40 に示すとおりである。

流入河川における重要種は、カヤネズミの 1 種であり、オギ群落等の草地環境で球巣が 2 地点で確認されている。

表 6.3.2-40 確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度
			1	2	3	4	H15
1	ネズミ	カヤネズミ				希少	2
1科1種			0種	0種	0種	1種	1種

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

c)外来種の変化の整理

平成 15 年度調査において、流入河川では外来種は確認されていない。

7)陸上昆虫類等

流入河川における陸上昆虫類等調査は平成 15 年度より開始されているため、それ以前の調査結果との比較は行わないこととした。

(a)陸上昆虫類相の変化の整理

流入河川で確認された陸上昆虫類等の分類群別種数は表 6.3.2-41 に示すとおりである。

分類群別種数で最も多かったのはコウチュウ目の 106 種で、次いでカメムシ目の 57 種、クモ目の 46 種、チョウ目の 45 種の順であった。また、水生昆虫類のカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やゲンゴロウ科、ヒメドロムシ科、ヒラタドロムシ科等も確認された。

表 6.3.2-41 分類群別確認種数一覧:陸上昆虫類

目名	H15	
	科数	種数
クモ	13	46
トビムシ	6	6
カゲロウ	6	9
トンボ	4	7
カマキリ	1	1
バッタ	6	25
カメムシ	23	57
アザミウマ	1	1
シリアゲムシ	1	1
トビケラ	13	14
チョウ	15	45
ハエ	26	40
コウチュウ	30	106
ハチ	20	38
14 目 165 科 396 種		

(b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川では重要種は確認されていない。

(c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、流入河川で確認された外来種は表 6.3.2-42 に示すとおりである。

流入河川におけるこれまでの調査では、平成 15 年度にブタクサハムシの 1 種が確認されている。

表 6.3.2-42 確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度
			1	2	H15
1	ハムシ	ブタクサハムシ			
1 科 1 種			0 種	1 種	1 種

注)1.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

(2)ダムによる影響の検証

ダムの存在・供用に伴って、室生ダムの流入河川に生じる環境条件の変化により、流入河川に生息する多様な生物の生息・生育環境に影響を及ぼすものと想定される。

そこで、室生ダム流入河川における環境条件の変化、またそれにより生じる生物の生息・生育状況の変化を 図 6.3.2-69 のとおり整理し、生物の生息・生育状況の変化の検証を行った。

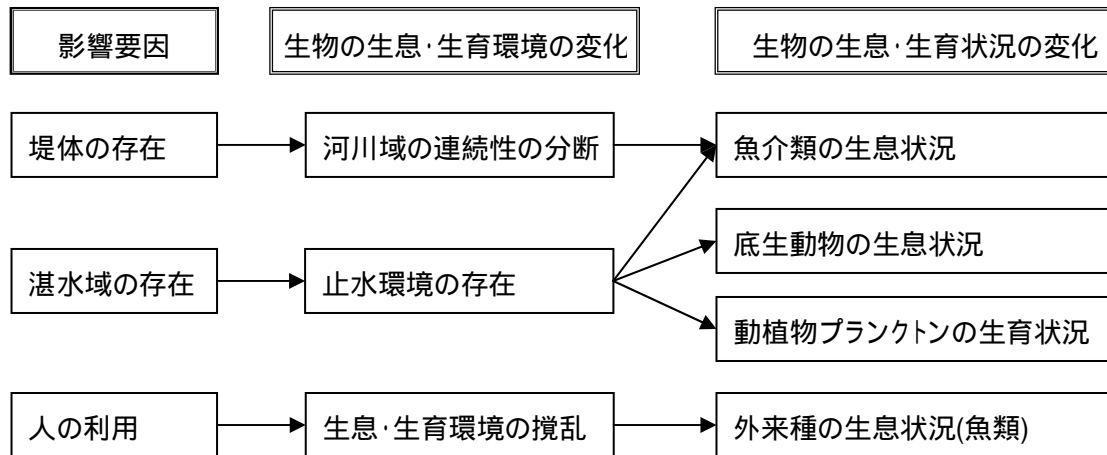


図 6.3.2-69 生物の生息・生育状況の変化と影響要因



1) 流入河川の生物の生息・生育状況の変化の整理結果

(a) 魚介類

a) 魚類の生息状況の変化の整理結果

魚類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.2-43 に示す。

表 6.3.2-43 流入河川における魚類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
魚類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:平成 4 年度から平成 19 年度にかけて、確認種数が 11 種から 21 種へと増加している。</li> <li>・天満川:平成 4 年度から平成 19 年度にかけて、確認種数が 3 種から 10 種へと増加している。</li> <li>・深谷川:平成 13 年度から平成 19 年度にかけて、確認種数が 2 種から 4 種へと増加している。</li> </ul>
生息状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成 4 年度はオイカワが 76%を占めていたが、平成 19 年度はオイカワが 36%、コウライモロコが 27%となっている。</li> <li>・天満川:確認個体数は平成 8 年度をピークに減少している。優占種は、平成 5 年度はトウヨシノボリ、以降はカワムツ及びウキゴリが増加し、平成 19 年度ではこの 2 種が半数以上を占めている。</li> <li>・深谷川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成 13 年度、平成 19 年度ともにカワムツである。</li> </ul>
	回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成 4 年度はアユであったが、平成 19 年度にはウキゴリとなっている。</li> <li>・天満川:確認個体数は平成 8 年度をピークに減少し、平成 13 年度から平成 19 年度にかけては概ね横ばいとなっている。優占種は平成 5 年度及び平成 8 年度はトウヨシノボリ、以降はウキゴリとなっている。</li> <li>・深谷川:アマゴが平成 19 年度に 1 個体確認されたのみである。</li> </ul>
	重要種の状況	<p>自然分布と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの調査で、ギギ、アマゴ、メダカ、ウキゴリ、カワヨシノボリの 5 種が確認され、平成 19 年度調査ではすべてが確認されている。</li> <li>・ギギは宇陀川、ウキゴリは宇陀川・天満川で増加傾向にある。カワヨシノボリは宇陀川で増加、深谷川で減少している。アマゴは深谷川、メダカは宇陀川で平成 19 年度に確認されている。</li> </ul> <p>放流等が由来と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの調査で、ハス、ホンモロコ、スゴモロコ、アユ、タウナギの 5 種が確認され、平成 19 年度調査ではすべてが確認されている。</li> <li>・主に宇陀川で確認されているが、タウナギは天満川、アユは、天満川、深谷川でも確認されている。</li> <li>・確認個体数に大きな変動はなく、平成 19 年度の段階では、いずれも 10 個体以下程度である。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 13 年度にタウナギが天満川で 4 個体、平成 19 年度にタウナギが宇陀川で 3 個体、天満川で 2 個体確認されている。</li> </ul>

b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.2-44 に示す。

表 6.3.2-44 流入河川におけるエビ・カニ・貝類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・平成 4 年度から平成 13 年度にかけては、確認種数は 3~4 種と、ほぼ横ばいとなっている。
生息状況の変化	流入河川に生息するエビ・カニ・貝類の状況	・テナガエビを除き、経年とともに増加傾向にある。しかし、スジエビについては、平成 8 年度から平成 13 年度にかけて、減少に転じている。
	重要種の状況	・平成 13 年度に、マシジミが天満川で 1 個体確認されている。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種の生息は確認されていない。

(b)底生動物の生息状況の変化の整理結果

底生動物の生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.2-45 に示す。

表 6.3.2-45 流入河川における底生動物の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
底生動物相の変化	種数	・平成 5 年度は 38 種であったが、経年とともに増加し、平成 17 年度では 182 種、平成 20 年度では 171 種となっている。 ・主な分類群は、カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目である。
生息状況の変化	優占種の変化	・宇陀川:平成 7 年度では、基本的にはシマトビケラ類が優占種となるが、以降はシマトビケラ類のほか、ユスリカ類やイトミミズ類が優占する傾向がみられる。確認個体数については、調査年度でばらつきがみられる。全体的な傾向として、経年とともに貧腐水性種の確認割合が低くなっている。 ・天満川:平成 7 年度ではシマトビケラ類、12 年度ではコカゲロウ科やユスリカ科、平成 17 年度ではミズミミズ科やミズムシ、平成 20 年度ではシマトビケラ類等が優占する。確認個体数は概して平成 12 年度及び平成 20 年度が多い。平成 17 年度以外は貧腐水性種が優占種に含まれているが、平成 17 年度では含まれていない。 ・深谷川:平成 7 年度はカゲロウ類が優占するが、平成 17 年度及び平成 20 年度ではコカゲロウ科等が優占する。各調査年度ともに貧腐水性種が優占する。
	重要種の状況	・平成 7 年度に 1 種、平成 12 年度に 6 種、平成 17 年度に 4 種、平成 20 年度に 7 種が確認されている。平成 20 年度では、宇陀川でヒラマキガイモドキ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、天満川でアオサナエ、オオコオイムシ、深谷川でムカシトンボ、ゲンジボタルが確認されている。深谷川のムカシトンボ、ゲンジボタルは減少傾向にある。
	外来種の状況	・コシダカヒメモノアラガイ、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されている。コシダカヒメモノアラガイは平成 20 年度に宇陀川・天満川で、サカマキガイは宇陀川・天満川でほぼ経年的に確認されており、アメリカザリガニは平成 12 年度以降、宇陀川で確認されている。

(c)動植物プランクトンの生息・生育状況の変化の整理結果

a)植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況の変化の整理結果を 表 6.3.2-46 に示す。

表 6.3.2-46 流入河川における植物プランクトンの生育状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
植物プランクトン相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 33 種、平成 11 年度は 74 種、平成 16 年度は 22 種と、平成 5 年度から平成 11 年度にかけて増加し、以降は減少傾向となっている。
生育状況の変化	優占種の変化	・平成 5 年度及び平成 16 年度は珪藻類、平成 11 年度は緑藻類であった。 ・確認種は、止水域や河川下流、小さな池や養魚池、富栄養化した止水域に出現する種が多い傾向にあった。

b)動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.2-47 に示す。

表 6.3.2-47 流入河川における動物プランクトンの生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
動物プランクトン相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 4 種、平成 11 年度は 44 種、平成 16 年度と 33 種と、増減している。
生息状況の変化	優占種の変化	・確認種は、全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多い種であった。

(d)植物の生育状況の変化の整理結果

植物の生育状況の変化の整理結果を表 6.3.2-48 に示す。

表 6.3.2-48 流入河川における植物の生育状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
植物相の変化	種数	・平成 16 年度の調査において、205 種が確認されている。
生育状況の変化	流入河川周辺に生育する植物の状況	・河川沿いや湿った環境を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。
	重要種の状況	・平成 16 年度の調査において、重要種はゴキツル、メハジキの 2 種確認されている。 ・これらは、いずれも河原等に生育する種である。
	外来種の状況	・平成 16 年度の調査において、外来種は 44 種(うち 3 種は特定外来種)が確認されている。

(e)鳥類の生息状況の変化の整理結果

鳥類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.2-49 に示す。

表 6.3.2-49 流入河川における鳥類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
鳥類相の変化	種数	・平成 14 年度では 26 種、平成 18・19 年度で 32 種と増加する傾向がみられている。
生息状況の変化	流入河川に生息する鳥類の状況	・水辺を利用する種としては、カワウ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイについては、継続的に確認されている。 ・陸域を利用する種としては、ヒヨドリ、ホオジロ、スズメ等草地から樹林に生息する種が多く確認されている。
	重要種の状況	・平成 14 年度の 3 種から、平成 18・19 年度は 9 種に増加している。 ・水辺を利用する種とし、オシドリ、コチドリ、ヤマシギ、ヤマセミ、カワガラスの 5 種が確認されている。 ・陸域を利用する種は、ホトトギス、アカゲラ、イカル等樹林性の種、アオジ、ベニマシコ等藪や草地性の種等が確認されている。
	外来種の状況	・コジュケイが平成 18・19 年度に確認されている。

(f)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果を 表 6.3.2-50 に示す。

表 6.3.2-50 流入河川における両生類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
両生類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、5 種が確認された。 ・なお、確認種には、平成 19 年度魚類調査時に確認されたオオサンショウウオを含む。
生息状況の変化	流入河川に生息する両生類の状況	・オオサンショウウオ、イモリ、アマガエル、トノサマガエル、シユレーゲルアオガエルの 5 種が確認されている。 ・流水性種は、オオサンショウウオのみでその他の種は、水田や池沼等の止水環境及び周辺樹林を利用する種である。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、イモリが確認された。また、平成 19 年度魚類調査時には深谷川でオオサンショウウオが確認されている。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。

b)爬虫類

ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果を 表 6.3.2-51 に示す。

表 6.3.2-51 流入河川における爬虫類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
爬虫類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、2 種の爬虫類が確認されている。
生息状況の変化	流入河川に生息する爬虫類の状況	・クサガメ、カナヘビの 2 種が確認されている。
	重要種の状況	・これまでの調査において、重要種は確認されていない。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。

c)哺乳類

ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果 表 6.3.2-52 に示す。

表 6.3.2-52 流入河川における哺乳類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
哺乳類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、8 種の哺乳類が確認された。
生息状況の変化	流入河川周辺に生息する哺乳類の状況	・コウベモグラ、ノウサギ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ属、イノシシ、ホンドリカの 8 種が確認された。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、カヤネズミが確認された。球巣がオギ群落等の草地環境で確認された。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。

(g)陸上昆虫類等

ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果を表 6.3.2-53 に示す。

表 6.3.2-53 流入河川における陸上昆虫類等の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
陸上昆虫類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査では、396 種が確認されている。
生息状況の変化	流入河川に生息する陸上昆虫類等の状況	・目別確認種数で最も多かったのはコウチュウ目の 106 種で、次いでカメムシ目の 57 種、クモ目の 46 種、チョウ目の 45 種の順であった。 ・水生昆虫類ではカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やゲンゴロウ科、ヒメドロムシ科、ヒラタドロムシ科等も確認された。
	重要種の状況	・これまでの調査において、重要種は確認されていない。
	外来種の状況	・平成 15 年度において、ブタクサハムシの 1 種が確認されている。

2)ダム湖の存在・供用による生物への影響の整理結果

(a)魚介類

a)魚類

ダムの存在・供用による魚類への影響の整理結果を表 6.3.2-54 に示す。

表 6.3.2-54 ダムの存在・供用による魚類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
魚類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在
	回遊性魚類の状況	・止水環境の存在 ・河川域の連続性の分断(水質保全ダムの存在を含む)
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

b)エビ・カニ・貝類

ダムの存在・供用によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果を表 6.3.2-55 に示す。

表 6.3.2-55 ダムの存在・供用によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	流入河川に生息するエビ・カニ・貝類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(b)底生動物

ダムの存在・供用による底生動物への影響の整理結果を表 6. 3. 2-56 に示す。

表 6. 3. 2-56 ダムの存在・供用による底生動物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
底生動物相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(c)動植物プランクトン

a)植物プランクトン

ダムの存在・供用による植物プランクトンへの影響の整理結果を表 6. 3. 2-57 に示す。

表 6. 3. 2-57 ダムの存在・供用による植物プランクトンへの影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
植物プランクトン相の変化	種数	・止水環境の存在
生育状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在

b)動物プランクトン

ダムの存在・供用による動物プランクトンへの影響の整理結果を表 6. 3. 2-58 に示す。

表 6. 3. 2-58 ダムの存在・供用による動物プランクトンへの影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
動物プランクトン相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	優占種の変化	・止水環境の存在

(d)植物

ダムの存在・供用による植物への影響の整理結果を表 6.3.2-59 に示す。

表 6.3.2-59 ダムの存在・供用による植物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
植物相の変化	種数	・止水環境の存在
生育状況の変化	流入河川周辺に生育する植物の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(e)鳥類

ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果を表 6.3.2-60 に示す。

表 6.3.2-60 ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
鳥類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(f)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果を表 6.3.2-61 に示す。

表 6.3.2-61 ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
両生類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱



b) 爬虫類

ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果を表 6.3.2-62 に示す。

表 6.3.2-62 ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
爬虫類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	流入河川に生息する爬虫類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

c) 哺乳類

ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果を表 6.3.2-63 に示す。

表 6.3.2-63 ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
哺乳類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	流入河川に生息する哺乳類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

(g) 陸上昆虫類等

ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果を表 6.3.2-64 に示す。

表 6.3.2-64 ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
陸上昆虫類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	流入河川周辺に生息する陸上昆虫類等の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・止水環境の存在
	外来種の状況	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱

3)ダム湖の存在・供用以外の考えうる因子の整理結果

(a)魚介類

a)魚類

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による魚類への整理結果を表 6.3.2-65 に示す。

表 6.3.2-65 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による魚類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
魚類相の変化	種数	・放流(漁業・遊漁) ・河川環境の変化
生息状況の変化	優占種の変化	・放流(漁業・遊漁) ・河川環境の変化
	回遊性魚類の状況	・放流(漁業・遊漁) ・河川環境の変化
	重要種の状況	・放流(漁業・遊漁) ・河川環境の変化
	外来種の状況	・放流(漁業・遊漁) ・河川環境の変化

b)エビ・カニ・貝類

ダムの存在・供用以外の考えうる因子によるエビ・カニ・貝類への整理結果を表 6.3.2-66 に示す。

表 6.3.2-66 ダムの存在・供用以外の考えうる因子によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・河川環境の変化
生息状況の変化	優占種の変化	・河川環境の変化
	回遊性魚類の状況	・河川環境の変化
	重要種の状況	・河川環境の変化
	外来種の状況	・河川環境の変化

(b)底生動物

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による底生動物への整理結果を表 6.3.2-67 に示す。

表 6.3.2-67 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による底生動物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
底生動物相の変化	種数	・河川環境の変化
生息状況の変化	優占種の変化	・河川環境の変化
	重要種の状況	・河川環境の変化
	外来種の状況	・河川環境の変化 ・魚類の放流(漁業・遊漁)

4) 流入河川の生物の変化に対する影響の検証結果

(a) 魚介類

a) 魚類

魚類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-68 に示す。

表 6.3.2-68 (1) 魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
魚類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:平成4年度から平成19年度にかけて、確認種数が11種から21種へと増加している。</li> <li>・天満川:平成4年度から平成19年度にかけて、確認種数が3種から10種へと増加している。</li> <li>・深谷川:平成13年度から平成19年度にかけて、確認種数が2種から4種へと増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流(漁業・遊漁)</li> <li>・河川環境の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認種数の増加は、調査精度等の違いに拠るところもあるが、アユやゲンゴロウブナの放流に随伴して移入された種も定着している可能性があると考えられる。</li> </ul>
生息状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成4年度はオイカワが76%を占めていたが、平成19年度はオイカワが36%、コウライモロコが27%となっている。</li> <li>・天満川:確認個体数は平成8年度をピークに減少している。優占種は、平成5年度はトウヨシノボリ、以降はカワムツ及びウキゴリが増加し、平成19年度ではこの2種が半数以上を占めている。</li> <li>・深谷川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成13年度、平成19年度ともにカワムツである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流(漁業・遊漁)</li> <li>・河川環境の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認種数・個体数ともに増加しており、止水環境の存在による影響はほとんどないものと考えられる。</li> <li>・天満川:平成8年度をピークに優占種のオイカワやトウヨシノボリが減少しているが、これらの種の生態から勘案すると河川環境の単調化等の他の要因に起因している可能性がある。</li> <li>・深谷川:種によって増減はみられるが、これは止水環境の存在による影響ではないものと考えられる。</li> </ul>
	回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成4年度はアユであったが、平成19年度にはウキゴリとなっている。</li> <li>・天満川:確認個体数は平成8年度をピークに減少し、平成13年度から平成19年度にかけては概ね横ばいとなっている。優占種は平成5年度及び平成8年度はトウヨシノボリ、以降はウキゴリとなっている。</li> <li>・深谷川:アマゴが平成19年度に1個体確認されたのみである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止水環境の存在</li> <li>・河川域の連続性の分断(水質保全ダムの存在を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放流(漁業・遊漁)</li> <li>・河川環境の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認種数・個体数ともに増加していることから、影響はほとんどないものと考えられる。</li> <li>・天満川:平成8年度を転機に、トウヨシノボリが減少、ウキゴリが増加しているが、これらの種の生態から勘案すると河川環境の単調化等の他の要因に起因している可能性がある。</li> <li>・深谷川:止水環境の存在による影響はほとんどないものと考えられる。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

:室生ダムの影響がみられるもの                      ×:変化がほとんどみられないもの  
:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.3.2-68(2) 魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
生息状況の変化	<p>重要種の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然分布と考えられる種</li> <li>これまでの調査で、ギギ、アマゴ、メダカ、ウキゴリ、カワヨシノボリの5種が確認され、平成19年度調査ではすべてが確認されている。</li> <li>ギギは宇陀川、ウキゴリは宇陀川・天満川で増加傾向にある。カワヨシノボリは宇陀川で増加、深谷川で減少している。アマゴは深谷川、メダカは宇陀川で平成19年度に確認されている。</li> <li>放流等が由来と考えられる種</li> <li>これまでの調査で、ハス、ホンモロコ、スゴモロコ、アユ、タウナギの5種が確認され、平成19年度調査ではすべてが確認されている。</li> <li>主に宇陀川で確認されているが、タウナギは天満川、アユは、天満川、深谷川でも確認されている。</li> <li>確認個体数に大きな変動はなく、平成19年度の段階では、いずれも10個体以下程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流(漁業・遊漁)</li> <li>河川環境の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然分布と考えられる種</li> <li>平成19年度では、確認種数・個体数ともに、多く確認されているが、これは止水環境の存在による影響かどうかについては、言及できない。放流等が由来と考えられる種</li> <li>確認個体数は、調査年度によって、ばらつきがみられるが、これは止水環境の存在による影響ではないと考えられる。</li> <li>アユについては、流入河川において、毎年放流が実施されている。</li> </ul>	
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年度にタウナギが天満川で4個体、平成19年度にタウナギが宇陀川で3個体、天満川で2個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> <li>生息環境の攪乱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流(漁業・遊漁)</li> <li>河川環境の変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇陀川、天満川におけるタウナギの定着についての詳細は不明であるが、止水環境の存在による影響とは無関係であると考えられる。</li> </ul>	×

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

:室生ダムの影響がみられるもの  
×:変化がほとんどみられないもの  
:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-69 に示す。

表 6.3.2-69 エビ・カニ・貝類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・平成4年度から平成13年度にかけては、確認種数は3~4種と、ほぼ横ばいとなっている。	・止水環境の存在	・河川環境の変化	・エビ類は河川緩流部やダム湖、カワニナ、マシジミ、サワガニは河川を生息環境とすることから、流入河川には大きな変化はなかったものと考えられる。	×
	流入河川に生息するエビ・カニ・貝類の状況	・テナガエビを除き、経年とともに増加傾向にある。しかし、スジエビについては、平成8年度から平成13年度にかけて、減少に転じている。	・止水環境の存在	・河川環境の変化	・平成8年度から平成13年度にかけてのスジエビの減少は、肉食性魚類等の影響が及んでいる可能性があるが、変化の要因は不明である。	
	重要種の状況	・平成13年度に、マシジミが天満川で1個体確認されている。	・止水環境の存在	・河川環境の変化	・マシジミは河川や水路等の流水域を主な生息環境とする。	×
外来種の状況	・これまでの調査において、外来種の生息は確認されていない。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	・河川環境の変化		-	-

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(b)底生動物

底生動物の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-70 に示す。

表 6.3.2-70 底生動物の変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
変化 底生動物相の	種数 ・平成 5 年度は 38 種であったが、経年とともに増加し、平成 17 年度では 182 種、平成 20 年度では 171 種となっている。 ・主な分類群は、カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目である。	・止水環境の存在 ・水質の変化	・河川環境の変化	・確認種数の増加については、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の増加による可能性があるが、変化の要因は不明である。
生息状況の変化	優占種の変化 ・宇陀川：平成 7 年度では、基本的にはシマトビケラ類が優占種となるが、以降はシマトビケラ類のほか、ユスリカ類やイトミミズ類が優占する傾向がみられる。確認個体数については、調査年度でばらつきがみられる。全体的な傾向として、経年とともに貧腐水性種の確認割合が低くなっている。 ・天満川：平成 7 年度ではシマトビケラ類、12 年度ではコカゲロウ科やユスリカ科、平成 17 年度ではミズミミズ科やミズムシ、平成 20 年度ではシマトビケラ類等が優占する。確認個体数は概して平成 12 年度及び平成 20 年度が多い。平成 17 年度以外は貧腐水性種が優占種に含まれているが、平成 17 年度では含まれていない。 ・深谷川：平成 7 年度はカゲロウ類が優占するが、平成 17 年度及び平成 20 年度ではコカゲロウ科等が優占する。各調査年度ともに貧腐水性種が優占する。	・止水環境の存在 ・水質の変化	・河川環境の変化	・宇陀川：調査年度・時期によって、確認個体数等に大きな違いはみられるが、その変化の要因は不明である。 ・天満川：調査年度・時期によって、確認個体数等に大きな違いはみられるが、その変化の要因は不明である。 ・深谷川：確認個体数は平成 17 年度から平成 20 年度にかけて減少しているが、その変化の要因は不明である。
	重要種の状況 ・平成 7 年度に 1 種、平成 12 年度に 6 種、平成 17 年度に 4 種、平成 20 年度に 7 種が確認されている。平成 20 年度では、宇陀川でヒラマキガイモドキ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、天満川でアオサナエ、オオコオイムシ、深谷川でムカシトンボ、ゲンジボタルが確認されている。深谷川のムカシトンボ、ゲンジボタルは減少傾向にある。	・止水環境の存在	・河川環境の変化	・確認されている重要種のほとんどは流水性種であることから、止水環境の存在による影響はほとんどないと考えられる。平成 20 年度に確認されたヒラマキガイモドキ及びオオコオイムシは主に湿地等の止水に生息することから、周辺地域から一時的に移動してきた可能性があると考えられる。 ・深谷川におけるムカシトンボ、ゲンジボタルの確認個体数が減少傾向にあるが、これは他の要因によるものと考えられる。
	外来種の状況 ・コシダカヒメモノアラガイ、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されている。コシダカヒメモノアラガイは平成 20 年度に宇陀川・天満川で、サカマキガイは宇陀川・天満川でほぼ経年的に確認されており、アメリカザリガニは平成 12 年度以降、宇陀川で確認されている。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	・河川環境の変化 ・魚類の放流(漁業・遊漁)	・確認状況の推移から、サカマキガイは、宇陀川・天満川に定着しているものと考えられる。また、アメリカザリガニについても、宇陀川に定着しているものと考えられる。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

○：室生ダムの影響がみられるもの

×：変化がほとんどみられないもの

◇：室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(c)動植物プランクトン

a)植物プランクトン

植物プランクトンの変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-71 に示す。

表 6.3.2-71 植物プランクトンの変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
トン相の変化	植物プランク 種数	・確認種数については、平成 5 年度は 33 種、平成 11 年度は 74 種、平成 16 年度は 22 種と、平成 5 年度から平成 11 年度にかけて増加し、以降は減少傾向となっている。	・ダム湖への流入水質	・ダム湖への流入水質	・確認種数の増減は、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の変化によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。
生育状況の変化	優占種の変化	・平成 5 年度及び平成 16 年度は珪藻類、平成 11 年度は緑藻類であった。 ・確認種は、止水域や河川下流、小さな池や養魚池、富栄養化した止水域に出現する種が多い傾向にあった。	・ダム湖への流入水質	・ダム湖への流入水質	・止水域や河川下流、小さな池や養魚池、富栄養化した止水域に出現する種が多かったが、水質環境が悪化している状況ではないと考えられる。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)動物プランクトン

動物プランクトンの変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-72 に示す。

表 6.3.2-72 動物プランクトンの変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
トン相の変化	動物プランク 種数	・確認種数については、平成 5 年度は 4 種、平成 11 年度は 44 種、平成 16 年度と 33 種と、増減している。	・ダム湖への流入水質	・ダム湖への流入水質	・確認種数の増減は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。
の 変化	生息状況 優占種の変化	・確認種は、全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多い種であった。	・ダム湖への流入水質	・ダム湖への流入水質	・全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多い種であったが、水質環境が悪化している状況ではないと考えられる。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(d)植物

植物の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-73 に示す。

表 6.3.2-73 植物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
植物相の変化	種数	・平成 16 年度の調査において、205 種が確認されている。	・止水環境の存在	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。 -
	生育状況の変化	・河川沿いや湿った環境を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。	・止水環境の存在	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。 -
	重要種の状況	・平成 16 年度の調査において、重要種はゴキヅル、メハジキの 2 種確認されている。 ・これらは、いずれも河原等に生育する種である。	・止水環境の存在	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。 -
外来種の状況	・平成 16 年度の調査において、外来種は 44 種(うち 3 種は特定外来種)が確認されている。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。 -	

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



(e)鳥類

鳥類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-74 に示す。

表 6.3.2-74 鳥類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
鳥類相の変化	種数	・平成 14 年度では 26 種、平成 18・19 年度で 32 種と増加する傾向がみられている。	・止水環境の存在	-	・確認種数の増加は、渡来種数の増加のほかに、調査手法の違いによる影響も考えられる。 x
生息状況の変化	流入河川に生息する鳥類の状況	・水辺を利用する種としては、カワウ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイについては、継続的に確認されている。 ・陸域を利用する種としては、ヒヨドリ、ホオジロ、スズメ等草地から樹林に生息する種が多く確認されている。	・止水環境の存在	-	・水辺を利用するダイサギ、アオサギ等の大型のサギ類が確認されなくなったことから、河岸の植生が繁茂するなど、利用しづらい環境に変化した可能性があると考えられる。
	重要種の状況	・平成 14 年度の 3 種から、平成 18・19 年度は 9 種に増加している。 ・水辺を利用する種とし、オシドリ、コチドリ、ヤマシギ、ヤマセミ、カワガラスの 5 種が確認されている。 ・陸域を利用する種は、ホトトギス、アカゲラ、イカル等樹林性の種、アオジ、ベニマシコ等藪や草地性の種等が確認されている。	・止水環境の存在	-	・重要種の増加は、渡来数の増加のほかに、調査手法の違いによる影響も考えられる。
	外来種の状況	・コジュケイが平成 18・19 年度に確認されている。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	・コジュケイは、日本に移入された年代が古い種であることから、古くから周辺で定着していたものと考えられる。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- ・:室生ダムの影響がみられるもの
- x:変化がほとんどみられないもの
- ・:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(f)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

両生類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-75 に示す。

表 6.3.2-75 両生類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
両生類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、5 種が確認された。 ・なお、確認種には、平成 19 年度魚類調査時に確認されたオオサンショウウオを含む。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はオオサンショウウオを除き、ダム湖周辺で確認されている種である。
生息状況の変化	流入河川に生息する両生類の状況	・オオサンショウウオ、イモリ、アマガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエルの 5 種が確認されている。 ・流水性種は、オオサンショウウオのみでその他の種は、水田や池沼等の止水環境及び周辺樹林を利用する種である。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はオオサンショウウオを除き、ダム湖周辺で確認されている種である。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、イモリが確認された。また、平成 19 年度魚類調査時には深谷川でオオサンショウウオが確認されている。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、イモリはダム湖周辺で確認されている。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	-

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- :室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)爬虫類

爬虫類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-76 に示す。

表 6.3.2-76 爬虫類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果		
爬虫類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、2 種の爬虫類が確認されている。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種のいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	-	
	生息状況の変化	流入河川に生息する爬虫類の状況	・クサガメ、カナヘビの 2 種が確認されている。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種のいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	-
		重要種の状況	・これまでの調査において、重要種は確認されていない。	・止水環境の存在	-	-	-
		外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	-	-

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- △: 変化がほとんどみられないもの
- ×: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

c)哺乳類

哺乳類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.2-77 に示す。

表 6.3.2-77 哺乳類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
生息状況の変化	哺乳類相の変化	・平成 15 年度の調査において、8 種の哺乳類が確認された。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、コウベモグラを除き、確認された種はダム湖周辺で確認されている種である。	-
	流入河川に生息する哺乳類の状況	・コウベモグラ、ノウサギ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、イタチ属、イノシシ、ホンドジカの 8 種が確認された。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、コウベモグラを除き、確認された種はダム湖周辺で確認されている種である。	-
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、カヤネズミが確認された。球巣がオギ群落等の草地環境で確認された。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、カヤネズミはダム湖周辺で確認されている。	-
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	-	-

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(g)陸上昆虫類等

陸上昆虫類等の変化に対する影響の検証結果を 表 6.3.2-78 に示す。

表 6.3.2-78 陸上昆虫類等の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外 の影響	検証結果
陸上昆虫類等 の変化	種数	・平成 15 年度の調査では、396 種が確認されている。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。 x
	流入河川に生息する陸上昆虫類の状況	・目別確認種数で最も多かったのはコウチュウ目の 106 種で、次いでカメムシ目の 57 種、クモ目の 46 種、チョウ目の 45 種の順であった。 ・水生昆虫類ではカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やゲンゴロウ科、ヒメドロムシ科、ヒラドロムシ科等も確認された。	・止水環境の存在	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。 x
	重要種の状況	・これまでの調査において、重要種は確認されていない。	・止水環境の存在	-	- -
	外来種の状況	・平成 15 年度において、ブタクサハムシの 1 種が確認されている。	・止水環境の存在 ・生息環境の攪乱	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、普通にみられる種であり、特にダム湖との関係はないと考えられる。 x

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- x:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

### 6.3.3. 下流河川における変化の検証

#### (1)生物の生息・生育状況の変化の把握

##### 1)魚介類

##### (a)魚類

魚類の調査は、これまでに計3回実施されている。

各調査年度における下流河川の調査地点数、及び調査回数は表6.3.3-1に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表6.3.3-2に示すとおりであり、経年とともに調査手法が多様化する傾向がみられる。

また、調査実施時における下流河川の水位は、図6.3.3-1～図6.3.3-5に示すとおりである。

表6.3.3-1 調査実施状況一覧:魚類

調査地点数 及び回数	調査年度		
	H8	H13	H19
調査地点数	1	1	1
調査回数	2	2	2
調査時期	7月・10月	8月・10月	6月・8月

表 6.3.3-2 調査内容一覧:魚介類

調査地区										調査内容						
区分	H4		H5		H8		H13		H19		H4	H5	H8	H13	H19	
調査番号	1		2		5		11		19		1	2	5	11	20	
下流河川					No.1	下流河川(宇陀川)	St.1	下流河川	淀室下1	ダムサイト直下	-	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水80分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網150分、セルびん4個、はえなわ4本、潜水観察0.5h	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、どう2個、カゴ網2個、潜水観察2h	
ダム湖	St.2	湖心	St.3	湖底の平らな部分	No.2	湖内湾入部	St.2	湖肢	淀室湖2	湖岸部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(18mm)中層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、セルびん10個、はえなわ4本、カニカゴ4個、どう4個	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層1枚・中層2枚、セルびん2個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
									淀室湖3	宇陀川流入部	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
								St.9	河川流入部	淀室湖6	深谷川流入部	-	-	刺網(15mm)表層1枚・中層2枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚、投網(12mm)10回・(18mm)20回、タモ網140分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.3	天満川流入部	St.2(1)	天満川流入部	No.3	河川流入点(天満川)	St.3	河川流入部	淀室湖7	天満川流入部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)20回・(18mm)15回、タモ網120分、セルびん15個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚・中層2枚、投網(12mm)20回・(18mm)10回、タモ網110分、セルびん4個、はえなわ4本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個	
	St.4	宇陀川流入部	St.1(1)	宇陀川流入部	No.5	河川流入点(宇陀川)	St.5	ダム湖内			刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルピン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表層180m、投網(12mm)17回・(18mm)18回、タモ網120分、セルびん16個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚、タモ網20分	-	
			St.1(2)	宇陀川流入部									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-
		St.1-1	ダムサイト									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-	-
		St.1-2	ダムサイト(船着場)									モンドリ、目視	-	-	-	-
								St.7	最深部			-	-	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚	-	
								St.8	河川流入部			-	-	刺網(15mm)表層1枚、底層1枚、刺網(50mm)表層2枚、投網(12mm)15回・(18mm)25回、タモ網90分、セルびん4個、はえなわ1本	-	
流入河川							St.10	流入河川	淀室入1	流入河川深谷川	-	-	投網(18mm)21回、タモ網75分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h		
	St.6	流入河川	St.2(2)	天満川流入部	No.4	流入河川(天満川)	St.4	流入河川	淀室入2	流入河川天満川	投網(12mm)3回	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網60分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h		
	St.5	宇陀川(高倉橋付近)			No.6	流入河川(宇陀川)	St.6	流入河川	淀室入3	流入河川宇陀川	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水60分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)25回・(18mm)26回、タモ網120分、セルびん4個、はえなわ2本、潜水観察20分		
その他								淀室他1	水質保全ダム湛水域	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
時期	-		-		-		-		初夏		-		-		H19.6.5~9	
	夏季		-		夏季		夏季		夏季		H4.8.12~14		H8.7.23~24、29~30		H13.7.31、8.1~6	
	秋季		秋季		秋季		秋季		-		H4.10.12~14		H5.9.20~22		H8.10.16~18	

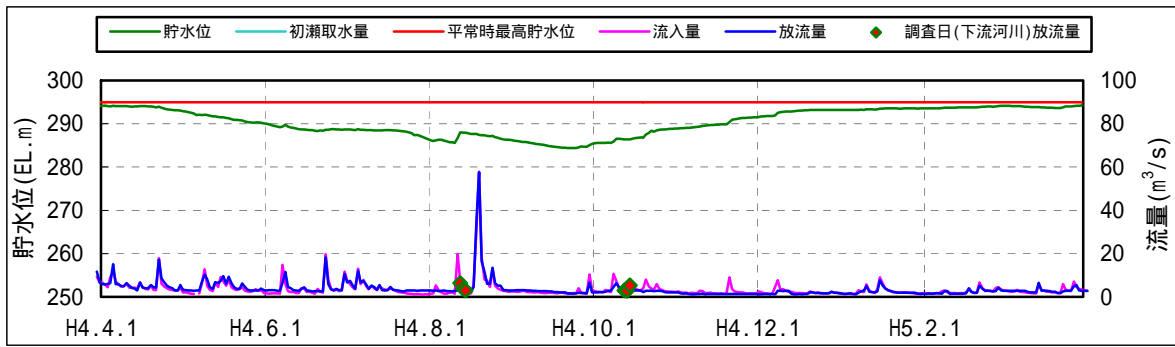


図 6.3.3-1 調査実施時の流況(平成 4 年度)

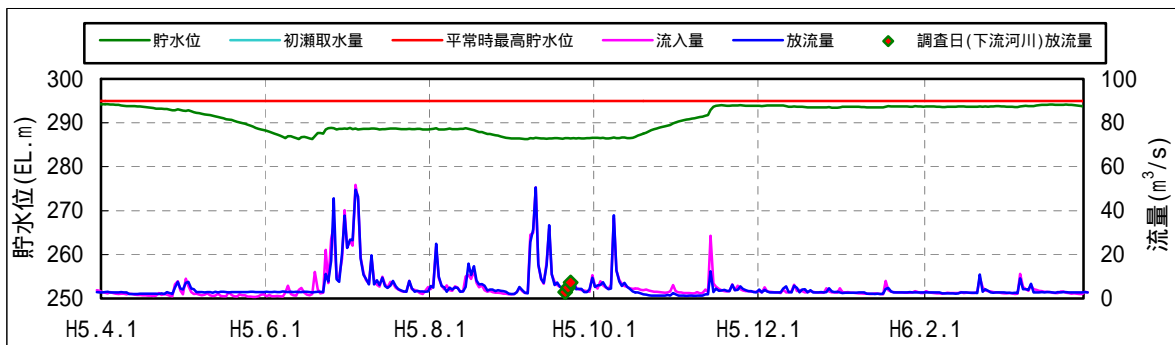


図 6.3.3-2 調査実施時の流況(平成 5 年度)

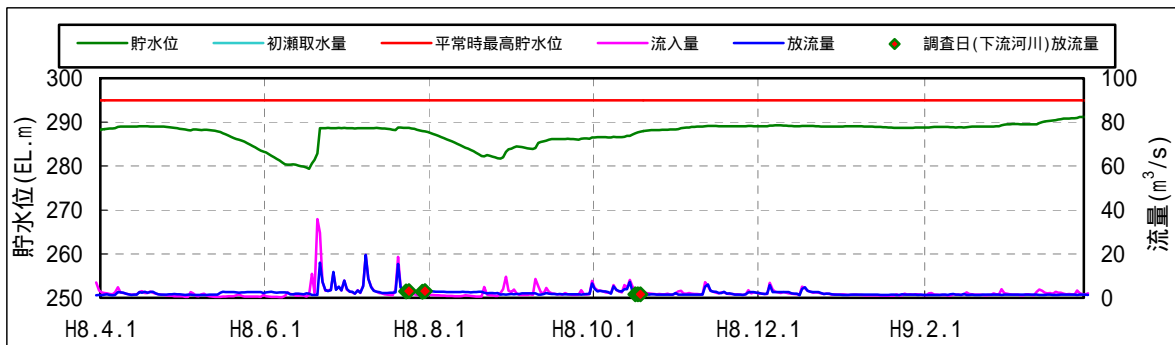


図 6.3.3-3 調査実施時の流況(平成 8 年度)



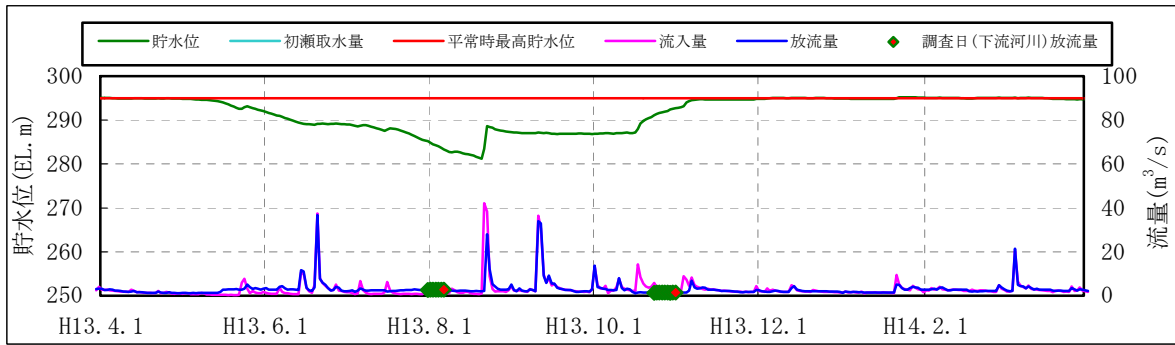


図 6.3.3-4 調査実施時の流況(平成13年度)

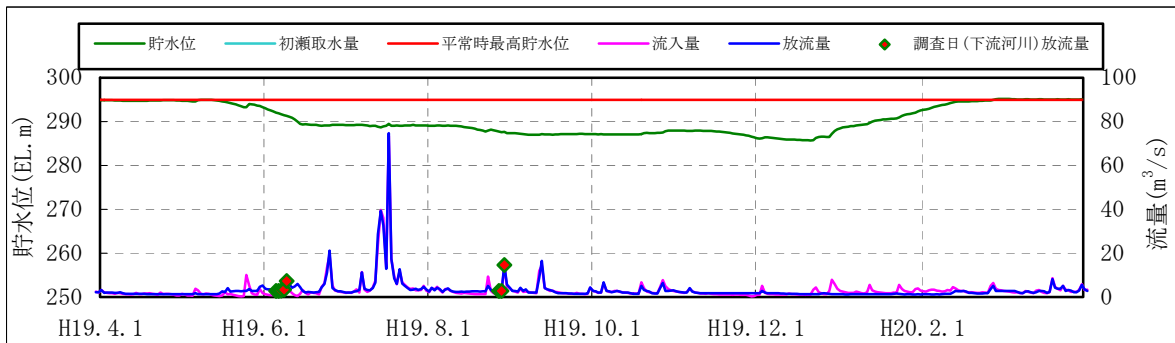


図 6.3.3-5 調査実施時の流況(平成19年度)

a) 魚類相の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された魚類の一覧は表 6.3.3-3、またその推移については図 6.3.3-6～図 6.3.3-8 に示すとおりである。なお、魚類相の変化については、目視確認による個体数は、不明瞭な点が多いことから(“(1 個体未満/100m<sup>2</sup>)” や “++++(1000 個体程度以上/100m<sup>2</sup>)” と記載してある)、目視確認による個体を除外して整理することとした。

下流河川の魚類については、オイカワやカワムツ、トウヨシノボリ等の河川中流域を主な生息環境とする種のほか、ブルーギルやオオクチバス(ブラックバス)等の湖沼を主な生息環境とする種等で構成されていた。また、確認種数は、平成 8 年度及び平成 13 年度が 8 種であったのに対して、平成 19 年度は 11 種と増加する傾向にある。

個体数についても、種数と同様に、経年とともに増加する傾向がみられているが、確認個体の構成比率に変化がみられる点は特徴的である。平成 8 年度ではトウヨシノボリが約 43%、オイカワが約 40%の割合で優占していたが、平成 13 年度にはトウヨシノボリの確認割合が約 10%にまで減少し、変わってヌマチチブが約 41%を占める結果となっている。また、オイカワについては、約 35%と比較的高い割合で出現している。平成 19 年度についてみると、第一優占種はヌマチチブで確認割合の約 43%を占めており、次いでコウライモロコが約 16%、オイカワが約 10%、カワムツが約 9%となっている。

全体的な傾向としては、種数・個体数は増加する傾向にあり、また増加している種は特定の種に限られるのではなく、比較的多くの種が増加傾向にあることがうかがえる結果となっている。

なお、平成 19 年度にはアユが確認されているが、本河川の下流側には遡上することが困難な高山ダムが存在することから、放流等が由来の個体を確認したものと考えられる。

表 6.3.3-3 経年確認種一覧:魚類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
					H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	コイ		1	
2				ゲンゴロウブナ			1
3				ハス		3	
4				オイカワ	31	32	12
5				カワムツ	6	2	11
6				タモロコ			2
7				カマツカ	1		
8				ニゴイ	1		
9				コウライモロコ		6	20
10		ナマズ	ギギ	ギギ		6	
11		サケ	アユ	アユ		3	
12		スズキ	ハゼ	ウキゴリ			7
13				トウヨシノボリ	33	9	7
14				ヌマチチブ	1	38	52
15				サンフィッシュ	ブルーギル	2	
16			オオクチバス		2	1	
1 綱 4 目 5 科 16 種					8 種	8 種	11 種
					77 個体	92 個体	122 個体

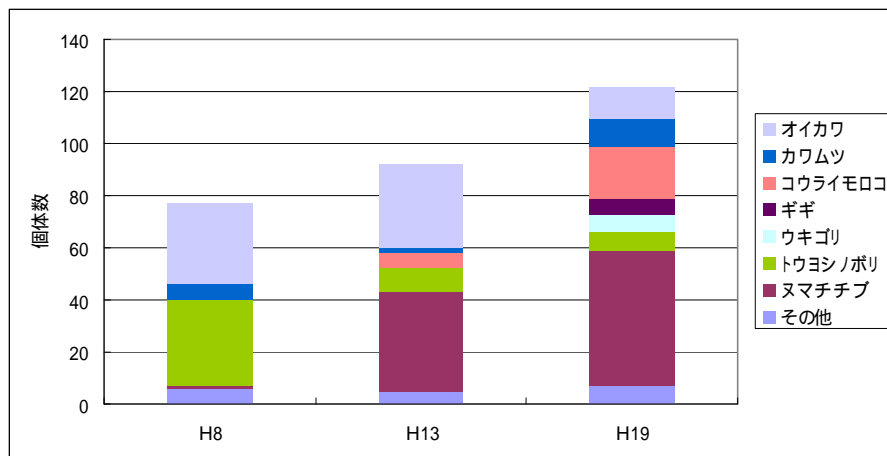


図 6.3.3-6 種別確認個体数の推移:魚類

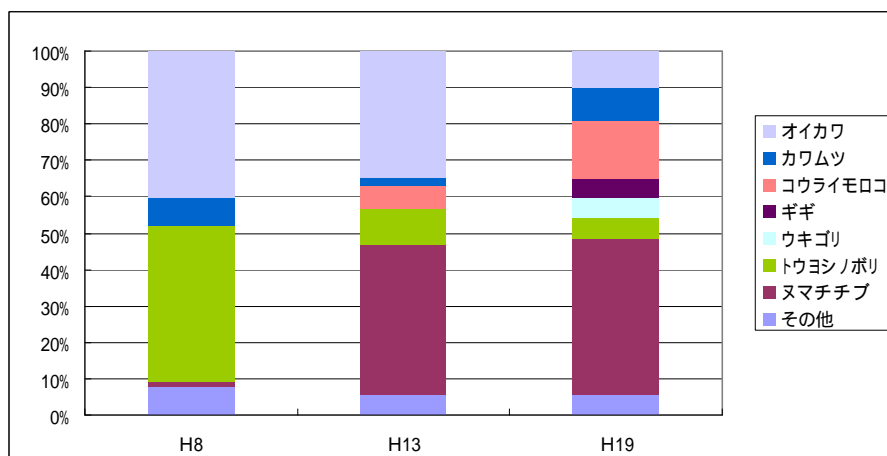


図 6.3.3-7 種別確認割合の推移:魚類

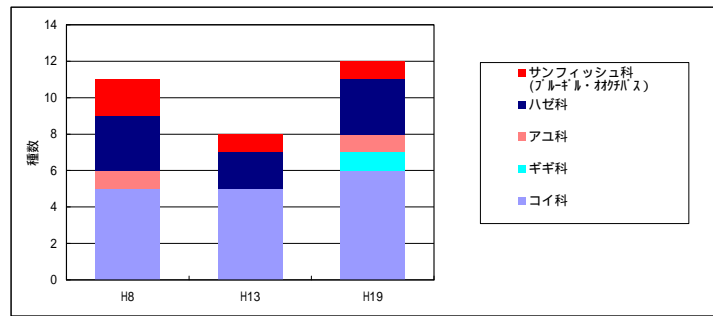


図 6.3.3-8 科別確認種数の推移:魚類

b)底生性魚類の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された底生性魚類の一覧は表 6.3.3-4、またその推移については図 6.3.3-9～図 6.3.4-11 に示すとおりである。なお、底生性魚類の変化については、目視確認による個体数は、不明瞭な点が多いことから、魚類相の変化の整理と同様に、目視確認による個体を除外して整理することとした。

下流河川の底生性魚類については、これまでの調査でカマツカやギギ、ハゼ科等の 5 種が確認されており、確認種数は平成 8 年度では 3 種、平成 13 年度では 2 種、平成 19 年度では 4 種と、大きな変化はみられない。

個体数については、経年とともに増加する傾向がみられ、平成 8 年度が 35 個体であったのに対して、平成 19 年度は 72 個体と約 2 倍にまで増加している。ただし、種構成についてみると、平成 8 年度から平成 13 年度にかけて大きな違いがみられている。具体的には、平成 8 年度に優占種となっていたトウヨシノボリ(確認割合約 94%)が平成 13 年度には約 19%にまで減少し、変わってヌマチチブの確認割合が約 81%になっている。また、平成 19 年度では、ヌマチチブの確認割合は約 72%と依然として高いものの、ギギやウキゴリといった種が新たに確認されるようになり、トウヨシノボリの確認割合は約 10%にまで減少している。このほか、平成 8 年度に確認されていたカマツカは、以降、確認されていない。

表 6.3.3-4 経年確認種一覧:底生性魚類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
					H8	H13	H19
1	硬骨魚	コイ	コイ	カマツカ	1		
2		ナマズ	ギギ	ギギ			6
3		スズキ	ハゼ	ウキゴリ			7
4				トウヨシノボリ	33	9	7
5				ヌマチチブ	1	38	52
1 綱 3 目 3 科 5 種					3 種	2 種	4 種
					35 個体	47 個体	72 個体

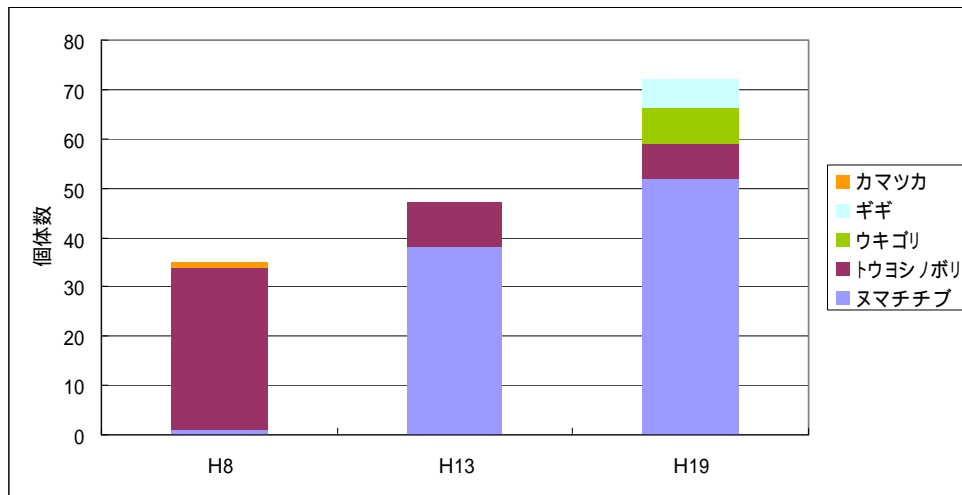


図 6.3.3-9 種別確認個体数の推移:底生性魚類

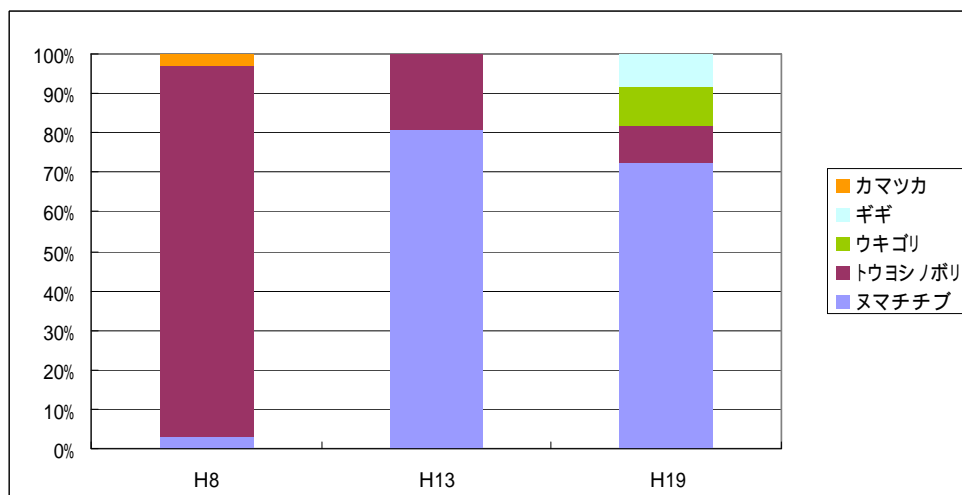


図 6.3.3-10 種別確認個体数の推移:底生性魚類

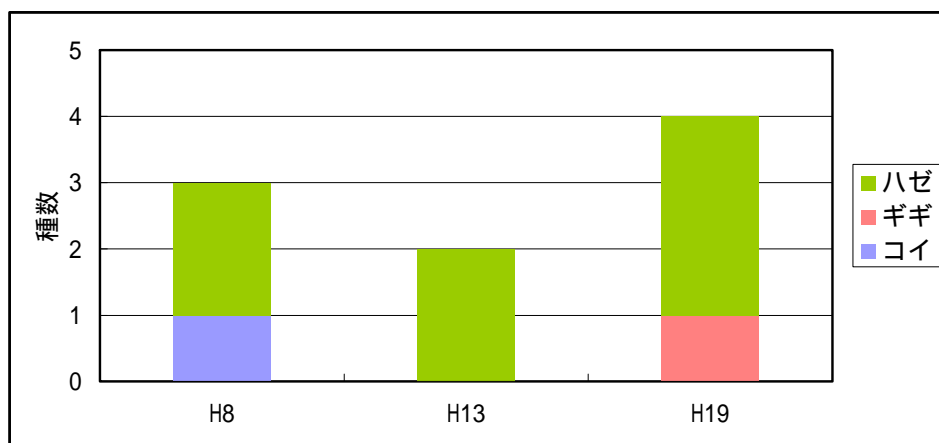


図 6.3.3-11 科別種数の推移:底生性魚類

c) 回遊性魚類の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された回遊性魚類の一覧は表 6.3.3-5、またその推移については図 6.3.3-12～図 6.3.3-14 に示すとおりである。回遊性魚類については、繁殖形態等の生態的な条件から、本来であれば回遊性となる種について既存文献を参考に抽出し、これらの種について整理を行った。また、回遊性魚類の変化については、目視確認による個体数は、不明瞭な点が多いことから、魚類相の変化の整理と同様に、目視確認による個体を除外して整理することとした。なお、抽出した種のうち、アユを除いた種については、ダム湖等の河川横断構造物がある場合、容易に陸封する種である。実際に本河川については、下流側に遡上することが困難な高山ダムが存在することから、アユを除く種については既に陸封状態、アユについては放流等が由来であると考えられる。

下流河川の回遊性魚類については、これまでの調査でアユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの 4 種が確認されている。また、各調査年度の確認種は、平成 8 年度及び平成 13 年度では、トウヨシノボリ、ヌマチチブの 2 種、平成 19 年度ではこれらの 2 種に加えて、アユ、ウキゴリの計 4 種が確認されている。

個体数については、経年とともに増加する傾向がみられ、平成 8 年度が 34 個体であったのに対して、平成 19 年度は 69 個体と約 2 倍にまで増加している。ただし、種構成についてみると、平成 8 年度から平成 13 年度にかけて大きな違いがみられている。具体的には、平成 8 年度に優占種となっていたトウヨシノボリ(確認割合約 97%)が平成 12 年度には約 19%にまで減少し、変わってヌマチチブの確認割合が約 81%になっている。また、平成 19 年度では、ヌマチチブの確認割合は約 75%と依然として高いものの、アユやウキゴリといった種が新たに確認されるようになり、トウヨシノボリの確認割合は約 10%にまで減少している。

表 6.3.3-5 経年確認種一覧:回遊性魚類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
					H8	H13	H19
1	硬骨魚	サケ	アユ	アユ			3
2		スズキ	ハゼ	ウキゴリ			7
3				トウヨシノボリ	33	9	7
4				ヌマチチブ	1	38	52
1 綱 2 目 2 科 4 種					2 種	2 種	4 種
					34 個体	47 個体	69 個体

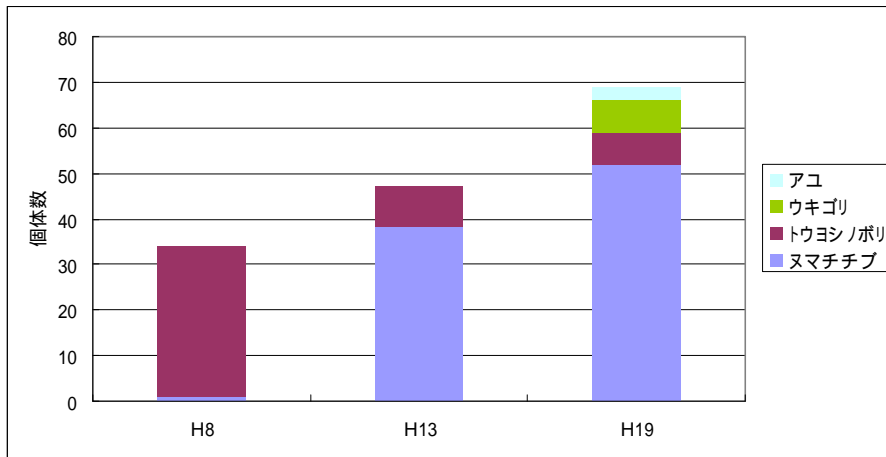


図 6.3.3-12 種別確認個体数の推移: 回遊性魚類

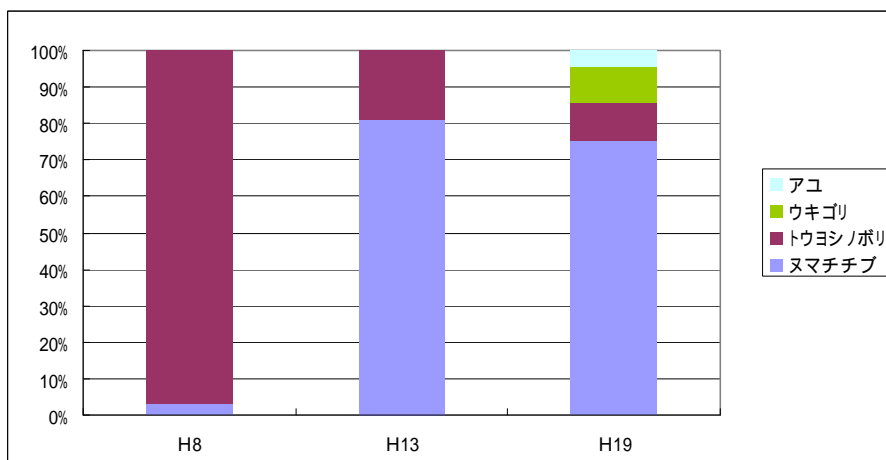


図 6.3.3-13 種別確認割合の推移: 回遊性魚類

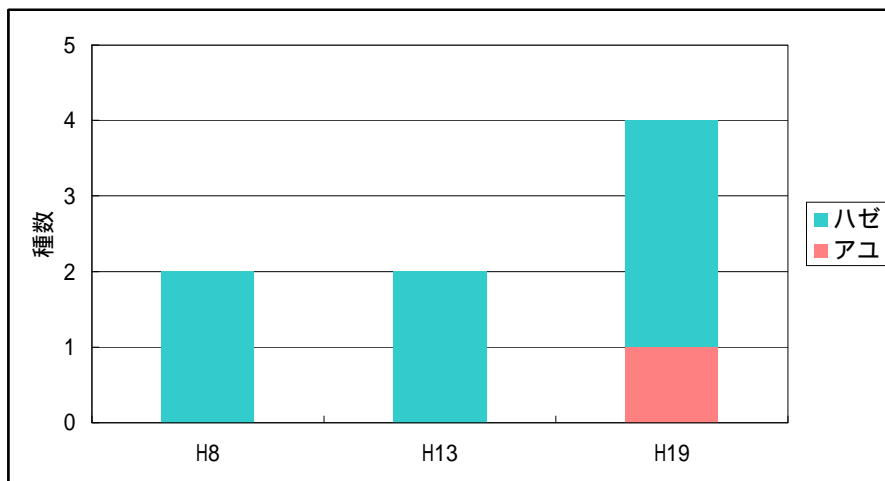


図 6.3.3-14 科別確認種数の推移: 回遊性魚類

d)重要種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された重要種の一覧は、表 6.3.3-6 に示すとおりである。

下流河川の重要種については、自然分布と考えられるギギ、ウキゴリが平成 19 年度に新たに確認されている。また、放流等が由来であると考えられる種は、平成 8 年にアユ、12 年度にハス、平成 19 年度にゲンゴロウブナ、アユがそれぞれ確認されている。

個体数については、自然分布であると考えられるギギが 6 個体、ウキゴリが 32 個体となっている。また、放流等の由来であると考えられる種については、平成 8 年度に 100 個体程度のアユを確認しているが、これは潜水目視の確認に拠るものである。また、平成 13 年度、平成 19 年度に確認された種については、いずれも 3 個体以下であった。

表 6.3.3-6 経年確認種一覧:重要種

分類	No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度				
				1	2	3	4	H4	H5	H8	H13	H19
自然分布	1	ギギ	ギギ				希少					6
	2	ハゼ	ウキゴリ				希少					32
	2科2種			0種	0種	0種	2種	0種 0 個体	0種 0 個体	0種 0 個体	0種 0 個体	2種 38 個体
放流等由来	3	コイ	ゲンゴロウブナ			EN						1
	4		ハス			VU					3	
	5	アユ	アユ				絶寸			100		3
2科3種			0種	0種	2種	1種	0種 0 個体	0種 0 個体	1種 100 個体	1種 3 個体	2種 4 個体	
4科5種			0種	0種	2種	3種	0種 0 個体	0種 0 個体	1種 100 個体	1種 3 個体	4種 42 個体	

注)1.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

2.分類 自然分布 - 自然分布であると考えられる重要種。

放流等由来 - 釣りの対象として放流されたり、アユ等の放流に混雑してきた可能性が高いと考えられる種。

3.確認個体数には、目視・潜水観察による個体を含む。

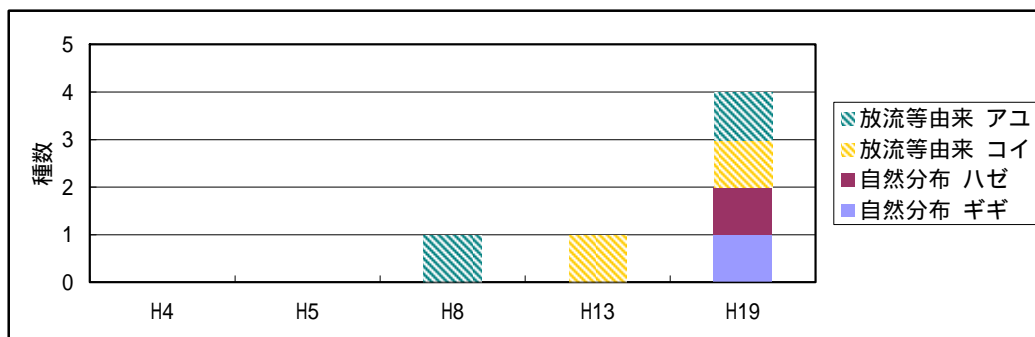


図 6.3.3-15 確認種数の推移: 重要種



e) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された外来種の一覧は、表 6.3.3-7 に示すとおりである。

下流河川の外来種については、平成 8 年度にブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)が確認され、以降、平成 13 年度ではオオクチバス(ブラックバス)、平成 19 年度ではブルーギルがそれぞれ確認されている。

個体数については、平成 8 年度では両種ともに 10 個体以上が確認されていたが、以降は 1 個体と少数に留まっている。なお、平成 8 年度の結果には、潜水目視による確認(両種ともに 10 個体程度)が含まれている。

表 6.3.3-7 経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H4	H5	H8	H13	H19
1	サンフィッシュ	ブルーギル	指定				12		1
2		オオクチバス(ブラックバス)	指定				12	1	
1科2種			2種	2種	0種	0種	2種	1種	1種
					0 個体	0 個体	24 個体	1 個体	1 個体

注)1. 選定基準 1: 特定外来生物法 2: 外来種ハンドブック  
2. 確認個体数には、目視・潜水観察による個体を含む。

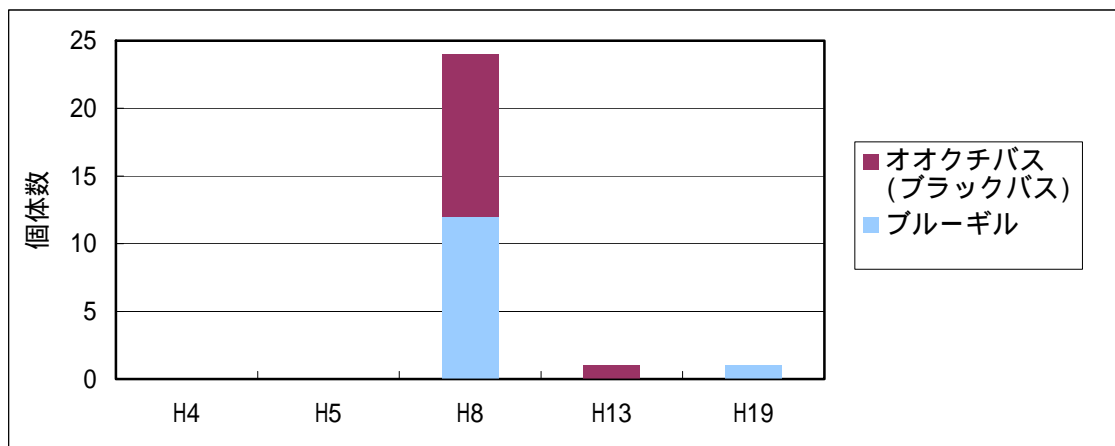


図 6.3.3-16 確認個体数 の推移: 外来種

(b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の調査は、これまでに計2回実施されている。

各調査年度における下流河川の調査地点数、及び調査回数は表6.3.3-8に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については表6.1.3-3に示すとおりであり、経年とともに調査手法が多様化する傾向がみられる。

また、調査実施時における下流河川の水位は、図6.3.3-1～図6.3.3-5に示すとおりである。

表6.3.3-8 調査実施状況一覧:エビ・カニ・貝類

調査地点数 及び回数	調査年度	
	H8	H13
調査地点数	1	1
調査回数	2	2
調査時期	7月・10月	8月・10月

a)エビ・カニ・貝類相の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認されたエビ・カニ・貝類の一覧は表6.3.3-8、またその推移は図6.3.3-17～図6.3.3-19に示すとおりである。

下流河川のエビ・カニ・貝類については、ヒメタニシやカワニナ等のマキガイ類や、マシジミ、テナガエビ、スジエビ等のエビ類が確認されている。また、確認種数については、平成8年度、平成13年度ともに7種であった。

個体数については、総数については平成8年度から平成13年度にかけて減少する傾向にある。ただし、大きく減少しているのはカワニナのみであり、テナガエビやスジエビといったエビ類については増加する傾向がみられている。

表6.3.3-9 経年確認種一覧:エビ・カニ・貝類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
					H8	H13	
1	マキガイ	ニナ	タニシ	ヒメタニシ	5	4	
2			カワニナ	カワニナ	88	22	
3				チリメンカワニナ	4	10	
4	ニマイガイ	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ	2	1	
5	甲殻	エビ	テナガエビ	テナガエビ	14	25	
6				スジエビ	17	28	
7				ヌマエビ	ミナミヌマエビ	3	
8				サワガニ	サワガニ		2
3綱3目6科8種					7種	7種	
					133 個体	92 個体	

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

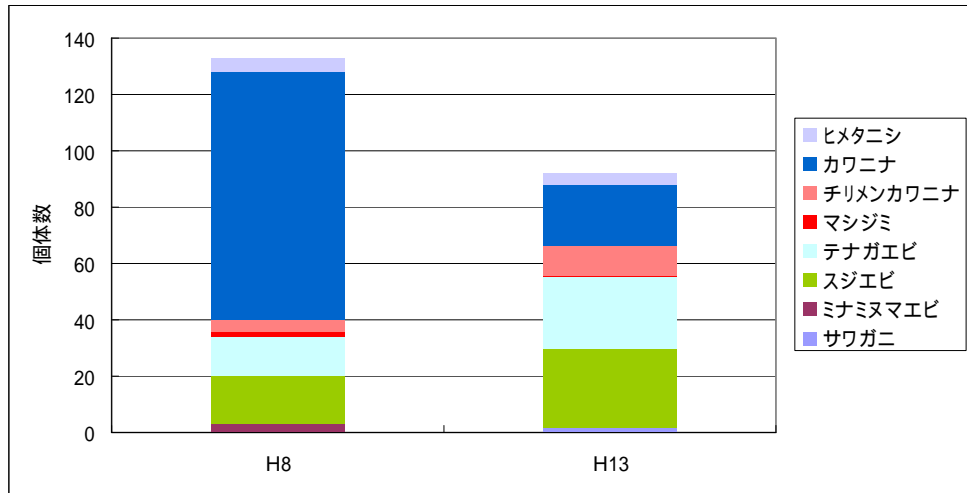


図 6.3.3-17 種別確認個体数の推移:エビ・カニ・貝類

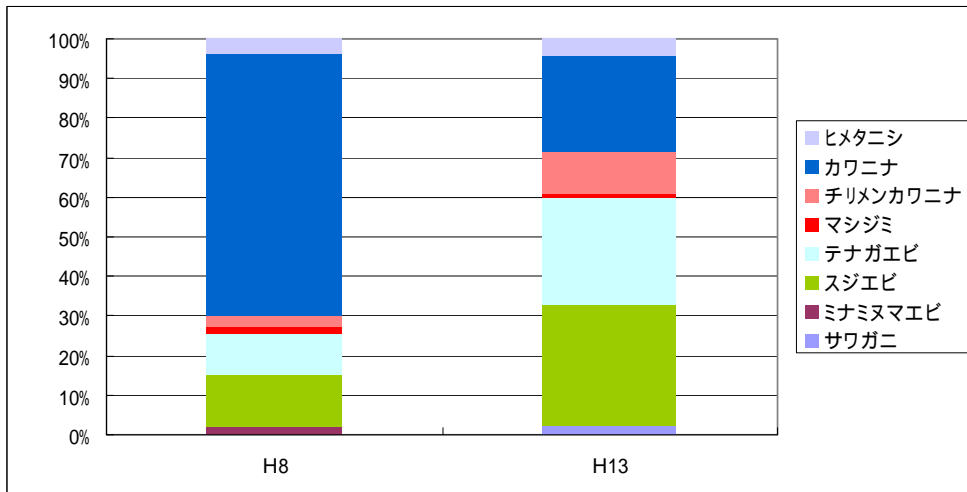


図 6.3.3-18 種別確認割合の推移:エビ・カニ・貝類

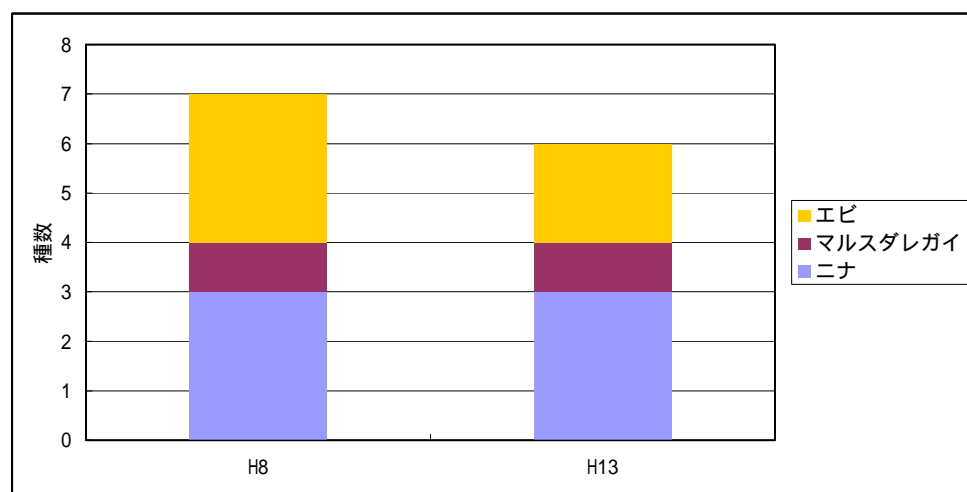


図 6.3.3-19 科別確認種数の推移:エビ・カニ・貝類

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.3-10 に示すとおりである。

下流河川における重要種については、平成 8 年度にマシジミが 2 個体、平成 13 年度にマシジミが 1 個体確認されている。

表 6.3.3-10 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度	
			1	2	3	4	H8	H13
1	シジミ	マシジミ			NT		2	1
1科1種			0種	0種	1種	0種	1種	1種

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川では外来種は確認されていない。

2)底生動物

底生動物の調査は、これまでに計 5 回の調査実施されている。このうち、平成 7 年度、平成 12 年度、平成 17 年度調査については年 3 回の実施、平成 20 年度は年 2 回の実施、平成 5 年度は年 1 回の実施となっている。また、調査手法については、平成 5 年度以外は定量採集及び定性採集を実施しているが、平成 5 年度調査は定量採集調査のみとなっている。

各調査年度における下流河川の調査地点、及び調査回数は表 6.3.3-11 に示すとおりである。なお、調査手法等の詳細については、表 6.3.3-12 に示すとおりである。

また、調査実施時における下流河川の水位は、図 6.3.3-20 ~ 図 6.3.3-24 に示すとおりである。

表 6.3.3-11 調査実施状況一覧:底生動物

調査地点数及び回数		調査年度				
		H5	H7	H12	H17	H20
調査地点数	定量採集	1	1	1	1	3
	定性採集	-	2~3	4	3	4
調査回数		1	3	1	3	2
調査時期		9月	7~8月 12月・2月	7月・10月 1月	7月・10月 1月	8月・4月

注)1. :調査実施時期によって、調査箇所数が異なる

表 6.3.3-12 調査内容一覧:底生動物

調査年度		H5	H7	H12	H17	H20	
調査番号		2	4	10	17	21	
調査地点	区分	下流河川	放水口	(定量・定性)No.1	(定量・定性)No.1	(定量・定性)St.1	淀室下1
		ダム湖内	網場,湖心,県取水口	(定点)No.2, No.3, No.4 (定性)1,2,3,4,5	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7	(定点)St.2, St.4 (定性)1,2,3,4,5,6,7,8	淀室湖1, 淀室湖2, 淀室湖3, 淀室湖6, 淀室湖7
		流入河川	天満川(早瀬,植物帯), 高倉橋(平瀬,植物帯), 内牧川(平瀬,植物帯)	(定量・定性)No.5, No.6, No.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	(定量・定性)St.5, St.6, St.7	淀室入1, 淀室入2, 淀室入3
		その他	-	-	-	-	淀室他1(水質保全ダム)
調査方法	定点調査	採泥器等による採取 (0.25m <sup>2</sup> )	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回程度	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×5回	エクマンバージ型採泥器 (15cm×15cm)×6回	
	定性調査		ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	ハンドネット(0.5mm目程度)	
	定量調査		サーバーネット(25cm×25cm)	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×8回	サーバーネット(25cm×25cm) ×6回	
調査時期	夏季	-	H7.7.20~21、8.23	H12.7.19~21	H17.10.19~20	H20.8.25~26	
	冬季	-	H7.12.20~21	H12.11.8~9	H18.1.14~15	-	
	早春季	-	H8.2.21~22	H13.1.12~13	H17.7.2~3	H20.4.21~22	
	その他	H5.9.21	-	-	-	-	

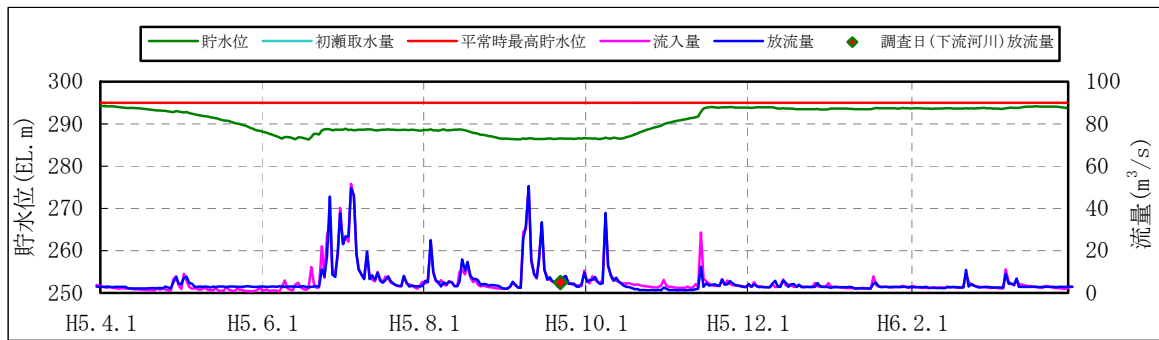


図 6.3.3-20 調査実施時の流況(平成5年度)

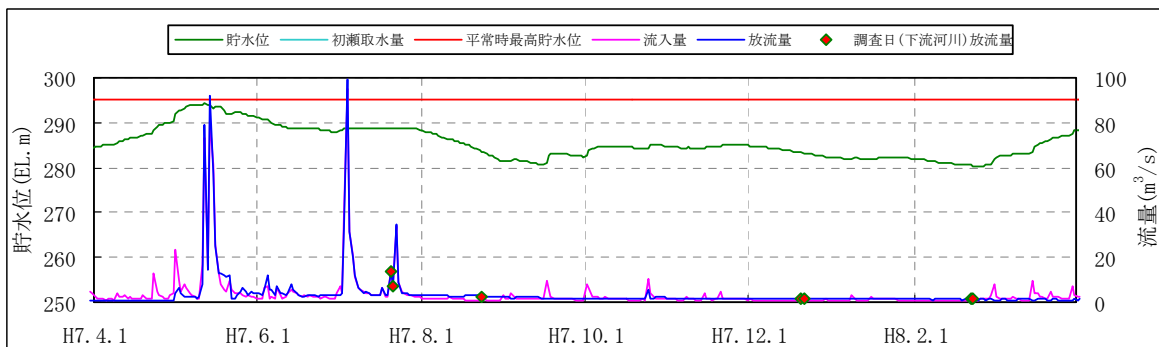


図 6.3.3-21 調査実施時の流況(平成7年度)

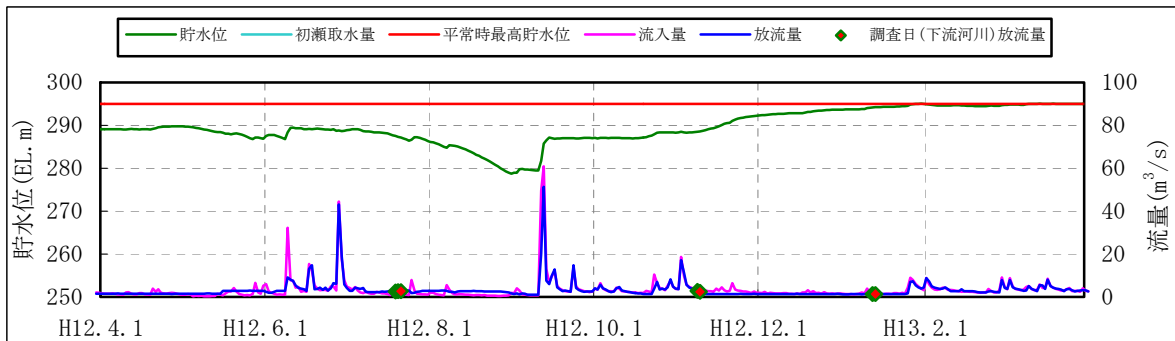


図 6.3.3-22 調査実施時の流況(平成12年度)

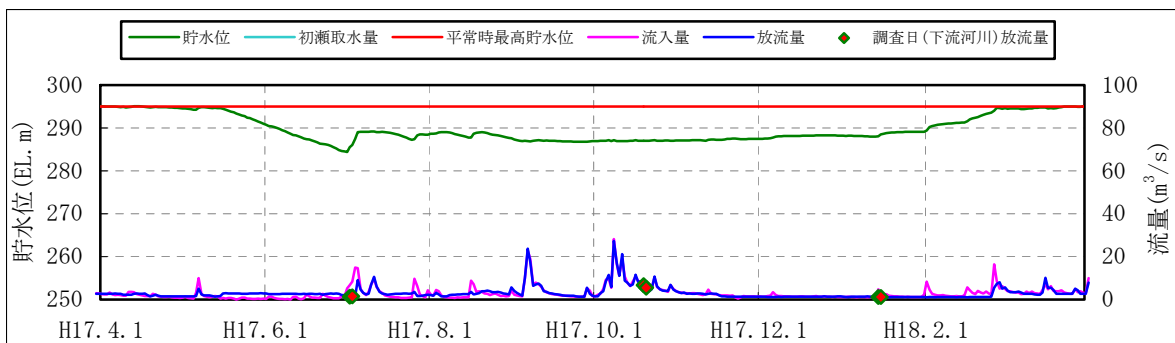


図 6.3.3-23 調査実施時の流況(平成17年度)

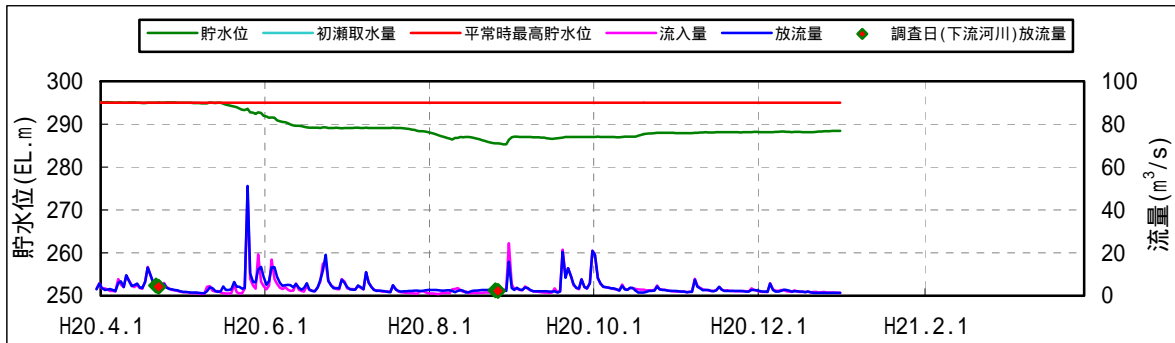


図 6.3.3-24 調査実施時の流況(平成 20 年度)

(a)底生動物相の変化の整理

これまでの調査において下流河川で確認された底生動物の綱目別科種数表は、表 6.3.3-13 に、またその推移は図 6.3.3-25～図 6.3.2-26 に示すとおりである。

下流河川については、経年とともに種数が増加する傾向にある。また、増加がみられる分類群は、カゲロウ目、トンボ目、トビケラ目、ハエ目、コウチュウ目といった種であり、その他の分類群についても多くなっている。また、ニナ目、エビ目については平成 7 年度以降、トンボ目、コウチュウ目については平成 17 年度以降、概ね横ばいになっている。

表 6.3.3-13 経年分類群別確認種一覧:底生動物

綱名	目名	H5		H7		H12		H17		H20		合計	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
普通海綿	ザラカイメン					1	1	1	1	1	1	1	1
ヒドロ虫	無鞘					1	1	1	1			1	1
ウズムシ	ウズムシ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ひも(紐)形動物門								1	1	1	1	1	1
線形動物門								1	1				1
マキガイ	ニナ	1	1	2	4	2	3	2	2	2	2	2	4
	モノアラガイ					2	2			3	3	4	4
ニマイガイ	イシガイ					1	1	1	1			1	1
	マルスタレガイ			1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
ミミズ	オヨギミミズ									1	1	1	1
	ナガミミズ			2	2	2	2	1	1	3	5	3	5
ヒル	ノドビル			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
クモ	ダニ							1	1				1
甲殻	ワラジムシ			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	エビ			3	3	2	3	2	3	2	3	3	4
昆虫	カゲロウ	2	2	5	9	6	14	7	12	8	25	9	30
	トンボ	1	1			2	3	4	6	4	5	4	6
	カワゲラ	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	6
	カメムシ	1	1	1	1	1	2			1	1	2	5
	アミメカゲロウ			1	1	1	2	1	1	1	1	2	3
	トビケラ	1	2	4	9	8	12	7	17	12	22	14	32
	チョウ					1	1	1	1	1	1	2	2
	ハエ	2	2	3	9	5	11	4	13	4	17	6	31
	コウチュウ			2	2	2	4	3	7	3	7	3	8
コケムシ	掩喉							2	2			2	2
	櫛口							1	1			1	1
13 綱 26 目 72 科 155 種		9 科	10 種	29 科	46 種	43 科	68 種	47 科	78 種	54 科	103 種	72 科	155 種

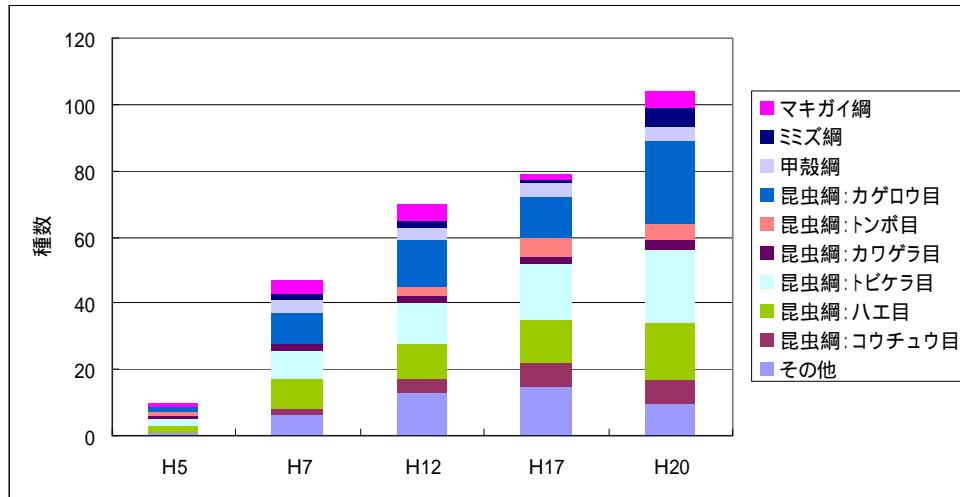


図 6.3.3-25 分類群別確認種数の推移:底生動物

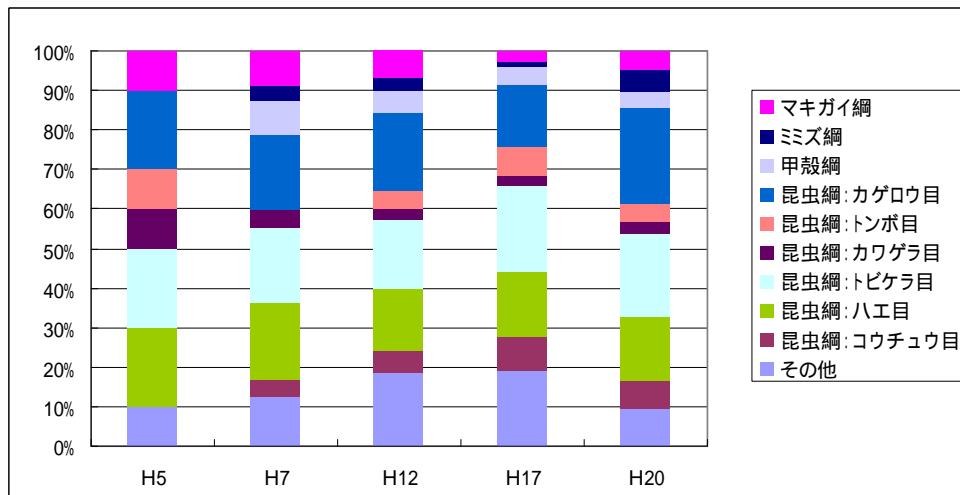


図 6.3.3-26 分類群別確認割合の推移:底生動物



(b) 優占種の変化の整理

下流河川における優占種(定量採集)の一覧は表 6.3.3-14、その推移は図 6.3.3-27～図 6.3.3-28 に示すとおりである。なお、これまでの調査では、平成 5 年度については 1 回のみの調査であるが、その他の調査年度は概ね夏季・冬季・早春季の 3 回(平成 20 年度は夏季・早春季の 2 回)の調査を実施しているため、変化の整理にあたっては、平成 7 年度から平成 20 年度までに実施している 4 回の調査結果について整理することとした。

下流河川については、いずれの調査時期においても、平成 7 年度から平成 17 年度にかけて個体数が増加する傾向がみられていたが、平成 20 年では個体数が大きく減少に転じている。

平成 7 年度から平成 17 年度における主な優占種は、Cheumatopsyche 属やナカハラシマトビケラといった造網性トビケラ類が中心であった。一般的に、ダムの下流河川においては、土砂の供給量が少なくなることや増水によるフラッシュ掃流が起こりづらくなり、その結果として河床環境が安定し、造網性トビケラ類が優占する傾向がみられている。本下流河川においても、このような河床環境の変化を受けて、造網性トビケラ類が優占していたものと考えられる。

また、平成 17 年度から平成 20 年にかけての優占種の変化については、平成 18 年度から平成 20 年度に実施したダム直下への置土(土砂供給実験)による効果の可能性が考えられる。この平成 18 年度～平成 20 年度に実施された土砂供給実験は、浚渫した土砂を元の川へ還元すること、河川環境の改善を図ることを目的として、浚渫土砂をダム直下流へ置土している(供給量は 250m<sup>3</sup>)。平成 17 年度調査と平成 20 年度調査では、調査実施地点が異なることから、一概には言えないが、平成 17 年度調査までは造網性トビケラが優占していた下流河川が、平成 20 年度の調査ではアカマダラカゲロウやコカゲロウ類といった造網性トビケラ類以外の種が優占している状況を鑑みると、置土によって河床環境が変化し、その結果として底生動物相にも変化が及んだ可能性があるかと推察される。

なお、生活型別の出現個体数(m<sup>2</sup>あたり)について着目すると(図 6.3.3-29～図 6.3.3-30 参照)、平成 7 年度から平成 17 年度まではいずれの調査時期についても造網型が優占していたが、平成 20 年度では造網型が大きく減少し、変わって夏季では匍匐型、早春季では携巣型が優占する結果となっている。このような変化は、上述したように、土砂供給実験の効果の現れであるものと推察される。

表 6.3.3-14 優占種の推移:底生動物

	夏季				冬季				早春			
	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標	種名	個体数	割合	指標
H7	コガタシマトビケラ	440	57%	m	Cheumatopsyche 属	448	48%	-	Cheumatopsyche 属	484	42%	-
	ウルマーシマトビケラ	116	15%	os	ナカハラシマトビケラ	260	28%	os	ナカハラシマトビケラ	224	19%	os
	アカマダラカゲロウ	52	7%	m	Simulium 属	60	6%	-	アカマダラカゲロウ	160	14%	m
H12	Cheumatopsyche 属	3874	37%	-	Cheumatopsyche 属	1892	50%	-	Cheumatopsyche 属	5128	54%	-
	アカマダラカゲロウ	1482	14%	m	アカマダラカゲロウ	428	11%	m	ナカハラシマトビケラ	1168	12%	os
	Baetis 属	1266	12%	-	ヒメドロムシ亜科	340	9%	-	Baetiella 属	912	10%	-
H17	ナカハラシマトビケラ	9040	35%	os	Cheumatopsyche 属	12500	61%	-	Cheumatopsyche 属	4518	32%	-
	アカマダラカゲロウ	6198	24%	m	アカマダラカゲロウ	3236	16%	m	ナカハラシマトビケラ	2940	21%	os
	Cheumatopsyche 属	5692	22%	-	ナカハラシマトビケラ	1808	9%	os	ナミウズムシ	2606	18%	os
H20	アカマダラカゲロウ	1623	37%	m	未調査				Agapetus 属	566	29%	-
	H コカゲロウ	603	14%	-					アカマダラカゲロウ	187	10%	m
	ヒメドロムシ科	294	7%	-					ヒメドロムシ科	142	7%	-

注) 上位3種までを計上している。また、個体数は m<sup>2</sup>あたりの個体数を示す。

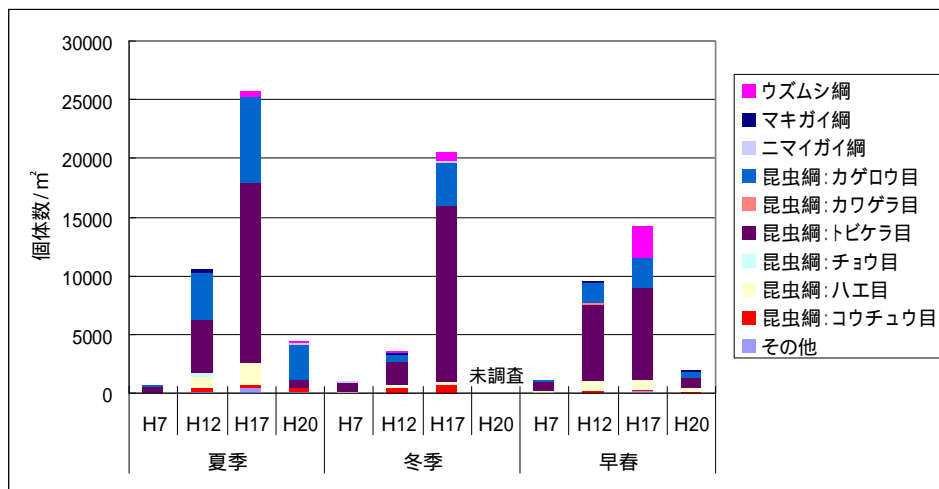


図 6.3.3-27 分類群別確認個体数の推移:底生動物

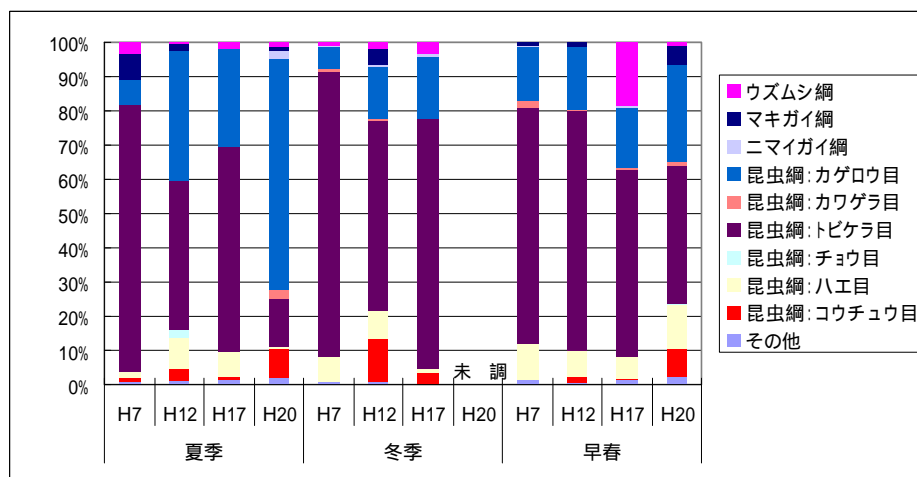


図 6.3.3-28 分類群別確認割合の推移:底生動物

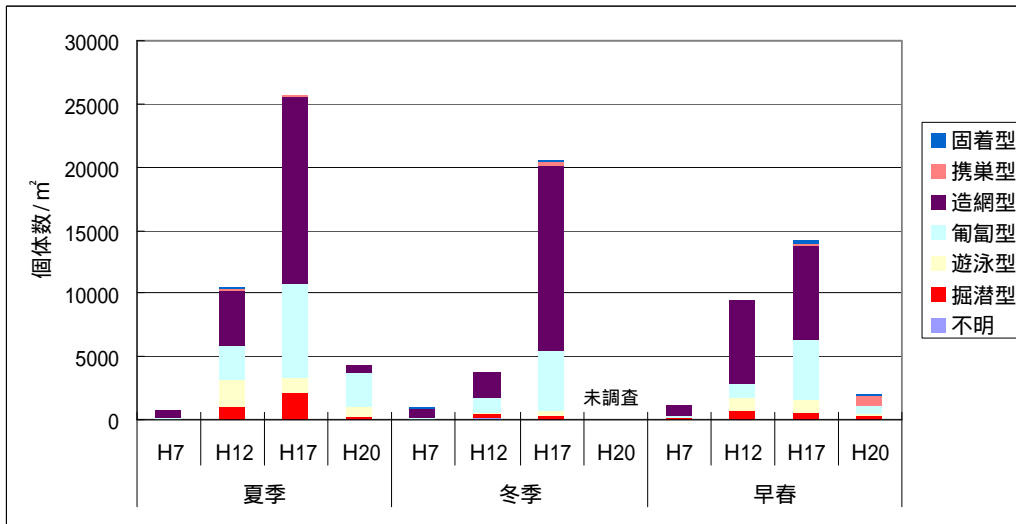


図 6.3.3-29 生活型別確認個体数の推移:底生動物

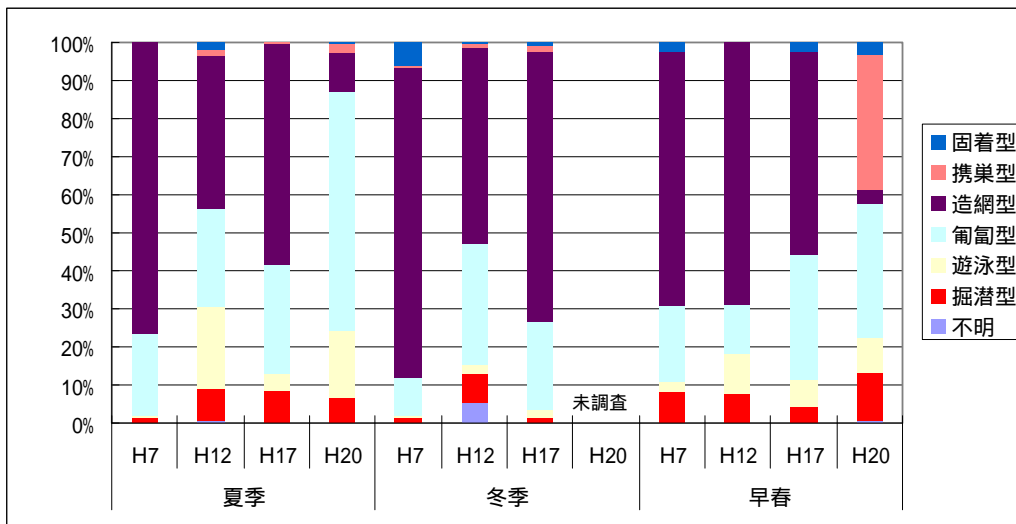


図 6.3.3-30 生活型別確認割合の推移:底生動物

注)生活型

- ・造網型:分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
- ・固着型:強い吸着器官または鈎着器官をもって他物に固着しているもの
- ・匍匐型:河床を匍匐するもの
- ・携巢型:筒巢をもつもの、匍匐的運動をするが筒巢をもつ点において匍匐型とは別に考えた方がよい
- ・遊泳型:移動の際は主として遊泳によるもの
- ・掘潜型:砂または泥の中に潜っていることの多いもの

(d)重要種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された重要種の一覧は、表 6.3.3-15 に示すとおりである。

重要種については、平成 7 年度にオオタニシ、マシジミ、ゲンジボタルの 3 種、平成 12 年度にマシジミ、平成 17 年度及び平成 20 年度にゲンジボタルがそれぞれ確認されているが、継続的に生息が確認されている重要種はない。

表 6.3.3-15 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度				
			1	2	3	4	H5	H7	H12	H17	H20
1	タニシ	オオタニシ			NT			2			
2	シジミ	マシジミ			NT			18	14		
3	ホタル	ゲンジボタル				郷土		1		5	2
3科3種			0種	0種	2種	1種	0種	3種	1種	1種	1種
							0	21	14	5	2
							個体	個体	個体	個体	個体

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

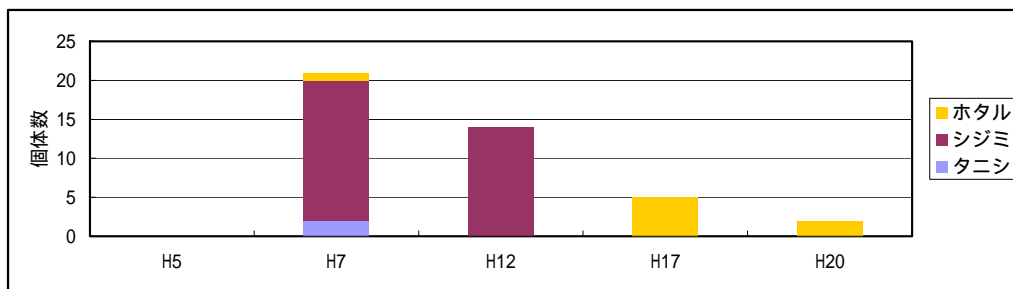


図 6.3.3-31 確認個体数の推移:重要種

(e)外来種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された外来種の一覧は、表 6.3.3-16 に示すとおりである。

外来種については、平成 7 年度にアメリカザリガニ、平成 17 年度にサカマキガイが確認されているが、平成 5 年度、平成 12 年度、平成 20 年度では外来種は確認されていない。

表 6.3.3-16 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度				
			1	2	H5	H7	H12	H17	H20
1	サカマキガイ	サカマキガイ							2
2	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	要注意			1			
2科2種			1種	2種	0種	1種	0種	1種	0種
					0	1	0	2	0
					個体	個体	個体	個体	個体

注)1.表中の数は、確認個体数を示す。

2.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

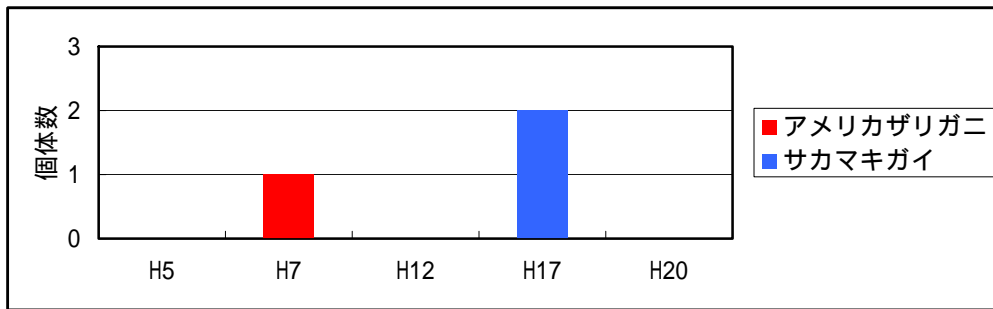


図 6.3.3-32 確認個体数の推移: 外来種

### 3) 動植物プランクトン

下流河川における動植物プランクトンの調査は、これまでに計 4 回実施されている。調査地点数については、いずれの調査回も 1 地点で実施しており、調査時期については 4 回/年実施されている。なお、各調査年度におけるダム湖周辺の調査数量、及び調査時期の詳細については、表 6.3.3-17 に示すとおりである。

また、調査実施時における下流河川の水量は、図 6.3.3-33～図 6.3.3-36 に示すとおりである。

表 6.3.3-17 調査内容一覧: 動植物プランクトン

調査年度		H5	H11	H16	H18	
調査番号		2	8	15	19	
調査地点	区分	下流河川	放水口	No.1	No1(放水口)	
		ダム湖内	網場, 湖心, 県取水口	No.2, No.3, No.4,	No.2(網場), No.3(湖心), No.4(赤人橋)	
		流入河川	天満川, 内牧川, 高倉橋	No.5, No.6, No.7	No.5(天満川), No.6(内牧川), No.7(宇陀川)	
植物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	バンドーン型採水器 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19～20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18～19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18～19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6
動物プランクトン	調査数量	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径 30cm、NXX 25) 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4 層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径 30cm、NXX 25) 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4 層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径 30cm、NXX 25) 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4 層	バンドーン型採水器、 丸川式中層プランクトン・ ネット(定量用開閉式、 口径 30cm、NXX 25) 各 1 / 0.5、2.5、5.0、 10.0、25.0m 1/4、2/4、3/4、4/4 層	
	調査時期	春季	H5.4.21、5.20	H11.5.19～20	H16.5.25	H18.5.23
		夏季	H5.7.22、8.18	H11.8.18～19	H16.8.17	H18.8.15
		秋季	H5.10.16	H11.11.18～19	H16.11.16	H18.11.14
		冬季	H6.2.25	H12.1.20、26	H17.2.7	H19.2.6

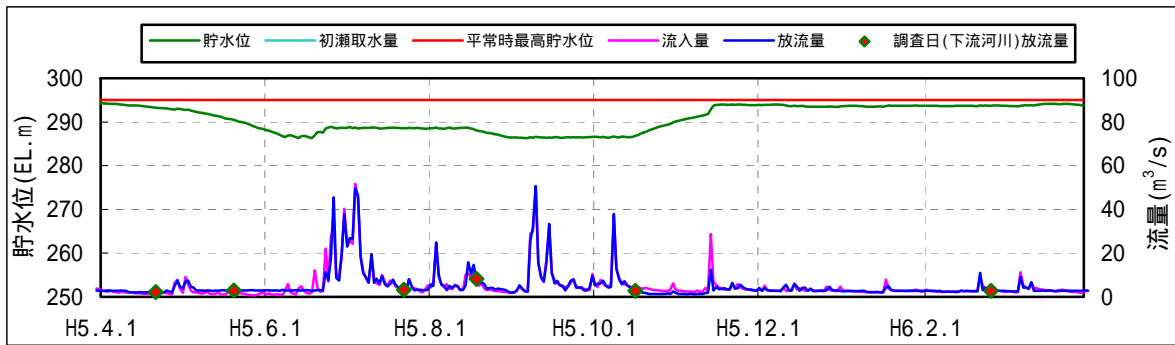


図 6.3.3-33 調査実施時の流況(平成 5 年度)

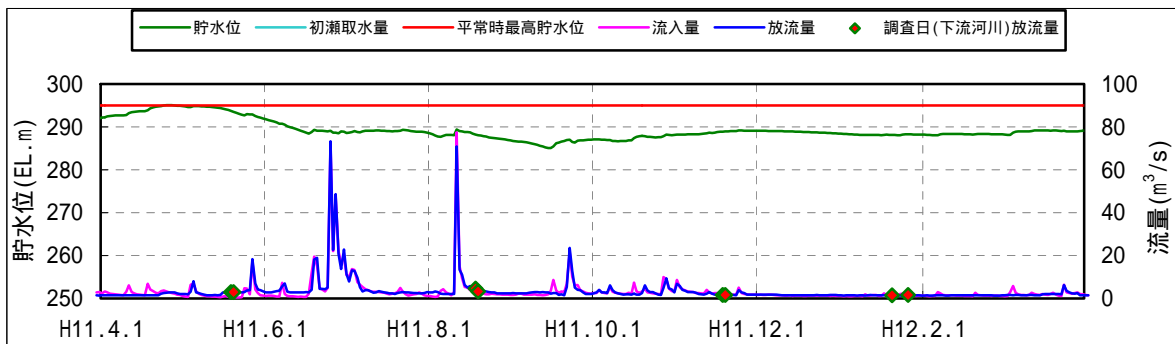


図 6.3.3-34 調査実施時の流況(平成 11 年度)

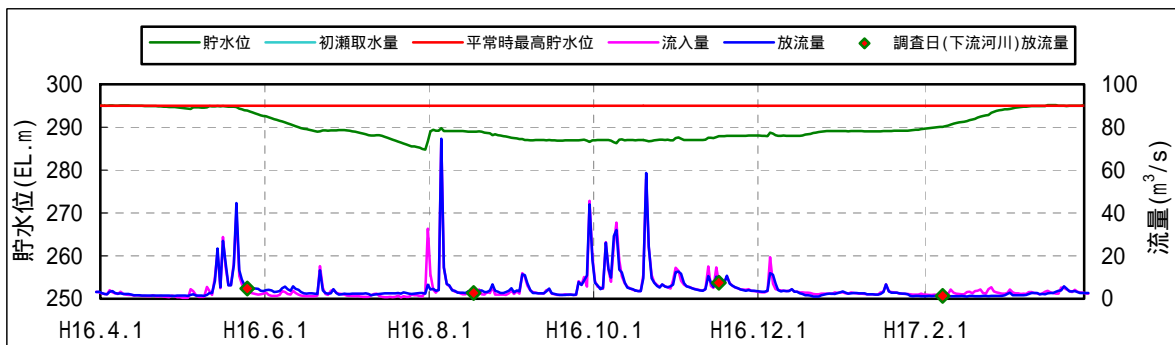


図 6.3.3-35 調査実施時の流況(平成 16 年度)

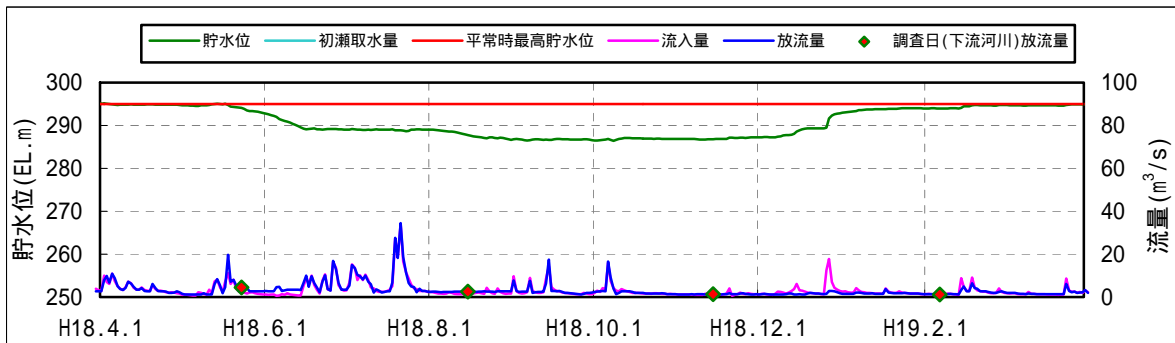


図 6.3.3-36 調査実施時の流況(平成 18 年度)

(a)植物プランクトン

a)植物プランクトン相および優占種の変化の整理

下流河川で確認された植物プランクトンの優占種の一覧は表 6.3.3-18、またその推移については図 6.3.3-37～図 6.3.3-38 に示すとおりである。

各調査年度で確認された植物プランクトンの総個体数は、平成 6 年度で 3,500,000 個体、平成 11 年度で 9,260,000 個体、平成 16 年度で 5,033,000 個体、平成 18 年度で 39,893,000 個体となった。優占した綱及び種は、平成 6 年度は緑藻類で *Carteria globulosa*、平成 11 年度は緑藻類で *Aulacoseira distans*、平成 16 年度は珪藻類で *Aulacoseira granulata*、平成 18 年度は珪藻類で *Fragilaria crotonensis* となった。

平成 11 年度で優占種となった珪藻類の *Aulacoseira distans* は、湖沼において秋の循環期に底層から増殖し、冬から春には表層から底層まで多く発生する傾向がある。平成 16 年度で優占種となった珪藻類の *Aulacoseira granulata* は、富栄養湖沼に多く、全国の湖沼に普通にみられる種で、湖水が循環する秋から春に多く確認される。

表 6.3.3-18 優占種の推移:植物プランクトン

H5				H11			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Carteria globulosa</i>	緑藻	743,000	21.0	<i>Aulacoseira distans</i>	珪藻	4,815,000	52.0
<i>Cyclotella sp.</i>	珪藻	632,000	17.9	<i>Fragilaria crotonensis</i>	珪藻	1,304,000	14.1
<i>Aulacoseira italica</i>	珪藻	511,000	14.4	<i>Cyclotella meneghiniana</i>	珪藻	461,000	5.0
<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	384,000	10.8	<i>Microcystis wesenbergii</i>	藍藻	456,000	4.9
<i>Cyclotella meneghiniana</i>	珪藻	362,000	10.2	<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	435,000	4.7
<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	295,000	8.3	<i>Coelastrum microporum</i>	緑藻	323,000	3.5
<i>Actinastrum hantzschii</i>	緑藻	144,000	4.1	<i>Cryptomonas sp.</i>	クリプト藻	194,000	2.1
<i>Raphidiopsis sp.</i>	藍藻	122,000	3.4	<i>Aulacoseira italica</i>	珪藻	173,000	1.9
<i>Cyclotella stelligera</i>	珪藻	93,000	2.6	<i>Cyclotella radiosa</i>	珪藻	142,000	1.5
<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	69,000	1.9	<i>Phormidium tenue</i>	藍藻	122,000	1.3
<i>Aulacoseira distans</i>	珪藻	49,000	1.4	<i>Crucigenia tetrapedia</i>	緑藻	110,000	1.2
<i>Anabaena sp.</i>	藍藻	40,000	1.1	<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	104,000	1.1
				<i>Pediastrum biwae</i>	緑藻	98,000	1.1
H16				H18			
学名	綱名	個体数	割合 (%)	学名	綱名	個体数	割合 (%)
<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	4,710,800	93.6	<i>Fragilaria crotonensis</i>	珪藻	19,440,000	48.7
<i>Asterionella formosa</i>	珪藻	94,700	1.9	<i>Microcystis aeruginosa</i>	藍藻	4,200,000	10.5
<i>Fragilaria crotonensis</i>	珪藻	81,900	1.6	<i>Microcystis wesenbergii</i>	藍藻	3,650,000	9.1
				<i>Cryptomonas ovata</i>	クリプト藻	3,283,000	8.2
				<i>Chlamydocapsa gigas</i>	緑藻	2,904,000	7.3
				<i>Aphanocapsa elachista</i>	藍藻	2,592,000	6.5
				<i>Rhodomonas sp.</i>	クリプト藻	1,086,000	2.7
				<i>Aulacoseira granulata</i>	珪藻	563,000	1.4
				<i>Aulacoseira distans</i>	珪藻	476,000	1.2
				<i>Cyclotella meneghiniana</i>	珪藻	472,000	1.2

注)1.表中の種は、確認割合 1.0%以上の種を示した。

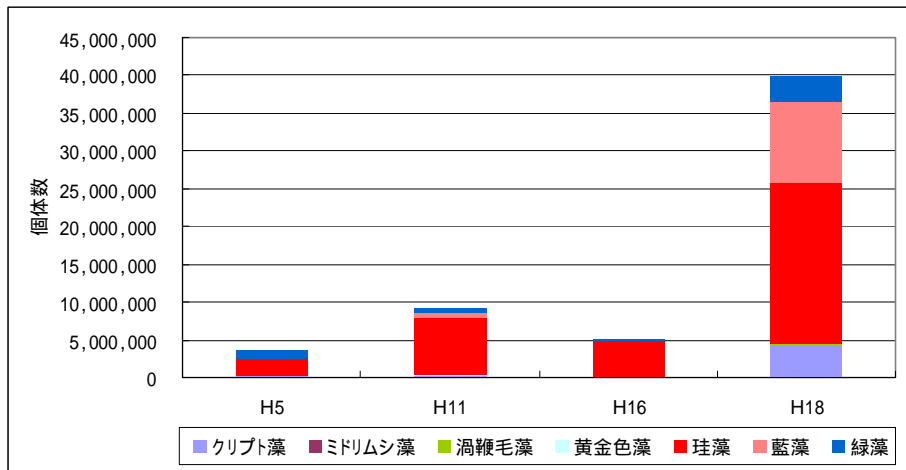


図 6.3.3-37 網別確認個体数の推移:植物プランクトン

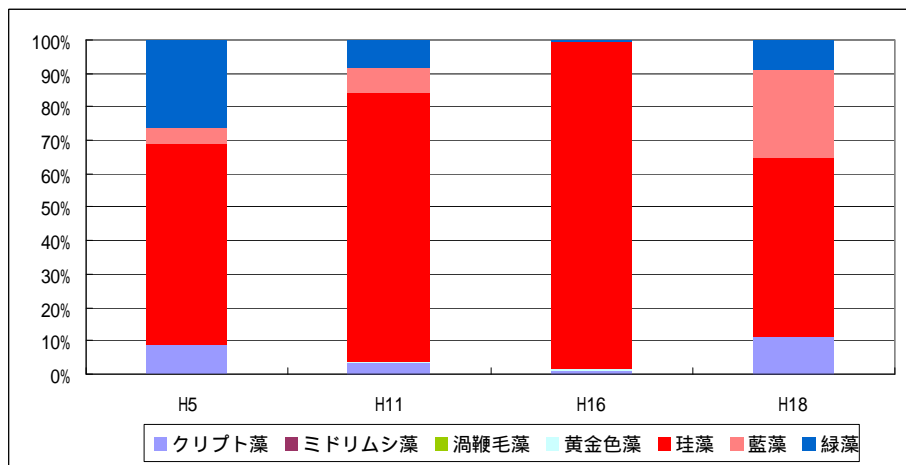


図 6.3.3-38 網別確認割合の推移:植物プランクトン





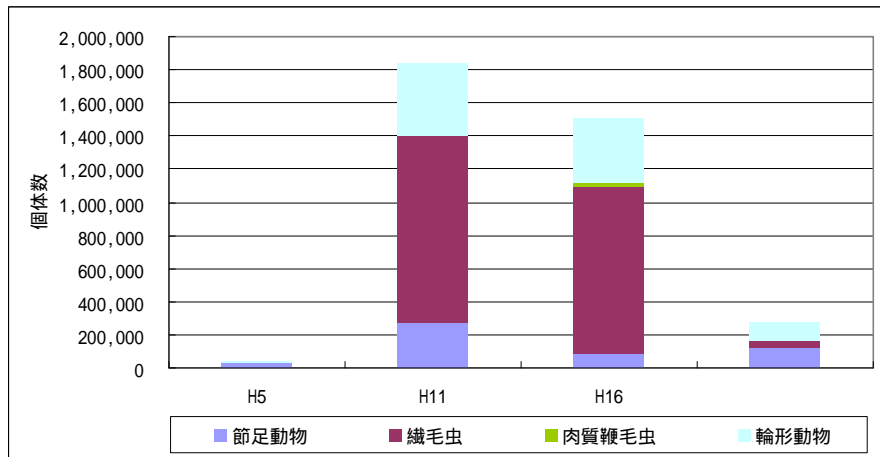


図 6.3.3-39 門別確認個体数の推移:動物プランクトン

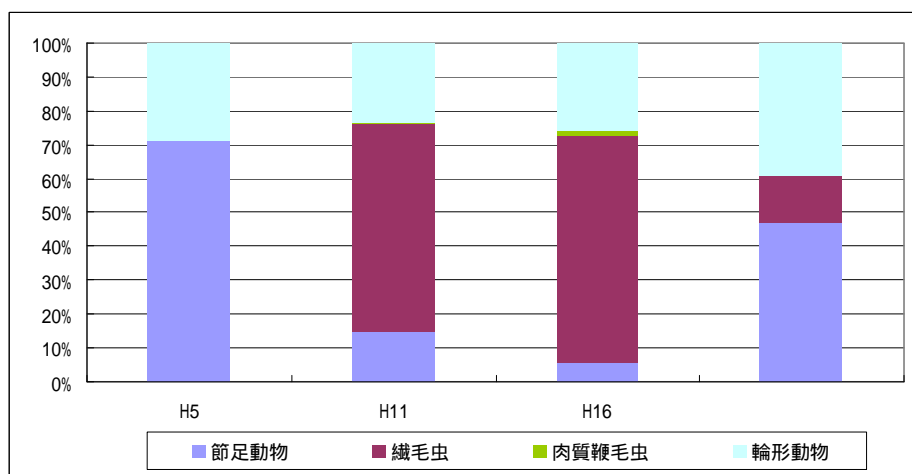


図 6.3.3-40 門別確認割合の推移:動物プランクトン

#### 4)植物

下流河川における植物調査は平成 16 年度より開始されているため、それ以前の調査結果との比較は行わないこととした。

##### (a)植物相の変化の整理

平成 16 年度において、下流河川で確認された植物の科種数は表 6.3.3-20 に示すとおりである。

調査結果は、調査対象地域が河川沿いであることを反映して、ジャヤナギ、カワラハンノキ、ミゾソバ、ツルヨシ等の河川沿いや湿った環境を好む種が多く、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。

表 6.3.3-20 分類群別確認種一覧:植物

分類	H16	
	科数	種数
高等植物	60	147
シダ植物	7	16
種子植物	53	131
裸子植物	3	3
被子植物	50	128
双子葉植物	43	106
離弁花類	33	76
合弁花類	10	30
単子葉植物	7	22

(b)重要種の確認状況の整理

平成 16 年度において、下流河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.3-21 に示すとおりである。

確認された重要種は、ユキヤナギ種であった。本種は、河岸の岸壁等に生育する種であり、調査対象区域における代表的な重要種であると考えられる。

表 6.3.3-21 確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度
			1	2	3	4	5	6	H16
1	バラ	ユキヤナギ					準	希少	
1科1種			0種	0種	0種	0種	1種	1種	1種

注)1.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:国立、国定公園指定植物 4:環境省 RL2007  
5:改訂・近畿 RDB 6:奈良県 RDB

(c)外来種の確認状況の整理

平成 16 年度調査において、下流河川で確認された外来種の一覧は表 6.3.3-22 に示すとおりである。

確認されている外来種のうち、オオハンゴンソウは特定外来生物法の指定種に該当しており、今後の生育状況等については、注意が必要であると考えられる。

表 6.3.3-22 確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度
			1	2	H16
1	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ			
2	ナデシコ科	オランダミミナグサ			
3	マメ科	シロツメクサ			
4	ニガキ科	シンジュ			
5	アカネ科	メリケンムグラ			
6	ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ			
7	キク科	ブタクサ	注意		
8		オオブタクサ	注意		
9		オオアレチノギク	注意		
10		ベニバナボロギク			
11		アメリカタカサブロウ			
12		ダンドボロギク			
13		オオハンゴンソウ	特定		
14		セイトカアワダチソウ	注意		
15		ヒメジョオン	注意		
16	トチカガミ科	オオカナダモ	注意		
17	イネ科	オニウシノケグサ	注意		
18		ネズミムギ	注意		
9科 18種			9種	18種	18種

注)1.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

#### 5)鳥類

下流河川における鳥類調査は、平成 14 年度より開始されているため、平成 14 年度及び平成 18・19 年度の調査結果による比較を行なった。ただし、調査手法については、平成 14 年度ではラインセンサス法を実施しているが、平成 19 年度ではスポットセンサス法と異なる調査手法を実施していることから、変化の整理にあたっては、各年度の全調査日の累積確認数を比較し、その推移を整理することとした。なお、調査手法及び調査地点等の調査については、表 6.3.3-23 に示すとおりである。

表 6.3.3-23 調査内容一覧:鳥類

調査年度		H5	H9	H14	H18・19	
調査番号		2	6	12	18	
調査地点	区分	下流河川	-	-	ラインセンサス(5-1)	スポットセンサス(淀室下1)
		ダム湖内	定点記録(P1~P3)	定点記録(P1~P3)	定点記録(P-1~P-3)	船上センサス(淀室湖8)
		流入河川	-	-	ラインセンサス(5-2)	スポットセンサス(淀室入3)
		ダム湖周辺	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+定位記録法(1,2,3,6) ラインセンサス(4-1,4-2) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+スポットセンサス(淀室周1~淀室周3) 定点センサス(淀室周4,淀室周5) 夜間調査、移動中
ラインセンサス	調査数量	7.2km (2回×1~2日)	7.2km (2回×1日)	3.9km (2回×2~3日)	-	
	調査時期	春季	H5.5.28	H9.5.8	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.11	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.8	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.27	H15.1.28、30	-
ラインセンサス + スポットセンサス	調査数量	-	-	-	センサス2.1km+スポット9地点 (スポット1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
スポットセンサス	調査数量	-	-	-	9地点(1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
環境に応じた確認 ラインセンサス法 + 定位記録法	調査数量	-	-	1.3km+80分	-	
	調査時期	春季	-	-	H14.5.8~10	-
		夏季	-	-	H14.6.13~14	-
		秋季	-	-	H14.10.8~9	-
		冬季	-	-	H15.1.28、30	-
定点センサス	調査数量	-	-	-	1箇所30分	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
定位記録法	調査数量	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	-	
	調査時期	春季	H5.5.28~29	H9.5.7	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.12	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.9	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.26	H15.1.28~30	-
船上センサス	調査数量	-	-	-	2人×1日(80~85分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.12
		冬季	-	-	-	H19.1.30
夜間	調査数量	2人×1日	2人×1日	2人×1日	3人×1日(180分)	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.15
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.10
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.29
移動中の確認	調査数量	3人×1日	3人×1日	2人×2日	2人×2日	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.16~17
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.22~23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.12~13
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.30~31

(a)鳥類相の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された鳥類の一覧は表 6.3.3-24, 図 6.3.3-41 に示すとおりである。

下流河川の鳥類相についてみると、水辺を利用する鳥類として、カワウ、ダイサギ、アオサギ、オシドリ、カルガモ、ヤマセミ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワガラス、ミソサザイ等が確認されている。また、アオゲラ、サンショウクイ、ルリビタキ、ヤブサメ、オオルリ、ヒガラ等、樹林性の鳥類も多く確認されている。

種数についてみると、平成 14 年度は 23 種であったが、平成 19 年度に 30 種に増加しており、個体数は平成 14 年度の 173 個体から、平成 18・19 年度には 165 個体とわずかに減少がみられたものの、大きな変動はみられなかった。

また、水辺を生息場所として利用する種について着目すると、図 6.3.3-42～図 6.3.3-41 に示すとおり、継続的に確認されているのは、カワウ、アオサギ、ヤマセミ、キセキレイの 4 種である。このうち、カワウ、キセキレイは若干の増加、ヤマセミはわずかに減少、アオサギについては個体数の変化はみられていない。その他の種については、単年度の確認であり、平成 14 年度ではオシドリ、ミソサザイの 2 種、平成 18・19 年度では、ダイサギ、カルガモ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワガラスの 6 種が確認されている。

表 6.3.3-24 経年確認種一覧:鳥類

No	目名	科名	種名(和名)	調査年度	
				H14	H18・19
1	ペリカン	ウ	カワウ	5	9
2	コウノトリ	サギ	ダイサギ		1
3			アオサギ	2	2
4	カモ	カモ	オシドリ	6	
5			カルガモ		15
6	タカ	タカ	トビ		5
7	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	3	2
8			カワセミ		1
9	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	1	2
10			コゲラ	3	7
11	スズメ	ツバメ	ツバメ		7
12		セキレイ	キセキレイ	4	6
13			ハクセキレイ		1
14			セグロセキレイ		1
15		サンショウクイ	サンショウクイ		4
16		ヒヨドリ	ヒヨドリ	26	26
17		モズ	モズ	1	3
18		カワガラス	カワガラス		1
19		ミソサザイ	ミソサザイ	1	
20		ツグミ	ルリビタキ		2
21			ツグミ	3	
22		ウグイス	ヤブサメ	3	
23			ウグイス	6	8
24		ヒタキ	オオルリ	3	2
25	サメビタキ			3	
26	エゾビタキ			2	
27	エナガ	エナガ	18	15	
28	シジュウカラ	ヒガラ		4	
29		ヤマガラ	1	10	
30		シジュウカラ	7	12	
31	メジロ	メジロ	12	3	
32	ホオジロ	ホオジロ	14	3	
33	アトリ	カワラヒワ	8		
34	カラス	イカル	2		
35		カケス	8	7	
36		ハシブトガラス	36	1	
7目 22科 36種				23種	30種
				173 個体	165 個体

注)1. 表中の数は、全調査日の累積確認数を示している。

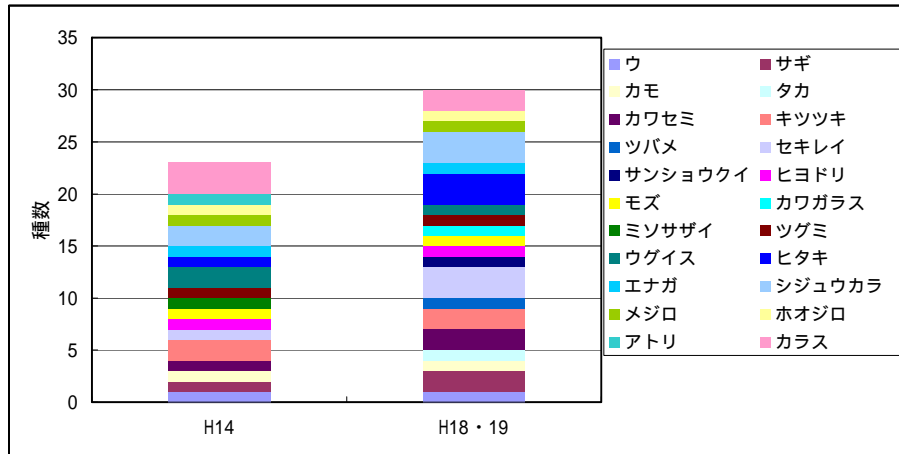


図 6.3.3-41 科別確認種数の推移:水辺を利用する鳥類

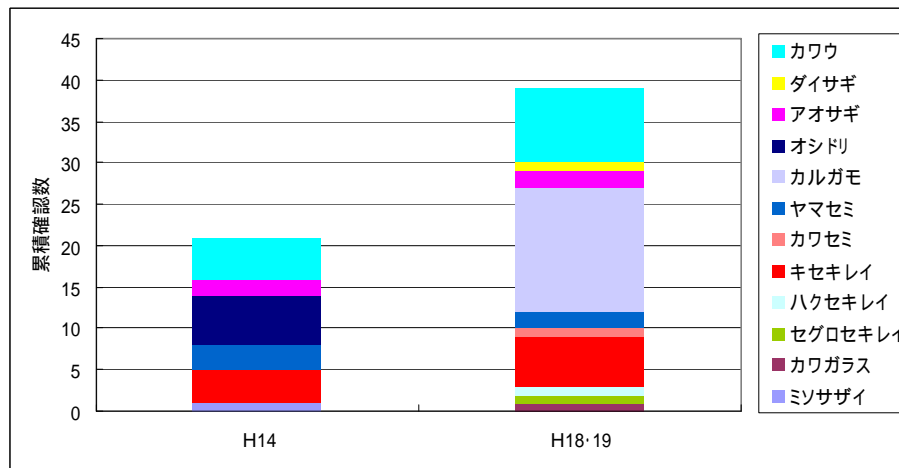


図 6.3.3-42 種別確認個体数の推移:水辺を利用する鳥類  
(陸域を主に利用する種は含まない)

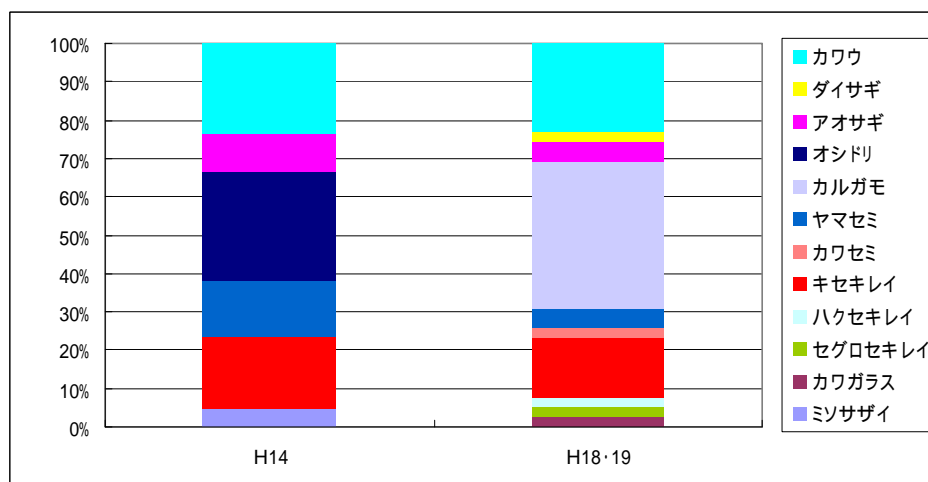


図 6.3.3-43 種別確認割合の推移:水辺を利用する鳥類  
(陸域を主に利用する種は含まない)



(b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、下流河川で確認された重要種の一覧は表 6.3.3-25、またその推移は図 6.3.3-44～図 6.3.3-46 に示すとおりである。

下流河川における重要種については、水辺を利用する鳥類としてオシドリ、ヤマセミ、カワガラスの 3 種が確認されており、その他の種はアオゲラ、サンショウクイ、ルリビタキ等の主に樹林を利用する 7 種が確認されている。このうち、継続的に確認されているのはヤマセミ、アオゲラ、オオルリの 3 種である。そのほかの種は、いずれも単年度の確認である。

種数についてみると、平成 14 年度の 5 種から平成 19 年度は 8 種に増加している。ただし、各種ともに確認個体数は 2～3 個体程度である。

表 6.3.3-25 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度	
			1	2	3	4	5	H14	H18・19
1	カモ	オシドリ			DD	準絶	注目	6	
2	カワセミ	ヤマセミ					希少	3	2
3	キツツキ	アオゲラ				準絶		1	2
4	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	危惧	危惧		4
5	カワガラス	カワガラス					希少		1
6	ツグミ	ルリビタキ				準絶	希少		2
7	ヒタキ	オオルリ				準絶		3	2
8		サメビタキ				準絶	不足		3
9		エゾビタキ				準絶			2
10	アトリ	イカル					郷土	2	
8科10種			0種	0種	2種	7種	7種	5種 15個体	8種 18個体

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認個体数を示す

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:近畿レッド 5:奈良県 RDB

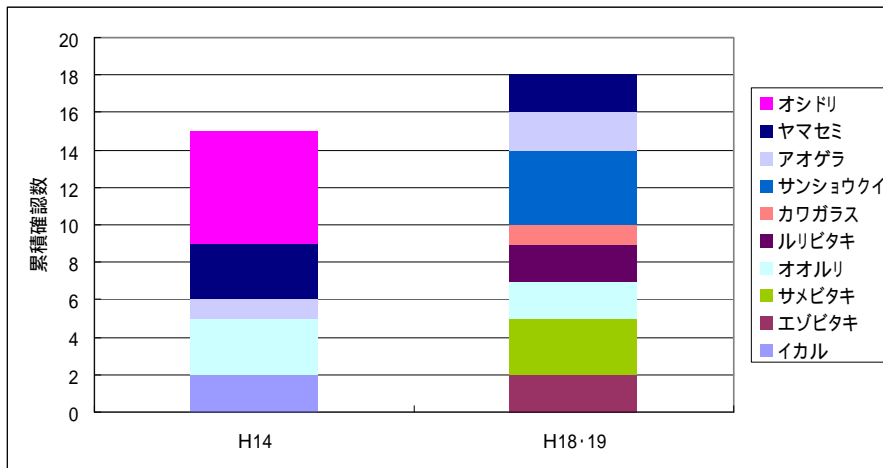


図 6.3.3-44 種別確認個体数の推移:重要種

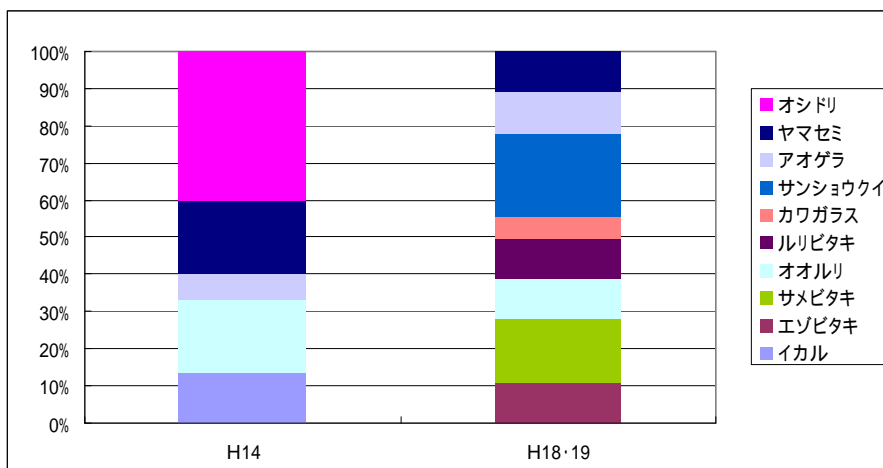


図 6.3.3-45 種別確認割合の推移:重要種

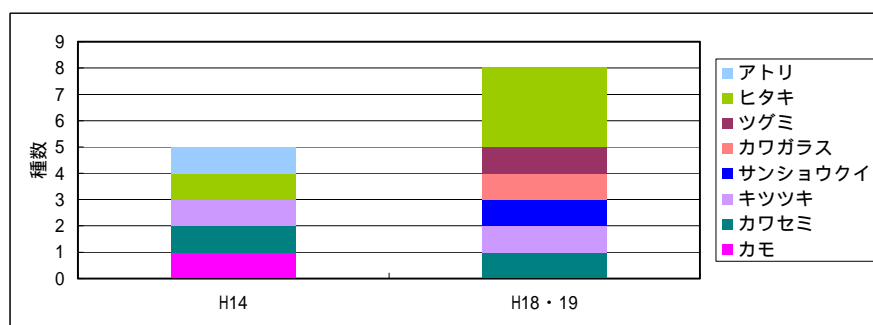


図 6.3.3-46 確認種数の推移:重要種

(c) 外来種の変化の整理

これまでの調査においては、下流河川では外来種は確認されていない。

6)両生類・爬虫類・哺乳類

下流河川における両生類・爬虫類・哺乳類の調査は平成 15 年度より開始されているため、それ以前の調査結果との比較は行わないこととした。

なお、確認状況は確認地点数と確認個体数(確認痕跡数)が混在していたため、確認地点数をデータとして扱った。

(a)両生類

a)両生類相の変化の整理

平成 15 年度において下流河川で確認された両生類の一覧は表 6.3.3-26 に示すとおりである。

確認種についてみると、タゴガエル、トノサマガエル、ウシガエル、カジカガエルの 4 種が確認されている。なお、これらの種は、いずれもダム湖周辺で確認されている種であった。

また、両生類は産卵場所、あるいは幼生の生息場所となることから、表 6.3.3-27 に示すとおり、生活史のステージ段階別による確認状況の整理を行った。その結果、トノサマガエルの確認数のうち、1 地点が幼体であった。

表 6.3.3-26 確認種一覧:両生類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度
				H15
1	カエル	アカガエル	タゴガエル	1
2			トノサマガエル	2
3			ウシガエル	1
4		アオガエル	カジカガエル	1
1 目 2 科 4 種				4 種

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

表 6.3.3-27 確認内容一覧:両生類

No.	種名(和名)	確認内容			合計
		成体	鳴声	幼体	
		H15	H15	H15	
1	タゴガエル	1			1
2	トノサマガエル	1		1	2
3	ウシガエル		1		1
4	カジカガエル		1		1

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

b)重要種の変化の整理

平成 15 年度調査においては、下流河川では重要種は確認されていない。

c) 外来種の変化の整理

平成 15 年度調査において、下流河川で確認された外来種種は表 6.3.3-28 に示すとおりである。

下流河川においては、ウシガエル 1 種が確認されている。なお、ウシガエルは鳴き声 (1 地点) での確認である。

表 6.3.3-28 確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度
			1	2	H15
1	カエル	ウシガエル	特定		
1 科 1 種			1 種	1 種	1 種

注) 1. 選定基準 1: 特定外来生物法 2: 外来種ハンドブック

(b) 爬虫類

a) 爬虫類相の変化の整理

平成 15 年度調査においては、下流河川では爬虫類は確認されていない。

b) 重要種の変化の整理

平成 15 年度調査においては、下流河川では重要種は確認されていない。

c) 外来種の変化の整理

平成 15 年度調査においては、下流河川では外来種は確認されていない。

(c)哺乳類

a)哺乳類相の変化の整理

平成 15 年度において下流河川で確認された哺乳類の一覧は表 6.3.3-29 に示すとおりである。

確認種についてみると、モグラ属、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドリカの 8 種が確認された。なお、これらの種は、いずれもダム湖周辺で確認されている種であった。

表 6.3.3-29 確認種一覧:哺乳類

No	目名	科名	種名(和名)	調査年度
				H15
1	モグラ	モグラ	モグラ属	1
2	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	3
3	ネズミ	ネズミ	アカネズミ	1
4	ネコ	イヌ	タヌキ	2
5		イタチ	テン	6
6			イタチ属	5
7	ウシ	イノシシ	イノシシ	1
8		シカ	ホンドリカ	14
5目7科8種				8種

注)1.表中の数字は確認地点数を示す。

2.種名の「・・・属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

b)重要種の変化の整理

平成 15 年度調査においては、下流河川では重要種は確認されていない。

c)外来種の変化の整理

平成 15 年度調査においては、下流河川では外来種は確認されていない。

7)陸上昆虫類等

下流河川における陸上昆虫類等調査は平成 15 年度より開始されているため、それ以前の調査結果との比較は行わないこととした。

(a)陸上昆虫類相の変化の整理

下流河川で確認された陸上昆虫類等の分類群別種数は表 6.3.3-30 に示すとおりである。

分類群別種数で最も多かったのはコウチュウ目の 93 種で、次いでカメムシ目の 73 種、チョウ目の 54 種、ハチ目の 40 種の順である。また、水生昆虫類のカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やヒメドロムシ科、ヒラタドロムシ科等も確認されている。

表 6.3.3-30 分類群別確認種数一覧:陸上昆虫類

目名	H15	
	科数	種数
クモ	13	31
トビムシ	5	5
イシノミ	1	1
カゲロウ	4	4
トンボ	5	11
ゴキブリ	1	1
カマキリ	1	1
シロアリ		
ハサミムシ	1	1
カワゲラ	1	1
バッタ	7	18
チャタテムシ	1	1
カメムシ	23	73
アザミウマ	1	1
アミメカゲロウ	1	2
シリアゲムシ	1	1
トビケラ	12	14
チョウ	19	54
ハエ	27	38
コウチュウ	25	93
ハチ	19	40
21 目 168 科 391 種		

(b)重要種の変化の整理

これまでの調査においては、下流河川では重要種は確認されていない。

(c)外来種の変化の整理

平成 15 年度の調査において、下流河川で確認された外来種は表 6.3.3-31 に示すとおりである。

下流河川におけるこれまでの調査では、平成 15 年度にカンタン、シロテンハナムグリ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシの 4 種が確認されている。

表 6.3.3-31 確認種一覧:外来種

No	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度
			1	2	H15
1	コオロギ	カンタン			
2	コガネムシ	シロテンハナムグリ			
3	カミキリムシ	ラミーカミキリ			
4	ハムシ	ブタクサハムシ			
4 科 4 種			0 種	4 種	4 種

注)1.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

(2)ダムによる影響の整理

ダムの存在・供用に伴って、室生ダムの流入河川に生じる環境条件の変化により、流入河川に生息する多様な生物の生息・生育環境に影響を及ぼすものと想定される。

そこで、室生ダム流入河川における環境条件の変化、またそれにより生じる生物の生息・生育状況の変化を 図 6.3.3-47 のとおり整理し、生物の生息・生育状況の変化の検証を行った。

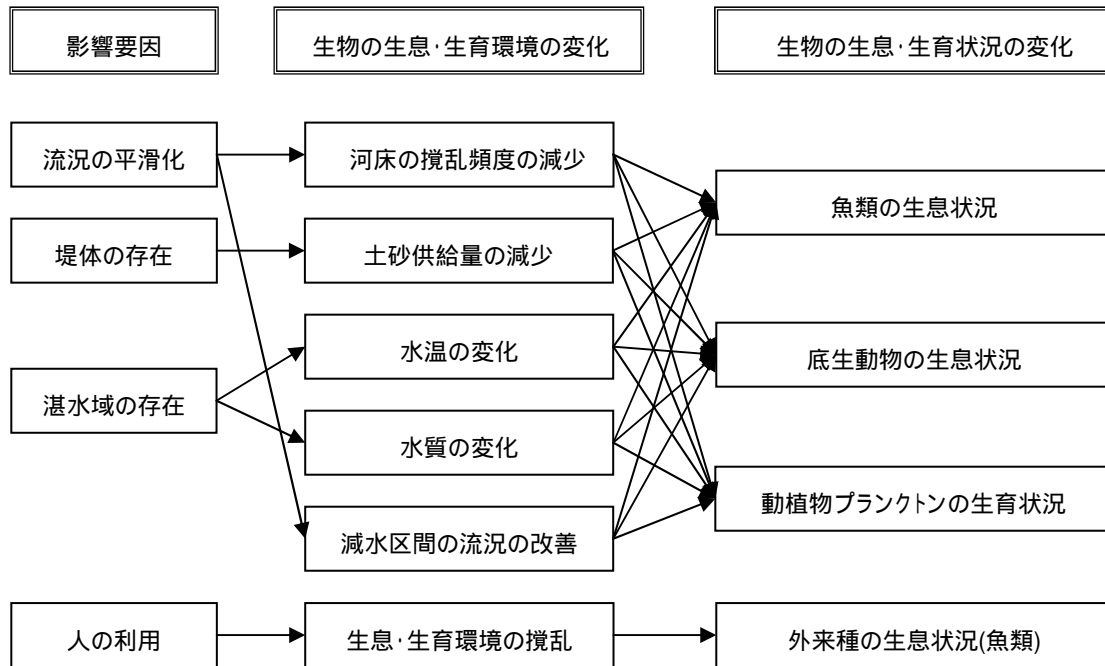


図 6.3.3-47 生物の生息・生育状況の変化と影響要因

1) 下流河川の生息・生育状況の変化の整理結果

(a) 魚介類

a) 魚類

魚類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.3-32 に示す。

表 6.3.3-32 下流河川における魚類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
魚類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 8 年度及び平成 13 年度が 8 種、平成 19 年度が 11 種と増加している。</li> <li>平成 19 年度に新たに確認されたのは、ギギやウキゴリ等 5 種である。</li> </ul>
生息状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認個体数については増加傾向にある。また、優占種については、平成 8 年度は、トウヨシノボリ及びオイカワが優占していたが平成 13 年度にはオイカワ及びヌマチチブとなっている。また、平成 19 年度ではこれらの 2 種に加えてコウライモロコの確認個体数が増加している。</li> </ul>
	底生性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、カマツカ、ギギ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの 5 種が確認されており、平成 19 年度ではカマツカを除く 4 種が確認されている。</li> <li>確認個体数については、ヌマチチブが急激に増加している一方で、トウヨシノボリが減少傾向にある。また、ギギ、ウキゴリは平成 19 年度で始めて確認されている。</li> </ul>
	回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの種が確認されており、平成 19 年度調査では 4 種すべてが確認されている。</li> <li>確認個体数は、ヌマチチブが増加している一方で、トウヨシノボリが減少傾向にある。</li> </ul>
	重要種の状況	<p>自然分布と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 19 年度に、ギギが 6 個体、ウキゴリが 32 個体確認されている。</li> </ul> <p>放流等が由来と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、ゲンゴロウブナ、ハス、アユの 3 種が確認され、平成 19 年度調査では、ハスを除く 2 種が確認されている。</li> <li>確認個体数はほとんどが 3 個体以下であるが、平成 10 年度では、潜水目視により 100 個体程度のアユが確認されている。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)の 2 種が確認されている。</li> <li>ブルーギルは平成 8 年度に 12 個体、平成 19 年度に 1 個体、オオクチバスは平成 8 年度に 12 個体、平成 13 年度に 1 個体が確認されている。</li> </ul>



b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.3-33 に示す。

表 6.3.3-33 下流河川におけるエビ・カニ・貝類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・平成 8 年度、平成 13 年度ともに、ヒメタニシやカワニナ、テナガエビ、スジエビ等 7 種が確認されている。
生息状況の変化	優占種の変化	・カワニナが減少傾向にある一方で、テナガエビやスジエビといったエビ類は増加傾向にある。
	重要種の状況	・平成 8 年度にマシジミ 2 個体、平成 13 年度にマシジミ 1 個体が確認されている。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。

(b)底生動物の生息状況の変化の整理結果

底生動物の生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.3-34 に示す。

表 6.3.3-34 下流河川における底生動物の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
底生動物相の変化	種数	・平成 5 年度は 10 種であったが、経年とともに増加し、平成 20 年度では 103 種となっている。 ・主な分類群は、トンボ目、トビケラ目、ハエ目、コウチュウ目である。
生息状況の変化	優占種の変化	・平成 7 年度から平成 17 年度までは、ウルマーシマトビケラやナカハラシマトビケラ、Cheumatopsyche 属等の造網性トビケラ類が優占しており、これらの占める割合は高い状態にあったが、平成 20 年度では、造網性トビケラ類の確認割合は極端に減少し、アカマダラカゲロウやヒメドロムシ科といった種が優占している。 ・確認個体数は、平成 17 年度までは増加する傾向にあったが、平成 20 年度では減少に転じている。
	重要種の状況	・これまでの調査では、オオタニシ、マシジミ、ゲンジボタルの 3 種が確認されているが、平成 17 年度及び平成 20 年度調査ではゲンジボタルのみの確認となっている。 ・ゲンジボタルは平成 7 年度に 1 個体、平成 17 年度に 5 個体、平成 20 年度に 2 個体が確認されている。
	外来種の状況	・これまでの調査では、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されている。 ・しかし、両種ともに確認個体数は少なく、サカマキガイは平成 17 年度に 2 個体、アメリカザリガニは平成 7 年度に 1 個体となっている。

(c)動植物プランクトンの生息・生育状況の変化の整理結果

a)植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況の変化の整理結果を 表 6.3.3-35 に示す。

表 6.3.3-35 下流河川における植物プランクトンの生育状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
植物プランク トン相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 30 種、平成 11 年度は 40 種、平成 16 年度は 22 種、平成 18 年度は 35 種と、増減している。
生育状況 の変化	優占種の変化	・平成 6 年度は緑藻類、平成 11 年度、平成 16 年度及び平成 18 年度はともに珪藻類であった。 ・富栄養湖沼に多く、全国の湖沼に普通にみられる種であった。

b)動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況の変化の整理結果を 表 6.3.3-36 に示す。

表 6.3.3-36 下流河川における動物プランクトンの生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
動物プランク トン相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 7 種、平成 11 年度は 35 種、平成 16 年度は 33 種、平成 18 年度は 21 種と、平成 5 年度から平成 11 年度にかけては増加しているが、以降、平成 18 年度にかけては減少している。
生息状況 の変化	優占種の変化	・湖やため池等、全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多くみられる種であった。

(d)植物の生育状況の変化の整理結果

植物の生育状況の変化の整理結果を表 6.3.3-37 に示す。

表 6.3.3-37 下流河川における植物の生育状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
植物相の変化	種数	・平成 16 年度の調査において、147 種の植物が確認されている。
生育状況の変化	下流河川周辺に生育する植物の状況	・河川沿いや湿った環境を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。
	重要種の状況	・平成 16 年度の調査において、重要種はユキヤナギ 1 種が確認されている。本種は河岸の岸壁等に生育する種である。
	外来種の状況	・平成 16 年度の調査において、外来種は 18 種(うち 1 種は特定外来種)が確認されている。

(e)鳥類の生息状況の変化の整理結果

鳥類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.3-38 に示す。

表 6.3.3-38 下流河川における鳥類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
鳥類相の変化	種数	・平成 14 年度では 23 種、平成 18・19 年度では 30 種と増加する傾向がみられている。
生息状況の変化	下流河川を利用する鳥類の状況	・水辺を利用する種としては、カワウ、アオサギ、ヤマセミ、キセキレイについては、継続的に確認されている。 ・陸域を利用する種としては、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ホオジロ等の草地から樹林にかけて生息する種が多く確認されている。
	重要種の状況	・水辺を利用する種としては、オシドリ、ヤマセミ、カワガラスの 3 種の重要種が確認されている。 ・陸域を利用する種については、樹林性のアオゲラ、サンショウクイ、ルリビタキ、オオルリ、サメビタキ、エゾビタキ、イカルの 7 種が確認されている。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。

(f)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果を表 6.3.3-39 に示す。

表 6.3.3-39 下流河川における両生類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
両生類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、4 種の両生類が確認された。
生息状況の変化	下流河川を利用する両生類の状況	・タゴガエル、トノサマガエル、ウシガエル、カジカガエルの 4 種が確認された。このうち、流水性種はタゴガエル、カジカガエルの 2 種である。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、ウシガエルが確認された。1 地点で鳴声が確認された。

b)爬虫類

ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果を表 6.3.3-40 に示す。

表 6.3.3-40 下流河川における爬虫類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
爬虫類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、爬虫類は確認されていない。
生息状況の変化	下流河川を利用する爬虫類の状況	・平成 15 年度の調査において、爬虫類は確認されていない。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。

c)哺乳類

ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果を表 6.3.3-41 に示す。

表 6.3.3-41 下流河川における哺乳類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
哺乳類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、8 種の哺乳類が確認された。
生息状況の変化	下流河川を利用する哺乳類の状況	・モグラ属、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドリカカの 8 種が確認された。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。

(g)陸上昆虫類等

ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果を表 6.3.3-42 に示す。

表 6.3.3-42 下流河川における陸上昆虫類等の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
陸上昆虫類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査では、391 種が確認されている。
生息状況の変化	下流河川を利用する陸上昆虫類等の状況	・目別確認種数で最も多かったのはコウチュウ目の 93 種で、次いでカメムシ目の 73 種、チョウ目の 54 種、ハチ目の 40 種の順であった。 ・水生昆虫類ではカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やヒメドロムシ科、ヒラタドロムシ科等も確認された。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、カンタン、シロテンハナムグリ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシの 4 種が確認されている。

2)ダム湖の存在・供用による生物への影響の整理結果

(a)魚介類

a)魚類

ダムの存在・供用による魚類への影響の整理結果を表 6.3.3-43 に示す。

表 6.3.3-43 ダムの存在・供用による魚類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
魚類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>
生息状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>
	回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>

b)エビ・カニ・貝類

ダムの存在・供用によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果を表 6.3.3-44 に示す。

表 6.3.3-44 ダムの存在・供用によるエビ・カニ・貝類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>
生息状況の変化	下流河川に生息するエビ・カニ・貝類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>

(b)底生動物

ダムの存在・供用による底生動物への影響の整理結果を表 6.3.3-45 に示す。

表 6.3.3-45 ダムの存在・供用による底生動物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
底生動物相の変化	種数	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善
	優占種の変化	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善
生息状況の変化	重要種の状況	・生息・生育環境の攪乱
	外来種の状況	・生息・生育環境の攪乱

(c)動植物プランクトン

a)植物プランクトン

ダムの存在・供用による植物プランクトンへの影響の整理結果を表 6.3.3-46 に示す。

表 6.3.3-46 ダムの存在・供用による植物プランクトンへの影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
植物プランクトン相の変化	種数	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善
	優占種の変化	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善

b)動物プランクトン

ダムの存在・供用による動物プランクトンへの影響の整理結果を表 6.3.3-47 に示す。

表 6.3.3-47 ダムの存在・供用による動物プランクトンへの影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
動物プランクトン相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>
生息状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> <li>・水温の変化</li> <li>・水質の変化</li> <li>・減水区間の流況改善</li> </ul>

(d)植物

ダムの存在・供用による植物への影響の整理結果を 表 6.3.3-48 に示す。

表 6.3.3-48 ダムの存在・供用による植物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
植物相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> </ul>
生育状況の変化	下流河川周辺に生育する植物の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> </ul>
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>

(e)鳥類

ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果を 表 6.3.3-49 に示す。

表 6.3.3-49 ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
鳥類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> </ul>
生息状況の変化	下流河川周辺に生息する鳥類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河床の攪乱頻度の減少</li> <li>・土砂供給量の減少</li> </ul>
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境の攪乱</li> </ul>

(f)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果を表 6.3.3-50 に示す。

表 6.3.3-50 ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
両生類相の変化	種数	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
生息状況の変化	下流河川周辺に生息する両生類の状況	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
	重要種の状況	・生息・生育環境の攪乱
	外来種の状況	・生息・生育環境の攪乱

b)爬虫類

ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果を表 6.3.3-51 に示す。

表 6.3.3-51 ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
爬虫類相の変化	種数	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
生息状況の変化	下流河川周辺に生息する爬虫類の状況	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
	重要種の状況	・生息・生育環境の攪乱
	外来種の状況	・生息・生育環境の攪乱

c)爬虫類

ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果を表 6.3.3-52 に示す。

表 6.3.3-52 ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
哺乳類相の変化	種数	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
生息状況の変化	下流河川周辺に生息する哺乳類の状況	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
	重要種の状況	・生息・生育環境の攪乱
	外来種の状況	・生息・生育環境の攪乱



(g)陸上昆虫類等

ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果を表6.3.3-53に示す。

表6.3.3-53 ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
陸上昆虫類相の変化	種数	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
	生息状況の変化	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
	下流河川周辺に生息する陸上昆虫類等の状況	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少
	重要種の状況	・生息・生育環境の攪乱
	外来種の状況	・生息・生育環境の攪乱

3)ダム湖の存在・供用以外の考えうる因子の整理結果

(a)魚介類

a)魚類

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による魚類への整理結果を表6.3.3-54に示す。

表6.3.3-54 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による魚類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
魚類相の変化	種数	・放流(漁業・遊漁)
	生息状況の変化	・放流(漁業・遊漁)
	優占種の変化	・放流(漁業・遊漁)
	底生性魚類の状況	・放流(漁業・遊漁)
	回遊性魚類の状況	・放流(漁業・遊漁)
	重要種の状況	・放流(漁業・遊漁)
	外来種の状況	・放流(漁業・遊漁)

(b)底生動物

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による底生動物への整理結果を表6.3.3-55に示す。

表6.3.3-55 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による底生動物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
底生動物相の変化	種数	-
	生息状況の変化	-
	優占種の変化	-
	重要種の状況	-
	外来種の状況	・魚類の放流(漁業・遊漁)

4) 下流河川の生物の変化に対する影響の検証結果

(a) 魚介類

a) 魚類

魚類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-56 に示す。

表 6.3.3-56(1) 下流河川の魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
魚類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 8 年度及び平成 13 年度が 8 種、平成 19 年度が 11 種と増加している。</li> <li>平成 19 年度に新たに確認されたのは、ギギやウキゴリ等 5 種である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに増加傾向にあり、ダムの存在・供用に伴う影響は、概ね安定した状態で推移しているものと考えられる。</li> </ul>	x
生息状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認個体数については増加傾向にある。また、優占種については、平成 8 年度は、トウヨシノボリ及びオイカワが優占していたが平成 13 年度にはオイカワ及びヌマチチブとなっている。また、平成 19 年度ではこれらの 2 種に加えてコウライモロコの確認個体数が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに、増加傾向にある。また、平成 8 年度から、平成 13 年度にかけて、優占種が大きく変化しているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>	
	底生性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、カマツカ、ギギ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの 5 種が確認されており、平成 19 年度ではカマツカを除く 4 種が確認されている。</li> <li>確認個体数については、ヌマチチブが急激に増加している一方で、トウヨシノボリが減少傾向にある。また、ギギ、ウキゴリは平成 19 年度で初めて確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに、増加傾向にある。また、平成 8 年度から、平成 13 年度にかけて、優占種が大きく変化しているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>	
	回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの種が確認されており、平成 19 年度調査では 4 種すべてが確認されている。</li> <li>確認個体数は、ヌマチチブが増加している一方で、トウヨシノボリが減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに、増加傾向にある。また、平成 8 年度から、平成 13 年度にかけて、優占種が大きく変化しているが、この変化の要因については不明である。</li> <li>アユを除くこれらの種は、既に陸封状態であり、アユについては、放流が起源である可能性がある。</li> </ul>	

表 6.3.3-56 (2) 下流河川の魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
生息状況の変化	重要種の状況	<p>自然分布と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 19 年度に、ギギが 6 個体、ウキゴリが 32 個体確認されている。</li> </ul> <p>放流等が由来と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、ゲンゴロウブナ、ハス、アユの 3 種が確認され、平成 19 年度調査では、ハスを除く 2 種が確認されている。</li> <li>確認個体数はほとんどが 3 個体以下であるが、平成 10 年度では、潜水目視により 100 個体程度のアユが確認されている。</li> </ul>	・生息・生育環境の攪乱	・放流(漁業・遊漁)	<p>自然分布と考えられる種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 19 年度より、新たに確認されるようになっていたが、この変化の要因については不明である。</li> <li>放流等が由来と考えられる種</li> <li>平成 8 年度から断続的に確認されているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)の 2 種が確認されている。</li> <li>ブルーギルは平成 8 年度に 12 個体、平成 19 年度に 1 個体、オオクチバスは平成 8 年度に 12 個体、平成 13 年度に 1 個体が確認されている。</li> </ul>	・生息・生育環境の攪乱	・放流(漁業・遊漁)	・ダム湖内より流下してきた個体が定着している可能性があると考えられる。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- △:変化がほとんど見られないもの
- ×:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-57 に示す。

表 6.3.3-57 下流河川のエビ・カニ・貝類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
エビ・カニ・貝類相の変化	種数	・平成 8 年度、平成 13 年度ともに、ヒメタニシやカワニナ、テナガエビ、スジエビ等 7 種が確認されている。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善	-	・エビ類は河川緩流部やダム湖、カワニナ、マシジミ、サワガニは河川を生息環境とすることから、下流河川には大きな変化はなかったものと考えられる。	×
	優占種の変化	・カワニナが減少傾向にある一方で、テナガエビやスジエビといったエビ類は増加傾向にある。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善	-	・カワニナの減少、及びエビ類の増加についての要因は不明である。	
	重要種の状況	・平成 8 年度にマシジミ 2 個体、平成 13 年度にマシジミ 1 個体が確認されている。	・生息・生育環境の攪乱	-	・マシジミは河川や水路等の流水域を主な生息環境とすることから、下流河川には大きな変化はなかったものと考えられる。	×
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-	-

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×
- :変化がほとんど見られないもの
- :室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(b)底生動物

底生動物の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-58 に示す。

表 6.3.3-58 下流河川の底生動物の変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
底生動物相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成5年度は10種であったが、経年とともに増加し、平成20年度では103種となっている。</li> <li>主な分類群は、トンボ目、トビケラ目、ハエ目、コウチュウ目である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加については、分類精度等の向上による可能性があるが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>
生息状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年度から平成17年度までは、ウルマーシマトビケラやナカハラシマトビケラ、Cheumatopsyche 属等の造網性トビケラ類が優占しており、これらの占める割合は高い状態にあったが、平成20年度では、造網性トビケラ類の確認割合は極端に減少し、アカマダラカゲロウやヒメドロムシ科といった種が優占している。</li> <li>確認個体数は、平成17年度までは増加する傾向にあったが、平成20年度では減少に転じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度から平成20年度にかけての優占種の変化、個体数の減少は、平成19年度に実施した土砂供給実験に起因していると考えられる。</li> <li>河床の攪乱頻度の減少、土砂供給量の減少に伴った造網性トビケラ類の増加は、ダム下流域では一般的であり、ダムの存在・供用に伴う影響と考えられるが、土砂の供給により、影響は低減できるものと考えられる。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、オオタニシ、マシジミ、ゲンジボタルの3種が確認されているが、平成17年度及び平成20年度調査ではゲンジボタルのみの確認となっている。</li> <li>ゲンジボタルは平成7年度に1個体、平成17年度に5個体、平成20年度に2個体が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生息・生育環境の攪乱</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>種によって増減はあり、変化の要因については言及できないが、流水環境に特徴的なゲンジボタルが継続的に確認されていることなどから、ダムの存在・供用に伴う影響は、あまりないものと考えられる。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されている。</li> <li>しかし、両種ともに確認個体数は少なく、サカマキガイは平成17年度に2個体、アメリカザリガニは平成7年度に1個体となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生息・生育環境の攪乱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚類の放流(漁業・遊漁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの確認は、散発的で、確認個体数も少ない状況にあり、定着したかどうかは不明である</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- x: 変化がほとんど見られないもの
- : 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(c) 動植物プランクトン

a) 植物プランクトン

植物プランクトンの変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 3-59 に示す。

表 6. 3. 3-59 下流河川の植物プランクトンの変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
植物プランクトン相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成5年度は30種、平成11年度は40種、平成16年度は22種、平成18年度は35種と、増減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きい。ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。</li> </ul>	●
生育状況の変化	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成6年度は緑藻類、平成11年度及び平成16年度はともに珪藻類であった。</li> <li>富栄養湖沼に多く、全国の湖沼に普通にみられる種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床の攪乱頻度の減少</li> <li>土砂供給量の減少</li> <li>水温の変化</li> <li>水質の変化</li> <li>減水区間の流況改善</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。</li> </ul>	●

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんど見られないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b) 動物プランクトン

動物プランクトンの変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 3-60 に示す。

表 6. 3. 3-60 下流河川の動物プランクトンの変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
動物プランクトン相の変化	種数	・確認種数については、平成5年度は7種、平成11年度は35種、平成16年度は33種、平成18年度は21種と、平成5年度から平成11年度にかけては増加しているが、以降、平成18年度にかけては減少している。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善	—	・確認種数の増減は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きい が、ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。 ●
生息状況の変化	優占種の変化	・湖やため池等、全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多くみられる種であった。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少 ・水温の変化 ・水質の変化 ・減水区間の流況改善	—	・ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。 ●

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんど見られないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(d)植物

植物の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-61 に示す。

表 6.3.3-61 下流河川の植物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
植物相の変化	種数	・平成 16 年度の調査において、147 種の植物が確認されている。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。 -
生育状況の変化	下流河川周辺に生育する植物の状況	・河川沿いや湿った環境を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。 -
	重要種の状況	・平成 16 年度の調査において、重要種はユキヤナギ 1 種が確認されている。本種は河岸の岸壁等に生育する種である。	・生息・生育環境の攪乱	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。 -
	外来種の状況	・平成 16 年度の調査において、外来種は 18 種(うち 1 種は特定外来種)が確認されている。	・生息・生育環境の攪乱	-	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。 -

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



(e)鳥類

鳥類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-62 に示す。

表 6.3.3-62 下流河川の鳥類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
鳥類相の変化	種数	・平成 14 年度では 23 種、平成 18・19 年度では 30 種と増加する傾向がみられている。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・確認種数の増加は、渡来数の増加のほかに、調査手法の違いによる影響も考えられる。 ×
生息状況の変化	下流河川に生息する鳥類の状況	・水辺を利用する種としては、カワウ、アオサギ、ヤマセミ、キセキレイについては、継続的に確認されている。 ・陸域を利用する種としては、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ホオジロ等の草地から樹林にかけて生息する種が多く確認されている。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・一般的な種が確認されており、環境に大きな変化はないものと考えられる。 ×
	重要種の状況	・水辺を利用する種としては、オシドリ、ヤマセミ、カワガラスの 3 種の重要種が確認されている。 ・陸域を利用する種については、樹林性のアオゲラ、サンショウクイ、ルリビタキ、オオルリ、サメビタキ、エゾビタキ、イカルの 7 種が確認されている。	・生息・生育環境の攪乱	-	・2 箇年度の調査結果であるため、経年変化の比較には十分とはいえないが、重要種の確認種数・個体数に若干の増加がみられている。 ×
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	- ×

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんど見られないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(f)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

両生類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-63 に示す。

表 6.3.3-63 下流河川の両生類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
両生類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、4 種の両生類が確認された。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。
	下流河川に生息する両生類の状況	・タゴガエル、トノサマガエル、ウシガエル、カジカガエルの 4 種が確認された。このうち、流水性種はタゴガエル、カジカガエルの 2 種である。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-
外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、ウシガエルが確認された。1 地点で鳴声が確認された。	・生息・生育環境の攪乱	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、多くの止水域が広がるダム湖周辺において、増加傾向はみられていない。	

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)爬虫類

爬虫類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-64 に示す。

表 6.3.3-64 下流河川の爬虫類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
爬虫類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、爬虫類は確認されていない。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	-	-
	下流河川に生息する爬虫類の状況	・平成 15 年度の調査において、爬虫類は確認されていない。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	-	-
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-	-
外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-	-	-

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- △:変化がほとんど見られないもの
- ×:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

c)哺乳類

哺乳類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.3-65 に示す。

表 6.3.3-65 下流河川の哺乳類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
哺乳類相の変化	種数	・平成 15 年度の調査において、8 種の哺乳類が確認された。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	-
生息状況の変化	下流河川に生息する哺乳類の状況	・モグラ属、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドジカの 8 種が確認された。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	-
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-	-
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-	-

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(g)陸上昆虫類等

陸上昆虫類等の変化に対する影響の検証結果を表6.3.3-66に示す。

表6.3.3-66 下流河川の陸上昆虫類等の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
陸上昆虫類相の変化	種数	・平成15年度の調査では、391種が確認されている。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成15年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。 ×
生息状況の変化	下流河川に生息する陸上昆虫類等の状況	・目別確認種数で最も多かったのはコウチュウ目の93種で、次いでカメムシ目の73種、チョウ目の54種、ハチ目の40種の順であった。 ・水生昆虫類ではカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やヒメドロムシ科、ヒラタドロムシ科等も確認された。	・河床の攪乱頻度の減少 ・土砂供給量の減少	-	・平成15年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。 ×
	重要種の状況	・平成15年度の調査において、重要種は確認されていない。	・生息・生育環境の攪乱	-	-
	外来種の状況	・平成15年度調査において、カンタン、シロテンハナムグリ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシの4種が確認されている。	・生息・生育環境の攪乱	-	・平成15年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、普通にみられる種であり、特にダム湖との関係はないと考えられる。 ×

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

6.3.4. ダム湖周辺における変化の検証

(1)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)植物

ダム湖周辺における植物の調査は、これまでに計3回実施されている。このうち、平成6年度、及び平成11年度調査については、調査範囲が区分されていないことから、全てダム湖周辺で確認されたものとして整理を行った。また、植生分布調査についてはいずれの年度についても、調査範囲が区分されていないことから、全てダム湖周辺として整理を行った。

なお、平成6年度、及び平成16年度については、春季・夏季・秋季の3季にわたり調査を実施しているが、平成11年度は春季・夏季の2回調査となっている。各調査年度におけるダム湖周辺の調査数量、及び調査時期の詳細については、表6.3.4-1に示すとおりである。

表 6.3.4-1 調査内容一覧:植物

調査年度		H6	H11	H16	
調査番号		3	9	16	
調査地点	区分	下流河川	-	-	植物相調査(6 下流河川) 群落組成調査(No.23)
		流入河川	-	-	植物相調査(7 流入河川) 群落組成調査(No.27)
		ダム湖周辺	植物相調査, 植生分布調査, 群落組成調査(No.1~No.27)	植物相調査, 植生分布調査, 群落組成調査(No.1~No.27)	植物相調査 (1 スギ-ヒノキ植林,2 コナラ群落,3 アカマツ群落,4 林縁部,5 林縁部-2,8 沢筋,その他) 植生分布調査, 群落組成調査 (No.1 ~ No.22, No.24 ~ No.26)
植物相調査	調査数量		ルート:29.2km	ルート:21.2km	ルート:18.1km
	調査時期	春季	H6.4.28、6.1~4	H11.5.28~30	H16.5.23~24
		夏季	-	H11.8.13、15	H16.8.6~11
		秋季	H6.10.21~22、28、11.3~4	-	H16.10.11~13、15
植生分布調査	調査数量		面積:741.89ha	面積:741.25ha	面積:770.46ha
	調査時期	春季	H6.4.28、6.24	-	-
		夏季	-	-	H16.8.9~11
		秋季	-	H11.10.12~14	-
群落組成調査	調査数量		27 地点	27 地点	27 地点
	調査時期	夏季	H6.8.22~25	H11.8.10~13、15	H16.8.7~11
		秋季	-	-	H16.10.11~12

(a)植生

a)植生分布の変化の整理

植生分布調査の結果は、表 6.3.4-2、図 6.3.4-1 に示すとおりであり、植生分布に大きな変化はみられない状況にある。ただし、平成 6 年度・平成 11 年度と平成 16 年度の調査結果を比較して、変化がみられるものとしては(概ね 2.5%以上)、アカマツ群落及び公園用地の増加、スギ・ヒノキ植林及び造成地・人工裸地の減少があげられる。これらの増減がみられた群落についての状況は表 6.3.4-3～表 6.3.4-4 に示すとおりである。

また、面積的な変化は小さいものの、特筆すべき事項としては、ダム湖岸におけるイタチハギ群落の新規確認があげられる。イタチハギは外来種であり、大正時代に砂防用、護岸用として移入されていたが、現在では荒れた河畔等で野生化し、ところによっては大群生するなど、問題を引き起こすことが知られている。そのため、今後の繁茂状況には、注意が必要であると考えられる。

表 6.3.4-2 植生分布調査結果

植生区分	植生区分	群落名	H6		H11		H16		過年度調査との比較		
			面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	H6 との差 (%)	H11 との差 (%)	
I 自然 植生	木本群落	ネコヤナギ群落					0.29	0.04	0.04	0.04	
		アカメヤナギ群落	0.07	0.01	0.10	0.01	0.46	0.06	0.05	0.05	
		タチヤナギ群落					0.97	0.13	0.13	0.13	
		小計	0.07	0.01	0.10	0.01	1.72	0.22	0.21	0.21	
	草本群落	ツルヨシ群落					3.18	0.41	0.41	0.41	
		小計					3.18	0.41	0.41	0.41	
自然植生小計			0.07	0.01	0.10	0.01	4.90	0.64	0.63	0.62	
II 代 償 植 生	木本群落	アラカシ群落	0.39	0.05	0.15	0.02	1.04	0.13	0.08	0.11	
		アカマツ群落	6.80	0.92	28.91	3.90	37.00	4.80	3.89	0.90	
		コナラ群落	159.5 0	21.50	132.0 6	17.82	151.9 7	19.72	-1.77	1.91	
		アカメガシワ群落	2.18	0.29	0.35	0.05	2.36	0.31	0.01	0.26	
		タラノキ群落					1.40	0.18	0.18	0.18	
		イタチハギ群落					7.64	0.99	0.99	0.99	
		カワヤナギ群落	0.33	0.04	1.50	0.20			-0.04	-0.20	
		コナラ群落 (伐採跡低木林)	2.31	0.31	1.00	0.13			-0.31	-0.13	
		林縁植生	8.16	1.10	9.47	1.28			-1.10	-1.28	
		小計	179.6 7	24.22	173.4 4	23.40	201.4 1	26.14	1.92	2.74	
	草本群落	クズ群落	9.16	1.23	2.86	0.39	5.88	0.76	-0.47	0.38	
		オギ群落					1.44	0.19	0.19	0.19	
		ススキ群落	2.29	0.31	1.85	0.25	1.17	0.15	-0.16	-0.10	
		オオオナモミ群落	1.88	0.25	4.65	0.63	2.31	0.30	0.05	-0.33	
		ヒメジョオン群落					2.04	0.26	0.26	0.26	
		小計	13.33	1.80	9.36	1.26	12.84	1.67	-0.13	0.40	
	代償植生小計			193.0 0	26.01	182.8 0	24.66	214.2 5	27.81	1.79	3.15
	III 植 林	スギ・ヒノキ植林		374.9 8	50.54	367.4 8	49.58	362.4 8	47.05	-3.50	-2.53
ハチクエ林			0.42	0.06	0.19	0.03	0.25	0.03	-0.02	0.01	
マダケ林			0.38	0.05	0.70	0.09	3.54	0.46	0.41	0.37	
植林小計			375.7 8	50.65	368.3 7	49.70	366.2 7	47.54	-3.11	-2.16	
植栽樹・苗圃							0.43	0.06	0.06	0.06	
IV そ の 他	水田		25.49	3.44	16.12	2.17	15.16	1.97	-1.47	-0.21	
	畑地		9.15	1.23	11.48	1.55	8.06	1.05	-0.19	-0.50	
	人工草地		0.82	0.11	3.04	0.41	2.47	0.32	0.21	-0.09	
	公園						19.66	2.55	2.55	2.55	
	住宅地		16.78	2.26	24.72	3.33	22.52	2.92	0.66	-0.41	
	人工構造物・コンクリート裸地		11.78	11.78	1.59	16.78	2.26	29.99	3.89	2.30	
	人工裸地		11.09	1.49	25.56	3.45	2.09	0.27	-1.22	-3.18	
	自然裸地		1.86	0.25	1.96	0.26	1.82	0.24	-0.01	-0.03	
	開放水面		96.07	12.95	90.32	12.18	82.84	10.75	-2.20	-1.43	
	その他小計		173.0 4	23.32	189.98	25.63	185.04	24.02	0.69	-1.61	
総計		741.8 9	100.00	741.25	100.00	770.46	100.00				

注)1. は外来種が優占する群落を示す。  
2. 各調査実施年度における現存植生図は 6.3.4-2 に示すとおりである。



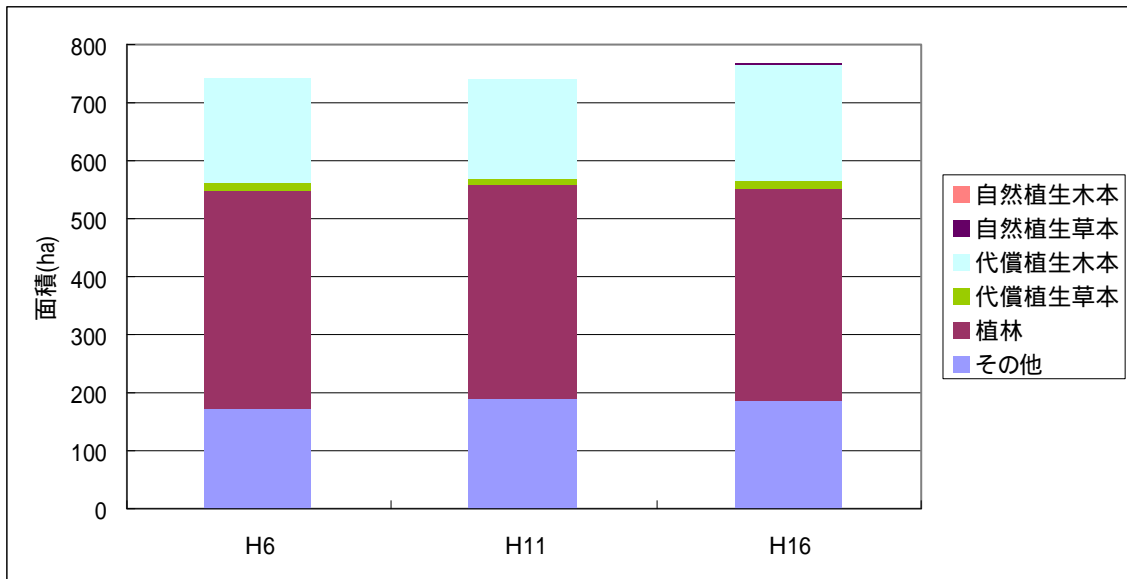


図 6.3.4-1 植生分布調査結果

表 6.3.4-3 増加傾向にある区分の状況

群落名	変化の程度	変化前の主な群落	増加理由
アカマツ群落	H6 から 3.9%増加 H11 から 0.9%増加	コナラ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に尾根部で変化が顕著である。</li> <li>尾根部は地形的に乾燥しやすいことから、混生していたコナラよりも乾燥に耐性のあるアカマツが次第に優占するようになった可能性があると考えられる。</li> </ul>
		コナラ群落 (伐採後低木林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コナラに混生していたアカマツが、コナラよりも早く生長し、群落を形成した可能性があると考えられる。</li> </ul>
公園	H6・H11 から 2.6%増加	造成地・人工裸地	<ul style="list-style-type: none"> <li>流入河川となる宇陀川沿いにおいて、平成 11 年度調査以降に公園整備を実施しており、造成地・人工裸地とされていた箇所が公園となっている。</li> </ul>

表 6.3.4-4 減少傾向にある区分の状況

群落名	変化の程度	変化後の主な群落	減少理由
スギ・ヒノキ植林	H6 から 3.5%減少 H11 から 2.5%減少	広葉樹群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>手入れの行き届かなくなった植林地にコナラ等の広葉樹が進入している可能性があると考えられる。</li> </ul>
造成地・人工裸地	H6 から 1.2%減少 H11 から 3.2%減少	公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>流入河川である宇陀川沿いにおいて、平成 11 年度調査以降に公園整備を実施しており、造成地・人工裸地とされていた箇所が公園となっている。</li> </ul>

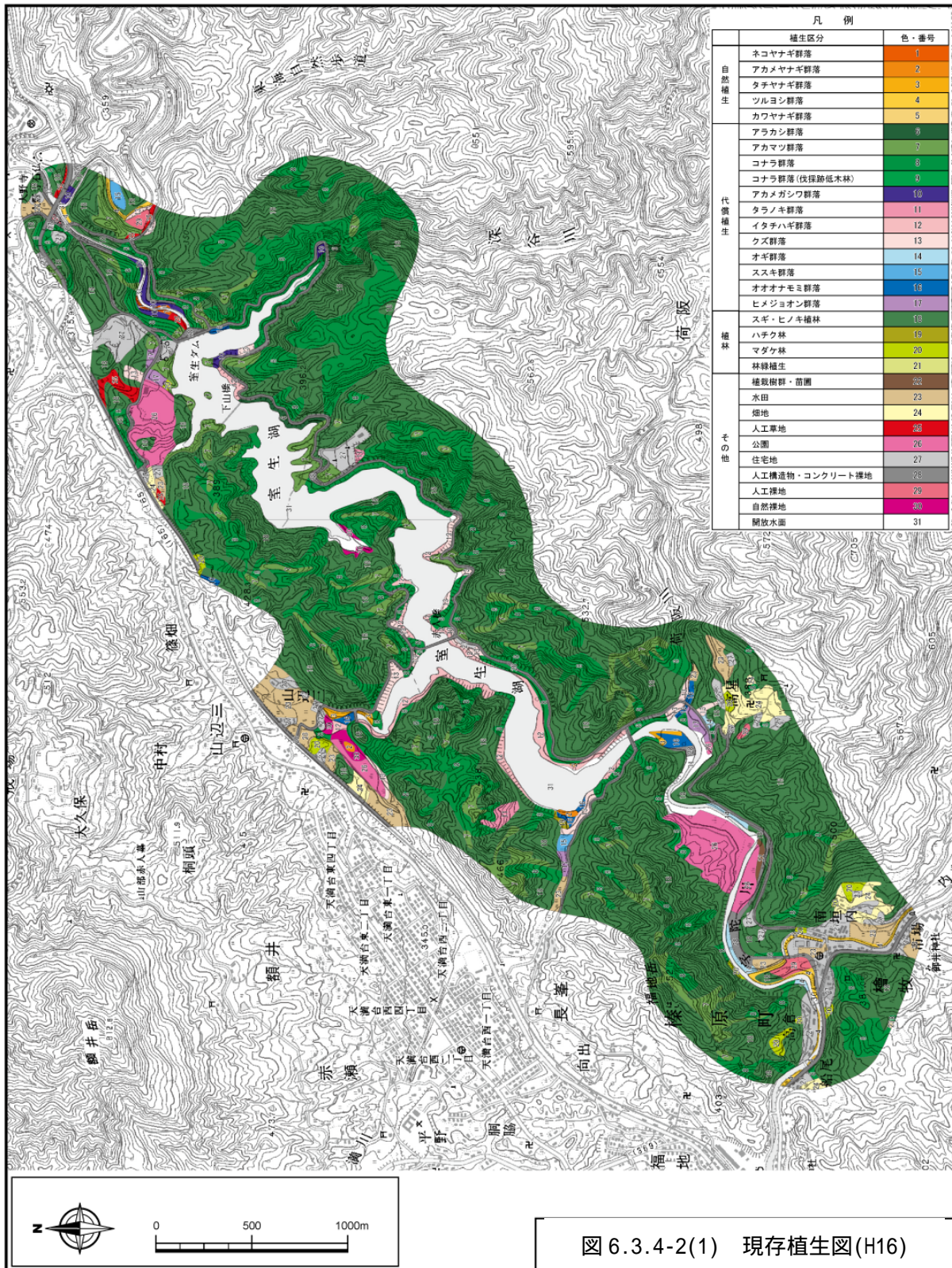


図 6.3.4-2(1) 現存植生図(H16)

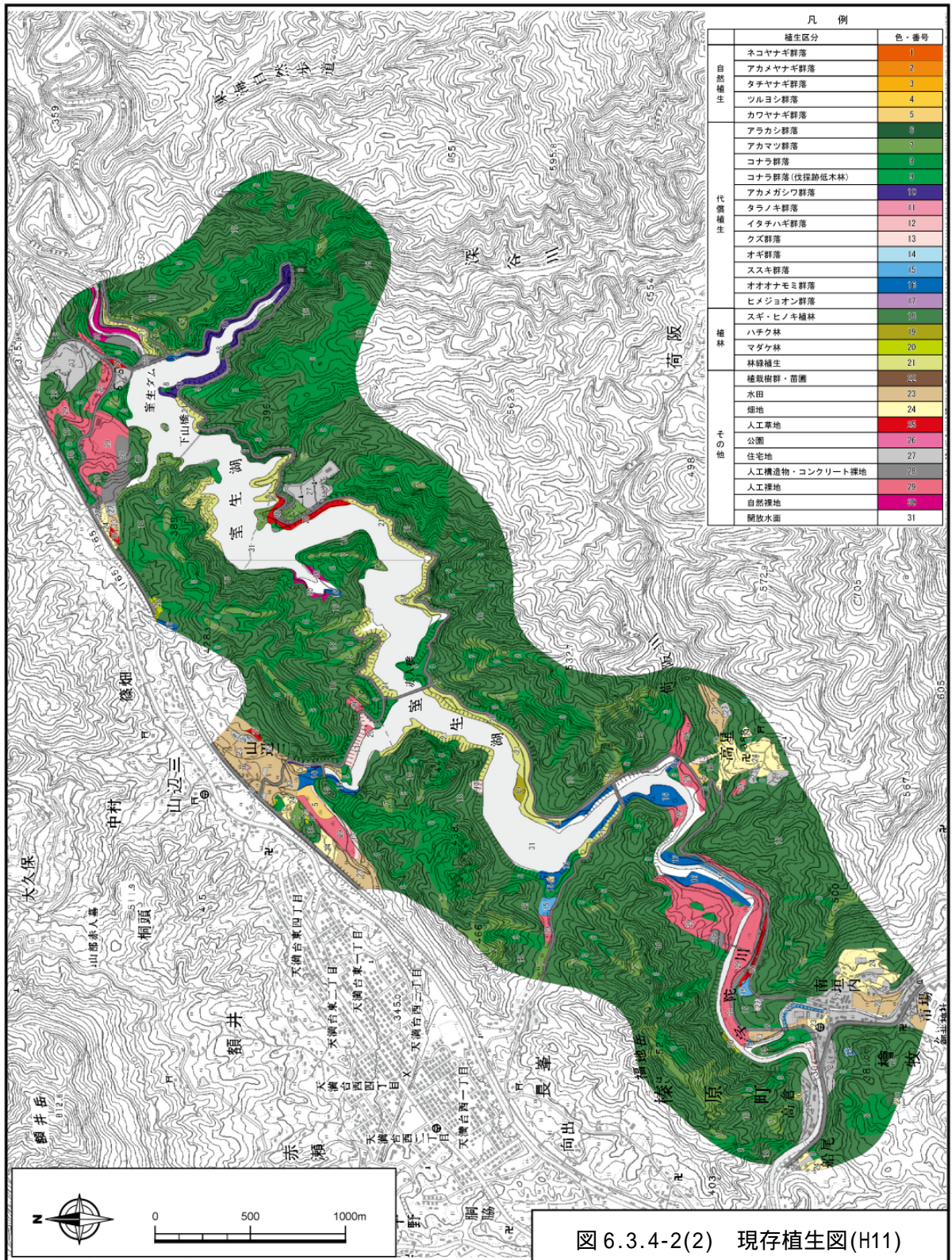


図 6.3.4-2(2) 現存植生図(H11)

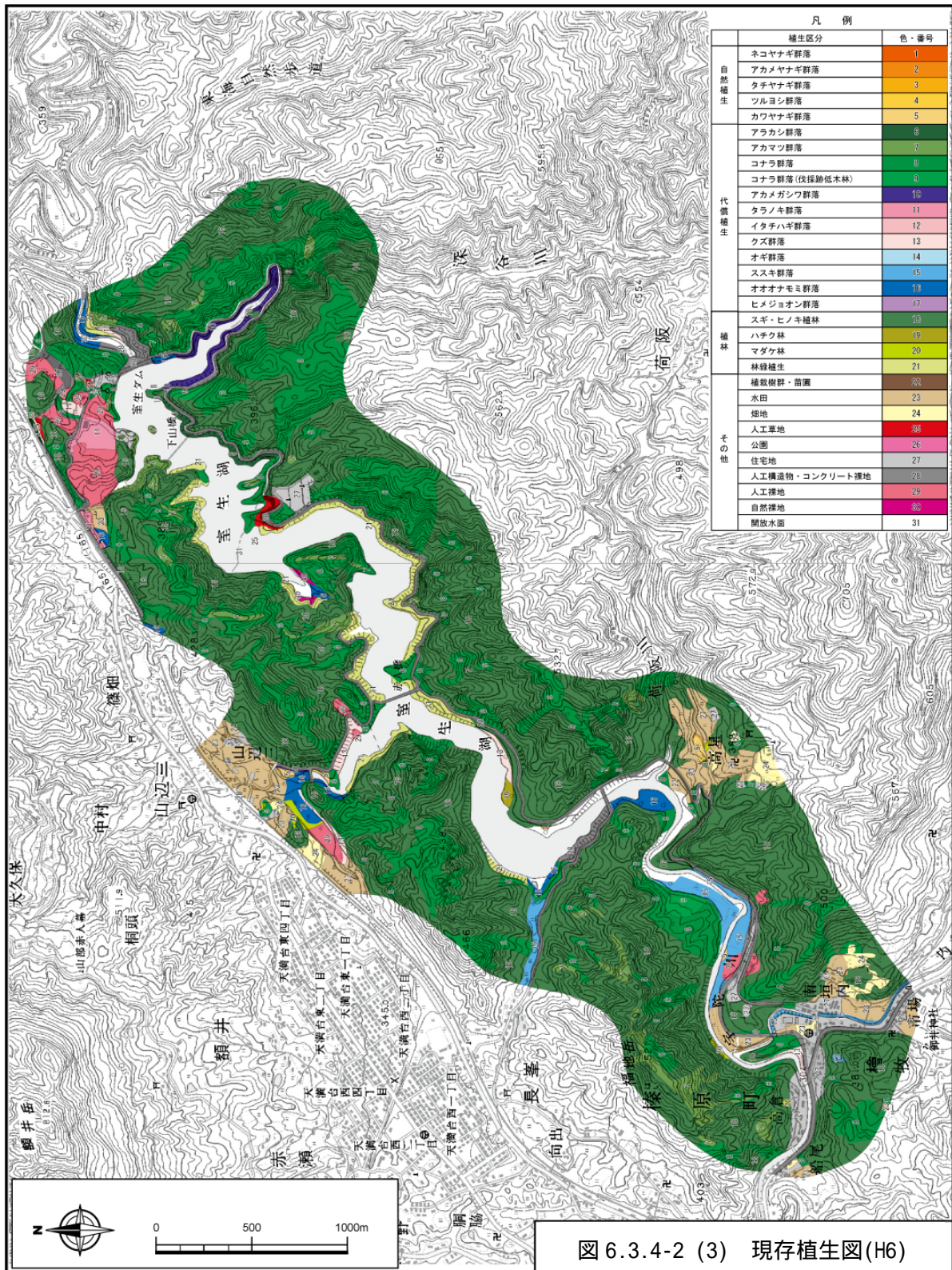


図 6.3.4-2 (3) 現存植生図(H6)

(b) 植物相

a) 植物相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された植物の科種数は表 6.3.4-5、またその推移は図 6.3.4-2 に示すとおりである。

ダム湖周辺において確認された種は、平成 6 年度は 123 科 617 種、平成 11 年度は 128 科 683 種、平成 16 年度は 134 科 801 種であり、年々増加する傾向がみられている。また、新規に確認された種は、平成 11 年度ではダイヤモンドソウ、ミヤマウズラ、エゾノギシギシ、ヌマトラノオ、クロテンツキ、オオハンゴンソウ等の 207 種で、平成 16 年度についてはコイヌガラシ、ジガバチソウ、ヤマミゾソバ、ゴキヅル、ムラサキカタバミ、オオカワヂシャ等の 192 種である。

表 6.3.4-5 経年分類群別確認種一覧：植物

分類	調査年度						合計	
	H6		H11		H16			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
高等植物	123	617	128	683	134	801	139	1016
シダ植物	18	59	18	74	21	99	21	118
種子植物	105	558	110	609	113	702	118	898
裸子植物	5	7	4	6	4	6	5	9
被子植物	100	551	106	603	109	696	113	889
双子葉植物	87	436	92	464	94	508	95	654
離弁花類	59	286	63	298	65	323	66	411
合弁花類	28	150	29	166	29	185	29	243
単子葉植物	13	115	14	139	15	188	18	235

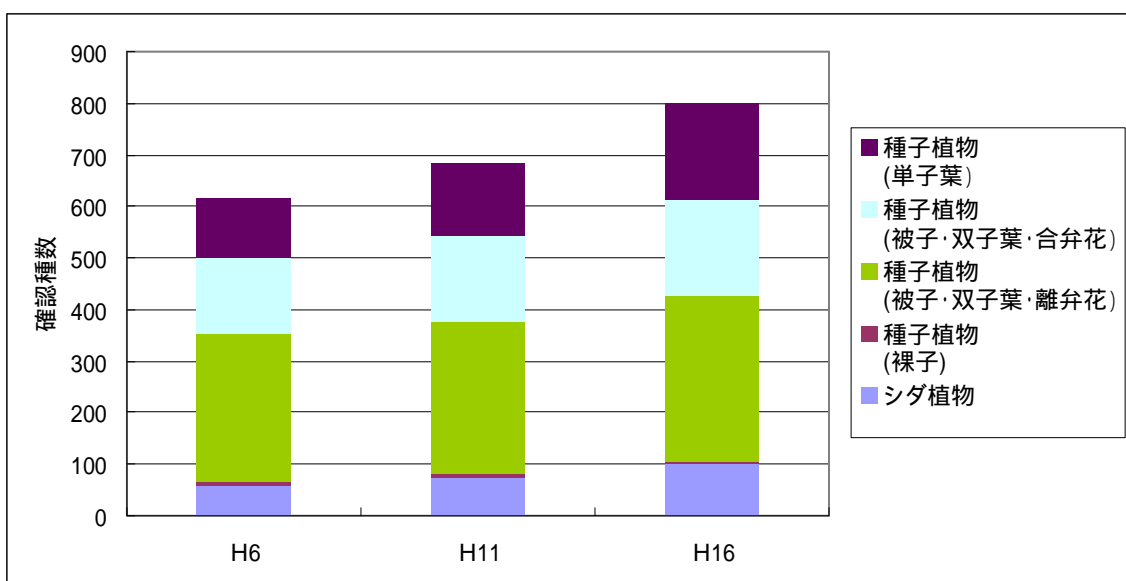


図 6.3.4-3 分類群別確認種数の推移：植物

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された重要種の一覧は表 6.3.4-6、またその推移は図 6.3.4-4 に示すとおりである。

ダム湖周辺における重要種については、これまでの調査で 47 科 88 種が確認されている。このうち継続的に確認されている種は、ミヤコアオイ、イチヤクソウ、コバノミツバツツジ、イワタバコ、ショウジョウバカマ、シュンラン、オオバノトンボソウ等の 11 種である。

また、ヤハズアジサイ、チャルメルソウといった、襲速紀(そはやき)要素も含まれており、調査対象範囲を特徴づける重要種であると考えられる。なお、平成 11 年度については、重要種の確認種数が少ない状況にあるが、これは植物相の秋季調査が実施されていないために、秋季に開花するジンジソウ、ヌマダイコン、ギンリョウソウ等の種が確認されなかったことなどに起因している可能性があると考えられる。

襲速紀(そはやき)要素  
・小泉源一の造語で九州山地一帯から豊予海峡を経て四国から紀伊半島にかけて分布している植物

表 6.3.4-6(1) 経年確認種一覧:重要種

No	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度		
			1	2	3	4	5	6	H6	H11	H16
1	イワヒバ	イワヒバ									
2	シノブ	シノブ									
3	シシラン	シシラン									
4	チャセンシダ	ハウビシダ							希少		
5		アオガネシダ							希少		
6	オンダ	ミドリカナワラビ					A		危惧		
7		メヤブソテツ					準				
8		ミヤコヤブソテツ							希少		
9	ヒメシダ	イワハリガネワラビ							希少		
10	ウラボシ	イワヤナギシダ									
11	ニレ	コバノチョウセンエノキ						C			
12	イラクサ	ミヤコミズ					VU	準	注目		
13	キンポウゲ	ハンショウツル							希少		
14		シロバナハンショウツル						準	希少		
15		トウゴクサバノオ									
16	ウマノスズクサ	ホソバウマノスズクサ							希少		
17		ミヤコアオイ									
18	モウセンゴケ	モウセンゴケ							希少		
19	アブラナ	コイヌガラシ					NT	C	希少		
20	ユキノシタ	ヤハズアジサイ									
21		チャルメルソウ									
22		タコノアシ					NT	C	危惧		
23		ジンジソウ									

表 6.3.4-6 (2) 経年確認種一覧:重要種

No	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度				
			1	2	3	4	5	6	H6	H11	H16		
24	ユキノシタ	ダイモンジソウ							希少				
25	バラ	エドヒガン							不足				
26		ヤマイバラ							希少				
27	マメ	ヒメノハギ						A					
28		イタチササゲ						A					
29	カタバミ	エゾタチカタバミ							希少				
30	フウロソウ	ヒメフウロ						C					
31	ニシキギ	サワダツ							希少				
32	ブドウ	ヤマブドウ							希少				
33	シナノキ	ヘラノキ						C					
34	ジンチョウゲ	コショウノキ							希少				
35	グミ	ナツグミ							不足				
36	スミレ	ナガバノスミレサイシン							絶寸				
37		アケボノスミレ						A	絶寸				
38	ウリ	ゴキヅル							希少				
39	ミソハギ	ミズマツバ					VU	C	希少				
40	セリ	カノツメソウ						準	希少				
41	イチヤクソウ	ギンリョウソウ											
42		イチヤクソウ								希少			
43	ツツジ	コバノミツバツツジ											
44	リンドウ	リンドウ											
45		センブリ											
46	ガガイモ	イケマ							危惧				
47	ムラサキ	サワルリソウ						準	危惧				
48	シソ	カワミドリ							危惧				
49		ミズトラノオ					VU	A					
50		マネキグサ					NT	準	希少				
51		ラショウモンカズラ								希少			
52		イヌゴマ								希少			
53	ゴマノハグサ	コシオガマ							危惧				
54		オオヒナノウスツボ							絶寸				
55		オオヒキヨモギ						VU	準	危惧			
56	キツネノマゴ	スズムシバナ						A					
57	イワタバコ	イワタバコ											
58	キキョウ	バアソブ					VU	A	不足				
59	キク	ヌマダイコン							希少				
60		オケラ							C	絶寸			
61	オモダカ	ヘラオモダカ							危惧				
62	ユリ	ショウジョウバカマ											
63		ノカンゾウ								希少			
64		イワギボウシ											
65		ササユリ								希少			
66		コオニユリ											
67		ホトトギス								危惧			
68		ヤマホトトギス								希少			
69		ミズアオイ	ミズアオイ					NT	A	絶滅			
70	アヤメ	ヒオウギ							危惧				
71	ヒナノシヤクジョウ	ヒナノシヤクジョウ							B	危惧			
72	イネ	コゴメカゼクサ							A	絶寸			
73		コメガヤ								希少			
74		ウキシバ								C	危惧		

表 6.3.4-6 (3) 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準						調査年度		
			1	2	3	4	5	6	H6	H11	H16
75	ガマ	コガマ					C	希少			
76	カヤツリグサ	ヤブスゲ					A				
77		シロガヤツリ					A	希少			
78		コアゼテンツキ					B				
79	ラン	シュンラン						危険			
80		ツチアケビ						希少			
81		ミヤマウスラ						希少			
82		ムヨウラン						危険			
83		ジガバチソウ					C	危険			
84		クモキリソウ									
85		コ克蘭						希少			
86		オオバトソウ						希少			
87		カヤラン						希少			
88		クモラン						希少			
47科88種			0種	0種	28種	9種	30種	60種	47種	26種	50種

注)1.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:国立、国定公園指定植物 4:環境省 RL2007  
5:改訂・近畿 RDB 6:奈良県 RDB

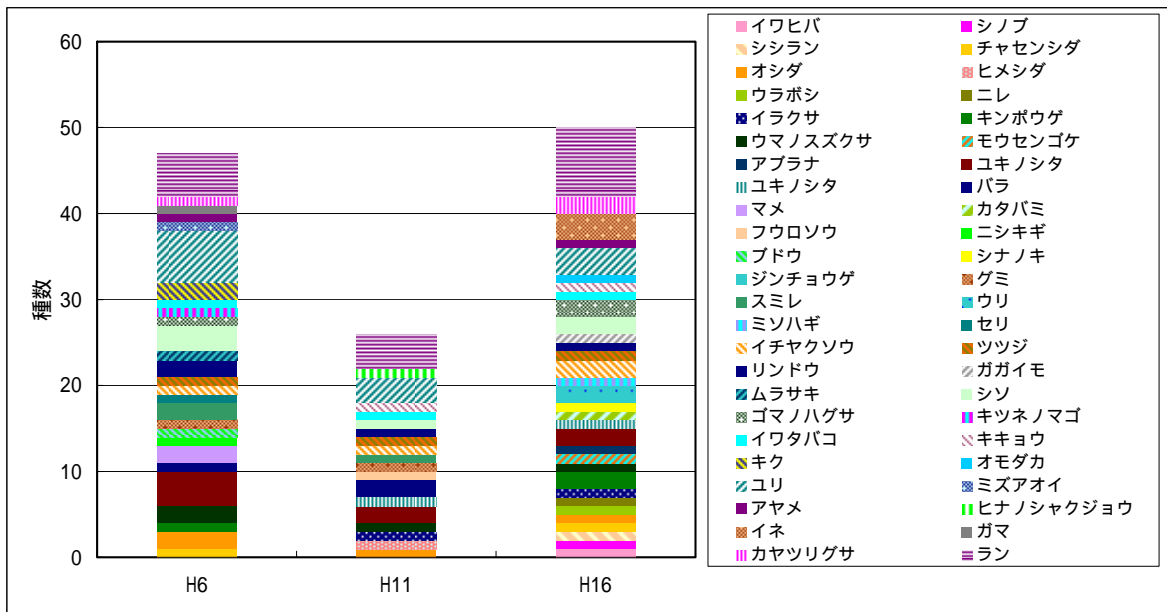


図 6.3.4-4 科別確認種数の推移:重要種



c) 外来種の変化の整理

これまでの調査においてダム湖周辺で確認された外来種の一覧は表 6.3.4-7 に、またその推移は図 6.3.4-5 に示すとおりである。

ダム湖周辺における外来種については、これまでの調査で 27 科 91 種が確認されている。確認種数は年々増加傾向にあるが、外来種率は 8~9%程度で推移している。継続的に確認されている外来種としては、イタチハギ、シロツメクサ、アレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、カモガヤ等の 32 種である。このうちイタチハギ、ヒメジョオン、オオオナモミについては群落としても確認されており、生育個体数も多いと考えられる。なお、イタチハギ及びヒメジョオンの群落は平成 16 年度になって新たに確認されており、今後の拡大が懸念される。

また、特定外来種に該当する種としては、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオハンゴンソウの 3 種であり、アレチウリについては継続的に確認されている。ただし、アレチウリについては、これまでの調査において群落としての確認はないことから、生育個体数は比較的少ないと考えられるが、状況によっては分布が拡大する可能性もあり、今後は注意が必要であると考えられる。

表 6.3.4-7(1) 経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H6	H11	H16
1	ミズワラビ	ホウライシダ					
2	タデ	ヒメスイバ					
3		アレチギシギシ					
4		ナガバギシギシ					
5		エゾノギシギシ	要注意				
6	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ					
7	ザクロソウ	ククルマバザクロソウ					
8	ナデシコ	オランダミミナグサ					
9		コハコベ					
10	アカザ	アカザ					
11		アリタソウ					
12	ヒユ	ホソバツルノゲイトウ					
13		ホナガアオゲイトウ					
14	アブラナ	オランダガラシ	要注意				
15	マメ	イタチハギ	要注意				
16		アレチヌスビトハギ					
17		アメリカヌスビトハギ					
18		コメツブウマゴヤシ					
19		ハリエンジュ	要注意				
20		コメツブツメクサ					
21		ムラサキツメクサ					
22		シロツメクサ					
23	カタバミ	ムラサキカタバミ	要注意				
24		オッタチカタバミ					
25	トウダイグサ	オオニシキソウ					

表 6.3.4-7 (2) 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度			
			1	2	H6	H11	H16	
26	トウダイグサ	コニシキソウ						
27		ナンキンハゼ						
28	ニガキ	シンジュ						
29	ウリ	アレチウリ	特定					
30	アカバナ	メマツヨイグサ	要注意					
31		オオマツヨイグサ						
32		マツヨイグサ						
33	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ						
34	アカネ	メリケンムグラ						
35	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	要注意					
36		マメアサガオ						
37	ムラサキ	コンフリー						
38	クマツヅラ	ヤナギハナガサ						
39	シソ	ヒメオドリコソウ						
40	ナス	アメリカイヌホオズキ						
41		テリミノイヌホオズキ						
42	フジウツギ	フサフジウツギ						
43	ゴマノハグサ	マツバウンラン						
44		タケトアゼナ						
45		アメリカアゼナ						
46		オオカワヂシャ	特定					
47		タチイヌノフグリ						
48		オオイヌノフグリ						
49	キク	ブタクサ	要注意					
50		オオブタクサ	要注意					
51		オオホウキギク						
52		ヒロハホウキギク						
53		ホウキギク						
54		アメリカセンダングサ	要注意					
55		アレチノギク						
56		オオアレチノギク	要注意					
57		ベニバナボロギク						
58		アメリカタカサブロウ						
59		ダンドボロギク						
60		ヒメムカシヨモギ	要注意					
61		ケナシヒメムカシヨモギ						
62		チチコグサモドキ						
63		ウスベニチチコグサ						
64		ククイモ	要注意					
65		オオハンゴンソウ	特定					
66		ノボロギク						
67		セイタカアワダチソウ	要注意					
68		オニノゲシ						
69		ヒメジョオン	要注意					
70		セイヨウタンポポ	要注意					
71		オオオナモミ	要注意					
72		ミズアオイ	ホテイアオイ	要注意				
73		アヤメ	キショウブ	要注意				
74			ニワゼキショウ					
75			ヒメヒオウギズイセン					
76	イネ	コヌカグサ						

表 6.3.4-7 (3) 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		ダム湖周辺		
			1	2	H6	H11	H16
77	イネ	メリケンカルカヤ	要注意				
78		ヒメコバンソウ					
79		イヌムギ					
80		カモガヤ	要注意				
81		シナダレスズメガヤ	要注意				
82		オオニワホコリ					
83		コスズメガヤ					
84		オニウシノケグサ	要注意				
85		ネズミムギ	要注意				
86		オオクサキビ					
87		シマスズメノヒエ					
88		キシユウスズメノヒエ	要注意				
89		モウソウチク					
90		ナガハグサ					
91		ナギナタガヤ					
27科91種			28種	91種	53種	55種	65種
外来種率(外来種種数/全種数)					8.6%	8.1%	8.1%

注)1.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

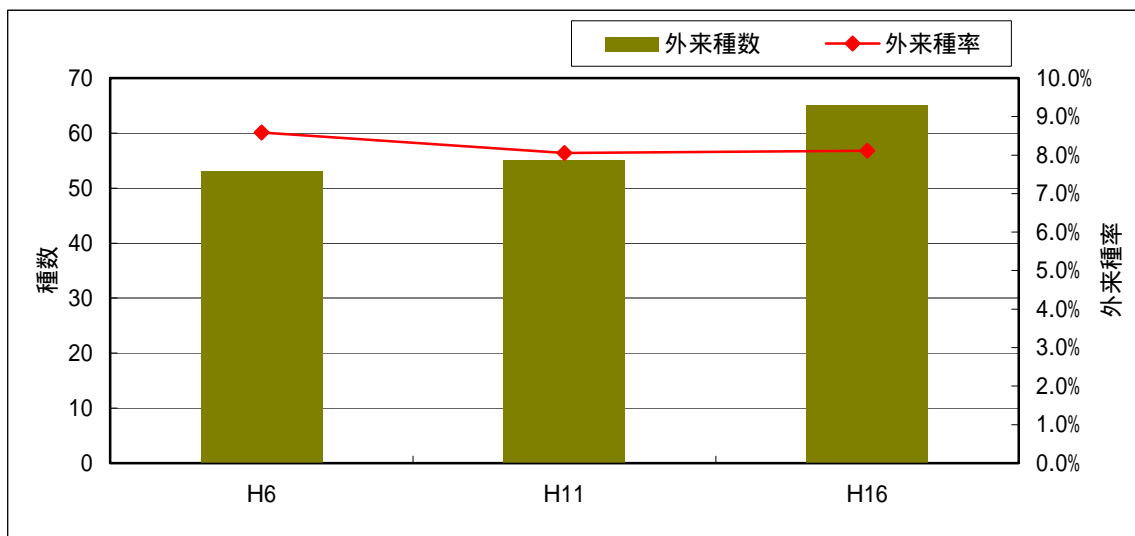


図 6.3.4-5 外来種数の推移:植物 (ダム湖周辺)

## 2)鳥類

ダム湖周辺における鳥類の調査は、これまでに計4回実施されている。このうち、平成5年度及び平成9年度調査については、調査範囲が区分されていないことから、全てダム湖周辺で確認されたものとして整理を行った。

また、実施した調査年度によって、調査手法及び調査地点等が若干異なっていることから、変化の整理にあたっては、各年度の全調査日の累積確認数を比較し、その推移を整理することとした。なお、調査手法及び調査地点等の調査については、表6.1.3-3に示すとおりである。

表 6.3.4-8 調査内容一覧:鳥類

調査年度		H5	H9	H14	H18・19	
調査番号		2	6	12	18	
調査地点	区分	下流河川	-	-	ラインセンサス(5-1)	スポットセンサス(淀室下1)
		ダム湖内	定点記録(P1~P3)	定点記録(P1~P3)	定点記録(P-1~P-3)	船上センサス(淀室湖8)
		流入河川	-	-	ラインセンサス(5-2)	スポットセンサス(淀室入3)
		ダム湖周辺	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス(R-1~R-3) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+定位記録法(1,2,3,6) ラインセンサス(4-1,4-2) 夜間調査、移動中	ラインセンサス+スポットセンサス(淀室周1~淀室周3) 定点センサス(淀室周4,淀室周5) 夜間調査、移動中
ラインセンサス	調査数量	7.2km (2回×1~2日)	7.2km (2回×1日)	3.9km (2回×2~3日)	-	
	調査時期	春季	H5.5.28	H9.5.8	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.11	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.8	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.27	H15.1.28、30	-
ラインセンサス + スポットセンサス	調査数量	-	-	-	センサス2.1km+スポット9地点 (スポット1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
スポットセンサス	調査数量	-	-	-	9地点(1箇所10分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16~17
		夏季	-	-	-	H18.6.22~23
		秋季	-	-	-	H18.10.12~13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
環境に応じた確認 ラインセンサス法 + 定位記録法	調査数量	-	-	1.3km+80分	-	
	調査時期	春季	-	-	H14.5.8~10	-
		夏季	-	-	H14.6.13~14	-
		秋季	-	-	H14.10.8~9	-
		冬季	-	-	H15.1.28、30	-
定点センサス	調査数量	-	-	-	1箇所30分	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.13
		冬季	-	-	-	H19.1.30~31
定位記録法	調査数量	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	1箇所[30分×3回]	-	
	調査時期	春季	H5.5.28~29	H9.5.7	H14.5.8~10	-
		夏季	H5.8.24~25	H9.6.12	H14.6.13~14	-
		秋季	H5.9.28~29	H9.10.9	H14.10.8~9	-
		冬季	H6.1.25~26	H10.1.26	H15.1.28~30	-
船上センサス	調査数量	-	-	-	2人×1日(80~85分)	
	調査時期	春季	-	-	-	H19.5.16
		夏季	-	-	-	H18.6.22
		秋季	-	-	-	H18.10.12
		冬季	-	-	-	H19.1.30
夜間	調査数量	2人×1日	2人×1日	2人×1日	3人×1日(180分)	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.15
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.10
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.29
移動中の確認	調査数量	3人×1日	3人×1日	2人×2日	2人×2日	
	調査時期	春季	H5.5	H9.5.7	H14.5.8~10	H19.5.16~17
		夏季	H5.8	H9.6.12	H14.6.13~14	H18.6.22~23
		秋季	H5.9	H9.10.9	H14.10.8~9	H18.10.12~13
		冬季	H6.1	H10.1.26	H15.1.28~30	H19.1.30~31

(a) 鳥類相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された鳥類の一覧は表 6.3.4-9 に示すとおりである。

種類数をみると、平成5年度は62種であり、平成9年度に67種とわずかに増加するが、その後減少傾向となっている。総個体数は、平成5年度の3,063個体から平成18・19年度には456個体と大きく減少している。

また、ダム湖周辺の大半を占める陸域環境に着目すると、図 6.3.4-7～図 6.3.4-6 に示すとおり、鳥類相全体と同様に減少傾向がみられ、平成18・19年度の陸域を利用する種の個体数は、平成5年度の約1/5に減少している。陸域を利用する種の科数別にみると、タカ科、ハト科、キツツキ科、ウグイス科、エナガ科、シジュウカラ科、メジロ科、アトリ科、ホオジロ科、カラス科が継続して確認され、科の構成比は変わらずに個体数が減少している。また、カッコウ科は平成18・19年度では確認されておらず、フクロウ科、ヨタカ科、アマツバメ科、ツバメ科、ハタオリドリ科については、平成5年度から平成9年度のみの確認となっている。

なお、ダム湖周辺においては、部分的な植生の改変等はみられるものの、鳥類の生息が大幅に減少するような要因はみられていないことから、平成5年度から平成18・19年度における個体数の減少は、調査手法等の違いによる可能性もあると考えられる。

表 6.3.4-9(1) 経年確認種一覧:鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度					
				H5	H9	H14	H18・19		
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	7	6	1	1		
2	ペリカン	ウ	カワウ	61	43	7	6		
3	コウノトリ	サギ	ゴイサギ		2				
4			ササゴイ	1					
5			ダイサギ		21				
6			コサギ	5					
7			アオサギ	43	47	4			
8			カモ	カモ	オシドリ	24			
9					マガモ	30	40	10	6
10	カルガモ				24		2		
11	コガモ	20				9			
12	タカ	タカ	ハチクマ		2				
13			トビ	27	41	3	2		
14			オオタカ	1	1				
15			ハイタカ	2					
16			オオノスリ		2				
17			ノスリ	1					
18			サシバ	6	5				
19			クマタカ		7				
20			キジ	キジ	コジュケイ	8	5	1	1
21	キジ	4			4				
22	ヤマドリ	3							
23	チドリ	チドリ	コチドリ				1		
24	ハト	ハト	キジバト	103	67	7	7		
25			アオバト			2	1		
26	カッコウ	カッコウ	カッコウ		1				
27			ツツドリ		1				
28			ホトトギス	1	8	1			
29	フクロウ	フクロウ	アオバズク		3				
30			フクロウ	1	2				
31	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		4				
32	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	4	1				
33	ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	6	21	3			
34			カワセミ	14	9	1			
35	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	9	11	12	2		
36			アカゲラ	5	2				
37			オオアカゲラ			5			
38			コゲラ	56	64	18	18		
39	スズメ	ツバメ	ツバメ	22	21				
40			コシアカツバメ	14	15				
41		セキレイ	キセキレイ	17	23	2	3		
42			ハクセキレイ	2	1				
43			セグロセキレイ	63	52	3			
44			ピンズイ	6	1		1		
45		ヒヨドリ	ヒヨドリ	505	420	90	69		
46		モズ	モズ	20	26	3	4		
47		カワガラス	カワガラス	1	3	1			
48		ミソサザイ	ミソサザイ	1	2		1		
49		イワヒバリ	カヤクグリ			1			
50	ツグミ	ルリビタキ	4	9		2			
51		ジョウビタキ	4	7	1				
52		ノビタキ			3				

表 6.3.4-9 (2) 経年確認種一覧:鳥類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H9	H14	H18・19
53	スズメ	ツグミ	アカハラ			1	
54			シロハラ	20	6	3	
55			ツグミ	5	8	7	
56		ウグイス	ヤブサメ	7	15	7	1
57			ウグイス	236	186	37	23
58			メボソムシクイ		1		
59			センダイムシクイ	2		1	
60			キクイタダキ			3	
61		ヒタキ	キビタキ		1	3	3
62			オオルリ		10	4	6
63			コサメビタキ		2		4
64		カササギヒタキ	サンコウチョウ		2		1
65		エナガ	エナガ	398	141	78	86
66		シジュウカラ	コガラ	3	2		1
67			ヒガラ	1	9		11
68			ヤマガラ	68	89	26	33
69			シジュウカラ	145	105	54	26
70		メジロ	メジロ	125	79	49	41
71		ホオジロ	ホオジロ	179	216	25	11
72			カシラダカ	2	9		
73			ミヤマホオジロ	2	25	1	
74			アオジ	11	46	5	1
75			クロジ			1	
76		アトリ	アトリ	30			
77			カワラヒワ	65	56	9	1
78			ベニマシコ	1	9		
79			ウソ				6
80			イカル	57	20	26	6
81			シメ	1			
82		ハタオリドリ	スズメ	137	62		
83	ムクドリ	ムクドリ	1				
84	カラス	カケス	19	22	25	10	
85		ハシボソガラス	334	84	2	17	
86		ハシブトガラス	113	215	85	41	
-		カラス属の一種		14			
15目 33科 86種				62種	67種	44種	37種
				3063 個体	2461 個体	637 個体	456 個体

注)1.表中の数は、全調査日の累積確認数を示している。



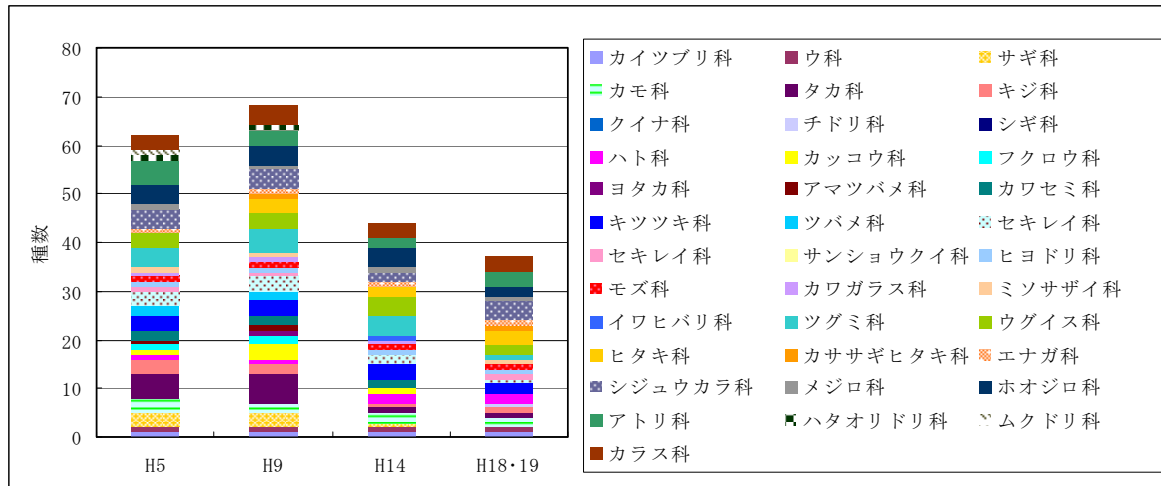


図 6.3.4-6 科別確認種数の推移:鳥類

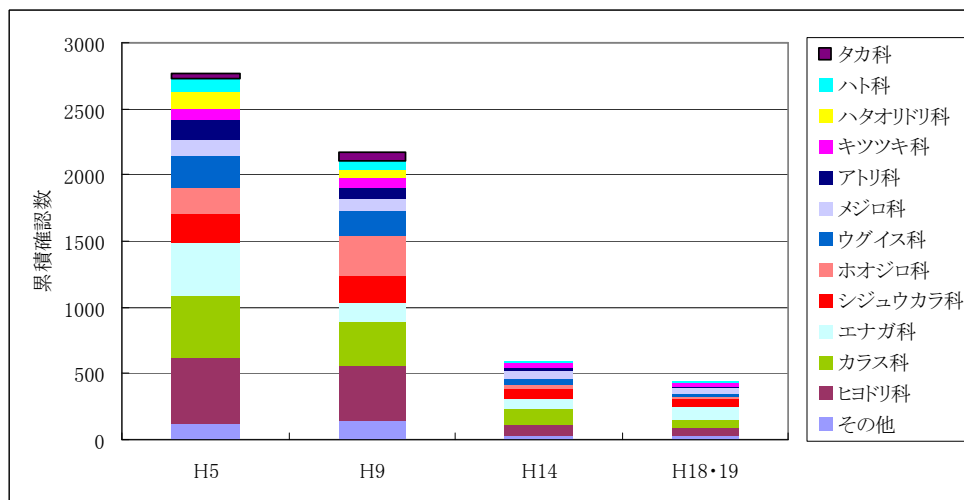


図 6.3.4-7 科別確認個体数の推移:陸域を利用する鳥類

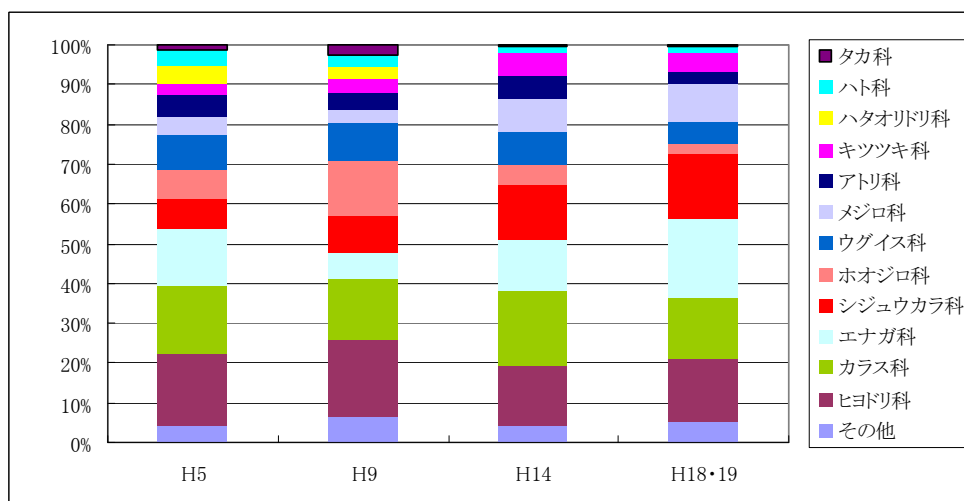


図 6.3.4-8 科別確認割合の推移:陸域を利用する鳥類

(b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された重要種の一覧は表 6.3.4-10、またその推移は図 6.3.4-9 に示すとおりである。

ダム湖周辺における重要種は、ゴイサギ、ササゴイ、オシドリ、コチドリ、ヤマセミ、カワガラス等、ダム湖や河川の水辺環境に生息する種や、アオゲラ、アオジ、イカル等の樹林性の種、さらにハチクマ、オオタカ、クマタカ等の大型の猛禽類等、計 41 種が確認されている。また、種数についてみると、平成 5 年度の 21 種から平成 9 年度の 27 種に増加した後は、減少する傾向がみられる。

なお、ダム湖周辺においては、部分的な植生の改変等はみられるものの、鳥類の生息が大幅に減少するような要因はみられていないことから、平成 18・19 年度における個体数の減少は、調査手法等の違いによる可能性もあると考えられる。

表 6.3.4-10 (1) 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度			
			1	2	3	4	5	H5	H9	H14	H18・19
1	サギ	ゴイサギ					注目		2		
2		ササゴイ				準絶	不足	1			
3	カモ	オシドリ			DD	準絶	注目	24			
4	タカ	ハチクマ			NT	危惧	危惧		2		
5		オオタカ		国内	NT		希少	1	1		
6		ハイタカ			NT		希少	2			
7		ノスリ					希少	1			
8		サンバ			VU	危惧	危惧	6	5		
9		クマタカ		国内	EN	準絶	危惧		7		
10	チドリ	コチドリ				準絶					1
11	ハト	アオバト				準絶	希少			2	1
12	カッコウ	カッコウ				準絶	希少		1		
13		ツツドリ				準絶	希少		1		
14		ホトトギス					準絶		1	8	1
15	フクロウ	アオバズク				準絶	希少		3		
16		フクロウ					危惧	希少	1	2	
17	ヨタカ	ヨタカ			VU	準絶	危惧		4		
18	カワセミ	ヤマセミ					希少	6	21	3	
19	キツツキ	アオゲラ				準絶		9	11	12	2
20		アカゲラ				準絶	希少	5	2		
21		オオアカゲラ					準絶	希少			5
22	セキレイ	ビンズイ					希少	6	1		1
23	カワガラス	カワガラス					希少	1	3	1	
24	イワヒバリ	カヤクグリ					危惧			1	
25	ツグミ	ルリビタキ					希少	4	9		2
26		アカハラ					希少			1	
27	ウグイス	メボソムシクイ				準絶	希少		1		
28		センダイムシクイ				準絶	希少	2		1	
29		キクイタダキ					準絶	危惧			3
30	ヒタキ	キビタキ				準絶	希少		1	3	3
31		オオルリ				準絶			10	4	6
32		コサメビタキ					準絶	希少	2		4

表 6.3.4-10 (2) 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準					調査年度			
			1	2	3	4	5	H5	H9	H14	H18・19
33	サンコウチョウ	サンコウチョウ				準絶	希少		2		1
34	シジュウカラ	コガラ				準絶	希少	3	2		1
35	ホオジロ	ミヤマホオジロ				準絶	希少	2	25	1	
36		アオジ					準絶	11	46	5	1
37		クロジ				準絶	危惧			1	
38	アトリ	ベニマシコ				準絶		1	9		
39		ウソ				準絶					6
40		イカル					郷土	57	20	26	6
41		シメ				準絶		1			
20科 41種			0種	2種	7種	29種	34種	21種 144 個体	27種 201 個体	16種 70 個体	13種 35 個体

注)1. 表中の数は、全調査日の累積確認個体数を示す。

2. 選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:近畿レッド 5:奈良県 RDB

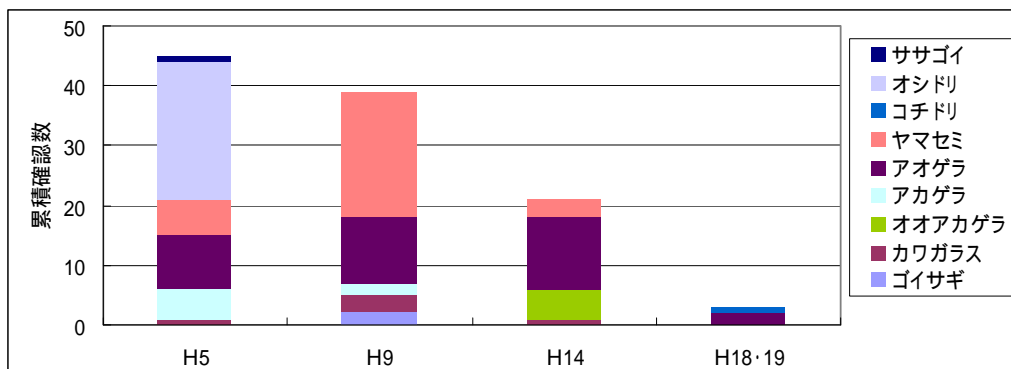


図 6.3.4-9 (1) 種別確認個体数の推移:重要種(水辺を利用する鳥類)

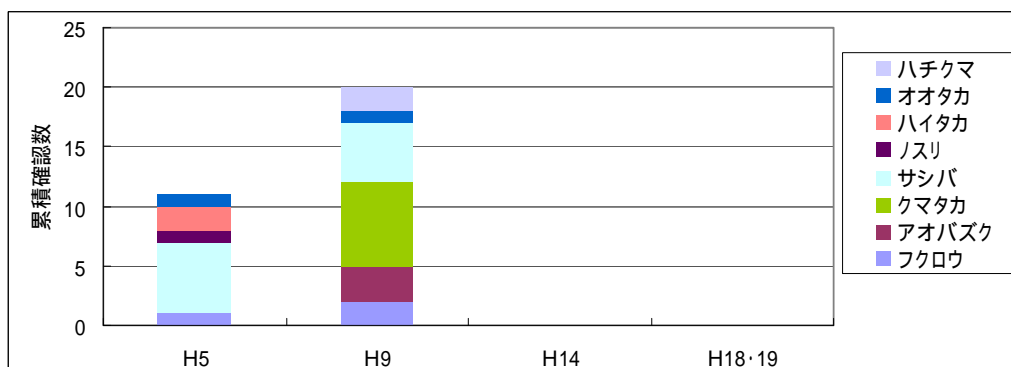


図 6.3.4-9 (2) 種別確認個体数の推移:重要種(猛禽類・フクロウ類)

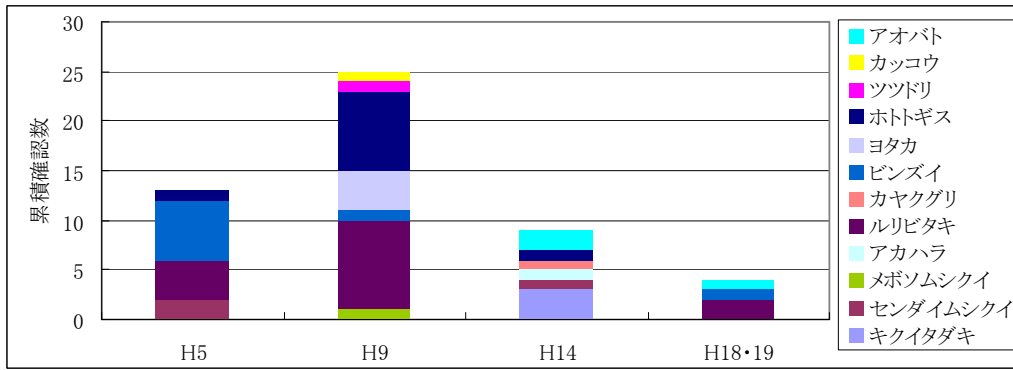


図 6.3.4-9 (3) 種別確認個体数の推移:重要種(陸域を利用する鳥類 1)

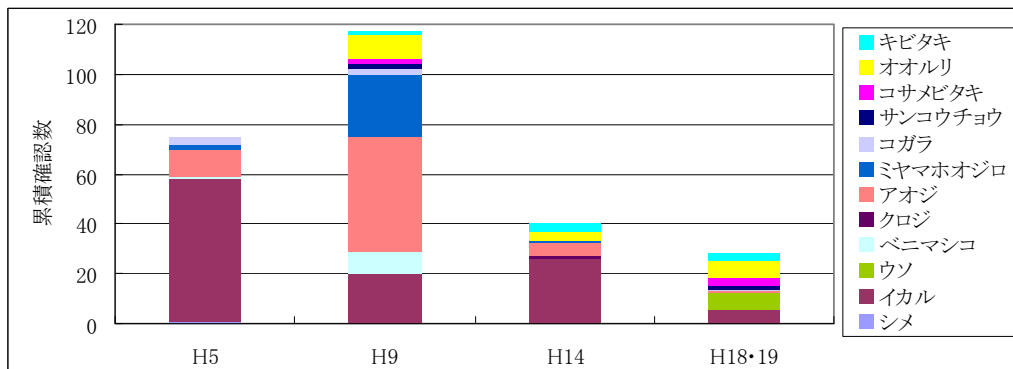


図 6.3.4-9 (4) 種別確認個体数の推移:重要種(陸域を利用する鳥類 2)

(c) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された鳥類の外来種の確認状況は、表 6.3.4-11 に示すとおりである。

ダム湖周辺では、鳥類の外来種ではコジュケイ 1 種が継続的に確認されている。

表 6.3.4-11 経年確認種一覧: 外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度			
			1	2	H5	H9	H14	H18・19
1	キジ	コジュケイ			8	5	1	1
1科1種			0種	1種	1種	1種	1種	1種

注) 1. 表中の数は、全調査日の累積確認個体数を示す。

2. 選定基準 1: 特定外来生物法 2: 外来種ハンドブック

3) 両生類・爬虫類・哺乳類

ダム湖周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の調査は、これまでに計 3 回実施されている。このうち、平成 5 年度及び平成 10 年度調査では、「流入河川」・「下流河川」・「ダム湖周辺」等の区域の区別がされていないことから、「ダム湖周辺」のデータとして整理した。このほか、確認状況については、調査年度により確認地点数と確認個体数(確認痕跡数)が混在していたことから、確認地点数をデータとして扱った。

なお、各調査回ともに、春季・夏季・秋季・冬季(哺乳類を対照)の年 4 回実施している。また、調査手法等は、フィールドサイン・目撃法やトラップ法を中心として、平成 10 年度からは自動撮影法による調査が追加されている。各調査年度におけるダム湖周辺の調査数量、及び調査時期の詳細については、表 6.3.4-12 に示すとおりである。

表 6.3.4-12 調査内容一覧:両生類・爬虫類・哺乳類

調査年度		H5	H10	H15			
調査番号		2	7	14			
調査地点	区分	下流河川	-	-	5-1 河畔(流出河畔)		
		流入河川	-	-	5-2 河畔(流入河畔), その他(深谷川))		
		ダム湖周辺	フィールドサイン・目撃法, トラップ法:地点1~地点3	フィールドサイン・目撃法, カメカゴ(No1~No.4) トラップ法(No1~No4) 自動撮影法(No1~No2)	1 スギ-ヒノキ群落, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4-1 林縁部, 4-2 林縁部, 6 沢筋, 7-2 その他(荷阪川)		
両生類 爬虫類 哺乳類	フィールド サイン法 目撃法	調査数量	ルート延長:22.0km	ルート延長:26.0km	ルート延長:18.5km		
		調査時期	春季	H5.5.28~29	H10.5.14~16	H15.5.19~22	
			夏季	H5.8.24~26	H10.8.6~8	H15.8.4~6	
			秋季	H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16	
			冬季	H6.1.25~26 (哺乳類調査のみ)	H11.1.21~22 (哺乳類調査のみ)	H16.1.20~22 (哺乳類調査のみ)	
両生類 爬虫類	墜落缶	調査数量	-	-	1 地点(20 個)		
		調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22	
			夏季	-	-	-	
			秋季	-	-	H15.10.14~16	
			冬季	-	-	-	
	カメカゴ (カメトラップ)	調査数量	-	3 地点(1 地点 1 個)	4 地点(1 地点 1 個)		
		調査時期	春季	-	H10.5.14~15	H15.5.19~22	
			夏季	-	H10.8.6~7	-	
			秋季	-	-	H15.10.14~16	
			冬季	-	-	-	
哺乳類	トラップ法調査	トラップ マウス	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 20 個)	3 地点(1 地点 30 個)	8 地点(1 地点 30 個)	
			調査時期	春季	H5.5.28~30	H10.5.14~16	H15.5.19~22
				夏季	H5.8.24~26	-	-
				秋季	H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16
				冬季	H6.1.25~27	-	-
		トラップ モグラ	調査数量	-	1 地点(5 対)	1 地点(春 1 個、秋 9 個)	
			調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22
				夏季	-	-	-
				秋季	-	H10.10.13~14	H15.10.14~16
				冬季	-	-	-
	カゴ罠	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 1 個)	-	3 地点 1 地点(春 10 個、秋 5 個)		
		調査時期	春季	H5.5.28~30	-	H15.5.19~22	
			夏季	H5.8.24~26	-	-	
			秋季	H5.9.28~30	-	H15.10.14~16	
			冬季	H6.1.25~27	-	-	
	自動撮影法 調査	調査数量	-	2 地点	3 地点		
		調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22	
夏季			-	-	-		
秋季			-	H10.10.13~14	H15.10.14~16		
冬季	-	H11.1.21~22	-				
その他		-	モリアオガエル補足調査 (H10.6.11) オオサンショウウオ夜間 調査 (H10.8.6~7、10.12、 H11.1.21)	-			

(a)両生類

a)両生類相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された両生類の一覧は表 6.3.4-13 に示すとおりである。

確認種数の推移をみると、平成 5 年度は 5 科 11 種、平成 10 年度は 5 科 10 種、平成 15 年度は 5 科 10 種であり、大きな変化はみられない。

確認種についてみると、イモリ、ニホンヒキガエル、アマガエル、タゴガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルの 9 種が継続的に確認されている。ただし、確認地点数については減少傾向となる種もみられている。具体的には、ダム湖周辺の水田、池や湿地等の水深の浅い止水環境を繁殖場所として利用している種群であるイモリ、ニホンヒキガエル、アマガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエルの 8 種である。これらの種のうち、平成 5 年度から平成 10 年度にかけて確認数の多いアマガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエルの 3 種については、平成 15 年度には確認地点数が半数以下に減少している。これらの減少傾向にある種については、ダム湖周辺における住宅地等の造成、あるいは農地の区画整理に伴う乾田化等によって生息環境が減少している可能性があると考えられる。

一方、流水環境を主な生息場所とするタゴガエルやカジカガエルについては、平成 12 年度に若干減少する傾向はみられるが、平成 15 年度には増加に転じており、特にタゴガエルについては、確認数が倍増する結果となっている。なお、確認地点が増加したタゴガエルや、大きな変化がみられなかったカジカガエルといった種の繁殖環境は沢や流水中であり、成体の生息環境は谷や河川の水場と連続性を保つ樹林地周辺である。それらの種の確認地点は山間部が連続的に広がり、沢や流入河川が多い右岸側での確認が多い傾向にあった。

表 6.3.4-13 経年確認種一覧:両生類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
				H5	H10	H15
1	サンショウウオ	イモリ	イモリ	4	10	6
2	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	2	2	2
3		アマガエル	アマガエル	19	17	8
4		アカガエル	タゴガエル	14	12	24
5			ヤマアカガエル	1	1	
6			トノサマガエル	23	25	5
7			ヌマガエル	3		1
8			ウシガエル	13	5	5
9			ツチガエル	1	1	1
10			アオガエル	シュレーゲルアオガエル	15	14
11		カジカガエル		5	1	4
2目5科11種				11種	10種	10種

注)1.表中の数字は、確認地点数を示す。

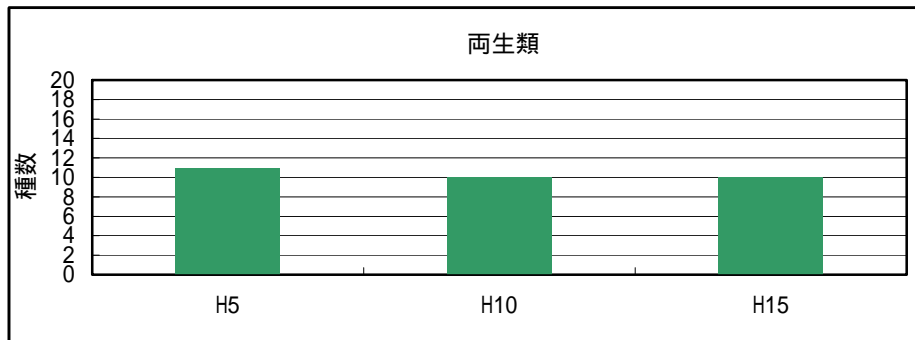


図 6.3.4-11 種数の推移:両生類

また、両生類は産卵場所、あるいは幼生の生息場所が水域となることから、表 6.3.4-14 に示すとおり、生活史のステージ段階別による確認状況の整理を行った。その結果、平成 15 年度では全ての種で、卵は確認されず、幼生が確認された種はアマガエルのみであった。また、幼体が確認された種はニホンヒキガエル、アマガエル、タゴガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエルであった。このほか、カジカガエルは過年度調査を含め、卵、幼生、幼体は確認されていない。

このほか、ダム湖周辺で確認されている両生類のうち、ダム湖内にみられるような止水域を繁殖・生息環境として利用する種は、外来種であるウシガエルに限られるが、ウシガエルの確認地点数は平成 5 年度以後の調査では半分以下となっている。

表 6.3.4-14 確認内容一覧:両生類

No.	種名(和名)	確認内容															合計	
		目撃	鳴声			死体			卵塊		幼生		幼体		成体			その他
			H5	H5	H10	H15	H5	H10	H15	H5	H10	H10	H15	H10	H15	H10		
1	イモリ	4					1	5			1				8	1		20
2	ニホンヒキガエル	1				1					1		1	2				6
3	アマガエル	4	14	11	4						2	1	4	1		2	1	44
4	タゴガエル	11	3		3								6	14	6	7		50
5	ヤマアカガエル	1											1					2
6	トノサマガエル	21								2	1		12	2	10	3	2	53
7	ヌマガエル	3												1				4
8	ウシガエル	7	6	1	4						1		1		2	1		23
9	ツチガエル	1			1								1					3
10	シュレーゲルアオガエル	4	8	6	4				1	1	4		1	1	2		2	34
11	カジカガエル	2	3	1	4													10

注)1. 表中の数字は確認地点数を示す。

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された両生類の重要種は表 6.3.4-15 に示すとおりである。



ダム湖周辺における重要種は、イモリ、ニホンヒキガエルが各年度ともに確認されている。このうち、イモリは平成 10 年度に確認地点数が増加しているが、平成 15 年度には減少し、平成 5 年度と同等程度になっている。また、ニホンヒキガエルは、確認地点数は少ないものの、継続的に確認されている。

表 6.3.4-15 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H5	H10	H15
1	イモリ	イモリ			NT		4	10	6
2	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				危惧	2	2	2
2科2種			0種	0種	1種	1種	2種	2種	2種

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2006 4:奈良県 RDB

c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された両生類の外来種は表 6.3.4-16 に示すとおりである。

ダム湖周辺における外来種は、ウシガエルが各年度ともに確認されている。ただし、ウシガエルの確認地点数については、平成 5 年度から平成 10 年度にかけて減少し、以降横ばいの状態となっている。

表 6.3.4-16 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H5	H10	H15
1	カエル	ウシガエル	特定		13	5	5
1科1種			1種	1種	1種	1種	1種

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。

2.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

(b)爬虫類

a)爬虫類相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された爬虫類の一覧は表 6.3.4-17 に示すとおりである。

確認種数の推移をみると、平成 5 年度は 5 科 12 種、平成 10 年度は 5 科 10 種、平成 15 年度は 5 科 10 種であり、大きな変化はみられない。また、確認種についてみると、クサガメ、ミシシippアカミミガメ、トカゲ、カナヘビ、シマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシの 8 種が継続的に確認されている。なお、継続確認されていない、イシガメ、ヒバカリ、マムシの 3 種については、確認されている年度でも 3 個所以下の確認地点数であり、当該地域周辺における生息個体数は少ないものと考えられる。

また、確認地点数に着目すると、増加傾向にあるのは、クサガメ、ミシシippアカミミガメの2種である。これらの種は、止水域や緩やかな流水域を好む種であることから、ダム湖内及びダム湖周辺にみられる止水的な環境を生息場所として安定的に利用しているものと考えられる。また、イシガメは、確認地点数は少ないものの、比較的流れの速い流水域に適応していることから、山間部やその周辺の河川を中心に生息しているものと考えられる。

なお、このほかの種については、平成10年度のみ確認地点数が少ないものや、平成5年度から平成10年度にかけて減少するもの、平成10年度から平成15年度にかけて減少するもの、あるいは概ね同数で維持するものなど様々であり、一定の傾向はみられない状況にある。

表 6.3.4-17 経年確認種一覧:爬虫類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度			
				H5	H10	H15	
1	カメ	イシガメ	クサガメ	1	4	6	
2			ミシシippアカミミガメ	4	3	10	
3			イシガメ	1		3	
4	トカゲ	トカゲ	トカゲ	16	18	9	
5		カナヘビ	カナヘビ	41	14	29	
6		ヘビ	シマヘビ	シマヘビ	12	6	15
7			ジムグリ	ジムグリ	2	2	3
8			アオダイショウ	アオダイショウ	1	3	1
9			シロマダラ	シロマダラ	1		2
10			ヒバカリ	ヒバカリ	6	1	
11			ヤマカガシ	ヤマカガシ	16	6	7
12		クサリヘビ	マムシ	マムシ	2	2	
2目5科12種				12種	10種	10種	

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。

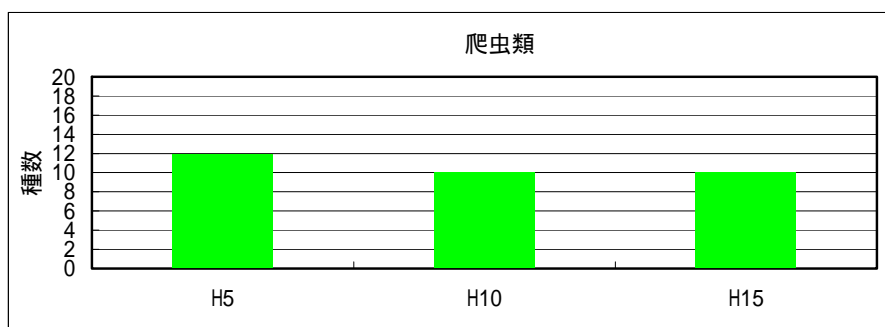


図 6.3.4-12 種数の推移:爬虫類

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された重要種は表 6.3.4-18 に示すとおりである。

ダム湖周辺における重要種は、イシガメ、ジムグリ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシが確認されており、このうち継続的に確認されている種は、ジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシの3種である。なお、イシガメ及びシロマダラは平成10年度、ヒバカリ及びマムシは平成15年度で確認されていない。

表 6.3.4-18 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H5	H10	H15
1	イシガメ	イシガメ			DD	危惧	1		3
2	ヘビ	ジムグリ				不足	2	2	3
3		アオダイショウ				希少	1	3	1
4		シロマダラ				不足	1		2
5		ヒバカリ				不足	6	1	
6		ヤマカガシ				希少	16	6	7
7	クサリヘビ	マムシ				希少	2	2	
3科7種			0種	0種	1種	7種	7種	5種	5種

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。

2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2006 4:奈良県 RDB

### c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された外来種は表 6.3.4-19 に示すとおりである。

ダム湖周辺における外来種は、ミシシippアカミミガメが各年度ともに確認されており、かつ、確認地点は増加傾向にある。本種は、止水域や緩やかな流水域を好む種であることから、ダム湖内及びダム湖周辺にみられる止水的な環境を生息場所として安定的に利用しているものと考えられる。

表 6.3.4-19 経年確認種一覧:外来種

No.	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H5	H10	H15
1	イシガメ	ミシシippアカミミガメ					
1科1種			0種	1種	1種	1種	1種

注)1.選定基準 1:特定外来生物法 2:外来種ハンドブック

### (c)哺乳類

#### a)哺乳類相の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された哺乳類の一覧は表 6.3.4-20 に示すとおりである。

確認種数の推移をみると、平成5年度は8科11種、平成10年度は11科17種、平成15年度は9科18種であり、平成5年度から平成10年度にかけては増加傾向にあり、以

降、平成 15 年度にかけては概ね横ばい傾向にある。

確認種についてみると、主な確認種はヒミズ、モグラ属、ノウサギ、ムササビ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドジカ等であり、これらの種は平成 5 年度以降、継続的に確認されている。また、平成 10 年度に、新たに確認された種は、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、ニホンザル、ニホンリス、カヤネズミの 6 種、平成 15 年度に新たに確認された種はテングコウモリ、ヒメネズミ、アナグマの 3 種である。なお、平成 15 年度では、平成 10 年度に確認されていたキクガシラコウモリ、ニホンザルが確認されていない。

確認地点数については、平成 15 年度に確認された多くの種で、過年度と比較すると確認地点の増加がみられた。ただし、痕跡による確認は、踏査する環境や痕跡の残りやすさ等に大きく左右されやすいことから、一概に生息する哺乳類が増加したと判断することは出来ないものと考えられる。

なお、コウモリ類は深谷川の導水路内、及びその周辺での確認であり、コウモリ類にとって導水路内は重要な休息場所になっていることがうかがえる結果となっている。また、カヤネズミは平成 10 年度の 6 地点から平成 15 年の 3 地点と確認地点数が減少しており、かつ、平成 15 年度のカヤネズミの確認地点は新たな地点であった。

表 6.3.4-20 経年確認種一覧:哺乳類

No.	目名	科名	種名(和名)	調査年度		
				H5	H10	H15
1	モグラ	モグラ	ヒミズ	2	3	6
2			モグラ属	7	22	34
3	コウモリ	キクガシラコウモリ ヒナコウモリ	キクガシラコウモリ		1	
4			モモジロコウモリ		2(11)	4(142)
5			ユビナガコウモリ		1	1
6			テングコウモリ			1
-			ヒナコウモリ科			1
7	サル	オナガザル	ニホンザル		5	
8	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	15	23	67
9	ネズミ	リス	ニホンリス		38	72
10			ムササビ	1	6	1
11			アカネズミ	8	2	2
12		ネズミ	ヒメネズミ			4
13			カヤネズミ		6	3
-			ネズミ科			4
14			ネコ	イヌ	タヌキ	22
15	キツネ	1			5	3
16	イタチ	テン		66	33	53
17		イタチ属		98	91	28
18		アナグマ				1
19	ウシ	イノシシ	イノシシ	2	9	11
20		シカ	ホンドジカ	43	44	95
7目 11科 20種				11種	17種	18種

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。括弧内は目撃、捕獲の場合の個体数を示す。  
2.種名に「・・・属」「・・・科」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

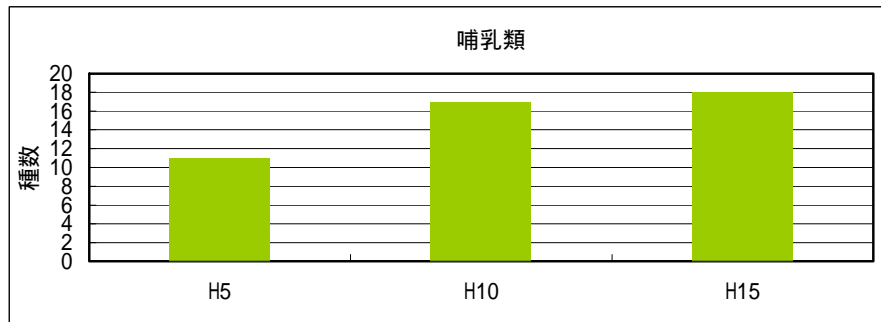


図 6.3.4-13 種数の推移:哺乳類

b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された重要種の確認状況は表 6.3.4-21 に示すとおりである。

ダム湖周辺における重要種は、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、カヤネズミの 5 種が確認されているが、これらの種はすべて平成 10 年度以降の確認種である。

確認された重要種のうち、コウモリ類は深谷川の導水路内及びその周辺での確認である。なお、キクガシラコウモリを除く、他のコウモリ類は導水路内で確認されており、本来であれば樹洞を主な休息場所とするテングコウモリの利用も確認されている。なお、個体数に変動はあるものの、通年を通して確認されていることから、人工構造物である導水路がコウモリ類にとって良好な休息場所となっていると考えられる。

カヤネズミは、平成 10 年度の確認地点数が 6 地点であったのに対して、平成 15 年度では 3 地点と減少する傾向がみられている。また、平成 15 年度の確認地点は、新たな地点であったことを勘案すると、高茎草本群落を比較的限定的に利用する本種にとって、良好な環境がダム湖周辺に残存、形成されているものと考えられる。

表 6.3.4-21 経年確認種一覧:重要種

No.	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H5	H10	H15
1	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ				希少		1	
2	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ				希少		2(11)	4(142)
3		ユビナガコウモリ				希少		1	1
4		テングコウモリ			VU	危惧			1
5	ネズミ	カヤネズミ				希少		6	3
3科5種			0種	0種	1種	5種	0種	4種	4種

注)1.表中の数は、確認地点数を示す。括弧内は目撃、捕獲の場合の個体数を示す。  
2.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

c)外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺では外来種は確認されていない。

4)陸上昆虫類等

ダム湖周辺における陸上昆虫類等の調査は、これまでに計3回実施されている。このうち、平成6年度及び平成10年度調査では、「流入河川」・「下流河川」・「ダム湖周辺」等の区域の区別がされていないことから、「ダム湖周辺」のデータとして整理した。

なお、各調査回ともに、春季・夏季・秋季の年3回実施している。また、調査手法等は、任意採集法、ピットフォールトラップ、ライトトラップを実施しているが、トラップ調査については、経年とともに調査地点数が増加している。各調査年度におけるダム湖周辺の調査数量、及び調査時期の詳細については、表6.3.4-22に示すとおりである。

表 6.3.4-22 調査内容一覧:陸上昆虫類等

調査年度		H6	H10	H15	
調査番号		3	7	13	
調査地点	区分	下流河川	-	-	5-1 河畔(流出河畔)
		流入河川	-	-	5-2 河畔(流入河畔)
		ダム湖周辺	任意採集(R-1~R-3) トラップ(B-1~B4,L-1~L-3)	任意採集(R-1~R-3) トラップ(B-1~B4,L-1~L-3)	1 スギ-ヒノキ群落, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4-1 林縁部,4-2 林縁部, 6 沢筋,その他(荷阪川)
任意採集	調査数量		3 ルート	3 ルート	8 ルート
	調査時期	春季	H6.5.25	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.15	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.6	H10.10.6~9	H15.10.7~9
ピットフォール トラップ	調査数量		4 地点 (ビニールコップ 120 個)	3 地点 (ビニールコップ 90 個)	8 地点 (ビニールコップ 240 個)
	調査時期	春季	H6.5.22~25	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.14~17	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.5~8	H10.10.6~9	H15.10.6~9
ライトトラップ	調査数量		3 地点(ボックス法 3 個)	3 地点 (カーテン法 3 個、 ボックス法 3 個)	8 地点 (カーテン法夏のみ 1 個、 ボックス法 8 個)
	調査時期	春季	H6.5.22~24	H10.5.11~14	H15.5.19~22
		夏季	H6.7.14~16	H10.7.28~31	H15.7.28~31
		秋季	H6.10.5~7	H10.10.6~9	H15.10.6~9
その他		-	ゲンジボタル補足調査 H10.6.11~12	ライトトラップ(カーテン法) は夏季調査のみ 1 地点実施。 任意採集は既定 8 ルートのほ か範囲全域を対象とした調査 を毎回実施	

(a)陸上昆虫類相の変化の整理

ダム湖周辺で確認された陸上昆虫類等の分類群別種数は表 6.3.4-23、またその推移は図 6.3.4-14～図 6.3.4-16 に示すとおりである。

ダム湖周辺にみられる環境は、スギ - ヒノキ植林が最も広く、次いでコナラ群落となっており、調査対象範囲の約 70%が樹林で覆われている。このほか、斜面上部や尾根部周辺にみられるアカマツ林やダム湖岸付近にみられる低茎草地、外周道路沿いの法面に生育するクズ群落、農耕地等が昆虫類の生息環境としてあげられる。

確認された陸上昆虫類等の多くはダム湖周辺の樹林地、草地、農耕地等における確認であった。なお、調査年度ごとで確認種、種構成に多少の変動はみられるものの、大きな変化の傾向は確認されていない。

表 6.3.4-23 経年目別科種数表:陸上昆虫類相

目名	調査年度						合計	
	H6		H10		H15			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
クモ	26	126	20	121	23	129	30	229
トビムシ	5	7	7	9	9	11	10	17
カマアシムシ	1	1					1	1
コムシ	1	1					1	1
イシノミ	1	1			1	1	1	1
カゲロウ	5	7	6	7	6	6	8	12
トンボ	5	16	9	22	7	20	9	28
ゴキブリ	2	2	3	3	2	2	3	3
カマキリ	1	2	2	4	1	2	2	5
シロアリ			1	1	1	1	1	1
ハサミムシ	1	1	2	2	3	3	3	4
カワゲラ	2	5	3	3	4	5	6	10
バッタ	8	38	8	40	10	52	11	72
ナナフシ			1	1	1	2	1	2
チャタテムシ			1	1	8	11	8	11
カメムシ	32	148	36	136	38	149	44	269
アザミウマ			1	1	2	2	3	3
アミメカゲロウ	8	15	5	7	7	10	11	25
シリアゲムシ	1	1	1	2	2	3	2	3
トビケラ	16	27	14	20	20	25	21	37
チョウ	39	397	38	376	47	481	58	805
ハエ	39	130	47	165	44	99	60	267
コウチュウ	42	323	46	288	62	414	65	730
ハチ	18	99	21	110	36	111	37	208
24目 396科 2744種	253科	1347種	272科	1319種	334科	1539種	396科	2744種

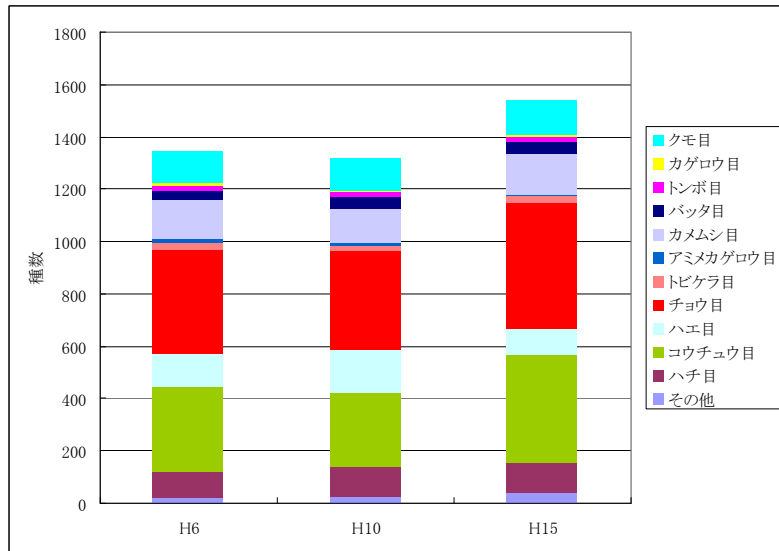


図 6.3.4-13 目別確認種数の推移:陸上昆虫類等

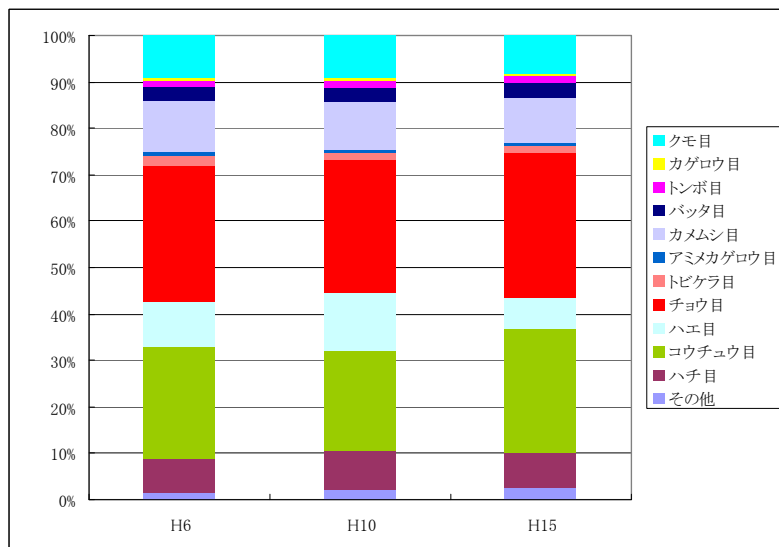


図 6.3.4-14 目別確認割合の推移:陸上昆虫類等

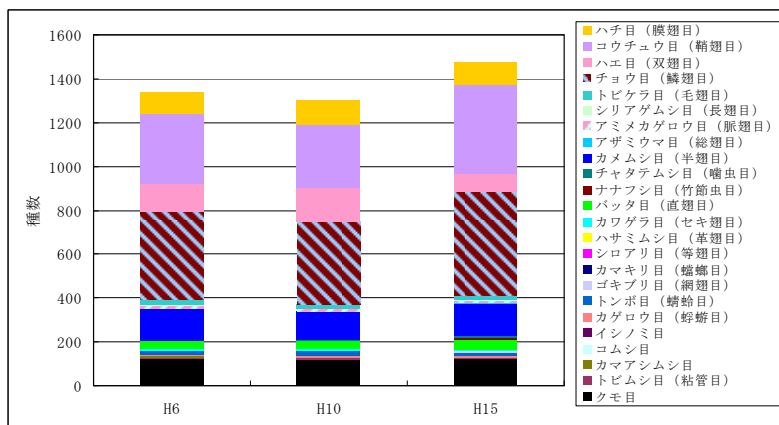


図 6.3.4-15 種数の推移:陸上昆虫類等



(b)重要種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された重要種の一覧は表 6.3.4-24 に示すとおりである。

ダム湖周辺における重要種については、オグマサナエ、カワラバッタ、オオウラギンスジヒョウモン、オオセンチコガネ等の 25 科 30 種の重要種が確認されている。

重要種の確認状況の推移をみると、種数では平成 6 年度の 15 種から平成 10 年度には 11 種に減少し、平成 15 年度には 14 種に再び増加している。なお、これらの重要種のなかで、コバントビケラ及びクロツツトビケラ、オオセンチコガネの 3 種は継続して確認されており、ダム湖周辺においては安定して生息しているもの考えられる。

表 6.3.4-24 経年確認種一覧:重要種

No	科名	種名(和名)	選定基準				調査年度		
			1	2	3	4	H6	H10	H15
1	ミズグモ	ミズグモ			VU				
2	サナエトンボ	オグマサナエ			VU				
3	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ				希少			
4	トンボ	ネキトンボ				希少			
5	コオロギ	カワラスズ				不足			
6	バッタ	カワラバッタ				希少			
7		ダイリフキバッタ				希少			
8	ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ			VU				
9	コオイムシ	コオイムシ			NT	希少			
10	シリアゲムシ	プライヤシリアゲ				注目			
11	アシエダトビケラ	コバントビケラ				希少			
12	フトヒゲトビケラ	フタスジキソトビケラ				希少			
13	クロツツトビケラ	クロツツトビケラ				希少			
14	シジミチョウ	シルビアシジミ本土亜種			CR+EN	絶寸			
15	タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			NT	希少			
16		オオウラギンスジヒョウモン				希少			
17		メスグロヒョウモン				希少			
18		クモガタヒョウモン				希少			
19	ヤガ	シロシタバ				希少			
20	オサムシ	アオヘリアオゴミムシ			CR+EN				
21		スナハラゴミムシ			NT				
22	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			NT	危惧			
23	コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			NT				
24	シデムシ	ヤマトモンシデムシ			NT				
25	センチコガネ	オオセンチコガネ				郷土			
26	コガネムシ	マルエンマコガネ				危惧			
27	タマムシ	ヤマトタマムシ				郷土			
28	ホタル	ゲンジボタル				郷土			
29	カミキリムシ	ヨツボシカミキリ			VU				
30	ベッコウバチ	アケボノベッコウ			DD				
25 科 30 種			0 種	0 種	12 種	20 種	15 種	11 種	14 種

注)1.選定基準 1:天然記念物 2:種の保存法 3:環境省 RL2007 4:奈良県 RDB

(c) 外来種の変化の整理

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認された外来種の確認状況は表 6.3.4-25、またその推移は図 6.3.4-17 に示すとおりである。

ダム湖周辺における外来種については、カンタン、モンシロチョウ、シロテンハナムグリ、ブタクサハムシ等の 23 種が確認されている。

外来種の確認状況の推移をみると、種数では平成 6 年度の 8 種から平成 10 年度には 11 種、平成 15 年度には 13 種と徐々に増加する傾向がみられている。また、外来種率からみた場合は、平成 6 年度の 0.59% から平成 10 年度には 0.83% に増加し、平成 15 年度には 0.84% と概ね横ばいであった。なお、これらの外来種のなかで、カンタン及びとモンシロチョウ、キイロショウジョウバエの 3 種は継続して確認されており、ダム湖周辺においては既に定着していると考えられる。

表 6.3.4-25 経年確認種一覧: 外来種

No	科名	種名(和名)	選定基準		調査年度		
			1	2	H6	H10	H15
1	コオロギ	カンタン					
2	ヒロズコガ	コクガ					
3	ハマキガ	ナシヒメシンクイ					
4	シロチョウ	モンシロチョウ					
5	ツトガ	シバツトガ					
6	メイガ	チャマダラメイガ					
7	チョウバエ	ホシチョウバエ					
8	ニセケバエ	ナガサキニセケバエ					
9	ショウジョウバエ	キイロショウジョウバエ					
10	コガネムシ	シロテンハナムグリ					
11	シバンムシ	タバコシバンムシ					
12	ナガシンクイムシ	ケヤキヒラタキイムシ					
13	テントウムシ	クモガタテントウ					
14	キスイムシ	ウスバキスイ					
15	ケシキスイ	ウスチャデオキスイ					
16		クリイロデオキスイ					
17	ホソヒラタムシ	フタトゲホソヒラタムシ					
18	ゴミムシダマシ	ヒメゴミムシダマシ					
19	カミキリムシ	ツシマムナクボカミキリ					
20		ラミーカミキリ					
21	ハムシ	アズキマメゾウムシ					
22		ブタクサハムシ					
23	ゾウムシ	イネミズゾウムシ					
20 科 23 種			0 種	23 種	8 種	11 種	13 種
外来種率(外来種種数/全種数)					0.59%	0.83%	0.84%

注)1. 選定基準 1: 特定外来生物法 2: 外来種ハンドブック

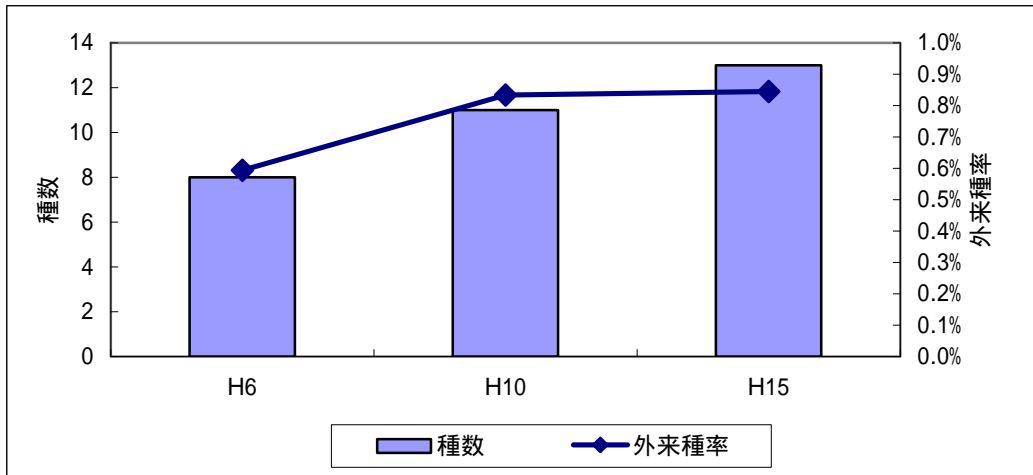


図 6.3.4-17 外来種数及び確認割合の推移

(2)ダムによる影響の整理

ダムの存在・供用に伴って、室生ダムの流入河川に生じる環境条件の変化により、流入河川に生息する多様な生物の生息・生育環境に影響を及ぼすものと想定される。

そこで、室生ダム流入河川における環境条件の変化、またそれにより生じる生物の生息・生育状況の変化を 図 6.3.4-18 のとおり整理し、生物の生息・生育状況の変化の検証を行った。

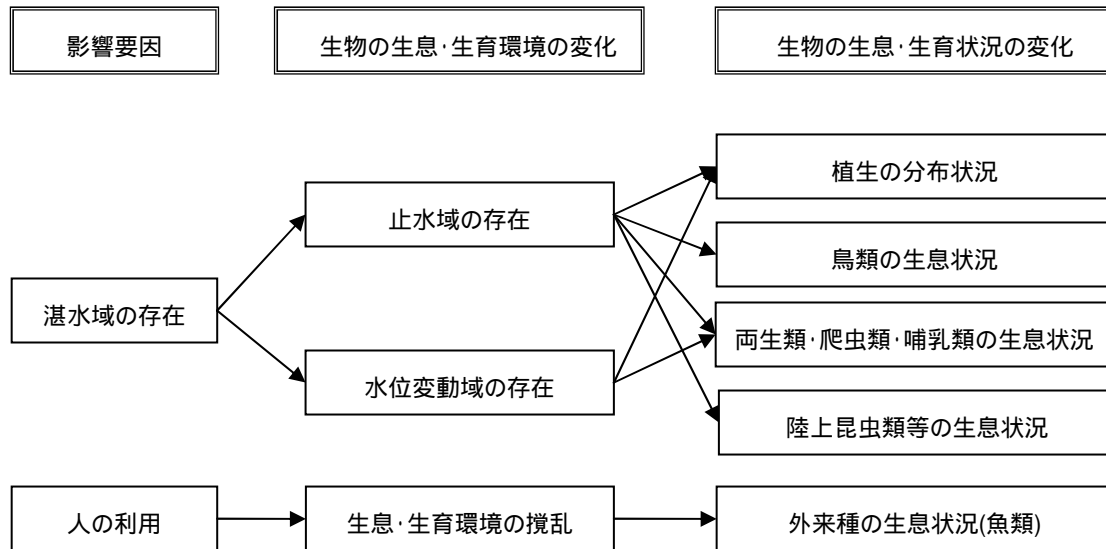


図 6.3.4-18 生物の生息・生育状況の変化と影響要因

1)ダム湖周辺の生物の生息・生育状況の変化の整理結果

(a)植物の生育状況の変化の整理結果

植物の生育状況の変化の整理結果を表 6.3.4-26 に示す。

表 6.3.4-26 ダム湖周辺における植物の生育状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
植物相の変化	種数	・確認種数については、平成 6 年度は 617 種であったが、経年とともに増加し、平成 16 年度では 801 種となっている。
生育状況の変化	ダム湖周辺における植生分布の変化	・大きく変化しているものは、アカマツ群落及び公園用地の増加、スギ・ヒノキ植林及び造成地・人工裸地の減少があげられる。 ・平成 16 年度に、新たに外来種であるイタチハギ群落が確認されている。
	ダム湖周辺に生育する植物の状況	・在来種、外来種とも増加傾向にある。
	重要種の状況	・平成 6 年度では 47 種、平成 11 年度では 26 種、平成 16 年度では 50 種と増減している。 ・継続的に確認されている種は、ヤハズアジサイ、チャルメルソウ等の 11 種である。
	外来種の状況	・確認種数は年々増加傾向にあるが、外来種率は 8～9%程度で推移している。

(b) 鳥類の生息状況の変化の整理結果

鳥類の生息状況の変化の整理結果を表 6. 3. 4-27 に示す。

表 6. 3. 4-27 ダム湖周辺における鳥類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		変化の状況
鳥類相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 62 種、平成 9 年度は 67 種と増加傾向にあったが、平成 14 年度では 44 種、平成 19 年度は 37 種と減少傾向にある。
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する鳥類の状況	・確認種の状況をみると、平成 5 年度から平成 9 年度にかけて変化はみられないが、平成 14 年度、平成 18・19 年度には減少傾向にある。
	重要種の状況	・平成 5 年度は 21 種、平成 9 年度は 27 種、平成 14 年度は 16 種、平成 18・19 年度は 13 種と、平成 14 年度以降は減少する傾向がみられる。 ・ハチクマ、クマタカ等の猛禽類や、フクロウ、オオアカゲラ、サンコウチョウ等、豊かな森林環境に生息する種が確認されている。
	外来種の状況	・平成 5 年度から平成 18・19 年度にかけて、継続的にコジュケイが確認されている。

(c) 両生類・爬虫類・哺乳類

a) 両生類

ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果を表 6. 3. 4-28 に示す。

表 6. 3. 4-28 ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果

検討項目		変化の状況
両生類相の変化	種数	・確認種数は平成 5 年度が 11 種、平成 10 年度が 10 種、平成 15 年度が 10 種であった。
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する両生類の状況	・確認種については、ほとんどの種が継続的に確認されているが、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の水田や池沼等の止水環境を繁殖場所として利用する種の確認地点数が近年減少する傾向にある。 ・一方、流水性のタゴガエルの確認地点数は増加傾向、カジカガエルは概ね横ばいとなっている。
	重要種の状況	・ダム湖周辺では、イモリ、ニホンヒキガエルが経年的に確認されている。
	外来種の状況	・ダム湖周辺では、ウシガエルが継続的に確認されている。 ・ダム湖周辺で確認されている両生類のうち、ダム湖内にみられるような止水域を主な繁殖、生息環境として利用する種は外来種であるウシガエルに限られると考えられる。

b)爬虫類

ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果を表表 6. 3. 4-29 に示す。

表 6. 3. 4-29 ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果

検討項目		変化の状況
爬虫類相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度が 12 種、平成 10 年度が 10 種、平成 15 年度が 10 種であった。
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する爬虫類の状況	・確認種については、ほとんどが継続的に確認されている。 ・確認地点数については、クサガメ、ミシシippアカミミガメといったカメ類は増加、トカゲ、ヤマカガシは減少する傾向がみられている。 ・また、平成 15 年度では、ヒバカリ及びマムシが確認されておらず、断続的な確認となっているのはイシガメ、シロマダラである。
	重要種の状況	・これまでの調査では、イシガメ、ジムグリ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシが確認されている。 ・継続的に確認された種はジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシである。 ・ヒバカリとマムシは平成 15 年度には確認されていない。また、イシガメ、シロマダラは平成 10 年度には確認されていない。
	外来種の状況	・ダム湖周辺では、ミシシippアカミミガメが経年的に確認されている。

c)哺乳類

ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果を表 6. 3. 4-30 に示す。

表 6. 3. 4-30 ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果

検討項目		変化の状況
哺乳類相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度が 11 種、平成 10 年度が 17 種、平成 15 年度が 18 種であった。
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する哺乳類の状況	・主な確認種はヒミズ、モグラ属、ノウサギ、ムササビ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドリカ等でこれらは平成 5 年度以降、継続的に確認されている。 ・平成 10 年度に新たに確認された種は、コウモリ類 3 種、ニホンザル、ニホンリス、カヤネズミ、平成 15 年度では、テングコウモリ、ヒメネズミ、アナグマであった。 ・平成 15 年度では平成 10 年度に確認された、キクガシラコウモリとニホンザルが確認されなかった。
	重要種の状況	・ダム湖周辺において、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユピナゴコウモリ、テングコウモリ、カヤネズミが確認されている。 ・コウモリ類は、深谷川の導水路内及びその周辺での確認で、キクガシラコウモリ以外の種は導水路内で確認されている。 ・カヤネズミは平成 10 年度の 6 地点から平成 15 年度の 3 地点と確認地点数が減少している。なお、平成 15 年度のカヤネズミの確認地点は新たな地点であった。
	外来種の状況	・これまでの調査において、ダム湖周辺では哺乳類の外来種は確認されていない。

(d)陸上昆虫類等

ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果を表 6.3.4-31 に示す。

表 6.3.4-31 ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果

検討項目		変化の状況
陸上昆虫類相の変化	種数	・確認種数については、平成6年度は1347種、平成10年度は1319種、平成15年度は1539種と、平成6年度から平成10年度にかけては概ね横ばい、以降は増加の傾向がみられている。
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する陸上昆虫類等の状況	・確認された昆虫類の多くはダム湖周辺の樹林地、草地、農耕地等における確認であった。 ・調査年度ごとで確認種、種構成に多少の変動はみられるが、大きな変化の傾向は確認されていない。
	重要種の状況	・ダム湖周辺では、これまでの調査で30種の重要種が確認されている。 ・重要種の推移についてみると、平成6年度の15種から平成10年度には11種に減少し、平成15年度には14種に再び増加している。 ・継続して確認されている重要種は、コバントビケラ、クロツツトビケラ、オオセンチコガネの3種で、ダム湖周辺において安定して生息していると考えられる。
	外来種の状況	・ダム湖周辺では、23種の外来種が確認されている。 ・外来種の確認状況をみると、種数では平成6年度の8種から平成10年度には11種、平成15年度には13種と徐々に増加している。 ・外来種率は、平成6年度の0.59%から平成10年度には0.83%に増加し、以降、平成15年度は0.84%と概ね横ばいであった。 ・継続して確認されている外来種は、カンタン、モンシロチョウ、キイロショウジョウバエの3種で、ダム湖周辺においては既に定着していると考えられる。

2)ダム湖の存在・供用による生物への影響の整理結果

(a)植物

ダムの存在・供用による植物への影響の整理結果を表 6.3.4-32 に示す。

表 6.3.4-32 ダムの存在・供用による植物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
植物相の変化	種数	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在
生育状況の変化	ダム湖周辺に分布する植生の変化	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在
	ダム湖周辺に生育する植物相の変化	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在
	重要種の状況	・生育環境の攪乱
	外来種の状況	・生育環境の攪乱

(b) 鳥類

ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果を表 6. 3. 4-33 に示す。

表 6. 3. 4-33 ダムの存在・供用による鳥類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
鳥類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する鳥類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・生息環境の攪乱
	外来種の状況	・生息環境の攪乱

(c) 両生類・爬虫類・哺乳類

a) 両生類

ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果を表 6. 3. 4-34 に示す。

表 6. 3. 4-34 ダムの存在・供用による両生類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
両生類相の変化	種類数	・止水環境の存在
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する両生類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・生息環境の攪乱
	外来種の状況	・生息環境の攪乱

b) 爬虫類

ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果を表 6. 3. 4-35 に示す。

表 6. 3. 4-35 ダムの存在・供用による爬虫類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
爬虫類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する爬虫類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・生息環境の攪乱
	外来種の状況	・生息環境の攪乱

c) 哺乳類

ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果を表 6. 3. 4-36 に示す。

表 6. 3. 4-36 ダムの存在・供用による哺乳類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
哺乳類相の変化	種数	・止水環境の存在
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する哺乳類の状況	・止水環境の存在
	重要種の状況	・生息環境の攪乱
	外来種の状況	・生息環境の攪乱



(d)陸上昆虫類等

ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果を表 6.3.4-37 に示す。

表 6.3.4-37 ダムの存在・供用による陸上昆虫類等への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
陸上昆虫類相の変化	種数	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する陸上昆虫類等の状況	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在
	重要種の状況	・生息環境の攪乱
	外来種の状況	・生息環境の攪乱

3)ダム湖の存在・供用以外の考えうる因子の整理結果

(a)植物

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による植物への整理結果を表 6.3.4-38 に示す。

表 6.3.4-38 ダムの存在・供用以外の考えうる因子による植物への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
植物相の変化	種数	・調査時の植物の生育状況の差
生育状況の変化	ダム湖周辺における植生分布の変化	・公園や住宅地の造成 ・農耕地の減少 ・植生の遷移
	ダム湖周辺における植物相の変化	・住宅地の造成 ・農耕地の減少
	重要種の状況	・植生の遷移 ・外来種の侵入
	外来種の状況	・公園や住宅地の造成 ・植生の遷移 ・外来種の侵入

4) ダム湖周辺の生物の変化に対する影響の検証結果

(a) 植物

植物の変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 4-39 に示す。

表 6. 3. 4-39 ダム湖周辺の植物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
植物相の変化	種数	・確認種数については、平成 6 年度は 617 種であったが、経年とともに増加し、平成 16 年度では 801 種となっている。	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在	・調査時の植物の生育状況の差	・調査時期の違いや、外来種の侵入等で、確認種数や種構成に違いが生じたと考えられる。	△
生育状況の変化	ダム湖周辺における植生分布の変化	・大きく変化しているものは、アカマツ群落及び公園用地の増加、スギ・ヒノキ植林及び造成地・人工裸地の減少があげられる。 ・平成 16 年度に、新たに外来種であるイタチハギ群落が確認されている。	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在	・公園や住宅地の造成 ・農耕地の減少 ・植生の遷移	・自然な植生の遷移、あるいは人為による土地改変で群落に違いが生じたと考えられる。	●
	ダム湖周辺に生育する植物の状況	・在来種、外来種とも増加傾向にある。	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在	・住宅地の造成 ・農耕地の減少	・調査時期の違いや外来種の侵入等で、確認種数や種構成に違いが生じたと考えられる。	△
	重要種の状況	・平成 6 年度では 47 種、平成 11 年度では 26 種、平成 16 年度では 50 種と増減している。 ・継続的に確認されている種は、ヤハズアジサイ、チャルメルソウ等の 11 種である。	・生育環境の攪乱	・植生の遷移 ・外来種の侵入	・調査時期の違いなどで、確認種数や種構成に違いが生じたと考えられる。 ・平成 11 年度は、秋季調査を実施していないために、重要種の確認が少なかった可能性もある。	△
	外来種の状況	・確認種数は年々増加傾向にあるが、外来種率は 8~9%程度で推移している。	・生育環境の攪乱	・公園や住宅地の造成 ・植生の遷移 ・外来種の侵入	・人為による土地改変や、調査時期の違いなどで、確認種数や種構成に違いを生じたと考えられる。	●

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんど見られないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(b)鳥類

鳥類の変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 4-40 に示す。

表 6. 3. 4-40 ダム湖周辺の鳥類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
鳥類相の変化	種数	・確認種数については、平成 5 年度は 62 種、平成 9 年度は 67 種と増加傾向にあったが、平成 14 年度では 44 種、平成 19 年度は 37 種と減少傾向にある。	・止水環境の存在	—	・種構成に大きな違いはみられていないことから、調査手法等の変更により生じた可能性があると考えられる。 ・平成 9 年度から平成 14 年度にかけての確認種数の減少は大きく、夏鳥等の繁殖地での減少、及びダム湖周辺の環境の変化等も考えられる。	△
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する鳥類の状況	・確認種の状況をみると、平成 5 年度から平成 9 年度にかけて変化はみられないが、平成 14 年度、平成 18・19 年度には減少傾向にある。	・止水環境の存在	—	・ダム湖周辺の植生に大きな変化はみられないことから、調査方法の違いにより生じた可能性があると考えられる。	△
	重要種の状況	・平成 5 年度は 21 種、平成 9 年度は 27 種、平成 14 年度は 16 種、平成 18・19 年度は 13 種と、平成 14 年度以降は減少する傾向がみられる。 ・ハチクマ、クマタカ等の猛禽類や、フクロウ、オオアカゲラ、サンコウチョウ等、豊かな森林環境に生息する種が確認されている。	・生息環境の攪乱	—	・ダム湖周辺の植生に大きな変化はみられないことから、調査方法の違いにより生じた可能性があると考えられる。	△
	外来種の状況	・平成 5 年度から平成 18・19 年度にかけて、継続的にコジュケイが確認されている。	・生息環境の攪乱	—	・コジュケイは、継続的に確認されていることから、当該地域において生息しているものと考えられる。 ・日本に移入された年代も古い種であることから、古くからダム湖周辺で定着していると考えられる。	△

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- :変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(c)両生類・爬虫類・哺乳類

a)両生類

両生類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.4-41 に示す。

表 6.3.4-41 ダム湖周辺の両生類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
両生類相の変化	種数	・確認種数は平成5年度が11種、平成10年度が10種、平成15年度が10種であった。	・止水環境の存在	—	・確認種数、種構成に大きな違いはなく、大きな変化の傾向は確認されなかった。 ×
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する両生類の状況	・確認種については、ほとんどの種が継続的に確認されているが、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の水田や池沼等の止水環境を繁殖場所として利用する種の確認地点数が近年減少する傾向にある。 ・一方、流水性のタゴガエルの確認地点数は増加傾向、カジカガエルは概ね横ばいとなっている。	・止水環境の存在	—	・止水環境を繁殖場所とする左記の種は、ダム湖等の規模の大きな止水環境は繁殖場所としてほとんど利用しないことから、ダム湖の周辺における止水域の減少等により、減少している可能性がある。 ・流水性の種については、概ね良好な状態にあると考えられる。 △
	重要種の状況	・ダム湖周辺では、イモリ、ニホンヒキガエルが経年的に確認されている。	・生息環境の攪乱	—	・確認地点数は少ないものの、継続的に確認されている。 ・ただし、イモリは近年減少する傾向にある。 △
	外来種の状況	・ダム湖周辺では、ウシガエルが継続的に確認されている。 ・ダム湖周辺で確認されている両生類のうち、ダム湖内にみられるような止水域を主な繁殖、生息環境として利用する種は外来種であるウシガエルに限られると考えられる。	・生息環境の攪乱	—	・確認地点数は平成5年度以後の調査では半分以下となっているものの、継続的に確認されていることから、ダム湖周辺は良好な生息地となっているものと考えられる。 ●

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

b)爬虫類

爬虫類の変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 4-42 に示す。

表 6. 3. 4-42 ダム湖周辺の爬虫類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
爬虫類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成5年度が12種、平成10年度が10種、平成15年度が10種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査年度ごとに確認種数、種構成に多少の変動はみられたが、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する爬虫類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種については、ほとんどが継続的に確認されている。</li> <li>確認地点数については、クサガメ、ミシシippアカミミガメといったカメ類は増加、トカゲ、ヤマカガシは減少する傾向がみられている。</li> <li>また、平成15年度では、ヒバカリ及びマムシが確認されており、断続的な確認となっているのはイシガメ、シロマダラである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、及び種構成に多少の変動はみられるものの、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> <li>増加がみられているカメ類は、止水域や緩やかな流水域を好む種であることから、ダム湖内を含むダム湖周辺を生息場所として利用しているものと考えられる。</li> <li>トカゲ、ヤマカガシの減少についての要因は不明である。</li> </ul>	△
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、イシガメ、ジムグリ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシが確認されている。</li> <li>継続的に確認された種はジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシである。</li> <li>ヒバカリとマムシは平成15年度には確認されていない。また、イシガメ、シロマダラは平成10年度には確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、及び種構成に多少の変動はみられるものの、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> <li>確認されなかった種は、生息数が少ないなどの要因が考えられる。</li> </ul>	×
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺では、ミシシippアカミミガメが経年的に確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> <li>生息環境の攪乱</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシシippアカミミガメの増加傾向は、ダム湖内を含むダム湖周辺に、主な生息環境となる水域が安定的に存在することなどに起因している可能性がある。</li> </ul>	●

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

c) 哺乳類

哺乳類の変化に対する影響の検証結果を表 6.3.4-43 に示す。

表 6.3.4-43 ダム湖周辺の哺乳類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
哺乳類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成5年度が11種、平成10年度が17種、平成15年度が18種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、種構成は平成10年度以降、コウモリ類の確認がされているため、平成5年度に比べ、増加しているが、それ以外の大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×
生息状況の変化	況 ダム湖周辺に生息する哺乳類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な確認種はヒミズ、モグラ属、ノウサギ、ムササビ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドリカ等でこれらは平成5年度以降、継続的に確認されている。</li> <li>平成10年度に新たに確認された種は、コウモリ類3種、ニホンザル、ニホンリス、カヤネズミ、平成15年度では、テングコウモリ、ヒメネズミ、アナグマであった。</li> <li>平成15年度では平成10年度に確認された、キクガシラコウモリとニホンザルが確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、種構成は平成10年度以降、コウモリ類の確認がされているため、平成5年度に比べ、増加しているが、それ以外の大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×
	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺において、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、カヤネズミが確認されている。</li> <li>コウモリ類は、深谷川の導水路内及びその周辺での確認で、キクガシラコウモリ以外の種は導水路内で確認されている。</li> <li>カヤネズミは平成10年度の6地点から平成15年度の3地点と確認地点数が減少している。なお、平成15年度のカヤネズミの確認地点は新たな地点であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生息環境の攪乱</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>深谷川にみられる導水路では、確認個体数に変動はあるが、通年を通して様々なコウモリ類が確認されていることから、良好な休息場所となっていると考えられる。</li> <li>カヤネズミの確認地点は減少傾向にあるが、平成15年度に確認された場所は新たな地点である。本種は、比較的限定的な環境を利用することから、ダム湖周辺良好な環境が残存、形成されているものと考えられる。</li> </ul>	×
	況 外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査において、ダム湖周辺では外来種は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生息環境の攪乱</li> </ul>	—	—	×

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんど見られないもの

(d)陸上昆虫類等

陸上昆虫類等の変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 4-44 に示す。

表 6. 3. 4-44 ダム湖周辺の陸上昆虫類等の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果
陸上昆虫類相の変化	種数	・確認種数については、平成 6 年度は 1347 種、平成 10 年度は 1319 種、平成 15 年度は 1539 種と、平成 6 年度から平成 10 年度にかけては概ね横ばい、以降は増加の傾向がみられている。	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在	—	・調査年度ごとで確認種数、種構成に多少変動はみられたが、大きな変化の傾向は確認されなかった。 ×
生息状況の変化	ダム湖周辺に生息する陸上昆虫類等の状況	・確認された昆虫類の多くはダム湖周辺の樹林地、草地、農耕地等における確認であった。 ・調査年度ごとで確認種、種構成に多少の変動はみられるが、大きな変化の傾向は確認されていない。	・止水環境の存在 ・水位変動域の存在	—	・調査年度ごとで確認種数、種構成に多少変動はみられたが、大きな変化の傾向は確認されなかった。 ×
	重要種の状況	・ダム湖周辺では、これまでの調査で 30 種の重要種が確認されている。 ・重要種の推移についてみると、平成 6 年度の 15 種から平成 10 年度には 11 種に減少し、平成 15 年度には 14 種に再び増加している。 ・継続して確認されている重要種は、コバントビケラ、クロツツトビケラ、オオセンチコガネの 3 種で、ダム湖周辺において安定して生息していると考えられる。	・生息環境の攪乱	—	・継続して確認されている種は 3 種と少ないが、他の種については、生息個体数が少ないなどの理由により確認されていないと考えられ、大きな変化は生じていないと考えられる。 ×
	外来種の状況	・ダム湖周辺では、23 種の外来種が確認されている。 ・外来種の確認状況をみると、種数では平成 6 年度の 8 種から平成 10 年度には 11 種、平成 15 年度には 13 種と徐々に増加している。 ・外来種率は、平成 6 年度の 0.59% から平成 10 年度には 0.83% に増加し、以降、平成 15 年度は 0.84% と概ね横ばいであった。 ・継続して確認されている外来種は、カンタン、モンシロチョウ、キロショウジョウバエの 3 種で、ダム湖周辺においては既に定着していると考えられる。	・生息環境の攪乱	—	・平成 6 年度に 8 種だったのが、平成 10 年度は 11 種、平成 15 年度には 13 種と徐々に増加しており、今後も外来種が増加する可能性が考えられる。 △

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

### 6.3.5. 連続性の視点からみた生物の生息状況の変化の検証

ダムの存在は、ダム周辺において連続性の分断を生じさせ、ダム周辺を利用する様々な生物の生息状況の変化を引き起こすと想定されている。

そのため、ここでは室生ダム周辺において引き起こされる生物の生息状況の変化を図6.3.5-1のように想定し、室生ダムの存在により連続性の観点からダム周辺の生物の生息状況が変化しているかどうかの手順を行った。

#### ■生物の生息状況の変化の把握

- ・回遊性魚類の生息状況
- ・両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況

#### ■ダムによる影響の検証

室生ダムの生物の生息状況の変化について、連続性の観点から検討し、ダムによる影響を検証した。

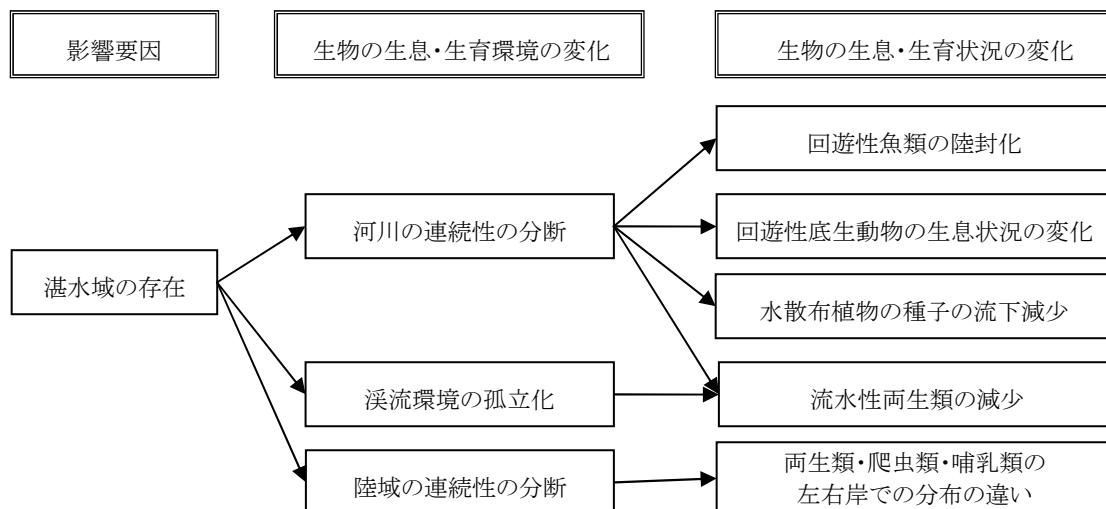


図 6.3.5-1 連続性の視点から想定される環境への影響要因と生物に与える影響



(1) 生物の生息・生育状況の変化の把握

1) 流入河川及びダム湖間における回遊性魚類の確認状況

ダム湖内及び流入河川で共通して確認されている回遊性魚類の確認状況について整理した。整理した結果は表 6.3.5-2、またその推移は図 6.3.5-2～図 6.3.5-3 に示すとおりである。

調査実施年度により、両環境区分で確認された魚類は、アマゴ、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの 5 種である。このうち、アマゴの確認個体数は、非常に少なく平成 13 年度にダム湖内で 2 個体、平成 19 年度に深谷川で 1 個体のみの確認となっている。また、調査実施年度によって調査対象としている流入河川が異なることから、一概には言えないが、ヌマチチブを除き、ダム湖内と流入河川で確認されている種の個体数の比率は概ね同様な状況となっていることから、ダム湖内から流入河川間の移動状況は概ね良好な状況にあると考えられる。

ただし、この移動状況は、各流入河川で異なっており、天満川については概ね良好な状況にあると考えられるが、主な流入河川である宇陀川については平成 19 年度の調査結果をみる限り低い状況にある。なお、宇陀川には平成 12 年度に、魚道付きの水質保全ダムが新たに設置されており、平成 17 年度に実施された水質保全ダムの魚道遡上調査によると、アユをはじめ、オイカワ類、スゴモロコ類、ギギ、ナマズ等の魚類の遡上を確認されている。

なお、平成 20 年 2 月には、ダム湖内の 3 地点(ダムサイト付近、天満川流入地点付近、宇陀川流入地点付近(水質保全ダム直上を含む))において、アユの再生産を検証するための仔魚確認調査が実施されており、ダムサイト付近で 1 個体、天満川流入地点付近で 58 個体(目視を含めると 158 個体以上)のアユの仔魚が確認され、室生ダムでアユの再生産が行われていることが明らかとなっている。ただし、宇陀川流入地点及び水質保全ダム直上では仔アユは確認されていない。

このほか、深谷川は他の 2 河川とは異なり、溪流河川となる。そのため、溪流性種であるアマゴといった限られた種の移動に限られている可能性もあると考えられる。

表 6.3.5-1 調査内容一覧:魚介類

調査地区										調査内容							
区分	H4		H5		H8		H13		H19		H4	H5	H8	H13	H19		
調査番号	1		2		5		11		19		1	2	5	11	19		
下流河川					No.1	下流河川(宇陀川)	St.1	下流河川	淀室下1	ダムサイト直下	-	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水80分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網150分、セルびん4個、はえなわ4本、潜水観察0.5h	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、どう2個、カゴ網2個、潜水観察2h		
ダム湖	St.2	湖心	St.3	湖底の平らな部分	No.2	湖内湾入部	St.2	湖枝	淀室湖2	湖岸部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(18mm)中層90m、タモ網60分、セルビン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、セルびん10個、はえなわ4本、カニカゴ4個、どう4個	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層1枚・中層2枚、セルびん2個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網4h、定置網2統、セルびん4個、カゴ網2個		
									淀室湖3	宇陀川流入部	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
								St.9	河川流入部	淀室湖6	深谷川流入部	-	-	刺網(15mm)表層1枚・中層2枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚、投網(12mm)10回・(18mm)20回、タモ網140分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
	St.3	天満川流入部	St.2(1)	天満川流入部	No.3	河川流入点(天満川)	St.3	河川流入部	淀室湖7	天満川流入部	刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルビン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)20回・(18mm)15回、タモ網120分、セルびん15個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚・中層2枚、投網(12mm)20回・(18mm)10回、タモ網110分、セルびん4個、はえなわ4本	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個		
	St.4	宇陀川流入部	St.1(1)	宇陀川流入部	No.5	河川流入点(宇陀川)	St.5	ダム湖内			刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、投網(12mm)3回、タモ網、モンドリ、カニカゴ	刺網(15mm)表層90m・刺網(50mm)底層90m、タモ網60分、セルビン9個、はえなわ12本、カニカゴ2個	刺網(10mm)表層180m・刺網(50.2mm)表中層180m、投網(12mm)17回・(18mm)18回、タモ網120分、セルびん16個、はえなわ4本、カニカゴ8個、どう4個	刺網(15mm)表層1枚・中層3枚、刺網(50mm)表層2枚、タモ網20分	-		
			St.1(2)														
		St.1-1	ダムサイト									刺網(100mm・200mm、網長25m)2枚、タモ網、モンドリ、カニカゴ	-	-	-	-	
		St.1-2	ダムサイト(船着場)									モンドリ、目視	-	-	-	-	
								St.7	最深部			-	-	刺網(15mm)表層2枚・中層1枚、刺網(50mm)表層2枚・中層1枚	-		
								St.8	河川流入部			-	-	刺網(15mm)表層1枚、底層1枚、刺網(50mm)表層2枚、投網(12mm)15回・(18mm)25回、タモ網90分、セルびん4個、はえなわ1本	-		
流入河川							St.10	流入河川	淀室入1	流入河川深谷川	-	-	-	投網(18mm)21回、タモ網75分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h		
	St.6	流入河川	St.2(2)	天満川流入部	No.4	流入河川(天満川)	St.4	流入河川	淀室入2	流入河川天満川	投網(12mm)3回	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網60分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水70分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)20回・(18mm)2回、タモ網105分、セルびん4個、はえなわ2本	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h		
	St.5	宇陀川(高倉橋付近)			No.6	流入河川(宇陀川)	St.6	流入河川	淀室入3	流入河川宇陀川	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網	-	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網120分、潜水60分、セルびん6個、カニカゴ4個	投網(12mm)25回・(18mm)26回、タモ網120分、セルびん4個、はえなわ2本、潜水観察20分	投網(12mm)20回・(18mm)20回、タモ網4h、定置網2統、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個、潜水観察2h		
その他								淀室他1	水質保全ダム湛水域	-	-	-	-	投網(12mm)10回・(18mm)10回、タモ網2h、刺網表層30m・中層30m、はえなわ2本、セルびん4個、カゴ網2個			
時期	-		-		-		-		初夏季		-		-		H19.6.5~9		
	夏季		-		夏季		夏季		夏季		H4.8.12~14		-		H19.8.27~29		
	秋季		秋季		秋季		秋季		-		H4.10.12~14		H5.9.20~22		H8.7.23~24、29~30 H8.10.16~18		
														H13.7.31、8.1~6 H13.10.23~31			

表 6.3.5-2 経年確認種一覧:回遊性魚類

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	区分	調査年度					
						H4	H5	H8	H13	H19	
1	硬骨魚	サケ	サケ	アマゴ	ダム湖内				2		
					流入 河川	宇陀川					
						天満川					
		深谷川					1				
2			アユ	アユ	ダム湖内		10	4	55	10	
					流入 河川	宇陀川	7				11
						天満川		3	1	9	6
		深谷川									
3		スズキ	ハゼ	ウキゴリ	ダム湖内		1	4	30	133	
					流入 河川	宇陀川	2				14
						天満川		2	14	36	90
		深谷川									
4			ハゼ	トウヨシノ ボリ	ダム湖内		68	189	66	16	
					流入 河川	宇陀川					3
						天満川		29	66	48	21
		深谷川									
5			ハゼ	ヌマチチブ	ダム湖内				45	46	
					流入 河川	宇陀川					
						天満川					9
		深谷川									
1綱2目3科5種						2種	3種	3種	5種	5種	
						ダム湖	0個体	79個体	197個体	198個体	205個体
						流入河川	9個体	34個体	81個体	93個体	155個体
						合計	9個体	113個体	278個体	291個体	360個体

注)1. 表中の数は、確認個体数を示す。

2. 平成20年2月に実施されている仔アユ調査の結果は含んでいない。

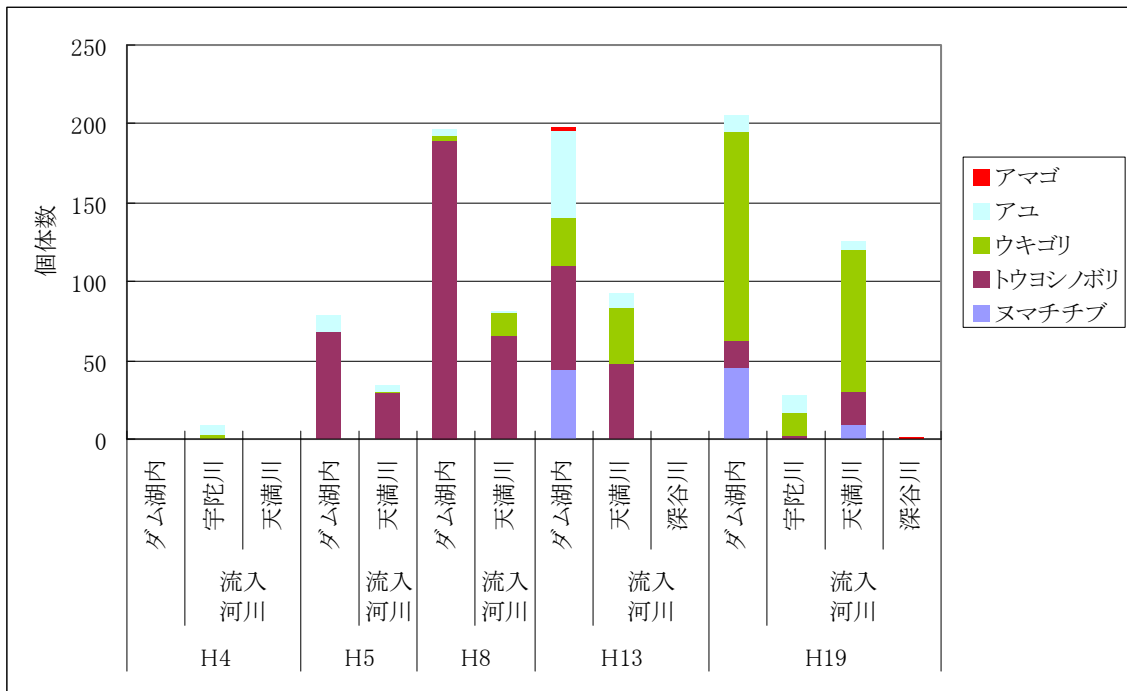


図 6. 3. 5-2 種別確認個体数の推移: 回遊性魚類 (流入河川及びダム湖)

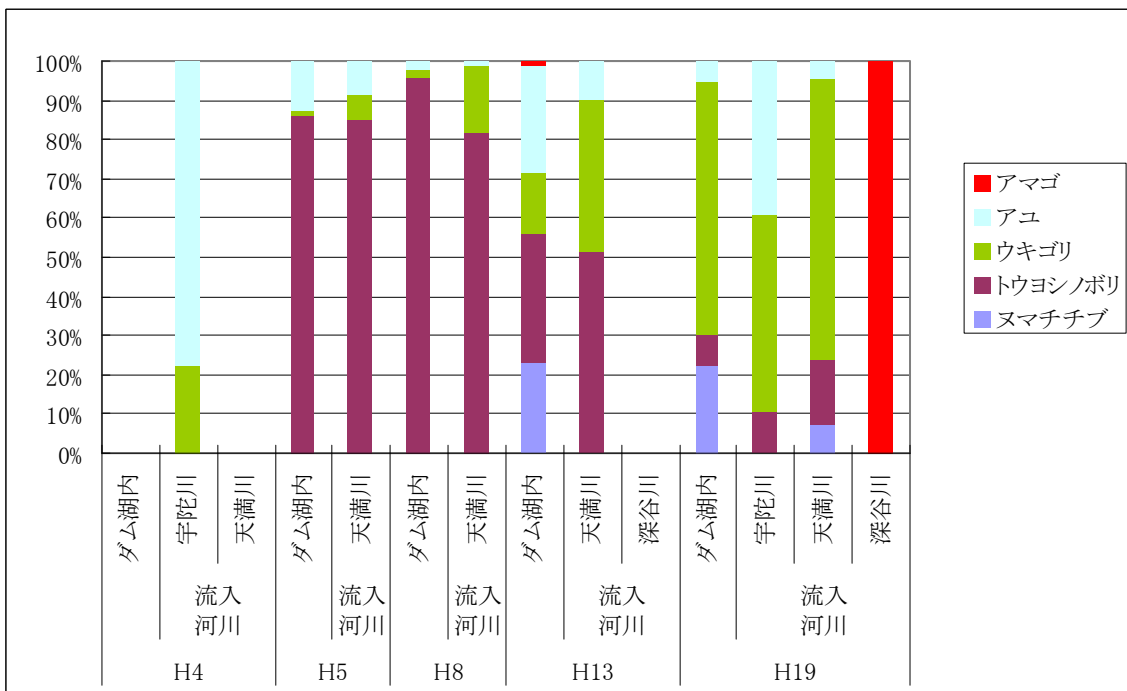


図 6. 3. 5-3 種別確認割合の推移: 回遊性魚類 (流入河川及びダム湖)

2) 流入河川・下流河川での魚類確認状況

調査年別に流入河川と下流河川の確認個体数を整理し図 6.3.5-4 に示す。

下流河川の確認個体数が流入河川に比べて少ない状況である。

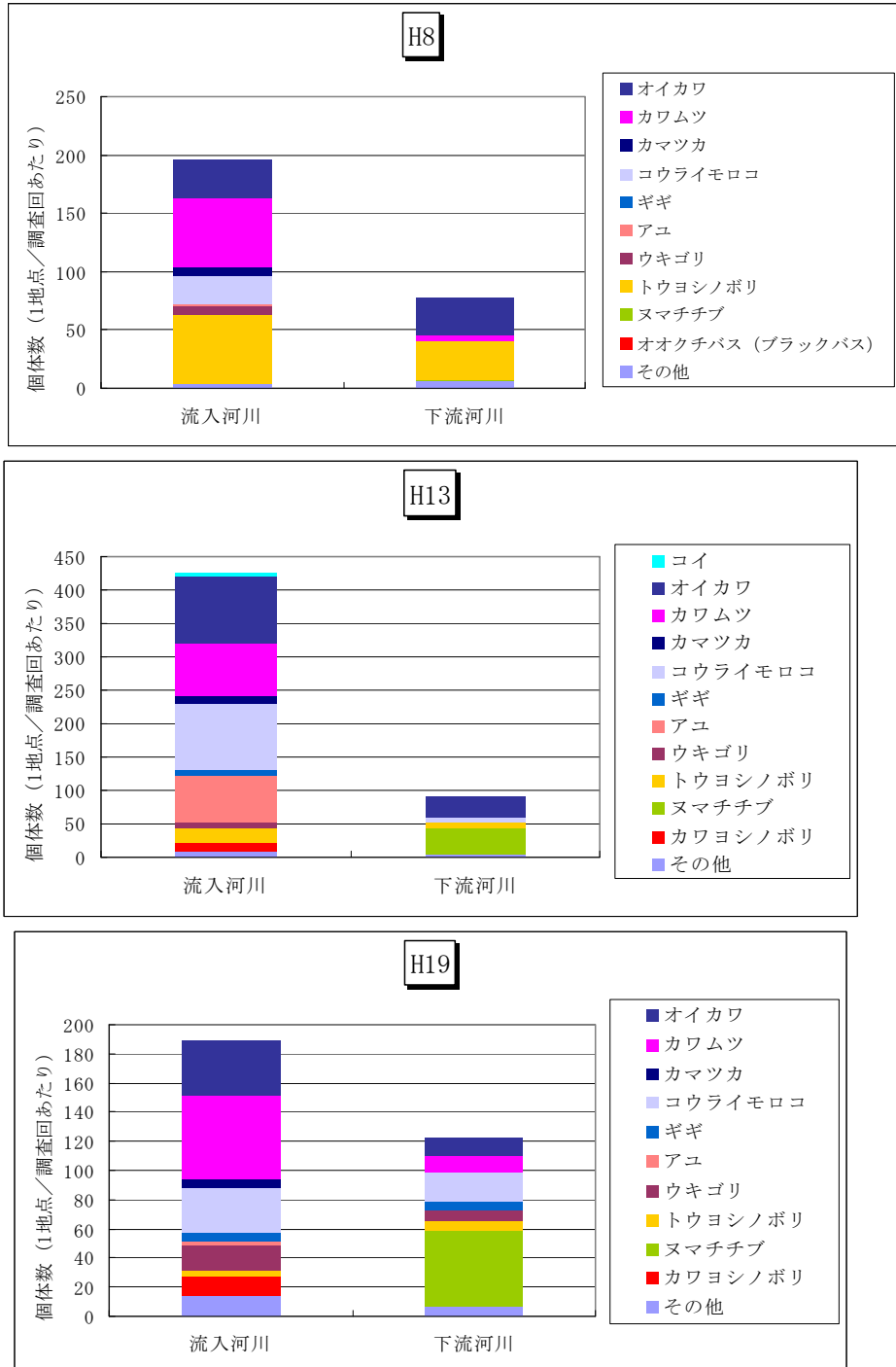


図 6.3.5-4 流入河川・下流河川の確認状況(魚類)

### 3) 両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況の変化

#### (a) 渓流性両生類の確認状況

これまでの調査において、ダム湖周辺で確認されている流水性両生類は表 6.3.5-3、表 6.3.5-4 に示すとおりである。

室生ダム周辺における流水性両生類については、オオサンショウウオ、タゴガエル、カジカガエルの3種が確認されている。これらの種の確認状況は以下に示すとおりである。

##### a) オオサンショウウオ

平成19年度魚類調査時において、流入河川である深谷川で体長60cm程度の個体が2回確認されているほか、聞き取り調査により、下流河川及び流入河川である内牧川に生息するとの情報が得られている。なお、繁殖に係る情報については、河川水辺の国勢調査結果からは得ることができていない。

また、本種が確認(聞き取り調査による結果を含む)されている深谷川及び下流河川については、餌となる魚類は経年的に増加する傾向にある。

##### b) タゴガエル

ダム湖周辺において幼体及び成体を確認されており、平成10年度から平成15年度にかけては、個体数が増加する傾向がみられている。なお、各調査年度ともに、ダム湖右岸側に流入する深谷川や小規模な沢筋等を中心に生息が確認されている。

このような分布状況から勘案すると、タゴガエルについてはダムの存在による生息環境の分断はほとんどないと考えられるが、下流河川における調査は平成15年度のみであることから、本種が生息している可能性はあると考えられる。

##### c) カジカガエル

ダム湖周辺において、各調査回ともに鳴き声等により確認されている。確認されている場所は、ダム湖右岸側に流入する深谷川や宇陀川に偏る傾向がみられている。

このような分布状況から勘案すると、タゴガエルと同様に、カジカガエルについても、ダムの存在による生息環境の分断はほとんどないと考えられるが、下流河川における調査は平成15年度のみであることから、本種が生息している可能性はあると考えられる。

表 6.3.5-3 調査内容一覧:両生類・爬虫類・哺乳類

調査年度		H5	H10	H15			
調査番号		2	7	14			
調査地点	区分	下流河川	-	-	5-1 河畔(流出河畔)		
		流入河川	-	-	5-2 河畔(流入河畔), その他(深谷川))		
		ダム湖周辺	フィールドサイン・目撃法, トラップ法: 地点1~地点3	フィールドサイン・目撃法, カメカゴ(No1~No.4) トラップ法(No1~No4) 自動撮影法(No1~No2)	1 スギ-ヒノキ群落, 2 コナラ群落, 3 アカマツ群落, 4-1 林縁部, 4-2 林縁部, 6 沢筋, 7-2 その他(荷阪川)		
両生類 爬虫類 哺乳類	フィールド サイン法 目撃法	調査数量	ルート延長:22.0km	ルート延長:26.0km	ルート延長:18.5km		
		調査時期	春季	H5.5.28~29	H10.5.14~16	H15.5.19~22	
			夏季	H5.8.24~26	H10.8.6~8	H15.8.4~6	
			秋季	H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16	
			冬季	H6.1.25~26 (哺乳類調査のみ)	H11.1.21~22 (哺乳類調査のみ)	H16.1.20~22 (哺乳類調査のみ)	
両生類 爬虫類	墜落缶	調査数量	-	-	1 地点(20 個)		
		調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22	
			夏季	-	-	-	
			秋季	-	-	H15.10.14~16	
			冬季	-	-	-	
	カメカゴ (カメトラップ)	調査数量	-	3 地点(1 地点 1 個)	4 地点(1 地点 1 個)		
		調査時期	春季	-	H10.5.14~15	H15.5.19~22	
			夏季	-	H10.8.6~7	-	
			秋季	-	-	H15.10.14~16	
			冬季	-	-	-	
哺乳類	トランプ 法調査	トラップ マウス	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 20 個)	3 地点(1 地点 30 個)	8 地点(1 地点 30 個)	
			調査時期	春季	H5.5.28~30	H10.5.14~16	H15.5.19~22
				夏季	H5.8.24~26	-	-
				秋季	H5.9.28~30	H10.10.12~14	H15.10.14~16
				冬季	H6.1.25~27	-	-
		トラップ モグラ	調査数量	-	1 地点(5 対)	1 地点(春 1 個、秋 9 個)	
			調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22
				夏季	-	-	-
				秋季	-	H10.10.13~14	H15.10.14~16
				冬季	-	-	-
	カゴ 罠	調査数量	春 2 地点、 夏・秋・冬 3 地点 (1 地点 1 個)	-	3 地点 1 地点(春 10 個、秋 5 個)		
		調査時期	春季	H5.5.28~30	-	H15.5.19~22	
			夏季	H5.8.24~26	-	-	
			秋季	H5.9.28~30	-	H15.10.14~16	
			冬季	H6.1.25~27	-	-	
		自動 撮影 法 調査	調査数量	-	2 地点	3 地点	
			調査時期	春季	-	-	H15.5.19~22
夏季	-			-	-		
秋季	-	H10.10.13~14		H15.10.14~16			
その他		調査数量	-	モリアオガエル補足調査 (H10.6.11) オオサンショウウオ夜間 調査 (H10.8.6~7、10.12、 H11.1.21)	-		
		調査時期	-	-	-		

表 6.3.5-4(1) 経年確認種一覧:流水性両生類(流入河川)

種名(和名)	確認内容															合計	
	目撃	鳴声				死体			卵塊		幼生		幼体		成体		その他
	H5	H5	H10	H15	H5	H10	H15	H5	H10	H10	H15	H10	H15	H10	H15		
オオサンショウウオ																2※	2
タゴガエル																	0
カジカガエル																	0

注)1. 表中の数字は、確認地点数を示す。

2. ※:「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」の6月、8月調査時において各1個体が確認されている。

表 6.3.5-4(2) 経年確認種一覧:流水性両生類(下流河川)

種名(和名)	確認内容															合計		
	目撃	鳴声				死体			卵塊		幼生		幼体		成体		その他	
	H5	H5	H10	H15	H5	H10	H15	H5	H10	H10	H15	H10	H15	H10	H15			
オオサンショウウオ																	●	1
タゴガエル																		0
カジカガエル				1														1

注)1. ●は聞き取り調査による確認を示す。

表 6.3.5-4(3) 経年確認種一覧:流水性両生類(ダム湖周辺)

種名(和名)	確認内容															合計	
	目撃	鳴声				死体			卵塊		幼生		幼体		成体		その他
	H5	H5	H10	H15	H5	H10	H15	H5	H10	H10	H15	H10	H15	H10	H15		
オオサンショウウオ																2	2
タゴガエル	11	3		3									6	14	6	7	50
カジカガエル	2	3	1	4													10

注)1. 表中の数字は、確認地点数を示す。



(b) 両生類の成長段階別の確認状況

両生類は水域を繁殖場所、あるいは幼生期の生息場所として利用する。そのため、成長のステージ段階に着目した整理を行った。成長段階別の確認状況は表 6.3.5-5、また卵塊・幼生・幼体・成体別の確認状況の推移は図 6.3.5-5～図 6.3.5-6 に示すとおりである。

平成 15 年度では、全ての種において卵塊の確認はされず、幼生が確認された種はアマガエルのみであった。また、幼体が確認された種はニホンヒキガエル、アマガエル、タゴガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエルの 6 種であった。なお、カジカガエルは過年度調査を含め、ほとんどが鳴声による確認であり、卵塊、幼生、幼体の確認はされていない。このほかの種としてはヤマアカガエルが平成 5 年度、平成 10 年度と継続して確認されていたが、平成 15 年度では確認されていない。

確認状況の推移をみると、タゴガエルやカジカガエルといった流水性種については、卵塊や幼生の確認はないものの、継続的に成体(鳴き声を含む)が確認されており、概ね良好な状態で推移している。しかし、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の水田や池沼等を繁殖場所として利用する種については、平成 10 年度から平成 15 年度にかけて減少する傾向がみられている。これらの種は、ダム湖のような大規模止水環境を産卵環境として利用することはほとんどないことを勘案すると、周辺環境における土地の改変等の影響によって、産卵環境が減少している可能性があると考えられる。なお、ダム湖を産卵場所として利用する可能性のある種としてウシガエルがあげられるが、本種についても減少する傾向がみられている。

表 6.3.5-5 ダム湖周辺における成長段階別の確認状況

種名(和名)	目撃・捕獲												鳴声		
	卵塊			幼生		幼体		成体							
	H5	H10	H15	H10	H15	H10	H15	H10	H15	H5	H10	H15	H5	H10	H15
イモリ				1				8	1	4	9	1			
ニホンヒキガエル				1		1	2			1	2	2			
アマガエル				2	1	4	1		2	5	6	4	14	11	4
タゴガエル						6	14	6	7	11	12	21	3		3
ヤマアカガエル						1				1	1				
トノサマガエル		2		1		12	2	10	3	23	23	5			
ヌマガエル							1			3		1			
ウシガエル				1		1		2	1	7	4	1	6	1	4
ツチガエル						1				1	1				1
シュレーゲルアオガエル	1	1		4		1	1	2		6	7	1	8	6	4
カジカガエル										2			3	1	4
11 種	1 種	2 種	0 種	6 種	1 種	8 種	6 種	5 種	5 種	11 種	9 種	8 種	5 種	4 種	6 種

注)1. 表中の数は、確認地点数を示す。

2. 平成 5 年度調査では、幼生・幼体・成体の区別はなく、目撃・捕獲として記載されている。

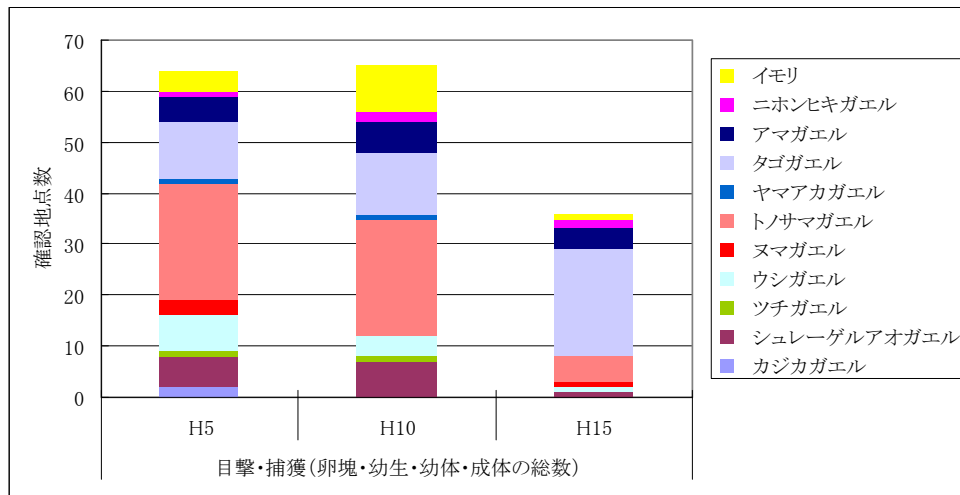


図 6.3.5-5 種別確認地点数の推移: 両生類

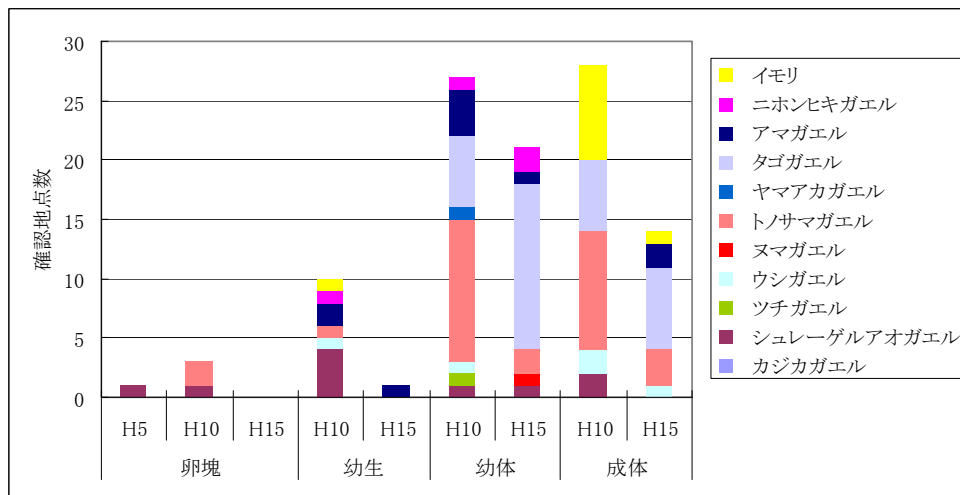


図 6.3.5-6 ダム湖周辺における成長段階別の確認状況の推移

(c) 哺乳類の確認状況

ダム湖の存在により、陸域における移動能力の高い哺乳類の分布等に影響が及んでいる可能性があることから、ダム湖の左右岸における哺乳類の確認状況について整理した。整理の結果は表 6.3.5-6 に示すとおりである。

整理の結果、移動能力の高いニホンザル、キツネ、イノシシ、ニホンジカ等については、確認年度に若干の違いはあるものの、概ね両岸で確認されている。また、移動能力の低いヒミズ、ノウサギ、ニホンリス、カヤネズミ等についても、確認年度に若干の違いはあるが、概ね継続的に確認されており、左右岸での確認状況に明確な差異は認められなかった。

ただし、左右岸に偏りがみられている種としては、右岸で確認されているコウモリ類、ヒメネズミといった種があげられるが、コウモリ類については、右岸側より流入する深谷川の導水路内をねぐらとしていることに起因している。また、ヒメネズミは平成 15 年度調査時にトラップによって初めて捕獲されたものであり、当該地域における生息数は少ないものと考えられる。

表 6.3.5-6 ダム湖左右岸における哺乳類の確認状況一覧：哺乳類

	種名(種名)	左岸				右岸			
		H5	H10	H15	確認種 合計	H5	H10	H15	確認種 合計
1	ヒミズ	●	●	●	●		●	●	●
2	モグラ属の一種	●	●	●	●	●	●	●	●
3	キクガシラコウモリ						●		●
4	モモジロコウモリ						●	●	●
5	ユビナガコウモリ						●	●	●
6	テングコウモリ							●	●
-	ヒナコウモリ科の一種						●		●
7	ニホンザル		●		●		●		●
8	ノウサギ	●	●	●	●	●	●	●	●
9	ニホンリス		●	●	●		●	●	●
10	ムササビ	●			●		●	●	●
11	アカネズミ	●		●	●	●	●		●
12	ヒメネズミ							●	●
13	カヤネズミ		●	●	●		●	●	●
-	ネズミ科の一種							●	●
14	タヌキ	●	●	●	●	●	●	●	●
15	キツネ		●		●	●	●	●	●
16	テン	●	●	●	●	●	●	●	●
17	イタチ属の一種	●	●	●	●	●	●	●	●
18	イノシシ	●	●		●	●	●	●	●
19	ホンドリカ	●	●	●	●	●	●	●	●
	19 種	10 種	12 種	10 種	19 種	14 種	17 種	16 種	19 種

注)1. 平成 15 年度に確認されているアナグマについては、「その他」の区分で確認されていたが、確認位置についての状況が不明であるため、整理対照からは除外した。

4) 流入河川・下流河川での確認状況

調査年別に流入河川と下流河川の確認個体数を整理し、図 6.3.5-7 に示す。

両生類、哺乳類は、流入河川、下流河川の種数個体数ともに下流河川が多くなっている。

爬虫類は、下流河川では確認されなかった。

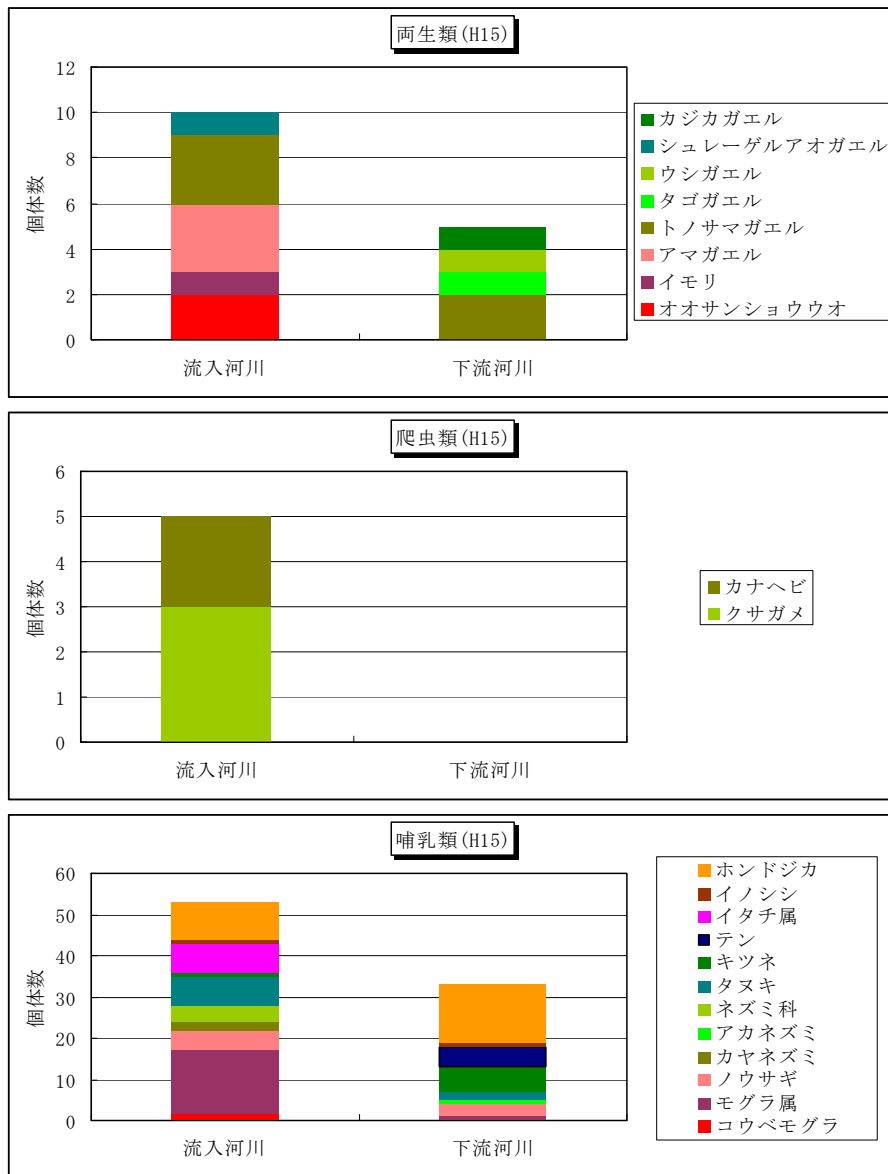


図 6.3.5-7 流入河川・下流河川の確認状況(両生類・爬虫類・哺乳類)

(2) ダムによる影響の検証

1) 連続性の視点からみた生物の生息・生育状況の変化の整理結果

(a) 回遊性魚類の生息状況の整理結果

回遊性魚類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.5-7 に示す。

表 6.3.5-7 連続性の視点からみた回遊性魚類の生息状況の変化の整理結果

検討項目		生物の変化の状況
生息状況 の変化	ダム湖及び流入 河川における回 遊性魚類の確認 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施年度によって、調査対象としている流入河川が異なることから一概には言えないが、ダム湖内及び流入河川で確認されている種は共通しており、確認個体数の割合も概ね同様な状況であることから、移動状況は良好であると考えられる。</li> <li>ただし、主な流入河川となる宇陀川については、回遊性魚類の確認個体数が少ない状況にあり、平成 12 年度に設置された水質保全ダムの影響が懸念される。</li> <li>アユが再生産していることが明らかとなったが、仔アユの確認は、天満川流入地点付近に集中しており、宇陀川流入地点付近及び水質保全ダムの直上では確認されていない。</li> </ul>

(b) 両生類・爬虫類・哺乳類

両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況の変化の整理結果を表 6.3.5-8 に示す。

表 6.3.5-8 連続性の視点からみた両生類・爬虫類・哺乳類の  
生息状況の変化の整理結果

検討項目		生物の変化の状況
生息状況 の変化	流水性両生類の 確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>流水性両生類としては、オオサンショウウオ、タゴガエル、カジカガエルの 3 種が確認されている。</li> <li>オオサンショウウオは平成 19 年度に実施した魚類調査時に、流入河川である深谷川で確認されているほか、聞き取り調査により流入河川である内牧川及び下流河川で生息の記録がある。</li> <li>タゴガエルは、ダム湖周辺で継続的に確認されており、近年では確認地点数も増加する傾向にある。流入河川である深谷川や小規模な沢筋等、右岸側で多く確認されている。</li> <li>カジカガエルは、ダム湖周辺で継続的に確認されている。確認地点数は、各調査年度ともに多くはないが、流入河川である深谷川や宇陀川で多く確認されている。</li> </ul>
	両生類の卵及び 幼生の確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査では全ての種において卵塊の確認はされず、幼生が確認された種はアマガエルのみであった。</li> <li>全体的な傾向としては、タゴガエルやカジカガエルといった流水性種は、概ね良好な状態で推移している。</li> <li>しかし、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の止水性種については、平成 10 年度から平成 15 年度にかけて、減少する傾向がみられている。</li> </ul>
	ダム湖左右岸に おける哺乳類の 確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動能力の高い大～中型哺乳類、移動能力の低い小型哺乳類ともに、概ね両岸で経年的に確認されている。</li> <li>左右岸で偏りがみられたのは、コウモリ類等があげられるがコウモリ類は深谷川の導水路内をねぐらとしていることに起因している。</li> </ul>

2) ダムの存在・供用による影響の整理結果

(a) 回遊性魚類

ダムの存在・供用による回遊性魚類への影響の整理結果を表 6.3.5-9 に示す。

表 6.3.5-9 ダムの存在・共用による回遊性魚類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
生息状況 の変化	ダム湖及び流入河川における 回遊性魚類の確認状況	河川の連続性の分断

(b) 両生類・爬虫類・哺乳類

ダムの存在・供用による両生類・爬虫類・哺乳類への影響の整理結果を表 6.3.5-10 に示す。

表 6.3.5-10 ダムの存在・共用による両生類・爬虫類・哺乳類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在・供用に伴う影響
生息状況 の変化	流水性両生類の確認状況	水域の連続性の分断 溪流環境の孤立化
	両生類の卵及び幼生の確認状況	溪流環境の孤立化
	ダム湖左右岸における哺乳類 の確認状況	陸域の連続性の分断

3) ダム湖の存在・供用以外の考えうる因子の整理

(a) 両生類・爬虫類・哺乳類

ダムの存在・供用以外の考えうる因子による両生類・爬虫類・哺乳類への整理結果を表 6.3.5-11 に示す。

表 6.3.5-11 ダムの存在以外による両生類・爬虫類・哺乳類への影響の整理結果

検討項目		ダムの存在以外の影響
生息状況 の変化	両生類の卵及び幼生の確認状況	住宅地の造成 農耕地の減少

4)連続性の観点からみた生物の変化に対する影響の検証結果

(a)回遊性魚類

回遊性魚類の生息状況の変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 5-12 に示す。

表 6. 3. 5-12 連続性の観点からみた回遊性魚類の変化に対する影響の検証結果

検討項目		変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
回遊性魚類の変化	ダム湖及び流入河川における回遊性魚類の確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施年度によって、調査対象としている流入河川が異なることから一概には言えないが、ダム湖内及び流入河川で確認されている種は共通しており、確認個体数の割合も概ね同様な状況であることから、移動状況は良好であると考えられる。</li> <li>ただし、主な流入河川となる宇陀川については、回遊性魚類の確認個体数が少ない状況にあり、平成12年度に設置された水質保全ダムの影響が懸念される。</li> <li>アユが再生産していることが明らかとなったが、仔アユの確認は、天満川流入地点付近に集中しており、宇陀川流入地点付近及び水質保全ダムの直上では確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川の連続性の分断</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇陀川については、水質保全ダムの存在により、移動が制限されている可能性があると考えられる。</li> </ul>	△

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんど見られないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(b)両生類・爬虫類・哺乳類

両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況の変化に対する影響の検証結果を表 6. 3. 5-13 に示す。

表 6. 3. 5-13 連続性の観点からみた両生類・爬虫類・哺乳類の  
変化に対する影響の検証結果

検討項目	変化の状況	ダムの存在・供用に伴う影響	ダムの存在以外の影響	検証結果	
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>流水性両生類としては、オオサンショウウオ、タゴガエル、カジカガエルの3種が確認されている。</li> <li>オオサンショウウオは平成19年度に実施した魚類調査時に、流入河川である深谷川で確認されている。</li> <li>タゴガエルは、ダム湖周辺で継続的に確認されており、近年では確認地点数も増加する傾向にある。流入河川である深谷川や小規模な沢筋等、右岸側で多く確認されている。</li> <li>カジカガエルは、ダム湖周辺で継続的に確認されている。確認地点数は、各調査年度ともに多くはないが、流入河川である深谷川や宇陀川で多く確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水域の連続性の分断</li> <li>溪流環境の孤立化</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>供用開始から数十年が経過していることから、ダム湖周辺では、流水性両生類の再生産が行われ続けているものと考えられる。オオサンショウウオについては、ダムの存在による水域の連続性の分断によって生息環境が変化している可能性があると考えられる。また、ダムの存在によって流入河川間の移動が阻害され、生息環境の孤立化といった影響が及んでいる可能性があると考えられる。</li> </ul>	△
両生類の卵及び幼生の確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年度調査では全ての種において卵塊の確認はされず、幼生が確認された種はアマガエルのみであった。</li> <li>全体的な傾向としては、タゴガエルやカジカガエルといった流水性種は、概ね良好な状態で推移している。</li> <li>しかし、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の止水性種については、平成10年度から平成15年度にかけて、減少する傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>溪流環境の孤立化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地の造成</li> <li>農耕地の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流水性の種については、卵や幼生は確認されていないが、ダムの右岸側を中心に継続的に成体が確認されていることから、溪流環境の孤立化といった影響は及んでいないものと考えられる。</li> <li>止水環境を繁殖場所とする左記の種は、ダム湖等の規模の大きな止水環境は繁殖場所としてほとんど利用しないことから、ダム湖の周辺における止水域の減少等により、減少している可能性がある。</li> </ul>	△
哺乳類の確認状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動能力の高い大～中型哺乳類、移動能力の低い小型哺乳類ともに、概ね両岸で経年的に確認されている。</li> <li>左右岸で偏りがみられたのは、コウモリ類等があげられるがコウモリ類は深谷川の導水路内をめぐらしていることに起因している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸域の連続性の分断</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認された多くの種が左右岸ともに確認されており、左右岸での生息状況に明確な差異は認められなかった。</li> <li>移動能力の低い種については、左右岸で個体群が分断されている可能性が考えられる。</li> </ul>	△

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんど見られないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



## 6.4. 生物の生息・生育状況の変化の評価

### 6.4.1. ダム湖内における生物の生息・生育状況の変化の評価

#### (1) 魚介類

#### 1) 魚類

魚類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.1-1 に示す。

表 6.4.1-1 (1) ダム湖内における魚類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針
			視点	評価結果	
魚類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成4年度は11種の確認であったが、経年的に増加し、平成19年度では26種と、約2.5倍になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アユやゲンゴロウブナの放流に伴って、あるいはオオクチバス(ブラックバス)、ブルーギルのように、意図的に放流された魚類が多く定着しているものと考えられる。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>在来種を保全するとともに、魚類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年とともに変化している。</li> <li>平成4年度はギンブナ、平成5年度はオイカワが優占し、平成8年度から19年度にかけては、概ね3~4種が各10~25%の割合で確認されており、平成19年度ではウキゴリ、オイカワ、コウライモロコの確認割合が20%前後となっている。</li> <li>平成19年度では、ブルーギルが増加する傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施年度によって、優占種が変化していることから、一概には言えないが、直近の調査ではブルーギルが急速に増加する傾向がみられており、このような外来種の影響によって、種相が変化している可能性はありとされる。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>在来種を保全するとともに、魚類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の生物への影響、並びに釣り等の湖面利用の状況を勘案した上で、対応を検討することが必要である。</li> <li>特定外来生物については、関係各所に報告を実施し、必要に応じて対応を協議する。</li> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
ダム湖内に生息する魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な構成種は、フナ類やニゴイ類等のコイ科魚類、ナマズ、ブルーギル、オオクチバスで、平成4年度から継続的に確認されている。</li> <li>確認個体数は、年度によって変動している。</li> <li>確認割合は、ギンブナが減少傾向する一方で、ニゴイ類が増加、また平成19年度にはブルーギルが増加する傾向を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施年度によって、優占種が変化していることから、一概には言えないが、直近の調査ではブルーギルが急速に増加する傾向がみられており、このような外来種の影響によって、種相が変化している可能性はありとされる。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>在来種を保全するとともに、魚類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の生物への影響、並びに釣り等の湖面利用の状況を勘案した上で、対応を検討することが必要である。</li> <li>特定外来生物については、関係各所に報告を実施し、必要に応じて対応を協議する。</li> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

●: 室生ダムの影響がみられるもの      ×: 変化がほとんど見られないもの

△: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.4.1-1 (2) ダム湖内における魚類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
生息状況の変化 回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>回遊性種は、これまでの調査で6種確認されている。</li> <li>平成8年度まではトウヨシノボリが確認割合のほとんどを占めていたが、平成13年度から減少、ウキゴリやヌマチチブが増加傾向を示し、平成19年度ではウキゴリが半数以上を占めている。</li> <li>アユについては、室生ダムにおいて、再生産されていることが明らかとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質保全ダムが設置された平成12年度前後で、種構成が大きく変化しているため、河川域の連続性の分断については、影響が及んでいる可能性があると考えられる。</li> <li>確認されている種の多くは、継続的に確認されており、陸封・再生産している可能性もあると考えられる。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークの保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム本体、及び水質保全ダムの存在による移動阻害が懸念される。</li> <li>回遊性魚類の陸封状態についての詳細は不明である(アユについては再生産が確認されている)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> <li>調査の実施にあたっては、水質保全ダムに設置されている魚道の遡上・降河状況についても調査することを検討する。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然分布と考えられる種</li> <li>・継続的に確認されているのはギギであり、平成5年度から確認され始めたウキゴリは、平成19年度に増加する傾向がみられる。</li> <li>■放流等が由来と考えられる種</li> <li>・継続的な確認は少なく、スゴモロコやホンモロコ、アユといった種がある年度に多数確認されることがある。</li> <li>・ゲンゴロウブナはダム湖内、アユは流入河川に、毎年放流が実施されており、アユについて再生産が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然分布と考えられる種</li> <li>・種によって増減はみられるが、重要種は主に流水性種で構成されていることから、止水環境の存在による影響はあると考えられる。</li> <li>■放流等が由来と考えられる種</li> <li>・ゲンゴロウブナ、ホンモロコ等の止水性種にとっては、影響はほとんどないと考えられる。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成4年度から継続的にブルーギル及びオオクチバス(ブラックバス)が確認され、平成19年度ではブルーギルの増加が著しい。</li> <li>平成13年度以降にタウンギが確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルーギルは、近年増加傾向にあり、ダム湖の止水環境に適応していると考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来種の捕食による、種の多様性の低下、現存量の低下が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物については、関係各所に報告を実施し、必要に応じて対応を協議する。</li> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> <li>・外来種の影響が著しいと判断される場合は、適宜、駆除活動等を検討する。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

●: 室生ダムの影響がみられるもの

×: 変化がほとんどみられないもの

△: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 1-2 に示す。

表 6. 4. 1-2 ダム湖内におけるエビ・カニ・貝類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
エビ・カニ・貝類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成4年度から平成8年度にかけて確認種数は増加する傾向にあるが、平成8年度から平成13年度にかけては横ばいとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エビ類は河川緩流部やダム湖を恒常的な生息環境として利用している。</li> <li>エビ類以外は流入河川等から一時的に流下してきたものだと考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好な状態で推移していると考えられる(エビ類以外は偶発的に確認された可能性がある)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続してエビ・カニ・貝類(底生動物調査時に併せて)の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>エビ・カニ・貝類の状況</li> <li>確認個体数は平成4年度から平成8年度までは増加傾向にあったが、以降平成13年度にかけては、減少に転じている。これはスジエビの確認個体数に起因する。</li> <li>確認割合は、経年とともに、タニシ類が減少、スジエビ等のエビ類が増加傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年度から平成13年度にかけてのスジエビの減少は、肉食性魚類等の影響が及んでいる可能性があるが、変化の要因については不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優占種であるスジエビの減少要因については不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続してエビ・カニ・貝類(底生動物調査時に併せて)の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、オタニシ、モノアラガイ、マシジミの3種が確認されているが、そのほとんどは単年度の確認であり、個体数も少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認された重要種は、水位変動の大きなダム湖を好適な生息環境とはしないことから、周辺環境から一時的に移動してきた個体が確認された可能性がある。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖はこれまでに確認されている重要種の好適な生息環境ではないと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年度にアメリカザリガニが2個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在により生息が可能になったと考えられるが、定着しているかどうかは不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状では、確認個体数が少ないことから、大きな影響はほとんどないと考えられるが、定着すれば在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの

(2) 底生動物

底生動物の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 1-3 に示す。

表 6. 4. 1-3 (1) ダム湖内における底生動物の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
底生動物相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 5 年度が 5 種と最も少なく、平成 7 年度では 27 種、平成 12 年度では 71 種と増加するが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 39 種と減少に転じている。</li> <li>平成 12 年度から平成 20 年度にかけての減少の主要因は、ヒラタカゲロウ類やシマトビケラ類といった流水性種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増減については、主に流水性種の出現状況に左右されており、このような状況は、ダム湖の貯水量の影響によると考えられる。</li> <li>水質保全ダムの設置以降に、確認種数が減少していることから、宇陀川流入部付近の環境の変化が影響を与えている可能性もあると推察される。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダムの貯水量の変化に影響されている可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖の深部では、イトミミズ科及びユスリカ科の 2 種が継続的に確認されているが、そのほとんどは強腐水性種となっている。</li> <li>ダムサイトに近い最深部(基準点)では、無生物となる状態もしばしば見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖底の嫌気化といった環境条件の変化による可能性があると考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖深部は、嫌気化しているなど、生息条件が悪化しており、底生動物相は貧弱化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> <li>状況に応じて、曝気循環装置の設置等を検討する。</li> </ul>
ダム湖湖岸に生息する底生動物の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 7 年度は 26 種、平成 12 年度では 69 種が確認されていたが、平成 17 年度では 44 種、平成 20 年度では 35 種と減少している。</li> <li>確認種数が最も多い平成 12 年度は、カゲロウ目、トンボ目、ハエ目といった種群が多く、これらのは多くは流水性種である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増減については、主に流水性種の出現状況に左右されており、このような状況は、ダム湖の貯水量の影響によると考えられる。</li> <li>水質保全ダムの設置以降に、確認種数が減少していることから、宇陀川流入部付近の環境の変化が影響を与えている可能性もあると推察される。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖湖岸部は水位変動が大きく、底生動物にとっては、好適な生息環境ではないと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.4.1-3 (2) ダム湖内における底生動物の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針		
			視点	評価結果			
生息状況の変化	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年度調査時にオオタニシ4個体、平成17年度調査時にコオイムシが2個体、平成20年度にホンサナエが8個体、アオサナエが3個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認された重要種は、水位変動の大きなダム湖を好適な生息環境とはしないことから、周辺環境から一時的に移動してきた個体が確認された可能性がある。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖はこれまでに確認されている重要種の好適な生息環境ではないと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成12年度にサカマキガイ及びアメリカザリガニが各1個体、平成20年度にコシダカヒメモノアラガイが1個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境の存在により生息が可能になったと考えられるが、定着しているかどうかは不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状では、確認個体数が少ないことから、大きな影響はほとんどないと考えられるが、定着すれば在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(3) 動植物プランクトン

1) 植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況の変化の評価結果を表 6. 4. 1-4 に示す。

表 6. 4. 1-4 ダム湖内における植物プランクトンの生育状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
植物プランクトン相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 5 年度は 59 種、平成 11 年度は 94 種、平成 16 年度は 64 種、平成 18 年度は 37 種と、増減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物プランクトンの生育状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生育状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 5 年度、平成 16 年度及び平成 18 年度は藍藻類で、平成 11 年度は珪藻類であった。</li> <li>季節的には、夏季は藍藻類、緑藻類、秋季から冬季にかけては珪藻類が優先する傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境に適応した種が優占していると考えられる。</li> <li>夏季にアオコの発生原因である藍藻類が多くみられるが流入河川の水質やダム湖の存在等、複合的な要因があるものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖内、流入河川の水質保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物プランクトンの生育状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2)動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 1-5 に示す。

表 6. 4. 1-5 ダム湖内における動物プランクトンの生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
動物プランクトン相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成5年度は30種、平成11年度は65種、平成16年度は62種、平成18年度は33種と、増減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して動物プランクトンの生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査において、原生生物である繊毛虫類が優占する傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水環境に適応した種が優占していると考えられる。</li> <li>流入河川の水質やダム湖の存在等、複合的な要因があるものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖深部は、嫌気化しているなど、生息条件が悪化していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して動物プランクトンの生息状況等の推移を確認していく。</li> <li>状況に応じて、曝気循環装置の設置等を検討する。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(4) 鳥類

鳥類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.1-6 に示す。

表 6.4.1-6 (1) ダム湖内における鳥類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針
			視点	評価結果	
鳥類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施年度によって、11～16種とばらつきがみられるが、確認種数の大きな変動はなく、比較的安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定した水面と湖岸環境が形成されているものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>飛来数等に大きな変化はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<p>鳥類の状況(開放水面)に生息する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水辺を利用する種として、カイツブリ、カワウ、オシドリ、マガモが継続的に確認されている。また、カルガモは平成9年度から平成18・19年度、コガモは平成5年度から平成14年度まで継続して確認されている。</li> <li>その他の種については、いずれも単年度の確認となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開放水面や開けた水際部を利用する種は比較的多い状況にあることから、概ね安定した生息環境であると考えられる。</li> <li>越冬・繁殖以外に中継地として当該地域を利用する種については、滞在期間が短いことなどから、渡来数の変動が大きくなる可能性がある。</li> <li>繁殖地や渡りの中継地での変化による影響も考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>確認種数等は比較的安定していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
	<p>ダム湖湖岸に生息する鳥類の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>確認個体数は平成14年度にかけては一時増加する傾向がみられたが、以降は減少する傾向にある。</li> <li>水辺を利用する種として、ゴイサギ、アオサギ、ヤマセミが継続して確認され、カワセミが平成18・19年度以外で確認されている。その他の種については、単年度の確認が多い状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浅い水際や湿性植物群落のある湿地等を利用する種にとっては利用しづらい環境に変化している可能性がある。</li> <li>越冬・繁殖以外に中継地として当該地域を利用する種については、滞在期間が短いことなどから、渡来数の変動が大きくなる可能性がある。</li> <li>繁殖地や渡りの中継地での変化による影響も考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>水辺性の一部の種や主に湖岸を利用する種については、確認個体数の減少傾向がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



表 6.4.1-6 (2) ダム湖内における鳥類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果		評価		今後の方針
				視点	評価結果	
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で確認されている重要種は、11種で、このうち、ゴイサギ、オシドリ、ヤマセミについては、継続的に確認されている。また、その他の種については、単年度の確認が多い状況にある。</li> <li>重要種の確認種数は大きな変化はないものの、確認個体数において、平成18・19年度に減少がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浅い水際や湿性植物群落のある湿地等を利用する種にとっては利用しづらい環境に変化している可能性がある。</li> <li>調査手法が異なるため、一概には言えないが、渡りの一時期に確認される種等が含まれるため、個体数や確認種数の変動は生じやすいものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> <li>生息環境の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好な状態で推移していると考えられるが、直近の調査結果における重要種の確認個体数の減少は、留意すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
の外来種	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖内では、鳥類の外来種は確認されていない。</li> </ul>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4箇年の調査結果であるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

6.4.2. 流入河川における生物の生息・生育状況の変化の評価

(1) 魚介類

1) 魚類

魚類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.2-1 に示す。

表 6.4.2-1 (1) 流入河川における魚類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針
			視点	評価結果	
魚類相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:平成4年度から平成19年度にかけて、確認種数が11種から21種へと増加している。</li> <li>・天満川:平成4年度から平成19年度にかけて、確認種数が3種から10種へと増加している。</li> <li>・深谷川:平成13年度から平成19年度にかけて、確認種数が2種から4種へと増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認種数の増加は、調査精度等の違いに拠るところもあるが、アユやゲンゴロウブナの放流に伴って移入された種も定着している可能性があると考えられる。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種の多様性の保全</li> <li>・在来種を保全するとともに、魚類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成4年度はオイカワが76%を占めていたが、平成19年度はオイカワが36%、コウライモロコが27%となっている。</li> <li>・天満川:確認個体数は平成8年度をピークに減少している。優占種は、平成5年度はトウヨシノボリ、以降はカワムツ及びウキゴリが増加し、平成19年度ではこの2種が半数以上を占めている。</li> <li>・深谷川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成13年度、平成19年度ともにカワムツである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認種数・個体数ともに増加しており、止水環境の存在による影響はほとんどないものと考えられる。</li> <li>・天満川:平成8年度をピークに優占種のオイカワやトウヨシノボリが減少しているが、これらの種の生態から勘案すると河川環境の単調化等の他の要因に起因している可能性がある。</li> <li>・深谷川:種によって増減はみられるが、これは止水環境の存在による影響ではないものと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種の多様性の保全</li> <li>・経年的に優占種が変化していることについての要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.4.2-1 (2) 流入河川における魚類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
生息状況の変化 回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認個体数は増加傾向にある。優占種は、平成4年度はアユであったが、平成19年度にはウキゴリとなっている。</li> <li>・天満川:確認個体数は平成8年度をピークに減少し、平成13年度から平成19年度にかけては概ね横ばいとなっている。優占種は平成5年度及び平成8年度はトウヨシノボリ、以降はウキゴリとなっている。</li> <li>・深谷川:アマゴが平成19年度に1個体確認されたのみである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川:確認種数・個体数ともに増加していることから、影響はほとんどないものと考えられる。</li> <li>・天満川:平成8年度を転機に、トウヨシノボリが減少、ウキゴリが増加しているが、これらの種の生態から勘案すると河川環境の単調化等の他の要因に起因している可能性がある。</li> <li>・深谷川:止水環境の存在による影響はほとんどないものと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系ネットワークの保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年的に優占種が変化していることについての要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然分布と考えられる種</li> <li>・これまでの調査で、ギギ、アマゴ、メダカ、ウキゴリ、カワヨシノボリの5種が確認され、平成19年度調査ではすべてが確認されている。</li> <li>・ギギは宇陀川、ウキゴリは宇陀川・天満川で増加傾向にある。カワヨシノボリは宇陀川で増加、深谷川で減少している。アマゴは深谷川、メダカは宇陀川で平成19年度に確認されている。</li> <li>■放流等が由来と考えられる種</li> <li>・これまでの調査で、ハス、ホンモロコ、スゴモロコ、アユ、タウナギの5種が確認され、平成19年度調査ではすべてが確認されている。</li> <li>・主に宇陀川で確認されているが、タウナギは天満川、アユは、天満川、深谷川でも確認されている。</li> <li>・確認個体数に大きな変動はなく、平成19年度の段階では、いずれも10個体以下程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然分布と考えられる種</li> <li>・平成19年度では、確認種数・個体数ともに、多く確認されているが、これは止水環境の存在による影響かどうかについては、言及できない。</li> <li>■放流等が由来と考えられる種</li> <li>・確認個体数は、調査年度によって、ばらつきがみられるが、これは止水環境の存在による影響ではないと考えられる。</li> <li>・アユについては、流入河川において、毎年放流が実施されている。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年度にタウナギが天満川で4個体、平成19年度にタウナギが宇陀川で3個体、天満川で2個体確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀川、天満川におけるタウナギの定着についての詳細は不明であるが、止水環境の存在による影響とは無関係であると考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、確認個体数が少ないことから、大きな影響はほとんどないと考えられるが、定着すれば在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

●: 室生ダムの影響がみられるもの

×: 変化がほとんどみられないもの

△: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.2-2 に示す。

表 6.4.2-2 流入河川におけるエビ・カニ・貝類の生息状況の変化の評価

	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
エビ・カニ・貝類相の変化	種数 ・平成4年度から平成13年度にかけて、確認種数は3~4種とほぼ横ばいとなっている。	・エビ類は河川緩流部やダム湖、カワニナ、マシジミ、サワガニは河川を生息環境とすることから、流入河川には大きな変化はなかったものと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・概ね良好な状態で推移していると考えられる。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続してエビ・カニ・貝類(底生動物調査時に併せて)の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化	優占種の変化	・平成8年度から平成13年度にかけてのスジエビの減少は、肉食性魚類等の影響が及んでいる可能性があるが、変化の要因は不明である。	△	・種の多様性の保全	・優占種であるスジエビの減少については、変化の要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続してエビ・カニ・貝類(底生動物調査時に併せて)の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況	・平成13年度に、マシジミが天満川で1個体確認されている。	×	・重要種の保全	・概ね良好な状態で推移していると考えられる。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況	・これまでの調査において、外来種の生息は確認されていない。	—	—	・種の多様性の保全	・4箇年の調査結果であるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(2) 底生動物

底生動物の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-3 に示す。

表 6. 4. 2-3 (1) 流入河川における底生動物の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果		評価		今後の方針
				視点	評価結果	
底生動物相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 5 年度は 38 種であったが、経年とともに増加し、平成 17 年度では 182 種、平成 20 年度では 171 種となっている。</li> <li>主な分類群は、カゲロウ目、トビケラ目、ハエ目である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加については、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の増加による可能性があるが、変化の要因は不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇陀川:平成 7 年度では、基本的にはシマトビケラ類が優占種となるが、以降はシマトビケラ類のほか、ユスリカ類やイトミミズ類が優占する傾向がみられる。確認個体数については、調査年度でばらつきがみられる。全体的な傾向として、経年とともに貧腐水性種の確認割合が低くなっている。</li> <li>天満川:平成 7 年度ではシマトビケラ類、12 年度ではコカゲロウ科やユスリカ科、平成 17 年度ではミズミズ科やミズムシ、平成 20 年度ではシマトビケラ類等が優占する。確認個体数は概して平成 12 年度及び平成 20 年度が多い。平成 17 年度以外は貧腐水性種が優占種に含まれているが、平成 17 年度では含まれていない。</li> <li>深谷川:平成 7 年度はカゲロウ類が優占するが、平成 17 年度及び平成 20 年度ではコカゲロウ科等が優占する。各調査年度ともに貧腐水性種が優占する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇陀川:調査年度・時期によって、確認個体数等に大きな違いはみられるが、その変化の要因は不明である。</li> <li>天満川:調査年度・時期によって、確認個体数等に大きな違いはみられるが、その変化の要因は不明である。</li> <li>深谷川:確認個体数は平成 17 年度から平成 20 年度にかけて減少しているが、その変化の要因は不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇陀川については、貧腐水性種の確認割合が低下している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.4.2-3 (2) 流入河川における底生動物の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
生息状況の変化	重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成7年度に1種、平成12年度に6種、平成17年度に4種、平成20年度に7種が確認されている。平成20年度では、宇陀川でヒラマキガイモドキ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、天満川でアオサナエ、オオコオイムシ、深谷川でムカシトンボ、ゲンジボタルが確認されている。深谷川のムカシトンボ、ゲンジボタルは減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されている重要種のほとんどは流水性種であることから、止水環境の存在による影響はほとんどないと考えられる。平成20年度に確認されたヒラマキガイモドキ及びオオコオイムシは主に湿地等の止水に生息することから、周辺地域から一時的に移動してきた可能性があると考えられる。</li> <li>深谷川におけるムカシトンボ、ゲンジボタルの確認個体数が減少傾向にあるが、これは他の要因によるものと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> <li>深谷川ではムカシトンボ、ゲンジボタルの確認個体数が減少していることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
	外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>コシダカヒメモノアラガイ、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されている。コシダカヒメモノアラガイは平成20年度に宇陀川・天満川で、サカマキガイは宇陀川・天満川でほぼ経年的に確認されており、アメリカザリガニは平成12年度以降、宇陀川で確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認状況の推移から、サカマキガイは、宇陀川・天満川に定着しているものと考えられる。また、アメリカザリガニについても、宇陀川に定着しているものと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>現状では、確認個体数が少ないことから、影響はほとんどないと考えられるが、外来種の個体数が増加すれば在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(3) 動植物プランクトン

1) 植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-4 に示す。

表 6. 4. 2-4 流入河川における植物プランクトンの生育状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
植物プランクトン相 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 5 年度は 33 種、平成 11 年度は 74 種、平成 16 年度は 22 種と、平成 5 年度から平成 11 年度にかけて増加し、以降は減少傾向となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増減は、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の変化によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物プランクトンの生育状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生育状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 5 年度及び平成 16 年度は珪藻類、平成 11 年度は緑藻類であった。</li> <li>確認種は、止水域や河川下流、小さな池や養魚池、富栄養化した止水域に出現する種が多い傾向にあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水域や河川下流、小さな池や養魚池、富栄養化した止水域に出現する種が多かったが、水質環境が悪化している状況ではないと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流入河川の水質保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物プランクトンの生育状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2) 動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-5 に示す。

表 6. 4. 2-5 流入河川における動物プランクトンの生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
動物プランクトン相 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 5 年度は 4 種、平成 11 年度は 44 種、平成 16 年度と 33 種と、増減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増減は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きく、環境の変化による影響は確認できなかった。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の要因は不明であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して動物プランクトンの生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種は、全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多い種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多い種であったが、水質環境が悪化している状況ではないと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流入河川の水質保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して動物プランクトンの生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(4) 植物

植物の生育状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-6 に示す。

表 6. 4. 2-6 流入河川における植物の生育状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
植物相の変化	・平成 16 年度の調査において、205 種が確認されている。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。	—	・種の多様性の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物の生育状況等の推移を確認していく。
生育状況の変化	・流入河川周辺に生育する植物の状況を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。	—	・種の多様性の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物の生育状況等の推移を確認していく。
重要種の状況	・平成 16 年度の調査において、重要種はゴキヅル、メハジキの 2 種確認されている。 ・これらは、いずれも河原等に生育する種である。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。	—	・重要種の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生育状況等の推移を確認していく。
外来種の状況	・平成 16 年度の調査において、外来種は 44 種（うち 3 種は特定外来種）が確認されている。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。	—	・種の多様性の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生育状況等の推移を監視していく。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



(5) 鳥類

鳥類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-7 に示す。

表 6. 4. 2-7 流入河川における鳥類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
鳥類相の変化 種数	平成 14 年度では 26 種、平成 18・19 年度で 32 種と増加する傾向がみられている。	確認種数の増加は、渡来種数の増加のほかに、調査手法の違いによる影響も考えられる。	×	種の多様性の保全	確認種数の増加はみられたが、2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。	今後も河川水辺の国政調査により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化 流入河川に生息する鳥類の状況	水辺を利用する種としては、カワウ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイが、継続的に確認されている。 陸域を利用する種としては、ヒヨドリ、ホオジロ、スズメ等草地から樹林に生息する種が多く確認されている。	水辺を利用するダイサギ、アオサギ等の大型のサギ類が確認されなくなったことから、河岸の植生が繁茂するなど、利用しづらい環境に変化した可能性があると考えられる。	△	種の多様性の保全	確認種数の増加はみられたが、2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。
重要種の状況	平成 14 年度の 3 種から、平成 18・19 年度は 9 種に増加している。 水辺を利用する種としては、オシドリ、コチドリ、ヤマシギ、ヤマセミ、カワガラスの 5 種が確認されている。 陸域を利用する種は、ホトトギス、アカゲラ、イカル等樹林性の種、アオジ、ベニマシコ等藪や草地性の種等が確認されている。	重要種の増加は、渡来数の増加のほかに、調査手法の違いによる影響も考えられる。	△	重要種の保全	確認種数の増加はみられたが、2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
外来種の状況	コジュケイが平成 18・19 年度に確認されている。	コジュケイは、日本に移入された年代が古い種であることから、古くから周辺で定着していたものと考えられる。	△	種の多様性の保全	確認種数の増加はみられたが、2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。外来生物法の指定種等に留意する必要がある。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(6) 両生類・爬虫類・哺乳類

1) 両生類

両生類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-8 に示す。

表 6. 4. 2-8 流入河川における両生類の生息状況の変化の評価

	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
両生類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度の調査において、5 種が確認された。</li> <li>なお、確認種には、平成 19 年度魚類調査時に確認されたオオサンショウウオを含む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はオオサンショウウオを除き、ダム湖周辺で確認されている種である。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオサンショウウオ、イモリ、アマガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエルの 5 種が確認されている。</li> <li>流水性種は、オオサンショウウオのみでその他の種は、水田や池沼等の止水環境及び周辺樹林を利用する種である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はオオサンショウウオを除き、ダム湖周辺で確認されている種である。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度の調査において、イモリが確認された。また、平成 19 年度魚類調査時には深谷川でオオサンショウウオが確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、イモリはダム湖周辺で確認されている。</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオサンショウウオをはじめとした両生類が今後も棲み続けられるような河川及び、産卵場所を含めた周辺環境の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査において、外来種は確認されていない。</li> </ul>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2)爬虫類

爬虫類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 2-9 に示す。

表 6. 4. 2-9 流入河川における爬虫類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果		評価		今後の方針	
				視点	評価結果		
爬虫類相の変化	種数 ・平成 15 年度の調査において、2 種の爬虫類が確認されている。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種のいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して爬虫類の生息状況等の推移を確認していく。	
生息状況の変化	流入河川に生息する爬虫類の状況	・クサガメ、カナヘビの 2 種が確認されている。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種のいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して爬虫類の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	—	—	・重要種の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。	—	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

3) 哺乳類

哺乳類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-10 に示す。

表 6. 4. 2-10 流入河川における哺乳類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針		
			視点	評価結果			
哺乳類相の変化	・平成 15 年度の調査において、8 種の哺乳類が確認された。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、コウベモグラを除き、確認された種はダム湖周辺で確認されている種である。	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。	
生息状況の変化	流入河川に生息する哺乳類の状況	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、コウベモグラを除き、確認された種はダム湖周辺で確認されている種である。	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。	
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、カヤネズミが確認された。球巣がオギ群落等の草地環境で確認された。	—	・重要種の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。	
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。	—	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(7) 陸上昆虫類等

陸上昆虫類等の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.2-11 に示す。

表 6.4.2-11 流入河川における陸上昆虫類等の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
陸上昆虫類相の変化	種数 ・平成 15 年度の調査では、396 種が確認されている。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化	流入河川に生息する陸上昆虫類等の状況 ・目別確認種数で最も多かったのはコウチュウ目の 106 種で、次いでカメムシ目の 57 種、クモ目の 46 種、チョウ目の 45 種の順であった。 ・水生昆虫類ではカゲロウ目やトビケラ目、コウチュウ目に属するガムシ科やゲンゴロウ科、ヒメドロムシ科、ヒラタドロムシ科等も確認された。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況 ・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	—	—	・重要種の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況 ・平成 15 年度において、ブタクサハムシの 1 種が確認されている。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、普通にみられる種であり、特にダム湖との関係はないと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

6.4.3. 下流河川における生物の生息・生育状況の変化の評価

(1) 魚介類

1) 魚類

魚類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.3-1 に示す。

表 6.4.3-1 (1) 下流河川における魚類の生息状況の変化の評価

検討項目		変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
				視点	評価結果		
魚類相の変化	種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 8 年度及び平成 13 年度が 8 種、平成 19 年度が 11 種と増加している。</li> <li>平成 19 年度に新たに確認されたのは、ギギやウキゴリ等 5 種である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに増加傾向にあり、ダムの存在・供用に伴う影響は、概ね安定した状態で推移しているものと考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在来種を保全するとともに、魚類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
	優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認個体数については増加傾向にある。また、優占種については、平成 8 年度は、トウヨシノボリ及びオイカワが優占していたが平成 13 年度にはオイカワ及びヌマチチブとなっている。また、平成 19 年度ではこれらの 2 種に加えてコウライモロコの確認個体数が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに、増加傾向にある。また、平成 8 年度から、平成 13 年度にかけて、優占種が大きく変化しているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年的に優占種が変化していること、不明瞭であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
	底生性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、カマツカ、ギギ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの 5 種が確認されており、平成 19 年度ではカマツカを除く 4 種が確認されている。</li> <li>確認個体数については、ヌマチチブが急激に増加している一方で、トウヨシノボリが減少傾向にある。また、ギギ、ウキゴリは平成 19 年度で始めて確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数ともに、増加傾向にある。また、平成 8 年度から、平成 13 年度にかけて、優占種が大きく変化しているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年的に底生性魚類の優占種が変化していること、不明瞭であることから、継続した調査を実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

表 6.4.3-1 (2) 下流河川における魚類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、アユ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの種が確認されており、平成19年度調査では4種すべてが確認されている。</li> <li>確認個体数は、ヌマチチブが増加している一方で、トウヨシノボリが減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>室生ダムの存在により、移動障害が発生しているのは、确实である。</li> <li>確認種数・個体数ともに、増加傾向にある。また、平成8年度から、平成13年度にかけて、優占種が大きく変化しているが、この変化の要因については不明である。</li> <li>なお、下流側には、遡上が困難な高山ダムが存在することから、アユを除くこれらの種は、既に陸封状態であり、アユについては、放流が起源である可能性がある。</li> </ul>	● △	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークの保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム本体の存在による移動障害が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して回遊性魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然分布と考えられる種 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度に、ギギが6個体、ウキゴリが32個体確認されている。</li> </ul> </li> <li>■放流等が由来と考えられる種 <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、ゲンゴロウブナ、ハス、アユの3種が確認され、平成19年度調査では、ハスを除く2種が確認されている。</li> <li>確認個体数はほとんどが3個体以下であるが、平成8年度では、潜水目視により100個体程度のアユが確認されている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自然分布と考えられる種 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度より、新たに確認されるようになってきているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul> </li> <li>■放流等が由来と考えられる種 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年度から断続的に確認されているが、この変化の要因については不明である。</li> </ul> </li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種が今後も棲み続けられるよう生息環境の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査で、ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)の2種が確認されている。</li> <li>ブルーギルは平成8年度に12個体、平成19年度に1個体、オオクチバスは平成8年度に12個体、平成13年度に1個体が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖内より流下してきた個体が定着している可能性があると考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来種の捕食による、種の多様性の低下、現存量の低下が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物については、関係各所に報告を実施し、必要に応じて対応を協議する。</li> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> <li>外来種の影響が著しいと判断される場合は、適宜、駆除活動等を検討する。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの

2)エビ・カニ・貝類

エビ・カニ・貝類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-2 に示す。

表 6. 4. 3-2 下流河川におけるエビ・カニ・貝類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果		評価		今後の方針
		視点	評価結果	視点	評価結果	
エビ・カニ・貝類相の変化	種数 ・平成8年度、平成13年度ともに、ヒメタニシやカワニナ、テナガエビ、スジエビ等7種が確認されている。	・エビ類は河川緩流部やダム湖、カワニナ、マシジミ、サワガニは河川を生息環境とすることから、下流河川には大きな変化はなかったものと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・概ね良好な状態で推移していると考えられる。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続してエビ・カニ・貝類(底生動物調査時に併せて)の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化	優占種の変化 ・カワニナが減少傾向にある一方で、テナガエビやスジエビといったエビ類は増加傾向にある。	・カワニナの減少、及びエビ類の増加についての要因は不明である。	△	・種の多様性の保全	・ゲンジボタルの餌となるカワニナの減少、及びエビ類の増加要因については、不明瞭であることから、継続した調査を実施する必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続してエビ・カニ・貝類(底生動物調査時に併せて)の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況 ・平成8年度にマシジミ2個体、平成13年度にマシジミ1個体が確認されている。	・マシジミは河川や水路等の流水域を主な生息環境とすることから、下流河川には大きな変化はなかったものと考えられる。	×	・重要種の保全	・概ね良好な状態で推移していると考えられる。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況 ・これまでの調査において、外来種は確認されていない。	—	—	・種の多様性の保全	・2箇年の調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



(2) 底生動物

底生動物の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-3 に示す。

表 6. 4. 3-3 下流河川における底生動物の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
底生動物相 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 5 年度は 10 種であったが、経年とともに増加し、平成 20 年度では 103 種となっている。</li> <li>主な分類群は、トンボ目、トビケラ目、ハエ目、コウチュウ目である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加については、分類精度等の向上による可能性があるが、この変化の要因については不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の要因は不明であることから、継続した調査をする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 7 年度から平成 17 年度までは、ウルマーシマトビケラやナカハラシマトビケラ、Cheumatopsyche 属等の造網性トビケラ類が優占しており、これらの占める割合は高い状態にあったが、平成 20 年度では、造網性トビケラ類の確認割合は極端に減少し、アカマダラカゲロウやヒメドロムシ科といった種が優占している。</li> <li>確認個体数は、平成 17 年度までは増加する傾向にあったが、平成 20 年度では減少に転じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 17 年度から平成 20 年度にかけての優占種の変化、個体数の減少は、平成 19 年度に実施した土砂供給実験に起因していると考えられる。</li> <li>河床の攪乱頻度の減少、土砂供給量の減少に伴った造網性トビケラ類の増加は、ダム下流域では一般的であり、ダムの存在・供用に伴う影響と考えられるが、土砂の供給により、影響は低減できるものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造網性トビケラ類の生息量、及び確認割合に注視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して底生動物の生息状況等の推移を確認していく。</li> <li>今後も継続的に砂礫を下流河川に流すなどの土砂供給実験等を行うことを検討する。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、オオタニシ、マジジミ、ゲンジボタルの 3 種が確認されているが、平成 17 年度及び平成 20 年度調査ではゲンジボタルのみの確認となっている。</li> <li>ゲンジボタルは平成 7 年度に 1 個体、平成 17 年度に 5 個体、平成 20 年度に 2 個体が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種によって増減はあり、変化の要因については言及できないが、流水環境に特徴的なゲンジボタルが継続的に確認されていることなどから、ダムの存在・供用に伴う影響は、あまりないものと考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲンジボタル及び餌となるカワニナの生息量に注視する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、サカマキガイ、アメリカザリガニが確認されている。</li> <li>しかし、両種ともに確認個体数は少なく、サカマキガイは平成 17 年度に 2 個体、アメリカザリガニは平成 7 年度に 1 個体となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの確認は、散発的で、確認個体数も少ない状況にあり、定着したかどうかは不明である</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状では、確認個体数が少ないため、影響は小さいと考えられるが、個体数が増加すれば在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(3) 動植物プランクトン

1) 植物プランクトン

植物プランクトンの生育状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-4 に示す。

表 6. 4. 3-4 下流河川における植物プランクトンの生育状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
植物プランクトン相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 5 年度は 30 種、平成 11 年度は 40 種、平成 16 年度は 22 種、平成 18 年度は 35 種と、増減している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きい、ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増減は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きい、富栄養化の進行等、環境の変化と関連がある可能性があるため、今後の監視結果により考察していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物プランクトンの生育状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生育状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 5 年度は緑藻類、平成 11 年度、平成 16 年度及び平成 18 年度はともに珪藻類であった。</li> <li>富栄養湖沼に多く、全国の湖沼に普通にみられる種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>優占種の確認状況から下流河川はダム湖の水質の影響を受けていると考えられる。その現存量は、底生動物、魚類の現存量に寄与しているものと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物プランクトンの生育状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2)動物プランクトン

動物プランクトンの生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-5 に示す。

表 6. 4. 3-5 下流河川における動物プランクトンの生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針
			視点	評価結果	
動物プランクトン相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 5 年度は 7 種、平成 11 年度は 35 種、平成 16 年度は 33 種、平成 18 年度は 21 種と、平成 5 年度から平成 11 年度にかけては増加しているが、以降平成 18 年度にかけては減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増減は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きいですが、ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>確認種数の増加や減少は、同定技術の進歩や調査時期によるものが大きいですが、富栄養化の進行等、環境の変化と関連がある可能性があるため、今後の監視結果により考察していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して動物プランクトンの生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 優占種の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖やため池等、全国的に普通にみられる種や富栄養化した水域に多くみられる種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖とほぼ同じ種が多く確認されていることから、ダム湖の影響を受けているものと考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> <li>優占種の確認状況から下流河川はダム湖の水質の影響を受けていると考えられる。その現存量は、底生動物、魚類の現存量に寄与しているものと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して動物プランクトンの生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(4) 植物

植物の生育状況の変化の評価結果を表 6.4.3-6 に示す。

表 6.4.3-6 下流河川における植物の生育状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
植物相の変化	・平成 16 年度の調査において、147 種の植物が確認されている。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。	—	・種の多様性の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物の生育状況等の推移を確認していく。
生育状況の変化	・河川沿いや湿った環境を好む種が多く確認され、樹林に生育する種は少ない傾向がみられている。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種の多くはダム湖周辺でも確認されている種であった。	—	・種の多様性の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物の生育状況等の推移を確認していく。
重要種の状況	・平成 16 年度の調査において、重要種はユキヤナギ 1 種が確認されている。本種は河岸の岸壁等に生育する種である。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。	—	・重要種の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生育状況等の推移を確認していく。
外来種の状況	・平成 16 年度の調査において、外来種は 18 種(うち 1 種は特定外来種)が確認されている。	・平成 16 年度調査結果のみであるため、経年比較はできない。	—	・種の多様性の保全	・平成 16 年度調査結果のみであるため、生育状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生育状況等の推移を確認していく。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(5)鳥類

鳥類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-7 に示す。

表 6. 4. 3-7 下流河川における鳥類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
鳥類相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 14 年度では 23 種、平成 18・19 年度では 30 種と増加する傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加は、渡来数の増加のほかに、調査手法の違いによる影響も考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加はみられたが、2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国政調査により、継続して鳥類の生息状況の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 下流河川に生息する鳥類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>水辺を利用する種としては、カワウ、アオサギ、ヤマセミ、キセキレイが、継続的に確認されている。</li> <li>陸域を利用する種としては、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ホオジロ等の草地から樹林にかけて生息する種が多く確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的な種が確認されており、環境に大きな変化はないものと考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>水辺を利用する種としては、オシドリ、ヤマセミ、カワガラスの 3 種の重要種が確認されている。</li> <li>陸域を利用する種については、樹林性のアオゲラ、サンショウクイ、ルリビタキ、オオルリ、サメビタキ、エゾビタキ、イカルの 7 種が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 箇年度の調査結果であるため、経年変化の比較には十分とはいえないが、重要種の確認種数・個体数に若干の増加がみられている。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査において、外来種は確認されていない。</li> </ul>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(6) 両生類・爬虫類・哺乳類

1) 両生類

両生類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.3-8 に示す。

表 6.4.3-8 下流河川における両生類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
両生類相の変化	平成 15 年度の調査において、4 種の両生類が確認された。	平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	—	種の多様性の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化	下流河川に生息する両生類の状況 タゴガエル、トノサマガエル、ウシガエル、カジカガエルの 4 種が確認された。このうち、流水性種はタゴガエル、カジカガエルの 2 種である。	平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	—	種の多様性の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況 平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	—	—	重要種の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況 平成 15 年度の調査において、ウシガエルが確認された。1 地点で鳴き声が確認された。	平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、多くの止水域が広がるダム湖周辺において、増加傾向はみられていない。	—	種の多様性の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2)爬虫類

爬虫類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.3-9 に示す。

表 6.4.3-9 下流河川における爬虫類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果		評価		今後の方針
				視点	評価結果	
爬虫類相の変化	種数 ・平成 15 年度の調査において、爬虫類は確認されていない。	—	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して爬虫類の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化	下流河川に生息する爬虫類の状況	—	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して爬虫類の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況	—	—	・重要種の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況	—	—	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

3) 哺乳類

哺乳類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 3-10 に示す。

表 6. 4. 3-10 下流河川における哺乳類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
哺乳類相の変化 種数	平成 15 年度の調査において、8 種の哺乳類が確認された。	平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	—	種の多様性の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化 下流河川に生息する哺乳類の状況	モグラ属、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドジカの 8 種が確認された。	平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、確認された種はいずれもダム湖周辺で確認されている種であった。	—	種の多様性の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。
重要種の状況	平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	—	—	重要種の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
外来種の状況	平成 15 年度の調査において、外来種は確認されていない。	—	—	種の多様性の保全	平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



(7) 陸上昆虫類等

陸上昆虫類等の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.3-11 に示す。

表 6.4.3-11 下流河川における陸上昆虫類等の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
陸上昆虫類相の変化	種数 ・平成 15 年度の調査では、391 種が確認されている。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、種構成の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化	下流河川に生息する陸上昆虫類等の状況	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、ダム湖周辺のデータと比較しても種構成に大きな変化はないと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、種構成の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況	・平成 15 年度の調査において、重要種は確認されていない。	—	・重要種の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、生息状況等の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況	・平成 15 年度の調査において、カンタン、シロテンハナムグリ、ラミーカミキリ、ブタクサハムシの 4 種が確認されている。	・平成 15 年度調査結果のみであるため、経年比較はできないが、普通にみられる種であり、特にダム湖との関係はないと考えられる。	×	・種の多様性の保全	・平成 15 年度調査結果のみであるため、種構成の変化が不明であり、継続して調査を行う必要がある。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

6.4.4. ダム湖周辺における生物の生息・生育状況の評価

(1) 植物

植物の生育状況の変化の評価結果を表 6.4.4-1 に示す。

表 6.4.4-1 ダム湖周辺における植物の生育状況の変化の評価

検討項目		変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
				視点	評価結果		
植物相の変化 生育状況の変化	種数	・確認種数については、平成6年度は617種であったが、経年とともに増加し、平成16年度では801種となっている。	・調査時期の違いや、外来種の侵入等で、確認種数や種構成に違いが生じたと考えられる。	△	・種の多様性の保全	・在来種の保全とともに、生物多様性の保全に取り組む必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物の生育状況等の推移を確認していく。
	ダム湖周辺における植生分布の変化	・大きく変化しているものは、アカマツ群落及び公園用地の増加、スギ・ヒノキ植林及び造成地・人工裸地の減少があげられる。	・自然な植生の遷移、あるいは人為による土地改変で群落に違いが生じたと考えられる。	△	・生態系ネットワークの保全 ・種の多様性の保全	・多様な環境を保全するとともに、外来種群落の拡大に注意する必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物分布の状況等の推移を確認していく。
	ダム湖周辺に生育する植物の状況	・在来種、外来種とも増加傾向にある。	・調査時期の違いや外来種の侵入等で、確認種数や種構成に違いが生じたと考えられる。	△	・種の多様性の保全	・在来種の保全とともに生物多様性の保全に取り組む必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して植物の生育状況等の推移を確認していく。
	重要種の状況	・平成6年度では47種、平成11年度では26種、平成16年度では50種と増減している。 ・継続的に確認されている種は、ヤハズアジサイ、チャルメルソウ等の11種である。	・調査時期の違いなどで、確認種数や種構成に違いが生じたと考えられる。 ・平成11年度は、秋季調査を実施していないために、重要種の確認が少なかった可能性もある。	△	・重要種の保全	・重要種が今後も生育し続けられるよう生育環境の保全に取り組む必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生育状況等の推移を確認していく。
	外来種の状況	・平成16年度に、新たに外来種であるイタチハギ群落が確認されている。 ・確認種数は年々増加傾向にあるが、外来種率は8～9%程度で推移している。	・人為による土地改変や、調査時期の違いなどで、確認種数や種構成に違いを生じたと考えられる。	●	・種の多様性の保全	・造成により改変を受けた場所、水位変動が大きく植生が安定しないダム湖湖岸等は、外来種が繁茂しやすくなっていると考えられるため、継続して確認する必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生育状況等の推移を監視していく。 ・状況に応じて、群落の著しい拡大等が発生するようであれば、実生の抜き取りや刈り取りによる駆除を検討する。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(2)鳥類

鳥類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.4-2 に示す。

表 6.4.4-2 ダム湖周辺における鳥類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
鳥類相の変化 種数	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成5年度は62種、平成9年度は67種と増加傾向にあったが、平成14年度では44種、平成18・19年度は37種と減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種構成に大きな違いはみられていないことから、調査手法等の変更により生じた可能性があると考えられる。</li> <li>平成9年度から平成14年度にかけての確認種数の減少は大きく、夏鳥等の繁殖地での減少、及びダム湖周辺の環境の変化等も考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の減少については、調査手法等の変更に起因している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化 ダム湖周辺に生息する鳥類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種の状況をみると、平成5年度から平成9年度にかけて変化はみられないが、平成14年度、平成18・19年度には減少傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺の植生に大きな変化はみられないことから、調査方法の違いにより生じた可能性があると考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数の減少については、調査手法等の変更に起因している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して鳥類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成5年度は21種、平成9年度は27種、平成14年度は16種、平成18・19年度は13種と、平成14年度以降は減少する傾向がみられる。</li> <li>ハチクマ、クマタカ等の猛禽類や、フクロウ、オオアカゲラ、サンコウチョウ等、豊かな森林環境に生息する種が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺の植生に大きな変化はみられないことから、調査方法の違いにより生じた可能性があると考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数・個体数の減少については、調査手法等の変更に起因している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成5年度から平成18・19年度にかけて、継続的にコジュケイが確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コジュケイは、継続的に確認されていることから、当該地域において生息しているものと考えられる。</li> <li>日本に移入された年代も古い種であることから、古くからダム湖周辺で定着していると考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数の増加はみられたが、4箇年の調査結果の比較であるため、調査を継続し、傾向を把握する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注)検証結果の記号は以下の内容を示す

- :室生ダムの影響がみられるもの
- ×:変化がほとんどみられないもの
- △:室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(3) 両生類・爬虫類・哺乳類

1) 両生類

両生類の生息状況の変化の評価結果を表 6.4.4-3 に示す。

表 6.4.4-3 ダム湖周辺における両生類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
両生類相の変化 種数	・確認種数は平成 5 年度が 11 種、平成 10 年度が 10 種、平成 15 年度が 10 種であった。	・確認種数、種構成に大きな違いはなく、大きな変化の傾向は確認されなかった。	×	・種の多様性の保全	・在来種の保全をするとともに両生類の多様性の保全に取り組む必要がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。
生息状況の変化 ダム湖周辺に生息する両生類の状況	・確認種については、ほとんどの種が継続的に確認されているが、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の水田や池沼等の止水環境を繁殖場所として利用する種の確認地点数が近年減少する傾向にある。 ・一方、流水性のタゴガエルの確認地点数は増加傾向、カジカガエルは概ね横ばいとなっている。	・止水環境を繁殖場所とする左記の種は、ダム湖等の規模の大きな止水環境は繁殖場所としてほとんど利用しないことから、ダム湖の周辺における止水域の減少等により、減少している可能性がある。 ・流水性の種については、概ね良好な状態にあると考えられる。	△	・種の多様性の保全	・在来種の保全をするとともに両生類の多様性の保全に取り組む必要がある。 ・今後の止水性種の増減に注視する必要があると考えられる。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。
重要種の状況	・ダム湖周辺では、イモリ、ニホンヒキガエルが経年的に確認されている。	・確認地点数は少ないものの、継続的に確認されている。 ・ただし、イモリは近年減少する傾向にある。	△	・重要種の保全	・重要種が今後も棲み続けられるよう河川、及び産卵場所を含めた周辺環境の保全に取り組む必要がある	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。
外来種の状況	・ダム湖周辺では、ウシガエルが継続的に確認されている。 ・ダム湖周辺で確認されている両生類のうち、ダム湖内にみられるような止水域を主な繁殖、生息環境として利用する種は外来種であるウシガエルに限られると考えられる。	・確認地点数は平成 5 年度以後の調査では半分以下となっているものの、継続的に確認されていることから、ダム湖周辺は良好な生息地となっているものと考えられる。	●	・種の多様性の保全	・今後、ダム湖周辺の止水域への侵入・定着が進むと、在来種の生息を圧迫する可能性がある。	・今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。 ・特定外来生物については、関係各所に報告を実施し、必要に応じて対応を協議する。

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの
- ×

2)爬虫類

爬虫類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 4-4 に示す。

表 6. 4. 4-4 ダム湖周辺における爬虫類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
爬虫類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成5年度が12種、平成10年度が10種、平成15年度が10種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査年度ごとに確認種数、種構成に多少の変動はみられたが、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在来種の保全をするとともに両生類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して爬虫類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種については、ほとんどが継続的に確認されている。</li> <li>確認地点数については、クサガメ、ミシシippアカミミガメといったカメ類は増加、トカゲ、ヤマカガシは減少する傾向がみられている。</li> <li>また、平成15年度では、ヒバカリ及びマムシが確認されており、断続的な確認となっているのはイシガメ、シロマダラである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、及び種構成に多少の変動はみられるものの、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> <li>増加がみられているカメ類は、止水域や緩やかな流水域を好む種であることから、ダム湖内を含むダム湖周辺を生息場所として利用しているものと考えられる。</li> <li>トカゲ、ヤマカガシの減少についての要因は不明である。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好な状態で推移していると考えられる。</li> <li>在来種の保全をするとともに両生類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して爬虫類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査では、イシガメ、ジムグリ、アオダイショウ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシが確認されている。</li> <li>継続的に確認された種はジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシである。</li> <li>ヒバカリとマムシは平成15年度には確認されていない。また、イシガメ、シロマダラは平成10年度には確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、及び種構成に多少の変動はみられるものの、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> <li>確認されなかった種は、生息数が少ないなどの要因が考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種が今後も棲み続けられるよう生息環境の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺では、ミシシippアカミミガメが経年的に確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシシippアカミミガメの増加傾向は、ダム湖内を含むダム湖周辺に、主な生息環境となる水域が安定的に存在することなどに起因している可能性がある。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、ダム湖周辺の止水域への侵入・定着が進むと、在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

●: 室生ダムの影響がみられるもの

×: 変化がほとんどみられないもの

△: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

3) 哺乳類

哺乳類の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 4-5 に示す。

表 6. 4. 4-5 ダム湖周辺における哺乳類の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
哺乳類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 5 年度が 11 種、平成 10 年度が 17 種、平成 15 年度が 18 種であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、種構成は平成 10 年度以降、コウモリ類の確認がされているため、平成 5 年度に比べ、増加しているが、それ以外の大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在来種の保全をするとともに哺乳類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な確認種はヒミズ、モグラ属、ノウサギ、ムササビ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ属、イノシシ、ホンドリカ等でこれらは平成 5 年度以降、継続的に確認されている。</li> <li>平成 10 年度に新たに確認された種は、コウモリ類 3 種、ニホンザル、ニホンリス、カヤネズミ、平成 15 年度では、テングコウモリ、ヒメネズミ、アナグマであった。</li> <li>平成 15 年度では平成 10 年度に確認された、キクガシラコウモリとニホンザルが確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数、種構成は平成 10 年度以降、コウモリ類の確認がされているため、平成 5 年度に比べ、増加しているが、それ以外の大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好な状態で推移していると考えられる。</li> <li>在来種の保全をするとともに哺乳類の多様性の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺において、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、カヤネズミが確認されている。</li> <li>コウモリ類は、深谷川の導水路内及びその周辺での確認で、キクガシラコウモリ以外の種は導水路内で確認されている。</li> <li>カヤネズミは平成 10 年度の 6 地点から平成 15 年度の 3 地点と確認地点数が減少している。なお、平成 15 年度のカヤネズミの確認地点は新たな地点であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深谷川にみられる導水路では、確認個体数に変動はあるが、通年を通して様々なコウモリ類が確認されていることから、良好な休息場所となっていると考えられる。</li> <li>カヤネズミの確認地点は減少傾向にあるが、平成 15 年度に確認された場所は新たな地点である。本種は、比較的限定的な環境を利用することから、ダム湖周辺良好な環境が残存、形成されているものと考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種が今後も棲み続けられるよう生息環境の保全に取り組む必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して重要種の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの調査において、外来種は確認されていない。</li> </ul>	—	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>哺乳類の外来種は確認されていないが、外来種の侵入・定着は在来種の生息を圧迫する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して外来種の生息状況等の推移を監視していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

●: 室生ダムの影響がみられるもの ×: 変化がほとんどみられないもの

△: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

(4) 陸上昆虫類等

陸上昆虫類等の生息状況の変化の評価結果を表 6. 4. 4-6 に示す。

表 6. 4. 4-6 ダム湖周辺における陸上昆虫類等の生息状況の変化の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
陸上昆虫類相の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認種数については、平成 6 年度は 1347 種、平成 10 年度は 1319 種、平成 15 年度は 1539 種と、平成 6 年度から平成 10 年度にかけては概ね横ばい、以降は増加の傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査年度ごとで確認種数、種構成に多少変動はみられたが、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな変化はないものと考えられる。</li> <li>なお、平成 15 年度の確認種数の増加は、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の増加に起因している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認された昆虫類の多くはダム湖周辺の樹林地、草地、農耕地等における確認であった。</li> <li>調査年度ごとで確認種、種構成に多少の変動はみられるが、大きな変化の傾向は確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査年度ごとで確認種数、種構成に多少変動はみられたが、大きな変化の傾向は確認されなかった。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな変化はないものと考えられる。</li> <li>なお、平成 15 年度の確認種数の増加は、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の増加に起因している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
重要種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺では、これまでの調査で 30 種の重要種が確認されている。</li> <li>重要種の推移についてみると、平成 6 年度の 15 種から平成 10 年度には 11 種に減少し、平成 15 年度には 14 種に再び増加している。</li> <li>継続して確認されている重要種は、コバントビケラ、クロツツトビケラ、オオセンチコガネの 3 種で、ダム湖周辺において安定して生息していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して確認されている種は 3 種と少ないが、他の種については、生息個体数が少ないなどの理由により確認されていないと考えられ、大きな変化は生じていないと考えられる。</li> </ul>	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要種の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな変化はないものと考えられる。</li> <li>なお、平成 15 年度の確認種数の増加は、調査手法等の変更や、分類に係わる知見の増加に起因している可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>
外来種の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺では、23 種の外来種が確認されている。</li> <li>外来種の確認状況をみると、種数では平成 6 年度の 8 種から平成 10 年度には 11 種、平成 15 年度には 13 種と徐々に増加している。</li> <li>外来種率は、平成 6 年度の 0.59% から平成 10 年度には 0.83% に増加し、以降、平成 15 年度は 0.84% と概ね横ばいであった。</li> <li>継続して確認されている外来種は、カンタン、モンシロチョウ、キイロシヨウジョウバエの 3 種で、ダム湖周辺においては既に定着していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 6 年度に 8 種だったのが、平成 10 年度は 11 種、平成 15 年度には 13 種と徐々に増加しており、今後も外来種が増加する可能性が考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造成等により外来植物が侵入している道路法面や水位変動により植生が安定しないダム湖湖岸等で外来種が侵入しやすくなっており、それにより外来種が増加していると考えられるため、継続して調査を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に外来種が確認されたため、今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して陸上昆虫類等の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

### 6.4.5. 連続性の観点からみた生物の生息状況の変化の評価

#### (1) 流入河川及びダム湖間における回遊性魚類の確認状況

連続性の観点からみた回遊性魚類の生息状況の評価結果を表 6.4.5-1 に示す。

表 6.4.5-1 連続性の観点からみた回遊性魚類の生息状況の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針
			視点	評価結果	
生息状況の変化 ダム湖及び流入河川における回遊性魚類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査実施年度によって、調査対象としている流入河川が異なることから一概には言えないが、ダム湖内及び流入河川で確認されている種は共通しており、確認個体数の割合も概ね同様な状況であることから、移動状況は良好であると考えられる。</li> <li>ただし、主な流入河川となる宇陀川については、回遊性魚類の確認個体数が少ない状況にあり、平成12年度に設置された水質保全ダムの影響が懸念される。</li> <li>アユが再生産していることが明らかとなったが、仔アユの確認は、天満川流入地点付近に集中しており、宇陀川流入地点付近及び水質保全ダムの直上では確認されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇陀川については、水質保全ダムの存在により、移動が制限されている可能性があると考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークの保全</li> <li>宇陀川における回遊性魚類の移動状況が低い状況にあると考えられる。</li> <li>水質保全ダムの存在の影響が及んでいる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して魚類の生息状況等の推移を確認していく。</li> <li>また、同調査の実施にあたっては、水質保全ダムに設置されている魚道の遡上・降河状況について調査する。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの



(2) 両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況の変化

1) 両生類の卵及び幼生の確認状況

連続性の観点からみた両生類の卵及び幼生の生息状況の評価結果を表 6.4.5-2 に示す。

表 6.4.5-2 連続性の観点からみた両生類の生息状況の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
生息状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>流水性両生類としては、オオサンショウウオ、タゴガエル、カジカガエルの3種が確認されている。</li> <li>オオサンショウウオは平成19年度に実施した魚類調査時に、流入河川である深谷川で確認されているほか、聞き取り調査により流入河川である内牧川及び下流河川で生息の記録がある。</li> <li>タゴガエルは、ダム湖周辺で継続的に確認されており、近年では確認地点数も増加する傾向にある。流入河川である深谷川や小規模な沢筋等、右岸側で多く確認されている。</li> <li>カジカガエルは、ダム湖周辺で継続的に確認されている。確認地点数は、各調査年度ともに多くはないが、流入河川である深谷川や宇陀川で多く確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオサンショウウオについては、ダムの存在による水域の連続性の分断によって生息環境が変化している可能性があると考えられる。また、ダムの存在によって流入河川間の移動が阻害され、生息環境の孤立化といった影響が及んでいる可能性があると考えられる。</li> </ul>	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系ネットワークの保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>供用開始から数十年が経過していることから、ダム湖周辺では、流水性両生類の再生産が行われ続けているものと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。</li> <li>状況に応じて、オオサンショウウオについては、詳細な分布状況を把握するための調査を検討する。</li> </ul>
両生類の卵及び幼生の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年度調査では全ての種において卵塊の確認はされず、幼生が確認された種はアマガエルのみであった。</li> <li>全体的な傾向としては、タゴガエルやカジカガエルといった流水性種は、概ね良好な状態で推移している。</li> <li>しかし、イモリやトノサマガエル、シュレーゲルアオガエル等の止水性種については、平成10年度から平成15年度にかけて、減少する傾向がみられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流水性の種については、卵や幼生は確認されていないが、ダムの右岸側を中心に継続的に成体が確認されていることから、溪流環境の孤立化といった影響は及んでいないものと考えられる。</li> <li>止水環境を繁殖場所とする左記の種は、ダム湖等の規模の大きな止水環境は繁殖場所としてほとんど利用しないことから、ダム湖の周辺における止水域の減少等により、減少している可能性がある。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖内にみられるような止水域を主な繁殖、生息環境として利用する種は限られている。</li> <li>ダム湖周辺の池や湿地等の止水域及び、その周辺の樹林、流入河川を含めた環境の保全に取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して両生類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

2) 哺乳類の確認状況

連続性の観点からみた哺乳類の生息状況の評価結果を表 6. 4. 5-3 に示す。

表 6. 4. 5-3 連続性の観点からみた哺乳類の生息状況の評価

検討項目	変化の状況	ダムとの関連の検証結果	評価		今後の方針	
			視点	評価結果		
生息状況の変化 ダム湖左右岸における哺乳類の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖の左右岸において、哺乳類の確認地点を比較した結果、平成 15 年度に右岸に設置したトラップにて捕獲されたヒメネズミ、平成 10 年度、平成 15 年度に右岸の導水路内で確認されたコウモリ類を除き、ニホンザル、キツネ、ニホンジカ等移動能力の高い種、ヒミズ、ノウサギ、ニホンリス、カヤネズミ等の移動能力の低い種ともに、多くの種が左右岸で確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認された多くの種が左右岸ともに確認されており、左右岸での生息状況に明確な差異は認められなかった。</li> <li>移動能力の低い種については、左右岸で個体群が分断されている可能性が考えられる。</li> </ul>	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>種の多様性の保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良好な状態で推移していると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して哺乳類の生息状況等の推移を確認していく。</li> </ul>

注) 検証結果の記号は以下の内容を示す

- : 室生ダムの影響がみられるもの
- ×: 変化がほとんどみられないもの
- △: 室生ダムの影響が明らかでないもの、もしくは室生ダム以外の影響がみられるもの

## 6.5. まとめ(案)

ダム湖内、及び流入河川、下流河川とダム湖周辺における環境、並びに動植物の生息・生育状況の概要は以下に示すとおりである。また、これらの環境区分ごとに考えられる環境要因と生物の生息・生育との関係を整理し、まとめた内容は図 6.5-1～図 6.5-5 に示すとおりである。

ダム湖を取り巻く植生の状況については、部分的な土地の改変はみられたものの、スギ・ヒノキ植林や、代償植生であるコナラ群落が多くを占めている。なお、近年については、若干ではあるものの、尾根部を中心として乾燥に耐性のあるアカマツの分布が拡大している。また、ダム湖周辺を生息場所とする生物についても、大きな変化はみられていないが、近年では水田や池沼等を産卵環境とするカエル類の減少がみられている。ただし、このカエル類の減少はダムの存在・供用に係る影響ではなく、例えば水田・湿地環境の減少といった、ダム湖の周辺環境の変化に伴う影響であると考えられる。

一方、水域についてみると、室生ダムの建設から一定期間が経過した現在では、ダムの存在により、連続性は既に分断された状態となっている。ダム湖内の生物については、魚類は経年的に優占種が変化している状況にあり、近年では特定外来生物に指定されているブルーギルの生息量が増加する傾向にある。ブルーギル等の肉食性外来種の増加は、室生ダムで再生産が確認されている仔アユをはじめとして、様々な水生生物を捕食している可能性があり、水域生態系に影響を及ぼす可能性があると考えられる。また、ダム湖を利用する鳥類についてみると、開放水面を利用する水鳥には大きな変化はみられていないが、水深の浅い水際環境を利用する水鳥が減少傾向にあり、水鳥にとって利用しづらい水際環境へと変化していることも考えられる。このほか、ダム湖の深部では、嫌氣的な状態となっていることも影響して、底生動物の生息量は少ない状況となっており、特に最深部では顕著となっている。なお、流入河川である宇陀川との連続性については、平成 12 年度に新たに設置された水質保全ダムの影響が示唆され、移動阻害や回遊性魚類の優占種の変化、あるいは底生動物相への影響等が懸念される。

また、流入河川の状況についてみると、魚類では宇陀川や天満川において優占種が変化する傾向がみられているとともに、天満川では魚類の生息量が減少傾向にある。さらに、宇陀川については、底生動物についても、貧腐水性種の確認割合が低くなる傾向がみられており、上述したカエル類への影響と同様に、流入河川周辺における人為的な開発等の影響を受けている可能性があると考えられる。ただし、流入河川の 1 つである深谷川は上流側に集落等はほとんどなく、平成 19 年度には国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオの生息が確認されているなど、良好な状態が保たれている。なお、オオサンショウウオについては、これまでに実施してきた河川水辺の国勢調査(平成 19 年度魚類調査時)において、流入河川である深谷川のみの確認であるが、聞き取り調査により内牧川(流入河川)や下流河川に

も生息していることが確認されている。

このほか、下流河川については、ダムの存在によって河床の攪乱頻度や土砂供給量が減少し、安定的な河床が形成された結果、造網性トビケラ類が優占する状況が続いていた。しかし、平成20年度の底生動物調査結果では、造網性トビケラ類以外の種が優占しており、平成18年度から実施している土砂供給試験等による影響の可能性がある。

○室生ダム貯水池及び周辺地域は、古くから開けているところであり、大きな変化はみられない。また、スギ・ヒノキ植林やコナラ林が多くを占め、植生分布に大きな変化はなく、両生類、爬虫類、哺乳類、陸上昆虫類の確認種や種構成にも多少の変動はみられるものの大きな変化は見られない。

○ダムの存在による流量の平滑化や土砂供給量の減少などから、魚類の種数が流入河川に比べ下流河川の方が少ないなど確認種に変化がみられる。

○ダム湖内において特定外来生物であるブルーギル・オオクチバスが継続的に確認されている。

#### <今後の方針>

今後も河川水辺の国勢調査等により、継続して生物の生息・生育状況等の推移を確認していく。また、ダム下流河川環境保全の取り組みとして、フラッシュ放流やダム下流への土砂供給を継続していく。特定外来種については啓発活動等から検討し、必要に応じて関係機関に連絡を行い対応を検討する。

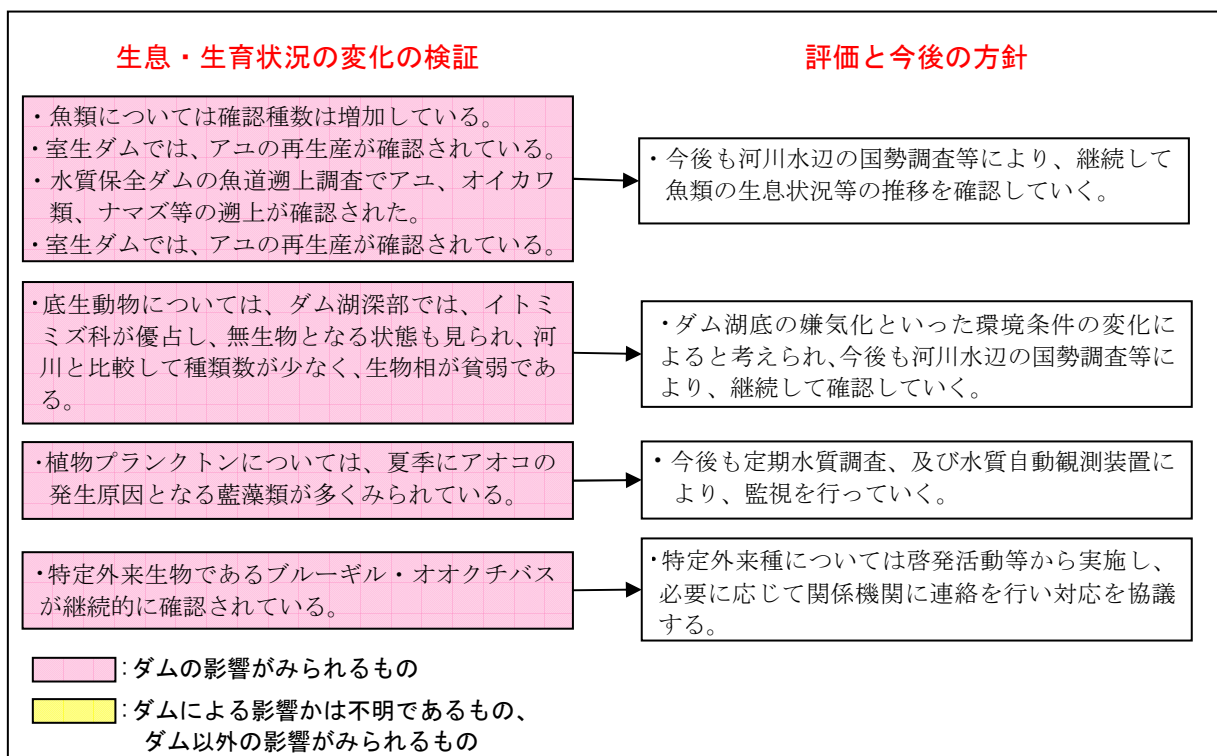


図 6.5-1 ダム湖内における生物の生息・生育状況の変化の検証、及び評価と今後の方針

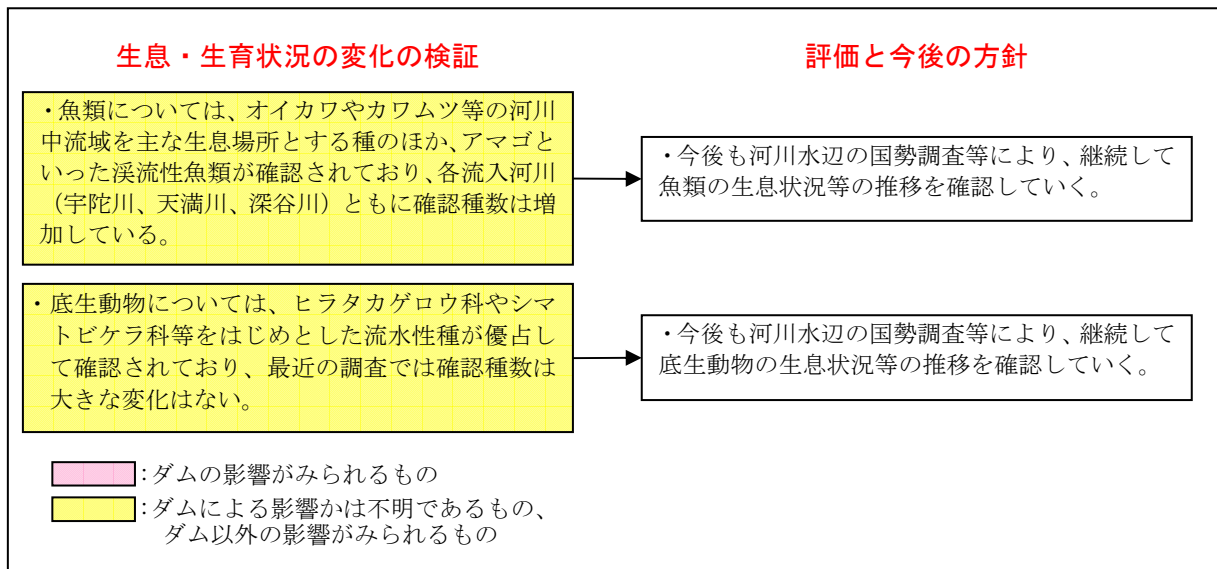


図 6.5-2 流入河川における生物の生息・生育状況の変化の検証、及び評価と今後の方針

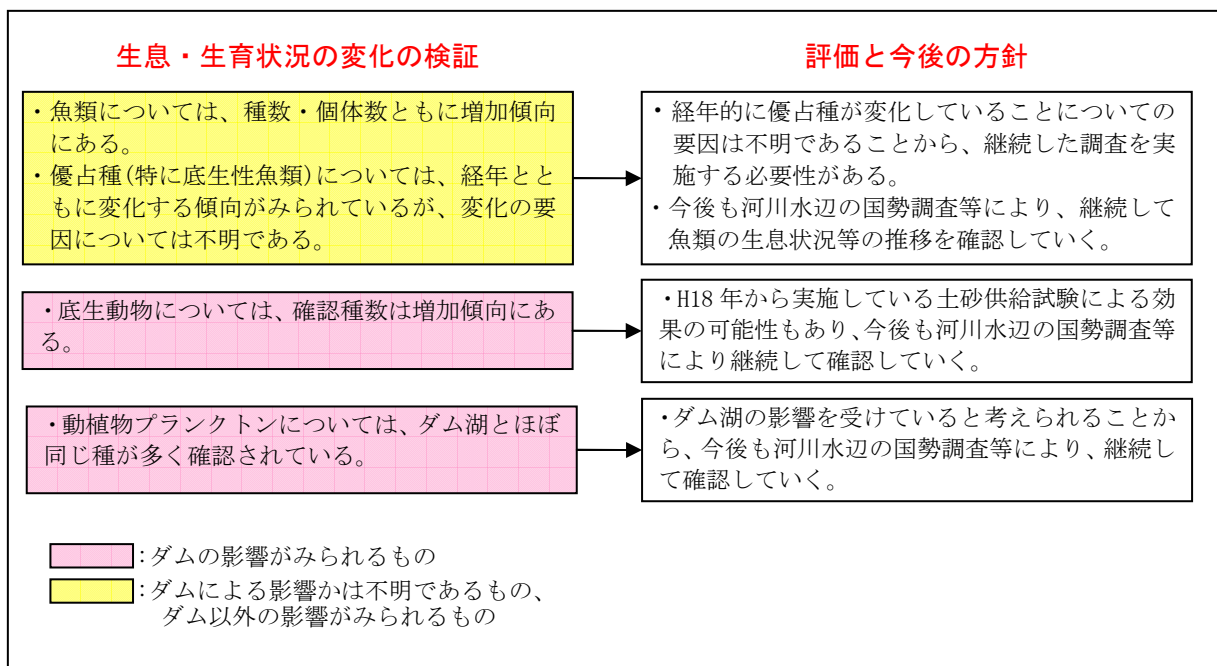


図 6.5-3 下流河川における生物の生息・生育状況の変化の検証、及び評価と今後の方針

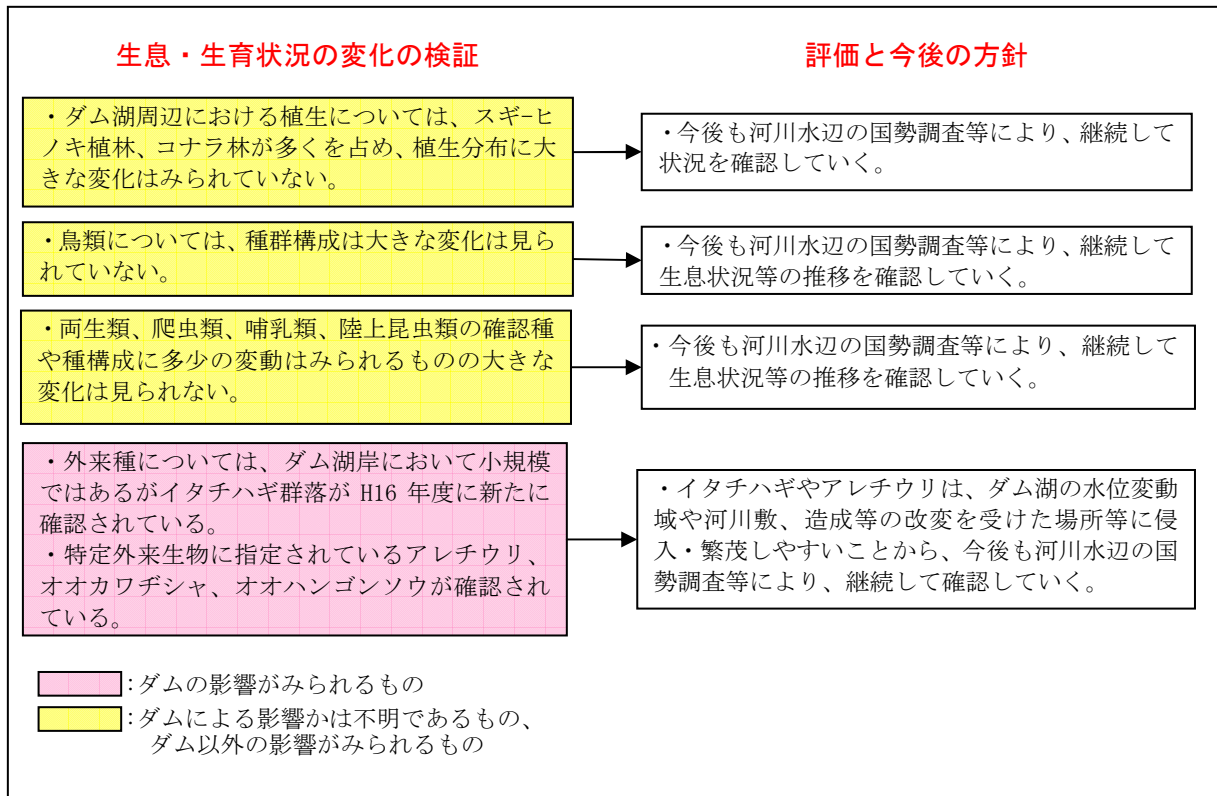


図 6.5-4 ダム湖周辺における生物の生息・生育状況の変化の検証、及び評価と今後の方針

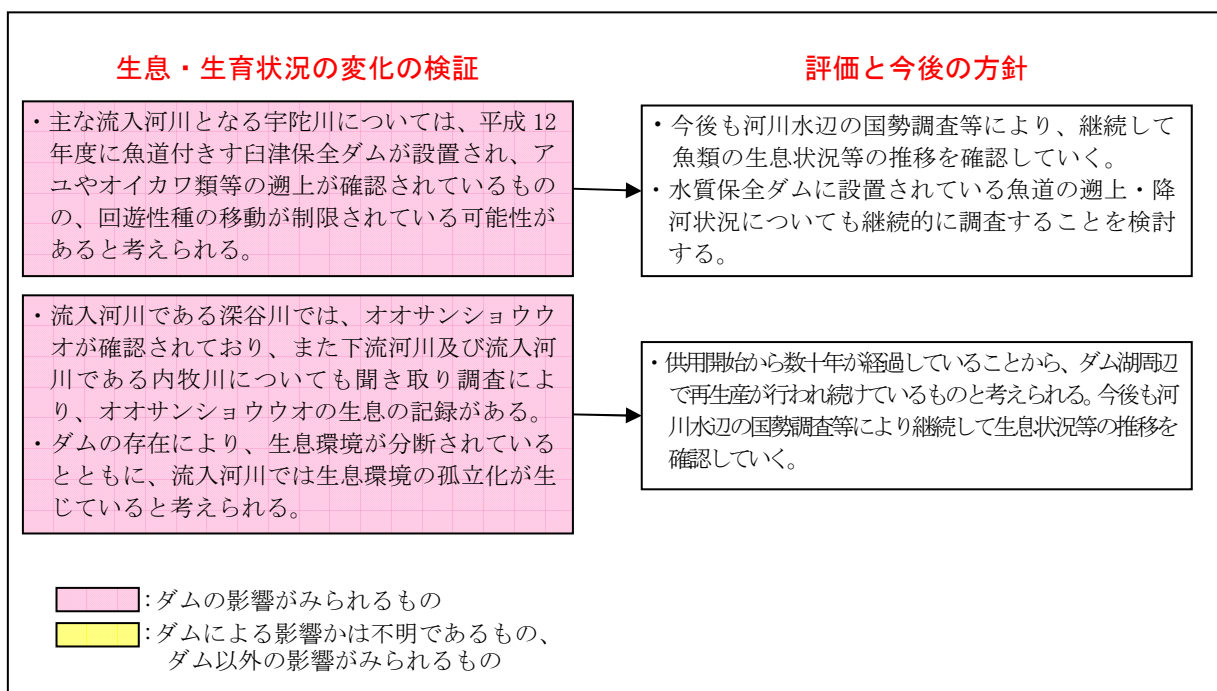


図 6.5-5 連続性(ダム湖と流入河川)の視点からみた生物の生息の状況

## 6.6. 参考資料

### 生物確認種リスト

- (1)ダム湖内確認種リスト
- (2)流入河川内確認種リスト
- (3)下流河川ダム湖内確認種リスト
- (4)ダム湖周辺確認種リスト





## (生物確認種リスト)



(ダム湖内確認種リスト)

表 6.6-1 ダム湖内確認種リスト(魚類)

No.	網名	目名	科名	種名	ダム湖内							
				和名	H4	H5	H8	H13	H19			
1	硬骨魚綱	コイ目	コイ科	コイ								
2				ゲンゴロウブナ								
3				ギンブナ								
4				ニゴロブナ								
5				オオキンブナ								
-				フナ属								
6				ワタカ								
7				ハス								
8				オイカワ								
9				カワムツ								
10				モツゴ								
11				タモロコ								
12				ホンモロコ								
13				カマツカ								
14				コウライニゴイ								
15				ニゴイ								
-				ニゴイ属								
16				スゴモロコ								
17				コウライモロコ								
-				スゴモロコ属								
18						ドジョウ科	ドジョウ					
19				ナマズ目	ナマズ科	ナマズ科	ナマズ					
20					ギギ科	ギギ科	ギギ					
21			サケ目	サケ科	サケ科	アマゴ						
22				アユ科	アユ科	アユ						
23			ダツ目	メダカ科	メダカ科	メダカ						
24			タウナギ目	タウナギ科	タウナギ科	タウナギ						
25			スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ							
26					ウキゴリ							
27					トウヨシノボリ							
28					カワヨシノボリ							
-	ヨシノボリ属											
29	ヌマチチブ											
30		サンフィッシュ科			サンフィッシュ科	ブルーギル						
31				オオクチバス(ブラックバス)								
1網6目10科31種					11種	14種	20種	23種	26種			
					31種							

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-2 ダム湖内確認種リスト(エビ・カニ・貝類)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖内			
					H4	H5	H8	H13
1	マキガイ綱(腹足綱)	ニナ目(中腹足目)	タニシ科	オオタニシ				
2				ヒメタニシ				
3			カワニナ科	カワニナ				
4				チリメンカワニナ				
5			モノアラガイ目(基眼目)	モノアラガイ科	モノアラガイ			
6	ニマイガイ綱(二枚貝綱)	ハマグリ目(マルスダレガイ目)	シジミ科	マシジミ				
7	甲殻綱	エビ目(十脚目)	テナガエビ科	テナガエビ				
8				スジエビ				
9			ヌマエビ科	ミナミヌマエビ				
10			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ				
11			サワガニ科	サワガニ				
3綱4目8科11種					3種	5種	6種	6種
					9種			

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.表中の数は、個体数を示す。

表 6.6-3 ダム湖内確認種リスト(底生動物 : 1/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	ダム湖内				
					H5	H7	H12	H17	H20
1	普通海綿綱	ザラカイメン目(単骨海綿目)	タンスイカイメン科	ヨウカイメン タンスイカイメン科					
2	ヒドロ虫綱	無鞘目(花クラゲ目)	ヒドロ科	ヒドロ科					
3	ウズムシ綱(渦虫綱)	ウズムシ目(三岐腸目)	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ					
-	-	-	-	ウズムシ目(三岐腸目)					
-	-	-	-	ウズムシ綱(渦虫綱)					
4	-	-	-	ひも(紐)形動物門					
5	-	-	-	線形動物門					
6	マキガイ綱(腹足綱)	二ナ目(中腹足目)	タニシ科	オオタニシ ヒメタニシ					
7	-	-	-	カワニナ科					
8	-	-	-	カワニナ					
9	-	-	-	チリメンカワニナ					
-	-	-	-	Semisulcospira属					
10	-	-	-	モノアラガイ目(基眼目)					
11	-	-	-	カワコザラガイ科					
12	-	-	-	モノアラガイ科					
13	-	-	-	ヒメモノアラガイ					
-	-	-	-	コシダカヒメモノアラガイ					
-	-	-	-	Radix属					
14	-	-	-	モノアラガイ科					
15	-	-	-	サカマキガイ科					
16	-	-	-	ヒラマキガイ科(+インドヒラマキガイ科)					
-	-	-	-	Gyraulus属					
-	-	-	-	ヒラマキガイモドキ					
17	ニマイガイ綱(二枚貝綱)	イシガイ目	イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)					
18	-	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ					
-	-	-	-	Corbicula属					
19	-	-	-	マメシジミ科					
-	-	-	-	Pisidium属					
20	-	-	-	ドブシジミ科					
-	-	-	-	ドブシジミ					
21	ミミス綱(貧毛綱)	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ科					
22	-	ナガミズ目	ビワミズ科	ヤマトヒモミズ					
23	-	-	-	ヒメミズ科					
24	-	-	-	ナガミズ科					
25	-	-	-	ツリミズ科					
-	-	-	-	Al lolobophora属					
-	-	-	-	ツリミズ科					
26	-	-	-	フトミズ科					
-	-	-	-	Pheretima属					
-	-	-	-	フトミズ科					
27	-	-	-	ミズミズ科					
-	-	-	-	Chaetogaster属					
28	-	-	-	Dero属					
29	-	-	-	Nais属					
30	-	-	-	Ophidonais属					
31	-	-	-	Slavina属					
32	-	-	-	テングミズミズ					
-	-	-	-	Stylaria属					
-	-	-	-	ミズミズ科					
33	-	-	-	イトミズ科					
-	-	-	-	エラミズ					
34	-	-	-	ユリミズ					
-	-	-	-	Limnodrilus属					
35	-	-	-	イトミズ					
-	-	-	-	Tubifex属					
-	-	-	-	イトミズ科					
36	-	-	-	ヒモミズ科					
-	-	-	-	ナガミズ目					
-	-	-	-	ミズ綱					
37	ヒル綱	ノドビル目(咽蛭目)	イシビル科	ナミイシビル イシビル科					
38	クモ綱(蛛形綱)	ダニ目	-	ダニ目					
39	甲殻綱	ワラジムシ目(等脚目)	ミズムシ科	ミズムシ ミズムシ科					
-	-	-	-	ハマトビムシ科					
40	-	ヨコエビ目(端脚目)	ハマトビムシ科	ハマトビムシ科					
41	-	エビ目(十脚目)	テナガエビ科	テナガエビ					
42	-	-	-	スジエビ					
43	-	-	-	アメリカザリガニ科					
44	-	-	-	サワガニ科					
45	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	マエグロヒメフタオカゲロウ Ameletus属					
46	-	-	-	ココゲロウ科					
47	-	-	-	ミツオミジカオフタバコカゲロウ					
48	-	-	-	ミジカオフタバコカゲロウ					
-	-	-	-	フタバコカゲロウ					
-	-	-	-	Baetiella属					
49	-	-	-	トビイロココゲロウ					
50	-	-	-	サホココゲロウ					
51	-	-	-	フタモンココゲロウ					
52	-	-	-	シロハラココゲロウ					
53	-	-	-	ヤマトココゲロウ					
54	-	-	-	ヨシノココゲロウ					
55	-	-	-	Dココゲロウ					
56	-	-	-	Eココゲロウ					
57	-	-	-	Gココゲロウ					
58	-	-	-	Hココゲロウ					
59	-	-	-	Iココゲロウ					
60	-	-	-	Jココゲロウ					
-	-	-	-	Baetis属					
61	-	-	-	Cloeon属					
62	-	-	-	ウスイロフトヒゲココゲロウ					
63	-	-	-	Proclaeon属					
64	-	-	-	ガガンボカゲロウ科					
65	-	-	-	ガガンボカゲロウ					
66	-	-	-	フタオカゲロウ科					
-	-	-	-	Siphonurus属					
67	-	-	-	ヒラタカゲロウ科					
-	-	-	-	オビカゲロウ					
68	-	-	-	Cinygmula属					
69	-	-	-	キブネタニガワカゲロウ クロナニガワカゲロウ					

表 6.6-3 ダム湖内確認種リスト(底生動物 : 2/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	ダム湖内								
					H5	H7	H12	H17	H20				
70	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ									
-				Eodyonurus属									
71				ウエノヒラタカゲロウ									
72				ナミヒラタカゲロウ									
73				エルモンヒラタカゲロウ									
74				ユミモンヒラタカゲロウ									
-				Epeorus属									
75				キョウトキハダヒラタカゲロウ									
76				サツキヒメヒラタカゲロウ									
77				チラカゲロウ科	チラカゲロウ								
78				トビロカゲロウ科	ヒメトビロカゲロウ								
79					ウエストントビロカゲロウ								
-				Paralectophtibia属									
80				トビロカゲロウ科	Thraulius属								
81					フタシモンカゲロウ								
82				モンカゲロウ科	トウヨウモンカゲロウ								
83					モンカゲロウ								
84				シロイロカゲロウ科	オオシロカゲロウ								
85				カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ								
86				マダラカゲロウ科	クロマダラカゲロウ								
87					オオクママダラカゲロウ								
-					Cincticostella属								
88					オオマダラカゲロウ								
89					ヨシノマダラカゲロウ								
90					シリナガマダラカゲロウ								
91					ツノマダラカゲロウ								
92					ホソハマダラカゲロウ								
93					イマシマダラカゲロウ								
94					クシゲマダラカゲロウ								
-					Ephemereella属								
95					エラブタマダラカゲロウ								
96					アカマダラカゲロウ								
97					ヒメシロカゲロウ科	Caenis属							
98					トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	Cercion属						
99							アジアイトトンボ						
-				Ischnura属									
-				イトトンボ科									
100				カワトンボ科			ハグロトンボ						
101							ミヤマカワトンボ						
-							Calopteryx属						
102							アサヒナカワトンボ						
103							ニホンカワトンボ						
-							Mnais属						
104							ムカシトンボ科	ムカシトンボ					
105							ヤンマ科	マルタンヤンマ					
106								ギンヤンマ					
107								コシボソヤンマ					
108				ミルンヤンマ									
109				サナエトンボ科			ミヤマサナエ						
110							ヤマサナエ						
111							キイロサナエ						
-							Asiagomphus属						
112							クロサナエ						
113							ダビドサナエ						
-							Davidius属						
114							ホンサナエ						
115							アオサナエ						
116							オナガサナエ						
117							コオニヤンマ						
118							オジロサナエ						
-				サナエトンボ科									
119				オニヤンマ科			オニヤンマ						
120				エゾトンボ科			オオヤマトンボ						
121							コヤマトンボ						
-				エゾトンボ科									
122				トンボ科			ショウジョウトンボ						
123							シオカラトンボ						
124							オオシオカラトンボ						
125							コシアキトンボ						
126							マイコアカネ						
-							Sympetrum属						
127							クロカワゲラ科	クロカワゲラ科					
128							ミドリカワゲラ科	ミドリカワゲラ科					
129							ハラジロオナシカワゲラ科	ハラジロオナシカワゲラ科					
130							オナシカワゲラ科	Amphinemura属					
131				Nemoura属									
-				オナシカワゲラ科									
132				ヒロムネカワゲラ科			ノギカワゲラ						
133				カワゲラ科			Gibosia属						
134							Kanimuria属						
135							マエキフタツメカワゲラモドキ						
-							Kiotina属						
136							ヤマトフタツメカワゲラ						
-							Neoperla属						
137							ヤマトカワゲラ						
138							Oyamia属						
139				Paragnetina属									
140				Togoperla属									
-				カワゲラ科									

表 6.6-3 ダム湖内確認種リスト(底生動物 : 3/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	ダム湖内					
					H5	H7	H12	H17	H20	
141	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	アミメカワゲラ科	Isoperla属						
142				Ostrovus属						
143		Stavsolus属								
-		アミメカワゲラ科								
144		カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	アメンボ						
145				コセアカアメンボ						
146				ヒメアメンボ						
147				シマアメンボ						
-				アメンボ亜科						
-				アメンボ科						
148				ミスムシ科	Micronecta属					
149					コミスムシ					
-					Sigara属					
150				コオイムシ科	コオイムシ					
151	オオコオイムシ									
152	タイコウチ科	タイコウチ								
153	ミスカマキリ									
154	ナベブタムシ科	ナベブタムシ								
155	マツモムシ科	マツモムシ								
156	アミメカゲロウ目(脈翅目)	ヘビトンボ科	クロスジヘビトンボ							
-			Parachauliodes属							
157			ヘビトンボ							
158	ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科								
159		ミスカゲロウ科	ミスカゲロウ							
160	トビケラ目(毛翅目)	ムネカクトビケラ科	Ecnomus属							
161		カウトビケラ科	Dolophilodes属							
162	アミメカゲロウ目(脈翅目)	ミスカゲロウ科	Normadia属IIA							
163		イワトビケラ科	Plectrocnemia属							
164		クダトビケラ科	Psychomyia属							
-		クダトビケラ科								
165		ヒゲナガカウトビケラ科	ヒゲナガカウトビケラ							
166		チャバネヒゲナガカウトビケラ								
167		キブネクダトビケラ科	キブネクダトビケラ							
168		ヤマトビケラ科	Agapetus属							
-			イノブスヤマトビケラ							
-			Glossosoma属							
170		ツメナガナガレトビケラ科	ツメナガナガレトビケラ							
171		ヒメトビケラ科	Hydroptila属							
172		ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ							
173			クレメンスナガレトビケラ							
174	カウムラナガレトビケラ									
175	キソナガレトビケラ									
176	レゼイナガレトビケラ									
177	ムナグロナガレトビケラ									
178	シコツナガレトビケラ									
179	トランスクワイナガレトビケラ									
180	ヤマナカナガレトビケラ									
181	Rhyacophila sp.RA									
182	Rhyacophila sp.RK									
-	Rhyacophila属									
183	コエグリトビケラ科		Apatania属							
184	カクスイトビケラ科		ハナセマルツツトビケラ							
185		ウエノマルツツトビケラ								
-	Micrasema属									
186	アシエダトビケラ科	Anisocentropus属								
187	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ								
188	カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ								
-		Lepidostoma属								
189	ヒゲナガトビケラ科	Ceraclea属								
190		Leptocerus属								
191		Mystacides属								
192		Oecetis属								
193		Setodes属								
194		Triaenodes属								
-		ヒゲナガトビケラ科								
195		エグリトビケラ科	トビロトビケラ							
196		マルバネトビケラ科	Phryganopsyche属							
197		ケトビケラ科	グマガトビケラ							
-			Gumage属							
198		シマトビケラ科	コガタシマトビケラ							
199			ナミコガタシマトビケラ							
-			Cheumatopsyche属							
200	Diplectrona属									
201	オオヤマシマトビケラ									
202	ギフシマトビケラ									
203	ウルマシマトビケラ									
204	ナカハラシマトビケラ									
205	Hydropsyche属HB									
-	Hydropsyche属									
206	オオシマトビケラ									
207	エチゴシマトビケラ									
-	トビケラ目(毛翅目)									
208	チョウ目(鱗翅目)		ツトガ科	キオビミスメイガ						
209		メイガ科	メイガ科							
210	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ヒメウスバガガンボ							
-			Antocha属							
211			Dicranota属							
212			Eriocera属							
213			昆虫綱	ハエ目(双翅目)	Hexatoma属EB					
214					Hexatoma属ED					
-					Hexatoma属					
215					Limnophila属					
216					Pilaria属					
217					Scleroprocta属					
218	Tipula属TA									



表 6.6-3 ダム湖内確認種リスト(底生動物 : 4/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	ダム湖内				
					H5	H7	H12	H17	H20
219	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tipula属TC					
-				Tipula属					
-				ガガンボ亜科					
-				ガガンボ科					
220			チョウバエ科	チョウバエ科					
221			ヌカカ科	ヌカカ科					
222			ユスリカ科	Abalabesmyia longistyla					
-				Abalabesmyia属					
223				Anatopynia属AA					
224				Brillia属BC					
-				Brillia属					
225				Calopsectra属CA					
-				Calopsectra属					
226				Cardiocladius属CF					
-				Cardiocladius属					
227				Chironomus bathophilus					
228				フチグロユスリカ					
229				Chironomus strenzkei					
230				セスジュスリカ					
-				Chironomus属					
231				Cladotanytarsus属					
232				Conchapelopia属					
233				Corynoneura属					
234				Cricotopus属CN					
235				Cryptochironomus属BC					
236				Cryptochironomus属DC					
-				Cryptochironomus属					
237				Demicryptochironomus属					
238				Diaesa属GA					
239				Diaesa属GC					
240				Diaesa属PB-3					
241				Dicrotendipes属					
242				Einfeldia属EA					
243				Einfeldia属EB					
-				Einfeldia属					
244				Eukiefferiella属ED					
245				Fissimentum属FA					
246				Glyptotendipes属					
247				Heterotrissociadius属EC					
-				Heterotrissociadius属					
248				Hydrobaenus属					
249				Limnophyes属					
250				Macropelopia属					
251				Micropsectra属					
252				Microtendipes属WA					
253				Microtendipes属MB					
-				Microtendipes属					
254				Neobriillia属					
255				Orthocladius属CA					
256				Orthocladius属CC					
-				Orthocladius属					
257				Pagastia属					
258				Pantaneura属FA					
259				Paracladopelma属					
260				Paratendipes属PB					
-				Paratendipes属					
261				Polypedilum属PA					
262				Polypedilum属PD					
263				Polypedilum属PE					
-				Polypedilum属					
264				Potthastia属					
265				Procladius属PA					
266				Procladius属PB					
-				Procladius属					
267				Psectrocladius属					
268				Rheocricotopus属RB					
269				Rheocricotopus属RE					
-				Rheocricotopus属					
270				Rheotanytarsus属					
271				Stempellinella属					
272				Stenochironomus属					
273				Stictochironomus属SA					
274				Stictochironomus属SC					
-				Stictochironomus属					
275				Tanytarsus属CM					
-				Tanytarsus属					
276				Thienemannella属					
277				Tvetenia属					
-				モンユスリカ亜科					
-				エリユスリカ亜科					
-				ユスリカ亜科					
-				ユスリカ科					
278			カ科	Culex属					
279				ハマダラカ亜科					
280			ホソカ科	Dixa属					
-				ホソカ科					
281			ブコ科	Prosimulium属					
282				キアシツメトゲブコ					
-				Simulium属					
283			ナガレアブ科	ハマダラナガレアブ					
284				コモンナガレアブ					
285				クロモンナガレアブ					
-				ナガレアブ科					
286			ミズアブ科	ミズアブ科					
287			アシナガバエ科	アシナガバエ科					
288			オドリバエ科	オドリバエ科					
289			ミギワバエ科	ミギワバエ科					
-				ハエ目					

表 6.6-3 ダム湖内確認種リスト(底生動物 : 5/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	ダム湖内						
					H5	H7	H12	H17	H20		
290	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ							
291				マメゲンゴロウ							
292				クロゲンゴロウ							
293				シマゲンゴロウ							
294				ヨシマゲンゴロウ							
295				ケシゲンゴロウ							
296				モンキマメゲンゴロウ							
297				ヒメゲンゴロウ							
-				ヒメゲンゴロウ亜科							
-				ゲンゴロウ亜科							
-				ゲンゴロウ科							
298				ダルマガムシ科		ダルマガムシ科					
299				ガムシ科		ヤマトゴマフガムシ					
300					ガムシ						
301					ヒメガムシ						
-					ガムシ科						
302				マルハナノミ科		Elodes属					
303						Hydrocyphon属					
-						マルハナノミ科					
304				ヒメドロムシ科		ツヤナガアシドロムシ					
305						ツヤヒメドロムシ					
306						ゴトウミゾドロムシ					
307						イブシアシナガドロムシ					
308					Zaitzevia属						
309					ホソヒメツヤドロムシ						
310					マルヒメツヤドロムシ						
-					ヒメドロムシ亜科						
-				ヒメドロムシ科							
311			ヒラタドロムシ科		Cophaesthetus属						
312					チビヒゲナガハナノミ						
-			ヒラタドロムシ科		Ectopria属						
313					Eubrianax属						
314		チビマルヒゲナガハナノミ									
315		ヒラタドロムシ									
-		Mataeopsephus属									
316		マスダチビヒラタドロムシ									
-		Psephenoides属									
317	ナガハナノミ科		ナガハナノミ科								
318	ホタル科		ゲンジボタル								
319	コケムシ綱	掩喉目	ヒメテンコケムシ科	ヒメテンコケムシ							
320			ハネコケムシ科	ハネコケムシ科							
321		櫛口目	チャミドロコケムシ科	チャミドロコケムシ							
13綱28目112科321種					5種	27種	71種	44種	39種		
					115種						

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「...属」「...科」「...亜科」「...目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。  
3.表中の数は個体数を示す。  
なお、個体数は定量採集及び定性採集で確認された個体数の合計を示している。なお、報告書中に「>100」と記載してあるものについては100として扱った。  
4.表中の「\*」は、群体系的な種であることを示す。ただし、実数で記載されているものについては、実数を記載した。

表 6.6-4 ダム湖内確認種リスト(植物プランクトン : 1/3)

No.	綱名	科名	種名	ダム湖内				
			学名	H5	H11	H16	H18	
1	藍藻	クロオコックス	<i>Aphanocapsa elachista</i>					
-			<i>Aphanocapsa</i> sp.					
2			<i>Aphanothece</i> sp.					
3			<i>Chroococcus</i> sp.					
4			<i>Dactylococcopsis fascicularis</i>					
5			<i>Merismopedia elegans</i>					
6			<i>Merismopedia tenuissima</i>					
7			<i>Microcystis aeruginosa</i>					
8		<i>Microcystis wesenbergii</i>						
9		ネンジュモ	<i>Anabaena flos-aquae</i>					
10			<i>Anabaena spiroides</i>					
-			<i>Anabaena</i> sp.					
11			<i>Aphanizomenon flos-aquae</i>					
12		ユレモ	<i>Raphidiopsis</i> sp.					
13			<i>Oscillatoria agardhii</i>					
14			<i>Oscillatoria tenuis</i>					
-			<i>Oscillatoria</i> sp.					
15	<i>Phormidium autumnale</i>							
16	<i>Phormidium retzii</i>							
17	<i>Phormidium tenue</i>							
-	<i>Phormidium</i> sp.							
18	紅藻	オオジュイネラ	<i>Audouinella chalybea</i>					
19	クリプト藻	クリプトモナス	<i>Cryptomonas ovata</i>					
-			<i>Cryptomonas</i> sp.					
20			<i>Rhodomonas</i> sp.					
21	渦鞭毛藻	ギムノディニウム	<i>Gymnodinium helveticum</i>					
22		グレンノディニウム	<i>Glenodinium pulvisculus</i>					
-		<i>Glenodinium</i> sp.						
23		セラティウム	<i>Ceratium hirundinella</i>					
24		ペリディニウム	<i>Peridinium bipes</i> f. <i>occultatum</i>					
25		<i>Peridinium elpatiewskyi</i>						
26		<i>Peridinium volzii</i>						
-	<i>Peridinium</i> sp.							
27	黄金色藻	ディノブリオン	<i>Dinobryon cylindricum</i>					
28			<i>Dinobryon divergens</i>					
29			<i>Dinobryon sertularia</i>					
30		シヌラ	<i>Mallomonas akrokomos</i>					
31			<i>Mallomonas fastigata</i>					
32			<i>Mallomonas tonsurata</i>					
33	<i>Synura uvella</i>							
34	珪藻	タラシオシラ	<i>Cyclotella asterocostata</i>					
35			<i>Cyclotella glomerata</i>					
36			<i>Cyclotella meneghiniana</i>					
37			<i>Cyclotella radiosa</i>					
38			<i>Cyclotella stelligera</i>					
-			<i>Cyclotella</i> sp.					
39			<i>Skeletonema subsalsum</i>					
40			<i>Stephanodiscus carconensis</i>					
41			メロシラ	<i>Aulacoseira distans</i>				
42				<i>Aulacoseira granulata</i>				
43		<i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i>						
44		<i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i>						
45		<i>Aulacoseira italica</i>						
46		<i>Melosira varians</i>						
47		リゾソレニア	<i>Rhizosolenia setigera</i>					
48		ピドルフィア	<i>Acanthoceros zachariasii</i>					
49		ディアトマ	<i>Asterionella formosa</i>					
50	<i>Diatoma vulgare</i>							
51	<i>Fragilaria capucina</i>							
52	<i>Fragilaria crotonensis</i>							
53	<i>Fragilaria tenera</i>							
-	<i>Fragilaria</i> sp.							
54	<i>Hannaea arcus</i>							
55	<i>Stausosira construens</i> var. <i>binodis</i>							

表 6.6-4 ダム湖内確認種リスト(植物プランクトン : 2/3)

No.	綱名	科名	種名	ダム湖内				
			学名	H5	H11	H16	H18	
56	珪藻	ディアトマ	<i>Synedra acus</i>					
57			<i>Synedra rumpens</i>					
58			<i>Synedra ulna</i>					
59			<i>Synedra ulna var. oxyrhynchus</i>					
60		アクナンテス	<i>Achnanthes brevipes</i>					
61			<i>Achnanthes japonica</i>					
62			<i>Achnanthes lanceolata</i>					
-			<i>Achnanthes</i> sp.					
63			<i>Cocconeis placentula</i>					
-		<i>Cocconeis</i> sp.						
64		ナビクラ	<i>Amphora ovalis</i>					
65			<i>Cymbella aspera</i>					
66			<i>Cymbella tumida</i>					
67			<i>Cymbella turgidula</i>					
-			<i>Cymbella</i> sp.					
68			<i>Encyonema minutum</i>					
69			<i>Gomphonema quadripunctatum</i>					
70			<i>Gomphonema acuminatum</i>					
71			<i>Gomphonema angustatum</i>					
72			<i>Gomphonema clevei</i>					
73			<i>Gomphonema helveticum</i>					
74			<i>Gomphonema parvulum</i>					
75			<i>Gomphonema tetrastigmatum</i>					
-			<i>Gomphonema</i> sp.					
76			<i>Navicula cinctaeformis</i>					
77			<i>Navicula cryptocephala</i>					
78			<i>Navicula exigua</i>					
79			<i>Navicula gregaria</i>					
80			<i>Navicula pupula</i>					
81			<i>Navicula radiosa</i>					
82			<i>Navicula viridula</i>					
-			<i>Navicula</i> sp.					
83			<i>Pinnularia</i> sp.					
84			<i>Stauroneis</i> sp.					
85			ニッチア	<i>Bacillaria paradoxa</i>				
86				<i>Nitzschia acicularis</i>				
87				<i>Nitzschia agnita</i>				
88				<i>Nitzschia amphibia</i>				
89				<i>Nitzschia clausii</i>				
90				<i>Nitzschia dissipata</i>				
91				<i>Nitzschia inconspicua</i>				
92				<i>Nitzschia linearis</i>				
93		<i>Nitzschia palea</i>						
94		<i>Nitzschia paleacea</i>						
95		<i>Nitzschia parvula</i>						
-		<i>Nitzschia</i> sp.						
96		スリレラ	<i>Surirella tenera</i>					
-			<i>Surirella</i> sp.					
97		ミドリムシ藻	ミドリムシ	<i>Euglena</i> sp.				
98				<i>Phacus</i> sp.				
99				<i>Trachelomonas</i> sp.				
100		緑藻	クラミドモナス	<i>Carteria cordiformis</i>				
101				<i>Carteria globulosa</i>				
102				<i>Carteria klebsii</i>				
103				<i>Carteria peterhofiensis</i>				
-				<i>Carteria</i> sp.				
104				<i>Chlamydomonas</i> sp.				
105			<i>Chlorogonium elongatum</i>					
106			オオヒゲマワリ	<i>Eudorina elegans</i>				
107				<i>Pandorina morum</i>				
108				<i>Volvox aureus</i>				

表 6.6-4 ダム湖内確認種リスト(植物プランクトン : 3/3)

No.	綱名	科名	種名	ダム湖内			
			学名	H5	H11	H16	H18
109	緑藻	ヨツメモ	<i>Tetraspora lacustris</i>				
110		パルメロプシス	<i>Chlamydocapsa gigas</i>				
111		キアラキウム	<i>Ankyra ancora</i>				
112		クロロコックム	<i>Schroederia ancora</i>				
113			<i>Schroederia setigera</i>				
114			<i>Tetraedron minimum</i>				
115		パルメラ	<i>Sphaerocystis schroeteri</i>				
116		オオキスティス	<i>Ankistrodesmus falcatus</i>				
117			<i>Chodatella</i> sp.				
118			<i>Closteriopsis longissima</i>				
119			<i>Kirchneriella contorta</i>				
120			<i>Oocystis borgei</i>				
121			<i>Oocystis parva</i>				
-			<i>Oocystis</i> sp.				
122		ゴレンキニア	<i>Golenkinia radiata</i>				
123	ミクラクティニウム	<i>Micractinium pusillum</i>					
124	セネデスムス	<i>Actinastrum hantzschii</i>					
125		<i>Coelastrum cambricum</i>					
126		<i>Coelastrum microporum</i>					
127		<i>Coelastrum sphaericum</i>					
128		<i>Crucigenia curcifera</i>					
129		<i>Crucigenia tetrapedia</i>					
130		<i>Crucigeniella rectangularis</i>					
131		<i>Scenedesmus acuminatus</i>					
132		<i>Scenedesmus arcuatus</i>					
133		<i>Scenedesmus ecornis</i>					
134		<i>Scenedesmus quadricauda</i>					
-	<i>Scenedesmus</i> sp.						
135	アミドロ	<i>Pediastrum biwae</i>					
136		<i>Pediastrum duplex</i>					
137		<i>Pediastrum simplex</i>					
138		<i>Pediastrum tetras</i>					
139	コッコミクサ	<i>Elakatothrix gelatinosa</i>					
140	ヒビミドロ	<i>Klebsormidium</i> sp.					
141		<i>Koliella elongata</i>					
142	ミクロスボラ	<i>Microspora</i> sp.					
143	カエトフォラ	<i>Cloniophora plumosa</i>					
144		<i>Stigeoclonium</i> sp.					
145	サヤミドロ	<i>Oedogonium</i> sp.					
146	ツヅミモ	<i>Arthrodesmus</i> sp.					
147		<i>Closterium aciculare</i>					
148		<i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>					
149		<i>Closterium acutum</i> var. <i>variabile</i>					
-		<i>Closterium</i> sp.					
150		<i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>					
151		<i>Staurastrum mucronatum</i>					
152		<i>Staurastrum mucronatum</i> var. <i>subtriangulare</i>					
-		<i>Staurastrum</i> sp.					
7門8綱16目39科152種				59種	94種	64種	37種
				124種			

注) 1.種名及び分類は、「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-5 ダム湖内確認種リスト(動物プランクトン : 1/2)

No.	門名	綱名	科名	種名	ダム湖内					
				学名	H5	H11	H16	H18		
1	肉質鞭毛虫	葉状根足虫	アルケラ	<i>Arcella vulgaris</i>						
2			ディフルギア	<i>Diffugia corona</i>						
3				<i>Diffugia limnetica</i>						
4			ケントロピキシス	<i>Centropyxis aculeata</i>						
5		糸状根足虫	キフォテリア	<i>Cyphoderia sp.</i>						
6			エウグリファ	<i>Euglypha sp.</i>						
7		真正太陽虫	-	<i>Acanthocystis pectinata</i>						
8				<i>Acanthocystis sp.</i>						
9	繊毛虫	キネトフラグミノフォーラ	ホロフリア	<i>Askenasia volvox</i>						
10				<i>Didinium nasutum</i>						
11			トラケリウス	<i>Paradileptus robustus</i>						
-				<i>Paradileptus sp.</i>						
12			アンフィレプス	<i>Amphileptus claparedeii</i>						
13				<i>Dileptus anser</i>						
-				<i>Dileptus sp.</i>						
14				<i>Lionotus lamella</i>						
15			少膜	パラメキウム	<i>Colpidium sp.</i>					
16						<i>Glaucoma scintillans</i>				
17						<i>Leucophrydium putrinum</i>				
18						<i>Paramecium sp.</i>				
19		エピスティリス		<i>Epistylis plicatilis</i>						
-				<i>Epistylis sp.</i>						
20		ボルティケラ		<i>Carchesium polypinum</i>						
-				<i>Carchesium sp.</i>						
21			<i>Vorticella campanula</i>							
-			<i>Vorticella sp.</i>							
22		多膜	ストロンビディウム	<i>Strombidinopsis gyrans</i>						
23					<i>Strombidium viride</i>					
24			フデツツカラムシ	<i>Tintinnidium cylindrata</i>						
25					<i>Tintinnidium fluviatile</i>					
-				<i>Tintinnidium sp.</i>						
26			スナカラムシ	<i>Codonella cratera</i>						
-			-	CILIOPHORA						
27		輪形動物	単生殖巣	ツボワムシ	<i>Brachionus angularis angularis</i>					
28					<i>Brachionus angularis bidens</i>					
29					<i>Brachionus calyciflorus</i>					
30					<i>Brachionus forficula</i>					
31					<i>Kellicottia longispina longispina</i>					
32					<i>Keratella cochlearis f. cochlearis</i>					
33					<i>Keratella cochlearis f. macracantha</i>					
34					<i>Keratella cochlearis f. micracantha</i>					
35					<i>Keratella cochlearis f. tecta</i>					
36					<i>Keratella quadrata quadrata</i>					
37					<i>Keratella valga valga</i>					
38					<i>Notholca labis</i>					
-					<i>Notholca sp.</i>					
39					<i>Schizocerca diversicornis</i>					
40	ハオリワムシ				<i>Colurella obtusa</i>					
41						<i>Colurella uncinata</i>				
-						<i>Colurella sp.</i>				
42						<i>Dipleuchlanis propatula</i>				
43					<i>Euchlanis dilatata</i>					
44					<i>Lepadella oblonga</i>					
-				<i>Lepadella sp.</i>						
45				<i>Trichotria tetractis</i>						
46	ツキガタワムシ			<i>Lecane ludwigii</i>						
47					<i>Lecane luna</i>					
48					<i>Monostyla bulla</i>					
49					<i>Monostyla lunaris</i>					
-				<i>Monostyla sp.</i>						
50	セナカワムシ			<i>Cephalodella sp.</i>						
51					<i>Notommata sp.</i>					
52					<i>Scardium longicaudum</i>					
53	ネズミワムシ			<i>Diurella rousseleti</i>						
54					<i>Diurella porcellus</i>					
55			<i>Diurella stylata</i>							
56			<i>Trichocerca birostris</i>							
57			<i>Trichocerca capucina</i>							
58			<i>Trichocerca cylindrica</i>							
59			<i>Trichocerca elongata</i>							
-		<i>Trichocerca sp.</i>								

表 6.6-5ダム湖内確認種リスト(動物プランクトン : 2/2)

No.	門名	綱名	科名	種名	ダム湖内							
				学名	H5	H11	H16	H18				
60	輪形動物	単生殖巣	ハラアシワムシ	<i>Chromogaster ovalis</i>								
61			ヒゲワムシ	<i>Ploesoma truncatum</i>								
62				<i>Polyarthra euryptera</i>								
63				<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>								
64				<i>Synchaeta stylata</i>								
-				<i>Synchaeta sp.</i>								
65				フクロワムシ	<i>Asplanchna priodonta</i>							
-					<i>Asplanchna sp.</i>							
66				ミジンコワムシ	<i>Hexarthra mira</i>							
67				ヒラタワムシ	<i>Filinia longiseta longiseta</i>							
68					<i>Pompholyx complanata</i>							
69					<i>Pompholyx sulcata</i>							
70					<i>Testudinella patina</i>							
71					<i>Tetramastix opoliensis</i>							
72				テマリワムシ	<i>Conochiloides coenobass</i>							
-					<i>Conochiloides sp.</i>							
73					<i>Conochilus unicornis</i>							
-					<i>Conochilus sp.</i>							
74				ヒルガタワムシ	ミズヒルガタワムシ	<i>Philodina roseola</i>						
75						<i>Rotaria rotatoria</i>						
-						<i>Rotaria sp.</i>						
76					ドロヒルガタワムシ	<i>Habrotrocha sp.</i>						
77			節足動物	顎脚	ヒゲナガケンミジンコ	<i>Eodaptomus japonicus</i>						
-							<i>Calanoida</i>					
78						カントカンブタス	<i>Canthocamptus sp.</i>					
79						キクロブス	<i>Cyclops kikuchii</i>					
80							<i>Cyclops strenuus</i>					
81							<i>Mesocyclops leuckarti</i>					
82							<i>Thermocyclops hyalinus</i>					
-								<i>Cyclopoidea</i>				
-								<i>Copepoda</i>				
83						葉脚	シダ	<i>Diaphanosoma brachyurum</i>				
84							ミジンコ	<i>Ceriodaphnia pulchella</i>				
85								<i>Ceriodaphnia quadrangula</i>				
86								<i>Ceriodaphnia reticulata</i>				
87								<i>Daphnia galeata</i>				
88								<i>Daphnia hyalina</i>				
89								<i>Daphnia longispina</i>				
90								<i>Daphnia pulex</i>				
-								<i>Daphnia sp.</i>				
91								<i>Moina macrocopa</i>				
-								<i>Daphniidae</i>				
92							ゾウミジンコ	<i>Bosmina fatalis</i>				
93								<i>Bosmina longirostris</i>				
-								<i>Bosmina sp.</i>				
94								<i>Bosminopsis deitersi</i>				
95							マルミジンコ	<i>Alona guttata</i>				
-								<i>Alona sp.</i>				
96								<i>Chydorus gibbus</i>				
97								<i>Chydorus ovalis</i>				
98								<i>Chydorus sphaericus</i>				
99					ノコ	<i>Leptodora kindtii</i>						
100			線形動物	-	-	<i>NEMATODA</i>						
5門11綱16目37科100種					30種	65種	62種	33種				
					90種							

注) 1.種名及び分類は、「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」、「…科」、「…目」、「…亜綱」、「…門」、とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-6 ダム湖内確認種リスト(鳥類 : 1/2)

No.	目名	科名	種名	ダム湖内					
			和名	H5	H9	H14	H18・19		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ						
2			アカエリカイツブリ						
3	ペリカン目	ウ科	カワウ						
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ						
5			ササゴイ						
6			アマサギ						
7			ダイサギ						
8			チュウサギ						
9			コサギ						
10			アオサギ						
11			カモ目	カモ科	オシドリ				
12					マガモ				
13					カルガモ				
14	コガモ								
15	ヒドリガモ								
16	カワアイサ								
17	タカ目	タカ科	ミサゴ						
18			ハチクマ						
19			トビ						
20			オオタカ						
21			ツミ						
22			ハイタカ						
23			オオノスリ						
24			ノスリ						
25			サシバ						
26			クマタカ						
27	キジ目	キジ科	コジュケイ						
28			キジ						
29			ヤマドリ						
30	ツル目	クイナ科	バン						
31	チドリ目	チドリ科	コチドリ						
32			イカルチドリ						
33			ケリ						
34		シギ科	キアシシギ						
35			イソシギ						
36			ヤマシギ						
37			オオジシギ						
38	ハト目	ハト科	キジバト						
39			アオバト						
40	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ						
41			ツツドリ						
42			ホトトギス						
43	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク						
44			アオバズク						
45			フクロウ						
46	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ						
47	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ						
48	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ						
49			カワセミ						
50	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ						
51			アカゲラ						
52			オオアカゲラ						
53			コゲラ						
54	スズメ目	ツバメ科	ツバメ						
55			コシアカツバメ						
56			イワツバメ						
57		セキレイ科	キセキレイ						
58			ハクセキレイ						
59			セグロセキレイ						



表 6.6-6 ダム湖内確認種リスト(鳥類 : 2/2)

No.	目名	科名	種名	ダム湖内				
			和名	H5	H9	H14	H18・19	
60	スズメ目	セキレイ科	ピンズイ					
61		サンショウクイ科	サンショウクイ					
62		ヒヨドリ科	ヒヨドリ					
63		モズ科	モズ					
64		カワガラス科	カワガラス					
65		ミソサザイ科	ミソサザイ					
66		イワヒバリ科	カヤクグリ					
67		ツグミ科	ルリビタキ					
68			ジョウビタキ					
69			ノビタキ					
70			トラツグミ					
71			アカハラ					
72			シロハラ					
73			ツグミ					
74			ウグイス科	ヤブサメ				
75				ウグイス				
76				メボソムシクイ				
77		センダイムシクイ						
78		キクイタダキ						
79		ヒタキ科	キビタキ					
80			オオルリ					
81			サメビタキ					
82			エゾビタキ					
83			コサメビタキ					
84		カササギヒタキ科	サンコウチョウ					
85		エナガ科	エナガ					
86		シジュウカラ科	コガラ					
87			ヒガラ					
88			ヤマガラ					
89			シジュウカラ					
90		メジロ科	メジロ					
91		ホオジロ科	ホオジロ					
92			カシラダカ					
93			ミヤマホオジロ					
94			アオジ					
95			クロジ					
96		アトリ科	アトリ					
97			カワラヒワ					
98			マヒワ					
99			ベニマシコ					
100			ウソ					
101			イカル					
102			シメ					
103		ハタオリドリ科	スズメ					
104		ムクドリ科	ムクドリ					
105		カラス科	カケス					
106			ハシボソガラス					
107			ハシブトガラス					
-			カラス属					
16目36科107種				60種	58種	72種	22種	
				96種				

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。



(流入河川確認種リスト)

表 6.6-7 流入河川確認種リスト(魚類)

No.	網名	目名	科名	種名		流入河川				
				和名	学名	H4	H5	H8	H13	H19
1	硬骨魚綱	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>					
2				ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>					
3				ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorffii</i>					
4				ニゴロブナ	<i>Carassius auratus grandoculis</i>					
5				オオキンブナ	<i>Carassius auratus buergeri</i>					
-				フナ属	<i>Carassius sp.</i>					
6				ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>					
7				ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostri</i>					
8				オイカワ	<i>Zacco platypus</i>					
9				カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>					
10				モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>					
11				タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>					
12				ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>					
13				カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>					
14				コウライニゴイ	<i>Hemibarbus labeo</i>					
15				ニゴイ	<i>Hemibarbus barbuis</i>					
-				ニゴイ属	<i>Hemibarbus sp.</i>					
16				スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>					
17			コウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis subsp.</i>						
-			スゴモロコ属	<i>Squalidus sp.</i>						
18				ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>				
19			ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>				
20				ギギ科	ギギ	<i>Pseudobagrus nudiceps</i>				
21			サケ目	サケ科	アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>				
22				アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>				
23			ダツ目	メダカ科	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>				
24			タウナギ目	タウナギ科	タウナギ	<i>Monopterus albus</i>				
25			スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ	<i>Gymnogobius petschiliensis</i>				
26					ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>				
27					トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.OR</i>				
28					カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>				
-		ヨシノボリ属	<i>Rhinogobius sp.</i>							
29		ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>							
30		サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>						
31			オオクチバス(ブラックバス)	<i>Micropterus salmoides</i>						
1網6目10科31種						12種	6種	11種	15種	23種
						25種				

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-8 流入河川確認種リスト(エビ・カニ・貝類)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川			
					H4	H5	H8	H13
1	マキガイ綱(腹足綱)	ニナ目(中腹足目)	タニシ科	オオタニシ				
2				ヒメタニシ				
3			カワニナ科	カワニナ				
4				チリメンカワニナ				
5			モノアラガイ目(基眼目)	モノアラガイ科	モノアラガイ			
6	ニマイガイ綱(二枚貝綱)	ハマグリ目(マルスダレガイ目)	シジミ科	マシジミ				
7	甲殻綱	エビ目(十脚目)	テナガエビ科	テナガエビ				
8				スジエビ				
9			ヌマエビ科	ミナミヌマエビ				
10			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ				
11			サワガニ科	サワガニ				
3綱4目8科11種					3種	3種	3種	4種
					5種			

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.表中の数は、個体数を示す。

表 6.6-9 流入河川確認種リスト(底生動物 : 1/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	流入河川				
					H5	H7	H12	H17	H20
1	普通海綿綱	ザラカイメン目(単骨海綿目)	タンスイカイメン科	ヨウカイメン					
-	-	-	-	タンスイカイメン科					
2	ヒドロ虫綱	無鞘目(花クラゲ目)	ヒドロ科	ヒドロ科					
3	ウズムシ綱(渦虫綱)	ウズムシ目(三岐腸目)	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ					
-	-	-	-	ウズムシ目(三岐腸目)					
-	-	-	-	ウズムシ綱(渦虫綱)					
4	-	-	-	ひも(紐)形動物門					
5	-	-	-	線形動物門					
6	マキガイ綱(腹足綱)	ニナ目(中腹足目)	タニシ科	オオタニシ					
7	-	-	-	ヒメタニシ					
8	-	-	-	カワニナ科					
9	-	-	-	カワニナ					
-	-	-	-	チリメンカワニナ					
-	-	-	-	Semisulcospira属					
10	-	-	-	モノアラガイ目(基眼目)					
11	-	-	-	カウコザラガイ科					
12	-	-	-	カウコザラガイ					
13	-	-	-	モノアラガイ科					
-	-	-	-	ヒメモノアラガイ					
-	-	-	-	コシダカヒメモノアラガイ					
-	-	-	-	Radix属					
14	-	-	-	モノアラガイ科					
15	-	-	-	サカマキガイ科					
16	-	-	-	サカマキガイ					
-	-	-	-	ヒラマキガイ科(+インドヒラマキ)					
-	-	-	-	Gyraulus属					
-	-	-	-	ヒラマキガイモドキ					
17	ニマイガイ綱(二枚貝綱)	イシガイ目	イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)					
18	-	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ					
-	-	-	-	Corbicula属					
19	-	-	-	マメシジミ科					
20	-	-	-	Pisidium属					
21	-	-	-	トブシジミ科					
22	ミミズ綱(貧毛綱)	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科					
23	-	ナガミミズ目	ピウミミズ科	ヤマトヒモミミズ					
24	-	-	ヒメミミズ科	ヒメミミズ科					
25	-	-	ナガミミズ科	ナガミミズ科					
-	-	-	ツリミミズ科	Altolobophora属					
-	-	-	-	ツリミミズ科					
26	-	-	フトミミズ科	Pheretima属					
-	-	-	-	フトミミズ科					
27	-	-	ミズミミズ科	Chaetogaster属					
28	-	-	-	Dero属					
29	-	-	-	Nais属					
30	-	-	-	Ophidonais属					
31	-	-	-	Slavina属					
32	-	-	-	テングミズミミズ					
-	-	-	-	Stylaria属					
-	-	-	-	ミズミミズ科					
33	-	-	イトミミズ科	エラミミズ					
34	-	-	-	ユリミミズ					
-	-	-	-	Limnodrilus属					
35	-	-	-	イトミミズ					
-	-	-	-	Tubifex属					
-	-	-	-	イトミミズ科					
36	-	-	ヒモミミズ科	ヒモミミズ科					
-	-	-	-	ナガミミズ目					
-	-	-	-	ミミズ綱					
37	ヒル綱	ノドビル目(咽蛭目)	イシビル科	ナミイシビル					
-	-	-	-	イシビル科					
38	クモ綱(蛛形綱)	ダニ目	-	ダニ目					
39	甲殻綱	ワラジムシ目(等脚目)	ミズムシ科	ミズムシ					
-	-	-	-	ミズムシ科					
40	-	ヨコエビ目(端脚目)	ハマトビムシ科	ハマトビムシ科					
41	-	エビ目(十脚目)	テナガエビ科	テナガエビ					
42	-	-	-	スズエビ					
43	-	-	-	アメリカザリガニ科					
44	-	-	-	アメリカザリガニ					
45	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	マエグロヒメフタオカゲロウ					
-	-	-	-	Ameletus属					
46	-	-	コカゲロウ科	ミツオミジカオフトバコカゲロウ					
47	-	-	-	ミジカオフトバコカゲロウ					
48	-	-	-	フトバコカゲロウ					
-	-	-	-	Baetiella属					
49	-	-	-	トビイロコカゲロウ					
50	-	-	-	サホコカゲロウ					
51	-	-	-	フタモンコカゲロウ					
52	-	-	-	シロハラコカゲロウ					
53	-	-	-	ヤマトコカゲロウ					
54	-	-	-	ヨシノコカゲロウ					
55	-	-	-	Dコカゲロウ					
56	-	-	-	Eコカゲロウ					
57	-	-	-	Gコカゲロウ					
58	-	-	-	Hコカゲロウ					
59	-	-	-	Iコカゲロウ					
60	-	-	-	Jコカゲロウ					
-	-	-	-	Baetis属					
61	-	-	-	Cloeon属					
62	-	-	-	ウスイロフトヒゲコカゲロウ					
63	-	-	-	Proclleon属					
64	-	-	ガガンボカゲロウ科	ガガンボカゲロウ					
65	-	-	フタオカゲロウ科	Siphonurus属					
66	-	-	ヒラタカゲロウ科	オビカゲロウ					
67	-	-	-	Cinygmula属					
68	-	-	-	キブネタニガワカゲロウ					
69	-	-	-	クロタニガワカゲロウ					

表 6.6-9 流入河川確認種リスト(底生動物 : 2/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	流入河川							
					H5	H7	H12	H17	H20			
70	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ								
-				Ecdyonurus属								
71				ウエノヒラタカゲロウ								
72				ナミヒラタカゲロウ								
73				エルモンヒラタカゲロウ								
74				ユミモンヒラタカゲロウ								
-				Epeorus属								
75				キョウトキハダヒラタカゲロウ								
76				サツキヒメヒラタカゲロウ								
77				チラカゲロウ科	チラカゲロウ							
78				トビロカゲロウ科	ヒメトビロカゲロウ							
79					ウエストントビロカゲロウ							
-				Paraleptophlebia属								
80				トビロカゲロウ科	Thraulius属							
81				モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ							
82					トウヨウモンカゲロウ							
83					モンカゲロウ							
84				シロイロカゲロウ科	オオシロカゲロウ							
85				カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ							
86				マダラカゲロウ科	クロマダラカゲロウ							
87					オオクママダラカゲロウ							
-					Cincticostella属							
88					オオマダラカゲロウ							
89					ヨシノマダラカゲロウ							
90					シリナガマダラカゲロウ							
91					ツノマダラカゲロウ							
92					ホソバマダラカゲロウ							
93					イマニシマダラカゲロウ							
94					クシゲマダラカゲロウ							
-					Ephemerefla属							
95					エラブタマダラカゲロウ							
96					アカマダラカゲロウ							
97					ヒメシロカゲロウ科	Caenis属						
98					トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	Cercion属					
99							アジアイトンボ					
-							Ischnura属					
-						イトトンボ科						
100				カワトンボ科		ハグロトンボ						
101						ミヤマカワトンボ						
-						Calopteryx属						
102						アサヒナカワトンボ						
103						ニホンカワトンボ						
-				Mnais属								
104				ムカシトンボ科	ムカシトンボ							
105				ヤンマ科	マルタンヤンマ							
106					ギンヤンマ							
107					コシボソヤンマ							
108				ミルンヤンマ								
109				サナエトンボ科	ミヤマサナエ							
110					ヤマサナエ							
-					キイロサナエ							
-					Asiagomphus属							
112					クロサナエ							
113					ダビドサナエ							
-					Davidius属							
114					ホンサナエ							
115					アオサナエ							
116					オナガサナエ							
117				コオニヤンマ								
118				オジロサナエ								
-				サナエトンボ科								
119				オニヤンマ科	オニヤンマ							
120				エゾトンボ科	オオヤマトンボ							
121					コヤマトンボ							
-					エゾトンボ科							
122				トンボ科	シヨウジョウトンボ							
123					シオカラトンボ							
124					オオシオカラトンボ							
125					コシアキトンボ							
126					マイコアカネ							
-					Sympetrum属							
127				カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科	クロカワゲラ科						
128						ミドリカワゲラ科	ミドリカワゲラ科					
129						ハラジロオナシカワゲラ科	ハラジロオナシカワゲラ科					
130					オナシカワゲラ科	Amphinemura属						
131						Nemoura属						
-					オナシカワゲラ科							
132					ヒロムネカワゲラ科	ノギカワゲラ						
133					カワゲラ科	Gibosia属						
134						Kamimuria属						
135						マエキフタツメカワゲラモドキ						
-						Kiottina属						
136						ヤマトフタツメカワゲラ						
-						Neoperla属						
137						ヤマトカワゲラ						
138				Oyamia属								
139				Paragnetina属								
140				Togoperla属								
-				カワゲラ科								

表 6.6-9 流入河川確認種リスト(底生動物 : 3/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	流入河川						
					H5	H7	H12	H17	H20		
141	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	アミメカワゲラ科	Isoperla属							
142				Ostrovus属							
143				Stavsolus属							
-				アミメカワゲラ科							
144				カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	アメンボ					
145			コセアカアメンボ								
146			ヒメアメンボ								
147			シマアメンボ								
-			アメンボ亜科								
-			アメンボ科								
148			ミズムシ科			Micronecta属					
149						コムズムシ					
-						Sigara属					
150			コオイムシ科			コオイムシ					
151		オオコオイムシ									
152		タイコウチ科	タイコウチ								
153		ミズカマキリ									
154		ナベフタムシ科	ナベフタムシ								
155		マツモムシ科	マツモムシ								
156		アミメカゲロウ目(脈翅目)	ヘビトンボ科	クロスシヘビトンボ							
157				Parachauliodes属							
158				ヘビトンボ							
159		ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科								
160			ミスカゲロウ科	ミスカゲロウ							
161		トビケラ目(毛翅目)	ムネカクトビケラ科	Ecnomus属							
162				カウトビケラ科	Dolophioides属						
163		アミメカゲロウ目(脈翅目)	ミスカゲロウ科	Wormaldia属WA							
164				イウトビケラ科	Plectrocnemia属						
165				クダトビケラ科	Psychomyia属						
166				クダトビケラ科	クダトビケラ科						
167				ヒゲナガカウトビケラ科	ヒゲナガカウトビケラ						
168				チャバネヒゲナガカウトビケラ							
169				キブネクダトビケラ科	キブネクダトビケラ						
170				ヤマトビケラ科	Agapetus属						
171				イノブスヤマトビケラ							
172				Glossosoma属							
173		ツメナガナガレトビケラ科	ツメナガナガレトビケラ								
174		ヒメトビケラ科	Hydroptila属								
175		ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ								
176			クレメンズナガレトビケラ								
177			カワムラナガレトビケラ								
178			キノナガレトビケラ								
179			レゼイナガレトビケラ								
180			ムナクロナガレトビケラ								
181			シコツナガレトビケラ								
182			トランスウィナガレトビケラ								
183			ヤマナカナガレトビケラ								
184			Rhyacophila sp.RA								
185			Rhyacophila sp.RK								
186			Rhyacophila属								
187			コエグリトビケラ科	Apatania属							
188		カクスイトビケラ科	ハナセマルツツトビケラ								
189		ウエノマルツツトビケラ									
190		Micrasema属									
191		アシエダトビケラ科	Anisocentropus属								
192		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ								
193		カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ								
194		Lepidostoma属									
195		ヒゲナガトビケラ科	Ceraclea属								
196			Leptoceris属								
197			Mystacides属								
198			Oecetis属								
199			Setodes属								
200			Triaenodes属								
201			ヒゲナガトビケラ科								
202			トビロトビケラ								
203			Phryganopsyche属								
204			グマガトビケラ								
205		Gumaga属									
206		シマトビケラ科	コガタシマトビケラ								
207			ナミコガタシマトビケラ								
208			Cheumatopsyche属								
209			Diplectrona属								
210			オオヤシマトビケラ								
211			ギフシマトビケラ								
212			ウルマーシマトビケラ								
213			ナカハラシマトビケラ								
214			Hydropsyche属HB								
215			Hydropsyche属								
216		オオシマトビケラ									
217		エチゴシマトビケラ									
218		トビケラ目(毛翅目)									
219		チョウ目(鱗翅目)	ツトガ科	キオビミズメイガ							
220				メイガ科	メイガ科						
221		ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ヒメウスバガガンボ							
222				Antocha属							
223				Dicranota属							
224				Eriocera属							
225				Hexatoma属EB							
226				Hexatoma属ED							
227				Hexatoma属							
228				Limnophila属							
229				Pilaria属							
230				Scleroprocta属							
231		Tipula属TA									



表 6.6-9 流入河川確認種リスト(底生動物 : 4/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	流入河川				
					H5	H7	H12	H17	H20
219	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tipula属TC					
-				Tipula属					
-				ガガンボ亜科					
-				ガガンボ科					
220			チョウバエ科	チョウバエ科					
221			ヌカカ科	ヌカカ科					
222			ユスリカ科	Ablabesmyia longistyla					
-				Ablabesmyia属					
223				Anatopynia属AA					
224				Brillia属BC					
-				Brillia属					
225				Calopsectra属CA					
-				Calopsectra属					
226				Cardiocladius属CF					
-				Cardiocladius属					
227				Chironomus bathophilus					
228				フチグロユスリカ					
229				Chironomus strenzkei					
230				セスジユスリカ					
-				Chironomus属					
231				Cladotanytarsus属					
232				Conchapelopia属					
233				Corynoneura属					
234				Cricotopus属CN					
235				Cryptochironomus属BC					
236				Cryptochironomus属DC					
-				Cryptochironomus属					
237				Denicryptochironomus属					
238				Diamesa属GA					
239				Diamesa属GC					
240				Diamesa属PB-3					
241				Dicotendipes属					
242				Einfeldia属EA					
243				Einfeldia属EB					
-				Einfeldia属					
244				Eukiefferiella属ED					
245				Fissimentum属FA					
246				Glyptotendipes属					
247				Heterotrissocladius属EC					
-				Heterotrissocladius属					
248				Hydrobaenus属					
249				Limnophyes属					
250				Macropelopia属					
251				Micropsectra属					
252				Microtendipes属VA					
253				Microtendipes属VB					
-				Microtendipes属					
254				Neobrillia属					
255				Orthocladius属CA					
256				Orthocladius属CC					
-				Orthocladius属					
257				Pagastia属					
258				Pantaneura属FA					
259				Paracladopelma属					
260				Paratendipes属PB					
-				Paratendipes属					
261				Polypedilum属PA					
262				Polypedilum属PD					
263				Polypedilum属PE					
-				Polypedilum属					
264				Potthastia属					
265				Procladius属PA					
266				Procladius属PB					
-				Procladius属					
267				Psectrocladius属					
268				Rheocricotopus属RB					
269				Rheocricotopus属RE					
-				Rheocricotopus属					
270				Rheotanytarsus属					
271				Stempelina属					
272				Stenochironomus属					
273				Stictochironomus属SA					
274				Stictochironomus属SC					
-				Stictochironomus属					
275				Tanytarsus属CM					
-				Tanytarsus属					
276				Thienemanniella属					
277				Tvetenia属					
-				モンユスリカ亜科					
-				エリユスリカ亜科					
-				ユスリカ亜科					
-				ユスリカ科					
278			カ科	Culex属					
279				ハマダラカ亜科					
280			ホソカ科	Dixa属					
-				ホソカ科					
281			ブコ科	Prosimulium属					
282				キアシツメトゲブコ					
-				Simulium属					
283			ナガレアブ科	ハマダラナガレアブ					
284				コモンナガレアブ					
285				クロモンナガレアブ					
-				ナガレアブ科					
286			ミズアブ科	ミズアブ科					
287			アシナガバエ科	アシナガバエ科					
288			オドリバエ科	オドリバエ科					
289			ミギワバエ科	ミギワバエ科					

表 6.6-9 流入河川確認種リスト(底生動物 : 5/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	流入河川					
					H5	H7	H12	H17	H20	
290	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ						
291				マメゲンゴロウ						
292				クロゲンゴロウ						
293				シマゲンゴロウ						
294				コシマゲンゴロウ						
295				ケシゲンゴロウ						
296				モンキマメゲンゴロウ						
297				ヒメゲンゴロウ						
-				ヒメゲンゴロウ亜科						
-				ゲンゴロウ亜科						
-				ゲンゴロウ科						
298				ダルマガムシ科	ダルマガムシ科					
299				ガムシ科	ヤマトゴマフガムシ					
300					ガムシ					
301					ヒメガムシ					
-					ガムシ科					
302					マルハナノミ科	Elodes属				
303						Hydrocyphon属				
-						マルハナノミ科				
304					ヒメドロムシ科	ツヤナガアシドロムシ				
305					ツヤヒメドロムシ					
306					ゴトウミソドロムシ					
307					イブシアシナガドロムシ					
308					Zaitzevia属					
309					ホソヒメツヤドロムシ					
310					マルヒメツヤドロムシ					
-					ヒメドロムシ亜科					
-					ヒメドロムシ科					
311				ヒラタドロムシ科	Cophaesthetus属					
312					チビヒゲナガハナノミ					
-					Ectopria属					
313					Eubrianax属					
314					チビマルヒゲナガハナノミ					
315					ヒラタドロムシ					
-					Mataeopsephus属					
316					マスタチビヒラタドロムシ					
-					Psephenoides属					
317				ナガハナノミ科	ナガハナノミ科					
318		ホタル科	ゲンジボタル							
319	コケムシ綱	掩喉目	ヒメテシコケムシ科	ヒメテシコケムシ						
320			ハネコケムシ科	ハネコケムシ科						
321		櫛口目	チャミドロコケムシ科	チャミドロコケムシ						
13綱28目112科321種					36種	103種	156種	182種	171種	
					283種					

- 注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」「…科」「…亜科」「…目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。  
3.表中の数は個体数を示す。  
なお、個体数は定量採集及び定性採集で確認された個体数の合計を示している。なお、報告書中に「>100」と記載してあるものについては100として扱った。  
4.表中の「\*」は、群体性の種であることを示す。ただし、実数で記載されているものについては、実数を記載した。
- 注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」「…科」「…亜科」「…目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。  
3.表中の数は個体数を示す。  
なお、個体数は定量採集及び定性採集で確認された個体数の合計を示している。なお、報告書中に「>100」と記載してあるものについては100として扱った。  
4.表中の「\*」は、群体性の種であることを示す。ただし、実数で記載されているものについては、実数を記載した。

表 6.6-10 流入河川確認種リスト(植物プランクトン : 1/3)

No.	綱名	科名	種名	流入河川			
			学名	H5	H11	H16	
1	藍藻	クロオコックス	<i>Aphanocapsa elachista</i>				
-			<i>Aphanocapsa</i> sp.				
2			<i>Aphanothece</i> sp.				
3			<i>Chroococcus</i> sp.				
4			<i>Dactylococcopsis fascicularis</i>				
5			<i>Merismopedia elegans</i>				
6			<i>Merismopedia tenuissima</i>				
7			<i>Microcystis aeruginosa</i>				
8		<i>Microcystis wesenbergii</i>					
9		ネンジュモ	<i>Anabaena flos-aquae</i>				
10			<i>Anabaena spiroides</i>				
-			<i>Anabaena</i> sp.				
11			<i>Aphanizomenon flos-aquae</i>				
12			<i>Raphidiopsis</i> sp.				
13		ユレモ	<i>Oscillatoria agardhii</i>				
14			<i>Oscillatoria tenuis</i>				
-			<i>Oscillatoria</i> sp.				
15			<i>Phormidium autumnale</i>				
16	<i>Phormidium retzii</i>						
17	<i>Phormidium tenue</i>						
-		<i>Phormidium</i> sp.					
18	紅藻	オオジュイネラ	<i>Audouinella chalybea</i>				
19	クリプト藻	クリプトモナス	<i>Cryptomonas ovata</i>				
-			<i>Cryptomonas</i> sp.				
20			<i>Rhodomonas</i> sp.				
21	渦鞭毛藻	ギムノディニウム	<i>Gymnodinium helveticum</i>				
22		グレンディニウム	<i>Glenodinium pulvisculus</i>				
-			<i>Glenodinium</i> sp.				
23		ケラティウム	<i>Ceratium hirundinella</i>				
24		ペリディニウム	<i>Peridinium bipes</i> f. <i>occultatum</i>				
25			<i>Peridinium elpatiewskyi</i>				
26			<i>Peridinium volzii</i>				
-		<i>Peridinium</i> sp.					
27	黄金色藻	ディノブリオン	<i>Dinobryon cylindricum</i>				
28			<i>Dinobryon divergens</i>				
29			<i>Dinobryon sertularia</i>				
30		シヌラ	<i>Mallomonas akrokomos</i>				
31			<i>Mallomonas fastigata</i>				
32			<i>Mallomonas tonsurata</i>				
33			<i>Synura uvella</i>				
34	珪藻	タラシオシラ	<i>Cyclotella asterocostata</i>				
35			<i>Cyclotella glomerata</i>				
36			<i>Cyclotella meneghiniana</i>				
37			<i>Cyclotella radiosa</i>				
38			<i>Cyclotella stelligera</i>				
-			<i>Cyclotella</i> sp.				
39			<i>Skeletonema subsalsum</i>				
40			<i>Stephanodiscus carconensis</i>				
41			メロシラ	<i>Aulacoseira distans</i>			
42				<i>Aulacoseira granulata</i>			
43		<i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i>					
44		<i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i>					
45		<i>Aulacoseira italica</i>					
46		<i>Melosira varians</i>					
47		リゾソレニア		<i>Rhizosolenia setigera</i>			
48		ビドルフィア	<i>Acanthoceros zachariasii</i>				
49		ディアトマ	<i>Asterionella formosa</i>				
50			<i>Diatoma vulgare</i>				
51			<i>Fragilaria capucina</i>				
52			<i>Fragilaria crotonensis</i>				
53			<i>Fragilaria tenera</i>				
-			<i>Fragilaria</i> sp.				
54			<i>Hannaea arcus</i>				
55		<i>Staurosira construens</i> var. <i>binodis</i>					

表 6.6-10 流入河川確認種リスト(植物プランクトン : 2/3)

No.	綱名	科名	種名	流入河川		
			学名	H5	H11	H16
56	珪藻	ディアトマ	<i>Synedra acus</i>			
57			<i>Synedra rumpens</i>			
58			<i>Synedra ulna</i>			
59			<i>Synedra ulna var. oxyrhynchus</i>			
60			アクナンテス	<i>Achnanthes brevipes</i>		
61		<i>Achnanthes japonica</i>				
62		<i>Achnanthes lanceolata</i>				
-		<i>Achnanthes sp.</i>				
63		<i>Cocconeis placentula</i>				
-		<i>Cocconeis sp.</i>				
64		ナビクラ	<i>Amphora ovalis</i>			
65			<i>Cymbella aspera</i>			
66			<i>Cymbella tumida</i>			
67			<i>Cymbella turgidula</i>			
-			<i>Cymbella sp.</i>			
68			<i>Encyonema minutum</i>			
69			<i>Gomphoneis quadripunctatum</i>			
70			<i>Gomphonema acuminatum</i>			
71			<i>Gomphonema angustatum</i>			
72			<i>Gomphonema clevei</i>			
73			<i>Gomphonema helveticum</i>			
74			<i>Gomphonema parvulum</i>			
75			<i>Gomphonema tetrastigmatum</i>			
-			<i>Gomphonema sp.</i>			
76			<i>Navicula cinctaeformis</i>			
77			<i>Navicula cryptocephala</i>			
78			<i>Navicula exigua</i>			
79	<i>Navicula gregaria</i>					
80	<i>Navicula pupula</i>					
81	<i>Navicula radiosa</i>					
82	<i>Navicula viridula</i>					
-	<i>Navicula sp.</i>					
83	<i>Pinnularia sp.</i>					
84	<i>Stauroneis sp.</i>					
85	ニッチア	<i>Bacillaria paradoxa</i>				
86		<i>Nitzschia acicularis</i>				
87		<i>Nitzschia agnita</i>				
88		<i>Nitzschia amphibia</i>				
89		<i>Nitzschia clausii</i>				
90		<i>Nitzschia dissipata</i>				
91		<i>Nitzschia inconspicua</i>				
92		<i>Nitzschia linearis</i>				
93		<i>Nitzschia paleacea</i>				
94		<i>Nitzschia paleacea</i>				
95		<i>Nitzschia parvula</i>				
-	<i>Nitzschia sp.</i>					
96	スリレラ	<i>Surirella tenera</i>				
-		<i>Surirella sp.</i>				
97	ミドリムシ藻	ミドリムシ	<i>Euglena sp.</i>			
98			<i>Phacus sp.</i>			
99			<i>Trachelomonas sp.</i>			
100	緑藻	クラミドモナス	<i>Carteria cordiformis</i>			
101			<i>Carteria globulosa</i>			
102			<i>Carteria klebsii</i>			
103			<i>Carteria peterhofiensis</i>			
-			<i>Carteria sp.</i>			
104			<i>Chlamydomonas sp.</i>			
105		<i>Chlorogonium elongatum</i>				
106		オオヒゲマワリ	<i>Eudorina elegans</i>			
107			<i>Pandorina morum</i>			
108			<i>Volvox aureus</i>			

表 6.6-10 流入河川確認種リスト(植物プランクトン : 3/3)

No.	綱名	科名	種名	流入河川		
			学名	H5	H11	H16
109	緑藻	ヨツメモ	<i>Tetraspora lacustris</i>			
110		パルメロプシス	<i>Chlamydocapsa gigas</i>			
111		キャラクキウム	<i>Ankyra ancora</i>			
112		クロロコックム	<i>Schroederia ancora</i>			
113			<i>Schroederia setigera</i>			
114			<i>Tetraedron minimum</i>			
115		パルメラ	<i>Sphaerocystis schroeteri</i>			
116		オオキステイス	<i>Ankistrodesmus falcatus</i>			
117			<i>Chodatella</i> sp.			
118			<i>Closteriopsis longissima</i>			
119			<i>Kirchneriella contorta</i>			
120			<i>Oocystis borgei</i>			
121			<i>Oocystis parva</i>			
-			<i>Oocystis</i> sp.			
122		ゴレンキニア	<i>Golenkinia radiata</i>			
123	ミクラクティニウム	<i>Micractinium pusillum</i>				
124	セネデスムス	<i>Actinastrum hantzschii</i>				
125		<i>Coelastrum cambricum</i>				
126		<i>Coelastrum microporum</i>				
127		<i>Coelastrum sphaericum</i>				
128		<i>Crucigenia curcifera</i>				
129		<i>Crucigenia tetrapedia</i>				
130		<i>Crucigeniella rectangularis</i>				
131		<i>Scenedesmus acuminatus</i>				
132		<i>Scenedesmus arcuatus</i>				
133		<i>Scenedesmus ecornis</i>				
134		<i>Scenedesmus quadricauda</i>				
-			<i>Scenedesmus</i> sp.			
135		アミミドロ	<i>Pediastrum biwae</i>			
136			<i>Pediastrum duplex</i>			
137	<i>Pediastrum simplex</i>					
138	<i>Pediastrum tetras</i>					
139	コッコミクサ	<i>Elakatothrix gelatinosa</i>				
140	ヒビミドロ	<i>Klebsormidium</i> sp.				
141		<i>Koliella elongata</i>				
142	ミクロスボラ	<i>Microspora</i> sp.				
143	カエトフォラ	<i>Cloniophora plumosa</i>				
144		<i>Stigeoclonium</i> sp.				
145	サヤミドロ	<i>Oedogonium</i> sp.				
146	ツツミモ	<i>Arthrodesmus</i> sp.				
147		<i>Closterium aciculare</i>				
148		<i>Closterium aciculare</i> var. <i>subprorum</i>				
149		<i>Closterium acutum</i> var. <i>variabile</i>				
-		<i>Closterium</i> sp.				
150		<i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>				
151		<i>Staurastrum mucronatum</i>				
152	<i>Staurastrum mucronatum</i> var. <i>subtriangulare</i>					
-		<i>Staurastrum</i> sp.				
7門8綱16目39科152種				33種	74種	22種
				87種		

注) 1.種名及び分類は、「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-11 流入河川確認種リスト(動物プランクトン : 1/2)

No.	門名	綱名	科名	種名	流入河川				
				学名	H5	H11	H16		
1	肉質鞭毛虫	葉状根足虫	アルケラ	<i>Arcella vulgaris</i>					
2			ディフルギア	<i>Diffugia corona</i>					
3				<i>Diffugia limnetica</i>					
4			ケントロピキシス	<i>Centropyxis aculeata</i>					
5		糸状根足虫	キフォテリア	<i>Cyphoderia sp.</i>					
6			エウグリファ	<i>Euglypha sp.</i>					
7		真正太陽虫	-	<i>Acanthocystis pectinata</i>					
8				<i>Acanthocystis sp.</i>					
9	繊毛虫	キネトフラグミノフォーラ	ホロフリア	<i>Askenasia volvox</i>					
10				<i>Didinium nasutum</i>					
11			トラケリウス	<i>Paradileptus robustus</i>					
-				<i>Paradileptus sp.</i>					
12			アンフィレプス		<i>Amphileptus claparedei</i>				
13					<i>Dileptus anser</i>				
-					<i>Dileptus sp.</i>				
14					<i>Lionotus lamella</i>				
15			少膜	パラメキウム		<i>Colpidium sp.</i>			
16						<i>Glaucoma scintillans</i>			
17						<i>Leucophrydium putrinum</i>			
18						<i>Paramecium sp.</i>			
19					エピスティリス	<i>Epistylis plicatilis</i>			
-						<i>Epistylis sp.</i>			
20		ボルティケラ			<i>Carchesium polypinum</i>				
-					<i>Carchesium sp.</i>				
21					<i>Vorticella campanula</i>				
-					<i>Vorticella sp.</i>				
22		多膜	ストロンビディウム		<i>Strombidinopsis gyrans</i>				
23					<i>Strombidium viride</i>				
24			フデヅツカラムシ		<i>Tintinnidium cylindrata</i>				
25					<i>Tintinnidium fluviatile</i>				
-					<i>Tintinnidium sp.</i>				
26			スナカラムシ	<i>Codonella cratera</i>					
-			-	<i>CILIOPHORA</i>					
27		輪形動物	単生殖巣	ツボワムシ	<i>Brachionus angularis angularis</i>				
28					<i>Brachionus angularis bidens</i>				
29					<i>Brachionus calyciflorus</i>				
30					<i>Brachionus forficula</i>				
31					<i>Kellicottia longispina longispina</i>				
32					<i>Keratella cochlearis f.cochlearis</i>				
33					<i>Keratella cochlearis f.macracantha</i>				
34					<i>Keratella cochlearis f.micracantha</i>				
35					<i>Keratella cochlearis f.tecta</i>				
36					<i>Keratella quadrata quadrata</i>				
37					<i>Keratella valga valga</i>				
38					<i>Notholca labis</i>				
-						<i>Notholca sp.</i>			
39						<i>Schizocerca diversicornis</i>			
40	ハオリワムシ				<i>Colurella obtusa</i>				
41					<i>Colurella uncinata</i>				
-					<i>Colurella sp.</i>				
42					<i>Dipleuchlanis propatula</i>				
43					<i>Euchlanis dilatata</i>				
44					<i>Lepadella oblonga</i>				
-					<i>Lepadella sp.</i>				
45					<i>Trichotria tetractis</i>				
46	ツキガタムシ				<i>Lecane ludwigii</i>				
47					<i>Lecane luna</i>				
48					<i>Monostyla bulla</i>				
49					<i>Monostyla lunaris</i>				
-					<i>Monostyla sp.</i>				
50	セナカワムシ				<i>Cephalodella sp.</i>				
51					<i>Notommata sp.</i>				
52					<i>Scaridium longicaudum</i>				
53	ネズミワムシ				<i>Diurella rousseleti</i>				
54					<i>Diurella porcellus</i>				
55			<i>Diurella stylata</i>						
56			<i>Trichocerca birostris</i>						
57			<i>Trichocerca capucina</i>						
58			<i>Trichocerca cylindrica</i>						
59		<i>Trichocerca elongata</i>							
-			<i>Trichocerca sp.</i>						

表 6.6-11 流入河川確認種リスト(動物プランクトン : 2/2)

No.	門名	綱名	科名	種名	流入河川						
				学名	H5	H11	H16				
60	輪形動物	単生殖巢	ハラアシワムシ	<i>Chromogaster ovalis</i>							
61			ヒゲワムシ	<i>Ploesoma truncatum</i>							
62				<i>Polyarthra euryptera</i>							
63				<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>							
64				<i>Synchaeta stylata</i>							
-				<i>Synchaeta sp.</i>							
65				フクロワムシ	<i>Asplanchna priodonta</i>						
-					<i>Asplanchna sp.</i>						
66				ミジンコワムシ	<i>Hexarthra mira</i>						
67				ヒラタワムシ	<i>Filinia longiseta longiseta</i>						
68					<i>Pompholyx complanata</i>						
69					<i>Pompholyx sulcata</i>						
70					<i>Testudinella patina</i>						
71					<i>Tetramastix opoliensis</i>						
72				テマリワムシ	<i>Conochiloides coenobass</i>						
-					<i>Conochiloides sp.</i>						
73					<i>Conochilus unicornis</i>						
-					<i>Conochilus sp.</i>						
74				ヒルガタワムシ	ミズヒルガタワムシ	<i>Philodina roseola</i>					
75						<i>Rotaria rotatoria</i>					
-						<i>Rotaria sp.</i>					
76					ドロヒルガタワムシ	<i>Habrotrocha sp.</i>					
77			節足動物	顎脚	ヒゲナガケンミジンコ	<i>Eodiaptomus japonicus</i>					
-							<i>Calanoida</i>				
78						カントカンブタス	<i>Canthocamptus sp.</i>				
79						キクロプス	<i>Cyclops kikuchii</i>				
80							<i>Cyclops strenuus</i>				
81							<i>Mesocyclops leuckarti</i>				
82							<i>Thermocyclops hyalinus</i>				
-								<i>Cyclopoida</i>			
-								<i>Copepoda</i>			
83					葉脚	シダ	<i>Diaphanosoma brachyurum</i>				
84						ミジンコ	<i>Ceriodaphnia pulchella</i>				
85							<i>Ceriodaphnia quadrangula</i>				
86							<i>Ceriodaphnia reticulata</i>				
87							<i>Daphnia galeata</i>				
88							<i>Daphnia hyalina</i>				
89				<i>Daphnia longispina</i>							
90				<i>Daphnia pulex</i>							
-						<i>Daphnia sp.</i>					
91						<i>Moina macrocopa</i>					
-						<i>Daphniidae</i>					
92			ゾウミジンコ	<i>Bosmina fatalis</i>							
93				<i>Bosmina longirostris</i>							
-				<i>Bosmina sp.</i>							
94				<i>Bosminopsis deitersi</i>							
95			マルミジンコ	<i>Alona guttata</i>							
-				<i>Alona sp.</i>							
96				<i>Chydorus gibbus</i>							
97				<i>Chydorus ovalis</i>							
98				<i>Chydorus sphaericus</i>							
99			ノコ	<i>Leptodora kindtii</i>							
100	線形動物	-	-	NEMATODA							
5門11綱16目37科100種					4種	44種	33種				
					56種						

注) 1.種名及び分類は、「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」、「…科」、「…目」、「…亜綱」、「…門」、とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 1/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
				H16
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ	
2			トウゲシバ	
3		イワヒバ科	ヒメクラマゴケ	
4			カタヒバ	
5			クラマゴケ	
6			イワヒバ	
7		トクサ科	スギナ	
8			トクサ	
9			イヌドクサ	
10		ハナヤスリ科	オオハナワラビ	
11			フユノハナワラビ	
12			ナツノハナワラビ	
13		ゼンマイ科	ゼンマイ	
14		キジノオシダ科	オオキジノオ	
15			キジノオシダ	
16		ウラジロ科	コシダ	
17			ウラジロ	
18		フサシダ科	カニクサ	
19		コケシノブ科	アオホラゴケ	
20			ウチワゴケ	
21			コウヤコケシノブ	
22			ハイホラゴケ	
23		コバノイシカグマ科	イヌシダ	
24			コバノイシカグマ	
25			イワヒメワラビ	
26			フモトシダ	
27			ワラビ	
28		ホングウシダ科	ホラシノブ	
29		シノブ科	シノブ	
30		ミズワラビ科	ホウライシダ	
31			ハコネシダ	
32			クジャクシダ	
33			イワガネゼンマイ	
34			ウラゲイワガネ	
35			イワガネソウ	
36			タチシノブ	
37			シシラン科	シシラン
38		イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	
39			イノモトソウ	
40		チャセンシダ科	ホウビシダ	
41			トラノオシダ	
42			コバノヒノキシダ	
43			イワトラノオ	
44			チャセンシダ	
45			イヌチャセンシダ	
46			アオガネシダ	
47		シシガシラ科	シシガシラ	
48			コモチシダ	
49		オシダ科	ホソバカナワラビ	
50			ナンゴクナライシダ	
51			ミドリカナワラビ	
52			ハカタシダ	
53			オニカナワラビ	
54			リョウメンシダ	
55			キヨスミヒメワラビ	
56			メヤブソテツ	
57			ヤブソテツ	
58			ヤマヤブソテツ	
59			ミヤコヤブソテツ	
60			イワヘゴ	
61			サイゴクベニシダ	
62			ミサキカグマ	
63			ベニシダ	
64			マルバベニシダ	
65			オオベニシダ	
66			クマワラビ	
67			ミヤマイトチシダ	
68			オクマワラビ	
69			ナンカイイトチシダ	
70		オオイタチシダ		
71		ヒメイトチシダ		
72		ヤマイトチシダ		



表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 2/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川		
				H16		
73	シダ植物	オシダ科	アイノコクマワラビ			
74			アイアスカイノデ			
75			カタイノデ			
76			ツヤナシイノデ			
77			イノデ			
78			サイゴクイノデ			
79			イノデモドキ			
80			ジュウモンジシダ			
81			ヒメカナワラビ			
82			ヒメシダ科	ゲジゲジシダ		
83				ミゾシダ		
84				ホシダ		
85				イブキシダ		
86				ハシゴシダ		
87				コハシゴシダ		
88				ハリガネワラビ		
89				イワハリガネワラビ		
90				ヤワラシダ		
91		ヒメシダ				
92		ヒメワラビ				
93		ミドリヒメワラビ				
94		メシダ科		カラクサイヌワラビ		
95				サトメシダ		
96				ホソバイヌワラビ		
97				ヌリワラビ		
98				イヌワラビ		
99			ヤマイヌワラビ			
100			ヒロハイヌワラビ			
101			シケチシダ			
102			ホソバシケシダ			
103			セイタカシケシダ			
104			シケシダ			
105			オオヒメワラビ			
106			ミヤマシケシダ			
107			ハクモウイノデ			
108			オニヒカゲワラビ			
109			キヨタキシダ			
110			ノコギリシダ			
111			イヌガンソク			
112			クサソテツ			
113			コウヤワラビ			
114		ウラボシ科	ミツデウラボシ			
115			マメツタ			
116			ノキシノブ			
117			イワヤナギシダ			
118			ヒトツバ			
119		裸子植物	マツ科	モミ		
120				アカマツ		
121			スギ科	スギ		
122				ヒノキ科	ヒノキ	
123					サワラ	
124			カイツカイブキ			
125			ネズ			
126			イヌガヤ科	イヌガヤ		
127			イチイ科	カヤ		
128		離弁花類	クルミ科	オニグルミ		
129			ヤナギ科	ヤマナラシ		
130				サイコクキツネヤナギ		
131				バッコヤナギ		
132				アカメヤナギ		
133				ジャヤナギ		
134				カワヤナギ		
135				ネコヤナギ		
136				イヌコリヤナギ		
137				タチヤナギ		
138				マルバヤナギ		
139			カバノキ科	ケヤマハンノキ		
140				ヤマハンノキ		
141				ヒメヤシャブシ		
142				カワラハンノキ		
143				オオバヤシャブシ		
144		クマシデ				

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 3/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川	
145	離弁花類	カバノキ科	アカシデ	H16	
146			イヌシデ		
147		ブナ科	クリ		
148			クヌギ		
149			ナラガシワ		
150			アラカシ		
151			シラカシ		
152			ウラジロガシ		
153			コナラ		
154			アヘマキ		
155			ニレ科		コバノチョウセンエノキ
156					エゾエノキ
157		エノキ			
158		アキニレ			
159		ケヤキ			
160		クワ科	ヒメコウゾ		
161			コウゾ		
162			クワクサ		
163			イヌビワ		
164			イタビカズラ		
165			カナムグラ		
166			ヤマグワ		
167			イラクサ科		クサコアカソ
168		ヤブマオ			
169		カラムシ			
170		ナンバンカラムシ			
171		メヤブマオ			
172		ナガバヤブマオ			
173		コアカソ			
174		アカソ			
175		ヤマトキホコリ			
176		ウワバミソウ			
177		ムカゴイラクサ			
178		カテンソウ			
179		サンショウソウ			
180		ミス			
181		ヤマミス			
182		ミヤコミス			
183		アオミス			
184		ビャクダン科			カナヒキソウ
185		タデ科			ミスヒキ
186			シンミスヒキ		
187			シャクチリソバ		
188			ミヤマタニソバ		
189			ヤナギタデ		
190			オオイヌタデ		
191			イヌタデ		
192			ヤノネグサ		
193			イシミカワ		
194			ハナタデ		
195			ボントクタデ		
196			サナエタデ		
197			アキノウナギツカミ		
198			ミゾソバ		
199			ヤマミゾソバ		
200			ハルタデ		
201			イタドリ		
202			スイバ		
203		ヒメスイバ			
204		アレチギシギシ			
205		ナガバギシギシ			
206		ギシギシ			
207		エゾノギシギシ			
208		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ		
209			マルミノヤマゴボウ		
210		ザクロソウ科	ザクロソウ		
211			クルマバザクロソウ		
212		スベリヒユ科	スベリヒユ		
213		ナデシコ科	ノミノツツリ		
214			オランダミミナグサ		
215			ミミナグサ		
216			ナンバンハコベ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 4/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川 H16
217	離弁花類	ナデシコ科	カワラナデシコ	
218			フシグロセンノウ	
219			ツメクサ	
220			ノミノフスマ	
221			ウシハコベ	
222			サウハコベ	
223			コハコベ	
224			ミドリハコベ	
225			ミヤマハコベ	
226			アカザ科	シロザ
227		アカザ		
228		アリタソウ		
229		ケアリタソウ		
230		ヒコ科	ヒカゲイノコズチ	
231			ヒナタイノコズチ	
232			ホソバツルノゲイトウ	
233			イヌビユ	
234			ホソアオゲイトウ	
235			ホナガアオゲイトウ	
236		モクレン科	ホオノキ	
237			タムシバ	
238		マツバサ科	サネカズラ	
239			マツバサ	
240		シキミ科	シキミ	
241		クスノキ科	カゴノキ	
242			クスノキ	
243			ヤブニッケイ	
244			カナクギノキ	
245	ヤマコウバシ			
246	ダンコウバイ			
247	クロモジ			
248	ヒメクロモジ			
249	ホソバタブ			
250	シロダモ			
251	アブラチャン			
252	フサザクラ科		フサザクラ	
253	キンボウゲ科		イヌショウマ	
254			ポタンツル	
255		ハンショウツル		
256		センニンソウ		
257		シロバナハンショウツル		
258		トウゴクサバノオ		
259		ウマノアシガタ		
260		タガラシ		
261		キツネノポタン		
262		アキカラマツ		
263	メギ科	ヒイラギナンテン		
264		ナンテン		
265	アケビ科	アケビ		
266		ミツバアケビ		
267		ムベ		
268	ツツラフジ科	アオツツラフジ		
269		ツツラフジ		
270	ドクダミ科	ドクダミ		
271	センリョウ科	フタリシズカ		
272	ウマノスズクサ科	ホソバウマノスズクサ		
273		ミヤコアオイ		
274	マタタビ科	サルナシ		
275		シナサルナシ		
276		ウラジロマタタビ		
277		マタタビ		
278	ツバキ科	ヤブツバキ		
279		サカキ		
280		ヒサカキ		
281		チャノキ		
282	オトギリソウ科	オトギリソウ		
283		コケオトギリ		
284	モウセンゴケ科	モウセンゴケ		
285	ケシ科	クサノオウ		
286		キケマン		
287		ムラサキケマン		
288		ミヤマキケマン		
289		タケニグサ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 5/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
290	離弁花類	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ	H16
291		アブラナ科	ヤマハタザオ	
292			セイヨウカラシナ	
293			ナズナ	
294			ニシノオオタネツケバナ	
295			タネツケバナ	
296			タチタネツケバナ	
297			ジャンジン	
298			オオバタネツケバナ	
299			オランダガラシ	
300			コイヌガラシ	
301			ミチバタガラシ	
302			イヌガラシ	
303			スカシタゴボウ	
304		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	
305			メノマンネングサ	
306			オノマンネングサ	
307			マルバマンネングサ	
308			ツルマンネングサ	
309			ヒメレンゲ	
310		ユキノシタ科	チダケサシ	
311			アカシヨウマ	
312			クサアジサイ	
313			イワボタン	
314			タチネコノメソウ	
315			ウツギ	
316			マルバウツギ	
317			コアジサイ	
318			コガクウツギ	
319			ヤマアジサイ	
320	ノリウツギ			
321	ゴトウツル			
322	ガクウツギ			
323	ヤハズアジサイ			
324	チャルメルソウ			
325	コチャルメルソウ			
326	タコノアシ			
327	ジンジソウ			
328	ダイヤモンドソウ			
329	ユキノシタ			
330	イワガラミ			
331	バラ科		キンミズヒキ	
332		ヒメキンミズヒキ		
333		ザイフリボク		
334		ヘビイチゴ		
335		ヤブヘビイチゴ		
336		ダイコンソウ		
337		カナメモチ		
338		ミツバツチグリ		
339		オヘビイチゴ		
340		カマツカ		
341		イヌザクラ		
342		ウワミズザクラ		
343		ヤマザクラ		
344		エドヒガン		
345		カスミザクラ		
346		ノイバラ		
347		ニオイバラ		
348		ミヤコイバラ		
349		ヤマイバラ		
350		テリハノイバラ		
351		フユイチゴ		
352		クマイチゴ		
353		ミヤマフユイチゴ		
354		クサイチゴ		
355		ニガイチゴ		
356		ナガバモミジイチゴ		
357		ナワシロイチゴ		
358		エビガライチゴ		
359		ワレモコウ		
360		ウラジロノキ		
361		ユキヤナギ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 6/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
				H16
362	離弁花類	マメ科	クサネム	
363			ネムノキ	
364			イタチハギ	
365			ヤブマメ	
366			ホドイモ	
367			ゲンゲ	
368			ジャケツイバラ	
369			ユクノキ	
370			ヒメノハギ	
371			フジカンゾウ	
372			アレチヌスビトハギ	
373			ケヤブハギ	
374			ヌスビトハギ	
375			ヤブハギ	
376			アメリカヌスビトハギ	
377			ノササゲ	
378			ノアズキ	
379			ツルマメ	
380			コマツナギ	
381			マルバヤハズソウ	
382			ヤハズソウ	
383			イタチササゲ	
384			ヤマハギ	
385			キハギ	
386			メドハギ	
387			マルバハギ	
388			ネコハギ	
389			ビッチュウヤマハギ	
390			ミヤコグサ	
391			イヌエンジュ	
392			ハネミイヌエンジュ	
393			コメツブウマゴヤシ	
394			クズ	
395			オオバタンキリマメ	
396			ハリエンジュ	
397			クララ	
398			コメツブツメクサ	
399			ムラサキツメクサ	
400			シロツメクサ	
401			ヤハズエンドウ	
402			スズメノエンドウ	
403			カスマグサ	
404			ヤマフジ	
405			フジ	
406			カタバミ科	カタバミ
407	アカカタバミ			
408	ムラサキカタバミ			
409	エゾタチカタバミ			
410	ミヤマカタバミ			
411	カタバミ科	オッタチカタバミ		
412	フウロソウ科	ヒメフウロ		
413		ゲンノショウコ		
414	トウダイグサ科	エノキグサ		
415		オオニシキソウ		
416		コニシキソウ		
417		アカメガシワ		
418		ヤマアイ		
419		コバンノキ		
420		ヒメミカンソウ		
421		シラキ		
422		ナンキンハゼ		
423		ミカン科	マツカゼソウ	
424	コクサギ			
425	キハダ			
426	ミヤマシキミ			
427	カラスザンショウ			
428	フユザンショウ			
429	サンショウ			
430	イヌザンショウ			
431	ニガキ科		シンジュ	
432			ニガキ	
433	ヒメハギ科	ヒメハギ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 7/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
				H16
434	離弁花類	ウルシ科	ツタウルシ	
435			ヌルデ	
436			ハゼノキ	
437			ヤマハゼ	
438			ヤマウルシ	
439		ウルシ		
440		カエデ科	チドリノキ	
441			ウリカエデ	
442			ウラゲエンコウカエデ	
443			エンコウカエデ	
444			イロハモミジ	
445			オオモミジ	
446			コハウチワカエデ	
447		ムクロジ科	ムクロジ	
448		ツリフネソウ科	キツリフネ	
449			ツリフネソウ	
450		モチノキ科	イヌツゲ	
451			モチノキ	
452			アオハダ	
453			ケナシアオハダ	
454			タマミズキ	
455			ソヨゴ	
456			ウメモドキ	
457			クロソヨゴ	
458			ニシキギ科	ツルウメモドキ
459		ニシキギ		
460		コマユミ		
461		ツルマサキ		
462		サワダツ		
463		ツリバナ		
464		マユミ		
465		ミツバウツギ科	ゴンズイ	
466			ミツバウツギ	
467		クロウメモドキ科	クマヤナギ	
468			イソノキ	
469			ケンボナシ	
470			ケケンボナシ	
471		ブドウ科	ノブドウ	
472			キレバノブドウ	
473			ヤブガラシ	
474			ツタ	
475			ヤマブドウ	
476			エビヅル	
477	サンカクヅル			
478	アマヅル			
479	シナノキ科		カラスノゴマ	
480		ヘラノキ		
481	ジンチョウゲ科	コショウノキ		
482		ガンビ		
483		キガンビ		
484	グミ科	ツルグミ		
485		ナツグミ		
486		ナワシログミ		
487		アキグミ		
488	スマレ科	ナガバノスマレサイシン		
489		アメリカスマレサイシン		
490		タチツボスマレ		
491		アオイスミレ		
492		コスミレ		
493	スマレ科	スミレ		
494		コミヤマスミレ		
495		フモトスミレ		
496		アケボノスミレ		
497		ツボスマレ		
498		アギスミレ		
499		シハイスミレ		
500	キブシ科	キブシ		
501	ミゾハコベ科	ミゾハコベ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 8/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川	
				H16	
502	離弁花類	ウリ科	ゴキツル		
503			アマチャヅル		
504			スズメウリ		
505			アレチウリ		
506			カラスウリ		
507			キカラスウリ		
508			モミジカラスウリ		
509			ミソハギ科	キカシグサ	
510				ミズマツバ	
511			アカバナ科	ウシタキソウ	
512		ミズタマソウ			
513		アカバナ			
514		チョウジタデ			
515		メマツヨイグサ			
516		オオマツヨイグサ			
517		マツヨイグサ			
518		アリノトウグサ科	アリノトウグサ		
519			ホザキノフサモ		
520		ウリノキ科	ウリノキ		
521		ミズキ科	アオキ		
522			ミズキ		
523			クマノミズキ		
524			ハナイカダ		
525		ウコギ科	コシアブラ		
526			ヤマウコギ		
527			ウド		
528			タラノキ		
529			メダラ		
530			タカノツメ		
531			キツタ		
532			トチバニンジン		
533			セリ科	ノダケ	
534				シラネセセンキュウ	
535		シシウド			
536		ミツバ			
537		ウシミツバ			
538		ハナウド			
539		オオバチドメ			
540		ノチドメ			
541		オオチドメ			
542		チドメグサ			
543		ヒメチドメ			
544		セリ			
545		ヤブニンジン			
546		ウマノミツバ			
547		カノツメソウ			
548		ヤブジラミ			
549		オヤブジラミ			
550		合弁花類	リョウブ科	リョウブ	
551			イチヤクソウ科	ギンリョウソウ	
552				イチヤクソウ	
553			ツツジ科	ネジキ	
554				アセビ	
555				ミツバツツジ	
556	レンゲツツジ				
557	モチツツジ				
558	ヤマツツジ				
559	コバノミツバツツジ				
560	シャシャンボ				
561	ウスノキ				
562	アクシバ				
563	ケアクシバ				
564	ナツハゼ				

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 9/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
565	合弁花類	ツツジ科	スノキ	H16
566		ヤブコウジ科	マンリョウ	
567			ヤブコウジ	
568		サクラソウ科	ミヤマタゴボウ	
569			オカトラノオ	
570			ヌマトラノオ	
571			コナスビ	
572		カキノキ科	カキノキ	
573			マメガキ	
574		エゴノキ科	オオバアサガラ	
575			エゴノキ	
576		ハイノキ科	サウフタギ	
577			タンナサウフタギ	
578		モクセイ科	マルバアオダモ	
579			ネズミモチ	
580			イボタノキ	
581			ヒイラギ	
582		リンドウ科	リンドウ	
583			アケボノソウ	
584			センブリ	
585			ツルリンドウ	
586		キョウチクトウ科	テイカカズラ	
587			ツルニチニチソウ	
588		ガガイモ科	イケマ	
589			キジョラン	
590			ガガイモ	
591			オオカモメヅル	
592		アカネ科	クルマバソウ	
593			メリケンムグラ	
594			ヒメヨツバムグラ	
595			キクムグラ	
596			ヤマムグラ	
597			オオバナヤエムグラ	
598			ヤエムグラ	
599			ヨツバムグラ	
600			フタバムグラ	
601			ハシカグサ	
602			ツルアリドオシ	
603			ヘクソカズラ	
604			アカネ	
605		ヒルガオ科	ヒルガオ	
606			ネナシカズラ	
607			アメリカネナシカズラ	
608			マメアサガオ	
609			アサガオ	
610		ムラサキ科	サワリソウ	
611			ハナイバナ	
612			オニルリソウ	
613			ヤマルリソウ	
614			コンフリー	
615			ミスタバコ	
616			キュウリグサ	
617		クマツヅラ科	ムラサキシキブ	
618			ヤブムラサキ	
619			カリガネソウ	
620			クサギ	
621			ヤナギハナガサ	
622		シソ科	カワミドリ	
623			キランソウ	
624			クルマバナ	
625			トウバナ	
626			イヌトウバナ	
627			ヤマトウバナ	
628		ナギナタコウジュ		
629		フトボナギナタコウジュ		
630		ミズトラノオ		
631		カキドオシ		
632		マネキグサ		
633		オドリコソウ		
634		ヒメオドリコソウ		
635		メハジキ		
636		ミカエリソウ		



表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 10/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川		
				H16		
637	合弁花類	シソ科	ヒメシロネ			
638			ラショウモンカズラ			
639			ハッカ			
640			ヒメジソ			
641			イヌコウジュ			
642			エゴマ			
643			シソ			
644			レモンエゴマ			
645			アオジソ			
646			ウツボグサ			
647			ヤマハッカ			
648			ヒキオコシ			
649			アキチョウジ			
650			アキノタムラソウ			
651			キバナアキギリ			
652			オカタツナミソウ			
653			タツナミソウ			
654			コバナタツナミソウ			
655			イヌゴマ			
656			ニガクサ			
657			ツルニガクサ			
658			ナス科		クコ	
659					ホオズキ	
660					アメリカイヌホオズキ	
661					ヒヨドリジョウゴ	
662					マルバノホロシ	
663					イヌホオズキ	
664					テリミノイヌホオズキ	
665					ハダカホオズキ	
666			フジウツギ科		フサフジウツギ	
667					フジウツギ	
668			ゴマノハグサ科		ツタバウンラン	
669					サワトウガラシ	
670					マツバウンラン	
671					スズメノトウガラシ	
672	ウリクサ					
673	タケトアゼナ					
674	アメリカアゼナ					
675	アゼトウガラシ					
676	アゼナ					
677	ムラサキサギゴケ					
678	サギゴケ					
679	トキワハゼ					
680	ママコナ					
681	ミソホオズキ					
682	コシオガマ					
683	オオヒナノウスツボ					
684	オオヒキヨモギ					
685	オオカワヂシャ					
686	タチイヌノフグリ					
687	ムシクサ					
688	オオイヌノフグリ					
689	ノウゼンカズラ科		キリ			
690	キツネノマゴ科		キツネノマゴ			
691			ハグロソウ			
692			スズムシバナ			
693	イワタバコ科		イワタバコ			
694	ハエドクソウ科		ハエドクソウ			
695			ナガバハエドクソウ			
696	オオバコ科		オオバコ			
697	スイカズラ科		コツクバネウツギ			
698			ツクバネウツギ			
699			ヤマウグイスカグラ			
700			ウグイスカグラ			
701			スイカズラ			
702			ニワトコ			
703			ガマズミ			
704			コバノガマズミ			
705			オオカメノキ			
706			ヤブデマリ			
707			ミヤマガマズミ			
708			ヤブウツギ			
709			タニウツギ			

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 11/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川 H16	
710	合弁花類	オミナエシ科	オミナエシ		
711			オトコエシ		
712			ノヂシャ		
713		キキョウ科		ツリガネニンジン	
714				ホタルブクロ	
715				ツルニンジン	
716				バアソブ	
717				ミソカクシ	
718				タニギキョウ	
719				キク科	
720		ヌマダイコン			
721		キッコウハグマ			
722		ブタクサ			
723		オオブタクサ			
724		ヨモギ			
725		イナカギク			
726		シロヨメナ			
727		ノコンギク			
728		オオホウキギク			
729	シラヤマギク				
730	ヒロハホウキギク				
731	ホウキギク				
732	オケラ				
733	アメリカセンダングサ				
734	タウコギ				
735	モミジガサ				
736	ヤブタバコ				
737	ガンクビソウ				
738	サジガンクビソウ				
739	ヒメガンクビソウ				
740	トキンソウ				
741	ヒメアザミ				
742	ノアザミ				
743	ヨシノアザミ				
744	ノハラアザミ				
745	アレチノギク				
746	オオアレチノギク				
747	ベニバナボロギク				
748	リュウノウギク				
749	アメリカカタサブロウ				
750	タカサブロウ				
751	ダンドボロギク				
752	ヒメムカシヨモギ				
753	ケナシヒメムカシヨモギ				
754	ヒヨドリバナ				
755	サウヒヨドリ				
756	ヤマヒヨドリ				
757	サケバヒヨドリ				
758	ハキダメギク				
759	ハハコグサ				
760	チチコグサ				
761	チチコグサモドキ				
762	ウスベニチチコグサ				
763	キクイモ				
764	キツネアザミ				
765	オオヂシバリ				
766	ニガナ				
767	ハナニガナ				
768	イワニガナ				
769	オオユウガギク				
770	ユウガギク				
771	ヨメナ				
772	アキノノゲシ				
773	ホソバアキノノゲシ				
774	ヤマニガナ				
775	ムラサキニガナ				
776	コオニタビラコ				
777	ヤブタビラコ				
778	センボンヤリ				
779	カシワバハグマ				
780	コウヤボウキ				

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 12/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
				H16
781	合弁花類	キク科	フキ	
782			コウゾリナ	
783			シュウブソウ	
784			オオハンゴンソウ	
785			サワギク	
786			ノボロギク	
787			コメナモミ	
788			メナモミ	
789			セイタカアワダチソウ	
790			アキノキリンソウ	
791			オニノゲシ	
792			ノゲシ	
793			ヒメジョオン	
794			ヤマボクチ	
795			カンサイタンポポ	
796			セイヨウタンポポ	
797			オオオナモミ	
798			ヤクシソウ	
799			ハナヤクシソウ	
800				オニタヒラコ
801	単子葉植物	オモダカ科	ヘラオモダカ	
802			ウリカワ	
803			オモダカ	
804		トチカガミ科	オオカナダモ	
805		ユリ科	ノギラン	
806			ソクシンラン	
807			ノビル	
808			ホウチャクソウ	
809			チゴユリ	
810			ショウジョウバカマ	
811			ヤブカンゾウ	
812			ノカンゾウ	
813			イワギボウシ	
814			オオバギボウシ	
815			トウギボウシ	
816			ウバユリ	
817			ササユリ	
818			コオニユリ	
819			ヒメヤブラン	
820			ヤブラン	
821			ジャノヒゲ	
822			ナガバジャノヒゲ	
823			オオバジャノヒゲ	
824			ナルコユリ	
825			ミヤマナルコユリ	
826			アマドコロ	
827			オモト	
828			サルトリイバラ	
829			タチシオデ	
830	シオデ			
831	ヤマジノホトトギス			
832	ホトトギス			
833	ヤマホトトギス			
834	ヒガンバナ科	ヒガンバナ		
835		キツネノカミソリ		
836	ヤマノイモ科	タチドコロ		
837		ヤマノイモ		
838		カエデドコロ		
839		キクバドコロ		
840		ヒメドコロ		
841		オニドコロ		
842	ミズアオイ科	ホテイアオイ		
843		ミズアオイ		
844		コナギ		
845	アヤメ科	ヒオウギ		
846		シャガ		
847		キショウブ		
848		ニワゼキショウ		
849		ヒメヒオウギズイセン		
850	ヒナノシヤクジョウ科	ヒナノシヤクジョウ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 13/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川
				H16
851	単子葉植物	イグサ科	ハナビゼキショウ	
852			イ	
853			コウガイゼキショウ	
854			ホソイ	
855			クサイ	
856			コゴメイ	
857			スズメノヤリ	
858			ヤマスズメノヒエ	
859			ヌカボシソウ	
860			ツククサ科	ツククサ
861		イボクサ		
862		ヤブミョウガ		
863		ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ	
864			アオカモジグサ	
865		イネ科	タチカモジグサ	
866			カモジグサ	
867			コヌカグサ	
868			ヤマヌカボ	
869			ヌカボ	
870			スズメノテッポウ	
871			メリケンカルカヤ	
872			コブナグサ	
873			トダシバ	
874			ヒメコバンソウ	
875			イヌムギ	
876	キツネガヤ			
877	ノガリヤス			
878	ヒメノガリヤス			
879	オガルカヤ			
880	ギョウギシバ			
881	カモガヤ			
882	タツノヒゲ			
883	メヒシバ			
884	コメヒシバ			
885	アキメヒシバ			
886	アブラスキ			
887	イヌビエ			
888	ケイヌビエ			
889	ヒメイヌビエ			
890	オヒシバ			
891	シナダレスズメガヤ			
892	カゼクサ			
893	コゴメカゼクサ			
894	ニワホコリ			
895	オオニワホコリ			
896	コスズメガヤ			
897	ナルコビエ			
898	オニウシノケグサ			
899	ウシノケグサ			
900	トボシガラ			
901	ヒロハノウシノケグサ			
902	オオウシノケグサ			

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 14/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川		
				H16		
903	単子葉植物	イネ科	ドジョウツナギ			
904			チガヤ			
905			チゴザサ			
906			ハイチゴザサ			
907			サヤヌカグサ			
908			アゼガヤ			
909			ネズミムギ			
910			ササクサ			
911			コメガヤ			
912			ササガヤ			
913			ヒメアシボソ			
914			アシボソ			
915			トキワスキ			
916			オギ			
917			ススキ			
918			ヌマガヤ			
919			オオネズミガヤ			
920			ケチヂミザサ			
921			コチヂミザサ			
922			ヌカキビ			
923			オオクサキビ			
924			シマスズメノヒエ			
925			キシユスズメノヒエ			
926			スズメノヒエ			
927			チカラシバ			
928			クサヨシ			
929			ヨシ			
930			ツルヨシ			
931			ホテイチク			
932			マダケ			
933			ハチク			
934			モウソウチク			
935			ネザサ			
936			ケネザサ			
937			メダケ			
938			ミゾイチゴツナギ			
939			スズメノカタビラ			
940			オオイチゴツナギ			
941			ナガハグサ			
942			イチゴツナギ			
943			オオスズメノカタビラ			
944			ヒエガエリ			
945			ウキシバ			
946			ヤダケ			
947			チシマザサ			
948			ミヤコザサ			
949			チマキザサ			
950			ススタケ			
951			アキノエノコログサ			
952			キンエノコロ			
953			エノコログサ			
954			ムラサキエノコロ			
955			オオエノコロ			
956			セイバンモロコシ			
957			ネズミノオ			
958			カニツリグサ			
959			ナギナタガヤ			
960			マコモ			
961			シバ			
962			ヤシ科	シュロ		
963			サトイモ科	セキショウ		
964				キシダマムシグサ		
965				ヤマトテンナンショウ		
966				マムシグサ		
967				ムロウテンナンショウ		
968				カラスビシャク		
969				ウキクサ科	アオウキクサ	
970					ウキクサ	
971			ガマ科	ヒメガマ		
972				コガマ		

表 6.6-12 流入河川確認種リスト(植物 : 15/15)

No.	分類	科名	和名	流入河川		
				H16		
973	単子葉植物	カヤツリグサ科	エナシヒゴクサ			
974			クロカワズスゲ			
975			マツバスゲ			
976			アオスゲ			
977			メアオスゲ			
978			ミヤマシラスゲ			
979			ヒメカンスゲ			
980			ナルコスゲ			
981			カサスゲ			
982			シラスゲ			
983			イトスゲ			
984			マスキサ			
985			カワラスゲ			
986			ジュスゲ			
987			ヒゴクサ			
988			テキリスゲ			
989			ヒカゲスゲ			
990			ナキリスゲ			
991			タチスゲ			
992			ゴウソ			
993			ヒメシラスゲ			
994			カンスゲ			
995			ミヤマカンスゲ			
996			アオゴウソ			
997			コカンスゲ			
998			ヤブスゲ			
999			クサスゲ			
1000			オオイトスゲ			
1001			タガネソウ			
1002			アゼスゲ			
1003			ヤワラスゲ			
1004			ヒメモエギスゲ			
1005			アイダクグ			
1006			ヒメクグ			
1007			クグガヤツリ			
1008			タマガヤツリ			
1009			ヒナガヤツリ			
1010			アゼガヤツリ			
1011			コアゼガヤツリ			
1012			コメガヤツリ			
1013			カヤツリグサ			
1014			アオガヤツリ			
1015			ウシクグ			
1016			シロガヤツリ			
1017			カワラスガナ			
1018			マツバイ			
1019			ハリイ			
1020			シカクイ			
1021			コアゼテンツキ			
1022			ヒメヒラテンツキ			
1023			テンツキ			
1024			クロテンツキ			
1025			ヒデリコ			
1026			メアゼテンツキ			
1027			ヒンジガヤツリ			
1028			コマツカサススキ			
1029			イヌホタルイ			
1030			アブラガヤ			
1031			ショウガ科	ミョウガ		
1032			ラン科	シュンラン		
1033				ツチアケビ		
1034				ミヤマウスラ		
1035				ムヨウラン		
1036				ジガバチソウ		
1037				クモキリソウ		
1038				コ克蘭		
1039				オオバノトンボソウ		
1040				カヤラン		
1041				ネジバナ		
1042				クモラン		
141科1042種				205種		

注) 1.種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。

表 6.6-13 流入河川確認種リスト(鳥類 : 1/2)

No.	目名	科名	種名	流入河川			
			和名	H14	H18・19		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ				
2			アカエリカイツブリ				
3	ペリカン目	ウ科	カワウ				
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ				
5			ササゴイ				
6			アマサギ				
7			ダイサギ				
8			チュウサギ				
9			コサギ				
10			アオサギ				
11			カモ目	カモ科	オシドリ		
12					マガモ		
13					カルガモ		
14	コガモ						
15	ヒドリガモ						
16	カワアイサ						
17	タカ目	タカ科	ミサゴ				
18			ハチクマ				
19			トビ				
20			オオタカ				
21			ツミ				
22			ハイタカ				
23			オオノスリ				
24			ノスリ				
25			サシバ				
26			クマタカ				
27	キジ目	キジ科	コジュケイ				
28			キジ				
29			ヤマドリ				
30	ツル目	クイナ科	バン				
31	チドリ目	チドリ科	コチドリ				
32			イカルチドリ				
33			ケリ				
34		シギ科	キアシシギ				
35			イソシギ				
36			ヤマシギ				
37			オオジシギ				
38	ハト目	ハト科	キジバト				
39			アオバト				
40	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ				
41			ツツドリ				
42			ホトトギス				
43	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク				
44			アオバズク				
45			フクロウ				
46	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ				
47	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ				
48	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ				
49			カワセミ				
50	キツッキ目	キツッキ科	アオゲラ				
51			アカゲラ				
52			オオアカゲラ				
53			コゲラ				
54	スズメ目	ツバメ科	ツバメ				
55			コシアカツバメ				
56			イワツバメ				
57		セキレイ科	キセキレイ				
58			ハクセキレイ				
59	セグロセキレイ						

表 6.6-13 流入河川確認種リスト(鳥類 : 2/2)

No.	目名	科名	種名	流入河川	
			和名	H14	H18・19
60	スズメ目	セキレイ科	ピンズイ		
61		サンショウクイ科	サンショウクイ		
62		ヒヨドリ科	ヒヨドリ		
63		モズ科	モズ		
64		カワガラス科	カワガラス		
65		ミソサザイ科	ミソサザイ		
66		イワヒバリ科	カヤクグリ		
67		ツグミ科	ルリビタキ		
68			ジョウビタキ		
69			ノビタキ		
70	トラツグミ				
71	アカハラ				
72	シロハラ				
73	ツグミ				
74	ウグイス科		ヤブサメ		
75			ウグイス		
76			メボソムシクイ		
77		センダイムシクイ			
78	ヒタキ科	キクイタダキ			
79		キビタキ			
80		オオルリ			
81		サメビタキ			
82		エゾビタキ			
83		コサメビタキ			
84	カササギヒタキ科	サンコウチョウ			
85	エナガ科	エナガ			
86	シジュウカラ科	コガラ			
87		ヒガラ			
88		ヤマガラ			
89		シジュウカラ			
90	メジロ科	メジロ			
91	ホオジロ科	ホオジロ			
92		カシラダカ			
93		ミヤマホオジロ			
94		アオジ			
95		クロジ			
96	アトリ科	アトリ			
97		カワラヒワ			
98		マヒワ			
99		ベニマシコ			
100		ウソ			
101		イカル			
102		シメ			
103	ハタオリドリ科	スズメ			
104	ムクドリ科	ムクドリ			
105	カラス科	カケス			
106		ハシボソガラス			
107		ハシブトガラス			
-			カラス属		
16目36科107種				26種	32種
				41種	

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2. 種名に「...属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。



表 6.6-14 流入河川確認種リスト(両生類)

No.	目名	科名	和名	流入河川
				H15
1	サンショウウオ	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	
2		イモリ	イモリ	
3	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	
4		アマガエル	アマガエル	
5		アカガエル	タゴガエル	
6			ヤマアカガエル	
7			トノサマガエル	
8			ヌマガエル	
9			ウシガエル	
10			ツチガエル	
11		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	
12			カジカガエル	
2目6科12種				5種

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2. : 「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」6月、8月調査時に確認された。

表 6.6-15 流入河川確認種リスト(爬虫類)

No.	目名	科名	和名	流入河川
				H15
1	カメ	イシガメ	クサガメ	
2			ミシシippアカミミガメ	
3			イシガメ	
4	トカゲ	トカゲ	トカゲ	
5		カナヘビ	カナヘビ	
6		ヘビ	シマヘビ	
7			ジムグリ	
8			アオダイショウ	
9			シロマダラ	
10			ヒバカリ	
11			ヤマカガシ	
12		クサリヘビ	マムシ	
2目5科12種				2種

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。

表 6.6-16 流入河川確認種リスト(哺乳類)

No.	目名	科名	和名	流入河川
				H15
1	モグラ	モグラ	ヒミズ	
2			コウベモグラ	
-			モグラ属	
3	コウモリ	キクガシラコウモ	キクガシラコウモリ	
4			モモジロコウモリ	
5			ユビナガコウモリ	
6			テングコウモリ	
-			ヒナコウモリ科	
7			サル	
8	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	
9	ネズミ	リス	ニホンリス	
10			ムササビ	
11		ネズミ	アカネズミ	
12			ヒメネズミ	
13			カヤネズミ	
-			ネズミ科	
14			ネコ	
15	キツネ			
16	イタチ	テン		
17		イタチ属		
18		アナグマ		
19		ウシ		イノシシ
20		シカ	ホンドジカ	
7目11科20種				8種

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」「…科」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 1/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
1	クモ綱	クモ目	ジグモ科	ジグモ	H15
2			ガケジグモ科	ガケジグモ科	
3			ハグモ科	ヒナハグモ	
-				ハグモ科	
4			チリグモ科	チリグモ	
5			ウスグモ科	オウギグモ	
6				マネキグモ	
7				ウスグモ	
8			マシラグモ科	マシラグモ	
-				マシラグモ科	
9			タマゴグモ科	タマゴグモ科	
10			ユウレイグモ科	ユウレイグモ	
11				アケボノユウレイグモ	
12				シモングモ	
13			エンマグモ科	コマツエンマグモ	
14			タナグモ科	クサグモ	
15				コクサグモ	
-				Agelena属	
16				ヤマヤチグモ	
17				クロヤチグモ	
18				シモフリヤチグモ	
19				ヒメヤマヤチグモ	
20				カメンヤチグモ	
21				デベソヤチグモ	
22				カミガタヤチグモ	
-				Coelotes属	
23				カチドキナミハグモ	
-				Cybaeus属	
-				タナグモ科	
24			コガネグモ科	キジロオヒキグモ	
25				キザハシオニグモ	
26				ヌサオニグモ	
27				アオオニグモ	
28				ヤマオニグモ	
29				カラオニグモ	
-				Araneus属	
30				ムツボシオニグモ	
31				コガネグモ	
32				チュウガタコガネグモ	
33				ナガコガネグモ	
-				Argiope属	
34				ヤマトカナエグモ	
35				ギンメッキゴミグモ	
36				カラスゴミグモ	
37				ギンナガゴミグモ	
38				ヤマトゴミグモ	
39				ゴミグモ	
40				ヨツデゴミグモ	
-				Cyclosa属	
41				トリノフンダマシ	
42				オオトリノフンダマシ	
43				シロオビトリノフンダマシ	
44				クロトリノフンダマシ	
45				アカイロトリノフンダマシ	
-				Cyrtarachne属	
46				トガリオニグモ	
47				ヨツボシシヨウジョウグモ	
48				シロスジシヨウジョウグモ	
49				コガネグモダマシ	
50				ゴマジロオニグモ	
51				ワキグロサツマノミダマシ	
52				コゲチャオニグモ	
53				ヤマシロオニグモ	
54				サツマノミダマシ	
55				ヘリジロオニグモ	
-				Neoscona属	
56				サガオニグモ	
57				カラフトオニグモ	
58				ヤマキレアミグモ	
-				コガネグモ科	
59			ミスグモ科	ミスグモ	
60			ハタケグモ科	ヤマハタケグモ	
-				ハタケグモ科	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 2/37)

No.	網名	目名	科名	和名	流入河川	
					H15	
61	クモ綱	クモ目	サラゲモ科	クロケシグモ		
62				コサラゲモ		
63				オオスギヤミサラゲモ		
64				マルサラゲモ		
65				ハラジロムナキグモ		
66				デーニツサラゲモ		
67				ナニワナンキングモ		
68				ノコギリヒザグモ		
69				ハナサラゲモ		
70				ニセアカムネグモ		
71				アリマケズネグモ		
72				ヤマトケズネグモ		
73				ズキンヌカグモ		
74				クロナンキングモ		
75				アシヨレグモ		
76				ハガタヤセサラゲモ		
77				クボミケシグモ		
78				チビサラゲモ		
79				ツリサラゲモ		
80				ヘリジロサラゲモ		
81				ツノケシグモ		
82				チビアカサラゲモ		
83				クスミサラゲモ		
84				ムネグロサラゲモ		
85				コウシサラゲモ		
86				イマダテテングヌカグモ		
87				ナラヌカグモ		
88				フタスジサラゲモ		
89				アシナガサラゲモ		
90				コガネグモ科	シロブチサラゲモ	
91					アリマネグモ	
92					ヨツボシサラゲモ	
93					ヌカグモ	
94					ユノハマサラゲモ	
95					セスジアカムネグモ	
96					オオサカアカムネグモ	
97					テングヌカグモ	
-					サラゲモ科	
98					コモリグモ科	チリコモリグモ
99				スジプトコモリグモ		
100				カガリビコモリグモ		
101			エビチャコモリグモ			
102			ヒノマルコモリグモ			
103			カワベコモリグモ			
104			ハラクロコモリグモ			
105			ウツキコモリグモ			
106			ヤマハリゲコモリグモ			
107			イサゴコモリグモ			
108			ハリゲコモリグモ			
109			キクツキコモリグモ			
-			Pardosa属			
110			クラークコモリグモ			
111			ミナミコモリグモ			
112			カイソクコモリグモ			
113			イモコモリグモ			
114			チビコモリグモ			
115			キバラコモリグモ			
116			コガタコモリグモ			
117			ナミコモリグモ			
-			Pirata属			
118			アライトコモリグモ			
-			コモリグモ科			
119			センショウグモ科	センショウグモ		
120				オオセンショウグモ		
121			コツブグモ科	ナンブコツブグモ		
122			ササグモ科	ササグモ		
123			キシダグモ科	シノビグモ		
124				スジプトハシリグモ		
125				スジアカハシリグモ		
126				イオウイロハシリグモ		
-				Do Lomedes属		
127				ハヤテグモ		
128				アズマキシダグモ		
-				Pisaura属		
-				キシダグモ科		
129				アシナガグモ科	チュウガタシロカネグモ	
130			オオシロカネグモ			
131			コシロカネグモ			
132			キララシロカネグモ			
-			Leucauge属			

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 3/37)

No.	網名	目名	科名	和名	流入河川				
					H15				
133	クモ綱	クモ目	アシナガグモ科	キンヨウグモ					
134							ヤマジドヨウグモ		
135							タニマノドヨウグモ		
136							メガネドヨウグモ		
137							ジョロウグモ		
138							トガリアシナガグモ		
139							ハラヒロアシナガグモ		
140							キヌアシナガグモ		
141							ヤサガタアシナガグモ		
142							ミドリアシナガグモ		
143							アシナガグモ		
144							ウロコアシナガグモ		
145							シコクアシナガグモ		
-							Tetragnatha属		
-							アシナガグモ科		
146						ヒメグモ科	ツリガネヒメグモ		
-								Achaearanea属	
147								ヒメグモ	
148								コンピラヒメグモ	
149								オオヒメグモ	
150								アシフトヒメグモ	
151								オナガグモ	
152								フタオイソウロウグモ	
153								ヤリグモ	
154								ヤホシサヤヒメグモ	
155								ヨロイヒメグモ	
156								ボカシミジグモ	
157								カニミジグモ	
158								シモフリミジグモ	
-								Diplocephalus属	
159								カレハヒメグモ	
160								ヒシガタグモ	
161								ハラナガヒシガタグモ	
-								Episinus属	
162							ツクネグモ		
163							スネグロオチバヒメグモ		
164							バラギヒメグモ		
165							ヒロハヒメグモ		
166							ムナボシヒメグモ		
167							タカコヒメグモ		
-							Theridion属		
-							ヒメグモ科		
168						カラカラグモ科	ヤマジグモ		
169								カラカラグモ	
170								ナルコグモ	
171						イツツグモ科	ナガイツツグモ		
172								イツツグモ	
173						フクログモ科	オビジガバチグモ		
174								カバキコマチグモ	
175								ヤマトコマチグモ	
176								ヤサコマチグモ	
-								Cheiracanthium属	
177								コフクログモ	
178								イナフクログモ	
179								ヤハズフクログモ	
180								ヒメフクログモ	
181								トビイロフクログモ	
182								マイコフクログモ	
183								ムナアカフクログモ	
-								Clubiona属	
184								イタチグモ	
185								オトヒメグモ	
186								コムラウラシマグモ	
187							ウラシマグモ		
-							Phrurolithus属		
188							ネコグモ		
-							フクログモ科		
189						シボグモ科	シボグモ		
190						ワシグモ科	チャクロワシグモ		
191								トラフワシグモ	
-								Drassodes属	
192								エビチャヨリメケムリグモ	
193								クロチャケムリグモ	
194								マエトビケムリグモ	
-								Zelotes属	
-							ワシグモ科		
195						アシダカグモ科	アシダカグモ		
196								ツユグモ	
197								コアシダカグモ	
198								カマスグモ	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 4/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川		
					H15		
199	クモ綱	クモ目	エビグモ科	キンシロエビグモ			
200				キタエビグモ			
201				アサヒエビグモ			
-					Philodromus属		
202					ヤドカリグモ		
203					シャコグモ		
204					ハエトリグモ科	ネコハエトリ	
205						マミジロハエトリ	
206						アシトハエトリ	
207						ホオジロハエトリ	
-						Evarcha属	
208						アダンソンハエトリ	
209						ジャバラハエトリ	
210						チビクロハエトリ	
-						Heliophantus属	
211						エキスハエトリ	
212						ヨダンハエトリ	
-						Marpissa属	
213						ヤハズハエトリ	
214						アゴフトハエトリ	
215						ヤサアリグモ	
216					アリグモ		
-					ハエトリグモ科	Myrmarachne属	
217						チャイロアサヒハエトリ	
218			ムロテハエトリ(マガネアサヒハエトリ)				
219			メガネアサヒハエトリ				
-			Phintella属				
220			デーニツハエトリ				
221			イナズマハエトリ(キツネハエトリ)				
222			ヒメカラスハエトリ				
223			アオオビハエトリ				
224			ウススジハエトリ				
225			ムツバハエトリ				
-			カニグモ科	ハエトリグモ科			
226				コハナグモ			
227				アシナガカニグモ			
228				アマギエビスグモ			
-				Lysiteles属			
229				ハナグモ			
230				ワカバグモ			
231				ガザミグモ			
232				フノジグモ			
233				アズチグモ			
234			トラフカニグモ				
235			セマルトラフカニグモ				
236			ヤミイロカニグモ				
237			アズマカニグモ				
238			オオヤミイロカニグモ				
-			Xysticus属				
239			シボグモモドキ科	シボグモモドキ			
240				コクナグモ			
-				クモ目			
241	昆虫綱	トビムシ目(粘管目)	ヒメトビムシ科	ヒメトビムシ科			
242				イボトビムシ科	イボトビムシ科		
243			シロトビムシ科	ヤギシロトビムシ			
-				シロトビムシ科			
244			ミズトビムシ科	ミズトビムシ			
245				アヤトビムシ科	シマツノトビムシ		
246				Sinella属			
-				アヤトビムシ科			
247			ツチトビムシ科	ミスフシトビムシ			
248				ニセフシトビムシ			
-				ツチトビムシ科			
249			ウスギヌトビムシ科	ウスギヌトビムシ科			
250			ヒゲナガトビムシ科	トウアヒゲナガトビムシ			
251				アヤヒゲナガトビムシ			
-				ヒゲナガトビムシ科			
252			トゲトビムシ科	オオトゲトビムシ			
-				トゲトビムシ科			
253			マルトビムシ科	キボシマルトビムシ			
254				キマルトビムシ			
-				マルトビムシ科			
255			ヤマシタホソウロコトビムシ				

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 5/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
256	昆虫綱	トビムシ目(粘管目)	マルトビムシ科	クモマルトビムシ亜科	H15
257				クモトビムシ亜科	
258				ヨシイムシ	
259				イシイナガコムシ	
260		コムシ目	イシノミ科	Pedetontinus属	
261				Pedetontus属	
-				イシノミ科	
262		カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ	
263				Baetis属	
-				コカゲロウ科	
264				フタオカゲロウ科	フタオカゲロウ科
265				ヒラタカゲロウ科	オビカゲロウ
266					チャイロミヤマタニガワカゲロウ
267					エルモンヒラタカゲロウ
268					ユミモンヒラタカゲロウ
269					ヒメヒラタカゲロウ
270					タテヤマヒメヒラタカゲロウ
-					ヒラタカゲロウ科
271					チラカゲロウ科
272					ヒトリガカゲロウ科
273					トビイロカゲロウ科
-					ヒメトビイロカゲロウ
274					トビイロカゲロウ科
275					フタスジモンカゲロウ
-					モンカゲロウ科
276					モンカゲロウ科
277					カワカゲロウ科
-					キイロカワカゲロウ
-					マダラカゲロウ科
-					クロマダラカゲロウ
-			マダラカゲロウ科		
-			カゲロウ目		
278		トンボ目(蜻蛉目)	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ	
279				アオイトトンボ	
280				オオアオイトトンボ	
281				イイトンボ科	アジアイトトンボ
282					アオモンイトトンボ
283				カワトンボ科	ハグロトンボ
284					ミヤマカワトンボ
285					ニホンカワトンボ
286				アサヒナカワトンボ	
287	ヤンマ科			コシボソヤンマ	
288				ミルンヤンマ	
289	サナエトンボ科			ヤマサナエ	
290				ダビドサナエ	
291				オナガサナエ	
292				コオニヤンマ	
293				オグマサナエ	
294	ムカシヤンマ科			ムカシヤンマ	
295	オニヤンマ科			オニヤンマ	
296	エゾトンボ科			コヤマトンボ	
297	トンボ科			ハラビロトンボ	
298				シオカラトンボ	
299				シオヤトンボ	
300				オオシオカラトンボ	
301				ウスバキトンボ	
302				コシアキトンボ	
303				ナツアカネ	
304				マユタテアカネ	
305		アキアカネ			
306		ノシメトンボ			
307	ネキトンボ				
308	ゴキブリ目(網翅目)	ヒメクロゴキブリ科	ヒメクロゴキブリ		
309			オオゴキブリ科		
310			オオゴキブリ		
-		チャバネゴキブリ科			
311	カマキリ目(蠍螂目)	ヒメカマキリ科	モリチャバネゴキブリ		
312			チャバネゴキブリ科		
313			ヒメカマキリ		
314			ハラビロカマキリ		
315			コカマキリ		
-				チョウセンカマキリ	
-		オオカマキリ			
-		カマキリ科			
316	シロアリ目(等翅目)	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ		
-			シロアリ目		
317	ハサミムシ目(革翅目)	クロハサミムシ科	クロハサミムシ科		
318			マルムネハサミムシ科		
-			コヒゲジロハサミムシ		
319			マルムネハサミムシ科		
320			クギヌキハサミムシ科		
-		コブハサミムシ			
-		キバネハサミムシ			
-		クギヌキハサミムシ科			
321	カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科	ヤスマツクロカワゲラ		
-			クロカワゲラ科		
322			ミドリカワゲラ科		
323			ハラジロオナシカワゲラ科		
324			オナシカワゲラ科		

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 6/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川		
325	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	カワゲラ科	キベリオスエダカワゲラ	H15		
326				カミムラカワゲラ			
327				ヤマトフタツメカワゲラ			
328				ヤマトカワゲラ			
-				カワゲラ科			
329				アミメカワゲラ科		セスジミドリカワゲラモドキ	
-						アミメカワゲラ科	
330						カワゲラ	
331				バッタ目(直翅目)		コロギス科	ハネナシコロギス
332							コロギス
-							コロギス科
333						カマドウマ科	クチキウマ
-							Anoplophilus属
334							Atachycines属
335							カマドウマ
336							マダラカマドウマ
337							モリスミウマ
-							Diestrammena属
338		クラズミウマ					
-		Tachycines属					
-		カマドウマ科					
339		キリギリス科	コバネヒメギス				
340			ウスイロササキリ				
341			オナガササキリ				
342			コバネササキリ				
343			ホシササキリ				
344			ササキリ				
345			エソツユムシ				
346			セスジツユムシ				
347			ヒメギス				
348			クビキリギス				
349			キリギリス				
350			ウマオイ				
-			Hexacentrus属				
351			クダマキモドキ				
352			ヤマクダマキモドキ				
353		ツユムシ					
354		アシグロツユムシ					
355		クサキリ					
356		ヤブキリ					
357		ササキリモドキ					
358		ササキリ亜科					
359		ツユムシ亜科					
-		キリギリス科					
360		ケラ科	ケラ				
361		コオロギ科	キンヒバリ				
362			マダラスズ				
363			ヒゲシロスズ				
364			カワラスズ				
365			シバズ				
366			ヤマトヒバリ				
367			ハラオカメコオロギ				
368			ミツカドコオロギ				
369			モリオカメコオロギ				
-			Laxoblemmus属				
370			タンボコオロギ				
371			クマコオロギ				
372			カンタン				
-			Oecanthus属				
373			クサヒバリ				
374			リュウキュウマダラスズ				
375			ヒメスズ				
376			エソスズ				
377			ヤチスズ				
378			クマスズムシ				
379			エンマコオロギ				
-		Teleogryllus属					
380		キアシヒバリモドキ					
381		ツツレサセコオロギ					
-		コオロギ科					
382		カネタタキ科	カネタタキ				



表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 7/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川		
					H15		
383	昆虫綱	バッタ目(直翅目)	アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ科			
384			バッタ科	シヨウリョウバッタ			
385				マダラバッタ			
386				ヒナバッタ			
387				ヒロバネヒナバッタ			
388				カワラバッタ			
389				クルマバッタモドキ			
390				ハネナガイナゴ			
391				コバネイナゴ			
-					Oxya属		
392					イナゴモドキ		
393					ダイリフキバッタ		
394					ミカドフキバッタ		
395					キンキフキバッタ		
396					ヤマトフキバッタ		
-					Parapodisma属		
397					ツチイナゴ		
398					ツマグロイナゴモドキ		
399					イボバッタ		
-					バッタ科		
400					オンブバッタ科	オンブバッタ	
401					ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ	
402						ハネナガヒシバッタ	
403						コバネヒシバッタ	
404						ハラヒシバッタ	
405						ヤセヒシバッタ	
406						モリヒシバッタ	
-						Tetrix属	
-						ヒシバッタ科	
407					ノミバッタ科	ノミバッタ	
408				ナナフシ目(竹節虫目)	ナナフシ科	トゲナナフシ	
409						エダナナフシ	
-						ナナフシ科	
410				チャタテムシ目(蟻虫目)	ケブカチャタテ科	ウスベニチャタテ	
411					ケチャタテ科	キモンケチャタテ	
-						ケチャタテ科	
412					ホソチャタテ科	ハグルマチャタテ	
413						ホソチャタテ	
414					スカシチャタテ科	スカシチャタテ	
415					ヒメチャタテ科	ヒメチャタテ	
416					マドチャタテ科	ヒメマドチャタテ	
-						マドチャタテ科	
417					チャタテ科	オオチャタテ	
418						カバイロチャタテ	
419						オオスジチャタテ	
420						スジチャタテ	
-						チャタテ科	
421					コチャタテ科	コチャタテ科	
422				カメムシ目(半翅目)	コガシラウカ科	ナワコガシラウカ	
423				スジコガシラウカ			
424			ヒシウカ科	オビカウウカ			
425				ヤナギカウウカ			
426				キガシラヒシウカ			
427				イボタヒシウカ			
428				ヨスジヒシウカ			
429			ウカ科	タケウカ			
430				フタスジオウウカ			
431				クロスジオウウカ			
432				ナガラガウウカ			
433				クワヤマウウカ			
434				ヒメトビウウカ			
435				トビイロウウカ			
436				ホソミドリウウカ			
437				ハコネホソウウカ			
438				セジロウウカ			
439				ハリマナガウウカ			
440				タマガワナガウウカ			
441				セスジウウカ			
442				コブウウカ			
-				ウカ科			
443			ハネナガウウカ科	アカハネナガウウカ			
444				アヤヘリハネナガウウカ			
445				アカメガシワハネビロウウカ			
446				マエグロハネナガウウカ			
447			テングスケバ科	テングスケバ科			
448			アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ			
449			マルウカ科	マルウカ			
450				キボシマルウカ			
451				クサビウウカ			
452			ハゴロモ科	スケバハゴロモ			
453				ベッコウハゴロモ			
454				アミガサハゴロモ			

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 8/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
455	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	グンバイウンカ科	タデシグンバイウンカ	H15	
456				ヒシウンカモドキ		
457			セミ科	チツゼミ		
458				クマゼミ		
459				アブラゼミ		
460				ミンミンゼミ		
461				ニイニイゼミ		
462				ヒグラシ		
463				ハルゼミ		
464			ツノゼミ科	トビロツノゼミ		
465			アワフキムシ科	マツアワフキ		
466				シロオビアワフキ		
467				モンキアワフキ		
468				ハマヘアワフキ		
469				マエキアワフキ		
470				ヒメモンキアワフキ		
471				ホシアワフキ		
472				クロスジアワフキ		
473				マダラアワフキ		
474				コミヤマアワフキ		
475				ホソアワフキ		
-						アワフキムシ科
476			コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ		
477			ヨコバイ科	カシヒメヨコバイ		
478				トバヨコバイ		
479				モジヨコバイ		
480				カンキツヒメヨコバイ		
481				フタテンヒメヨコバイ		
482				スズキヒメヨコバイ		
483				クサビヨコバイ		
484				ミドリカスリヨコバイ		
485				タケナガヨコバイ		
486				ホシアオズキンヨコバイ		
487				ツマクロオオヨコバイ		
488				Chlorita属		
489				オオヨコバイ		
490				オオトガリヨコバイ		
491				トガリヨコバイ		
492				ミドリヒメヨコバイ		
493				バラヒメヨコバイ		
494				ヨツモンヒメヨコバイ		
495				ヨモギヒメヨコバイ		
496				シロヒメヨコバイ		
497				フタスジトガリヨコバイ		
498				ウスイロヒロヨコバイ		
499				サシヨコバイ		
500				ヒシモンヨコバイ		
501				シダヨコバイ		
502				マエジロオオヨコバイ		
503				ミドリヒロヨコバイ		
504				ミミズク		
505				コミミズク		
506				フタテンヨコバイ		
507				ヨツテンヨコバイ		
508				ムツテンヨコバイ		
509				コチャイロヨコバイ		
510				チャイロヨコバイ		
511				ムナグロスキンヨコバイ		
512				オビヒメヨコバイ		
513				ツマクロヨコバイ		
514				ホソサシヨコバイ		
515				ハンノヒロズヨコバイ		
516				ミナミマダラヨコバイ		
517				クワキヨコバイ		
518				アカシヒメヨコバイ		
519				モモクロヨコバイ		
520				クロヒラタヨコバイ		
521				ヒトツメヨコバイ		
522				クロサシヨコバイ		
523				シマサシヨコバイ		
524				シロスキンヨコバイ		
525				イナズマヨコバイ		
526				イネマダラヨコバイ		
527				シラホシスカシヨコバイ		
528				オサヨコバイ		
529				チマダラヒメヨコバイ		
530				キイロヒメヨコバイ		
531				イグチホシヨコバイ		
532				ホシヨコバイ		
533				ニッコウホシヨコバイ		
534				クロモンヤマトヨコバイ		
535				ヤノトガリヨコバイ		
536				ヤマシロヒメヨコバイ		
537				タカサゴヒメヨコバイ		
538				ミミズク亜科		
539				ヒロズヨコバイ亜科		
540				ホシヨコバイ亜科		
541				ホソサシヨコバイ亜科		
542				ヒメヨコバイ亜科		
543				オオヨコバイ亜科		
-			ヨコバイ科			
-			カメムシ目, 同翅目, 類吻群			

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 9/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
544	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	キジラミ科	オビキジラミ	H15	
545				イタドリマダラキジラミ		
546				ハンノキジラミ		
547				ベニキジラミ		
548				クストガリキジラミ		
549				クロトガリキジラミ		
550				アブラムシ科		ヨメナアミナシヒゲナガアブラムシ
551						ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ
552						マメアブラムシ
553						クリオオアブラムシ
554			ハッカイボアブラムシ			
555			ウツギトックリアブラムシ			
556			イバラヒゲナガアブラムシ			
557			クヌギゲマダラアブラムシ			
558			アザミヒゲナガアブラムシ			
559			クヌギハアブラムシ			
-				アブラムシ科		
560			クビナガカメムシ科	ヒメクビナガカメムシ		
561			サシガメ科	マダラカモドサシガメ		
562				クロバアカサシガメ		
563				トビイロサシガメ		
564				クロモンサシガメ		
565				クビアカサシガメ		
566				アカヘリサシガメ		
567				アシナガサシガメ		
568				シマサシガメ		
569				ヒメトビサシガメ		
570				ヤニサシガメ		
-				サシガメ科		
571			ゲンバウムシ科	オオウチワゲンバイ		
572				マルミヤマゲンバイ		
573				ヤナギゲンバイ		
574				シキミゲンバイ		
575				トサカゲンバイ		
-						Stephanitis属
576				ヒメゲンバイ		
-						ゲンバウムシ科
577				ハナカメムシ科		ヤサハナカメムシ
578						ケシハナカメムシ
579			ズイムシハナカメムシ			
580			ツヤヒメハナカメムシ			
581			ナミヒメハナカメムシ			
-						Orius属
582			ユミアシハナカメムシ			
-						ハナカメムシ科
583			トコジラミ科			トコジラミ科
584			カスミカメムシ科			キエリフタモンカスミカメ
585				ナカグロカスミカメ		
586				フチヒゲクロカスミカメ		
587				フタモンカスミカメ		
588				マツノヒゲボツカスミカメ		
589				フタモンアカカスミカメ		
590				クロバカスミカメ		
591				モモアカハギカスミカメ		
592				ツマグロアオカスミカメ		
593				ツマグロハギカスミカメ		
-						Apolygus属
594				コミドリチビトビカスミカメ		
595				ミドリチビトビカスミカメ		
596				ヒメセダカカスミカメ		
597				アカホシカスミカメ		
598				マダラカスミカメ		
599				シロテンツヤカスミカメ		
600				オオクロトビカスミカメ		
601				ウスイロホソカスミカメ		
602				クロトビカスミカメ		
603				ズアカシダカスミカメ		
604				タバコカスミカメ		
605				クロマルカスミカメ		
606				モンキマキバカスミカメ		
607				キアシアカスミカメ		
608				ホソヒョウタンカスミカメ		
609				ツヤヒョウタンカスミカメ		
610				ヒョウタンカスミカメ		
611				クロヒョウタンカスミカメ		
612				ズグロキベリカスミカメ		
613			オオクロセダカカスミカメ			
614			カシワトビカスミカメ			
615			ムギカスミカメ			
616			アカスジカスミカメ			
617			ウスモンミドリカスミカメ			



表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 11/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
698	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ミズカメムシ科	ミズカメムシ	H15	
699			カタピロアメンボ科	ケシカタピロアメンボ		
700			ミズムシ科	コチビズムシ		
701				チビズムシ		
702				ハラグロコミズムシ		
703				コミズムシ		
-				Sigara属		
704			メミズムシ科	メミズムシ		
705			コオイムシ科	コオイムシ		
706			タイコウチ科	タイコウチ		
707			マツモムシ科	ミズカマキリ		
708				マツモムシ		
-				カメムシ幼虫 カメムシ目		
709			アザミウマ目(総翅目)	シマアザミウマ科		ヒラスハナアザミウマ
710				アザミウマ科		アザミウマ科
711				クダアザミウマ科		Psalidothrips属 クダアザミウマ科
-				アザミウマ目		
712			アミメカゲロウ目(脈翅目)	ヘビトンボ科		クロスジヘビトンボ
713						ヘビトンボ
714				センブリ科		センブリ科
715				コナカゲロウ科		マダラコナカゲロウ
716						シロコナカゲロウ
717				ヒロバカゲロウ科		ヒロバカゲロウ
718						ウンモンヒロバカゲロウ
719		スカシヒロバカゲロウ				
720		キマダラヒロバカゲロウ				
721		ケカゲロウ科				ケカゲロウ
722		カマキリモドキ科		ヒメカマキリモドキ		
723		ミスカゲロウ科		ミスカゲロウ		
724		クサカゲロウ科		キントキクサカゲロウ		
725				ニッポンクサカゲロウ		
726		ヒメカゲロウ科		ホシクサカゲロウ		
727				ヤマトヒメカゲロウ		
728				アシマダラヒメカゲロウ		
729				ホソバヒメカゲロウ		
730				チャバネヒメカゲロウ		
731				マルバネヒメカゲロウ		
732		ニセヒメカゲロウ				
733		ツノトンボ科		ツノトンボ		
734				オオツノトンボ		
735		ウスバカゲロウ科		ホシウスバカゲロウ		
736				ウスバカゲロウ		
737		シリアゲムシ目(長翅目)		シリアゲムシ科		ヤマトシリアゲ
738				ブライヤシリアゲ		
739		シリアゲモドキ科		スカシシリアゲモドキ		
740		トビケラ目(毛翅目)		カワトビケラ科		ニホンタニガワトビケラ
-						カワトビケラ科
741				イワトビケラ科		オランダケミヤマイワトビケラ
-						イワトビケラ科
742				クダトビケラ科		クダトビケラ科
743			ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ		
744				チャバネヒゲナガカワトビケラ		
745			ヤマトトビケラ科	イノブスヤマトトビケラ		
-				ヤマトトビケラ科		
746			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ科		
747			ナガレトビケラ科	クレメンズナガレトビケラ		
748				ニッポンナガレトビケラ		
749				トランスクイナガレトビケラ		
750				ヤマナカナガレトビケラ		
-				Rhyacophila属		
-				ナガレトビケラ科		
751			コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ		
752			カクスイトビケラ科	クワヤマカクスイトビケラ		
753				マルツツトビケラ		
-			Micrasema属			
-			カクスイトビケラ科			
754			アシエダトビケラ科	コバントビケラ		
-			アシエダトビケラ科			
755			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ		
-				Goera属		
-			ニンギョウトビケラ科			
756			カクツツトビケラ科	フトヒゲカクツツトビケラ		
757				ツダカクツツトビケラ		
-			カクツツトビケラ科			
758			ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ		
759				ゴマダラヒゲナガトビケラ		
760				ヤマトセンカイトビケラ		
-			ヒゲナガトビケラ科			
761		エグリトビケラ科	ニセウスバキトビケラ			
762			ウスバキトビケラ			
-		エグリトビケラ科				
763		ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ			
-			ホソバトビケラ科			
764		フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ			
765			フタスジキソトビケラ			
766		トビケラ科	トビケラ科			
767		マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ			
-			マルバネトビケラ科			

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 12/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川			
768	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ケトビケラ科	グマガトビケラ	H15			
-				ケトビケラ科		ケトビケラ科		
769				クロツツトビケラ科		クロツツトビケラ		
-						Uenoa属		
770				シマトビケラ科		コガタシマトビケラ		
771						シロズシマトビケラ		
772						イカリシマトビケラ		
773						ウルマーシマトビケラ		
774						セリーシマトビケラ		
775						ナカハラシマトビケラ		
-							Hydropsyche属	
776							オオシマトビケラ	
-							シマトビケラ科	
-							トビケラ目	
777				チヨウ目(鱗翅目)		コウモリガ科	キマダラコウモリ	
778						ムモンハモグリガ科	ムモンハモグリガ科	
779						ツヤコガ科	アジサイツヤコガ	
-							ツヤコガ科	
780							マガリガ科	キオビクロヒゲナガ
781							マガリガ科	マガリガ科
782							ホソガ科	ホソガ科
783							ホソガ科	ホソガ科
-							ホソガ科	ホソガ科
784							ハモグリガ科	ハモグリガ科
-						ハモグリガ科	ハモグリガ科	
785						コハモグリガ科	コハモグリガ科	
786						ニセハマキガ科	カザリニセハマキ	
787						ヒロズコガ科	クロモンチヒロズコガ	
788							マエモンヒロズコガ	
789							ウスモンツマオレガ	
790							アトモンヒロズコガ	
791							コクガ	
792							クロクモヒロズコガ	
793						ツツミノガ科	ツツミノガ科	
794						カザリバガ科	ホソカザリバ	
-							Cosmopterix属	
795							ベニモンマイコモドキ	
-							カザリバガ科	
796						クサモグリガ科	クサモグリガ科	
797						キバガ科	ミドリチビキバガ	
798							ハイロチビキバガ	
799							ハギノシロオビキバガ	
800							イモキバガ	
801							ナラクロオビキバガ	
-							キバガ科	
802						ヒゲナガキバガ科	ゴマフシロキバガ	
803							ムモンヒロバキバガ	
804							コクサギヒラタマルハキバガ	
805							クロカギヒラタマルハキバガ	
806							ヨモギヒラタマルハキバガ	
807							ミツボシキバガ	
808							ホソオビキマルハキバガ	
809							モトグロヒラタマルハキバガ	
810							カタキマルハキバガ	
811							スジモンキマルハキバガ	
812							カレハチビマルハキバガ	
813							オビマルハキバガ科	
814							ヒラタマルハキバガ科	
-						マルハキバガ科		
815				ニセマイコガ科		カタアカマイコガ		
816				ニジュウシトリバガ科		ヤマトニジュウシトリバ		
817				シンクイガ科		モモノヒメシンクイ		
818				アトヒゲコガ科		アトヒゲコガ科		
819				メムシガ科		オオキメムシガ		
-						メムシガ科		
820				ヒカリバコガ科		ヒカリバコガ科		
821				スガ科		ヒロバコナガ		
822						ツヤギンバナスガ		
823						コナガ		
824						ツマグロハイスガ		
825						ホソトガリクチブサガ		
826						スガ科		
-						スガ科		
827				ホソハマキモドキガ科		ホソハマキモドキガ科		
828				スカシバガ科		モモトスカシバ		
829				ボクトウガ科		ゴマフボクトウ		
830				ハマキガ科		ハンノキミダレモンハマキ		
831						ギンヨスジハマキ		
832						ナラコハマキ		
833						チャモンシロハマキ		
834						チャノコカクモンハマキ		
835						リンゴコカクモンハマキ		
836						ネボシウスツマヒメハマキ		
837						グミウスツマヒメハマキ		
-				Apotomis属				
838				アトキハマキ				
839				ミダレカクモンハマキ				
840				オオアトキハマキ				
841				マツアトキハマキ				
842				ナカジロヒメハマキ				
843				イグサヒメハマキ				

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 13/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
844	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ハマキガ科	フタモントガリバヒメハマキ	H15
845				ハイロウスモンハマキ	
846				ウスモンハマキ	
847				ウスキカクモンハマキ	
848				アシプトヒメハマキ	
849				オオアシプトヒメハマキ	
850				ヨツメヒメハマキ	
851				ヨモギネムシガ	
852				ヒノキカワモグリガ	
853				シロスソモンヒメハマキ	
854				カバイロスソモンヒメハマキ	
855				トビモンシロヒメハマキ	
856				ニセコシワヒメハマキ	
-				Eucosma属	
857				アカオビホソハマキ	
858				ウスキシロヒメハマキ	
859				ナシヒメシンクイ	
860				マツトビヒメハマキ	
861				グミオオウスツマヒメハマキ	
862				シロモンヒメハマキ	
863				シラフオオヒメハマキ	
864				ヒカゲヒメハマキ	
865				チャハマキ	
866				マメノヒメシンクイ	
867				ホソバチビヒメハマキ	
868				スイカズラホソバヒメハマキ	
869				ニセアズキサヤヒメハマキ	
870				コホソスジハマキ	
871				フタモンコハマキ	
872				ウスシロモンヒメハマキ	
873				ニセバラシロヒメハマキ	
874				バラシロヒメハマキ	
875				クローバヒメハマキ	
876				ウツギヒメハマキ	
877				ナツハゼヒメハマキ	
878				ウストビハマキ	
879				コエダオビホソハマキ	
880				コホソハマキ	
881				マツアアカシムシ	
882				キカギヒメハマキ	
883				モチツツジマダラヒメハマキ	
884				クロネハイロヒメハマキ	
885				マツアアカシムシ	
886				クシヒゲムラサキハマキ	
887				シロスジマダラヒメハマキ	
888				Griseida属	
889				テングハマキガ亜科	
890				ハマキガ亜科	
891				ヒメハマキガ亜科	
-				ハマキガ科	
892				ホソハマキガ科	
893				イラガ科	
894				ムラサキイラガ	
895				カギバイラガ	
896				クロマダライラガ	
897				テングイラガ	
898				イラガ	
899				ナシイラガ	
900				クロスジイラガ	
901				アオイラガ	
902				クロシタアオイラガ	
903				タイワンイラガ	
-				アカイラガ	
904				イラガ科	
905				マダラガ科	
906				ウスクロマダラ	
907				ウスバツバメガ	
908				リンゴハマキクロバ	
909				シロシタホタルガ	
910				ダイミョウセセリ	
911				ホソバセセリ	
912				ヒメキマダラセセリ	
913				イチモンジセセリ	
914				チャバネセセリ	
915				オオチャバネセセリ	
916				コチャバネセセリ	
917				マダラチョウ科	
918				アサギマダラ	
919				テングチョウ科	
920				テングチョウ	
921				シジミチョウ科	
922				ルリシジミ	
923				ウラギンシジミ	
924				ツバメシジミ	
	ウラナミシジミ				
	ベニシジミ				
	ムラサキシジミ				
	ヤマトシジミ				
	トラフシジミ				

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 14/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
925	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シジミチョウ科	シルビアシジミ本土亜種	H15
926			タテハチョウ科	コムラサキ	
927			サカハチチョウ		
928			ミドリヒョウモン		
929			ツマグロヒョウモン		
930			ウラギンスジヒョウモン		
931			オオウラギンスジヒョウモン		
932			ヒメアカタテハ		
933			メスグロヒョウモン		
934			ルリタテハ本土亜種		
935			イチモンジチョウ		
936			アサマイチモンジ		
937			クモガタヒョウモン		
938			ミスジチョウ		
939			コムスジ		
940			ヒオドシチョウ		
941			キタテハ		
942			アカタテハ		
943			アオシバアゲハ		
944			カラスアゲハ		
945			モンキアゲハ		
946			ミヤマカラスアゲハ		
947			キアゲハ		
948			オナガアゲハ		
949			ナガサキアゲハ		
950			クオアゲハ		
951			ナミアゲハ		
952			モンキチョウ		
953			キチョウ		
954			スジグロシロチョウ		
955			モンシロチョウ		
956			クロヒカゲ		
957			クロコノマチョウ		
958			ジャノメチョウ		
959			コジャノメ		
960			ヒメジャノメ		
961			サトキマダラヒカゲ		
962			ヤマキマダラヒカゲ		
-			Neope属		
963			ヒメウラナミジャノメ		
964			ヨモギトリバ		
965			ブドウトリバ		
966			フジマメトリバ		
967			ホソトリバガ亜科		
-			トリバガ科		
968			ウスムラサキノメイガ		
969			クロウスムラサキノメイガ		
-			Agrotera属		
970			ホソバソトグロキノメイガ		
971			シロヒトモンノメイガ		
972			ヒメトガリノメイガ		
973			ツトガ		
974			シロモンノメイガ		
975			モンウスグロノメイガ		
-			Bradina属		
976			ヒメキスジツトガ		
977			サツマツトガ		
978			ヘリアカキンノメイガ		
979			オオシロモンノメイガ		
980			ニカメイガモドキ		
981			ウスクロスジツトガ		
982			キベリハネボソノメイガ		
983			キボソノメイガ		
984			カギバノメイガ		
985			ウスムラサキスジノメイガ		
986			コブノメイガ		
987			マツノゴマダラノメイガ		
988			クロスカシトガリノメイガ		
989			シロスジツトガ		
990			トガリキノメイガ		
991			シロアヤヒメノメイガ		
992			シロテンノメイガ		
993			マダラミスメイガ		
994			ヒメマダラミスメイガ		
995			スジボソヤマメイガ		
996			アヤナミノメイガ		
997			ナノメイガ		
998			ヘリジロカラスノメイガ		
999			ミヤマエグリツトガ		
1000			クワノメイガ		
1001			クロヘリキノメイガ		
1002			トビヘリキノメイガ		
1003			クロスノメイガ		
1004			ウタノメイガ		
1005			ハイマダラノメイガ		
1006			ウスオビクロノメイガ		
1007			モンキクロノメイガ		
1008			マエキノメイガ		
1009			ミツテンノメイガ		
1010			マメノメイガ		
1011			チビツトガ		
1012			スジマダラノメイガ		



表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 15/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川			
1013	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ツトガ科	シロテンキノメイガ	H15			
1014				サツマキノメイガ				
1015				クロフキノメイガ				
1016				ミドロミズメイガ				
1017				ホシオビホソノメイガ				
1018				ワモンノメイガ				
1019				アトモンミズメイガ				
1020				キバラノメイガ				
1021				クロミスジノメイガ				
1022				シロアシクロノメイガ				
1023				アワノメイガ				
-				Ostrinia属				
1024				ヨスジノメイガ				
1025				ヘリジロキンノメイガ				
1026				マエウスモンキノメイガ				
1027				ヒメシロノメイガ				
1028				マエアカカシノメイガ				
1029				ヒロバウスグロノメイガ				
1030				シバツトガ				
1031				ゼニガサミズメイガ				
1032				シロナミズメイガ				
1033				クロマダラキノメイガ				
1034				クビシロノメイガ				
1035				コガタシロモンノメイガ				
1036				クロスジキンノメイガ				
1037				シロハラノメイガ				
1038				コヨツメノメイガ				
1039				ウスイロキンノメイガ				
1040				ウコンノメイガ				
1041				キオビミズメイガ				
1042				ナカキトガリノメイガ				
1043				キムジノメイガ				
1044				ミカエリソウノメイガ				
1045				ホソスジツトガ				
1046				モンスカシキノメイガ				
1047				クロオビノメイガ				
1048				トモンノメイガ				
1049				アトグロキノメイガ				
1050				ナカキノメイガ				
1051				コガタシロオオメイガ				
1052				シロオビノメイガ				
1053				モンシロクロノメイガ				
1054				クロスジノメイガ				
1055				オオモンシロルリノメイガ				
1056				モンシロルリノメイガ				
1057				オオメイガ亜科				
1058				ノメイガ亜科				
1059				ヤマメイガ亜科				
1060				ツトガ亜科				
1061				チビマエジロホソマダラメイガ				
1062				ウスアカムラサキマダラメイガ				
1063				マエグロツツリガ				
1064				ナシモンクロマダラメイガ				
1065			ウスアカマダラメイガ					
1066			マツノマダラメイガ					
1067			オオマエジロホソメイガ					
1068			ウスオビトガリメイガ					
1069			キモントガリメイガ					
1070			キペリトガリメイガ					
1071			ウスベニトガリメイガ					
1072			カバイロトガリメイガ					
1073			チャマダラメイガ					
1074			フタスジツツリガ					
1075			シロマダラメイガ					
1076			アカシマメイガ					
1077			マツムラマダラメイガ					
1078			ウスモンマルバシマメイガ					
1079			トビイロシマメイガ					
1080			キイフトメイガ					
1081			ナカムラサキフトメイガ					
1082			エグリミズメイガ					
1083			タンザワシダメイガ					
1084			ミカドマダラメイガ					
1085			アカマダラメイガ					
1086			ナカトビフトメイガ					
1087			ネアオフトメイガ					
1088			フタスジシマメイガ					
1089			キンボシシマメイガ					
1090			トビスジマダラメイガ					
1091			クロマダラメイガ					
1092			ギンモンシマメイガ					
1093			オオフトメイガ					
1094			ムラサキシマメイガ					
1095			ヒメアカマダラメイガ					
1096			トビイロフタスジシマメイガ					
1097			ネグロフトメイガ					
1098			マエモンシマメイガ					
1099			ナカアオフトメイガ					
1100			キイロツツリガ					
1101			ミドリフトメイガ					
1102			マダラズメイガ					
1103			キボシヒマメイガ					
						メイガ科		

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類) : 16/37

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川		
1104	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	メイガ科	シマメイガ亜科	H15		
1105				ツヅリガ亜科			
1106				マダラメイガ亜科			
-						メイガ科	
1107			マダガ科				チビマダラマダガ
1108							ヒメマダラマダガ
1109							マダラマダガ
1110							アカジマダガ
1111							マダガ
1112			カギバガ科				マエキカギバ
1113							ウスイロカギバ
1114							オビカギバ
1115							アカウラカギバ
1116							スカシカギバ
1117							モンウスギヌカギバ
1118							ウスギヌカギバ
1119							アシベニカギバ
1120							クロスジカギバ
1121							ヒメハイイロカギバ
1122							ウコンカギバ
1123							トガリバガ科
1124			オオバトガリバ				
1125			ホソトガリバ				
1126			モントガリバ				
1127			アゲハモドキガ科				キンモンガ
1128			フタオガ科				クロオビシロフタオ
1129			シャクガ科				チビトビスジエダシャク
1130							アシプトチズモンアオシャク
1131							ナカウスエダシャク
1132							ウスイロオエダシャク
1133							マルバトビスジエダシャク
1134							ゴマダラシロエダシャク
1135							クロクモエダシャク
1136							ヒョウモンエダシャク
1137							ヨモギエダシャク
1138							ムスジシロナミシャク
1139							オオヨスジアカエダシャク
1140	ホシシジトガリナミシャク						
1141	ヤマトエダシャク						
1142	ホソバハラアカアオシャク						
1143	ウスハラアカアオシャク						
1144	コウスアオシャク						
-							Chlorissa属
1145	クロシロアオナミシャク						
1146	ヒメシロフアオシャク						
1147	ルリモンエダシャク						
1148	ヘリジロヨソメアオシャク						
1149	ギンシロアオシャク						
1150	クロモンアオシャク						
1151	ヨツテンアオシャク						
1152	ヨツモンマエジロアオシャク						
1153	コヨツメアオシャク						
1154	ウコンエダシャク						
1155	ツマキエダシャク						
1156	マツオエダシャク						
1157	ウスアオシャク						
1158	ナミスジコアオシャク						
1159	オオハガタナミシャク						
1160	ウストビスジエダシャク						
1161	フトフタオビエダシャク						
1162	オオトビスジエダシャク						
1163	ウスジロエダシャク						
1164	ツマキリエダシャク						
1165	モミジツマキリエダシャク						
1166	サラサエダシャク						
1167	アミメオエダシャク						
1168	ヘリスジナミシャク						
1169	ウスオビヒメエダシャク						
1170	ハコベナミシャク						
1171	クロテンカバナミシャク						
1172	ハラキカバナミシャク						
-				Eupithecia属			
1173	ミヤマアミメナミシャク						
1174	ハガタナミシャク						
1175	セスジナミシャク						
1176	エグリエダシャク						
1177	キマダラオオナミシャク						
1178	キバラエダシャク						
1179	カギシロシロアオシャク						
1180	フタデンオエダシャク						
1181	ウスオエダシャク						
1182	コシロシロアオシャク						
1183	ナミガタエダシャク						
1184	ウラベニエダシャク						
1185	コウスグモナミシャク						
1186	ウスクモナミシャク						
1187	サザナミオビエダシャク						
1188	シロシタトビイロナミシャク						
1189	ウラキトガリエダシャク						
1190	ナカシロオビエダシャク						
1191	オオバナミガタエダシャク						
1192	ウスバミスジエダシャク						

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 17/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
1193	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シაკガ科	ハミスジエダシヤク	H15
1194				ヨスジキヒメシヤク	
1195				ウスキヒメシヤク	
1196				ウスモンキヒメシヤク	
1197				オオウスモンキヒメシヤク	
-				Idaea属	
1198				チャノウンモンエダシヤク	
1199				コガタヒメアオシヤク	
1200				マルモンヒメアオシヤク	
1201				アトクロナミシヤク	
1202				オオフタスジシロエダシヤク	
1203				クロスウスキエダシヤク	
1204				ウスフタスジシロエダシヤク	
1205				バラシロエダシヤク	
1206				トビカギバエダシヤク	
1207				ニッコウエダシヤク	
1208				ウスクモエダシヤク	
1209				フタモンクロナミシヤク	
1210				クロオオモンエダシヤク	
1211				クロミスジシロエダシヤク	
1212				ウチムラサキヒメエダシヤク	
1213				オオマエクトビエダシヤク	
1214				マエクトビエダシヤク	
1215				テンモンチビエダシヤク	
1216				エグリツマエダシヤク	
1217				コヨツメエダシヤク	
1218				シロツバメエダシヤク	
1219				ウスキツバメエダシヤク	
1220				ウスアオエダシヤク	
1221				ヒロバウスアオエダシヤク	
1222				シナトビスジエダシヤク	
1223				オオゴマダラエダシヤク	
1224				ツマキリウスキエダシヤク	
1225				ウラモンアカエダシヤク	
1226				クロフヒメエダシヤク	
1227				コカバスジナミシヤク	
1228				ウスグロナミエダシヤク	
1229				トビネオオエダシヤク	
1230				リンゴツノエダシヤク	
1231				ナカキエダシヤク	
1232				コナフキエダシヤク	
1233				マエキオエダシヤク	
1234				クロフオオシロエダシヤク	
1235				ヒトツメオオシロヒメシヤク	
1236				ニセオレクギエダシヤク	
1237				オレクギエダシヤク	
-				Protobermia属	
1238				クロテントビイロナミシヤク	
1239				フタナミトビヒメシヤク	
1240				フタスジオエダシヤク	
1241				フタヤマエダシヤク	
1242				フタマエホシエダシヤク	
1243				クロテンシロヒメシヤク	
1244				ウスキトガリヒメシヤク	
1245				ギンバナヒメシヤク	
1246				ヤスジマルバヒメシヤク	
1247				ハイイロヒメシヤク	
1248				サツマヒメシヤク	
1249				チビシロヒメシヤク	
1250				モントビヒメシヤク	
1251				マエキヒメシヤク	
1252				ナミスジチビヒメシヤク	
1253				ウスサカハチヒメシヤク	
1254				ヨツボシウスキヒメシヤク	
1255				キナミシロヒメシヤク	
-				Scopula属	
1256				ハガタムラサキエダシヤク	
1257				ピロードナミシヤク	
1258				ウンモンオオシロヒメシヤク	
1259				ツマトビシロエダシヤク	
1260				クロハグルマエダシヤク	
1261				ハグルマエダシヤク	
1262				マルハグルマエダシヤク	
1263				スジハグルマエダシヤク	
1264				カギバアオシヤク	
1265				キマダラツバメエダシヤク	
1266				ミヤマツバメエダシヤク	
1267				ウスベニスジヒメシヤク	
-				Timandra属	
1268				ホソバチナミシヤク	
1269				ヒロオビオエダシヤク	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 18/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
1270	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シヤクガ科	シロスジオオエダシヤク	H15	
1271				ツマグロナミシヤク		
1272				フトジマナミシヤク		
1273				フタクロテナミシヤク		
1274				モンシロツマキリエダシヤク		
1275				ミスジツマキリエダシヤク		
1276				トガリエダシヤク		
1277				Zethenia属		
1278				ツマキリウスエダシヤク		
1279				ヒメシヤク亜科		
-				シヤクガ科		
1280				イカリモンガ科		イカリモンガ
1281				カイコガ科		クワコ
1282				オビガ科		オビガ
1283				カレハガ科		マツカレハ
1284						クヌギカレハ
1285				ヤママユガ科		オナガミズアオ
-				Actias属		
1286				ヤママユ		
1287				クスサン		
1288				ヒメヤママユ		
1289				スズメガ科		ブドウスズメ
1290						クルマスズメ
1291						ホシヒメホウジャク
1292						ウンモンズズメ
1293						トビロスズメ
1294						ヘニスズメ
1295						サザナミスズメ
1296						ヒメクロホウジャク
1297						ホシホウジャク
1298						モモズズメ
1299						クチバスズメ
1300						エゾシモフリズズメ
1301						エゾズズメ
1302						ピロードズズメ
1303						ミスジピロードズズメ
1304						ウチスズメ
1305						コスズメ
1306				シヤチホコガ科		ツマアカシヤチホコ
1307						ホソバネグロシヤチホコ
1308						コトビモンシヤチホコ
1309						クロテンシヤチホコ
1310						ホソバシヤチホコ
1311						コフタオビシヤチホコ
1312						クワゴモドキシヤチホコ
1313						ギンシヤチホコ
1314						ブライヤエグリシヤチホコ
1315						クロシタシヤチホコ
1316						ウスキシヤチホコ
1317						ヘリスジシヤチホコ
1318						ヒメシヤチホコ
1319						ナカスジシヤチホコ
1320						ネスジシヤチホコ
1321						ナカキシヤチホコ
1322						ルリモンシヤチホコ
1323						ツマキシヤチホコ
1324						モンクロシヤチホコ
1325						スズキシヤチホコ
1326						オオエグリシヤチホコ
1327						セダカシヤチホコ
1328						ウスイロギンモンシヤチホコ
1329						シヤチホコガ
1330						オオアオシヤチホコ
1331						ブライヤアオシヤチホコ
1332						キシヤチホコ
1333						モンクロギンシヤチホコ
1334						ギンボシシヤチホコ
-				シヤチホコガ科		
1335				ヒトリガ科		ホシオビコケガ
1336						ハガタベニコケガ
1337						スジベニコケガ
1338						シロヒトリ
1339						アカスジシロコケガ
1340						キシタホソバ
1341						ムジホソバ
1342						ヤネホソバ
1343						キマエホソバ
1344						ニセキマエホソバ
1345						クロテンハイイロコケガ
1346						キマエクロホソバ
1347						キベリネスミホソバ
1348						ヨツボシホソバ
1349						ヒメホシキコケガ
1350						ハガタキコケガ
1351						ウスバフタホシコケガ
1352						スカシコケガ
1353						スジモンヒトリ
1354						キハラゴマダラヒトリ
1355						アカハラゴマダラヒトリ
1356						クロスジチビコケガ

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類) : 19/37

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
1357	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ドクガ科	スカシドクガ	H15	
1358				スギドクガ		
1359				アカヒゲドクガ		
1360				リンゴドクガ		
1361				マメドクガ		
1362				キドクガ		
1363				チャドクガ		
1364				ゴマフリドクガ		
1365				ドクガ		
1366				ブドウドクガ		
1367				スゲオオドクガ		
1368				マイマイガ		
1369				カシウマイマイ		
1370				ミノオマイマイ		
1371				シロオビドクガ		
1372				ヒメシロモンドクガ		
1373				ウチシロマイマイ		
1374				ニワトコドクガ		
1375				ヤガ科		エゾマダラウワバ
1376						フジロアツバ
1377						シラナミクロアツバ
1378						アケビコノハ
1379						タマナヤガ
1380						カブラヤガ
1381						オオウスツマカラスヨトウ
1382						カラスヨトウ
1383						オオシマカラスヨトウ
1384			シマカラスヨトウ			
1385			シロテンツマキリアツバ			
1386			サビイロコヤガ			
1387			クロテンカバアツバ			
1388			カバマダラヨトウ			
1389			ヒメキイロヨトウ			
1390			アカキリバ			
1391			ヤマトコヤガ			
1392			ハガタウスキヨトウ			
1393			フクラスズメ			
1394			ギンボシリンガ			
1395			シロテンウスグロヨトウ			
1396			テンウスイロヨトウ			
1397			シロモンオビヨトウ			
1398			ヒメサビスジヨトウ			
-			Athetis属			
1399			クロハナコヤガ			
1400			モクメヨトウ			
1401			ハジマヨトウ			
1402			コウモンクチバ			
1403			ムラクモアツバ			
1404	ホシムラサキアツバ					
1405	ウスツマアツバ					
1406	アイモンアツバ					
1407	ヤマガタアツバ					
-	Bomolocha属					
1408	チャイロアツバ					
1409	ウスアオモンコヤガ					
1410	ヒメツマキリヨトウ					
1411	ハイイロコヤガ					
1412	マメキシタバ					
1413	アミメキシタバ					
1414	シロシタバ					
1415	キシタバ					
1416	コガタキシタバ					
1417	カクモンキシタバ					
1418	ハナオイアツバ					
1419	キンスジアツバ					
1420	フタスジシマコヤガ					
1421	シマフコヤガ					
1422	ツマベニシマコヤガ					
1423	ベニシマコヤガ					
-	Corgatha属					
1424	ミツモンキンウワバ					
1425	エゾキクキンウワバ					
1426	リョクモンオオキンウワバ					
1427	ウスアカヤガ					
1428	オオバコヤガ					
1429	コウスチャヤガ					
1430	アカフヤガ					
1431	ムラサキアツバ					
1432	キイロソトオビアツバ					
1433	クロモクメヨトウ					
1434	シロズアツバ					
1435	オオシラホシアツバ					
1436	シンジュキノカワガ					
1437	キスジコヤガ					
1438	シロモンコヤガ					
1439	モンムラサキクチバ					
1440	オオトモエ					
1441	マダラウスムラサキクチバ					
1442	アカテンクチバ					
1443	ギンスジキンウワバ					
1444	カザリツマキリアツバ					
1445	アカガネヨトウ					

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 20/37)

No.	網名	目名	科名	和名	流入河川
1446	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ヤガ科	ホソバミドリヨトウ	H15
1447				フサヤガ	
1448				ウスグロヤガ	
1449				クロオビリンガ	
1450				ゴボウトガリヨトウ	
1451				フタキボシアツバ	
1452				Hadennia属	
1453				フタデンヒメヨトウ	
1454				ナカジロアツバ	
1455				タバコガ	
1456				アトヘリヒトホシアツバ	
1457				ウスキミスジアツバ	
1458				フシキアツバ	
1459				クロスジアツバ	
1460				シラナミアツバ	
1461				トビスジアツバ	
-				Herminia属	
1462				クロクモヤガ	
1463				オオシラナミアツバ	
1464				ベニエグリコヤガ	
1465				ソトウスグロアツバ	
1466				ヒロオビウスグロアツバ	
1467				ウスズミケンモン	
1468				クロキシタアツバ	
1469				ソトムラサキアツバ	
1470				トビモンアツバ	
1471				ウスチャモンアツバ	
1472				ムラサキミツボシアツバ	
1473				タイワンキシタアツバ	
-				Hypena属	
1474				モンキコヤガ	
1475				オオシロテンクチバ	
1476				シロホシクロアツバ	
-				Idia属	
1477				マエキリンガ	
1478				キモンコヤガ	
1479				トビフタスジアツバ	
1480				チビアツバ	
1481				クビグロクチバ	
1482				ヒメクビグロクチバ	
1483				ヒメオビコヤガ	
1484				ヒメネジロコヤガ	
1485				シャクドウクチバ	
1486				エチゴチビコブガ	
-				Meganoia属	
1487				ホシミミヨトウ	
1488				シロスジトモエ	
1489				フタホシコヤガ	
1490				Micreremites属	
1491				ウスオビチビアツバ	
1492				ニセウンモンクチバ	
1493				ウンモンクチバ	
-				Mocis属	
1494				ゴマケンモン	
1495				アオバセダカヨトウ	
1496				フサキバアツバ	
1497				マダラキヨトウ	
1498				クサシロキヨトウ	
1499				ミヤマフタオビキヨトウ	
1500				クロシタキヨトウ	
1501				フタデンキヨトウ	
1502				マメチャイロキヨトウ	
1503				スジシロキヨトウ	
1504				フタオビキヨトウ	
1505				ベニトガリアツバ	
1506				フタオビコヤガ	
1507				フタデンチビアツバ	
1508				ウチジロコヤガ	
1509				マエモンコヤガ	
1510				ヒゲブトクロアツバ	
1511				ナミコブガ	
-				Noia属	
1512				ミヤマクロスジキノカワガ	
1513				クロテンキノカワガ	
1514				マエジロヤガ	
1515				ウスモイロアツバ	
1516				ツمامラサキアツバ	
-				Oluia属	
1517				アカエグリバ	
1518				ノコメセダカヨトウ	
1519				クロミキリガ	
1520				モンシロクルマコヤガ	
1521				アトキスジクルマコヤガ	
1522				ヤジリモンコヤガ	
1523				ツマジロツマキリアツバ	
1524				ムラサキツマキリアツバ	
1525				リンゴツマキリアツバ	
1526				ウンモンツマキリアツバ	
1527				シロモンツマキリアツバ	
1528				シロテンムラサキアツバ	
1529				ミスジアツバ	
1530				キボシアツバ	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 21/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
1531	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ヤガ科	チャバネキボシアツバ	H15
-				Paragabara属	
1532				ウスグロセニジモンアツバ	
1533				ニセタマナヤガ	
1534				デンモンシマコヤガ	
1535				ウスベニコヤガ	
1536				モンキアカガネヨトウ	
1537				ヨモギコヤガ	
1538				マエテンヨトウ	
1539				イネキンウバ	
1540				マダラエグリバ	
1541				シロマダラコヤガ	
1542				シロフコヤガ	
-				Protodeltote属	
1543				フタスジヨトウ	
1544				トビモンコヤガ	
1545				アオスジアオリンガ	
1546				アカスジアオリンガ	
1547				マエテンアツバ	
1548				ヨシヨトウ	
1549				クロチャマダラキリガ	
1550				クロスジコブガ	
1551				マエシロモンアツバ	
1552				タケアツバ	
1553				テシクロアツバ	
-				Rivula属	
1554				サツボロチャイロヨトウ	
1555				トビイロトラガ	
1556				シロシタヨトウ	
1557				ハスオビヒメアツバ	
1558				イネヨトウ	
1559				デンオビヨトウ	
1560				オオアカマエアツバ	
1561				ニセアカマエアツバ	
-				Simplicia属	
1562				オオカバシヤガ	
-				Sineugraphe属	
1563				ハグルマトモエ	
1564				オスグロトモエ	
-				Spirama属	
1565				スジキリヨトウ	
1566				ハスモンヨトウ	
1567				シロナヨトウ	
1568				ムモンキイロアツバ	
1569				ウスアオキノコトウ	
1570				シロスジキノコトウ	
1571				ニセシロフコヤガ	
1572				ネモンシロフコヤガ	
1573				クロシラフチバ	
1574				シロスジアオヨトウ	
1575				オオシロテンアオヨトウ	
1576				キバラケンモン	
1577				シロオビクルマコヤガ	
1578				ナシケンモン	
1579				マダラヨトウ	
1580				シロモンヤガ	
1581				ウスチャヤガ	
1582				キシタミドリヤガ	
1583				ハイイロキシタヤガ	
1584				ウスグロアツバ	
1585				ツマオビアツバ	
1586				キイロアツバ	
1587				コブヒゲアツバ	
1588				ヒメコブヒゲアツバ	
1589				ツマテコブヒゲアツバ	
1590				チョウセンコウスグロアツバ	
-				Zanclognatha属	
1591				コウモンクチバ	
1592				アツバ亜科	
-				ヤガ科	
1593			コブガ科	コブガ科	
1594			ヒゲナガガ科	ヒゲナガガ亜科	
1595			ヒルガオハモグリガ科	ヒルガオハモグリガ亜科	
-				チョウ目	
1596		ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ヒメウスバガガンボ	
1597				ミカドガガンボ	
1598				ネグロクシヒゲガガンボ	
1599				ベッコウガガンボ	
1600				Dicranomyia属	
1601				オトヒメガガンボ	
1602				クロバネヒメガガンボ	
1603				ホシヒメガガンボ	
1604				コマダラヒメガガンボ	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 22/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
1605	昆虫綱	八工目(双翅目)	ガガンボ科	イツモンヒメガガンボ	H15
1606				ミスジガガンボ	
1607				クチバシガガンボ	
1608				ギフヒゲナガガガンボ	
1609				カスリヒメガガンボ	
-				Limnophila属	
1610				コモシメガガンボ	
1611				マダラクロヒメガガンボ	
1612				ホソバネヒメガガンボ	
1613				セアカヒメガガンボ	
1614				タケウチマダラヒメガガンボ	
1615				ウスキバネヒメガガンボ	
1616				ツマジロヒメガガンボ	
-				Limonia属	
1617				Nephrotoma属	
1618				ハスオビガガンボ	
1619				キリウジガガンボ	
1620				マダラガガンボ	
1621				キアシガガンボ	
1622				マドガガンボ	
1623				クロキリウジガガンボ	
1624				ヤチガガンボ	
1625				マエキガガンボ	
-				Tipula属	
1626				シリプトガガンボ亜科	
1627				ヒメガガンボ亜科	
-				ガガンボ科	
1628				ガガンボダマシ科	
-				ニッポンフユガガンボ	
-				ガガンボダマシ科	
1629				アマカ科	
-				シコクアマカ	
-				アマカ科	
1630				チョウバエ科	
1631				セベリンチョウバエ	
1632				マツタケチョウバエ	
-				ホシチョウバエ	
-				チョウバエ科	
1633				ヌカカ科	
1634				ケヌカカ	
1635				ニフトリヌカカ	
1636				タンボツヤヌカカ	
1637				シロフケブカヌカカ	
1638				コンイロヌカカ	
1639				モリヌカカ	
1640				モンヌカカ	
-				フトモムシヒキヌカカ	
-				ヌカカ科	
1641				ケヨソイカ科	
1642				アカケヨソイカ	
1643				セスジユスリカ	
1644				セスジヒラアシユスリカ	
1645				セボシヒメユスリカ	
-				ミツオビツヤユスリカ	
-				Cricotopus属	
1646				クロユスリカ	
1647				ボカシヌマユスリカ	
1648				シロアシユスリカ	
1649				ウスモンユスリカ	
1650				ニッポンカユスリカ	
1651				アカムシユスリカ	
1652				ウスギヌヒメユスリカ	
1653				カクスナガレユスリカ	
1654				ハスムグリユスリカ	
1655				アキツキユスリカ	
1656				カスリモンユスリカ	
1657				ミゾチユスリカ	
1658				ミドリオオユスリカ	
1659				ニッポンケブカユスリカ	
-				ユスリカ科	
1660				カ科	
-				アカイエカ	
-				Culex属	
-				カ科	
1661				ホソカ科	
1662				クロホソカ	
1663				マガリスネカ科	
-				マガリスネカ科	
1664				ケバエ科	
-				Bibio属	
-				ケバエ科	
1665				タマバエ科	
1666				Dasineura属	
-				キクタマバエ	
-				Lestremia属	
-				タマバエ科	
1667				ニセケバエ科	
1668				ナガサキニセケバエ	
1669				ナミトモナガキノコバエ	
1670				ヒメホソキノコバエ	
1671				ナミホソキノコバエ	
1672				クロヒラモモキノコバエ	
1673				ニセコシボソキノコバエ	
1674				Fungivora属	
1675				Macrocera属	
1676				イグチナミキノコバエ	
1677				ケブカマドキノコバエ	
1678				ケアシコンボウキノコバエ	
1679				オオムクゲキノコバエ	
-				スジヒトヘダキノコバエ	
-				キノコバエ科	
1680				ケズメカ科	
-				ツノケズメカ	
-				ケズメカ科	



表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 23/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
1681	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	クロバネキノコバエ科	クロバネキノコバエ科	H15	
1682			コガシラアブ科	シバカウコガシラアブ		
1683				セダカコガシラアブ		
1684			ナガレアブ科	クロモンシギアブ		
				ナガレアブ科		
1685			シギアブ科	フタモンキイロシギアブ		
-				シギアブ科		
1686			ミスアブ科	エゾホソルリミスアブ		
1687				ハラキンミスアブ		
1688				コウカアブ		
1689				ルリミスアブ		
-				ミスアブ科		
1690			アブ科			ホルバートアブ
1691						マルガタアブ
1692						アカウシアアブ
1693						ヤマトアブ
1694						アカアブ
1695	シロフアブ					
1696	ウシアアブ					
-		Tabanus属				
1697	ムシヒキアブ科				カワムラヒゲボソムシヒキ	
1698					クロスジイシアアブ	
1699			アオメアブ			
1700			ハラボソムシヒキ			
1701			オオイシアアブ			
1702			チャイロオオイシアアブ			
1703			ミノモボソムシヒキ			
1704			マガリケムシヒキ			
1705			シオヤアブ			
1706			サキグロムシヒキ			
-		ムシヒキアブ科				
1707	ツリアアブ科		コウヤツリアアブ			
1708			ホシツリアアブ			
1709			ニトベハラボソツリアアブ			
1710		スズキハラボソツリアアブ				
1711	ツルギアブ科		ツルギアブ科			
1712	アシナガバエ科		アシナガキンバエ			
-				Dolichopus属		
1713			マダラアシナガバエ			
-		アシナガバエ科				
1714	オドリバエ科		イトウマルバネオドリバエ			
1715			メスジロナガレオドリバエ			
1716			カマキリナガレオドリバエ			
1717			スジプトナガレオドリバエ			
1718			モモプトセダカオドリバエ			
1719			イミヤクオドリバエ			
1720			アカメセダカオドリバエ			
-				オドリバエ科		
1721	ヤリバエ科		ハコネヤリバエ			
1722	アタマアブ科		ツマグロキアタマアブ			
-				アタマアブ科		
1723	ハナアブ科		ツマグロコシボソハナアブ			
1724			オオマメヒラタアブ			
1725			ナガヒラタアブ			
1726			マダラコシボソハナアブ			
1727			ハシグロクロハナアブ			
1728			ヤマトヒゲナガハナアブ			
1729			オビヒラタアブ			
1730			ヨコジマオオヒラタアブ			
1731			Epistrophe nitidicollis			
1732			ホソヒラタアブ			
1733			ホシメハナアブ			
1734			シマハナアブ			
1735			ハナアブ			
1736			マドヒラタアブ			
1737			ナミホシヒラタアブ			
1738			アシプトハナアブ			
1739			カクモンアシプトハナアブ			
1740			ホソツヤヒラタアブ			
1741			ホシツヤヒラタアブ			
-				Melanostoma属		
1742			シマアシプトハナアブ			
1743			シマメヒラタアブ			
1744			キアシマメヒラタアブ			
1745			ニセキアシマメヒラタアブ			
-				Paragus属		
1746			オオハナアブ			
1747			Pipiza属			
1748			Pseudovolucella属			
1749			Sericomyia属			
1750			ナガヒメヒラタアブ			
1751			キタヒメヒラタアブ			
-				Sphaerophoria属		
1752			ケヒラタアブ			
1753			キイロナミホシヒラタアブ			
1754			ニトベナガハナアブ			
1755			ベッコウハナアブ			
1756			ヨツボシヒラタアブ			
1757			ルリイロナガハナアブ			
-				Xylota属		
1758			ノミバエ科		オオキモンノミバエ	
-				ノミバエ科		

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 24/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
1759	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ヒラタアシバエ科	ヒラタアシバエ	H15
1760			ハモグリバエ科	フジハモグリバエ	
1761				ヨモギハモグリバエ	
1762				スゲハモグリバエ	
1763				ムギキベリハモグリバエ	
1764				オカザキハモグリバエ	
1765				スイカズラハモグリバエ	
1766				ネギハモグリバエ	
1767				カトウハモグリバエ	
1768				ヨモギクキモグリバエ	
1769				タンボポハモグリバエ	
1770				ヨメナクロハモグリバエ	
1771				ヨメナスジハモグリバエ	
1772				ヤナギハモグリバエ	
1773				ニッポンキクハモグリバエ	
1774				ヤブジラミハモグリバエ	
1775				トガリハモグリバエ	
				ハモグリバエ科	
1776			ニセミギワバエ科	ニセミギワバエ	
1777			アブラコバエ科	アブラコバエ科	
1778			キモグリバエ科	イネキモグリバエ	
1779				Disciphus subelongatus	
1780				ムギキモグリバエ	
1781				ササノアシトキモグリバエ	
				キモグリバエ科	
1782			クチキバエ科	キイロクチキバエ	
				クチキバエ科	
1783			メバエ科	オオズグロメバエ	
1784				クロフタオレメバエ	
1785				ウスグロメバエ	
1786			ヒゲブトコバエ科	クロメマトイ	
1787			ホソショウジョウバエ科	モンホソショウジョウバエ	
1788			ショウジョウバエ科	マダラメマトイ	
1789				アシグロハシリショウジョウバエ	
1790				ヒメホシショウジョウバエ	
1791				ダンダラショウジョウバエ	
1792				カオジロショウジョウバエ	
1793				フタオビショウジョウバエ	
1794				ヒョウモンショウジョウバエ	
1795				クロツヤショウジョウバエ	
1796				カスリショウジョウバエ	
1797				オオショウジョウバエ	
1798				トビクロショウジョウバエ	
1799				キハダショウジョウバエ	
1800				キイロショウジョウバエ	
1801				スズバネショウジョウバエ	
1802				クロショウジョウバエ	
1803				モンコガネショウジョウバエ	
1804				カザリコガネショウジョウバエ	
1805				オトヒメショウジョウバエ	
1806				クロキノコショウジョウバエ	
1807				コフキヒメショウジョウバエ	
1808				ツヤカブトショウジョウバエ	
				ショウジョウバエ科	
1809			ベッコウバエ科	ベッコウバエ	
1810			ミギワバエ科	Brachydeutera longipes	
				ミギワバエ科	
1811			トゲハネバエ科	センチトゲハネバエ	
				トゲハネバエ科	
1812			シマバエ科	シモフリシマバエ	
1813				キイロシマバエ	
1814				ヒラヤマシマバエ	
1815				Homoneura unguiculata	
				Homoneura属	
1816				ヤブクロシマバエ	
1817				Trigonometopus forficula	
				シマバエ科	
1818			クロツヤバエ科	ヤマトクロツヤバエ	
1819			ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ	
1820			ヒメコバエ科	Geomyza advena	
				ヒメコバエ科	
1821			ヒロクチバエ科	ヒロクチバエ科	
1822			デガシラバエ科	フトハチモドキバエ	
1823			ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ	
				ヤチバエ科	
1824			ツヤホソバエ科	ヒトデンツヤホソバエ	
				ツヤホソバエ科	
1825			ハヤトビバエ科	ハヤトビバエ科	
1826			ミバエ科	ナツササハマダラミバエ	
1827				チャイロハスジハマダラミバエ	
1828				ヒラヤマアミメケブカミバエ	
1829				ノゲシケブカミバエ	
1830				チャイロケブカミバエ	
1831				ヨモギハマダラミバエ	
1832				ミスジハマダラミバエ	
1833				ミサキオナガミバエ	
				ミバエ科	
1834			ハナバエ科	ハコベハナバエ	
1835				タネバエ	
1836				アカザモグリハナバエ	
1837				ハコベモグリハナバエ	
				ハナバエ科	
1838			クロバエ科	オオクロバエ	
1839				オビキンバエ	
1840				ホホクロオビキンバエ	
1841				キンバエ	
1842				ヒツジキンバエ	
				Lucilia属	
1843				イトウコクロバエ	
1844				ツマクロキンバエ	
				クロバエ科	
1845			ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ科	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 25/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川			
1846	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	イエバエ科	セマダライエバエ	H15			
1847				モモエグリエバエ				
1848				ヒメクロバエ				
1849				トウヨウカトリバエ				
1850				イエバエ				
1851				オオクロイエバエ				
1852				インドサシバエ				
-				イエバエ科				
1853				シリグロニクバエ				
1854				Miltogrammatinae亜科				
-				ニクバエ科				
1855				フンバエ科				
-				フンバエ科				
1856				フンバエ科				
1857				フンバエ科				
1858				フンバエ科				
-				フンバエ科				
1859				フンバエ科				
1860				フンバエ科				
1861				フンバエ科				
1862				フンバエ科				
1863				フンバエ科				
-				フンバエ科				
1864				フンバエ科				
1865				フンバエ科				
1866				フンバエ科				
1867				フンバエ科				
-				フンバエ科				
1868				フンバエ科				
-				フンバエ科				
-				フンバエ科				
1869				コウチュウ目(鞘翅目)		ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ	
1870							ミイデラゴミムシ	
1871							オサムシ科	
1872							オサムシ科	
1873							オサムシ科	
1874							オサムシ科	
1875							オサムシ科	
1876							オサムシ科	
1877							オサムシ科	
1878							オサムシ科	
1879							オサムシ科	
1880							オサムシ科	
1881							オサムシ科	
1882							オサムシ科	
1883							オサムシ科	
1884							オサムシ科	
1885							オサムシ科	
1886							オサムシ科	
1887							オサムシ科	
1888							オサムシ科	
1889							オサムシ科	
1890							オサムシ科	
1891							オサムシ科	
1892							オサムシ科	
1893							オサムシ科	
1894							オサムシ科	
1895							オサムシ科	
1896							オサムシ科	
1897							オサムシ科	
1898							オサムシ科	
1899							オサムシ科	
1900							オサムシ科	
1901							オサムシ科	
1902							オサムシ科	
1903							オサムシ科	
1904							オサムシ科	
1905							オサムシ科	
1906							オサムシ科	
1907							オサムシ科	
1908							オサムシ科	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 26/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
1909	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	アオヘリアオゴミムシ	H15
1910				ツヤキベリアオゴミムシ	
1911				ムナビロアトボシアオゴミムシ	
1912				コガシラアオゴミムシ	
1913				アトワアオゴミムシ	
1914				ウスグロモリヒラタゴミムシ	
1915				チビモリヒラタゴミムシ	
1916				オオアオモリヒラタゴミムシ	
1917				ヤセモリヒラタゴミムシ	
1918				ハラアカモリヒラタゴミムシ	
1919				チャイロホソヒラタゴミムシ	
1920				コハラアカモリヒラタゴミムシ	
1921				イクビモリヒラタゴミムシ	
1922				ヒラタマルゴミムシ	
1923				マイマイカブリ	
1924				ミスギワアトキリゴミムシ	
1925				ルリヒラタゴミムシ	
1926				スナハラゴミムシ	
1927				オオスナハラゴミムシ	
1928				ヒメカワチゴミムシ	
1929				セアカヒラタゴミムシ	
1930				ホソアトキリゴミムシ	
1931				アオヘリホソゴミムシ	
1932				キイロセマルコムズギワゴミムシ	
1933				スジアオゴミムシ	
1934				トゲアシゴモクムシ	
1935				オオゴモクムシ	
1936				ツヤアオゴモクムシ	
1937				ケウスゴモクムシ	
1938				ヒメケゴモクムシ	
1939				ニセケゴモクムシ	
1940				ウスアカクロゴモクムシ	
1941				アカアシマルガタゴモクムシ	
1942				コゴモクムシ	
1943				ハマベゴモクムシ	
1944				ケゴモクムシ	
1945				セグロツヤゴモクムシ	
1946				ナガホラアナヒラタゴミムシ	
1947				トックリゴミムシ	
1948				フタホシアトキリゴミムシ	
1949				ホシハネビロアトキリゴミムシ	
1950				ハネビロアトキリゴミムシ	
1951				ジュウジアトキリゴミムシ	
1952				オオクロナガオサムシ	
1953				クロナガオサムシ	
1954				オオゴミムシ	
1955				キノコゴミムシ	
1956				ノグチアオゴミムシ	
1957				ミヤマメダカゴミムシ	
1958				チャバネクビナガゴミムシ	
1959				オオトックリゴミムシ	
1960				ウスケゴモクムシ	
1961				クビナガゴモクムシ	
1962				クロオビコムズギワゴミムシ	
1963				ウスオビコムズギワゴミムシ	
1964				ヒラタアトキリゴミムシ	
1965				キアシヌレチゴミムシ	
1966				カドツブゴミムシ	
1967				ダイミョウツブゴミムシ	
1968				クロスホナシゴミムシ	
1969				オオヒラタゴミムシ	
1970				コヒラタゴミムシ	
1971				オオナガゴミムシ	
1972				フジタナガゴミムシ	
1973				マルムネヒメナガゴミムシ	
1974				コガシラナガゴミムシ	
1975				キンナガゴミムシ	
1976				オオクロナガゴミムシ	
1977				キイオオナガゴミムシ	
1978				ヒメホソナガゴミムシ	
1979				ヒョウゴナガゴミムシ	
1980				マルガタナガゴミムシ	
1981				アシミゾナガゴミムシ	
1982				ウエノオオナガゴミムシ	
1983				ヨリトモナガゴミムシ	
1984				Pterostichus属	
1985				ケブカヒラタゴミムシ	
1986				ミドリマメゴモクムシ	
1987				ムネアカマメゴモクムシ	
1988				ホソキバナゴミムシ	
1989				ニッポンツヤヒラタゴミムシ	
1990				マルガタツヤヒラタゴミムシ	
1991				キアシツヤヒラタゴミムシ	
1992				クロツヤヒラタゴミムシ	
1993				ヒメツヤヒラタゴミムシ	
1994				コクロツヤヒラタゴミムシ	
1995				オオクロツヤヒラタゴミムシ	
1996				ヒメヤマツヤヒラタゴミムシ	
1997				クロチビカワゴミムシ	
1998				ヒラタコムズギワゴミムシ	
1999				クワイロコムズギワゴミムシ	
				アトモンコムズギワゴミムシ	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 27/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
2000	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	ヨツモンコムズギウゴムシ	H15
2001				ヨシイメクラチビゴムシ	
2002				アトスジチビゴムシ	
2003				ヒメツヤゴモクムシ	
2004				ナガツヤゴモクムシ	
2005				クロツヤゴモクムシ	
2006				アカガネオゴムシ	
2007				エビアカガネゴムシ	
2008				フタホシヒメアオゴムシ	
2009				オオモリヒラタゴムシ	
2010			ハンミョウ科	ハンミョウ	
2011				アイヌハンミョウ	
2012				ニフハンミョウ	
2013			ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ	
2014				ゲンゴロウ	
2015				ハイイロゲンゴロウ	
2016				シマゲンゴロウ	
2017				コシマゲンゴロウ	
2018				ウスイロシマゲンゴロウ	
2019				チビゲンゴロウ	
2020				ケシゲンゴロウ	
2021				ツブゲンゴロウ	
2022				ヒメゲンゴロウ	
2023				ニセケシゲンゴロウ	
2024				マダラコガシラミズムシ	
2025				コガシラミズムシ	
2026			ガムシ科	タマガムシ	
2027				トゲバゴマフガムシ	
2028				ゴマフガムシ	
2029				アカケシガムシ	
2030				セマルケシガムシ	
2031				キベリヒラタガムシ	
2032				キイロヒラタガムシ	
2033				マルヒラタガムシ	
2034				ガムシ	
2035				シジミガムシ	
2036				マクソガムシ	
2037				マメガムシ	
2038				ヒメガムシ	
2039				エンマムシ科	
2040			コエンマムシ		
2041			エンマムシ		
2042			アリツカムシ科	アナズアリツカムシ	
2043				オノヒゲアリツカムシ	
2044				コヤマトヒゲアリツカムシ	
2045				オオアシナガアリツカムシ	
2046				マメダルマアリツカムシ	
2047				オオズアリツカムシ	
2048				ナミエンマアリツカムシ	
-		アリツカムシ科			
2049	デオキノコムシ科	デオキノコムシ科			
2050		シデムシ科	オオヒラタシデムシ		
2051			オオモフトシデムシ		
2052			モモフトシデムシ		
2053			クロシデムシ		
2054	ヤマトモンシデムシ				
2055	ヨツボシモンシデムシ				
2056	ハネカクシ科	オオアカバハネカクシ			
2057		ツヤケシヒゲフトハネカクシ			
2058		セナガヒゲフトハネカクシ			
2059		ウスアカヒゲフトハネカクシ			
2060		ホソセスジヒゲフトハネカクシ			
2061		ムネビロハネカクシ			
2062		キアシヒラタチビハネカクシ			
2063		アカイクビハネカクシ			
2064		キバネニセコムシメソハネカクシ			
2065		ニセコムシメソハネカクシ			
2066		ムナクボヒラナガハネカクシ			
2067		オオヒョウタンメダカハネカクシ			
2068		コガシラホソハネカクシ			
2069		ハラモンムネクボハネカクシ			
2070		オオマルズハネカクシ			
2071		コマルズハネカクシ			
2072		ハイイロハネカクシ			
2073		ウスチャセミソハネカクシ			
2074		クロセミソハネカクシ			
2075		ハマベオオハネカクシ			
2076		ツマグロアカバハネカクシ			
2077		チビツヤムハネカクシ			
2078		ヤマトチビアリノスハネカクシ			
2079		キアシナガハネカクシ			
2080		コバネナガハネカクシ			
2081		アカフタミゾチビハネカクシ			
2082		クロズトガリハネカクシ			
2083		ハスオビキノコハネカクシ			
2084		チャバネトガリハネカクシ			
2085		ヤマトイクビハネカクシ			
2086		アカバヒメホソハネカクシ			
2087		ツマキツヤナガハネカクシ			
2088		オオサビイロモンキハネカクシ			
2089		サビハネカクシ			
2090	ツノフトツツハネカクシ				

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 28/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
2091	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ	H15	
2092				アラハダドウナガハネカクシ		
2093				ルリコガシラハネカクシ		
2094				クロコガシラハネカクシ		
2095				マルコガシラハネカクシ		
2096				キアシチビコガシラハネカクシ		
2097				ミイロチビハネカクシ		
2098				アカバクビフトハネカクシ		
2099				ドウガネハネカクシ		
2100				クロガネハネカクシ		
2101				アカバハネカクシ		
2102				トビムシハネカクシ		
2103				チビハバビロハネカクシ		
2104				アカバツヤムネハネカクシ		
2105				ホソチャバネコガシラハネカクシ		
2106				クビボソハネカクシ		
2107				ハスモンヒメキノコハネカクシ		
2108				ヒメキノコハネカクシ		
2109				ヒメクロキノコハネカクシ		
-				Sepedophi lus属		
2110				ヒゲトチビハネカクシ		
2111				ツヤケシシワチビハネカクシ		
2112				ホソフタホシメダカハネカクシ		
2113				アシマダラメダカハネカクシ		
2114				コクロマルクビハネカクシ		
2115				ヤマトマルクビハネカクシ		
2116				クロズマルクビハネカクシ		
-				Tachinus属		
2117				キベリシリホソハネカクシ		
2118				ツヤグロシリホソハネカクシ		
-				Tachyporus属		
2119				アカアシユミセミソハネカクシ		
2120				ユミセミソハネカクシ		
2121				キバネナガハネカクシ		
2122				ホソガタナガハネカクシ		
2123				ウスイロホソナガハネカクシ		
2124				キノコハネカクシ属		
-				ハネカクシ幼虫		
-				ハネカクシ科		
2125				マルハナノミ科		キイロチビマルハナノミ
2126						マルガタチビマルハナノミ
2127						ウスチャチビマルハナノミ
2128						クロチビマルハナノミ
2129				トビイロマルハナノミ		
2130				センチコガネ科		オオセンチコガネ
2131						センチコガネ
2132				クワガタムシ科		コクワガタ
2133						ミヤマクワガタ
2134						スジクワガタ
2135						アカアシクワガタ
2136						ノコギリクワガタ
2137						コイチャコガネ
2138				コガネムシ科		カブトムシ
2139						ドウガネブイブイ
2140						サクラコガネ
2141						ツヤコガネ
2142						ハンノヒメコガネ
2143						ヒメコガネ
2144						マグソコガネ
2145						オビマクソコガネ
2146						セマダラコガネ
2147						ヒメコエンマコガネ
2148						マエカドコエンマコガネ
2149						ハナムグリ
2150						アオハナムグリ
2151						コヒゲシマビロウドコガネ
2152						ナガチャコガネ
2153						クロコガネ
2154						オオクロコガネ
2155						コクロコガネ
2156						アカビロウドコガネ
2157						ビロウドコガネ
2158						カミヤビロウドコガネ
2159						ヒメビロウドコガネ
2160						オオビロウドコガネ
2161						マルガタビロウドコガネ
2162						コフキコガネ
2163						オオスジコガネ
2164						ツヤスジコガネ
2165						ヒメスジコガネ
2166						コガネムシ
2167						スジコガネ
2168						カバイロビロウドコガネ
2169						ヒラタハナムグリ
2170						クロマルエンマコガネ
2171						コブマルエンマコガネ
2172						シナノエンマコガネ
2173						マルエンマコガネ
2174						コアオハナムグリ
2175				マメダルマコガネ		
2176				キスジコガネ		
2177				ヒゲコガネ		

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類) : 29/37

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
					H15	
2178	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	コガネムシ科	マメコガネ		
2179				ナラノチャイロコガネ		
2180				シロテンハナムグリ		
2181				カナブン		
2182				アオカナブン		
2183				ヒゲナガヒロウドコガネ		
2184				ツヤチャイロコガネ		
2185				イマダテチャイロコガネ		
2186				ナエドコチャイロコガネ		
2187				オオヒラチャイロコガネ		
2188				ホソケシマグソコガネ		
2189				マルトゲムシ科	シラフチマルトゲムシ	
2190				ヒメドロムシ科	キベリナガアシドロムシ	
2191					キスジミソドロムシ	
2192					イブシアシナガドロムシ	
2193					アシナガミソドロムシ	
2194					アウツヤドロムシ	
2195				ナガドロムシ科	ナガドロムシ	
2196					タテスジナガドロムシ	
2197				ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ	
2198					マダテヒラタドロムシ	
2199				ナガハナノミ科	コヒゲナガハナノミ	
2200				タマムシ科	アオグロナガタマムシ	
-					Agrius属	
2201					ヒメヒラタタマムシ	
2202					ウバタマムシ	
2203					ヤマトタマムシ	
2204					ヒラタチビタマムシ	
2205					クスノチビタマムシ	
2206					ヤナギチビタマムシ	
2207					マメチビタマムシ	
2208					ズミチビタマムシ	
2209					アカガネチビタマムシ	
-					Trachys属	
2210					マダラチビコメツキ	
2211					サビキコリ	
2212					ムナビロサビキコリ	
2213					ホソサビキコリ	
2214					ヒメサビキコリ	
2215					ミヤマホソチャバネコメツキ	
2216					クリイロアシフトコメツキ	
2217					ホソハナコメツキ	
-					Cardiophorus属	
2218					キバネホソコメツキ	
2219					オオナガコメツキ	
2220					ムネスジダンダラコメツキ	
2221					チャイロコメツキ	
2222					ホソツヤケシコメツキ	
2223					ニセクチフトコメツキ	
2224					クロツヤクシコメツキ	
2225					ハネナガオオクシコメツキ	
2226					クシコメツキ	
2227					チャバネクシコメツキ	
-					Melanotus属	
2228					ミスギワコメツキ	
2229					クロツヤミスギワコメツキ	
2230					ウバタマコメツキ	
2231					ヒゲコメツキ	
2232					オオハナコメツキ	
-					Platynychus属	
2233					ヒメホソキコメツキ	
2234					カタモンチビコメツキ	
2235					ニホンチビマメコメツキ	
-					Quasimus属	
2236					Scutellithous属	
2237					クチフトコメツキ	
2238					オオツヤハダコメツキ	
2239					オオクシヒゲコメツキ	
2240					ハリムネマメコメツキ	
2241					ウスイロカネコメツキ	
-					コメツキムシ科	
2242					ヒメフトコメツキダマシ	
2243					キンケヒメフトコメツキダマシ	
2244					フチトリコメツキダマシ	
2245					ツヤヒメミソコメツキダマシ	
2246					オオチャイロコメツキダマシ	
2247					エノキコメツキダマシ	
2248					ナガコメツキダマシ	
-					コメツキダマシ科	
2249					ナガヒゲフトコメツキ	
2250					チャイロヒゲフトコメツキ	

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 30/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
2251	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ジョウカイボソ科	ムネアカクロジョウカイ	H15	
2252				クロホソジョウカイ		
2253				ウスチャジョウカイ		
2254				セスジジョウカイ		
2255				クビアカジョウカイ		
2256				ジョウカイボン		
2257				セボシジョウカイ		
2258				フタイロジョウカイ		
2259				コクロヒメジョウカイ		
2260				クロツマキジョウカイ		
2261				ウスバツマキジョウカイ		
-						
2262				Malthinus属		
-				ムネミゾクロチビジョウカイ		
-				Malthodes属		
2263				ヒメジョウカイ		
-				Mikadocantharis属		
2264				ミヤマクビボソジョウカイ		
2265				クロヒメクビボソジョウカイ		
-				Podabrus属		
2266				エグリメジョウカイ		
2267				マルムネジョウカイ		
2268				クロヒメジョウカイ		
-				Rhagonycha属		
2269				クリイロジョウカイ		
2270				キンイロジョウカイ		
-				ジョウカイボソ科		
2271				ホタル科		オハボタル
2272				ゲンジボタル		
2273				ヘイケボタル		
2274				ベニボタル科		ユアサクロベニボタル
2275				カクムネベニボタル		
2276				クロハナボタル		
2277	ニセクロハナボタル					
2278	クロアミメボタル					
-	ベニボタル科					
2279	カツオブシムシ科	カマキリタマゴカツオブシムシ				
2280	チビケカツオブシムシ					
2281	シバンムシ科	タバコシバンムシ				
-	シバンムシ科					
2282	ナガシクイムシ科	ケヤキヒラタキクイムシ				
2283	カッコウムシ科	Opiio属				
2284	ジョウカイモドキ科	ホソヒメジョウカイモドキ				
2285	クギスキヒメジョウカイモドキ					
2286	ヒロオビジョウカイモドキ					
2287	キアシオビジョウカイモドキ					
2288	ツマキアオジョウカイモドキ					
2289	ツツシクイ科	ツマグロツツシクイ				
2290	ムクゲキスイムシ科	ハスモンムクゲキスイ				
2291	テントウムシ科	ウンモンテントウ				
2292	ムーアシロホシテントウ					
2293	オナホシテントウ					
2294	マクガタテントウ					
2295	オオニジュウヤホシテントウ					
2296	ナミテントウ					
2297	アトホシヒメテントウ					
-	Nephus属					
2298	ヨツボシテントウ					
2299	ヒメカメノコテントウ					
2300	ハレヤヒメテントウ					
2301	クモガタテントウ					
2302	ベニヘリテントウ					
2303	ババヒメテントウ					
2304	バイゼヒメテントウ					
2305	オニヒメテントウ					
2306	クロヘリヒメテントウ					
2307	クロヒメテントウ					
2308	カウムラヒメテントウ					
2309	トビイロヒメテントウ					
2310	コクロヒメテントウ					
2311	クロテントウ					
2312	テントウムシ					
2313	ケナガセマルキスイ					
2314	キイロセマルキスイ					
2315	ウスバキスイ					
-	Cryptophagus属					
2316	マルガタキスイ					
2317	Henoticus属					
-	キスイムシ科					
2318	ヒラタムシ科	キボシチビヒラタムシ				
2319	ヒメヒラタムシ					
-	ヒラタムシ科					
2320	ミジウムシダマシ科	クロミジウムシダマシ				
2321	コゲチャミジウムシダマシ					
2322	テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ				
2323	セダカテントウダマシ					
2324	チャイロケブカテントウダマシ					
2325	キボシテントウダマシ					
2326	オオキノコムシ科	カタモンオオキノコ				
2327	ヒメオビオオキノコ					
2328	ミヤマオビオオキノコ					
2329	クロハバヒロオオキノコ					
2330	オオキスイムシ科	ヨツボシオオキスイ				



表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 31/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
2331	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ	H15	
2332				ツマグロヒメコメツキモドキ		
2333				Cryptophilus属		
2334				ルイスコメツキモドキ		
2335				ケシコメツキモドキ		
2336				ケナガマルキスイ		
2337				ヒメマキムシ科		ウスチャクシマキムシ
2338				ケシキスイ科		ドウイロムクゲシキスイ
2339						コクロムクゲシキスイ
2340						コゲチャセマルケシキスイ
2341						クロハナケシキスイ
2342						ウスチャクオキスイ
2343						クリイロオキスイ
-						Carpophilus属
2344						マルマルケシキスイ
2345						ナミヒラタケシキスイ
-						Epuraea属
2346						マメヒラタケシキスイ
2347						モンチビヒラタケシキスイ
2348						キイロチビハナケシキスイ
2349						クロヒラタケシキスイ
2350						ヨツボシケシキスイ
2351						マルヒラタケシキスイ
2352						キノコヒラタケシキスイ
2353						ウスオビカクケシキスイ
2354						オオキマダラケシキスイ
2355						クロキマダラケシキスイ
2356						マルキマダラケシキスイ
-						ケシキスイ科
2357						ヒメハナムシ科
2358				キイロアシナガヒメハナムシ		
2359				フタスジヒメハナムシ		
2360				エムモンチビヒメハナムシ		
2361				チビヒメハナムシ		
2362				ホソヒラタムシ科		ミツモンセマルヒラタムシ
2363				ホソヒラタキスイ		
2364				ミツカドコナヒラタムシ		
-				Silvanoprus属		
2365				フタトクホソヒラタムシ		
2366				クシヒゲニセクビボソムシ		
2367				セグロニセクビボソムシ		
2368				クチキムシ科		アオバクチキムシ
2369				オオクチキムシ		
2370				クチキムシ		
2371	ホソクロクチキムシ					
2372	ウスイロクチキムシ					
2373	クリイロクチキムシ					
2374	クロツヤバネクチキムシ					
2375	アリモドキ科	アカホソアリモドキ				
2376	ツヤチビホソアリモドキ					
2377	コクロホソアリモドキ					
2378	ホソクビアリモドキ					
2379	ヒゲナガクビボソムシ					
2380	キアシクビボソムシ					
2381	アカクビボソムシ					
-	Macratris属					
2382	ヨツボシホソアリモドキ					
2383	アカモンホソアリモドキ					
2384	ハムシダマシ科	アオハムシダマシ				
2385	ナガハムシダマシ					
2386	ナガクチキムシ科	ピロウドホソナガクチキ				
2387	Falsomordellina属					
2388	ハナノヒメハナノミ					
2389	Glipa属					
2390	アマミヒメハナノミ					
2391	チャオビヒメハナノミ					
2392	カグヤヒメハナノミ					
2393	ミカドヒメハナノミ					
2394	ヤマモトヒメハナノミ					
-	Mordellina属					
2395	クロヒメハナノミ					
-	Mordellistena属					
2396	キンオビハナノミ					
-	ハナノミ科					
2397	コキノコムシ科	ヒゲプトコキノコムシ				
2398	カミキリモドキ科	ルリカミキリモドキ				
2399	ハネアカカミキリモドキ					
2400	モモプトカミキリモドキ					
2401	キアシカミキリモドキ					
2402	キイロカミキリモドキ					
2403	キバネカミキリモドキ					
2404	アオカミキリモドキ					
-	Xanthochroa属					
2405	アカハネムシ科	アカハネムシ				
2406	ハナノミダマシ科	ホソフナガタハナノミ				
2407	ゴミムシダマシ科	ヒメゴミムシダマシ				
2408	ヨツボシゴミムシダマシ					
2409	ナガニジゴミムシダマシ					
2410	クロホシテントウゴミムシダマシ					
2411	モンキゴミムシダマシ					
2412	スナゴミムシダマシ					
2413	カクスタゴミムシダマシ					

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 32/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川		
2414	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゴミムシダマシ科	ホソスナゴミムシダマシ	H15		
2415				ヒメカクスナゴミムシダマシ			
2416				スジコガシラゴミムシダマシ			
2417				カブトゴミムシダマシ			
2418				マルツヤキノコゴミムシダマシ			
2419				オオメキノコゴミムシダマシ			
2420				クロツヤキノコゴミムシダマシ			
2421				キマワリ			
2422				ヒメマルムネゴミムシダマシ			
2423				ニジゴミムシダマシ			
2424				モトヨツコブゴミムシダマシ			
2425				ヤマトエグリゴミムシダマシ			
2426				ヨツコブゴミムシダマシ			
2427				エグリゴミムシダマシ			
-				ゴミムシダマシ科			
2428				カミキリムシ科		ピロウドカミキリ	
2429						ムモンベニカミキリ	
2430						ツヤケシハナカミキリ	
2431						ゴマダラカミキリ	
2432						サビカミキリ	
2433						ムネツヤサビカミキリ	
2434						キクスイモドキカミキリ	
2435						ツシマムナクボカミキリ	
2436						エグリトラカミキリ	
2437						アカハナカミキリ	
2438						ホソカミキリ	
2439						ヨツキボシカミキリ	
2440						アトモンマルケシカミキリ	
2441						シロオビゴマフカミキリ	
2442						シラボシカミキリ	
2443						ヨツスジハナカミキリ	
2444						オオヨツスジハナカミキリ	
2445						ヒシカミキリ	
2446						ヘリグロリンゴカミキリ	
2447						ラミーカミキリ	
2448						ニンフボソハナカミキリ	
2449						チャイロヒメハナカミキリ	
2450						フタオビチビハナカミキリ	
-						Pidonia属	
2451						ノコギリカミキリ	
2452						ウモンサビカミキリ	
2453						トガリシロオビサビカミキリ	
2454						アトモンサビカミキリ	
2455						ヒトオビアラゲカミキリ	
2456						クロカミキリ	
2457						ヨツボシカミキリ	
2458						コウヤボソハナカミキリ	
2459						アオスジカミキリ	
2460						ハムシ科	キクピアオハムシ
2461							ヒメカミナリハムシ
2462							アザミカミナリハムシ
2463							カミナリハムシ
2464							スジカミナリハムシ
2465							アカバナトビハムシ
-							Altica属
2466							キイロツブノミハムシ
2467							ツブノミハムシ
2468							サメハダツブノミハムシ
2469							ホソルリトビハムシ
2470							フタイロセマルトビハムシ
2471							オオアカマルノミハムシ
2472							ムナグロツヤハムシ
2473							カクムネトビハムシ
2474							オオキイロノミハムシ
2475							ウリハムシモドキ
2476							ウリハムシ
2477							クロウリハムシ
2478							アオバナサルハムシ
2479							アズキマメゾウムシ
2480							ハラグロヒメハムシ
2481							ヒメカメノコハムシ
2482							フタイロヒサゴトビハムシ
2483							ヒメドウガネトビハムシ
2484							ヒサゴトビハムシ
-							Chae tocnema属
2485							ムシクツハムシ
2486							ヤナギハムシ
2487							ウエツキフナハムシ
2488							アオバミドリトビハムシ
2489							バラルリツツハムシ
2490							タテスジキツツハムシ
2491							ヨツモンクロツツハムシ
2492							クロボシツツハムシ
-							Cryptoccephalus属
2493							マダラアラゲサルハムシ
2494							イネネクイハムシ
2495							キバラヒメハムシ
-							Exosoma属
2496							クワハムシ
2497							ジュンサイハムシ
2498							イタドリハムシ
2499							ズグロキハムシ

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 33/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川
2500	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ハムシ科	ヤツボシハムシ	H15
2501				フジハムシ	
2502				キバナマルノミハムシ	
2503				ヒゲナガルリマルノミハムシ	
2504				ケブカクロナガハムシ	
2505				キオビクビボソハムシ	
2506				アカクビボソハムシ	
2507				ヤマイモハムシ	
2508				ルリハムシ	
2509				サシゲトビハムシ	
2510				イヌノフグリトビハムシ	
2511				オオバコトビハムシ	
2512				クビアカトビハムシ	
2513				キアシノミハムシ	
-				Luperomorpha属	
2514				クロウスバハムシ	
2515				コフキサルハムシ	
2516				フタスジヒメハムシ	
2517				セマルトビハムシ	
2518				ホタルハムシ	
2519				ムネアカウスイロハムシ	
2520				ヒメウスイロハムシ	
2521				キイロクワハムシ	
-				Monolepta属	
2522				ルリマルノミハムシ	
2523				コマルノミハムシ	
2524				ドウガネツヤハムシ	
2525				アオグロツヤハムシ	
2526				ヒメツヤハムシ	
2527				フタクサハムシ	
2528				ヒメキバナサルハムシ	
2529				アトボシハムシ	
2530				ダイコンハムシ	
2531				チャバナツヤハムシ	
2532				ヤナギルリハムシ	
2533				フタバシオオノミハムシ	
2534				クビボソトビハムシ	
2535				ナトビハムシ	
2536				サンゴジュハムシ	
2537				ニレハムシ	
2538				ドウガネサルハムシ	
2539				キボシルリハムシ	
2540				アケビタマノミハムシ	
2541				キイロタマノミハムシ	
2542				ルリウスバハムシ	
2543				ヒゲナガウスバハムシ	
2544				クロバヒゲナガハムシ	
2545				イチモンジカメノコハムシ	
2546				トビサルハムシ	
2547				キカサハラハムシ	
2548				ムナグロナガハムシ	
2549				アラハダトビハムシ	
2550				ガマズミトビハムシ	
2551				ヒソバキハムシ	
2552				シリアカタマノミハムシ	
2553				スネアカヒゲナガゾウムシ	
2554				キノコヒゲナガゾウムシ	
2555	ウスモンツツヒゲナガゾウムシ				
2556	シロヒゲナガゾウムシ				
2557	クロフヒゲナガゾウムシ				
2558	マメホソクチゾウムシ				
2559	ヒレホソクチゾウムシ				
2560	アカクチホソクチゾウムシ				
2561	ウスモンオトシブミ				
2562	ヒメクロオトシブミ				
2563	ムツモンオトシブミ				
2564	エゴツルクビオトシブミ				
2565	コナライクビチョッキリ				
2566	ナラルリオトシブミ				
2567	ハギルリオトシブミ				
2568	カシルリオトシブミ				
2569	リュイスアシナガオトシブミ				
2570	アシナガオトシブミ				
2571	ヒメコブオトシブミ				
2572	Acallinus属				
2573	ナカグロカレキゾウムシ				
2574	ウスモンカレキゾウムシ				
2575	ナカスジカレキゾウムシ				
-	Acicnemis属				
2576	トゲアシゾウムシ				
2577	イチゴハナゾウムシ				

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 34/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川				
2578	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゾウムシ科	クワヒメゾウムシ	H15				
2579				ホソクチカクシゾウムシ					
2580				ツヤチビヒメゾウムシ					
2581				ダイコンサルゾウムシ					
2582				カナムグラサルゾウムシ					
-				Ceutorhynchus属					
2583				ジュウジコブサルゾウムシ					
2584				セダカシギゾウムシ					
2585				コナラシギゾウムシ					
2586				ジュウジチビシギゾウムシ					
2587				クリシギゾウムシ					
-				Curculio属					
2588				チビクチカクシゾウムシ					
2589				タバゲササラゾウムシ					
2590				ヤナギイネゾウモドキ					
2591				コクロアナキゾウムシ					
2592				トドマツアナキゾウムシ					
2593				シロコブゾウムシ					
2594				コフキゾウムシ					
2595				タデサルゾウムシ					
2596				マツアナキゾウムシ					
2597				サビノコギリゾウムシ					
2598				イネミスゾウムシ					
2599				ハスジカツオゾウムシ					
2600				ウスアオクチフトゾウムシ					
2601				ヒメクロツキクイゾウムシ					
2602				ネジキトガムネサルゾウムシ					
2603				ツツジトガムネサルゾウムシ					
2604				ホホジロアシナガゾウムシ					
2605				キスジアシナガゾウムシ					
2606				カシアシナガゾウムシ					
2607				クロアシナガゾウムシ					
2608				オジロアシナガゾウムシ					
2609				トゲハラヒラセクモゾウムシ					
-				Metiama属					
2610				カシワクチフトゾウムシ					
-				Myllocerus属					
2611				チビヒョウタンゾウムシ					
2612				マツチャイロキクイゾウムシ					
2613				ヒレルクチフトゾウムシ					
2614				リンゴコフキゾウムシ					
2615				コヒゲボソゾウムシ					
2616				ツチイロヒゲボソゾウムシ					
2617				ヒラスネヒゲボソゾウムシ					
2618				リンゴヒゲボソゾウムシ					
2619				ウスイロヒゲボソゾウムシ					
2620				ハダカヒゲボソゾウムシ					
-				Phyllobius属					
2621				スグリゾウムシ					
2622				アラハダクチカクシゾウムシ					
2623				ギシギシクチフトサルゾウムシ					
2624				ムネスジノミゾウムシ					
-				Rhynchaenus属					
2625				キイチゴトゲサルゾウムシ					
2626				ニセマツノシラホシゾウムシ					
2627				Smicronyx属					
2628				イコマクシツチゾウムシ					
2629				オサゾウムシ科		クイサビゾウムシ			
2630				オオゾウムシ					
2631				キクイムシ科		ネッカコキクイムシ			
-				Cryphalus属					
2632				フィリピンキクイムシ					
2633				ハイマツアトマルキクイムシ					
2634				タブノキクイムシ					
2635				クワノキクイムシ					
2636				シイノホソキクイムシ					
2637				ハギキクイムシ					
2638				ハンノキキクイムシ					
2639				ザイノキクイムシ亜科					
-				キクイムシ科					
2640				八手目(膜翅目)		ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジ		
2641							チュウレンジハバチ		
2642							ハバチ科	セグロカブラハバチ	
2643								ニホンカブラハバチ	
2644								クロムネハバチ	
2645								ヒゲナガハバチ	
2646								クロハバチ	
2647								アシプトヒゲナガハバチ	
2648								チャイロハバチ	
2649								ルイスアカマルハバチ	
2650								クワイロシマハバチ	
2651								ヒゲナガクロハバチ	
2652								Priophorus属	
2653								トムソンハムグリハバチ	
2654								セマダラハバチ	
2655								オオコシアカハバチ	
2656								サクツクリハバチ	
2657								ゼンマイハバチ	
2658								ツノキクロハバチ	
2659								オメガアハバチ	
-								ハバチ科	
2660								クビナガキハチ科	クビナガキハチ科

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 35/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川			
2661	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	コマユバチ科	サクラスカシサムライコマユバチ	H15			
2662				モモクロサムライコマユバチ				
2663				アオムシサムライコマユバチ				
2664				クワノメイガサムライコマユバチ				
2665				フランコサムライコマユバチ				
2666				キタカミキリコマユバチ				
2667				マルバラコマユバチ				
2668				ムナカタコウラクコマユバチ				
2669				ヒメコウラクコマユバチ				
-				Cheilonus属				
2670				ヒメウマノオバチ				
2671				ヒゲナガコマユバチ				
2672				クロヒゲナガコマユバチ				
2673				サラサヒトリハラボソコマユバチ				
2674				クロオオサムライコマユバチ				
2675				タテハオオサムライコマユバチ				
2676				ヨトウオオサムライコマユバチ				
2677				ヨコハマタラクコマユバチ				
2678				カモドキバチモドキ				
2679				カモドキバチ				
2680				ヨコハマコマユバチ				
2681				オオアメイロコンボウコマユバチ				
2682				チビキイロコウラクコマユバチ				
-				コマユバチ科				
2683				ヒメバチ科			ヒメバチ科	スジコンボウヒメバチ
2684								クロヒゲアシオナガヒメバチ
2685								シロテントガリヒメバチ
2686	イヨヒメバチ							
2687	ハラボソトガリヒメバチ							
2688	エゾフタオヒメバチ							
2689	スギハラチビアメバチ							
2690	シロモンヒラタヒメバチ							
2691	クロモンアメバチ							
2692	ムラサキウスアメバチ							
2693	クロヒラタアブヤドリバチ							
2694	シコクホシアメバチ							
2695	キマダラコシボソトガリヒメバチ							
2696	Habronyx heros							
2697	コンボウアメバチ							
2698	ヒョウモンヒメバチ							
2699	アマヒトリヤドリヒメバチ							
2700	マツケムシヒラタヒメバチ							
2701	アオムシヒラタヒメバチ							
2702	Megarhyssa属							
2703	ツバメシジミセアカヒメバチ							
2704	タカオウスクロアメバチ							
2705	ツマグロケンヒメバチ							
2706	シラホシオナガバチ							
2707	エゾフタオマルヒメバチ							
-	ヒメバチ科							
2708	カギバラバチ科	キスジセアカカギバラバチ						
2709	ヒゲナガクロバチ科	ヒゲナガクロバチ科						
2710	コンボウヤセバチ科	コンボウヤセバチ						
2711	ハエヤドリクロバチ科	ハエヤドリクロバチ科						
2712	ハラビロクロバチ科	Inostemma属						
-	ハラビロクロバチ科							
2713	シリボソクロバチ科	シリボソクロバチ科						
2714	クシツメクロバチ科	クシツメクロバチ科						
2715	イシハラクロバチ科	イシハラクロバチ科						
2716	タマゴクロバチ科	ズイムシクロタマゴバチ						
2717	-	ギフクロタマゴバチ						
-	-	タマゴクロバチ科						
2718	オオモンクロバチ科	オオモンクロバチ科						
2719	ツヤコバチ科	ツヤコバチ科						
2720	アシプトコバチ科	キアシプトコバチ						
-	-	アシプトコバチ科						
2721	トビコバチ科	トビコバチ科						
2722	アリヤドリコバチ科	アリヤドリコバチ科						
2723	ヒメコバチ科	ヒメコバチ科						
2724	ナガコバチ科	マツケムシハネミジカタマゴバチ						
-	-	ナガコバチ科						
2725	カタビロコバチ科	カタビロコバチ科						
2726	コガネコバチ科	コガネコバチ科						
2727	オナガコバチ科	オナガアシプトコバチ						
-	-	オナガコバチ科						
2728	タマゴコバチ科	タマゴコバチ科						
2729	ホソハネコバチ科	ホソハネコバチ科						
2730	ヤドリタマバチ科	ヤドリタマバチ科						
2731	ツヤヤドリタマバチ科	ツヤヤドリタマバチ科						
2732	-	コバチ上科						
2733	セイボウ科	セイボウ科						
2734	アリ科	ノコギリハリアリ						
2735	-	アシナガアリ						
2736	-	ヤマトアシナガアリ						
2737	-	オオハリアリ						
2738	-	ニシムネアカオアリ						
2739	-	イトウオアリ						
2740	-	クロオアリ						
2741	-	ミカドオアリ						
2742	-	ナウヨツボシオアリ						
2743	-	ヒラスオアリ						
2744	-	ムネアカオアリ						

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 36/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川	
2745	昆虫綱	八甲目(膜翅目)	アリ科	ウメマツオオアリ	H15	
2746				ヤマヨツボシオオアリ		
2747				ツチクビレハリアリ		
2748				ツヤシリアゲアリ		
2749				ハリフトシリアゲアリ		
2750				キイロシリアゲアリ		
2751				テラニシシリアゲアリ		
2752				トビイロシリアゲアリ		
2753				メクラハリアリ		
2754				ハヤシクロヤマアリ		
2755				クロヤマアリ		
2756				アカヤマアリ		
2757				ツヤクロヤマアリ		
2758				シベリアカタアリ		
2759				ルリアリ		
2760				フシボクサアリ		
2761				クロクサアリ		
2762				ハヤシケアリ		
2763				トビイロケアリ		
2764				クサアリモドキ		
2765				アメイロケアリ		
2766				ヒメムネボソアリ		
2767				ハリナガムネボソアリ		
2768				ハヤシムネボソアリ		
2769				ミゾガシラアリ		
2770				ヒメアリ		
2771				キイロヒメアリ		
2772				カドフシアリ		
2773				シワクシケアリ		
2774				アメイロアリ		
2775				サクラアリ		
-				Paratrechina属		
2776				ヒラタウロコアリ		
2777				アズマオオズアリ		
2778				オオズアリ		
2779				サムライアリ		
2780				トゲアリ		
2781				ヒメハリアリ		
2782				アミメアリ		
2783				トフシアリ		
2784				メクラナガアリ		
2785				ウロコアリ		
-				Strumigenys属		
2786				ヒラフシアリ		
2787				オオシウアリ		
2788				トビイロシウアリ		
2789				ウメマツアリ		
2790				ハリアリ亜科		
2791				フタフシアリ亜科		
2792				ヤマアリ亜科		
-				アリ科		
2793				ドロバチ科		オオフタオビドロバチ本土亜種
2794				ミカドトックリバチ		
2795				キアシトックリバチ		
2796				ムモントックリバチ		
2797				サムライトックリバチ		
2798				ミカドドロバチ		
2799				スズバチ		
2800				カバフドロバチ		
2801				スズメバチ科		ムモンソリアシナガバチ
2802				トウヨウホソリアシナガバチ		
2803				セグロアシナガバチ		
2804				ヤマトアシナガバチ		
2805				キボシアシナガバチ		
2806				コアシナガバチ		
2807				コガタスズメバチ		
2808				オオスズメバチ		
2809				キイロスズメバチ		
2810				ヒメスズメバチ		
2811				クロスズメバチ		
2812				スズメバチ		
-				スズメバチ科		
2813				ベッコウバチ科		アケボノベッコウ
2814				オオモンクロベッコウ		
2815				ヒラカタベッコウ		
2816				ヒメベッコウ		
2817				スキハラベッコウ		
2818				ペレエヒゲベッコウ		
2819				キバネトゲアシベッコウ		
-				ベッコウバチ科		
2820				アリバチ科		アリバチモドキ
-				アリバチ科		
2821				コツチバチ科		Tiphia属
2822				ツチバチ科		ヒメハラナガツチバチ
2823				キンケハラナガツチバチ		
2824				ハラナガツチバチ		
2825				オオハラナガツチバチ		
2826				キオビツチバチ		
2827				サトジガバチ		
-				アナバチ科		Ammophila属
2828				ミカドジガバチ		
2829				コクローアナバチ		
2830				Rhopalum属		
2831				クローアナバチ		
2832				オオハヤバチ		
2833				ジガバチモドキ		
2834				ヒメコシボソバチ亜科		

表 6.6-17 流入河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 37/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	流入河川		
					H15		
2835	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	アナバチ科	ドロバチモドキ亜科			
2836				ギングチバチ亜科			
2837			ヒメハナバチ科	アブラナマメヒメハナバチ			
2838				キバナヒメハナバチ			
2839				ミカドヒメハナバチ			
2840				ムネアカハラヒロヒメハナバチ			
2841				ウツギヒメハナバチ			
-				Andrena属			
2842				コシブトハナバチ科	スジボソコシブトハナバチ		
2843			ヤマトツヤハナバチ				
-			Ceratina属				
2844			Nomada属				
2845			ミツクリヒゲナガハナバチ				
2846			ニッポンヒゲナガハナバチ				
2847			クマバチ				
2848			ミツバチ科	ニホンミツバチ			
2849				コマルハナバチ			
2850				トラマルハナバチ			
-			Bombus属				
2851			ムカシハナバチ科	アシプトムカシハナバチ			
-				Colletes属			
2852				ツグロチビムカシハナバチ			
2853			コハナバチ科	ヒメチビムカシハナバチ			
2854				アカガネコハナバチ			
-				Halictus属			
2855			昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	コハナバチ科	ツマルコハナバチ	
2856						ツヤハラナガコハナバチ	
-						Lasiglossum属	
-	ハキリバチ科	コハナバチ科					
2857		オオハキリバチ					
2858		キバラハキリバチ					
-		ハチ目					
2綱24目406科2858種					396種		

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2. 種名に「…属」「…科」「…亜科」「…目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。





(下流河川確認種リスト)

表 6.6-18 下流河川確認種リスト(魚類)

No.	綱名	目名	科名	種名	下流河川			
				和名	H8	H13	H19	
1	硬骨魚綱	コイ目	コイ科	コイ				
2				ゲンゴロウブナ				
3				ギンブナ				
4				ニゴロブナ				
5				オオキンブナ				
-				フナ属				
6				ワタカ				
7				ハス				
8				オイカワ				
9				カワムツ				
10				モツゴ				
11				タモロコ				
12				ホンモロコ				
13				カマツカ				
14				コウライニゴイ				
15				ニゴイ				
-				ニゴイ属				
16				スゴモロコ				
17		コウライモロコ						
-		スゴモロコ属						
18			ドジョウ科	ドジョウ				
19			ナマズ目	ナマズ科	ナマズ			
20				ギギ科	ギギ			
21			サケ目	サケ科	アマゴ			
22				アユ科	アユ			
23			ダツ目	メダカ科	メダカ			
24			タウナギ目	タウナギ科	タウナギ			
25			スズキ目	ハゼ科	スミウキゴリ			
26					ウキゴリ			
27					トウヨシノボリ			
28					カワヨシノボリ			
-		ヨシノボリ属						
29		ヌマチチブ						
30		サンフィッシュ科			ブルーギル			
31			オオクチバス(ブラックバス)					
1綱6目10科31種					10種	8種	12種	
					16種			

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-19 下流河川確認種リスト(エビ・カニ・貝類)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
					H8	H13
1	マキガイ綱(腹足綱)	ニナ目(中腹足目)	タニシ科	オオタニシ		
2				ヒメタニシ		
3			カワニナ科	カワニナ		
4				チリメンカワニナ		
5			モノアラガイ目(基眼目)	モノアラガイ科	モノアラガイ	
6	ニマイガイ綱(二枚貝綱)	ハマグリ目(マルスダレガイ目)	シジミ科	マシジミ		
7	甲殻綱	エビ目(十脚目)	テナガエビ科	テナガエビ		
8				スジエビ		
9			ヌマエビ科	ミナミヌマエビ		
10			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		
11			サワガニ科	サワガニ		
3綱4目8科11種					7種	7種
					8種	

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.表中の数は、個体数を示す。

表 6.6-20 下流河川確認種リスト(底生動物 : 1/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	下流河川				
					H5	H7	H12	H17	H20
1	普通海綿綱	ザラカイメン目(単骨海綿目)	タンスイカイメン科	ヨウカイメン					
-	-	-	-	タンスイカイメン科					
2	ヒドロ虫綱	無鞘目(花クラゲ目)	ヒドラ科	ヒドラ科					
3	ウズムシ綱(渦虫綱)	ウズムシ目(三岐腸目)	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ					
-	-	-	-	ウズムシ目(三岐腸目)					
-	-	-	-	ウズムシ綱(渦虫綱)					
4	-	-	-	ひも(紐)形動物門					
5	-	-	-	線形動物門					
6	マキガイ綱(腹足綱)	二ナ目(中腹足目)	タニシ科	オオタニシ					
7	-	-	-	ヒメタニシ					
8	-	-	-	カワニナ					
9	-	-	-	チリメンカワニナ					
-	-	-	-	Semisulcospira属					
10	-	-	-	モノアラガイ目(基眼目)					
11	-	-	-	カワコザラガイ科	カワコザラガイ				
12	-	-	-	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ				
13	-	-	-	-	コシダカヒメモノアラガイ				
-	-	-	-	-	Radix属				
14	-	-	-	サカマキガイ科	サカマキガイ				
15	-	-	-	ヒラマキガイ科(+インドヒラマキ)	Gyraulus属				
16	-	-	-	-	ヒラマキガイモドキ				
17	ニマイガイ綱(二枚貝綱)	イシガイ目	イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)					
18	-	マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ					
-	-	-	-	Corbicula属					
19	-	-	-	マメシジミ科	Pisidium属				
20	-	-	-	ドブシジミ科	ドブシジミ				
21	ミズミズ綱(貧毛綱)	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ科					
22	-	ナガミズ目	ピウミズ科	ヤマトヒモミズ					
23	-	-	ヒメミズ科	ヒメミズ科					
24	-	-	ナガミズ科	ナガミズ科					
25	-	-	ツリミズ科	Alloobophora属					
-	-	-	-	ツリミズ科					
26	-	-	-	フトミズ科	Pheretima属				
-	-	-	-	-	フトミズ科				
27	-	-	-	ミズミズ科	Chaetogaster属				
28	-	-	-	-	Dero属				
29	-	-	-	-	Nais属				
30	-	-	-	-	Ophidonais属				
31	-	-	-	-	Stavina属				
32	-	-	-	-	テングミズミズ				
-	-	-	-	-	Stylaria属				
33	-	-	-	-	ミズミズ科				
34	-	-	-	イトミズ科	エラミズ				
-	-	-	-	-	ユリミズ				
35	-	-	-	-	Limnodrilus属				
-	-	-	-	-	イトミズ				
-	-	-	-	-	Tubifex属				
36	-	-	-	ヒモミズ科	イトミズ科				
-	-	-	-	-	ヒモミズ科				
-	-	-	-	-	ナガミズ目				
-	-	-	-	-	ミズミズ綱				
37	ヒル綱	ノドビル目(咽蛭目)	イシビル科	ナミイシビル					
-	-	-	-	イシビル科					
38	クモ綱(蛛形綱)	ダニ目	-	ダニ目					
39	甲殻綱	ワラジムシ目(等脚目)	ミズムシ科	ミズムシ					
-	-	-	-	ミズムシ科					
40	-	ヨコエビ目(端脚目)	ハマトビムシ科	ハマトビムシ科					
41	-	エビ目(十脚目)	テナガエビ科	テナガエビ					
42	-	-	-	スジエビ					
43	-	-	-	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ				
44	-	-	-	サワガニ科	サワガニ				
45	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	マエグロヒメフタオカゲロウ					
-	-	-	-	Ameletus属					
46	-	-	-	コカゲロウ科	ミツオシカオフトバコカゲロウ				
47	-	-	-	-	ミジカオフトバコカゲロウ				
48	-	-	-	-	フトバコカゲロウ				
-	-	-	-	-	Baetella属				
49	-	-	-	-	トビロコカゲロウ				
50	-	-	-	-	サホコカゲロウ				
51	-	-	-	-	フタモンコカゲロウ				
52	-	-	-	-	シロハラコカゲロウ				
53	-	-	-	-	ヤマトコカゲロウ				
54	-	-	-	-	ヨシノコカゲロウ				
55	-	-	-	-	Dコカゲロウ				
56	-	-	-	-	Eコカゲロウ				
57	-	-	-	-	Gコカゲロウ				
58	-	-	-	-	Hコカゲロウ				
59	-	-	-	-	Iコカゲロウ				
60	-	-	-	-	Jコカゲロウ				
-	-	-	-	-	Baetis属				
61	-	-	-	-	Cloeon属				
62	-	-	-	-	ウスイロフトヒゲコカゲロウ				
63	-	-	-	-	Proclaeon属				
64	-	-	-	ガガンボカゲロウ科	ガガンボカゲロウ				
65	-	-	-	フタオカゲロウ科	Siphonurus属				
66	-	-	-	ヒラタカゲロウ科	オビカゲロウ				
67	-	-	-	-	Cinygmula属				
68	-	-	-	-	キブネタニガワカゲロウ				
69	-	-	-	-	クロタニガワカゲロウ				

表 6.6-20 下流河川確認種リスト(底生動物 : 2/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	下流河川					
					H5	H7	H12	H17	H20	
70	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ						
-				Ecdyonurus属						
71				ウエノヒラタカゲロウ						
72				ナミヒラタカゲロウ						
73				エルモンヒラタカゲロウ						
74				ユミモンヒラタカゲロウ						
-				Epeorus属						
75				キョウトキハダヒラタカゲロウ						
76				サツキヒメヒラタカゲロウ						
77				チラカゲロウ科	チラカゲロウ					
78				トビロカゲロウ科	ヒメトビロカゲロウ					
79				ウエストントビロカゲロウ						
-				Paraleptophlebia属						
80				トビロカゲロウ科	Thraulius属					
81				モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ					
82				トウヨウモンカゲロウ						
83				モンカゲロウ						
84				シロイロカゲロウ科	オオシロカゲロウ					
85				カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ					
86				マダラカゲロウ科	クロマダラカゲロウ					
87				オオクママダラカゲロウ						
-				Cincticoctelia属						
88				オオマダラカゲロウ						
89				ヨシノマダラカゲロウ						
90				シリナガマダラカゲロウ						
91				ツノマダラカゲロウ						
92				ホソバマダラカゲロウ						
93				イマニシマダラカゲロウ						
94				クシゲマダラカゲロウ						
-				Ephemerelella属						
95				エラブタマダラカゲロウ						
96				アカマダラカゲロウ						
97				ヒメシロカゲロウ科	Caenis属					
98				トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	Cercion属				
99				アジアイトンボ						
-				Ischnura属						
100				イトトンボ科						
101				カワトンボ科	ハグロトンボ					
-				ミヤマカワトンボ						
102				Calopteryx属						
103				アサヒナカワトンボ						
-				ニホンカワトンボ						
104				Mnais属						
105				ムカシトンボ科	ムカシトンボ					
106				ヤンマ科	マルタンヤンマ					
107				ギンヤンマ						
108				コシボソヤンマ						
109				ミルンヤンマ						
110				サナエトンボ科	ミヤマサナエ					
111				ヤマサナエ						
-				キイロサナエ						
112				Asiagomphus属						
113				クロサナエ						
-				ダビドサナエ						
114				Davidius属						
115				ボンサナエ						
116				アオサナエ						
117				オナガサナエ						
118				コオニヤンマ						
-				オジロサナエ						
119				サナエトンボ科						
120				オニヤンマ科	オニヤンマ					
121				エソトンボ科	オオヤマトンボ					
-				コヤマトンボ						
122				エソトンボ科						
123				トンボ科	ショウジョウトンボ					
124				シオカラトンボ						
125				オオシオカラトンボ						
126				コシアキトンボ						
-				マイコアカネ						
127				Sympetrum属						
128				クロカワゲラ科	クロカワゲラ科					
129				ミドリカワゲラ科	ミドリカワゲラ科					
130				ハラジロオナシカワゲラ科	ハラジロオナシカワゲラ科					
131				オナシカワゲラ科	Amphinemura属					
-				Nemoura属						
132				オナシカワゲラ科						
133				ヒロムネカワゲラ科	ノギカワゲラ					
134				カワゲラ科	Gibosia属					
135				Kamimuria属						
-				マエキフタツメカワゲラモドキ						
136				Kiitina属						
-				ヤマトフタツメカワゲラ						
137				Neoperla属						
138				ヤマトカワゲラ						
139				Oyamia属						
140				Paragnetina属						
-				Togoperla属						
-				カワゲラ科						

表 6.6-20 下流河川確認種リスト(底生動物 : 3/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	下流河川					
					H5	H7	H12	H17	H20	
141	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	アミメカワゲラ科	Isoperla属						
142				Ostrovus属						
143		Stavsolus属								
-		アミメカワゲラ科								
144		カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	アメンボ						
145				コセアカアメンボ						
146				ヒメアメンボ						
147				シマアメンボ						
-				アメンボ亜科						
-				アメンボ科						
148				ミズムシ科	Micronecta属					
149					コミズムシ					
-				Sigara属						
150				コオイムシ科	コオイムシ					
151	オオコオイムシ									
152	タイコウチ科	タイコウチ								
153	ミズカマキリ									
154	ナベブタムシ科	ナベブタムシ								
155	マツモムシ科	マツモムシ								
156	アミメカゲロウ目(脈翅目)	ヘビトンボ科	クロスジヘビトンボ							
-			Parachauliodes属							
157			ヘビトンボ							
158	ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ科								
159		ミズカゲロウ科								
160	トビケラ目(毛翅目)	ムネカクトビケラ科	Ecnomus属							
161			カウトビケラ科	DoIophiIodes属						
162	アミメカゲロウ目(脈翅目)	ミズカゲロウ科	Wormaldia属WA							
163			イウトビケラ科	Plectrocnemia属						
164	アミメカゲロウ目(脈翅目)	クダトビケラ科	Psychomyia属							
-			クダトビケラ科							
165		ヒゲナガカウトビケラ科	ヒゲナガカウトビケラ							
166			チャバネヒゲナガカウトビケラ							
167		キブネクダトビケラ科	キブネクダトビケラ							
168			ヤマトビケラ科	Agapetus属						
169		イノブスヤマトビケラ	Glossosoma属							
-			ヤマトビケラ科							
170		ツメナガナガレトビケラ科	ツメナガナガレトビケラ							
171			ヒメトビケラ科	Hydroptila属						
172	ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ								
173		クレメンズナガレトビケラ								
174		カワムラナガレトビケラ								
175		キノナガレトビケラ								
176		レゼイナガレトビケラ								
177		ムナグロナガレトビケラ								
178		シコツナガレトビケラ								
179		トランスクイラナガレトビケラ								
180		ヤマナカナガレトビケラ								
181		Rhyacophila sp. RA								
182	Rhyacophila sp. RK									
-	Rhyacophila属									
183	コエグリトビケラ科	Apatania属								
184	カクスイトビケラ科	ハナセマルツツトビケラ								
185		ウエノマルツツトビケラ								
-	Micrasema属									
186	アシエダトビケラ科	Anisocentropus属								
187	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ								
188	カクツツトビケラ科	コカクツツトビケラ								
-	Lepidostoma属									
189	ヒゲナガトビケラ科	Ceraclaea属								
190		Leptocerus属								
191		Mystacides属								
192		Oecetis属								
193		Setodes属								
194		Triaenodes属								
-		ヒゲナガトビケラ科								
195		エグリトビケラ科	トビロトビケラ							
196		マルバネトビケラ科	Phryganopsyche属							
197		ケトビケラ科	グマガトビケラ							
-	Gumaga属									
198	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ								
199		ナミコガタシマトビケラ								
-		Cheumatopsyche属								
200		Diplectrona属								
201		オオヤマシマトビケラ								
202		ギフシマトビケラ								
203		ウルマーシマトビケラ								
204		ナカハラシマトビケラ								
205		Hydropsyche属HB								
-		Hydropsyche属								
206	オオシマトビケラ									
207	エチゴシマトビケラ									
-	トビケラ目(毛翅目)									
208	チョウ目(鱗翅目)	ツトガ科	キオビミズメイガ							
209		メイガ科	メイガ科							
210	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ヒメウスバガガンボ							
-			Antocha属							
211			Dicranota属							
212			Eriocera属							
213			Hexatoma属EB							
214			Hexatoma属ED							
-	Hexatoma属									
215	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	Limnophila属							
216			Pililaria属							
217			Scleroprocta属							
218			Tipula属TA							

表 6.6-20 下流河川確認種リスト(底生動物 : 4/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	下流河川				
					H5	H7	H12	H17	H20
219	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tipula属TC					
-				Tipula属					
-				ガガンボ亜科					
-				ガガンボ科					
220			チョウバエ科	チョウバエ科					
221			ヌカカ科	ヌカカ科					
222			ユスリカ科	Ablabesmyia longistyla					
-				Ablabesmyia属					
223				Anatopynia属AA					
224				Brillia属BC					
-				Brillia属					
225				Calopsectra属CA					
-				Calopsectra属					
226				Cardiocladius属CF					
-				Cardiocladius属					
227				Chironomus bathophilus					
228				フチグロユスリカ					
229				Chironomus strenzkei					
230				セスユスリカ					
-				Chironomus属					
231				Cladotanytarsus属					
232				Concheloplia属					
233				Corynoneura属					
234				Cricotopus属CN					
235				Cryptochironomus属BC					
236				Cryptochironomus属DC					
-				Cryptochironomus属					
237				Demicryptochironomus属					
238				Diamasa属GA					
239				Diamasa属GC					
240				Diamasa属PB-3					
241				Dicrotendipes属					
242				Einfeldia属EA					
243				Einfeldia属EB					
-				Einfeldia属					
244				Eukiefferiella属ED					
245				Fissimentum属FA					
246				Glyptotendipes属					
247				Heterotrissociadius属EC					
-				Heterotrissociadius属					
248				Hydrobaenus属					
249				Limnophyes属					
250				Macropelopia属					
251				Micropsectra属					
252				Microtendipes属MA					
253				Microtendipes属MB					
-				Microtendipes属					
254				Neobriellia属					
255				Orthocladius属CA					
256				Orthocladius属CC					
-				Orthocladius属					
257				Pagastia属					
258				Pantaneura属FA					
259				Paracladopelma属					
260				Paratendipes属PB					
-				Paratendipes属					
261				Polypedilum属PA					
262				Polypedilum属PD					
263				Polypedilum属PE					
-				Polypedilum属					
264				Potthastia属					
265				Procladius属PA					
266				Procladius属PB					
-				Procladius属					
267				Psectrocladius属					
268				Rheocricotopus属RB					
269				Rheocricotopus属RE					
-				Rheocricotopus属					
270				Rheotanytarsus属					
271				Stempellinella属					
272				Stenochironomus属					
273				Stictochironomus属SA					
274				Stictochironomus属SC					
-				Stictochironomus属					
275				Tanytarsus属CI					
-				Tanytarsus属					
276				Thienemanniella属					
277				Tvetenia属					
-				モンユスリカ亜科					
-				エリユスリカ亜科					
-				ユスリカ亜科					
-				ユスリカ科					
278			カ科	Culex属					
279				ハマダラカ亜科					
280			ホソカ科	Dixa属					
-				ホソカ科					
281			ブコ科	Prosimulium属					
282				キアシツメドゲブコ					
-				Simulium属					
283			ナガレア科	ハマダラナガレア					
284				コモンナガレア					
285				クロモンナガレア					
-				ナガレア科					
286			ミズアブ科	ミズアブ科					
287			アシナガバエ科	アシナガバエ科					
288			オドリバエ科	オドリバエ科					
289			ミギワバエ科	ミギワバエ科					
-				ハエ目					

表 6.6-20 下流河川確認種リスト(底生動物 : 5/5)

No.	綱名	目名	科名	種名	下流河川				
					H5	H7	H12	H17	H20
290	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ					
291				マメゲンゴロウ					
292				クロゲンゴロウ					
293				シマゲンゴロウ					
294				コシマゲンゴロウ					
295				ケシゲンゴロウ					
296				モンキマメゲンゴロウ					
297				ヒメゲンゴロウ					
-				ヒメゲンゴロウ亜科					
-				ゲンゴロウ亜科					
-				ゲンゴロウ科					
298				ダルマガムシ科					
299				ガムシ科					
300				ガムシ					
301				ヒメガムシ					
-				ガムシ科					
302				マルハナノミ科					
303				Elodes属					
-			Hydrocyphon属						
-			マルハナノミ科						
304			ヒメドロムシ科						
305			ツヤナガアシドロムシ						
306			ツヤヒメドロムシ						
307			ゴトウミゾドロムシ						
308			イブシアシナガドロムシ						
309			Zaitzevia属						
310			ホソヒメツヤドロムシ						
-			マルヒメツヤドロムシ						
-			ヒメドロムシ亜科						
311			ヒメドロムシ科						
312			Cophaethetus属						
-			チビヒゲナガハナノミ						
313	ヒラタドロムシ科								
314	Ectopria属								
315	Eubrianax属								
-	チビマルヒゲナガハナノミ								
316	ヒラタドロムシ								
-	Mataeopsephus属								
-	マスダチビヒラタドロムシ								
317	Psephenoides属								
318	ナガハナノミ科								
319	ホタル科								
320	ゲンジボタル								
321	ヒメテンコケムシ科								
322	ヒメテンコケムシ								
323	ハネコケムシ科								
324	ハネコケムシ								
325	チャミドロコケムシ科								
326	チャミドロコケムシ								
13綱28目112科321種					10種	46種	68種	78種	103種
					155種				

- 注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「...属」「...科」「...亜科」「...目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。  
3.表中の数は個体数を示す。  
なお、個体数は定量採集及び定性採集で確認された個体数の合計を示している。なお、報告書中に「>100」と記載してあるものについては100として扱った。  
4.表中の「\*」は、群體性の種であることを示す。ただし、実数で記載されているものについては、実数を記載した。



表 6.6-21 下流河川確認種リスト(植物プランクトン : 1/3)

No.	綱名	科名	種名	下流河川			
			学名	H5	H11	H16	H18
1	藍藻	クロオコックス	<i>Aphanocapsa elachista</i>				
-			<i>Aphanocapsa</i> sp.				
2			<i>Aphanothece</i> sp.				
3			<i>Chroococcus</i> sp.				
4			<i>Dactylococcopsis fascicularis</i>				
5			<i>Merismopedia elegans</i>				
6			<i>Merismopedia tenuissima</i>				
7			<i>Microcystis aeruginosa</i>				
8		<i>Microcystis wesenbergii</i>					
9		ネンジュモ	<i>Anabaena flos-aquae</i>				
10			<i>Anabaena spiroides</i>				
-			<i>Anabaena</i> sp.				
11			<i>Aphanizomenon flos-aquae</i>				
12		ユレモ	<i>Raphidiopsis</i> sp.				
13			<i>Oscillatoria agardhii</i>				
14			<i>Oscillatoria tenuis</i>				
-			<i>Oscillatoria</i> sp.				
15	<i>Phormidium autumnale</i>						
16	<i>Phormidium retzii</i>						
17	<i>Phormidium tenue</i>						
-	<i>Phormidium</i> sp.						
18	紅藻	オオジュイネラ	<i>Audouinella chalybea</i>				
19	クリプト藻	クリプトモナス	<i>Cryptomonas ovata</i>				
-			<i>Cryptomonas</i> sp.				
20			<i>Rhodomonas</i> sp.				
21	渦鞭毛藻	ギムノディニウム	<i>Gymnodinium helveticum</i>				
22		グレノディニウム	<i>Glenodinium pulvisculus</i>				
-		<i>Glenodinium</i> sp.					
23		ケラティウム	<i>Ceratium hirundinella</i>				
24		ペリディニウム	<i>Peridinium bipes</i> f. <i>occultatum</i>				
25			<i>Peridinium elpatiewskyi</i>				
26			<i>Peridinium volzii</i>				
-	<i>Peridinium</i> sp.						
27	黄金色藻	ディノブリオン	<i>Dinobryon cylindricum</i>				
28			<i>Dinobryon divergens</i>				
29			<i>Dinobryon sertularia</i>				
30		シヌラ	<i>Mallomonas akrokomos</i>				
31			<i>Mallomonas fastigata</i>				
32			<i>Mallomonas tonsurata</i>				
33			<i>Synura uvella</i>				
34	珪藻	タラシオシラ	<i>Cyclotella asterocostata</i>				
35			<i>Cyclotella glomerata</i>				
36			<i>Cyclotella meneghiniana</i>				
37			<i>Cyclotella radiosa</i>				
38			<i>Cyclotella stelligera</i>				
-			<i>Cyclotella</i> sp.				
39			<i>Skeletonema subsalsum</i>				
40			<i>Stephanodiscus carconensis</i>				
41			メロシラ	<i>Aulacoseira distans</i>			
42		<i>Aulacoseira granulata</i>					
43		<i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i>					
44		<i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i>					
45		<i>Aulacoseira italica</i>					
46		<i>Melosira varians</i>					
47		リゾソレニア	<i>Rhizosolenia setigera</i>				
48		ピドルフィア	<i>Acanthoceros zachariasi</i>				
49		ディアトマ	<i>Asterionella formosa</i>				
50	<i>Diatoma vulgare</i>						
51	<i>Fragilaria capucina</i>						
52	<i>Fragilaria crotonensis</i>						
53	<i>Fragilaria tenera</i>						
-	<i>Fragilaria</i> sp.						
54	<i>Hannaea arcus</i>						
55	<i>Staurosira construens</i> var. <i>binodis</i>						

表 6.6-21 下流河川確認種リスト(植物プランクトン : 2/3)

No.	綱名	科名	種名	下流河川				
			学名	H5	H11	H16	H18	
56	珪藻	ディアトマ	<i>Synedra acus</i>					
57			<i>Synedra rumpens</i>					
58			<i>Synedra ulna</i>					
59			<i>Synedra ulna var. oxyrhynchus</i>					
60		アクナンテス	<i>Achnanthes brevipes</i>					
61			<i>Achnanthes japonica</i>					
62			<i>Achnanthes lanceolata</i>					
-			<i>Achnanthes sp.</i>					
63		-	<i>Cocconeis placentula</i>					
-			<i>Cocconeis sp.</i>					
64		ナビクラ	<i>Amphora ovalis</i>					
65			<i>Cymbella aspera</i>					
66			<i>Cymbella tumida</i>					
67			<i>Cymbella turgidula</i>					
-			<i>Cymbella sp.</i>					
68			<i>Encyonema minutum</i>					
69			<i>Gomphonema quadripunctatum</i>					
70			<i>Gomphonema acuminatum</i>					
71			<i>Gomphonema angustatum</i>					
72			<i>Gomphonema clevei</i>					
73			<i>Gomphonema helveticum</i>					
74			<i>Gomphonema parvulum</i>					
75			<i>Gomphonema tetrastigmatum</i>					
-			<i>Gomphonema sp.</i>					
76			<i>Navicula cinctaeformis</i>					
77			<i>Navicula cryptocephala</i>					
78			<i>Navicula exigua</i>					
79			<i>Navicula gregaria</i>					
80			<i>Navicula pupula</i>					
81			<i>Navicula radiosa</i>					
82			<i>Navicula viridula</i>					
-			<i>Navicula sp.</i>					
83			<i>Pinnularia sp.</i>					
84			<i>Stauroneis sp.</i>					
85			ニッチア	<i>Bacillaria paradoxa</i>				
86				<i>Nitzschia acicularis</i>				
87				<i>Nitzschia agnita</i>				
88				<i>Nitzschia amphibia</i>				
89		<i>Nitzschia clausii</i>						
90		<i>Nitzschia dissipata</i>						
91		<i>Nitzschia inconspicua</i>						
92		<i>Nitzschia linearis</i>						
93		<i>Nitzschia palea</i>						
94		<i>Nitzschia paleacea</i>						
95		<i>Nitzschia parvula</i>						
-		<i>Nitzschia sp.</i>						
96		スリレラ	<i>Surirella tenera</i>					
-			<i>Surirella sp.</i>					
97	ミドリムシ藻	ミドリムシ	<i>Euglena sp.</i>					
98			<i>Phacus sp.</i>					
99			<i>Trachelomonas sp.</i>					
100	緑藻	クラミドモナス	<i>Carteria cordiformis</i>					
101			<i>Carteria globulosa</i>					
102			<i>Carteria klebsii</i>					
103			<i>Carteria peterhofiensis</i>					
-			<i>Carteria sp.</i>					
104			<i>Chlamydomonas sp.</i>					
105		<i>Chlorogonium elongatum</i>						
106		オオヒゲマワリ	<i>Eudorina elegans</i>					
107	<i>Pandorina morum</i>							
108	<i>Volvox aureus</i>							

表 6.6-21 下流河川確認種リスト(植物プランクトン : 3/3)

No.	綱名	科名	種名	下流河川				
			学名	H5	H11	H16	H18	
109	緑藻	ヨツメモ	<i>Tetraspora lacustris</i>					
110		パルメロプシス	<i>Chlamydocapsa gigas</i>					
111		キャラクキウム	<i>Ankyra ancora</i>					
112		クロロコックム	<i>Schroederia ancora</i>					
113			<i>Schroederia setigera</i>					
114			<i>Tetraedron minimum</i>					
115		パルメラ	<i>Sphaerocystis schroeteri</i>					
116		オオキスティス	<i>Ankistrodesmus falcatus</i>					
117			<i>Chodatella</i> sp.					
118			<i>Closteriopsis longissima</i>					
119			<i>Kirchneriella contorta</i>					
120			<i>Oocystis borgei</i>					
121			<i>Oocystis parva</i>					
-			<i>Oocystis</i> sp.					
122		ゴレンキニア	<i>Golenkinia radiata</i>					
123		ミクラクティニウム	<i>Micractinium pusillum</i>					
124		セネデスムス	<i>Actinastrum hantzschii</i>					
125			<i>Coelastrum cambricum</i>					
126			<i>Coelastrum microporum</i>					
127			<i>Coelastrum sphaericum</i>					
128			<i>Crucigenia curcifera</i>					
129			<i>Crucigenia tetrapedia</i>					
130			<i>Crucigeniella rectangularis</i>					
131			<i>Scenedesmus acuminatus</i>					
132			<i>Scenedesmus arcuatus</i>					
133			<i>Scenedesmus ecornis</i>					
134			<i>Scenedesmus quadricauda</i>					
-			<i>Scenedesmus</i> sp.					
135			アミミドロ	<i>Pediastrum biwae</i>				
136				<i>Pediastrum duplex</i>				
137		<i>Pediastrum simplex</i>						
138		<i>Pediastrum tetras</i>						
139		コッコミクサ	<i>Elakatothrix gelatinosa</i>					
140		ヒビミドロ	<i>Klebsormidium</i> sp.					
141			<i>Koliella elongata</i>					
142		ミクロスポラ	<i>Microspora</i> sp.					
143		カエトフォラ	<i>Cloniophora plumosa</i>					
144			<i>Stigeoclonium</i> sp.					
145		サヤミドロ	<i>Oedogonium</i> sp.					
146		ツヅミモ	<i>Arthrodesmus</i> sp.					
147			<i>Closterium aciculare</i>					
148			<i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>					
149			<i>Closterium acutum</i> var. <i>variabile</i>					
-			<i>Closterium</i> sp.					
150			<i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>					
151			<i>Staurastrum mucronatum</i>					
152		<i>Staurastrum mucronatum</i> var. <i>subtriangulare</i>						
-		<i>Staurastrum</i> sp.						
7門8綱16目39科152種				30種	43種	22種	35種	
				72種				

注) 1.種名及び分類は、「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-22 下流河川確認種リスト(動物プランクトン : 1/2)

No.	門名	綱名	科名	種名	下流河川					
				学名	H5	H11	H16	H18		
1	肉質鞭毛虫	葉状根足虫	アルケラ	<i>Arcella vulgaris</i>						
2			ディフルギア	<i>Diffugia corona</i>						
3				<i>Diffugia limnetica</i>						
4			ケントロピキシス	<i>Centropyxis aculeata</i>						
5		糸状根足虫	キフォテリア	<i>Cyphoderia sp.</i>						
6			エウグリファ	<i>Euglypha sp.</i>						
7		真正太陽虫	-	<i>Acanthocystis pectinata</i>						
8			-	<i>Acanthocystis sp.</i>						
9	繊毛虫	キネトフラグミノフォーラ	ホロフリア	<i>Askenasia volvox</i>						
10				<i>Didinium nasutum</i>						
11			トラケリウス	<i>Paradileptus robustus</i>						
-				<i>Paradileptus sp.</i>						
12			アンフィレプス		<i>Amphileptus claparedeii</i>					
13					<i>Dileptus anser</i>					
-					<i>Dileptus sp.</i>					
14					<i>Lionotus lamella</i>					
15			少膜	パラメキウム		<i>Colpidium sp.</i>				
16						<i>Glaucoma scintillans</i>				
17						<i>Leucophrydium putrinum</i>				
18						<i>Paramecium sp.</i>				
19		エビスティリス		<i>Epistylis plicatilis</i>						
-				<i>Epistylis sp.</i>						
20		ボルティケラ			<i>Carchesium polypinum</i>					
-					<i>Carchesium sp.</i>					
21					<i>Vorticella campanula</i>					
-					<i>Vorticella sp.</i>					
22		多膜	ストロンビディウム		<i>Strombidinopsis gyrans</i>					
23					<i>Strombidium viride</i>					
24			フデツツカラムシ		<i>Tintinnidium cylindrata</i>					
25					<i>Tintinnidium fluviatile</i>					
-					<i>Tintinnidium sp.</i>					
26				スナカラムシ	<i>Codonella cratera</i>					
-		-	-	CILIOPHORA						
27		輪形動物	単生殖巣	ツボワムシ	<i>Brachionus angularis angularis</i>					
28					<i>Brachionus angularis bidens</i>					
29					<i>Brachionus calyciflorus</i>					
30					<i>Brachionus forficula</i>					
31					<i>Kellicottia longispina longispina</i>					
32					<i>Keratella cochlearis f. cochlearis</i>					
33					<i>Keratella cochlearis f. macracantha</i>					
34					<i>Keratella cochlearis f. micracantha</i>					
35					<i>Keratella cochlearis f. tecta</i>					
36					<i>Keratella quadrata quadrata</i>					
37					<i>Keratella valga valga</i>					
38					<i>Notholca labis</i>					
-					<i>Notholca sp.</i>					
39					<i>Schizocerca diversicornis</i>					
40	ハオリワムシ					<i>Colurella obtusa</i>				
41						<i>Colurella uncinata</i>				
-						<i>Colurella sp.</i>				
42						<i>Dipleuchlanis propatula</i>				
43						<i>Euchlanis dilatata</i>				
44					<i>Lepadella oblonga</i>					
-					<i>Lepadella sp.</i>					
45	ツキガタワムシ				<i>Trichotria tetractis</i>					
46					<i>Lecane ludwigii</i>					
47					<i>Lecane luna</i>					
48					<i>Monostyla bulla</i>					
49					<i>Monostyla lunaris</i>					
-				<i>Monostyla sp.</i>						
50	セナカワムシ				<i>Cephalodella sp.</i>					
51					<i>Notommata sp.</i>					
52					<i>Scaridium longicaudum</i>					
53	ネズミワムシ				<i>Diurella rousseleti</i>					
54					<i>Diurella porcellus</i>					
55					<i>Diurella stylata</i>					
56			<i>Trichocerca birostris</i>							
57			<i>Trichocerca capucina</i>							
58			<i>Trichocerca cylindrica</i>							
59			<i>Trichocerca elongata</i>							
-		<i>Trichocerca sp.</i>								

表 6.6-22 下流河川確認種リスト(動物プランクトン : 2/2)

No.	門名	綱名	科名	種名	下流河川							
				学名	H5	H11	H16	H18				
60	輪形動物	単生殖巣	ハラアシワムシ	<i>Chromogaster ovalis</i>								
61			ヒゲワムシ	<i>Ploesoma truncatum</i>								
62				<i>Polyarthra eurypetra</i>								
63				<i>Polyarthra trigla vulgaris</i>								
64				<i>Synchaeta stylata</i>								
-					<i>Synchaeta sp.</i>							
65				フクロワムシ	<i>Asplanchna priodonta</i>							
-					<i>Asplanchna sp.</i>							
66				ミジンコワムシ	<i>Hexarthra mira</i>							
67				ヒラタワムシ	<i>Filinia longiseta longiseta</i>							
68					<i>Pompholyx complanata</i>							
69					<i>Pompholyx sulcata</i>							
70					<i>Testudinella patina</i>							
71					<i>Tetramastix opoliensis</i>							
72				テマリワムシ	<i>Conochiloides coenobass</i>							
-					<i>Conochiloides sp.</i>							
73					<i>Conochilus unicornis</i>							
-					<i>Conochilus sp.</i>							
74				ヒルガタワムシ	ミズヒルガタワムシ	<i>Philodina roseola</i>						
75						<i>Rotaria rotatoria</i>						
-						<i>Rotaria sp.</i>						
76					ドロヒルガタワムシ	<i>Habrotrocha sp.</i>						
77			節足動物	顎脚	ヒゲナガケンミジンコ	<i>Eodiaptomus japonicus</i>						
-							<i>Calanoida</i>					
78						カントカンブラス	<i>Canthocamptus sp.</i>					
79						キクロプス	<i>Cyclops kikuchii</i>					
80							<i>Cyclops strenuus</i>					
81							<i>Mesocyclops leuckarti</i>					
82							<i>Thermocyclops hyalinus</i>					
-								<i>Cyclopoida</i>				
-								<i>Copepoda</i>				
83						葉脚	シダ	<i>Diaphanosoma brachyurum</i>				
84							ミジンコ	<i>Ceriodaphnia pulchella</i>				
85								<i>Ceriodaphnia quadrangula</i>				
86							<i>Ceriodaphnia reticulata</i>					
87							<i>Daphnia galeata</i>					
88							<i>Daphnia hyalina</i>					
89							<i>Daphnia longispina</i>					
90					<i>Daphnia pulex</i>							
-							<i>Daphnia sp.</i>					
91					<i>Moina macrocopa</i>							
-							<i>Daphniidae</i>					
92					ゾウミジンコ		<i>Bosmina fatalis</i>					
93							<i>Bosmina longirostris</i>					
-							<i>Bosmina sp.</i>					
94							<i>Bosminopsis deitersi</i>					
95					マルミジンコ		<i>Alona guttata</i>					
-							<i>Alona sp.</i>					
96							<i>Chydorus gibbus</i>					
97							<i>Chydorus ovalis</i>					
98							<i>Chydorus sphaericus</i>					
99					ノコ	<i>Leptodora kindtii</i>						
100		線形動物	-	-	NEMATODA							
5門11綱16目37科100種					7種	35種	33種	21種				
					55種							

注) 1.種名及び分類は、「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」、「…科」、「…目」、「…亜綱」、「…門」、とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 1/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川 H16
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ	
2			トウゲシバ	
3		イワヒバ科	ヒメクラマゴケ	
4			カタヒバ	
5			クラマゴケ	
6			イワヒバ	
7		トクサ科	スギナ	
8			トクサ	
9			イヌトクサ	
10		ハナヤスリ科	オオハナワラビ	
11			フユノハナワラビ	
12			ナツノハナワラビ	
13		ゼンマイ科	ゼンマイ	
14		キジノオシダ科	オオキジノオ	
15			キジノオシダ	
16		ウラジロ科	コシダ	
17			ウラジロ	
18		フサシダ科	カニクサ	
19		コケシノブ科	アオホラゴケ	
20			ウチワゴケ	
21			コウヤコケシノブ	
22			ハイホラゴケ	
23			コバノイシカグマ科	イヌシダ
24		コバノイシカグマ		
25		イワヒメワラビ		
26		フモトシダ		
27			ワラビ	
28		ホングウシダ科	ホラシノブ	
29		シノブ科	シノブ	
30		ミズワラビ科	ホウライシダ	
31			ハコネシダ	
32			クジャクシダ	
33			イワガネゼンマイ	
34			ウラゲイワガネ	
35			イワガネソウ	
36			タチシノブ	
37		シシラン科	シシラン	
38		イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	
39			イノモトソウ	
40		チャセンシダ科	ホウビシダ	
41			トラノオシダ	
42			コバノヒノキシダ	
43			イワトラノオ	
44			チャセンシダ	
45			イヌチャセンシダ	
46		アオガネシダ		
47		シシガシラ科	シシガシラ	
48			コモチシダ	
49		オシダ科	ホソバカナワラビ	
50			ナンゴクナライシダ	
51			ミドリカナワラビ	
52			ハカタシダ	
53			オニカナワラビ	
54			リョウメンシダ	
55			キヨスミヒメワラビ	
56			メヤブソテツ	
57			ヤブソテツ	
58			ヤマヤブソテツ	
59			ミヤコヤブソテツ	
60			イワヘゴ	
61			サイゴクベニシダ	
62			ミサキカグマ	
63			ベニシダ	
64			マルバベニシダ	
65			オオベニシダ	
66			クマワラビ	
67			ミヤマイトチシダ	
68			オクマワラビ	
69			ナンカイイトチシダ	
70			オオイタチシダ	
71			ヒメイトチシダ	
72			ヤマイトチシダ	

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 2/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川	
				H16	
73	シダ植物	オシダ科	アイノコクマワラビ		
74			アイアスカイノデ		
75			カタイノデ		
76			ツヤナシイノデ		
77			イノデ		
78			サイゴクイノデ		
79			イノデモドキ		
80			ジュウモンジシダ		
81			ヒメカナワラビ		
82			ヒメシダ科	ゲジゲジシダ	
83				ミゾシダ	
84				ホシダ	
85				イブキシダ	
86				ハシゴシダ	
87				コハシゴシダ	
88				ハリガネワラビ	
89				イワハリガネワラビ	
90				ヤワラシダ	
91	ヒメシダ				
92	ヒメワラビ				
93	ミドリヒメワラビ				
94	メシダ科	カラクサイヌワラビ			
95		サトメシダ			
96		ホソバイヌワラビ			
97		ヌリワラビ			
98		イヌワラビ			
99		ヤマイヌワラビ			
100		ヒロハイヌワラビ			
101		シケチシダ			
102		ホソバシケシダ			
103		セイトカシケシダ			
104		シケシダ			
105		オオヒメワラビ			
106		ミヤマシケシダ			
107		ハクモウイノデ			
108		オニヒカゲワラビ			
109		キヨタキシダ			
110		ノコギリシダ			
111		イヌガンソク			
112	クサソテツ				
113	コウヤワラビ				
114	ウラボシ科	ミツデウラボシ			
115		マメツタ			
116		ノキシノブ			
117		イワヤナギシダ			
118		ヒトツバ			
119	裸子植物	マツ科	モミ		
120			アカマツ		
121		スギ科	スギ		
122		ヒノキ科	ヒノキ		
123			サワラ		
124			カイツカイブキ		
125			ネズ		
126		イヌガヤ科	イヌガヤ		
127		イチイ科	カヤ		
128	離弁花類	クルミ科	オニグルミ		
129		ヤナギ科	ヤマナラシ		
130			サイコクキツネヤナギ		
131			バツコヤナギ		
132			アカメヤナギ		
133			ジャヤナギ		
134			カワヤナギ		
135			ネコヤナギ		
136			イヌコリヤナギ		
137			タチヤナギ		
138			マルバヤナギ		
139			カバノキ科	ケヤマハンノキ	
140		ヤマハンノキ			
141		ヒメヤシャブシ			
142		カワラハンノキ			
143		オオバヤシャブシ			
144		クマシデ			

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 3/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川	
145	離弁花類	カバノキ科	アカシデ	H16	
146			イヌシデ		
147		ブナ科	クリ		
148			クヌギ		
149			ナラガシワ		
150			アラカシ		
151			シラカシ		
152			ウラジロガシ		
153			コナラ		
154			アヘマキ		
155			ニレ科		コバノチョウセンエノキ
156					エゾエノキ
157		エノキ			
158		アキニレ			
159		クワ科	ケヤキ		
160			ヒメコウゾ		
161			コウゾ		
162			クワクサ		
163			イヌビワ		
164			イタビカズラ		
165			カナムグラ		
166			ヤマグワ		
167		イラクサ科	クサコアカソ		
168			ヤブマオ		
169			カラムシ		
170			ナンバンカラムシ		
171			メヤブマオ		
172			ナガバヤブマオ		
173			コアカソ		
174			アカソ		
175			ヤマトキホコリ		
176			ウワバミソウ		
177			ムカゴイラクサ		
178			カテンソウ		
179			サンショウソウ		
180			ミス		
181			ヤマミス		
182			ミヤコミズ		
183			アオミス		
184			ビャクダン科		カナヒキソウ
185		タデ科	ミスヒキ		
186			シンミスヒキ		
187			シャクチリソバ		
188			ミヤマタニソバ		
189			ヤナギタデ		
190			オオイヌタデ		
191			イヌタデ		
192			ヤノネグサ		
193			イシミカワ		
194			ハナタデ		
195			ボントクタデ		
196			サナエタデ		
197			アキノウナギツカミ		
198		ミゾソバ			
199		ヤマミゾソバ			
200		ハルタデ			
201		イタドリ			
202		スイバ			
203		ヒメスイバ			
204		アレチギシギシ			
205		ナガバギシギシ			
206		ギシギシ			
207		エゾノギシギシ			
208		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ		
209		マルミノヤマゴボウ			
210		ザクロソウ科	ザクロソウ		
211		クルマバザクロソウ			
212		スベリヒユ科	スベリヒユ		
213		ナデシコ科	ノミノツツリ		
214			オランダミミナグサ		
215			ミミナグサ		
216			ナンバンハコベ		



表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 4/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川 H16	
217	離弁花類	ナデシコ科	カワラナデシコ		
218			フシグロセンノウ		
219			ツメクサ		
220			ノミノフスマ		
221			ウシハコベ		
222			サウハコベ		
223			コハコベ		
224			ミドリハコベ		
225			ミヤマハコベ		
226			アカザ科	シロザ	
227				アカザ	
228				アリタソウ	
229				ケアリタソウ	
230		ヒコ科	ヒカゲイノコズチ		
231			ヒナタイノコズチ		
232			ホソバツルノゲイトウ		
233			イヌビユ		
234			ホソアオゲイトウ		
235			ホナガアオゲイトウ		
236			モクレン科	ホオノキ	
237		タムシバ			
238		マツブサ科	サネカズラ		
239			マツブサ		
240	シキミ科	シキミ			
241	クスノキ科	カゴノキ			
242		クスノキ			
243		ヤブニツケイ			
244		カナクギノキ			
245		ヤマコウバシ			
246		ダンコウバイ			
247		クロモジ			
248		ヒメクロモジ			
249		ホソバタブ			
250		シロダモ			
251		アブラチャン			
252	フサザクラ科	フサザクラ			
253	キンボウゲ科	イヌショウマ			
254		ボタンツル			
255		ハンショウツル			
256		センニンソウ			
257		シロバナハンショウツル			
258		トウゴクサバノオ			
259		ウマノアシガタ			
260		タガラシ			
261		キツネノボタン			
262		アキカラマツ			
263	メギ科	ヒイラギナンテン			
264		ナンテン			
265	アケビ科	アケビ			
266		ミツバアケビ			
267		ムベ			
268	ツヅラフジ科	アオツヅラフジ			
269		ツヅラフジ			
270	ドクダミ科	ドクダミ			
271	センリョウ科	フタリシズカ			
272	ウマノスズクサ科	ホソバウマノスズクサ			
273		ミヤコアオイ			
274	マタタビ科	サルナシ			
275		シナサルナシ			
276		ウラジロマタタビ			
277		マタタビ			
278	ツバキ科	ヤブツバキ			
279		サカキ			
280		ヒサカキ			
281		チャノキ			
282	オトギリソウ科	オトギリソウ			
283		コケオトギリ			
284	モウセンゴケ科	モウセンゴケ			
285	ケシ科	クサノオウ			
286		キケマン			
287		ムラサキケマン			
288		ミヤマキケマン			
289		タケニグサ			

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 5/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川
290	離弁花類	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ	H16
291		アブラナ科	ヤマハタザオ	
292			セイヨウカラシナ	
293			ナズナ	
294			ニシノオオタネツケバナ	
295			タネツケバナ	
296			タチタネツケバナ	
297			ジャンジン	
298			オオバタネツケバナ	
299			オランダガラシ	
300			コイヌガラシ	
301			ミチバタガラシ	
302			イヌガラシ	
303			スカシタゴボウ	
304		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	
305			メノマンネングサ	
306			オノマンネングサ	
307			マルバマンネングサ	
308			ツルマンネングサ	
309			ヒメレンゲ	
310		ユキノシタ科	チダケサシ	
311			アカシヨウマ	
312			クサアジサイ	
313			イワボタン	
314			タチネコノメソウ	
315			ウツギ	
316			マルバウツギ	
317			コアジサイ	
318			コガクウツギ	
319			ヤマアジサイ	
320	ノリウツギ			
321	ゴトウツル			
322	ガクウツギ			
323	ヤハズアジサイ			
324	チャルメルソウ			
325	コチャルメルソウ			
326	タコノアシ			
327	ジンジソウ			
328	ダイヤモンドソウ			
329	ユキノシタ			
330	イワガラミ			
331	バラ科	キンミズヒキ		
332		ヒメキンミズヒキ		
333		ザイフリボク		
334		ヘビイチゴ		
335		ヤブヘビイチゴ		
336		ダイコンソウ		
337		カナメモチ		
338		ミツバツチグリ		
339		オヘビイチゴ		
340		カマツカ		
341		イヌザクラ		
342		ウワミスザクラ		
343		ヤマザクラ		
344		エドヒガン		
345		カスミザクラ		
346		ノイバラ		
347		ニオイバラ		
348		ミヤコイバラ		
349		ヤマイバラ		
350		テリハノイバラ		
351		フユイチゴ		
352		クマイチゴ		
353		ミヤマフユイチゴ		
354		クサイチゴ		
355		ニガイチゴ		
356		ナガバモミジイチゴ		
357		ナワシロイチゴ		
358		エビガライチゴ		
359		ワレモコウ		
360		ウラジロノキ		
361		ユキヤナギ		

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 6/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川	
				H16	
362	離弁花類	マメ科	クサネム		
363			ネムノキ		
364			イタチハギ		
365			ヤブマメ		
366			ホドイモ		
367			ゲンゲ		
368			ジャケツイバラ		
369			ユクノキ		
370			ヒメノハギ		
371			フジカンゾウ		
372			アレチヌスビトハギ		
373			ケヤブハギ		
374			ヌスビトハギ		
375			ヤブハギ		
376			アメリカヌスビトハギ		
377			ノササゲ		
378			ノアズキ		
379			ツルマメ		
380			コマツナギ		
381			マルバヤハズソウ		
382			ヤハズソウ		
383			イタチササゲ		
384			ヤマハギ		
385			キハギ		
386			メドハギ		
387			マルバハギ		
388			ネコハギ		
389			ビッチュウヤマハギ		
390			ミヤコグサ		
391			イヌエンジュ		
392			ハネミイヌエンジュ		
393			コメツブウマゴヤシ		
394			クズ		
395			オオバタンキリマメ		
396			ハリエンジュ		
397			クララ		
398			コメツブツメクサ		
399			ムラサキツメクサ		
400			シロツメクサ		
401			ヤハズエンドウ		
402			スズメノエンドウ		
403			カスマグサ		
404			ヤマフジ		
405				フジ	
406				カタバミ	
407		アカカタバミ			
408		ムラサキカタバミ			
409		エゾタチカタバミ			
410		ミヤマカタバミ			
411	カタバミ科	オッタチカタバミ			
412	フウロソウ科	ヒメフウロ			
413		ゲンノショウコ			
414	トウダイグサ科	エノキグサ			
415		オオニシキソウ			
416		コニシキソウ			
417		アカメガシワ			
418		ヤマアイ			
419		コバンノキ			
420		ヒメミカンソウ			
421		シラキ			
422		ナンキンハゼ			
423	ミカン科	マツカゼソウ			
424		コクサギ			
425		キハダ			
426		ミヤマシキミ			
427		カラスザンショウ			
428		フユザンショウ			
429		サンショウ			
430		イヌザンショウ			
431	ニガキ科	シンジュ			
432		ニガキ			
433		ヒメハギ科	ヒメハギ		

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 7/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川 H16	
434	離弁花類	ウルシ科	ツタウルシ		
435			ヌルデ		
436			ハゼノキ		
437			ヤマハゼ		
438			ヤマウルシ		
439		ウルシ			
440		カエデ科	チドリノキ		
441			ウリカエデ		
442			ウラゲエンコウカエデ		
443			エンコウカエデ		
444			イロハモミジ		
445			オオモミジ		
446			コハウチワカエデ		
447		ムクロジ科	ムクロジ		
448		ツリフネソウ科	キツリフネ		
449			ツリフネソウ		
450		モチノキ科	イヌツゲ		
451			モチノキ		
452			アオハダ		
453			ケナシアオハダ		
454			タマミズキ		
455			ソヨゴ		
456			ウメモドキ		
457			クロソヨゴ		
458			ニシキギ科	ツルウメモドキ	
459				ニシキギ	
460		コマユミ			
461		ツルマサキ			
462		サワダツ			
463		ツリバナ			
464		マユミ			
465		ミツバウツギ科	ゴンズイ		
466			ミツバウツギ		
467		クロウメモドキ科	クマヤナギ		
468			イソノキ		
469			ケンボナシ		
470			ケケンボナシ		
471		ブドウ科	ノブドウ		
472			キレバノブドウ		
473			ヤブガラシ		
474			ツタ		
475			ヤマブドウ		
476			エビヅル		
477	サンカクヅル				
478	アマヅル				
479	シナノキ科	カラスノゴマ			
480		ヘラノキ			
481	ジンチョウゲ科	コショウノキ			
482		ガンビ			
483		キガンビ			
484	グミ科	ツルグミ			
485		ナツグミ			
486		ナワシログミ			
487		アキグミ			
488	スマレ科	ナガバノスマレサイシン			
489		アメリカスマレサイシン			
490		タチツボスマレ			
491		アオイスミレ			
492		コスミレ			
493	スマレ科	スマレ			
494		コミヤマスマレ			
495		フモトスマレ			
496		アケボノスマレ			
497		ツボスマレ			
498		アギスマレ			
499		シハイスミレ			
500	キブシ科	キブシ			
501	ミソハコベ科	ミソハコベ			

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 8/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川	
502	離弁花類	ウリ科	ゴキツル	H16	
503			アマチャヅル		
504			スズメウリ		
505			アレチウリ		
506			カラスウリ		
507			キカラスウリ		
508			モミジカラスウリ		
509		ミソハギ科	キサシグサ		
510		アカバナ科	ミズマツバ		
511			ウシタキソウ		
512			ミズタマソウ		
513			アカバナ		
514			チョウジタデ		
515			メマツヨイグサ		
516			オオマツヨイグサ		
517		マツヨイグサ			
518		アリノトウグサ科	アリノトウグサ		
519		ホザキノフサモ			
520		ウリノキ科	ウリノキ		
521		ミズキ科	アオキ		
522			ミズキ		
523			クマノミズキ		
524			ハナイカダ		
525		ウコギ科	コシアブラ		
526			ヤマウコギ		
527			ウド		
528			タラノキ		
529			メダラ		
530			タカノツメ		
531			キツタ		
532			トチバニンジン		
533			セリ科		ノダケ
534					シラネセンキュウ
535		シシウド			
536		ミツバ			
537		ウシミツバ			
538		ハナウド			
539		オオバチドメ			
540		ノチドメ			
541		オオチドメ			
542		チドメグサ			
543		ヒメチドメ			
544		セリ			
545		ヤブニンジン			
546		ウマノミツバ			
547		カノツメソウ			
548		ヤブジラミ			
549		オヤブジラミ			
550		合弁花類	リョウブ科		リョウブ
551			イチヤクソウ科		ギンリョウソウ
552	イチヤクソウ				
553	ツツジ科		ネジキ		
554			アセビ		
555			ミツバツツジ		
556			レンゲツツジ		
557			モチツツジ		
558			ヤマツツジ		
559			コバノミツバツツジ		
560			シャシャンボ		
561			ウスノキ		
562			アクシバ		
563			ケアクシバ		
564			ナツハゼ		

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 9/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川
565	合弁花類	ツツジ科	スノキ	H16
566		ヤブコウジ科	マンリョウ	
567			ヤブコウジ	
568		サクラソウ科	ミヤマタゴボウ	
569			オカトラノオ	
570			ヌマトラノオ	
571			コナスビ	
572		カキノキ科	カキノキ	
573			マメガキ	
574		エゴノキ科	オオバアサガラ	
575			エゴノキ	
576		ハイノキ科	サウフタギ	
577			タンナサウフタギ	
578		モクセイ科	マルバアオダモ	
579			ネズミモチ	
580			イボタノキ	
581			ヒイラギ	
582		リンドウ科	リンドウ	
583			アケボノソウ	
584			センブリ	
585			ツルリンドウ	
586		キョウチクトウ科	テイカカズラ	
587			ツルニチニチソウ	
588		ガガイモ科	イケマ	
589			キジョラン	
590			ガガイモ	
591			オオカモメヅル	
592		アカネ科	ククルマソウ	
593			メリケンムグラ	
594			ヒメヨツバムグラ	
595			キクムグラ	
596			ヤマムグラ	
597			オオバナヤエムグラ	
598			ヤエムグラ	
599			ヨツバムグラ	
600			フタバムグラ	
601			ハシカグサ	
602			ツルアリドオシ	
603			ヘクソカズラ	
604			アカネ	
605		ヒルガオ科	ヒルガオ	
606			ネナシカズラ	
607			アメリカネナシカズラ	
608			マメアサガオ	
609			アサガオ	
610		ムラサキ科	サワリソウ	
611			ハナイバナ	
612			オニルリソウ	
613			ヤマルリソウ	
614			コンフリー	
615			ミスタバコ	
616			キュウリグサ	
617		クマツヅラ科	ムラサキシキブ	
618			ヤブムラサキ	
619			カリガネソウ	
620			クサギ	
621			ヤナギハナガサ	
622		シソ科	カワミドリ	
623			キランソウ	
624			ククルマバナ	
625			トウバナ	
626			イヌトウバナ	
627			ヤマトウバナ	
628		ナギナタコウジュ		
629		フトボナギナタコウジュ		
630		ミズトラノオ		
631		カキドオシ		
632		マネキグサ		
633		オドリコソウ		
634		ヒメオドリコソウ		
635		メハジキ		
636		ミカエリソウ		

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 10/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川	
				H16	
637	合弁花類	シソ科	ヒメシロネ		
638			ラショウモンカズラ		
639			ハッカ		
640			ヒメジソ		
641			イヌコウジュ		
642			エゴマ		
643			シソ		
644			レモンエゴマ		
645			アオジソ		
646			ウツボグサ		
647			ヤマハッカ		
648			ヒキオコシ		
649			アキチヨウジ		
650			アキノタムラソウ		
651			キバナアキギリ		
652			オカタツナミソウ		
653			タツナミソウ		
654			コバナタツナミソウ		
655			イヌゴマ		
656			ニガクサ		
657			ツルニガクサ		
658			ナス科	クコ	
659				ホオズキ	
660				アメリカイヌホオズキ	
661				ヒヨドリジョウゴ	
662				マルバノホロシ	
663				イヌホオズキ	
664				テリミノイヌホオズキ	
665				ハダカホオズキ	
666			フジウツギ科	フサフジウツギ	
667				フジウツギ	
668			ゴマノハグサ科	ツタバウンラン	
669				サウトウガラシ	
670				マツバウンラン	
671				スズメノトウガラシ	
672	ウリクサ				
673	タケトアゼナ				
674	アメリカアゼナ				
675	アゼトウガラシ				
676	アゼナ				
677	ムラサキサギゴケ				
678	サギゴケ				
679	トキワハゼ				
680	ママコナ				
681	ミソホオズキ				
682	コシオガマ				
683	オオヒナノウスツボ				
684	オオヒキヨモギ				
685	オオカワヂシャ				
686	タチイヌノフグリ				
687	ムシクサ				
688	オオイヌノフグリ				
689	ノウゼンカズラ科	キリ			
690	キツネノマゴ科	キツネノマゴ			
691		ハグロソウ			
692		スズムシバナ			
693	イワタバコ科	イワタバコ			
694		ハエドクソウ科	ハエドクソウ		
695		ナガバハエドクソウ			
696	オオバコ科	オオバコ			
697	スイカズラ科	コツクバネウツギ			
698		ツクバネウツギ			
699		ヤマウグイスカグラ			
700		ウグイスカグラ			
701		スイカズラ			
702		ニワトコ			
703		ガマズミ			
704		コバナガマズミ			
705		オオカメノキ			
706		ヤブデマリ			
707		ミヤマガマズミ			
708		ヤブウツギ			
709		タニウツギ			

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 11/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川
				H16
710	合弁花類	オミナエシ科	オミナエシ	
711			オトコエシ	
712			ノヂシャ	
713	キキョウ科		ツリガネニンジン	
714			ホタルブクロ	
715			ツルニンジン	
716			バアソブ	
717			ミゾカクシ	
718			タニギキョウ	
719			キク科	
720	ヌマダイコン			
721	キッコウハグマ			
722	ブタクサ			
723	オオブタクサ			
724	ヨモギ			
725	イナカギク			
726	シロヨメナ			
727	ノコンギク			
728	オオホウキギク			
729	シラヤマギク			
730	ヒロハホウキギク			
731	ホウキギク			
732	オケラ			
733	アメリカセンダングサ			
734	タウコギ			
735	モミジガサ			
736	ヤブタバコ			
737	ガンクビソウ			
738	サジガンクビソウ			
739	ヒメガンクビソウ			
740	トキンソウ			
741	ヒメアザミ			
742	ノアザミ			
743	ヨシノアザミ			
744	ノハラアザミ			
745	アレチノギク			
746	オオアレチノギク			
747	ベニバナボロギク			
748	リュウノウギク			
749	アメリカタカサブロウ			
750	タカサブロウ			
751	ダンドボロギク			
752	ヒメムカシヨモギ			
753	ケナシヒメムカシヨモギ			
754	ヒヨドリバナ			
755	サワヒヨドリ			
756	ヤマヒヨドリ			
757	サケバヒヨドリ			
758	ハキダメギク			
759	ハハコグサ			
760	チチコグサ			
761	チチコグサモドキ			
762	ウスベニチチコグサ			
763	ククイモ			
764	キツネアザミ			
765	オオヂシバリ			
766	ニガナ			
767	ハナニガナ			
768	イワニガナ			
769	オオユウガギク			
770	ユウガギク			
771	ヨメナ			
772	アキノノゲシ			
773	ホソバアキノノゲシ			
774	ヤマニガナ			
775	ムラサキニガナ			
776	コオニタビラコ			
777	ヤブタビラコ			
778	センボンヤリ			
779	カシワバハグマ			
780			コウヤボウキ	



表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 12/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川
781	合弁花類	キク科	フキ	H16
782			コウゾリナ	
783			シュウブンソウ	
784			オオハンゴンソウ	
785			サワギク	
786			ノボロギク	
787			コメナモミ	
788			メナモミ	
789			セイタカアワダチソウ	
790			アキノキリンソウ	
791			オニノゲシ	
792			ノゲシ	
793			ヒメジョオン	
794			ヤマボクチ	
795			カンサイタンポポ	
796			セイヨウタンポポ	
797			オオオナモミ	
798			ヤクシソウ	
799			ハナヤクシソウ	
800				
801	単子葉植物	オモダカ科	ヘラオモダカ	
802			ウリカワ	
803		オモダカ		
804		トチカガミ科	オオカナダモ	
805		ユリ科	ノギラン	
806			ソクシンラン	
807			ノビル	
808			ホウチャクソウ	
809			チゴユリ	
810			ショウジョウバカマ	
811			ヤブカンゾウ	
812			ノカンゾウ	
813			イワギボウシ	
814			オオバギボウシ	
815			トウギボウシ	
816			ウバユリ	
817			ササユリ	
818			コオニユリ	
819			ヒメヤブラン	
820			ヤブラン	
821			ジャノヒゲ	
822			ナガバジャノヒゲ	
823			オオバジャノヒゲ	
824			ナルコユリ	
825			ミヤマナルコユリ	
826			アマドコロ	
827			オモト	
828			サルトリイバラ	
829			タチシオデ	
830			シオデ	
831			ヤマジノホトトギス	
832		ホトトギス		
833		ヤマホトトギス		
834		ヒガンバナ科	ヒガンバナ	
835			キツネノカミソリ	
836		ヤマノイモ科	タチドコロ	
837			ヤマノイモ	
838			カエデドコロ	
839			キクバドコロ	
840			ヒメドコロ	
841		ミズアオイ科	オニドコロ	
842			ホテイアオイ	
843			ミスアオイ	
844			コナギ	
845		アヤメ科	ヒオウギ	
846			シャガ	
847			キショウブ	
848			ニワゼキショウ	
849			ヒメヒオウギズイセン	
850		ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ	

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 13/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川
				H16
851	単子葉植物	イグサ科	ハナビゼキショウ	
852			イ	
853			コウガイゼキショウ	
854			ホソイ	
855			クサイ	
856			ココメイ	
857			スズメノヤリ	
858			ヤマスズメノヒエ	
859			ヌカボシソウ	
860			ツククサ科	ツククサ
861		イボクサ		
862		ヤブミョウガ		
863		ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ	
864		イネ科	アオカモジグサ	
865			タチカモジグサ	
866			カモジグサ	
867			コヌカグサ	
868			ヤマヌカボ	
869			ヌカボ	
870			スズメノテッポウ	
871			メリケンカルカヤ	
872			コブナグサ	
873			トダシバ	
874			ヒメコバンソウ	
875			イヌムギ	
876			キツネガヤ	
877			ノガリヤス	
878			ヒメノガリヤス	
879			オガルカヤ	
880			ギョウギシバ	
881			カモガヤ	
882			タツノヒゲ	
883			メヒシバ	
884	コメヒシバ			
885	アキメヒシバ			
886	アブラスキ			
887	イヌビエ			
888	ケイヌビエ			
889	ヒメイヌビエ			
890	オヒシバ			
891	シナダレスズメガヤ			
892	カゼクサ			
893	コゴメカゼクサ			
894	ニワホコリ			
895	オオニワホコリ			
896	コスズメガヤ			
897	ナルコビエ			
898	オニウシノケグサ			
899	ウシノケグサ			
900	トボシガラ			
901	ヒロハノウシノケグサ			
902	オオウシノケグサ			

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 14/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川	
903	単子葉植物	イネ科	ドジョウツナギ	H16	
904			チガヤ		
905			チゴザサ		
906			ハイチゴザサ		
907			サヤヌカグサ		
908			アゼガヤ		
909			ネスミムギ		
910			ササクサ		
911			コメガヤ		
912			ササガヤ		
913			ヒメアシボソ		
914			アシボソ		
915			トキワススキ		
916			オギ		
917			ススキ		
918			ヌマガヤ		
919			オオネズミガヤ		
920			ケチヂミザサ		
921			コチヂミザサ		
922			ヌカキビ		
923			オオクサキビ		
924			シマスズメノヒエ		
925			キシユウスズメノヒエ		
926			スズメノヒエ		
927			チカラシバ		
928			クサヨシ		
929			ヨシ		
930			ツルヨシ		
931			ホテイチク		
932			マダケ		
933			ハチク		
934			モウソウチク		
935			ネザサ		
936			ケネザサ		
937			メダケ		
938			ミゾイチゴツナギ		
939			スズメノカタビラ		
940			オオイチゴツナギ		
941			ナガハグサ		
942			イチゴツナギ		
943			オオスズメノカタビラ		
944			ヒエガエリ		
945			ウキシバ		
946			ヤダケ		
947			チシマザサ		
948			ミヤコザサ		
949			チマキザサ		
950			ススタケ		
951			アキノエノコログサ		
952			キンエノコロ		
953			エノコログサ		
954			ムラサキエノコロ		
955			オオエノコロ		
956			セイバンモロコシ		
957			ネズミノオ		
958			カニツリグサ		
959			ナギナタガヤ		
960			マコモ		
961			シバ		
962			ヤシ科		シュロ
963			サトイモ科		セキショウ
964					キシダマムシグサ
965					ヤマトテンナンショウ
966					マムシグサ
967					ムロウテンナンショウ
968					カラスビシャク
969			ウキクサ科		アオウキクサ
970			ウキクサ		
971			ガマ科		ヒメガマ
972					コガマ

表 6.6-23 下流河川確認種リスト(植物 : 15/15)

No.	分類	科名	和名	下流河川 H16		
973	単子葉植物	カヤツリグサ科	エナシヒゴクサ			
974			クロカワズスゲ			
975			マツバスゲ			
976			アオスゲ			
977			メアオスゲ			
978			ミヤマシラスゲ			
979			ヒメカンスゲ			
980			ナルコスゲ			
981			カサスゲ			
982			シラスゲ			
983			イトスゲ			
984			マスキサ			
985			カワラスゲ			
986			ジュズスゲ			
987			ヒゴクサ			
988			テキリスゲ			
989			ヒカゲスゲ			
990			ナキリスゲ			
991			タチスゲ			
992			ゴウソ			
993			ヒメシラスゲ			
994			カンスゲ			
995			ミヤマカンスゲ			
996			アオゴウソ			
997			コカンスゲ			
998			ヤブスゲ			
999			クサスゲ			
1000			オオイトスゲ			
1001			タガネソウ			
1002			アゼスゲ			
1003			ヤワラスゲ			
1004			ヒメモエギスゲ			
1005			アイダクグ			
1006			ヒメクグ			
1007			クグガヤツリ			
1008			タマガヤツリ			
1009			ヒナガヤツリ			
1010			アゼガヤツリ			
1011			コアゼガヤツリ			
1012			コゴメガヤツリ			
1013			カヤツリグサ			
1014			アオガヤツリ			
1015			ウシクグ			
1016			シロガヤツリ			
1017			カワラスガナ			
1018			マツバイ			
1019			ハリイ			
1020			シカクイ			
1021			コアゼテンツキ			
1022			ヒメヒラテンツキ			
1023			テンツキ			
1024			クロテンツキ			
1025			ヒデリコ			
1026			メアゼテンツキ			
1027			ヒンジガヤツリ			
1028			コマツカサススキ			
1029			イヌホタルイ			
1030			アブラガヤ			
1031			ショウガ科	ミョウガ		
1032			ラン科	シュンラン		
1033				ツチアケビ		
1034				ミヤマウスラ		
1035				ムヨウラン		
1036				ジガバチソウ		
1037				クモキリソウ		
1038				コ克蘭		
1039				オオバノトンボソウ		
1040				カヤラン		
1041				ネジバナ		
1042				クモラン		
141科1042種				147種		

注) 1.種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。

表 6.6-24 下流河川確認種リスト(鳥類 : 1/2)

No.	目名	科名	種名	下流河川			
			和名	H14	H18・19		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ				
2			アカエリカイツブリ				
3	ペリカン目	ウ科	カワウ				
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ				
5			ササゴイ				
6			アマサギ				
7			ダイサギ				
8			チュウサギ				
9			コサギ				
10			アオサギ				
11			カモ目	カモ科	オシドリ		
12					マガモ		
13					カルガモ		
14	コガモ						
15	ヒドリガモ						
16	カワアイサ						
17	タカ目	タカ科	ミサゴ				
18			ハチクマ				
19			トビ				
20			オオタカ				
21			ツミ				
22			ハイタカ				
23			オオノスリ				
24			ノスリ				
25			サシバ				
26			クマタカ				
27	キジ目	キジ科	コジュケイ				
28			キジ				
29			ヤマドリ				
30	ツル目	クイナ科	バン				
31	チドリ目	チドリ科	コチドリ				
32			イカルチドリ				
33			ケリ				
34		シギ科	キアシシギ				
35			イソシギ				
36			ヤマシギ				
37			オオジシギ				
38	ハト目	ハト科	キジバト				
39			アオバト				
40	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ				
41			ツツドリ				
42			ホトトギス				
43	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク				
44			アオバズク				
45			フクロウ				
46	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ				
47	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ				
48	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ				
49			カワセミ				
50	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ				
51			アカゲラ				
52			オオアカゲラ				
53			コゲラ				
54	スズメ目	ツバメ科	ツバメ				
55			コシアカツバメ				
56			イワツバメ				
57		セキレイ科	キセキレイ				
58			ハクセキレイ				
59	セグロセキレイ						

表 6.6-24 下流河川確認種リスト(鳥類 : 2/2)

No.	目名	科名	種名	下流河川	
			和名	H14	H18・19
60	スズメ目	セキレイ科	ピンズイ		
61		サンショウクイ科	サンショウクイ		
62		ヒヨドリ科	ヒヨドリ		
63		モズ科	モズ		
64		カワガラス科	カワガラス		
65		ミソサザイ科	ミソサザイ		
66		イワヒバリ科	カヤクグリ		
67		ツグミ科	ルリビタキ		
68			ジョウビタキ		
69			ノビタキ		
70	トラツグミ				
71	アカハラ				
72	シロハラ				
73	ツグミ				
74	ウグイス科		ヤブサメ		
75			ウグイス		
76			メボソムシクイ		
77		センダイムシクイ			
78		キクイタダキ			
79	ヒタキ科	キビタキ			
80		オオルリ			
81		サメビタキ			
82		エゾビタキ			
83		コサメビタキ			
84	カササギヒタキ科	サンコウチョウ			
85	エナガ科	エナガ			
86	シジュウカラ科	コガラ			
87		ヒガラ			
88		ヤマガラ			
89		シジュウカラ			
90	メジロ科	メジロ			
91	ホオジロ科	ホオジロ			
92		カシラダカ			
93		ミヤマホオジロ			
94		アオジ			
95		クロジ			
96	アトリ科	アトリ			
97		カワラヒワ			
98		マヒワ			
99		ベニマシコ			
100		ウソ			
101		イカル			
102		シメ			
103	ハタオリドリ科	スズメ			
104	ムクドリ科	ムクドリ			
105	カラス科	カケス			
106		ハシボソガラス			
107		ハシブトガラス			
-		カラス属			
16目36科107種				23種	30種
				4種	

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-25 下流河川確認種リスト(両生類)

No.	目名	科名	和名	下流河川	
				H15	
1	サンショウウオ	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ		
2		イモリ	イモリ		
3	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル		
4		アマガエル	アマガエル		
5		アカガエル	タゴガエル		
6			ヤマアカガエル		
7			トノサマガエル		
8			ヌマガエル		
9			ウシガエル		
10			ツチガエル		
11		アオガエル	シュレーゲルアオガエル		
12			カジカガエル		
2目6科12種				4種	

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2. : 「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」6月、8月調査時に確認された。

表 6.6-26 下流河川確認種リスト(哺乳類)

No.	目名	科名	和名	下流河川			
				H15			
1	モグラ	モグラ	ヒミズ				
2			コウベモグラ				
-			モグラ属				
3	コウモリ	キクガシラコウモ	キクガシラコウモリ				
4			ヒナコウモリ		モモジロコウモリ		
5					ユビナガコウモリ		
6					テングコウモリ		
-					ヒナコウモリ科		
7					サル	オナガザル	ニホンザル
8					ウサギ	ウサギ	ノウサギ
9	ネズミ	リス	ニホンリス				
10			ムササビ				
11			ネズミ		アカネズミ		
12					ヒメネズミ		
13		カヤネズミ					
-		ネズミ科					
14		ネコ	イヌ		タヌキ		
15					キツネ		
16	イタチ		テン				
17			イタチ属				
18			アナグマ				
19			ウシ	イノシシ	イノシシ		
20		シカ	ホンドジカ				
7目11科20種				8種			

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」「…科」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 1/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川
1	クモ綱	クモ目	ジグモ科	ジグモ	H15
2			ガケジグモ科	ガケジグモ科	
3			ハグモ科	ヒナハグモ	
-				ハグモ科	
4			チリグモ科	チリグモ	
5			ウスグモ科	オウギグモ	
6				マネキグモ	
7				ウスグモ	
8			マシラグモ科	マシラグモ	
-				マシラグモ科	
9			タマゴグモ科	タマゴグモ科	
10			ユウレイグモ科	ユウレイグモ	
11				アケボノユウレイグモ	
12				シモングモ	
13			エンマグモ科	コマツエンマグモ	
14			タナグモ科	クサグモ	
-				コクサグモ	
16				Agelena属	
17				ヤマヤチグモ	
18				クロヤチグモ	
19				シモフリヤチグモ	
20				ヒメヤマヤチグモ	
21				カメンヤチグモ	
22				デボンヤチグモ	
-				カミガタヤチグモ	
23				Coelotes属	
-				カチドキナミハグモ	
-				Cybaeus属	
-				タナグモ科	
24			コガネグモ科	キジロオヒキグモ	
25				キザハシオニグモ	
26				ヌサオニグモ	
27				アオオニグモ	
28				ヤマオニグモ	
29				カラオニグモ	
-				Araneus属	
30				ムツボシオニグモ	
31				コガネグモ	
32				チュウガタコガネグモ	
33				ナガコガネグモ	
-				Argiope属	
34				ヤマトカナエグモ	
35				ギンメッキゴミグモ	
36				カラスゴミグモ	
37				ギンナガゴミグモ	
38				ヤマトゴミグモ	
39				ゴミグモ	
40				ヨツデゴミグモ	
-				Cyclosa属	
41				トリノフンダマシ	
42				オオトリノフンダマシ	
43				シロオビトリノフンダマシ	
44				クロトリノフンダマシ	
45				アカイロトリノフンダマシ	
-				Cyrtarachne属	
46				トガリオニグモ	
47				ヨツボシショウジョウグモ	
48				シロスジショウジョウグモ	
49				コガネグモダマシ	
50				ゴマジロオニグモ	
51				ウキグロサツマノミダマシ	
52				コゲチャオニグモ	
53				ヤマシロオニグモ	
54				サツマノミダマシ	
55				ヘリジロオニグモ	
-				Neoscona属	
56				サガオニグモ	
57				カラフトオニグモ	
58				ヤマキレアミグモ	
-				コガネグモ科	
59			ミスグモ科	ミスグモ	
60			ハタケグモ科	ヤマハタケグモ	
-				ハタケグモ科	



表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 2/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
61	クモ綱	クモ目	サラゲモ科	クロケシゲモ	H15
62				コサラゲモ	
63				オオスギヤミサラゲモ	
64				マルサラゲモ	
65				ハラジロムナキゲモ	
66				デーニツサラゲモ	
67				ナニワナンキングモ	
68				ノコギリヒザゲモ	
69				ハナサラゲモ	
70				ニセアカムネゲモ	
71				アリマケズネゲモ	
72				ヤマトケズネゲモ	
73				ズキンヌカゲモ	
74				クロナンキングモ	
75				アシヨレゲモ	
76				ハガタヤセサラゲモ	
77				クボミケシゲモ	
78				チビサラゲモ	
79				ツリサラゲモ	
80				ヘリジロサラゲモ	
81				ツノケシゲモ	
82				チビアカサラゲモ	
83				クスミサラゲモ	
84				ムネグロサラゲモ	
85				コウシサラゲモ	
86				イマダテテングヌカゲモ	
87				ナラヌカゲモ	
88				フタスジサラゲモ	
89				アシナガサラゲモ	
90			コガネゲモ科	シロブチサラゲモ	
91				アリマネゲモ	
92				ヨツボシサラゲモ	
93				ヌカゲモ	
94				ユノハマサラゲモ	
95				セスジアカムネゲモ	
96				オオサカアカムネゲモ	
97				テングヌカゲモ	
-				サラゲモ科	
98			コモリゲモ科	チリコモリゲモ	
99				スジプトコモリゲモ	
100				カガリビコモリゲモ	
101				エビチャコモリゲモ	
102				ヒノマルコモリゲモ	
103				カワベコモリゲモ	
104				ハラクロコモリゲモ	
105				ウツキコモリゲモ	
106				ヤマハリゲコモリゲモ	
107				イサゴコモリゲモ	
108				ハリゲコモリゲモ	
109				キクツキコモリゲモ	
-				Pardosa属	
110				クラークコモリゲモ	
111				ミナミコモリゲモ	
112				カイゾクコモリゲモ	
113				イモコモリゲモ	
114				チビコモリゲモ	
115				キバラコモリゲモ	
116				コガタコモリゲモ	
117				ナミコモリゲモ	
-				Pirata属	
118				アライトコモリゲモ	
-				コモリゲモ科	
119			センショウゲモ科	センショウゲモ	
120				オオセンショウゲモ	
121			コツブゲモ科	ナンブコツブゲモ	
122			ササゲモ科	ササゲモ	
123			キシダゲモ科	シノビゲモ	
124				スジプトハシリゲモ	
125				スジアカハシリゲモ	
126				イオウイロハシリゲモ	
-				Do lomedes属	
127				ハヤテゲモ	
128				アズマキシダゲモ	
-				Pisaura属	
-				キシダゲモ科	
129			アシナガゲモ科	チュウガタシロカネゲモ	
130				オオシロカネゲモ	
131				コシロカネゲモ	
132				キララシロカネゲモ	
-				Leucauge属	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 3/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川		
133	クモ綱	クモ目	アシナガグモ科	キンヨウグモ	H15		
134				ヤマジドヨウグモ			
135				タニマノドヨウグモ			
136				メガネドヨウグモ			
137				ジョロウグモ			
138				トガリアシナガグモ			
139				ハラヒロアシナガグモ			
140				キヌアシナガグモ			
141				ヤサガタアシナガグモ			
142				ミドリアシナガグモ			
143				アシナガグモ			
144				ウロコアシナガグモ			
145				シコクアシナガグモ			
-				Tetragnatha属			
-				アシナガグモ科			
146				ヒメグモ科		ツリガネヒメグモ	
-						Achaearanea属	
147						ヒメグモ	
148						コンビラヒメグモ	
149						オオヒメグモ	
150						アシフトヒメグモ	
151						オナガグモ	
152						フタオイソウロウグモ	
153						ヤリグモ	
154						ヤホシサヤヒメグモ	
155						ヨロイヒメグモ	
156						ボカシミジグモ	
157			カニミジグモ				
158			シモフリミジグモ				
-			Dipoena属				
159			カレハヒメグモ				
160			ヒシガタグモ				
161			ハラナガヒシガタグモ				
-			Episinus属				
162			ツクネグモ				
163			スネグロオチバヒメグモ				
164			バラギヒメグモ				
165			ヒロハヒメグモ				
166			ムナボシヒメグモ				
167			タカコヒメグモ				
-			Theridion属				
-			ヒメグモ科				
168			カラカラグモ科			ヤマシグモ	
169						カラカラグモ	
170						ナルコグモ	
171			イツツグモ科			ナガイツツグモ	
172						イツツグモ	
173			フクログモ科			オビジガバチグモ	
174						カバキコマチグモ	
175						ヤマトコマチグモ	
176						ヤサコマチグモ	
-						Cheiracanthium属	
177						コフクログモ	
178						イナフクログモ	
179						ヤハズフクログモ	
180						ヒメフクログモ	
181						トビイロフクログモ	
182						マイコフクログモ	
183						ムナアカフクログモ	
-						Clubiona属	
184						イタチグモ	
185						オトヒメグモ	
186						コムラウラシマグモ	
187						ウラシマグモ	
-						Phrurolithus属	
188						ネコグモ	
-						フクログモ科	
189						シボグモ科	シボグモ
190			ワシグモ科			チャクロワシグモ	
191						トラフワシグモ	
-						Drassodes属	
192						エビチャヨリメケムリグモ	
193						クロチャケムリグモ	
194						マエトビケムリグモ	
-						Zelotes属	
-						ワシグモ科	
195						アシダカグモ科	アシダカグモ
196							ツユグモ
197			コアシダカグモ				
198			カマスグモ				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 4/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
199	クモ綱	クモ目	エビグモ科	キンイロエビグモ	H15	
200				キタエビグモ		
201				アサヒエビグモ		
-				Philodromus属		
202				ヤドカリグモ		
203				シャコグモ		
204				ハエトリグモ科		ネコハエトリ
205						マミジロハエトリ
206						アシプトハエトリ
207						ホオジロハエトリ
-			Evarcha属			
208			アダンソンハエトリ			
209			ジャバラハエトリ			
210			チビクロハエトリ			
-			Helioiphanus属			
211			エキスハエトリ			
212			ヨダンハエトリ			
-			Marpissa属			
213			ヤハズハエトリ			
214			アゴフトハエトリ			
215			ヤサアリグモ			
216			アリグモ			
-			ハエトリグモ科	Myrmarachne属		
217				チャイロアサヒハエトリ		
218				ムロテハエトリ(マガネアサヒハエトリ)		
219				メガネアサヒハエトリ		
-				Phintella属		
220				デーニツツハエトリ		
221				イナズマハエトリ(キツネハエトリ)		
222				ヒメカラスハエトリ		
223				アオオビハエトリ		
224				ウススジハエトリ		
225			ムツバハエトリ			
-			カニグモ科	コハナグモ		
226				アシナガカニグモ		
227				アマギエビスグモ		
228				Lysiteles属		
-				ハナグモ		
229				ワカバグモ		
230				ガザミグモ		
231	フノジグモ					
232	アズチグモ					
233	トラフカニグモ					
234	セマルトラフカニグモ					
235	ヤミイロカニグモ					
236	アズマカニグモ					
237	オオヤミイロカニグモ					
238	Xysticus属					
239	シボグモモドキ科	シボグモモドキ				
240		コクナグモ				
-		クモ目				
241	昆虫綱	トビムシ目(粘管目)	ヒメトビムシ科	ヒメトビムシ科		
242				イボトビムシ科		
243				シロトビムシ科		
-				ヤギシロトビムシ		
244				シロトビムシ科		
245			ミズトビムシ科	ミズトビムシ		
246			アヤトビムシ科	シマツノトビムシ		
-				Sinella属		
-				アヤトビムシ科		
247			ツチトビムシ科	ミスフシトビムシ		
248				ニセフシトビムシ		
-				ツチトビムシ科		
249			ウスギヌトビムシ科	ウスギヌトビムシ科		
250			ヒゲナガトビムシ科	トウアヒゲナガトビムシ		
251				アヤヒゲナガトビムシ		
-				ヒゲナガトビムシ科		
252			トゲトビムシ科	オオトゲトビムシ		
-				トゲトビムシ科		
253			マルトビムシ科	キボシマルトビムシ		
254				キマルトビムシ		
-	マルトビムシ科					
255	ヤマシタホソウロコトビムシ					

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 5/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
256	昆虫綱	トビムシ目(粘管目)	マルトビムシ科	クモマルトビムシ亜科	H15	
257				クモトビムシ亜科		
258			カマアシムシ目	クシカマアシムシ科		ヨシイムシ
259		コムシ目	ナガコムシ科	イシイナガコムシ		
260		イシノミ目	イシノミ科		Pedetontinus属	
261					Pedetontus属	
-					イシノミ科	
262		カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科		フタバコカゲロウ	
263					Baetis属	
-					コカゲロウ科	
264					フタオカゲロウ科	フタオカゲロウ科
265					ヒラタカゲロウ科	オビカゲロウ
266						チャイロミヤマタニガワカゲロウ
267						エルモンヒラタカゲロウ
268						コムモンヒラタカゲロウ
269						ヒメヒラタカゲロウ
270						タテヤマヒメヒラタカゲロウ
-						ヒラタカゲロウ科
271					チラカゲロウ科	チラカゲロウ
272					ヒトリガカゲロウ科	ヒトリガカゲロウ科
273					トビロカゲロウ科	ヒメトビロカゲロウ
-						トビロカゲロウ科
274					モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ
275						モンカゲロウ
-						モンカゲロウ科
276					カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ
277					マダラカゲロウ科	クロマダラカゲロウ
-						マダラカゲロウ科
-						カゲロウ目
278					トンボ目(蜻蛉目)	アオイトトンボ科
279		アオイトトンボ				
280		オオアオイトトンボ				
281	イトトンボ科		アジアイトトンボ			
282			アオモンイトトンボ			
283	カワトンボ科		ハグロトンボ			
284			ミヤマカワトンボ			
285			ニホンカワトンボ			
286			アサヒナカワトンボ			
287	ヤンマ科		コシボソヤンマ			
288			ミルンヤンマ			
289	サナエトンボ科		ヤマサナエ			
290			ダビドサナエ			
291			オナガサナエ			
292			コオニヤンマ			
293			オグマサナエ			
294			ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ		
295	オニヤンマ科	オニヤンマ				
296	エソトンボ科	コヤマトンボ				
297	トンボ科		ハラビロトンボ			
298			シオカラトンボ			
299			シオヤトンボ			
300			オオシオカラトンボ			
301			ウスバキトンボ			
302			コシアキトンボ			
303			ナツアカネ			
304			マユタテアカネ			
305			アキアカネ			
306			ノシメトンボ			
307		ネキトンボ				
308	ゴキブリ目(網翅目)	ヒメクロゴキブリ科		ヒメクロゴキブリ		
309				オオゴキブリ科	オオゴキブリ	
310				チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	
-				チャバネゴキブリ科		
311	カマキリ目(蟷螂目)	ヒメカマキリ科		ヒメカマキリ		
312				ハラビロカマキリ		
313		カマキリ科		コカマキリ		
314				チョウセンカマキリ		
315				オオカマキリ		
-				カマキリ科		
316	シロアリ目(等翅目)	ミゾガシラシロアリ科		ヤマトシロアリ		
-				シロアリ目		
317	ハサミムシ目(革翅目)	クロハサミムシ科		クロハサミムシ科		
318				マルムネハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ	
-					マルムネハサミムシ科	
319		クギヌキハサミムシ科			コブハサミムシ	
320					キバネハサミムシ	
-				クギヌキハサミムシ科		
321	カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科		ヤスマツクロカワゲラ		
-						クロカワゲラ科
322		ミドリカワゲラ科		ミドリカワゲラ科		
323		ハラジロオナシカワゲラ科		ハラジロオナシカワゲラ科		
324		オナシカワゲラ科		オナシカワゲラ科		

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 6/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
325	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	カワゲラ科	キベリオスエダカワゲラ	H15	
326				カミムラカワゲラ		
327				ヤマトフタツメカワゲラ		
328				ヤマトカワゲラ		
-				カワゲラ科		
329				セスジミドリカワゲラモドキ		
-			アミメカワゲラ科			
-			カワゲラ			
330			バツタ目(直翅目)	コロギス科		ハネナシコロギス
331						コロギス
332						コロギス科
-				カマドウマ科		クチキウマ
333						Anoplophilus属
-						Atachycines属
334						カマドウマ
335						マダラカマドウマ
336						モリスミウマ
337						Diestrammena属
-		クラズミウマ				
338		Tachycines属				
-		カマドウマ科				
339		キリギリス科				コバネヒメギス
340						ウスイロササキリ
341						オナガササキリ
342						コバネササキリ
343						ホシササキリ
344						ササキリ
345						エゾツユムシ
346			セスジツユムシ			
347			ヒメギス			
348			クビキリギス			
349			キリギリス			
350			ウマオイ			
-			Hexacentrus属			
351		クダマキモドキ				
352		ヤマクダマキモドキ				
353		ツユムシ				
354		アシグロツユムシ				
355	クサキリ					
356	ヤブキリ					
357	ササキリモドキ					
358	ササキリ亜科					
359	ツユムシ亜科					
-	キリギリス科					
360	ケラ科	ケラ				
361	コオロギ科	キンヒバリ				
362		マダラスズ				
363		ヒゲシロスズ				
364		カワラスズ				
365		シバズ				
366		ヤマトヒバリ				
367		ハラオカメコオロギ				
368		ミツカドコオロギ				
369		モリオカメコオロギ				
-		Loxoblemmus属				
370		タンボコオロギ				
371		クマコオロギ				
372		カンタン				
-		Oecanthus属				
373		クサヒバリ				
374		リュウキュウマダラスズ				
375		ヒメスズ				
376		エソスズ				
377		ヤチスズ				
378		クマスズムシ				
379		エンマコオロギ				
-	Teleogryllus属					
380	キアシヒバリモドキ					
381	ツツレサセコオロギ					
-	コオロギ科					
382	カネタタキ科	カネタタキ				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 7/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川		
383	昆虫綱	バッタ目(直翅目)	アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ科	H15		
384			バッタ科	ショウリョウバッタ			
385				マダラバッタ			
386				ヒナバッタ			
387				ヒロバネヒナバッタ			
388				カワラバッタ			
389				クルマバッタモドキ			
390				ハネナガイナゴ			
391				コバネイナゴ			
-				Oxya属			
392				イナゴモドキ			
393				ダイリフキバッタ			
394				ミカドフキバッタ			
395				キンキフキバッタ			
396				ヤマトフキバッタ			
-				Parapodisma属			
397				ツチイナゴ			
398				ツマグロイナゴモドキ			
399				イボバッタ			
-				バッタ科			
400				オンブバッタ科		オンブバッタ	
401				ヒシバッタ科		トゲヒシバッタ	
402						ハネナガヒシバッタ	
403						コバネヒシバッタ	
404						ハラヒシバッタ	
405						ヤセヒシバッタ	
406						モリヒシバッタ	
-						Tetrix属	
-						ヒシバッタ科	
407				ノミバッタ科		ノミバッタ	
408			ナナフシ目(竹節虫目)	ナナフシ科		ナナフシ科	トゲナナフシ
409							エダナナフシ
-							ナナフシ科
410			チャタテムシ目(嚙虫目)	ケバカチャタテ科		ケバカチャタテ科	ウスベニチャタテ
411						ケチャタテ科	キモンケチャタテ
-							ケチャタテ科
412						ホソチャタテ科	ハグルマチャタテ
413							ホソチャタテ
414						スカシチャタテ科	スカシチャタテ
415						ヒメチャタテ科	ヒメチャタテ
416						マドチャタテ科	ヒメマドチャタテ
-							マドチャタテ科
417						チャタテ科	オオチャタテ
418							カバイロチャタテ
419							オオスジチャタテ
420							スジチャタテ
-							チャタテ科
421	カメムシ目(半翅目)	カメムシ目(半翅目)	コチャタテ科	コチャタテ科			
422			コガシラウカ科	ナワコガシラウカ			
423				スジコガシラウカ			
424			ヒシウカ科	オビカウウカ			
425				ヤナギカウウカ			
426				キガシラヒシウカ			
427				イボタヒシウカ			
428				ヨスジヒシウカ			
429			ウンカ科	タケウンカ			
430				フタスジオウンカ			
431				クロスジオウンカ			
432				ナガラガウンカ			
433				クワヤマウンカ			
434				ヒメトビウンカ			
435				トビイロウンカ			
436				ホソミドリウンカ			
437				ハコネホソウンカ			
438				セジロウンカ			
439				ハリマナガウンカ			
440				タマガワナガウンカ			
441				セスジウンカ			
442				コブウンカ			
-				ウンカ科			
443			ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ			
444				アヤヘリハネナガウンカ			
445				アカメガシワハネビロウンカ			
446				マエグロハネナガウンカ			
447	テングスケバ科	テングスケバ科					
448	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ					
449	マルウンカ科	マルウンカ					
450		キボシマルウンカ					
451		クサビウンカ					
452	ハゴロモ科	スケバハゴロモ					
453		ベッコウハゴロモ					
454		アミガサハゴロモ					

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 8/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川			
455	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ゲンバイウンカ科	タテスジゲンバイウンカ	H15			
456				ヒシウンカモドキ				
457			ゼミ科			チツチゼミ		
458						クマゼミ		
459						アブラゼミ		
460						ミンミンゼミ		
461						ニイニイゼミ		
462						ヒグラシ		
463						ハルゼミ		
464						ツノゼミ科	トビロツノゼミ	
465						アワフキムシ科		マツアワフキ
466								シロオビアワフキ
467			モンキアワフキ					
468			ハマベアワフキ					
469			マエキアワフキ					
470			ヒメモンキアワフキ					
471			ホシアワフキ					
472			クロスジアワフキ					
473			マダラアワフキ					
474			コミヤマアワフキ					
475			ホソアワフキ					
-			アワフキムシ科					
476			コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ				
477			ヨコバイ科					カシヒメヨコバイ
478								トバヨコバイ
479								モジヨコバイ
480								カンキツヒメヨコバイ
481								フタデンヒメヨコバイ
482								ススキヒメヨコバイ
483						クサビヨコバイ		
484						ミドリカスリヨコバイ		
485						タケナガヨコバイ		
486						ホシアオズキンヨコバイ		
487						ツマグロオオヨコバイ		
488						Chlorita属		
489						オオヨコバイ		
490						オオトガリヨコバイ		
491						トガリヨコバイ		
492						ミドリヒメヨコバイ		
493						バラヒメヨコバイ		
494						ヨツモンヒメヨコバイ		
495						ヨモギヒメヨコバイ		
496						シロヒメヨコバイ		
497						フタスジトガリヨコバイ		
498						ウスイロヒロヨコバイ		
499						サジヨコバイ		
500						ヒシモンヨコバイ		
501						シダヨコバイ		
502						マエジロオオヨコバイ		
503						ミドリヒロヨコバイ		
504						ミミズク		
505						コムミズク		
506						フタデンヨコバイ		
507						ヨツテンヨコバイ		
508						ムツテンヨコバイ		
509						コチャイロヨコバイ		
510						チャイロヨコバイ		
511						ムナグロスキンヨコバイ		
512						オビヒメヨコバイ		
513						ツマグロヨコバイ		
514	ホソサジヨコバイ							
515	ハンノヒロズヨコバイ							
516	ミナミマダラヨコバイ							
517	クワキヨコバイ							
518	アカシヒメヨコバイ							
519	モモグロヨコバイ							
520	クロヒラタヨコバイ							
521	ヒトツメヨコバイ							
522	クロサジヨコバイ							
523	シマサジヨコバイ							
524	シロスキンヨコバイ							
525	イナズマヨコバイ							
526	イネマダラヨコバイ							
527	シラホシカシヨコバイ							
528	オサヨコバイ							
529	チマダラヒメヨコバイ							
530	キイロヒメヨコバイ							
531	イグチホシヨコバイ							
532	ホシヨコバイ							
533	ニッコウホシヨコバイ							
534	クロモンヤマトヨコバイ							
535	ヤノトガリヨコバイ							
536	ヤマシロヒメヨコバイ							
537	タカサゴヒメヨコバイ							
538	ミミズク亜科							
539	ヒロズヨコバイ亜科							
540	ホシヨコバイ亜科							
541	ホソサジヨコバイ亜科							
542	ヒメヨコバイ亜科							
543	オオヨコバイ亜科							
-	ヨコバイ科							
-	カメムシ目, 同翅目, 類吻群							

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 9/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川		
544	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	キジラミ科	オビキジラミ	H15		
545				イタドリマダラキジラミ			
546				ハンノキジラミ			
547				ベニキジラミ			
548				クストガリキジラミ			
549				クロトガリキジラミ			
550				アブラムシ科		ヨメナアミナシヒゲナガアブラムシ	
551						ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ	
552						マメアブラムシ	
553						クリオオアブラムシ	
554						ハッカイボアブラムシ	
555						ウツギトックリアブラムシ	
556						イバラヒゲナガアブラムシ	
557						クヌギトゲマダラアブラムシ	
558						アザミヒゲナガアブラムシ	
559						クヌギハアブラムシ	
-						アブラムシ科	
560				クビナガカメムシ科		ヒメクビナガカメムシ	
561				サシガメ科		マダラカモドキシシガメ	
562						クロバアカサシガメ	
563						トビイロサシガメ	
564						クロモンサシガメ	
565						クビアカサシガメ	
566						アカヘリサシガメ	
567						アシナガサシガメ	
568						シマサシガメ	
569						ヒメトビサシガメ	
570						ヤニサシガメ	
-						サシガメ科	
571						ゲンバウムシ科	オオウチワゲンバイ
572							マルミヤマゲンバイ
573							ヤナギゲンバイ
574							シキミゲンバイ
575							トサカゲンバイ
-							Stephanitis属
576				ヒメゲンバイ			
-				ゲンバウムシ科			
577				ハナカメムシ科		ヤサハナカメムシ	
578						ケシハナカメムシ	
579						ズイムシハナカメムシ	
580						ツヤヒメハナカメムシ	
581						ナミヒメハナカメムシ	
-						Orius属	
582				ユミアシハナカメムシ			
-				ハナカメムシ科			
583				トコジラミ科		トコジラミ科	
584				カスミカメムシ科		キエリフタモンカスミカメ	
585						ナカグロカスミカメ	
586						ブチヒゲクロカスミカメ	
587						フタモンカスミカメ	
588						マツノヒゲボソカスミカメ	
589						フタモンアカカスミカメ	
590						クロバカスミカメ	
591						モモアカハギカスミカメ	
592						ツマグロアオカスミカメ	
593						ツマグロハギカスミカメ	
-						Apolygus属	
594						コミドリチビトビカスミカメ	
595						ミドリチビトビカスミカメ	
596						ヒメセダカカスミカメ	
597						アカホシカスミカメ	
598	マダラカスミカメ						
599	シロテンツヤカスミカメ						
600	オオクロトビカスミカメ						
601	ウスイロホソカスミカメ						
602	クロトビカスミカメ						
603	ズアカシダカスミカメ						
604	タバコカスミカメ						
605	クロマルカスミカメ						
606	モンキマキバカスミカメ						
607	キアシアカスミカメ						
608	ホソヒョウタンカスミカメ						
609	ツヤヒョウタンカスミカメ						
610	ヒョウタンカスミカメ						
611	クロヒョウタンカスミカメ						
612	ズグロキベリカスミカメ						
613	オオクロセダカカスミカメ						
614	カシワトビカスミカメ						
615	ムギカスミカメ						
616	アカスジカスミカメ						
617	ウスモンミドリカスミカメ						



表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 10/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
618	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	カスミカメムシ科	イネホソミドリカスミカメ カスミカメムシ科	H15	
-			マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ		
619				ベニモンマキバサシガメ		
620				ハラビロマキバサシガメ		
621				クロマキバサシガメ		
622				コバナマキバサシガメ		
623				ハネナガマキバサシガメ		
624				キバナアサブトマキバサシガメ		
625				マキバサシガメ科		
-				オオホシカメムシ科		ヒメホシカメムシ
626						オオホシカメムシ
627			ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ		
628			ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ		
629				ヒメクモヘリカメムシ		
630				ホソヘリカメムシ		
631			ヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ科		
-				ホオズキカメムシ		
632				オオクモヘリカメムシ		
633				ホソハリカメムシ		
634				ハリカメムシ		
635				ハラビロヘリカメムシ		
636				ホシハラビロヘリカメムシ		
637				オオツマキヘリカメムシ		
638				ツマキヘリカメムシ		
639				ヘリカメムシ科		
-			ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ		
640				アカヒメヘリカメムシ		
641				ケブカヒメヘリカメムシ		
642				フチヒゲヒメヘリカメムシ		
643			イトカメムシ科	イトカメムシ		
644				イトカメムシ科		
-			ナガカメムシ科	セスジナガカメムシ		
645				ヒョウタンナガカメムシ		
646				Dimorphopterus属		
647				マダラナガカメムシ		
648				ホソコバナナガカメムシ		
649				オオモンシロナガカメムシ		
650				チャイロナガカメムシ		
651				ヒメナガカメムシ		
652				ヒラタヒョウタンナガカメムシ		
653				ヒゲナガカメムシ		
654				クロスジヒゲナガカメムシ		
655				モンシロナガカメムシ		
656				アムールシロヘリナガカメムシ		
657				キベリヒョウタンナガカメムシ		
658				アカアシホソナガカメムシ		
659				クロアシホソナガカメムシ		
660				オオメナガカメムシ		
661				ムラサキナガカメムシ		
662				イチゴチビナガカメムシ		
663				コバナヒョウタンナガカメムシ		
664				ナガカメムシ科		
-				メダカナガカメムシ科		メダカナガカメムシ
665						オオツノカメムシ
666			ツチカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ		
667				コツチカメムシ		
668			ツチカメムシ科	ツチカメムシ		
669				ツチカメムシ科		
-			カメムシ科	ウスラカメムシ		
670				シロヘリカメムシ		
671				トゲカメムシ		
672				ムラサキカメムシ		
673				アオクサカメムシ		
674				ハナダカカメムシ		
675				ナガメ		
676				トゲシラホシカメムシ		
677				ムラサキシラホシカメムシ		
678				マルシラホシカメムシ		
679				シラホシカメムシ		
680	ツヤアオカメムシ					
681	エビイロカメムシ					
682	クサギカメムシ					
683	ヨツボシカメムシ					
684	ツマジロカメムシ					
685	アオクサカメムシ					
686	イチモンジカメムシ					
687	チャバネアオカメムシ					
688	カメムシ科					
-	マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ				
689		クズマルカメムシ				
690		マルカメムシ				
691	マルカメムシ科	マルカメムシ科				
-		チャイロカメムシ				
692	キンカメムシ科	キンカメムシ科				
-		アメンボ科				
693	アメンボ科	アメンボ				
694		コセアカアメンボ				
695		ヒメアメンボ				
696		シマアメンボ				
697	アメンボ科	アメンボ科				
-	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 11/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川		
698	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ミズカメムシ科	ミズカメムシ	H15		
699			カタビロアメンボ科	ゲシカタビロアメンボ			
700			ミズムシ科	コチビズムシ			
701				チビズムシ			
702				ハラグロコミズムシ			
703				コミズムシ			
-				Sigara属			
704			メミズムシ科	メミズムシ			
705			コオイムシ科	コオイムシ			
706			タイコウチ科	タイコウチ			
707			マツモムシ科	ミズカマキリ			
708				マツモムシ			
-				カメムシ幼虫 カメムシ目			
709			アザミウマ目(総翅目)	シマアザミウマ科		ヒラスハナアザミウマ	
710				アザミウマ科		アザミウマ科	
711				クダアザミウマ科		Psalidothrips属 クダアザミウマ科	
-			-	アザミウマ目			
712			アミメカゲロウ目(脈翅目)	ヘビトンボ科		クロスジヘビトンボ	
713						ヘビトンボ	
714						センブリ科	センブリ科
715						コナカゲロウ科	マダラコナカゲロウ
716							シロコナカゲロウ
717						ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ
718		ウンモンヒロバカゲロウ					
719		スカシヒロバカゲロウ					
720		キマダラヒロバカゲロウ					
721		ケカゲロウ科				ケカゲロウ	
722		カマキリモドキ科		ヒメカマキリモドキ			
723		ミスカゲロウ科		ミスカゲロウ			
724		クサカゲロウ科		キントキクサカゲロウ			
725				ニッポンクサカゲロウ			
726		ヒメカゲロウ科		ホシクサカゲロウ			
727				ヤマトヒメカゲロウ			
728				アシマダラヒメカゲロウ			
729				ホソバヒメカゲロウ			
730				チャバネヒメカゲロウ			
731				マルバネヒメカゲロウ			
732		ニセヒメカゲロウ ヒメカゲロウ科					
733		ツノトンボ科		ツノトンボ			
734				オオツノトンボ			
735		ウスバカゲロウ科		ホシウスバカゲロウ			
736				ウスバカゲロウ			
737		シリアゲムシ目(長翅目)		シリアゲムシ科		ヤマトシリアゲ	
738				ブライヤシリアゲ			
739		シリアゲモドキ科	スカシシリアゲモドキ				
740		トビケラ目(毛翅目)	カウトビケラ科	ニホンタニガウトビケラ			
-				カウトビケラ科			
741			イウトビケラ科	オンダケミヤマイウトビケラ			
-				イウトビケラ科			
742			クダトビケラ科	クダトビケラ科			
743				ヒゲナガカウトビケラ科		ヒゲナガカウトビケラ	
744			ヤマトビケラ科	チャバネヒゲナガカウトビケラ			
745				イノブヤマトビケラ			
-			ヤマトビケラ科	ヤマトビケラ科			
746			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ科			
747			ナガレトビケラ科	クレメンズナガレトビケラ			
748				ニッポンナガレトビケラ			
749				トランスクイラナガレトビケラ			
750				ヤマナカナガレトビケラ			
-				Rhyacophila属			
-				ナガレトビケラ科			
751			コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ			
752			カクスイトビケラ科	クワヤマカクスイトビケラ			
753				マルツツトビケラ			
-			Micrasema属				
-			カクスイトビケラ科				
754			アシエダトビケラ科	コバントビケラ			
-			アシエダトビケラ科	アシエダトビケラ科			
755			ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ			
-				Goera属			
-	ニンギョウトビケラ科						
756	カクツツトビケラ科		フトヒゲカクツツトビケラ				
757			ツダカクツツトビケラ				
-	カクツツトビケラ科						
758	ヒゲナガトビケラ科		アオヒゲナガトビケラ				
759			ゴマダラヒゲナガトビケラ				
760			ヤマモトセンカイトビケラ				
-	ヒゲナガトビケラ科						
761	エグリトビケラ科		ニセウスバキトビケラ				
762			ウスバキトビケラ				
-			エグリトビケラ科				
763	ホソバトビケラ科		ホソバトビケラ				
-		ホソバトビケラ科					
764	フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ					
765		フタスジキソトビケラ					
766	トビケラ科	トビケラ科					
767	マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ					
-		マルバネトビケラ科					

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 12/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川			
768	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ケトビケラ科	グマガトビケラ ケトビケラ科	H15			
-								
769				クロツツトビケラ科		クロツツトビケラ Uenoa属		
-								
770				シマトビケラ科		コガタシマトビケラ		
771						シロズシマトビケラ		
772						イカリシマトビケラ		
773						ウルマーシマトビケラ		
774						セリーシマトビケラ		
775						ナカハラシマトビケラ		
-						Hydropsyche属		
776						オオシマトビケラ		
-						シマトビケラ科		
-						トビケラ目		
777				チョウ目(鱗翅目)		コウモリガ科	キマダラコウモリ	
778						ムモンハモグリガ科	ムモンハモグリガ科	
779						ツヤコガ科	アジサイツヤコガ ツヤコガ科	
-								
780						マガリガ科	キオビクロヒゲナガ マガリガ亜科	
781								
782						ホソガ科	ホシボシホソガ ホソガ亜科	
783								
-								
784						ハモグリガ科	ハモグリガ亜科 ハモグリガ科	
-								
785			コハモグリガ科			コハモグリガ科		
786			ニセハマキガ科			カザリニセハマキ		
787			ヒロズコガ科			クロモンチビヒロズコガ		
788						マエモンヒロズコガ		
789						ウスモンツマオレガ		
790						アトモンヒロズコガ		
791						コクガ		
792						クロクモヒロズコガ		
793						ツツミノガ科	ツツミノガ科	
794						カザリバガ科	ホソカザリバ Cosmopterix属	
-								
795							ベニモンマイコモドキ カザリバガ科	
-								
796			クサモグリガ科			クサモグリガ科		
797			キバガ科			ミドリチビキバガ		
798						ハイロチビキバガ		
799						ハギノシロオビキバガ		
800						イモキバガ		
801						ナラクロオビキバガ		
-							キバガ科	
802						ヒゲナガキバガ科	ゴマフシロキバガ ムモンヒロバキバガ	
803								
804						マルハキバガ科	コクサギヒラタマルハキバガ	
805							クロカギヒラタマルハキバガ	
806			ヨモギヒラタマルハキバガ					
807			ミツボシキバガ					
808			ホソオビキマルハキバガ					
809			モトグロヒラタマルハキバガ					
810			カタキマルハキバガ					
811			スジモンキマルハキバガ					
812			カレハチビマルハキバガ					
813			オビマルハキバガ亜科					
814			ヒラタマルハキバガ亜科					
-				マルハキバガ科				
815			ニセマイコガ科	カタアカマイコガ				
816			ニジュウシトリバガ科	ヤマトニジュウシトリバ				
817			シンクイガ科	モモノヒメシンクイ				
818			アトヒゲコガ科	アトヒゲコガ科				
819			メムシガ科	オオキメムシガ メムシガ科				
-								
820			ヒカリバコガ科	ヒカリバコガ科				
821			スガ科	ヒロバコナガ				
822				ツヤキンバナスガ				
823				コナガ				
824				ツマグロハイスガ				
825				ホソトガリクチブサガ				
826				スガ亜科				
-						スガ科		
827				ホソハマキモドキガ科		ホソハマキモドキガ科		
828				スカシバガ科		モモブトスカシバ		
829				ボクトウガ科		ゴマフボクトウ		
830			ハマキガ科	ハンノキミダレモンハマキ				
831				ギンヨスジハマキ				
832				ナラコハマキ				
833				チャモンシロハマキ				
834				チャノコカクモンハマキ				
835				リンゴコカクモンハマキ				
836				ネホシウスツマヒメハマキ				
837				グミウスツマヒメハマキ				
-				Apotomis属				
838		アトキハマキ						
839		ミダレカクモンハマキ						
840		オオアトキハマキ						
841		マツアトキハマキ						
842		ナカジロヒメハマキ						
843		イグサヒメハマキ						

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 13/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
					H15
844	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ハマキガ科	フタモントガリバヒメハマキ	
845				ハイイロウスモンハマキ	
846				ウスモンハマキ	
847				ウスキカクモンハマキ	
848				アシプトヒメハマキ	
849				オオアシプトヒメハマキ	
850				ヨツメヒメハマキ	
851				ヨモギネムシガ	
852				ヒノキカワモグリガ	
853				シロスズモンヒメハマキ	
854				カバイロスズモンヒメハマキ	
855				トビモンシロヒメハマキ	
856				ニセコシワヒメハマキ	
-				Eucosma属	
857				アカオビホソハマキ	
858				ウスキシロヒメハマキ	
859				ナシヒメシンクイ	
860				マツトビヒメハマキ	
861				グミオオウスツマヒメハマキ	
862				シロモンヒメハマキ	
863				シラフオオヒメハマキ	
864				ヒカゲヒメハマキ	
865				チャハマキ	
866				マメノヒメシンクイ	
867				ホソバチビヒメハマキ	
868				スイカズラホソバヒメハマキ	
869				ニセアズキサヤヒメハマキ	
870				コホソスジハマキ	
871				フタモンコハマキ	
872				ウスシロモンヒメハマキ	
873				ニセバラシロヒメハマキ	
874				バラシロヒメハマキ	
875				クローバヒメハマキ	
876				ウツギヒメハマキ	
877				ナツハゼヒメハマキ	
878				ウストビハマキ	
879				コエダオビホソハマキ	
880				コホソハマキ	
881				マツアカシムシ	
882				キカギヒメハマキ	
883				モチツツジマダラヒメハマキ	
884				クロネハイイロヒメハマキ	
885				マツツマアカシムシ	
886				クシヒゲムラサキハマキ	
887				シロスジマダラヒメハマキ	
888				Griseida属	
889				テングハマキガ亜科	
890				ハマキガ亜科	
891				ヒメハマキガ亜科	
-				ハマキガ科	
892				ホソハマキガ科	
893				イラガ科	
894				ムラサキイラガ	
895				カギバイラガ	
896				クロマダライラガ	
897				テングイラガ	
898				イラガ	
899				ナシイラガ	
900				クロスジイラガ	
901				アオイラガ	
902				クロシタアオイラガ	
903				タイウンイラガ	
-				アカイラガ	
904				イラガ科	
905				マダラガ科	
906				ウスグロマダラ	
907				ウスバツバメガ	
908				リンゴハマキクロバ	
909				シロシタホタルガ	
910				セセリチョウ科	
911				ダイミョウセセリ	
912				ホソバセセリ	
913				ヒメキマダラセセリ	
914				イチモンジセセリ	
915				チャバナセセリ	
916				オオチャバナセセリ	
917				コチャバナセセリ	
918				マダラチョウ科	
919				アサギマダラ	
920				テングチョウ科	
921				テングチョウ	
922				シジミチョウ科	
923				ルリシジミ	
924				ウラギンシジミ	
				ツバメシジミ	
				ウラナミシジミ	
				ベニシジミ	
				ムラサキシジミ	
				ヤマトシジミ	
				トラフシジミ	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 14/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
925	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シジミチョウ科	シルビアシジミ本土亜種	H15	
926			タテハチョウ科	コムラサキ		
927				サカハチチョウ		
928				ミドリヒョウモン		
929				ツマグロヒョウモン		
930				ウラギンスジヒョウモン		
931				オオウラギンスジヒョウモン		
932				ヒメアカタテハ		
933				メスグロヒョウモン		
934				ルリタテハ本土亜種		
935				イチモンジチョウ		
936				アサマイチモンジ		
937				クモガタヒョウモン		
938				ミスジチョウ		
939				ゴミスジ		
940				ヒオドシチョウ		
941				キタテハ		
942				アカタテハ		
943			アゲハチョウ科			アオスジアゲハ
944						カラスアゲハ
945						モンキアゲハ
946						ミヤマカラスアゲハ
947						キアゲハ
948						オナガアゲハ
949						ナガサキアゲハ
950						クロアゲハ
951						ナミアゲハ
952				シロチョウ科		
953						キチョウ
954						スジグロシロチョウ
955						モンシロチョウ
956			ジャノメチョウ科			クロヒカゲ
957						クロコマチョウ
958						ジャノメチョウ
959						コジャノメ
960						ヒメジャノメ
961						サトキマダラヒカゲ
962						ヤマキマダラヒカゲ
-						Neope属
963				ヒメウラナミジャノメ		
964			トリバガ科			ヨモギトリバ
965						ブドウトリバ
966						フジマメトリバ
967						ホソトリバガ亜科
-				トリバガ科		
968			ツトガ科			ウスムラサキノメイガ
969						クロウスムラサキノメイガ
-						Agrotera属
970						ホソバソトグロキノメイガ
971						シロヒトモンノメイガ
972						ヒメトガリノメイガ
973						ツトガ
974						シロモンノメイガ
975						モンウスグロノメイガ
-						Bradina属
976						ヒメキスジツトガ
977						サツマツトガ
978						ヘリアカキノメイガ
979						オオシロモンノメイガ
980						ニカメイガモドキ
981						ウスクロスジツトガ
982						キベリハネボソノメイガ
983						キボソノメイガ
984						カギバノメイガ
985						ウスムラサキスジノメイガ
986						コブノメイガ
987						マツノコマダラノメイガ
988						クロスカシトガリノメイガ
989						シロスジツトガ
990						トガリキノメイガ
991						シロアヤヒメノメイガ
992						シロテンノメイガ
993						マダラミスメイガ
994						ヒメマダラミスメイガ
995						スジボソヤマメイガ
996				アヤナミノメイガ		
997				ナノメイガ		
998				ヘリジロカラスノメイガ		
999				ミヤマエグリツトガ		
1000				クワノメイガ		
1001				クロヘリキノメイガ		
1002				トビヘリキノメイガ		
1003				クロスノメイガ		
1004				ワタノメイガ		
1005				ハイマダラノメイガ		
1006				ウスオビクロノメイガ		
1007				モンキクロノメイガ		
1008				マエキノメイガ		
1009				ミツテンノメイガ		
1010				マメノメイガ		
1011				チビツトガ		
1012				スジマダラノメイガ		

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 15/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川				
1013	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ツトガ科	シロテンキノメイガ	H15				
1014				サツマキノメイガ					
1015				クロフキノメイガ					
1016				ミドロミスメイガ					
1017				ホシオビホソノメイガ					
1018				ワモンノメイガ					
1019				アトモンミスメイガ					
1020				キバラノメイガ					
1021				クロミスジノメイガ					
1022				シロアシクロノメイガ					
1023				アウノメイガ					
-				Ostrinia属					
1024				ヨスジノメイガ					
1025				ヘリシロキノメイガ					
1026				マエウスモンキノメイガ					
1027				ヒメシロノメイガ					
1028				マエアカスカシノメイガ					
1029				ヒロバウスグロノメイガ					
1030				シバツトガ					
1031				ゼニガサミスメイガ					
1032				シロナミスメイガ					
1033				クロマダラキノメイガ					
1034				クビシロノメイガ					
1035				コガタシロモンノメイガ					
1036				クロスジキノメイガ					
1037				シロハラノメイガ					
1038				コヨツメノメイガ					
1039				ウスイロキノメイガ					
1040				ウコンノメイガ					
1041				キオビミスメイガ					
1042				ナカキトガリノメイガ					
1043				キムジノメイガ					
1044				ミカエリソウノメイガ					
1045				ホソスジツトガ					
1046				モンスカシキノメイガ					
1047				クロオビノメイガ					
1048				トモンノメイガ					
1049				アトグロキノメイガ					
1050				ナカキノメイガ					
1051				コガタシロオオメイガ					
1052				シロオビノメイガ					
1053				モンシロクロノメイガ					
1054				クロスジノメイガ					
1055				オオモンシロルリノメイガ					
1056				モンシロルリノメイガ					
1057				オオメイガ亜科					
1058				ノメイガ亜科					
1059				ヤマメイガ亜科					
1060				ツトガ亜科					
1061				チビマエジロホソマダラメイガ					
1062				ウスアカムラサキマダラメイガ					
1063				マエグロツツリガ					
1064				ナシモンクロマダラメイガ					
1065				ウスアカマダラメイガ					
1066				マツノマダラメイガ					
1067				オオマエジロホソメイガ					
1068				ウスオビトガリメイガ					
1069				キモントガリメイガ					
1070				キペリトガリメイガ					
1071				ウスベントガリメイガ					
1072				カバイロトガリメイガ					
1073				チャマダラメイガ					
1074				フタスジツツリガ					
1075				シロマダラメイガ					
1076				アカシマメイガ					
1077				マツムラマダラメイガ					
1078				ウスモンマルバシマメイガ					
1079				トビイロシマメイガ					
1080				キイフトメイガ					
1081				ナカムラサキフトメイガ					
1082				エグリミスメイガ					
1083				タンザウシダメイガ					
1084				ミカドマダラメイガ					
1085				アカマダラメイガ					
1086				ナカトビフトメイガ					
1087				ネアオフトメイガ					
1088				フタスジシマメイガ					
1089				キンボシシマメイガ					
1090				トビスジマダラメイガ					
1091				クロマダラメイガ					
1092				ギンモンシマメイガ					
1093				オオフトメイガ					
1094				ムラサキシマメイガ					
1095				ヒメアカマダラメイガ					
1096				トビイロフタスジシマメイガ					
1097				ネグロフトメイガ					
1098				マエモンシマメイガ					
1099				ナカアオフトメイガ					
1100				キイロツツリガ					
1101				ミドリフトメイガ					
1102				マダラスメイガ					
1103				キボシヒマメイガ					
							メイガ科		

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類) : 16/37

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
1104	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	メイガ科	シマメイガ亜科	H15	
1105				ツツリガ亜科		
1106				マダラメイガ亜科		
-				メイガ科		
1107			マドガ科	チビマダラマドガ		
1108				ヒメマダラマドガ		
1109				マダラマドガ		
1110				アカジマダガ		
1111				マドガ		
1112			カギバガ科	マエキカギバ		
1113				ウスイロカギバ		
1114				オビカギバ		
1115				アカウラカギバ		
1116				スカシカギバ		
1117				モンウスギヌカギバ		
1118				ウスギヌカギバ		
1119				アシベニカギバ		
1120				クロスジカギバ		
1121				ヒメハイロカギバ		
1122				ウコンカギバ		
1123				トガリバガ科		オオヤトガリバ
1124						オオバトガリバ
1125			ホソトガリバ			
1126			モントガリバ			
1127			アゲハモドキガ科	キンモンガ		
1128			フタオガ科	クロオビシロフタオ		
1129			シャクガ科	チビトビスジエダシャク		
1130				アシプトチズモンアオシャク		
1131				ナカウスエダシャク		
1132				ウスイロオオエダシャク		
1133				マルバトビスジエダシャク		
1134				ゴマダラシロエダシャク		
1135				クロクモエダシャク		
1136				ヒョウモンエダシャク		
1137				ヨモギエダシャク		
1138				ムスジシロナミシャク		
1139				オオヨスジアカエダシャク		
1140				ホシシジトガリナミシャク		
1141				ヤマトエダシャク		
1142				ホソバハラアオアオシャク		
1143				ウスハラアオアオシャク		
1144				コウスアオシャク		
-						Chlorissa属
1145				クロスジアオナミシャク		
1146				ヒメシロフアオシャク		
1147				ルリモンエダシャク		
1148				ヘリジロヨツメアオシャク		
1149				ギンスジアオシャク		
1150				クロモンアオシャク		
1151				ヨツメアオシャク		
1152				ヨツモンマエジロアオシャク		
1153				ヨツメアオシャク		
1154				ウコンエダシャク		
1155				ツマキエダシャク		
1156				マツオエダシャク		
1157				ウスアオシャク		
1158				ナミスジユアオシャク		
1159				オオハガタナミシャク		
1160				ウストビスジエダシャク		
1161				フトフタオビエダシャク		
1162				オオトビスジエダシャク		
1163				ウスジロエダシャク		
1164				ツマキリエダシャク		
1165				モミヅマキリエダシャク		
1166				サラサエダシャク		
1167				アミメオオエダシャク		
1168				ヘリスジナミシャク		
1169				ウスオビヒメエダシャク		
1170				ハコベナミシャク		
1171				クロテンカバナミシャク		
1172				ハラキカバナミシャク		
-						Eupithecia属
1173				ミヤマアミメナミシャク		
1174				ハガタナミシャク		
1175				セスジナミシャク		
1176				エグリエダシャク		
1177				キマダラオオナミシャク		
1178				キバラエダシャク		
1179				カギシロスジアオシャク		
1180				フタテンオエダシャク		
1181				ウスオエダシャク		
1182				コシロスジアオシャク		
1183				ナミガタエダシャク		
1184				ウラベニエダシャク		
1185				コウスグモナミシャク		
1186				ウスクモナミシャク		
1187				サザナミオビエダシャク		
1188				シロシタトビイロナミシャク		
1189				ウラキトガリエダシャク		
1190				ナカシロオビエダシャク		
1191				オオバナミガタエダシャク		
1192				ウスバミスジエダシャク		

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 17/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
1193	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シャクガ科	ハミスジエダシャク	H15
1194				ヨスジキヒメシャク	
1195				ウスキヒメシャク	
1196				ウスモンキヒメシャク	
1197				オオウスモンキヒメシャク	
-				Idaea属	
1198				チャノウンモンエダシャク	
1199				コガタヒメアオシャク	
1200				マルモンヒメアオシャク	
1201				アトクロナミシャク	
1202				オオフタスジシロエダシャク	
1203				クロズウスキエダシャク	
1204				ウスフタスジシロエダシャク	
1205				バラシロエダシャク	
1206				トビカギバエダシャク	
1207				ニッコウエダシャク	
1208				ウスクモエダシャク	
1209				フタモンクロナミシャク	
1210				クロオオモンエダシャク	
1211				クロミスジシロエダシャク	
1212				ウチムラサキヒメエダシャク	
1213				オオマエキトビエダシャク	
1214				マエキトビエダシャク	
1215				テンモンチビエダシャク	
1216				エグリツマエダシャク	
1217				コヨツメエダシャク	
1218				シロツバメエダシャク	
1219				ウスキツバメエダシャク	
1220				ウスアオエダシャク	
1221				ヒロバウスアオエダシャク	
1222				シナトビスジエダシャク	
1223				オオゴマダラエダシャク	
1224				ツマキリウスキエダシャク	
1225				ウラモンアカエダシャク	
1226				クロフヒメエダシャク	
1227				コカバシジミエダシャク	
1228				ウスグロナミエダシャク	
1229				トビネオオエダシャク	
1230				リンゴツノエダシャク	
1231				ナカキエダシャク	
1232				コナフキエダシャク	
1233				マエキオエダシャク	
1234				クロフオオシロエダシャク	
1235				ヒトツメオオシロヒメシャク	
1236				ニセオレクギエダシャク	
1237				オレクギエダシャク	
-				Protobernia属	
1238				クロテントビイロナミシャク	
1239				フタナミトビヒメシャク	
1240				フタスジオエダシャク	
1241				フタヤマエダシャク	
1242				フタマエホシエダシャク	
1243				クロテンシロヒメシャク	
1244				ウスキトガリヒメシャク	
1245				ギンバネヒメシャク	
1246				ヤスジマルバヒメシャク	
1247				ハイイロヒメシャク	
1248				サツマヒメシャク	
1249				チビシロヒメシャク	
1250				モントビヒメシャク	
1251				マエキヒメシャク	
1252				ナミスジチビヒメシャク	
1253				ウスサカハチヒメシャク	
1254				ヨツボシウスキヒメシャク	
1255				キナミシロヒメシャク	
-				Scopula属	
1256				ハガタムラサキエダシャク	
1257				ビロードナミシャク	
1258				ウンモンオオシロヒメシャク	
1259				ツマトビシロエダシャク	
1260				クロハグルマエダシャク	
1261				ハグルマエダシャク	
1262				マルハグルマエダシャク	
1263				スジハグルマエダシャク	
1264				カギバアオシャク	
1265				キマダラツバメエダシャク	
1266				ミヤマツバメエダシャク	
1267				ウスベニスジヒメシャク	
-				Timandra属	
1268				ホソバナミシャク	
1269				ヒロオビオエダシャク	



表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 18/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川		
1270	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シャクガ科	シロスジオオエダシャク	H15		
1271				ツマグロナミシャク			
1272				フトジマナミシャク			
1273				フタクロテンナミシャク			
1274				モンシロツマキリエダシャク			
1275				ミスジツマキリエダシャク			
1276				トガリエダシャク			
1277				Zethenia属			
1278				ツマキリウスエダシャク			
1279				ヒメシャク亜科			
-				シャクガ科			
1280				イカリモンガ科		イカリモンガ	
1281				カイコガ科		クワコ	
1282				オビガ科		オビガ	
1283				カレハガ科		マツカレハ	
1284						クヌギカレハ	
1285				ヤママユガ科		オナガミスアオ	
-				Actias属			
1286				ヤママユ			
1287				クスサン			
1288				ヒメヤママユ			
1289				スズメガ科		ブドウスズメ	
1290						クルマスズメ	
1291						ホシヒメホウジャク	
1292						ウンモンズズメ	
1293						トビロスズメ	
1294						ベニスズメ	
1295						サザナミスズメ	
1296						ヒメクロホウジャク	
1297						ホシホウジャク	
1298						モモスズメ	
1299						クチバスズメ	
1300						エゾシモフリスズメ	
1301						エゾスズメ	
1302						ピロードスズメ	
1303						ミスジピロードスズメ	
1304						ウチスズメ	
1305						コスズメ	
1306						ツマアカシャチホコ	
1307						ホソバネグロシャチホコ	
1308						コトビモンシャチホコ	
1309						クロテンシャチホコ	
1310						ホソバシャチホコ	
1311						コフタオビシャチホコ	
1312						クワコモドキシャチホコ	
1313						ギンシャチホコ	
1314						ブライヤエグリシャチホコ	
1315						クロシダシャチホコ	
1316						ウスキシヤチホコ	
1317						ヘリスジシャチホコ	
1318						ヒメシャチホコ	
1319						ナカスジシャチホコ	
1320						ネスジシャチホコ	
1321						ナカキシヤチホコ	
1322						ルリモンシャチホコ	
1323						ツマキシヤチホコ	
1324						モンクロシャチホコ	
1325						スズキシヤチホコ	
1326						オオエグリシャチホコ	
1327						セダカシャチホコ	
1328						ウスイロギンモンシャチホコ	
1329						シャチホコガ	
1330						オオアオシャチホコ	
1331						ブライヤアオシャチホコ	
1332						キシヤチホコ	
1333						モンクロギンシャチホコ	
1334						ギンボシシャチホコ	
-						シャチホコガ科	
1335						ヒトリガ科	ホシオビコケガ
1336						ハガタベニコケガ	
1337						スジベニコケガ	
1338						シロヒトリ	
1339						アカスジシロコケガ	
1340						キシダホソバ	
1341						ムシホソバ	
1342						ヤネホソバ	
1343						キマエホソバ	
1344						ニセキマエホソバ	
1345						クロテンハイイロコケガ	
1346						キマエクロホソバ	
1347						キペリネズミホソバ	
1348						ヨツボシホソバ	
1349						ヒメホシキコケガ	
1350						ハガタキコケガ	
1351						ウスバフタホシコケガ	
1352						スカシコケガ	
1353						スジモンヒトリ	
1354						キハラゴマダラヒトリ	
1355						アカハラゴマダラヒトリ	
1356						クロスジヒコケガ	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 19/37

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
1357	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ドクガ科	スカシドクガ	H15
1358				スキドクガ	
1359				アカヒゲドクガ	
1360				リンゴドクガ	
1361				マメドクガ	
1362				キドクガ	
1363				チャドクガ	
1364				ゴマフリドクガ	
1365				ドクガ	
1366				フトウドクガ	
1367				スゲオドクガ	
1368				マイマイガ	
1369				カシワマイマイ	
1370				ミノオマイマイ	
1371				シロオビドクガ	
1372				ヒメシロモンドクガ	
1373				ウチシロマイマイ	
1374				ニワトコドクガ	
1375			ヤガ科	エゾマダラウワバ	
1376				フシロアツバ	
1377				シラナミクロアツバ	
1378				アケビコノハ	
1379				タマナヤガ	
1380				カブラヤガ	
1381				オオウスツマカラスヨトウ	
1382				カラスヨトウ	
1383				オオシマカラスヨトウ	
1384				シマカラスヨトウ	
1385				シロテンツマキリアツバ	
1386				サビヒロコヤガ	
1387				クロテンカバアツバ	
1388				カバマダラヨトウ	
1389				ヒメキヒロヨトウ	
1390				アカキリバ	
1391				ヤマトコヤガ	
1392				ハガタウスキヨトウ	
1393				フクラススメ	
1394				ギンボシリンガ	
1395				シロテウスグロヨトウ	
1396				テウスイロヨトウ	
1397				シロモンオビヨトウ	
1398				ヒメサビスジヨトウ	
-				Atthesis属	
1399				クロハナコヤガ	
1400				モクメヨトウ	
1401				ハジマヨトウ	
1402				コウンモンクチバ	
1403				ムラクモアツバ	
1404				ホシムラサキアツバ	
1405				ウスツマアツバ	
1406				アイモンアツバ	
1407				ヤマガタアツバ	
-				Bomolocha属	
1408				チャイロアツバ	
1409				ウスアオモンコヤガ	
1410				ヒメツマキリヨトウ	
1411				ハイイロコヤガ	
1412				マメキシタバ	
1413				アミスキシタバ	
1414				シロシタバ	
1415				キシタバ	
1416				コガタキシタバ	
1417				カクモンキシタバ	
1418				ハナオヘアツバ	
1419				キンスジアツバ	
1420				フタスジシマコヤガ	
1421				シマフコヤガ	
1422				ツマベニシマコヤガ	
1423				ベニシマコヤガ	
-				Corgatha属	
1424				ミツモンキンウワバ	
1425				エゾギクキンウワバ	
1426				リョクモンオオキンウワバ	
1427				ウスアカヤガ	
1428				オオバコヤガ	
1429				コウスチャヤガ	
1430				アカフヤガ	
1431				ムラサキアツバ	
1432				キイロソトオビアツバ	
1433				クロモクメヨトウ	
1434				シロスアツバ	
1435				オオシラホシアツバ	
1436				シンジュキノカワガ	
1437				キスジコヤガ	
1438				シロモンコヤガ	
1439				モンムラサキクチバ	
1440				オオトモエ	
1441				マダラウスムラサキクチバ	
1442				アカテングチバ	
1443				キンスジキンウワバ	
1444				カザリツマキリアツバ	
1445				アカガネヨトウ	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 20/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
1446	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ヤガ科	ホソバミドリヨトウ	H15
1447				フサヤガ	
1448				ウスグロヤガ	
1449				クロオビリンガ	
1450				ゴボウトガリヨトウ	
1451				フタキボシアツバ	
1452				Hadennia属	
1453				フタデンヒメヨトウ	
1454				ナカジロアツバ	
1455				タバコガ	
1456				アトヘリヒトボシアツバ	
1457				ウスキミスジアツバ	
1458				フシキアツバ	
1459				クロスジアツバ	
1460				シラナミアツバ	
1461				トビスジアツバ	
-				Herminia属	
1462				クロクモヤガ	
1463				オオシラナミアツバ	
1464				ベニエグリコヤガ	
1465				ソトウスグロアツバ	
1466				ヒロオビウスグロアツバ	
1467				ウスズミケンモン	
1468				クロキシタアツバ	
1469				ソトムラサキアツバ	
1470				トビモンアツバ	
1471				ウスチャモンアツバ	
1472				ムラサキミツボシアツバ	
1473				タイワンキシタアツバ	
-				Hypena属	
1474				モンキコヤガ	
1475				オオシロテンクチバ	
1476				シロホシクロアツバ	
-				Idia属	
1477				マエキリンガ	
1478				キモンコヤガ	
1479				トビフタスジアツバ	
1480				チビアツバ	
1481				クビクロクチバ	
1482				ヒメクビクロクチバ	
1483				ヒメオビコヤガ	
1484				ヒメネジロコヤガ	
1485				シャクドウクチバ	
1486				エチゴチヒコブガ	
-				Meganola属	
1487				ホシシミヨトウ	
1488				シロスジトモエ	
1489				フタホシコヤガ	
1490				Micremites属	
1491				ウスオビチビアツバ	
1492				ニセウンモンクチバ	
1493				ウンモンクチバ	
-				Mocis属	
1494				ゴマケンモン	
1495				アオバセダカヨトウ	
1496				フサキバアツバ	
1497				マダラキヨトウ	
1498				クサシロキヨトウ	
1499				ミヤマフタオビキヨトウ	
1500				クロシタキヨトウ	
1501				フタデンキヨトウ	
1502				マメチャイロキヨトウ	
1503				スジシロキヨトウ	
1504				フタオビキヨトウ	
1505				ベニトガリアツバ	
1506				フタオビコヤガ	
1507				フタデンチビアツバ	
1508				ウチジロコヤガ	
1509				マエモンコヤガ	
1510				ヒゲフトクロアツバ	
1511				ナミコブガ	
-				Noia属	
1512				ミヤマクロスジキノカワガ	
1513				クロテンキノカワガ	
1514				マエジロヤガ	
1515				ウスモモイロアツバ	
1516				ツمامラサキアツバ	
-				Olulis属	
1517				アカエグリバ	
1518				ノコメセダカヨトウ	
1519				クロミキリガ	
1520				モンシロククルマコヤガ	
1521				アトキスジクルマコヤガ	
1522				ヤシリモモンコヤガ	
1523				ツマジロツマキリアツバ	
1524				ムラサキツマキリアツバ	
1525				リンゴツマキリアツバ	
1526				ウンモンツマキリアツバ	
1527				シロモンツマキリアツバ	
1528				シロデンムラサキアツバ	
1529				ミスジアツバ	
1530				キボシアツバ	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 21/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川		
1531	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ヤガ科	チャハネキボシアツバ	H15		
-				Paragabara属			
1532				ウスグロセニジモンアツバ			
1533				ニセタマナヤガ			
1534				テンモンシマコヤガ			
1535				ウスベニコヤガ			
1536				モンキアカガネヨトウ			
1537				ヨモギコヤガ			
1538				マエテンヨトウ			
1539				イネキンウバ			
1540				マダラエグリバ			
1541				シロマダラコヤガ			
1542				シロフコヤガ			
-				Protodeltote属			
1543				フタスジヨトウ			
1544				トビモンコヤガ			
1545				アオスジアオリング			
1546				アカスジアオリング			
1547				マエテンアツバ			
1548				ヨシヨトウ			
1549				クロチャマダラキリガ			
1550				クロスジコバ			
1551				マエシロモンアツバ			
1552				タケアツバ			
1553				テンクロアツバ			
-				Rivula属			
1554				サツボロチャイロヨトウ			
1555				トビロトラガ			
1556				シロシタヨトウ			
1557				ハスオビヒメアツバ			
1558				イネヨトウ			
1559				テンオビヨトウ			
1560				オオアカマエアツバ			
1561				ニセアカマエアツバ			
-				Simplicia属			
1562				オオカバシヤガ			
-				Sineugraphe属			
1563				ハグルマトモエ			
1564				オスグロトモエ			
-				Spirama属			
1565				スジキリヨトウ			
1566				ハスモンヨトウ			
1567				シロナヨトウ			
1568				ムモンキイロアツバ			
1569				ウスアオキノコヨトウ			
1570				シロスジキノコヨトウ			
1571				ニセシロフコヤガ			
1572				ネモンシロフコヤガ			
1573				クロシラフクチバ			
1574				シロスジアオヨトウ			
1575				オオシロテンアオヨトウ			
1576				キバラケンモン			
1577				シロオビケルマコヤガ			
1578				ナシケンモン			
1579				マダラヨトウ			
1580				シロモンヤガ			
1581				ウスチャヤガ			
1582				キシタミドリヤガ			
1583				ハイイロキシタヤガ			
1584				ウスグロアツバ			
1585				ツマオビアツバ			
1586				キイロアツバ			
1587				コブヒゲアツバ			
1588				ヒメコブヒゲアツバ			
1589				ツマテンコブヒゲアツバ			
1590				チョウセンコウスグロアツバ			
-				Zanclognatha属			
1591				コウモンクチバ			
1592				アツバ亜科			
-				ヤガ科			
1593				コブガ科		コブガ科	
1594				ヒゲナガガ科		ヒゲナガガ亜科	
1595				ヒルガオハモグリガ科		ヒルガオハモグリガ亜科	
-				チョウ目			
1596				ハエ目(双翅目)		ガガンボ科	ヒメウスバガガンボ
1597							ミカドガガンボ
1598							ネグロクシヒゲガガンボ
1599							ベッコウガガンボ
1600							Dicranomyia属
1601							オトヒメガガンボ
1602							クロバネヒメガガンボ
1603							ホシヒメガガンボ
1604							コマダラヒメガガンボ

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 22/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
1605	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	イツモンヒメガガンボ	H15
1606				ミスジガガンボ	
1607				クチバシガガンボ	
1608				ギフヒゲナガガガンボ	
1609				カスリヒメガガンボ	
-				Limnophila属	
1610				コモンヒメガガンボ	
1611				マダラクロヒメガガンボ	
1612				ホソバネヒメガガンボ	
1613				セアカヒメガガンボ	
1614				タケウチマダラヒメガガンボ	
1615				ウスキバネヒメガガンボ	
1616				ツマジロヒメガガンボ	
-				Limonia属	
1617				Nephrotoma属	
1618				ハスオビガガンボ	
1619				キリウジガガンボ	
1620				マダラガガンボ	
1621				キアシガガンボ	
1622				マドガガンボ	
1623				クロキリウジガガンボ	
1624				ヤチガガンボ	
1625				マエキガガンボ	
-				Tipula属	
1626				シリプトガガンボ亜科	
1627				ヒメガガンボ亜科	
-				ガガンボ科	
1628				ガガンボダマシ科	
-				ニッポンフユガガンボ	
-				ガガンボダマシ科	
1629				アミカ科	
-				シコクアミカ	
-				アミカ科	
1630				チョウバエ科	
1631				セベリンチョウバエ	
1632				マツタケチョウバエ	
-				ホシチョウバエ	
-				チョウバエ科	
1633				ヌカカ科	
1634				ケヌカカ	
1635				ニフトリヌカカ	
1636				タンボツヤヌカカ	
1637				シロフケブカヌカカ	
1638				コンイロヌカカ	
1639				モリヌカカ	
1640				モンヌカカ	
-				フトモムシヒキヌカカ	
-				ヌカカ科	
1641				ケヨソイカ科	
1642				アカケヨソイカ	
1643				ユスリカ科	
1644				セスジユスリカ	
1645				セスジヒラアシユスリカ	
-				セボシヒメユスリカ	
-				ミツオビツヤユスリカ	
1646				Cricotopus属	
1647				クロユスリカ	
1648				ボカシヌマユスリカ	
1649				シロアシユスリカ	
1650				ウスモンユスリカ	
1651				ニッポンカユスリカ	
1652				アカムシユスリカ	
1653				ウスキノヒメユスリカ	
1654				カクスナガレユスリカ	
1655				ハスムグリユスリカ	
1656				アキツキユスリカ	
1657				カスリモンユスリカ	
1658				ミソチビユスリカ	
1659				ミドリオオユスリカ	
-				ニッポンケブカユスリカ	
-				ユスリカ科	
1660				カ科	
-				アカイエカ	
-				Culex属	
-				カ科	
1661				ホソカ科	
1662				クロホソカ	
1663				マガリスネカ科	
-				マガリスネカ科	
1664				ケバエ科	
1665				Bibio属	
1666				ケバエ科	
1667				タマバエ科	
1668				Dasineura属	
1669				キクタマバエ	
1670				Lestremia属	
1671				タマバエ科	
1672				ナガサキニセケバエ	
1673				ナミトモナガキノコバエ	
1674				ヒメホソキノコバエ	
1675				ナミホソキノコバエ	
1676				クロヒラモモキノコバエ	
1677				ニセコシボソキノコバエ	
1678				Fungivora属	
1679				Macrocera属	
1680				イグチナミキノコバエ	
-				ケブカマドキノコバエ	
-				ケアシコンボウキノコバエ	
-				オオムクゲキノコバエ	
-				スジヒトヘダキノコバエ	
-				キノコバエ科	
-				ケズメカ科	
-				ツノケズメカ	
-				ケズメカ科	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 23/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
1681	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	クロハネキノコバエ科	クロハネキノコバエ科	H15	
1682			コガシラアブ科	シバカウコガシラアブ		
1683				セダカコガシラアブ		
1684			ナガレアブ科	クロモンシギアブ		
-				ナガレアブ科		
1685			シギアブ科	フタモンキイロシギアブ		
-				シギアブ科		
1686			ミズアブ科	エソホルリミズアブ		
1687				ハラキンミスアブ		
1688				コウカアブ		
1689				ルリミスアブ		
-				ミスアブ科		
1690			アブ科			ホルバートアブ
1691						マルガタアブ
1692						アカウシアブ
1693						ヤマトアブ
1694		アカアブ				
1695		シロフアブ				
1696		ウシアブ				
-		Tabanus属				
1697	ムシヒキアブ科			カワムラヒゲボソムシヒキ		
1698				クロスジシシアブ		
1699			アオメアブ			
1700			ハラボソムシヒキ			
1701			オオイシアブ			
1702			チャイロオオイシアブ			
1703			ミノモソムシヒキ			
1704			マカリケムシヒキ			
1705			シオヤアブ			
1706			ザキグロムシヒキ			
-		ムシヒキアブ科				
1707	ツリアブ科		コウヤツリアブ			
1708			ホシツリアブ			
1709			ニトベハラボソツリアブ			
1710		スズキハラボソツリアブ				
1711	ツルギアブ科	ツルギアブ科				
1712	アシナガバエ科	アシナガキンバエ				
-		Dolichopus属				
1713		マダラアシナガバエ				
-		アシナガバエ科				
1714	オドリバエ科		イトマルバネオドリバエ			
1715			メスジロナガレオドリバエ			
1716			カマキリナガレオドリバエ			
1717			スジブトナガレオドリバエ			
1718			モモフトセダカオドリバエ			
1719			イミヤクオドリバエ			
1720			アカメセダカオドリバエ			
-			オドリバエ科			
1721	ヤリバエ科	ハコネヤリバエ				
1722	アタマアブ科	ツマグロキアタマアブ				
-		アタマアブ科				
1723	ハナアブ科		ツマグロコシボソハナアブ			
1724			オオマメヒラタアブ			
1725			ナガヒラタアブ			
1726			マダラコシボソハナアブ			
1727			ハシグロクロハナアブ			
1728			ヤマトヒゲナガハナアブ			
1729			オビヒラタアブ			
1730			ヨコシマオオヒラタアブ			
1731			Epistrophe nitidicollis			
1732			ホソヒラタアブ			
1733			ホシメハナアブ			
1734			シマハナアブ			
1735			ハナアブ			
1736			マドヒラタアブ			
1737			ナミホシヒラタアブ			
1738			アシブトハナアブ			
1739			カクモンアシブトハナアブ			
1740			ホソツヤヒラタアブ			
1741			ホシツヤヒラタアブ			
-			Melanostoma属			
1742			シマアシブトハナアブ			
1743			シママメヒラタアブ			
1744			キアシマメヒラタアブ			
1745			ニセキアシマメヒラタアブ			
-			Paragus属			
1746			オオハナアブ			
1747			Pipiza属			
1748			Pseudovolucella属			
1749			Sericomyia属			
1750			ナガヒメヒラタアブ			
1751			キタヒメヒラタアブ			
-			Sphaerophoria属			
1752			ケヒラタアブ			
1753			キイロナミホシヒラタアブ			
1754		ニトベナガハナアブ				
1755		ベッコウハナアブ				
1756		ヨツボシヒラタアブ				
1757		ルリイロナガハナアブ				
-		Xylota属				
1758	ノミバエ科	オオキモンノミバエ				
-		ノミバエ科				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 24/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
1759	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ヒラタアシバエ科	ヒラタアシバエ	H15
1760			ハモグリバエ科	フジハモグリバエ	
1761				ヨモギハモグリバエ	
1762				スダハモグリバエ	
1763				ムキキベリハモグリバエ	
1764				オカザキハモグリバエ	
1765				スイカズラハモグリバエ	
1766				ネギハモグリバエ	
1767				カトウハモグリバエ	
1768				ヨモギクキモグリバエ	
1769				タンボポハモグリバエ	
1770				ヨメナクロハモグリバエ	
1771				ヨメナスジハモグリバエ	
1772				ヤナギハモグリバエ	
1773				ニッポンキクハモグリバエ	
1774				ヤブジラミハモグリバエ	
1775				トガリハモグリバエ	
-				ハモグリバエ科	
1776			ニセミギワバエ科	ニセミギワバエ	
1777			アブラコバエ科	アブラコバエ科	
1778			キモグリバエ科	イネキモグリバエ	
1779				Disciphus subelongatus	
1780				ムキキモグリバエ	
1781				ササノアシプトキモグリバエ	
-				キモグリバエ科	
1782			クチキバエ科	キイロクチキバエ	
-				クチキバエ科	
1783			メバエ科	オオズグロメバエ	
1784				クロフタオレメバエ	
1785				ウスグロメバエ	
1786			ヒゲブトコバエ科	クロメマトイ	
1787			ホソショウジョウバエ科	モンホソショウジョウバエ	
1788			ショウジョウバエ科	マダラメマトイ	
1789				アシグロハシリショウジョウバエ	
1790				ヒメホソショウジョウバエ	
1791				ダンダラショウジョウバエ	
1792				カオジロショウジョウバエ	
1793				フタオビショウジョウバエ	
1794				ヒョウモンショウジョウバエ	
1795				クロツヤショウジョウバエ	
1796				カスリショウジョウバエ	
1797				オオショウジョウバエ	
1798				トビクロショウジョウバエ	
1799				キハダショウジョウバエ	
1800				キイロショウジョウバエ	
1801				ススバネショウジョウバエ	
1802				クロショウジョウバエ	
1803				モンコガネショウジョウバエ	
1804				カザリコガネショウジョウバエ	
1805				オトヒメショウジョウバエ	
1806				クロキノコショウジョウバエ	
1807				コフキヒメショウジョウバエ	
1808				ツヤカプトショウジョウバエ	
-				ショウジョウバエ科	
1809			ベッコウバエ科	ベッコウバエ	
1810			ミギワバエ科	Brachydeutera longipes	
-				ミギワバエ科	
1811			トゲハネバエ科	センチトゲハネバエ	
-				トゲハネバエ科	
1812			シマバエ科	シモフリシマバエ	
1813				キイロシマバエ	
1814				ヒラヤマシマバエ	
1815				Homoneura unguiculata	
-				Homoneura属	
1816				ヤブクロシマバエ	
1817				Trigonometopus forficula	
-				シマバエ科	
1818			クロツヤバエ科	ヤママトクツヤバエ	
1819			ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ	
1820			ヒメコバエ科	Geomyza advena	
-				ヒメコバエ科	
1821			ヒロクチバエ科	ヒロクチバエ科	
1822			デガシラバエ科	フトハチモドキバエ	
1823			ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ	
-				ヤチバエ科	
1824			ツヤホソバエ科	ヒトデンツヤホソバエ	
-				ツヤホソバエ科	
1825			ハヤトビバエ科	ハヤトビバエ科	
1826			ミバエ科	ナツササハマダラミバエ	
1827				チャイロハスジハマダラミバエ	
1828				ヒラヤマアミメケブカミバエ	
1829				ノゲシケブカミバエ	
1830				チャイロケブカミバエ	
1831				ヨモギハマダラミバエ	
1832				ミスジハマダラミバエ	
1833				ミサキオナガミバエ	
-				ミバエ科	
1834			ハナバエ科	ハコベハナバエ	
1835				タネバエ	
1836				アカザモグリハナバエ	
1837				ハコベモグリハナバエ	
-				ハナバエ科	
1838			クロバエ科	オオクロバエ	
1839				オビキンバエ	
1840				ホホクロオビキンバエ	
1841				キンバエ	
1842				ヒツジキンバエ	
-				Lucilia属	
1843				イトウクロバエ	
1844				ツマグロキンバエ	
-				クロバエ科	
1845			ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ科	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 25/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
1846	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	イエバエ科	セマダライエバエ	H15	
1847				モモエグリエバエ		
1848				ヒメクロバエ		
1849				トウヨウカトリバエ		
1850				イエバエ		
1851				オオクロイエバエ		
1852				インドサシバエ		
-				イエバエ科		
1853				ニクバエ科		シリクロニクバエ
1854						Militogrammatinae亜科
-						ニクバエ科
1855				フンバエ科		ヒメフンバエ
-						フンバエ科
1856				ヤドリバエ科		チビハマキヤドリバエ
1857						カイコノウジバエ
1858						ノコギリハリバエ
-						Compsilura属
1859						セスジナガハリバエ
1860						マルボシヒラタヤドリバエ
1861			ヤドリバエ科	クロツヤハリバエ		
1862				クチナガハリバエ		
1863				マダラヤドリバエ		
-				Sturmia属		
1864				ヨコジマオオハリバエ		
1865				コガネオオハリバエ		
1866				セスジハリバエ		
1867				トガハリバエ		
-				Thecocarcelia属		
1868				アシナガハリバエ		
-				ヤドリバエ科		
-				ハエ目		
1869				コウチュウ目(鞘翅目)		ホソクビゴミムシ科
1870			ミイデラゴミムシ			
1871			オサムシ科			キイロチビゴモクムシ
1872						タンゴヒラタゴミムシ
1873						マルガタゴミムシ
1874						コアオマルガタゴミムシ
1875						ニセマルガタゴミムシ
1876						ナガマルガタゴミムシ
1877	イグチマルガタゴミムシ					
1878	ホシボシゴミムシ					
1879	ゴミムシ					
1880	キベリゴモクムシ					
1881	アキタクロナガオサムシ					
1882	フタモンクビナガゴミムシ					
1883	メダカチビカワゴミムシ					
1884	ヨツモンカタキバゴミムシ					
1885	オオフトモンミズギワゴミムシ					
1886	アオミズギワゴミムシ					
1887	オオアオミズギワゴミムシ					
1888	アトモンミズギワゴミムシ					
1889	クロミズギワゴミムシ					
1890	ツマキミズギワゴミムシ					
1891	ヒメモンナガミズギワゴミムシ					
1892	キアシルリミズギワゴミムシ					
1893	オオズヒメゴモクムシ					
1894	ムネミゾマルゴミムシ					
1895	キガシラアオトキリゴミムシ					
1896	アオアトキリゴミムシ					
1897	オオオサムシ					
1898	イワキオサムシ					
1899	ヒメオサムシ					
1900	ヤコンオサムシ					
1901	ヤマトオサムシ					
1902	アカガネアオゴミムシ					
1903	コキベリアオゴミムシ					
1904	ヒメキベリアオゴミムシ					
1905	オオアトボシアオゴミムシ					
1906	アトボシアオゴミムシ					
1907	アオゴミムシ					
1908	キボシアオゴミムシ					



表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 26/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川
1909	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	アオヘリアオゴミムシ	H15
1910				ツヤキベリアオゴミムシ	
1911				ムナヒロアトボシアオゴミムシ	
1912				コガシラアオゴミムシ	
1913				アトワアオゴミムシ	
1914				ウスグロモリヒラタゴミムシ	
1915				チビモリヒラタゴミムシ	
1916				オオアオモリヒラタゴミムシ	
1917				ヤセモリヒラタゴミムシ	
1918				ハラアカモリヒラタゴミムシ	
1919				チャイロホソヒラタゴミムシ	
1920				コハラアカモリヒラタゴミムシ	
1921				イクビモリヒラタゴミムシ	
1922				ヒラタマルゴミムシ	
1923				マイマイカブリ	
1924				ミスギワアトキリゴミムシ	
1925				ルリヒラタゴミムシ	
1926				スナハラゴミムシ	
1927				オオスナハラゴミムシ	
1928				ヒメカワチゴミムシ	
1929				セアカヒラタゴミムシ	
1930				ホソアトキリゴミムシ	
1931				アオヘリホソゴミムシ	
1932				キイロセマルコムシギワゴミムシ	
1933				スジアオゴミムシ	
1934				トゲアシゴモクムシ	
1935				オオゴモクムシ	
1936				ツヤアオゴモクムシ	
1937				ケウスゴモクムシ	
1938				ヒメケゴモクムシ	
1939				ニセケゴモクムシ	
1940				ウスアカクロゴモクムシ	
1941				アカアシマルガタゴモクムシ	
1942				コゴモクムシ	
1943				ハマベゴモクムシ	
1944				ケゴモクムシ	
1945				セグロツヤゴモクムシ	
1946				ナガホラアナヒラタゴミムシ	
1947				トックリゴミムシ	
1948				フタボシアトキリゴミムシ	
1949				ホシハネビロアトキリゴミムシ	
1950				ハネビロアトキリゴミムシ	
1951				ジュウシアトキリゴミムシ	
1952				オオクロナガオサムシ	
1953				クロナガオサムシ	
1954				オオゴミムシ	
1955				キノコゴミムシ	
1956				ノグチアオゴミムシ	
1957				ミヤマメダカゴミムシ	
1958				チャバネクビナゴミムシ	
1959				オオトックリゴミムシ	
1960				ウスケゴモクムシ	
1961				クビナゴモクムシ	
1962				クロオビコムシギワゴミムシ	
1963				ウスオビコムシギワゴミムシ	
1964				ヒラタアトキリゴミムシ	
1965				キアシヌレチゴミムシ	
1966				カドツブゴミムシ	
1967				ダイミョウツブゴミムシ	
1968				クロスホナシゴミムシ	
1969				オオヒラタゴミムシ	
1970				コヒラタゴミムシ	
1971				オオナガゴミムシ	
1972				フジタナガゴミムシ	
1973				マルムネヒメナガゴミムシ	
1974				コガシラナガゴミムシ	
1975				キンナガゴミムシ	
1976				オオクロナガゴミムシ	
1977				キイオオナガゴミムシ	
1978				ヒメホソナガゴミムシ	
1979				ヒョウゴナガゴミムシ	
1980				マルガタナガゴミムシ	
1981				アシミノナガゴミムシ	
1982				ウエノオオナガゴミムシ	
1983				ヨリトモナガゴミムシ	
1984				Pterostichus属	
1985				ケブカヒラタゴミムシ	
1986				ミドリマゴモクムシ	
1987				ムネアカマゴモクムシ	
1988				ホソキバナゴミムシ	
1989				ニッポンツヤヒラタゴミムシ	
1990				マルガタツヤヒラタゴミムシ	
1991				キアシツヤヒラタゴミムシ	
1992				クロツヤヒラタゴミムシ	
1993				ヒメツヤヒラタゴミムシ	
1994				コクツヤヒラタゴミムシ	
1995				オオクツヤヒラタゴミムシ	
1996				ヒメミヤマツヤヒラタゴミムシ	
1997				クロチビカワゴミムシ	
1998				ヒラタコムシギワゴミムシ	
1999				クワイロコムシギワゴミムシ	
				アトモンコムシギワゴミムシ	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 27/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
2000	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	ヨツモンコミスギウゴミムシ	H15
2001				ヨシメクラチビゴミムシ	
2002				アトスジチビゴミムシ	
2003				ヒメツヤゴモクムシ	
2004				ナガツヤゴモクムシ	
2005				クロツヤゴモクムシ	
2006				アカガネオオゴミムシ	
2007				エビアカガネゴミムシ	
2008				フタホシヒメアオゴミムシ	
2009				オオモリヒラタゴミムシ	
2010			ハンミョウ科	ハンミョウ	
2011				アイヌハンミョウ	
2012			ニウハンミョウ		
2013			ゲンゴロウ科	クロズマメゲンゴロウ	
2014				ゲンゴロウ	
2015				ハイロゲンゴロウ	
2016				シマゲンゴロウ	
2017				コシマゲンゴロウ	
2018				ウスイロシマゲンゴロウ	
2019				チビゲンゴロウ	
2020	ゲシゲンゴロウ				
2021	ツブゲンゴロウ				
2022	ヒメゲンゴロウ				
2023	ニセゲシゲンゴロウ				
2024	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ			
2025		コガシラミズムシ			
2026	ガムシ科	タマガムシ			
2027		トゲバゴマフガムシ			
2028		ゴマフガムシ			
2029		アカケシガムシ			
2030		セマルケシガムシ			
2031		キベリヒラタガムシ			
2032		キイロヒラタガムシ			
2033		マルヒラタガムシ			
2034		ガムシ			
2035		シジミガムシ			
2036		マゴソガムシ			
2037		マメガムシ			
2038		ヒメガムシ			
2039	エンマムシ科	ヤマトエンマムシ			
2040		コエンマムシ			
2041	エンマムシ				
2042	アリツカムシ科	アナズアリツカムシ			
2043		オノヒゲアリツカムシ			
2044		コヤマトヒゲフトアリツカムシ			
2045		オオアシナガアリツカムシ			
2046		マメダルマアリツカムシ			
2047		オオズアリツカムシ			
2048		ナミエンマアリツカムシ			
2049	デオキノコムシ科	デオキノコムシ科			
2050		シテムシ科			
2051	オオヒラタシテムシ				
2052	オオモフトシテムシ				
2053	モモフトシテムシ				
2054	クロシテムシ				
2055	ヤマトモンシテムシ				
2056	ヨツボシモンシテムシ				
2057	ハネカクシ科	オオアカバハネカクシ			
2058		ツヤケシヒゲフトハネカクシ			
2059		セナガヒゲフトハネカクシ			
2060		ウスアカヒゲフトハネカクシ			
2061		ホソセスジヒゲフトハネカクシ			
2062		ムネビロハネカクシ			
2063		キアシヒラタチビハネカクシ			
2064		アカイクビハネカクシ			
2065		キバネニセコムシミソハネカクシ			
2066		ニセコムシミソハネカクシ			
2067		ムナクボヒラナガハネカクシ			
2068		オオヒョウタンメダカハネカクシ			
2069		コガシラホソハネカクシ			
2070		ハラモンムネクボハネカクシ			
2071		オオマルズハネカクシ			
2072		コマルズハネカクシ			
2073		ハイイロハネカクシ			
2074		ウスチャセミソハネカクシ			
2075		クロセミソハネカクシ			
2076		ハマベオハネカクシ			
2077		ツマクロアカバハネカクシ			
2078		チビツヤムネハネカクシ			
2079		ヤマトチビアリスハネカクシ			
2080		キアシナガハネカクシ			
2081		コバネナガハネカクシ			
2082		アカフタミソチビハネカクシ			
2083		クロストガリハネカクシ			
2084		ハスオビキノコハネカクシ			
2085		チャバネトガリハネカクシ			
2086		ヤマトイクビハネカクシ			
2087		アカバヒメソハネカクシ			
2088		ツマキツヤナガハネカクシ			
2089		オオサビイロモンキハネカクシ			
2090	サビハネカクシ				
2091	ツノフトツハネカクシ				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 28/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
2091	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ	H15
2092				アラバダドウナガハネカクシ	
2093				ルリコガシラハネカクシ	
2094				クロコガシラハネカクシ	
2095				マルコガシラハネカクシ	
2096				キアシチビコガシラハネカクシ	
2097				ミイロチビハネカクシ	
2098				アカバクビフトハネカクシ	
2099				ドウガネハネカクシ	
2100				クログネハネカクシ	
2101				アカバハネカクシ	
2102				トビムシハネカクシ	
2103				チビハバヒロハネカクシ	
2104				アカバツヤムハネカクシ	
2105				ホソチャバネコガシラハネカクシ	
2106				クビボソハネカクシ	
2107				ハスモンヒメキノコハネカクシ	
2108				ヒメキノコハネカクシ	
2109				ヒメクロキノコハネカクシ	
-				Sepedophi lus属	
2110				ヒゲトチビハネカクシ	
2111	ツヤケシシワチビハネカクシ				
2112	ホソフタホシメダカハネカクシ				
2113	アシマダラメダカハネカクシ				
2114	コクロマルクビハネカクシ				
2115	ヤマトマルクビハネカクシ				
2116	クロスマルクビハネカクシ				
-	Tachinus属				
2117	キベリシリホソハネカクシ				
2118	ツヤグロシリホソハネカクシ				
-	Tachyporus属				
2119	アカアシユミセミソハネカクシ				
2120	ユミセミソハネカクシ				
2121	キバネナガハネカクシ				
2122	ホソガタナガハネカクシ				
2123	ウスイロホソナガハネカクシ				
2124	キノコハネカクシ属				
-	ハネカクシ幼虫				
-	ハネカクシ科				
2125		マルハナノミ科	キイロチビマルハナノミ		
2126			マルガタチビマルハナノミ		
2127			ウスチャチビマルハナノミ		
2128			クロチビマルハナノミ		
2129			トビイロマルハナノミ		
2130		センチコガネ科	オオセンチコガネ		
2131			センチコガネ		
2132		クワガタムシ科	コクワガタ		
2133			ミヤマクワガタ		
2134			スジクワガタ		
2135			アカアシクワガタ		
2136			ノコギリクワガタ		
2137		コガネムシ科	コイチャコガネ		
2138			カブトムシ		
2139			ドウガネブイブイ		
2140			サクラコガネ		
2141			ツヤコガネ		
2142			ハンノヒメコガネ		
2143			ヒメコガネ		
2144			マグソコガネ		
2145			オビマグソコガネ		
2146			セマダラコガネ		
2147			ヒメコエンマコガネ		
2148			マエカドコエンマコガネ		
2149			ハナムグリ		
2150			アオハナムグリ		
2151			コヒゲシマヒロウドコガネ		
2152			ナガチャコガネ		
2153			クワコガネ		
2154			オオクワコガネ		
2155			クワコガネ		
2156			アカヒロウドコガネ		
2157			ヒロウドコガネ		
2158			カミヤヒロウドコガネ		
2159			ヒメヒロウドコガネ		
2160			オオヒロウドコガネ		
2161			マルガタヒロウドコガネ		
2162			コフキコガネ		
2163			オオスジコガネ		
2164			ツヤスジコガネ		
2165			ヒメスジコガネ		
2166			コガネムシ		
2167			スジコガネ		
2168			カバイロヒロウドコガネ		
2169			ヒラタハナムグリ		
2170			クワマルエンマコガネ		
2171			コブマルエンマコガネ		
2172			シナノエンマコガネ		
2173			マルエンマコガネ		
2174			コアオハナムグリ		
2175			マメダルマコガネ		
2176			キスジコガネ		
2177			ヒゲコガネ		

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 29/37

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
2178	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	コガネムシ科	マメコガネ	H15	
2179				ナラノチャイロコガネ		
2180				シロテンハナムグリ		
2181				カナブン		
2182				アオカナブン		
2183				ヒゲナガヒロウドコガネ		
2184				ツヤチャイロコガネ		
2185				イマダテチャイロコガネ		
2186				ナエドコチャイロコガネ		
2187				オオヒラチャイロコガネ		
2188			ホソケシマグソコガネ			
2189			マルトゲムシ科	シラフチビマルトゲムシ		
2190			ヒメドロムシ科	キベリナガアシドロムシ		
2191				キスジミゾドロムシ		
2192				イブシアシナガドロムシ		
2193				アシナガミゾドロムシ		
2194			アウツヤドロムシ			
2195			ナガドロムシ科	ナガドロムシ		
2196				タテスジナガドロムシ		
2197			ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ		
2198				マダチヒラタドロムシ		
2199			ナガハナノミ科	コヒゲナガハナノミ		
2200			タマムシ科	アオグロナガタマムシ		
-				Agrius属		
2201				ヒメヒラタタマムシ		
2202				ウバタマムシ		
2203				ヤマトタマムシ		
2204				ヒラタチビタマムシ		
2205				クズノチビタマムシ		
2206				ヤナギチビタマムシ		
2207				マメチビタマムシ		
2208				ズミチビタマムシ		
2209				アカガネチビタマムシ		
-				Trachys属		
2210			コメツキムシ科			マダラチビコメツキ
2211						サビキコリ
2212						ムナビロサビキコリ
2213		ホソサビキコリ				
2214		ヒメサビキコリ				
2215		ミヤマホソチャバネコメツキ				
2216		クリイロアシフトコメツキ				
2217		ホソハナコメツキ				
-		Cardiophorus属				
2218		キバネホソコメツキ				
2219		オオナガコメツキ				
2220		ムネスジダンダラコメツキ				
2221		チャイロコメツキ				
2222		ホソツヤケシコメツキ				
2223		ニセクチフトコメツキ				
2224		クロツヤケシコメツキ				
2225		ハネナガオオクシコメツキ				
2226		クシコメツキ				
2227		チャバネクシコメツキ				
-		Melanotus属				
2228		ミスギワコメツキ				
2229		クロツヤミスギワコメツキ				
2230		ウバタマコメツキ				
2231		ヒゲコメツキ				
2232		オオハナコメツキ				
-		Platynychus属				
2233		ヒメホソキコメツキ				
2234		カタモンチビコメツキ				
2235		ニホンチビマメコメツキ				
-		Quasimus属				
2236		Scutellathous属				
2237		クチフトコメツキ				
2238		オオツヤハダコメツキ				
2239		オオクシヒゲコメツキ				
2240		ヘリムネマメコメツキ				
2241		ウスイロカネコメツキ				
-		コメツキムシ科				
2242	コメツキダマシ科		ヒメフトコメツキダマシ			
2243			キンケヒメフトコメツキダマシ			
2244			フチトリコメツキダマシ			
2245			ツヤヒメミゾコメツキダマシ			
2246			オオチャイロコメツキダマシ			
2247			エノキコメツキダマシ			
2248			ナガコメツキダマシ			
-		コメツキダマシ科				
2249	ヒゲフトコメツキ科		ナガヒゲフトコメツキ			
2250			チャイロヒゲフトコメツキ			

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 30/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
2251	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ジウカイボン科	ムネアカクロジョウカイ	H15	
2252				クロホソジョウカイ		
2253				ウスチャジョウカイ		
2254				セスジジョウカイ		
2255				クビアカジョウカイ		
2256				ジョウカイボン		
2257				セボシジョウカイ		
2258				フタイロジョウカイ		
2259				コクロヒメジョウカイ		
2260				クロツマキジョウカイ		
2261				ウスバツマキジョウカイ		
-				Malthinus属		
2262				ムネミソクロチビジョウカイ		
-				Malthodes属		
2263				ヒメジョウカイ		
-				Mikadocantharis属		
2264				ミヤマクビボソジョウカイ		
2265				クロヒメクビボソジョウカイ		
-				Podabrus属		
2266				エグリマメジョウカイ		
2267				マルムネジョウカイ		
2268				クロヒメジョウカイ		
-				Rhagonycha属		
2269				クリイロジョウカイ		
2270				キンイロジョウカイ		
-				ジョウカイボン科		
2271				ホタル科		オハボタル
2272				ゲンジボタル		
2273				ヘイケボタル		
2274				ベニボタル科		ユアサクロベニボタル
2275				カクムネベニボタル		
2276				クロハナボタル		
2277				ニセクロハナボタル		
2278				クロアミメボタル		
-				ベニボタル科		
2279				カツオブシムシ科		カマキリタマゴカツオブシムシ
2280				チビカツオブシムシ		
2281				シバンムシ科		タバコシバンムシ
-				シバンムシ科		
2282				ナガシクイムシ科		ゲヤキヒラタキクイムシ
2283				カッコウムシ科		Opi lo属
2284				ジョウカイモドキ科		ホソヒメジョウカイモドキ
2285				クキヌキヒメジョウカイモドキ		
2286				ヒロオビジョウカイモドキ		
2287				キアシオビジョウカイモドキ		
2288				ツマキアオジョウカイモドキ		
2289				ツツシクイ科		ツマグロツツシクイ
2290	ムクゲキスイムシ科	ハスモンムクゲキスイ				
2291	テントウムシ科	ウンモンテントウ				
2292	ムーアシロホシテントウ					
2293	ナナホシテントウ					
2294	マクガタテントウ					
2295	オオニジュウヤホシテントウ					
2296	ナミテントウ					
2297	アトホシヒメテントウ					
-	Nephus属					
2298	ヨツボシテントウ					
2299	ヒメカメノコテントウ					
2300	ハレヤヒメテントウ					
2301	クモガタテントウ					
2302	ベニヘリテントウ					
2303	ババヒメテントウ					
2304	バイゼヒメテントウ					
2305	オニヒメテントウ					
2306	クロヘリヒメテントウ					
2307	クロヒメテントウ					
2308	カワムラヒメテントウ					
2309	トビイロヒメテントウ					
2310	コクロヒメテントウ					
2311	クロテントウ					
2312	テントウムシ					
2313	キシムシ科	ケナガセマルキスイ				
2314	キイロセマルキスイ					
2315	ウスバキスイ					
-	Cryptophagus属					
2316	マルガタキスイ					
2317	Henoticus属					
-	キシムシ科					
2318	ヒラタムシ科	キボシチビヒラタムシ				
2319	ヒメヒラタムシ					
-	ヒラタムシ科					
2320	ミジンムシダマシ科	クロミジンムシダマシ				
2321	コゲチャミジンムシダマシ					
2322	テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ				
2323	セダカテントウダマシ					
2324	チャイロケブカテントウダマシ					
2325	キボシテントウダマシ					
2326	オオキノコムシ科	カタモンオオキノコ				
2327	ヒメオビオオキノコ					
2328	ミヤマオビオオキノコ					
2329	クロハバヒロオオキノコ					
2330	オオキスイムシ科	ヨツボシオオキスイ				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 31/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川	
2331	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	コムツキモドキ科	キムネヒメコムツキモドキ	H15	
2332				ツマグロヒメコムツキモドキ		
2333				Cryptophilus属		
2334				ルイスコムツキモドキ		
2335				ケシコムツキモドキ		
2336				ケナガマルキスイ		
2337				ヒメマキムシ科		ウスチャクシマキムシ
2338				ケシキスイ科		ドワイロムクゲケシキスイ
2339						コクロムクゲケシキスイ
2340						コゲチャセマルケシキスイ
2341						クロハナケシキスイ
2342						ウスチャデオキスイ
2343						クリイロデオキスイ
-						Carpophilus属
2344						マルマルケシキスイ
2345						ナミヒラタケシキスイ
-						Epuraea属
2346						マメヒラタケシキスイ
2347						モンチビヒラタケシキスイ
2348						キイロチビハナケシキスイ
2349						クロヒラタケシキスイ
2350						ヨツボシケシキスイ
2351						マルヒラタケシキスイ
2352						キノコヒラタケシキスイ
2353						ウスオビカケシキスイ
2354						オオキマダラケシキスイ
2355						クロキマダラケシキスイ
2356						マルキマダラケシキスイ
-						ケシキスイ科
2357						ヒメハナムシ科
2358				キイロアシナガヒメハナムシ		
2359				フタスジヒメハナムシ		
2360				エムモンチビヒメハナムシ		
2361				チビヒメハナムシ		
2362				ホソヒラタムシ科		ミツモンセマルヒラタムシ
2363						ホソヒラタキスイ
2364						ミツカドコナヒラタムシ
-				Silvanoprus属		
2365				フタトゲホソヒラタムシ		
2366				ニセクビボソムシ科		クシヒゲニセクビボソムシ
2367						セグロニセクビボソムシ
2368				クチキムシ科		アオバクチキムシ
2369						オオクチキムシ
2370						クチキムシ
2371						ホソクロクチキムシ
2372						ウスイロクチキムシ
2373						クワイロクチキムシ
2374						クロツヤバネクチキムシ
2375						アリモドキ科
2376	ツヤチビホソアリモドキ					
2377	コクロホソアリモドキ					
2378	ホソクビアリモドキ					
2379	ヒゲナガクビボソムシ					
2380	キアシクビボソムシ					
2381	アカクビボソムシ					
-	Macratia属					
2382	ヨツボシホソアリモドキ					
2383	アカモンホソアリモドキ					
2384	ハムシダマシ科	アオハムシダマシ				
2385		ナガハムシダマシ				
2386	ナガクチキムシ科	ピロウドホソナガクチキ				
2387		Falsomordellina属				
2388		ハナノヒメハナノミ				
2389		Glipa属				
2390		アマミヒメハナノミ				
2391		チャオビヒメハナノミ				
2392		カグヤヒメハナノミ				
2393		ミカドヒメハナノミ				
2394		ヤマモトヒメハナノミ				
-		Mordellina属				
2395		クロヒメハナノミ				
-		Mordellistena属				
2396		キンオビハナノミ				
-		ハナノミ科				
2397		コキノコムシ科	ヒゲプトコキノコムシ			
2398	カミキリモドキ科	ルリカミキリモドキ				
2399		ハネアカカミキリモドキ				
2400		モモトカミキリモドキ				
2401		キアシカミキリモドキ				
2402		キイロカミキリモドキ				
2403		キバネカミキリモドキ				
2404		アオカミキリモドキ				
-		Xanthochroa属				
2405		アカハネムシ科	アカハネムシ			
2406		ハナノミダマシ科	ホソフナガタハナノミ			
2407	ゴミムシダマシ科	ヒメゴミムシダマシ				
2408		ヨツボシゴミムシダマシ				
2409		ナガニシゴミムシダマシ				
2410		クロホシテントウゴミムシダマシ				
2411		モンキゴミムシダマシ				
2412		スナゴミムシダマシ				
2413		カクスタゴミムシダマシ				

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 32/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川		
2414	昆虫網	コウチュウ目(鞘翅目)	ゴミムシダマシ科	ホソスナゴミムシダマシ	H15		
2415				ヒメカクスナゴミムシダマシ			
2416				スジコガシラゴミムシダマシ			
2417				カプトゴミムシダマシ			
2418				マルツヤキノコゴミムシダマシ			
2419				オオメキノコゴミムシダマシ			
2420				クロツヤキノコゴミムシダマシ			
2421				キマワリ			
2422				ヒメマルムネゴミムシダマシ			
2423				ニジゴミムシダマシ			
2424				モトヨツコブゴミムシダマシ			
2425				ヤマトエグリゴミムシダマシ			
2426				ヨツコブゴミムシダマシ			
2427				エグリゴミムシダマシ			
-				ゴミムシダマシ科			
2428				カミキリムシ科		ピロウドカミキリ	
2429						ムモンベニカミキリ	
2430						ツヤケシハナカミキリ	
2431						ゴマダラカミキリ	
2432						サビカミキリ	
2433						ムネツヤサビカミキリ	
2434						キクスイモドキカミキリ	
2435						ツシムムナクボカミキリ	
2436						エグリトラカミキリ	
2437						アカハナカミキリ	
2438						ホソカミキリ	
2439						ヨツキボシカミキリ	
2440						アトモンマルケシカミキリ	
2441						シロオビゴマフカミキリ	
2442						シラボシカミキリ	
2443						ヨツスジハナカミキリ	
2444						オオヨツスジハナカミキリ	
2445						ヒシカミキリ	
2446						ヘリグロリンゴカミキリ	
2447						ラミーカミキリ	
2448						ニンフホソハナカミキリ	
2449						チャイロヒメハナカミキリ	
2450						フタオビチビハナカミキリ	
-						Pidonia属	
2451						ノコギリカミキリ	
2452						ワモンサビカミキリ	
2453						トカリシロオビサビカミキリ	
2454						アトモンサビカミキリ	
2455						ヒトオビアラゲカミキリ	
2456						クロカミキリ	
2457						ヨツボシカミキリ	
2458						コウヤホソハナカミキリ	
2459						アオスジカミキリ	
2460						ハムシ科	キクビアオハムシ
2461							ヒメカミナリハムシ
2462							アザミカミナリハムシ
2463							カミナリハムシ
2464							スジカミナリハムシ
2465							アカバナトビハムシ
-							Altica属
2466							キイロツブノミハムシ
2467							ツブノミハムシ
2468							サメハダツブノミハムシ
2469							ホソリトビハムシ
2470							フタイロセマルトビハムシ
2471							オオアカマルノミハムシ
2472							ムナグロツヤハムシ
2473							カクムネトビハムシ
2474							オオキイロノミハムシ
2475							ウリハムシモドキ
2476							ウリハムシ
2477							クロウリハムシ
2478							アオバナサルハムシ
2479							アズキマメソウムシ
2480							ハラグロヒメハムシ
2481							ヒメカメノコハムシ
2482							フタイロヒサゴトビハムシ
2483							ヒメドウガネトビハムシ
2484							ヒサゴトビハムシ
-							Chaetocnema属
2485							ムシクソハムシ
2486							ヤナギハムシ
2487							ウエツキブナハムシ
2488							アオバミドリトビハムシ
2489							バラリリツツハムシ
2490							タチスジキツツハムシ
2491							ヨツモンクワツツハムシ
2492							クワボシツツハムシ
-							Cryptocephalus属
2493							マダラアラゲサルハムシ
2494							イネネクイハムシ
2495							キバラヒメハムシ
-							Exosoma属
2496							クワハムシ
2497							ジュンサイハムシ
2498							イタドリハムシ
2499							ズグロキハムシ

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 33/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
2500	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ハムシ科	ヤツボシハムシ	H15
2501				フジハムシ	
2502				キバネマルノミハムシ	
2503				ヒゲナガルリマルノミハムシ	
2504				ケブカクロナガハムシ	
2505				キオビクビボソハムシ	
2506				アカクビボソハムシ	
2507				ヤマイモハムシ	
2508				ルリハムシ	
2509				サシゲトビハムシ	
2510				イヌノフグリトビハムシ	
2511				オオバコトビハムシ	
2512				クビアカトビハムシ	
2513				キアシノミハムシ	
-				Luperomorpha属	
2514				クロウスバハムシ	
2515				コフキサルハムシ	
2516				フタスジヒメハムシ	
2517				セマルトビハムシ	
2518				ホタルハムシ	
2519				ムネアカウスイロハムシ	
2520				ヒメウスイロハムシ	
2521				キイロクワハムシ	
-				Monolepta属	
2522				ルリマルノミハムシ	
2523				コマルノミハムシ	
2524				ドウガネツヤハムシ	
2525				アオグロツヤハムシ	
2526				ヒメツヤハムシ	
2527				フタクサハムシ	
2528				ヒメキバネサルハムシ	
2529				アトボシハムシ	
2530				ダイコンハムシ	
2531				チャバネツヤハムシ	
2532				ヤナギルリハムシ	
2533				フタホシオオノミハムシ	
2534				クビボソトビハムシ	
2535				ナトビハムシ	
2536				サンゴジュハムシ	
2537				ニレハムシ	
2538				ドウガネサルハムシ	
2539				キボシルリハムシ	
2540				アケビタマノミハムシ	
2541				キイロタマノミハムシ	
2542				ルリウスバハムシ	
2543				ヒゲナガウスバハムシ	
2544				クロバヒゲナガハムシ	
2545				イチモンジカメノコハムシ	
2546				トビサルハムシ	
2547				キカサハラハムシ	
2548				ムナグロナガハムシ	
2549				アラハダトビハムシ	
2550				ガマスミトビハムシ	
2551				ヒソバキハムシ	
2552				シリアカタマノミハムシ	
2553			ヒゲナガゾウムシ科	スネアカヒゲナガゾウムシ	
2554				キノコヒゲナガゾウムシ	
2555				ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	
2556				シロヒゲナガゾウムシ	
2557				クロフヒゲナガゾウムシ	
2558			ホソクチゾウムシ科	マメホソクチゾウムシ	
2559				ヒレヒソクチゾウムシ	
2560				アカクチホソクチゾウムシ	
2561			オトシブミ科	ウスモンオトシブミ	
2562				ヒメクロオトシブミ	
2563				ムツモンオトシブミ	
2564				エゴツルクビオトシブミ	
2565				コナライクビチョッキリ	
2566				ナラリオトシブミ	
2567				ハギルリオトシブミ	
2568				カシルリオトシブミ	
2569				リュイスアシナガオトシブミ	
2570				アシナガオトシブミ	
2571				ヒメコブオトシブミ	
2572			ゾウムシ科	Acallinus属	
2573				ナカグロカレキゾウムシ	
2574				ウスモンカレキゾウムシ	
2575				ナカスジカレキゾウムシ	
-				Acicnemis属	
2576				トゲアシゾウムシ	
2577				イチゴハナゾウムシ	



表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 34/37)

No.	網名	目名	科名	和名	下流河川			
2578	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゾウムシ科	クワヒメゾウムシ	H15			
2579				ホソクチカクシゾウムシ				
2580				ツヤチビヒメゾウムシ				
2581				ダイコンサルゾウムシ				
2582				カナムグラサルゾウムシ				
-				Ceutorhynchus属				
2583				ジュウジコブサルゾウムシ				
2584				セダカシギゾウムシ				
2585				コナラシギゾウムシ				
2586				ジュウジチビシギゾウムシ				
2587				クリシギゾウムシ				
-				Curculio属				
2588				チビクチカクシゾウムシ				
2589				タバゲササラゾウムシ				
2590				ヤナギイネゾウムシ				
2591				ココロアナキゾウムシ				
2592				トドマツアナキゾウムシ				
2593				シロコブゾウムシ				
2594				コフキゾウムシ				
2595				タデサルゾウムシ				
2596				マツアナキゾウムシ				
2597				サビノコギリゾウムシ				
2598				イネミスゾウムシ				
2599				ハスジカツオゾウムシ				
2600				ウスアオクチフトゾウムシ				
2601				ヒメクロツキクイゾウムシ				
2602				ネジキトゲムネサルゾウムシ				
2603				ツツジトゲムネサルゾウムシ				
2604				ホホジロアシナガゾウムシ				
2605				キスジアシナガゾウムシ				
2606				カシアシナガゾウムシ				
2607				クロアシナガゾウムシ				
2608				オジロアシナガゾウムシ				
2609				トゲハラヒラセクモゾウムシ				
-				Metiama属				
2610				カシワクチフトゾウムシ				
-				Myliocerus属				
2611				チビヒョウタンゾウムシ				
2612				マツチャイロクイゾウムシ				
2613				ヒレルクチフトゾウムシ				
2614				リンゴコフキゾウムシ				
2615				コヒゲボソゾウムシ				
2616				ツチイロヒゲボソゾウムシ				
2617				ヒラスネヒゲボソゾウムシ				
2618				リンゴヒゲナガゾウムシ				
2619				ウスイロヒゲボソゾウムシ				
2620				ハダカヒゲボソゾウムシ				
-				Phyllobius属				
2621				スグリゾウムシ				
2622				アラハダクチカクシゾウムシ				
2623				ギンギシクチフトサルゾウムシ				
2624				ムネスジノミゾウムシ				
-				Rhynchaenus属				
2625				キイチゴトゲサルゾウムシ				
2626				ニセマツノシラホシゾウムシ				
2627				Smicronyx属				
2628				イコマケシツチゾウムシ				
2629				オサゾウムシ科		キクイサビゾウムシ		
2630				オオゾウムシ				
2631				キクイムシ科		ネッカコキクイムシ		
-				Cryphalus属				
2632				フィリピンキクイムシ				
2633				ハイマツアトマルキクイムシ				
2634				タブノキクイムシ				
2635				クワノキクイムシ				
2636				シノホソキクイムシ				
2637				ハギキクイムシ				
2638				ハンノキキクイムシ				
2639				ザイノキクイムシ亜科				
-				キクイムシ科				
2640				ハチ目(膜翅目)		ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジ	
2641							チュウレンジハチ	
2642							ハバチ科	セグロカブラハバチ
2643								ニホンカブラハバチ
2644								クロムネハバチ
2645								ヒゲナガハバチ
2646								クロハバチ
2647								アシトヒゲナガハバチ
2648								チャイロハバチ
2649								ルイスアカマルハバチ
2650								クロイロシマハバチ
2651								ヒゲナガクロハバチ
2652								Prionophorus属
2653								トムソンハムグリハバチ
2654								セマダラハバチ
2655								オオコシアカハバチ
2656								サクツクリハバチ
2657								ゼンマイハバチ
2658								ツノキクロハバチ
2659								オメガアハバチ
-							ハバチ科	
2660							クビナガキハバチ科	クビナガキハバチ科

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 35/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川			
					H15			
2661	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	コマユバチ科	サクラスカシサムライコマユバチ				
2662				モモクロサムライコマユバチ				
2663				アオムシサムライコマユバチ				
2664				クワノメイガサムライコマユバチ				
2665				フランコサムライコマユバチ				
2666				キタカミキリコマユバチ				
2667				マルバラコマユバチ				
2668				ムナカタコウラコマユバチ				
2669				ヒメコウラコマユバチ				
-				Cheilonus属				
2670				ヒメウマノオバチ				
2671				ヒゲナガコマユバチ				
2672				クロヒゲナガコマユバチ				
2673				サラサヒトリハラボソコマユバチ				
2674				クロオオサムライコマユバチ				
2675				タテハオオサムライコマユバチ				
2676				ヨトウオオサムライコマユバチ				
2677				ヨコハママダラコマユバチ				
2678				カモドキバチモドキ				
2679				カモドキバチ				
2680				ヨコハマコマユバチ				
2681				オオアメイロコンボウコマユバチ				
2682				チビキイロコウラコマユバチ				
-				コマユバチ科				
2683				ヒメバチ科			スジコンボウヒメバチ	
2684							クロヒゲフシオナガヒメバチ	
2685							シロテントガリヒメバチ	
2686	イヨヒメバチ							
2687	ハラボソトガリヒメバチ							
2688	エゾフタオヒメバチ							
2689	スギハラチピアメバチ							
2690	シロモンヒラタヒメバチ							
2691	クロモンアメバチ							
2692	ムラサキウスアメバチ							
2693	クロヒラタアブドリバチ							
2694	シコクホシアメバチ							
2695	キマダラコシボソトガリヒメバチ							
2696	Habronyx heros							
2697	コンボウアメバチ							
2698	ヒョウモンヒメバチ							
2699	アマヒトリヤドリヒメバチ							
2700	マツケムシヒラタヒメバチ							
2701	アオムシヒラタヒメバチ							
2702	Megarhyssa属							
2703	ツバメシジミセアカヒメバチ							
2704	タカオウスグロアメバチ							
2705	ツマグロケンヒメバチ							
2706	シラホシオナガバチ							
2707	エゾフタオマルヒメバチ							
-	ヒメバチ科							
2708	カギバラバチ科	キスジセアカカギバラバチ						
2709	ヒゲナガクロバチ科	ヒゲナガクロバチ科						
2710	コンボウヤセバチ科	コンボウヤセバチ						
2711	ハエヤドリクロバチ科	ハエヤドリクロバチ科						
2712	ハラビロクロバチ科	Inostenma属						
-		ハラビロクロバチ科						
2713	シリボソクロバチ科	シリボソクロバチ科						
2714	クシツメクロバチ科	クシツメクロバチ科						
2715	イシハラクロバチ科	イシハラクロバチ科						
2716	タマゴクロバチ科	ズイムシクロタマゴバチ						
2717	-	ギフクロタマゴバチ						
-		タマゴクロバチ科						
2718	オオモンクロバチ科	オオモンクロバチ科						
2719	ツヤコバチ科	ツヤコバチ科						
2720	アシプトコバチ科	キアシプトコバチ						
-		アシプトコバチ科						
2721	トビコバチ科	トビコバチ科						
2722	アリヤドリコバチ科	アリヤドリコバチ科						
2723	ヒメコバチ科	ヒメコバチ科						
2724	ナガコバチ科	マツケムシハネミジカタマゴバチ						
-		ナガコバチ科						
2725	カタビロコバチ科	カタビロコバチ科						
2726	コガネコバチ科	コガネコバチ科						
2727	オナガコバチ科	オナガアシプトコバチ						
-		オナガコバチ科						
2728	タマゴコバチ科	タマゴコバチ科						
2729	ホソハネコバチ科	ホソハネコバチ科						
2730	ヤドリタマバチ科	ヤドリタマバチ科						
2731	ツヤヤドリタマバチ科	ツヤヤドリタマバチ科						
2732	-	コバチ上科						
2733	セイボウ科	セイボウ科						
2734	アリ科	ノコギリハリアリ						
2735		アシナガアリ						
2736		ヤマトアシナガアリ						
2737		オオハリアリ						
2738		ニシムネアカオオアリ						
2739		イトウオオアリ						
2740		クロオオアリ						
2741		ミカドオオアリ						
2742		ナワヨツボシオオアリ						
2743		ヒラスオオアリ						
2744		ムネアカオオアリ						

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 36/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川
2745	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	アリ科	ウメマツオオアリ	H15
2746				ヤマヨツボシオオアリ	
2747				ツチクビレハリアリ	
2748				ツヤシリアゲアリ	
2749				ハリフトシリアゲアリ	
2750				キイロシリアゲアリ	
2751				テラニシシリアゲアリ	
2752				トビロシリアゲアリ	
2753				メクラハリアリ	
2754				ハヤシクロヤマアリ	
2755				クロヤマアリ	
2756				アカヤマアリ	
2757				ツヤクロヤマアリ	
2758				シベリアカタアリ	
2759				ルリアリ	
2760				フシボソクサアリ	
2761				クロクサアリ	
2762				ハヤシケアリ	
2763				トビロケアリ	
2764				クサアリモドキ	
2765				アメイロケアリ	
2766				ヒメムネボソアリ	
2767				ハリナガムネボソアリ	
2768				ハヤシムネボソアリ	
2769				ミソガシラアリ	
2770				ヒメアリ	
2771				キイロヒメアリ	
2772				カドフシアリ	
2773				シワクシケアリ	
2774				アメイロアリ	
2775				サクラアリ	
-				Paratrechina属	
2776				ヒラタウロコアリ	
2777				アズマオオズアリ	
2778				オオズアリ	
2779				サムライアリ	
2780				トゲアリ	
2781				ヒメハリアリ	
2782				アミメアリ	
2783				トフシアリ	
2784				メクラナガアリ	
2785				ウロコアリ	
-				Strumigenys属	
2786				ヒラフシアリ	
2787				オオシワアリ	
2788				トビロシワアリ	
2789				ウメマツアリ	
2790				ハリアリ亜科	
2791				フタフシアリ亜科	
2792				ヤマアリ亜科	
-				アリ科	
2793			ドロバチ科	オオフタオビドロバチ本土亜種	
2794				ミカドトックリバチ	
2795				キアシトックリバチ	
2796				ムモントックリバチ	
2797				サムライトックリバチ	
2798				ミカドドロバチ	
2799				スズバチ	
2800				カバフドロバチ	
2801			スズメバチ科	ムモンホソアシナガバチ	
2802				トウヨウホソアシナガバチ	
2803				セグロアシナガバチ	
2804				ヤマトアシナガバチ	
2805				キボシアシナガバチ	
2806				コアシナガバチ	
2807				コガタスズメバチ	
2808				オオスズメバチ	
2809				キイロスズメバチ	
2810				ヒメスズメバチ	
2811				クロスズメバチ	
2812				スズメバチ	
-				スズメバチ科	
2813			ベッコウバチ科	アケボノベッコウ	
2814				オオモンクロボッコウ	
2815				ヒラカタベッコウ	
2816				ヒメベッコウ	
2817				スギハラベッコウ	
2818				ベレエヒゲベッコウ	
2819				キバネトゲアシベッコウ	
-				ベッコウバチ科	
2820			アリバチ科	アリバチモドキ	
-				アリバチ科	
2821			コツチバチ科	Tiphia属	
2822			ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ	
2823				キンケハラナガツチバチ	
2824				ハラナガツチバチ	
2825				オオハラナガツチバチ	
2826				キオビツチバチ	
2827			アナバチ科	サトジガバチ	
-				Ammophila属	
2828				ミカドジガバチ	
2829				コクロアナバチ	
2830				Rhopalum属	
2831				クロアナバチ	
2832				オオハヤバチ	
2833				ジガバチモドキ	
2834				ヒメコシボソバチ亜科	

表 6.6-27 下流河川確認種リスト(陸上昆虫類 : 37/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	下流河川			
2835	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	アナバチ科	ドロハチモドキ亜科	H15			
2836				キングチバチ亜科				
2837			ヒメハナバチ科	アブラナマメヒメハナバチ				
2838				キバナヒメハナバチ				
2839				ミカドヒメハナバチ				
2840				ムネアカハラヒロヒメハナバチ				
2841				ウツギヒメハナバチ				
-				Andrena属				
2842				コシブトハナバチ科		スジボソコシブトハナバチ		
2843						ヤマトツヤハナバチ		
-						Ceratina属		
2844						Nomada属		
2845			ミツクリヒゲナガハナバチ					
2846			ニッポンヒゲナガハナバチ					
2847			ミツバチ科	クマバチ				
2848				ニホンミツバチ				
2849				コマルハナバチ				
2850				トラマルハナバチ				
-			Bombus属					
2851			ムカシハナバチ科	アシプトムカシハナバチ				
-				Colletes属				
2852				ツグロチビムカシハナバチ				
2853				ヒメチビムカシハナバチ				
2854			コハナバチ科	アカガネコハナバチ				
-				Halictus属				
2855			昆虫綱	ハチ目(膜翅目)		コハナバチ科	ツマルコハナバチ	391種
2856							ツヤハラナガコハナバチ	
-						Lasioglossum属		
-	コハナバチ科							
2857	ハキリバチ科	オオハキリバチ						
2858		キハラハキリバチ						
-		ハチ目						
-								
2綱24目406科2858種								

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2. 種名に「…属」「…科」「…亜科」「…目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

(ダム湖周辺確認種リスト)

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 1/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ			
2			トウゲシバ			
3		イワヒバ科	ヒメクラマゴケ			
4			カタヒバ			
5			クラマゴケ			
6			イワヒバ			
7		トクサ科	スギナ			
8			トクサ			
9			イヌドクサ			
10		ハナヤスリ科	オオハナワラビ			
11			フユノハナワラビ			
12			ナツノハナワラビ			
13		ゼンマイ科	ゼンマイ			
14		キジノオシダ科	オオキジノオ			
15			キジノオシダ			
16		ウラジロ科	コシダ			
17			ウラジロ			
18		フサシダ科	カニクサ			
19		コケシノブ科	アオホラゴケ			
20			ウチワゴケ			
21			コウヤコケシノブ			
22			ハイホラゴケ			
23		コバノイシカグマ科	イヌシダ			
24			コバノイシカグマ			
25			イワヒメワラビ			
26			フモトシダ			
27			ワラビ			
28		ホングウシダ科	ホラシノブ			
29		シノブ科	シノブ			
30		ミズワラビ科	ホウライシダ			
31			ハコネシダ			
32			クジャクシダ			
33			イワガネゼンマイ			
34			ウラゲイワガネ			
35			イワガネソウ			
36			タチシノブ			
37		シシラン科	シシラン			
38		イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ			
39			イノモトソウ			
40		チャセンシダ科	ホウビシダ			
41			トラノオシダ			
42			コバノヒノキシダ			
43			イワトラノオ			
44			チャセンシダ			
45			イヌチャセンシダ			
46			アオガネシダ			
47		シシガシラ科	シシガシラ			
48			コモチシダ			
49		オシダ科	ホソバカナワラビ			
50			ナンゴクナライシダ			
51			ミドリカナワラビ			
52			ハカタシダ			
53			オニカナワラビ			
54			リョウメンシダ			
55			キヨスミヒメワラビ			
56			メヤブソテツ			
57			ヤブソテツ			
58			ヤマヤブソテツ			
59			ミヤコヤブソテツ			
60			イワヘゴ			
61			サイゴクベニシダ			
62			ミサキカグマ			
63			ベニシダ			
64			マルバベニシダ			
65			オオベニシダ			
66			クマワラビ			
67			ミヤマイタチシダ			
68			オクマワラビ			
69			ナンカイイタチシダ			
70			オオイタチシダ			
71			ヒメイタチシダ			
72			ヤマイタチシダ			

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 2/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺			
				H6	H11	H16	
73	シダ植物	オシダ科	アイノコクマワラビ				
74			アイアスカイノデ				
75			カタイノデ				
76			ツヤナシイノデ				
77			イノデ				
78			サイゴクイノデ				
79			イノデモドキ				
80			ジュウモンジシダ				
81			ヒメカナワラビ				
82			ヒメシダ科	ゲシゲシシダ			
83				ミゾシダ			
84				ホシダ			
85				イブキシダ			
86				ハシゴシダ			
87				コハシゴシダ			
88				ハリガネワラビ			
89				イワハリガネワラビ			
90				ヤワラシダ			
91		ヒメシダ					
92		ヒメワラビ					
93		ミドリヒメワラビ					
94		メシダ科		カラクサイヌワラビ			
95				サトメシダ			
96				ホソバイヌワラビ			
97				ヌリワラビ			
98				イヌワラビ			
99				ヤマイヌワラビ			
100			ヒロハイヌワラビ				
101			シケチシダ				
102			ホソバシケシダ				
103			セイタカシケシダ				
104			シケシダ				
105			オオヒメワラビ				
106			ミヤマシケシダ				
107			ハクモウイノデ				
108			オニヒカゲワラビ				
109			キヨタキシダ				
110			ノコギリシダ				
111			イヌガンソク				
112		クサツテツ					
113		コウヤワラビ					
114		ウラボシ科	ミツデウラボシ				
115			マメツタ				
116			ノキシノブ				
117			イワヤナギシダ				
118			ヒトツバ				
119		裸子植物	マツ科	モミ			
120				アカマツ			
121			スギ科	スギ			
122				ヒノキ科	ヒノキ		
123				サワラ			
124				カイツカイブキ			
125				ネズ			
126			イヌガヤ科	イヌガヤ			
127			イチイ科	カヤ			
128		離弁花類	クルミ科	オニグルミ			
129			ヤナギ科	ヤマナラシ			
130				サイコクキツネヤナギ			
131				バッコヤナギ			
132				アカメヤナギ			
133				ジャヤナギ			
134				カワヤナギ			
135				ネコヤナギ			
136				イヌコリヤナギ			
137				タチヤナギ			
138				マルバヤナギ			
139				カバノキ科	ケヤマハンノキ		
140			ヤマハンノキ				
141			ヒメヤシャブシ				
142			カワラハンノキ				
143			オオバヤシャブシ				
144			クマシデ				

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 3/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺			
				H6	H11	H16	
145	離弁花類	カバノキ科	アカシデ				
146			イヌシデ				
147		ブナ科		クリ			
148				クヌギ			
149				ナラガシワ			
150				アラカシ			
151				シラカシ			
152				ウラジロガシ			
153				コナラ			
154				アベマキ			
155		ニレ科		コバノチョウセンエノキ			
156				エゾエノキ			
157				エノキ			
158				アキニレ			
159	ケヤキ						
160	クワ科		ヒメコウゾ				
161			コウゾ				
162			クワクサ				
163			イヌビワ				
164			イタビカズラ				
165			カナムグラ				
166			ヤマグワ				
167			イラクサ科		クサコアカソ		
168	ヤブマオ						
169	カラムシ						
170	ナンバンカラムシ						
171	メヤブマオ						
172	ナガバヤブマオ						
173	コアカソ						
174	アカソ						
175	ヤマトキホコリ						
176	ウワバミソウ						
177	ムカゴイラクサ						
178	カテンソウ						
179	サンショウソウ						
180	ミス						
181	ヤマミズ						
182	ミヤコミス						
183	アオミス						
184	ビャクダン科	カナビキソウ					
185	タデ科		ミスヒキ				
186			シンミスヒキ				
187			シャクチリソバ				
188			ミヤマタニソバ				
189			ヤナギタデ				
190			オオイヌタデ				
191			イヌタデ				
192			ヤノネグサ				
193			イシミカワ				
194			ハナタデ				
195			ボントクタデ				
196			サナエタデ				
197			アキノウナギツカミ				
198			ミゾソバ				
199			ヤマミゾソバ				
200			ハルタデ				
201			イタドリ				
202	スイバ						
203	ヒメスイバ						
204	アレチギシギシ						
205	ナガバギシギシ						
206	ギシギシ						
207	エゾノギシギシ						
208	ヤマゴボウ科		ヨウシュヤマゴボウ				
209			マルミノヤマゴボウ				
210	ザクロソウ科		ザクロソウ				
211			クルマバザクロソウ				
212	スベリヒユ科	スベリヒユ					
213	ナデシコ科		ノミノツヅリ				
214			オランダミミナグサ				
215			ミミナグサ				
216			ナンバンハコベ				



表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 4/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
217	離弁花類	ナデシコ科	カワラナデシコ			
218			フシグロセンノウ			
219			ツメクサ			
220			ノミノフスマ			
221			ウシハコベ			
222			サワハコベ			
223			コハコベ			
224			ミドリハコベ			
225			ミヤマハコベ			
226			アカザ科	シロザ		
227		アカザ				
228		アリタソウ				
229		ケアリタソウ				
230		ヒコ科	ヒカゲイノコズチ			
231			ヒナタイノコズチ			
232			ホソバツルノゲイトウ			
233			イヌビユ			
234			ホソアオゲイトウ			
235			ホナガアオゲイトウ			
236			モクレン科	ホオノキ		
237		タムシバ				
238		マツバサ科	サネカズラ			
239			マツバサ			
240	シキミ科	シキミ				
241	クスノキ科	カゴノキ				
242		クスノキ				
243		ヤブニッケイ				
244		カナクキノキ				
245		ヤマコウバシ				
246		ダンコウバイ				
247		クロモジ				
248		ヒメクロモジ				
249		ホソバタブ				
250		シロダモ				
251		アブラチャン				
252	フサザクラ科	フサザクラ				
253	キンボウゲ科	イヌショウマ				
254		ボタンツル				
255		ハンショウツル				
256		センニンソウ				
257		シロバナハンショウツル				
258		トウゴクサバノオ				
259		ウマノアシガタ				
260		タガラシ				
261		キツネノボタン				
262		アキカラマツ				
263	メギ科	ヒイラギナンテン				
264		ナンテン				
265	アケビ科	アケビ				
266		ミツバアケビ				
267		ムベ				
268	ツツラフジ科	アオツツラフジ				
269		ツツラフジ				
270	ドクダミ科	ドクダミ				
271	センリョウ科	フタリシズカ				
272	ウマノスズクサ科	ホソバウマノスズクサ				
273		ミヤコアオイ				
274	マタタビ科	サルナシ				
275		シナサルナシ				
276		ウラジロマタタビ				
277		マタタビ				
278	ツバキ科	ヤブツバキ				
279		サカキ				
280		ヒサカキ				
281		チャノキ				
282	オトギリソウ科	オトギリソウ				
283		コケオトギリ				
284	モウセンゴケ科	モウセンゴケ				
285	ケシ科	クサノオウ				
286		キケマン				
287		ムラサキケマン				
288		ミヤマキケマン				
289		タケニグサ				

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 5/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
290	離弁花類	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ			
291		アブラナ科	ヤマハタザオ			
292			セイヨウカラシナ			
293			ナズナ			
294			ニシノオオタネツケバナ			
295			タネツケバナ			
296			タチタネツケバナ			
297			ジャンジン			
298			オオバタネツケバナ			
299			オランダガラシ			
300			コイヌガラシ			
301			ミチバタガラシ			
302			イヌガラシ			
303			スカシタゴボウ			
304			ベンケイソウ科	コモチマンネングサ		
305		メノマンネングサ				
306		オノマンネングサ				
307		マルバマンネングサ				
308		ツルマンネングサ				
309		ヒメレンゲ				
310		ユキノシタ科	チダケサシ			
311			アカショウマ			
312			クサアジサイ			
313			イワボタン			
314			タチネコノメソウ			
315			ウツギ			
316			マルバウツギ			
317			コアジサイ			
318			コガクウツギ			
319			ヤマアジサイ			
320	ノリウツギ					
321	ゴトウヅル					
322	ガクウツギ					
323	ヤハズアジサイ					
324	チャルメルソウ					
325	コチャルメルソウ					
326	タコノアシ					
327	ジンジソウ					
328	ダイヤモンドソウ					
329	ユキノシタ					
330	イワガラミ					
331	バラ科	キンミズヒキ				
332		ヒメキンミズヒキ				
333		ザイフリボク				
334		ヘビイチゴ				
335		ヤブヘビイチゴ				
336		ダイコンソウ				
337		カナメモチ				
338		ミツバツチグリ				
339		オヘビイチゴ				
340		カマツカ				
341		イヌザクラ				
342		ウワミズザクラ				
343		ヤマザクラ				
344		エドヒガン				
345		カスミザクラ				
346		ノイバラ				
347		ニオイバラ				
348		ミヤコイバラ				
349		ヤマイバラ				
350		テリハノイバラ				
351		フユイチゴ				
352		クマイチゴ				
353		ミヤマフユイチゴ				
354		クサイチゴ				
355		ニガイチゴ				
356		ナガバモミジイチゴ				
357		ナワシロイチゴ				
358		エビガライチゴ				
359		ワレモコウ				
360		ウラジロノキ				
361		ユキヤナギ				

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 6/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
362	離弁花類	マメ科	クサネム			
363			ネムノキ			
364			イタチハギ			
365			ヤブマメ			
366			ホドイモ			
367			ゲンゲ			
368			ジャケツイバラ			
369			ユクノキ			
370			ヒメノハギ			
371			フジカンゾウ			
372			アレチヌスビトハギ			
373			ケヤブハギ			
374			ヌスビトハギ			
375			ヤブハギ			
376			アメリカヌスビトハギ			
377			ノササゲ			
378			ノアズキ			
379			ツルマメ			
380			コマツナギ			
381			マルバヤハズソウ			
382			ヤハズソウ			
383			イタチササゲ			
384			ヤマハギ			
385			キハギ			
386			メドハギ			
387			マルバハギ			
388			ネコハギ			
389			ビッチュウヤマハギ			
390			ミヤコグサ			
391			イヌエンジュ			
392			ハネミイヌエンジュ			
393			コメツブウマゴヤシ			
394			クズ			
395			オオバタンキリマメ			
396			ハリエンジュ			
397			クララ			
398			コメツブツメクサ			
399			ムラサキツメクサ			
400			シロツメクサ			
401			ヤハズエンドウ			
402	スズメノエンドウ					
403	カスマグサ					
404	ヤマフジ					
405	フジ					
406	カタバミ科		カタバミ			
407			アカカタバミ			
408			ムラサキカタバミ			
409			エゾタチカタバミ			
410			ミヤマカタバミ			
411	カタバミ科		オッタチカタバミ			
412	フウロソウ科		ヒメフウロ			
413			ゲンノショウコ			
414	トウダイグサ科		エノキグサ			
415			オオニシキソウ			
416			コニシキソウ			
417			アカメガシワ			
418			ヤマアイ			
419			コバンノキ			
420			ヒメミカンソウ			
421			シラキ			
422			ナンキンハゼ			
423	ミカン科		マツカゼソウ			
424			コクサギ			
425			キハダ			
426			ミヤマシキミ			
427			カラスザンショウ			
428			フユザンショウ			
429			ザンショウ			
430	イヌザンショウ					
431	ニガキ科		シンジュ			
432			ニガキ			
433	ヒメハギ科		ヒメハギ			

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 7/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺					
				H6	H11	H16			
434	離弁花類	ウルシ科	ツタウルシ						
435			ヌルデ						
436			ハゼノキ						
437			ヤマハゼ						
438			ヤマウルシ						
439		ウルシ							
440		カエデ科		チドリノキ					
441				ウリカエデ					
442				ウラゲエンコウカエデ					
443				エンコウカエデ					
444				イロハモミジ					
445				オオモミジ					
446				コハウチワカエデ					
447				ムクロジ科	ムクロジ				
448		ツリフネソウ科	キツリフネ						
449			ツリフネソウ						
450		モチノキ科		イヌツゲ					
451				モチノキ					
452				アオハダ					
453				ケナシアオハダ					
454				タマミズキ					
455				ソヨゴ					
456				ウメモドキ					
457				クロソヨゴ					
458				ニシキギ科		ツルウメモドキ			
459						ニシキギ			
460		ユマユミ							
461		ツルマサキ							
462		サウダツ							
463		ツリバナ							
464		マユミ							
465		ミツバウツギ科				ゴンズイ			
466				ミツバウツギ					
467		クロウメモドキ科		クマヤナギ					
468				イソノキ					
469				ケンボナシ					
470				ケケンボナシ					
471		ブドウ科		ノブドウ					
472				キレバノブドウ					
473				ヤブガラシ					
474				ツタ					
475				ヤマブドウ					
476				エビヅル					
477				サンカクヅル					
478				アマヅル					
479				シナノキ科		カラスノゴマ			
480						ヘラノキ			
481		ジンチョウゲ科		コショウノキ					
482				ガンビ					
483				キガンビ					
484	グミ科		ツルグミ						
485			ナツグミ						
486			ナワシログミ						
487			アキグミ						
488	スマレ科		ナガバノスマレサイシン						
489			アメリカスマレサイシン						
490			タチツボスマレ						
491			アオイスミレ						
492			コスミレ						
493	スマレ科		スマレ						
494			コミヤマスミレ						
495			フモトスミレ						
496			アケボノスミレ						
497			ツボスマレ						
498			アギスミレ						
499			シハイスミレ						
500			キブシ科	キブシ					
501	ミゾハコベ科	ミゾハコベ							

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 8/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺			
				H6	H11	H16	
502	離弁花類	ウリ科	ゴキツル				
503			アマチャヅル				
504			スズメウリ				
505			アレチウリ				
506			カラスウリ				
507			キカラスウリ				
508			モミジカラスウリ				
509			ミソハギ科	キカシグサ			
510				ミズマツバ			
511			アカバナ科	ウシタキソウ			
512		ミズタマソウ					
513		アカバナ					
514		チョウジタデ					
515		メマツヨイグサ					
516		オオマツヨイグサ					
517		マツヨイグサ					
518		アリノトウグサ科	アリノトウグサ				
519			ホザキノフサモ				
520		ウリノキ科	ウリノキ				
521		ミズキ科	アオキ				
522			ミズキ				
523			クマノミズキ				
524			ハナイカダ				
525		ウコギ科	コシアブラ				
526			ヤマウコギ				
527			ウド				
528			タラノキ				
529			メガラ				
530			タカノツメ				
531			キツタ				
532			トチバニンジン				
533			セリ科	ノダケ			
534				シラネセンキュウ			
535				シシウド			
536				ミツバ			
537				ウシミツバ			
538				ハナウド			
539		オオバチドメ					
540		ノチドメ					
541		オオチドメ					
542		チドメグサ					
543		ヒメチドメ					
544		セリ					
545		ヤブニンジン					
546		ウマノミツバ					
547		カノツメソウ					
548		ヤブジラミ					
549		オヤブジラミ					
550		合弁花類	リョウブ科	リョウブ			
551	イチヤクソウ科		ギンリョウソウ				
552			イチヤクソウ				
553	ツツジ科		ネジキ				
554			アセビ				
555			ミツバツツジ				
556			レンゲツツジ				
557			モチツツジ				
558			ヤマツツジ				
559			コバノミツバツツジ				
560			シャシャンボ				
561			ウスノキ				
562			アクシバ				
563			ケアクシバ				
564			ナツハゼ				

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 9/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
565	合弁花類	ツツジ科	スノキ			
566		ヤブコウジ科	マンリョウ			
567			ヤブコウジ			
568		サクラソウ科	ミヤマタゴボウ			
569			オカトラノオ			
570			ヌマトラノオ			
571			コナスビ			
572		カキノキ科	カキノキ			
573			マメガキ			
574		エゴノキ科	オオバアサガラ			
575			エゴノキ			
576		ハイノキ科	サウフタギ			
577			タンナサウフタギ			
578		モクセイ科	マルバアオダモ			
579			ネズミモチ			
580			イボタノキ			
581			ヒイラギ			
582		リンドウ科	リンドウ			
583			アケボノソウ			
584			センブリ			
585			ツルリンドウ			
586		キョウチクトウ科	テイカカズラ			
587			ツルニチニチソウ			
588		ガガイモ科	イケマ			
589			キジョラン			
590			ガガイモ			
591			オオカモメツル			
592		アカネ科	クマバソウ			
593			メリケンムグラ			
594			ヒメヨツバムグラ			
595			キクムグラ			
596			ヤマムグラ			
597			オオバナヤエムグラ			
598			ヤエムグラ			
599			ヨツバムグラ			
600			フタバムグラ			
601			ハシカグサ			
602			ツルアリドオシ			
603			ヘクソカズラ			
604			アカネ			
605		ヒルガオ科	ヒルガオ			
606			ネナシカズラ			
607			アメリカネナシカズラ			
608			マメアサガオ			
609			アサガオ			
610		ムラサキ科	サウルリソウ			
611			ハナイバナ			
612			オニルリソウ			
613			ヤマウルリソウ			
614			コンフリー			
615			ミズタバコ			
616			キュウリグサ			
617		クマツヅラ科	ムラサキシキブ			
618			ヤブムラサキ			
619			カリガネソウ			
620			クサギ			
621			ヤナギハナガサ			
622		シソ科	カウミドリ			
623			キラソソウ			
624			クマバナ			
625			トウバナ			
626			イヌトウバナ			
627			ヤマトウバナ			
628			ナギナタコウジュ			
629			フトボナギナタコウジュ			
630			ミズトラノオ			
631		カキドオシ				
632		マネキグサ				
633		オドリコソウ				
634		ヒメオドリコソウ				
635		メハジキ				
636		ミカエリソウ				

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 10/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺				
				H6	H11	H16		
637	合弁花類	シソ科	ヒメシロネ					
638			ラショウモンカズラ					
639			ハッカ					
640			ヒメジソ					
641			イヌコウジュ					
642			エゴマ					
643			シソ					
644			レモンエゴマ					
645			アオジソ					
646			ウツボグサ					
647			ヤマハッカ					
648			ヒキオコシ					
649			アキチョウジ					
650			アキノタムラソウ					
651			キバナアキギリ					
652			オカタツナミソウ					
653			タツナミソウ					
654			コバナタツナミソウ					
655			イヌゴマ					
656			ニガクサ					
657			ツルニガクサ					
658			ナス科		クコ			
659					ホオズキ			
660					アメリカイヌホオズキ			
661					ヒヨドリジョウゴ			
662					マルバノホロシ			
663					イヌホオズキ			
664					テリミノイヌホオズキ			
665					ハダカホオズキ			
666			フジウツギ科		フサフジウツギ			
667					フジウツギ			
668			ゴマノハグサ科		ツタバウンラン			
669					サウトウガラシ			
670					マツバウンラン			
671					スズメノトウガラシ			
672	ウリクサ							
673	タケトアゼナ							
674	アメリカアゼナ							
675	アゼトウガラシ							
676	アゼナ							
677	ムラサキサギゴケ							
678	サギゴケ							
679	トキワハゼ							
680	ママコナ							
681	ミソホオズキ							
682	コシオガマ							
683	オオヒナノウスツボ							
684	オオヒキヨモギ							
685	オオカワヂシャ							
686	タチイヌノフグリ							
687	ムシクサ							
688	オオイヌノフグリ							
689	ノウゼンカズラ科		キリ					
690	キツネノマゴ科		キツネノマゴ					
691			ハグロソウ					
692			スズムシバナ					
693	イワタバコ科		イワタバコ					
694	ハエドクソウ科		ハエドクソウ					
695			ナガバハエドクソウ					
696	オオバコ科		オオバコ					
697	スイカズラ科		コツクバネウツギ					
698			ツクバネウツギ					
699			ヤマウグイスカグラ					
700			ウグイスカグラ					
701			スイカズラ					
702			ニワトコ					
703			ガマズミ					
704			コバノガマズミ					
705			オオカメノキ					
706			ヤブデマリ					
707			ミヤマガマズミ					
708			ヤブウツギ					
709			タニウツギ					

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 11/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺				
				H6	H11	H16		
710	合弁花類	オミナエシ科	オミナエシ					
711			オトコエシ					
712			ノヂシャ					
713	キキョウ科		ツリガネニンジン					
714			ホタルブクロ					
715			ツルニンジン					
716			バアソブ					
717			ミゾカクシ					
718			タニギキョウ					
719			キク科		ノブキ			
720					ヌマダイコン			
721	キッコウハグマ							
722	ブタクサ							
723	オオブタクサ							
724	ヨモギ							
725	イナカギク							
726	シロヨメナ							
727	ノコンギク							
728	オオホウキギク							
729	シラヤマギク							
730	ヒロハホウキギク							
731	ホウキギク							
732	オケラ							
733	アメリカセンダングサ							
734	タウコギ							
735	モミジガサ							
736	ヤブタバコ							
737	ガンクビソウ							
738	サジガンクビソウ							
739	ヒメガンクビソウ							
740	トキンソウ							
741	ヒメアザミ							
742	ノアザミ							
743	ヨシノアザミ							
744	ノハラアザミ							
745	アレチノギク							
746	オオアレチノギク							
747	ベニバナボロギク							
748	リュウノウギク							
749	アメリカカタカサプロウ							
750	タカサプロウ							
751	ダントボロギク							
752	ヒメムカシヨモギ							
753	ケナシヒメムカシヨモギ							
754	ヒヨドリバナ							
755	サウヒヨドリ							
756	ヤマヒヨドリ							
757	サケバヒヨドリ							
758	ハキダメギク							
759	ハハコグサ							
760	チチコグサ							
761	チチコグサモドキ							
762	ウスベニチチコグサ							
763	キクイモ							
764	キツネアザミ							
765	オオヂシバリ							
766	ニガナ							
767	ハナニガナ							
768	イワニガナ							
769	オオユウガギク							
770	ユウガギク							
771	ヨメナ							
772	アキノノゲシ							
773	ホソバアキノノゲシ							
774	ヤマニガナ							
775	ムラサキニガナ							
776	コオニタビラコ							
777	ヤブタビラコ							
778	センボンヤリ							
779	カシワバハグマ							
780	コウヤボウキ							



表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 12/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
781	合弁花類	キク科	フキ			
782			コウゾリナ			
783			シュウブソウ			
784			オオハンゴンソウ			
785			サウギク			
786			ノボロギク			
787			コメナモミ			
788			メナモミ			
789			セイタカアワダチソウ			
790			アキノキリンソウ			
791			オニノゲシ			
792			ノゲシ			
793			ヒメジョオン			
794			ヤマボクチ			
795			カンサイタンポポ			
796			セイヨウタンポポ			
797			オオオナモミ			
798			ヤクシソウ			
799			ハナヤクシソウ			
800					オニタビラコ	
801	単子葉植物	オモダカ科	ヘラオモダカ			
802			ウリカワ			
803			オモダカ			
804		トチカガミ科	オオカナダモ			
805			ユリ科	ノギラン		
806			ソクシンラン			
807			ノビル			
808			ホウチャクソウ			
809			チゴユリ			
810			ショウジョウバカマ			
811			ヤブカンゾウ			
812			ノカンゾウ			
813			イワギボウシ			
814			オオバギボウシ			
815			トウギボウシ			
816			ウバユリ			
817			ササユリ			
818			コオニユリ			
819			ヒメヤブラン			
820			ヤブラン			
821		ジャノヒゲ				
822		ナガバジャノヒゲ				
823		オオバジャノヒゲ				
824		ナルコユリ				
825		ミヤマナルコユリ				
826		アマドコロ				
827		オモト				
828		サルトリイバラ				
829		タチシオデ				
830		シオデ				
831		ヤマジノホトトギス				
832		ホトトギス				
833		ヤマホトトギス				
834		ヒガンバナ科	ヒガンバナ			
835			キツネノカミソリ			
836		ヤマノイモ科	タチドコロ			
837			ヤマノイモ			
838			カエドコロ			
839			キクバドコロ			
840			ヒメドコロ			
841			オニドコロ			
842		ミズアオイ科	ホテイアオイ			
843			ミズアオイ			
844			コナギ			
845		アヤメ科	ヒオウギ			
846			シャガ			
847			キショウブ			
848			ニワゼキショウ			
849			ヒメヒオウギズイセン			
850		ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ			

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 13/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺		
				H6	H11	H16
851	単子葉植物	イグサ科	ハナビゼキショウ			
852			イ			
853			コウガイゼキショウ			
854			ホソイ			
855			クサイ			
856			コゴメイ			
857			スズメノヤリ			
858			ヤマスズメノヒエ			
859			ヌカボシソウ			
860		ツユクサ科	ツユクサ			
861			イボクサ			
862			ヤブミョウガ			
863		ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ			
864		イネ科	アオカモジグサ			
865			タチカモジグサ			
866			カモジグサ			
867			コヌカグサ			
868			ヤマヌカボ			
869			ヌカボ			
870			スズメノテッポウ			
871			メリケンカルカヤ			
872			コブナグサ			
873			トダシバ			
874			ヒメコバンソウ			
875			イヌムギ			
876			キツネガヤ			
877			ノガリヤス			
878			ヒメノガリヤス			
879			オガルカヤ			
880			ギョウギシバ			
881			カモガヤ			
882			タツノヒゲ			
883			メヒシバ			
884			コメヒシバ			
885			アキメヒシバ			
886			アブラススキ			
887			イヌビエ			
888			ケイヌビエ			
889			ヒメイヌビエ			
890			オヒシバ			
891			シナダレスズメガヤ			
892			カゼクサ			
893			コゴメカゼクサ			
894			ニワホコリ			
895			オオニワホコリ			
896			コスズメガヤ			
897			ナルコビエ			
898		オニウシノケグサ				
899		ウシノケグサ				
900		トボシガラ				
901		ヒロハノウシノケグサ				
902		オオウシノケグサ				

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 14/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺			
				H6	H11	H16	
903	単子葉植物	イネ科	ドジョウツナギ				
904			チガヤ				
905			チゴザサ				
906			ハイチゴザサ				
907			サヤヌカグサ				
908			アゼガヤ				
909			ネズミムギ				
910			ササクサ				
911			コメガヤ				
912			ササガヤ				
913			ヒメアシボソ				
914			アシボソ				
915			トキワススキ				
916			オギ				
917			ススキ				
918			ヌマガヤ				
919			オオネズミガヤ				
920			ケチヂミザサ				
921			コチヂミザサ				
922			ヌカキビ				
923			オオクサキビ				
924			シマスズメノヒエ				
925			キシユウスズメノヒエ				
926			スズメノヒエ				
927			チカラシバ				
928			クサヨシ				
929			ヨシ				
930			ツルヨシ				
931			ホテイチク				
932			マダケ				
933			ハチク				
934			モウソウチク				
935			ネザサ				
936			ケネザサ				
937			メダケ				
938			ミゾイチゴツナギ				
939			スズメノカタビラ				
940			オオイチゴツナギ				
941			ナガハグサ				
942			イチゴツナギ				
943			オオスズメノカタビラ				
944			ヒエガエリ				
945			ウキシバ				
946			ヤダケ				
947			チシマザサ				
948			ミヤコザサ				
949			チマキザサ				
950			スズタケ				
951			アキノエノコログサ				
952			キンエノコロ				
953			エノコログサ				
954			ムラサキエノコロ				
955			オオエノコロ				
956			セイバンモロコシ				
957			ネズミノオ				
958			カニツリグサ				
959			ナギナタガヤ				
960			マコモ				
961			シバ				
962			ヤシ科		シュロ		
963			サトイモ科		セキショウ		
964					キシダマムシグサ		
965					ヤマトテンナンショウ		
966					マムシグサ		
967					ムロウテンナンショウ		
968					カラスビシャク		
969			ウキクサ科		アオウキクサ		
970					ウキクサ		
971			ガマ科		ヒメガマ		
972					コガマ		

表 6.6-28 ダム湖周辺確認種リスト(植物 : 15/15)

No.	分類	科名	和名	ダム湖周辺				
				H6	H11	H16		
973	単子葉植物	カヤツリグサ科	エナシヒゴクサ					
974			クロカワズスゲ					
975			マツバスゲ					
976			アオスゲ					
977			メアオスゲ					
978			ミヤマシラスゲ					
979			ヒメカンスゲ					
980			ナルコスゲ					
981			カサスゲ					
982			シラスゲ					
983			イトスゲ					
984			マスクサ					
985			カワラスゲ					
986			ジュズスゲ					
987			ヒゴクサ					
988			テキリスゲ					
989			ヒカゲスゲ					
990			ナキリスゲ					
991			タチスゲ					
992			ゴウソ					
993			ヒメシラスゲ					
994			カンスゲ					
995			ミヤマカンスゲ					
996			アオゴウソ					
997			コカンスゲ					
998			ヤブスゲ					
999			クサスゲ					
1000			オオイトスゲ					
1001			タガネソウ					
1002			アゼスゲ					
1003			ヤワラスゲ					
1004			ヒメモエギスゲ					
1005			アイダクグ					
1006			ヒメクグ					
1007			クグガヤツリ					
1008			タマガヤツリ					
1009			ヒナガヤツリ					
1010			アゼガヤツリ					
1011			コアゼガヤツリ					
1012			コゴメガヤツリ					
1013			カヤツリグサ					
1014			アオガヤツリ					
1015			ウシクグ					
1016			シロガヤツリ					
1017			カワラスガナ					
1018			マツバイ					
1019			ハリイ					
1020			シカクイ					
1021			コアゼテンツキ					
1022			ヒメヒラテンツキ					
1023			テンツキ					
1024			クロテンツキ					
1025			ヒデリコ					
1026			メアゼテンツキ					
1027			ヒンジガヤツリ					
1028			コマツカサススキ					
1029			イヌホタルイ					
1030			アブラガヤ					
1031			ショウガ科	ミョウガ				
1032			ラン科	シュンラン				
1033				ツチアケビ				
1034				ミヤマウズラ				
1035				ムヨウラン				
1036				ジガバチソウ				
1037				クモキリソウ				
1038				コ克蘭				
1039				オオバノトンボソウ				
1040				カヤラン				
1041				ネジバナ				
1042				クモラン				
141科1042種				617種	683種	801種		
				1016種				

注) 1. 種名および分類は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。

表 6.6-29 ダム湖周辺確認種リスト(鳥類 : 1/2)

No.	目名	科名	種名	ダム湖周辺			
			和名	H5	H9	H14	H18・19
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ				
2			アカエリカイツブリ				
3	ペリカン目	ウ科	カワウ				
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ				
5			ササゴイ				
6			アマサギ				
7			ダイサギ				
8			チュウサギ				
9			コサギ				
10			アオサギ				
11			カモ目	カモ科	オシドリ		
12	マガモ						
13	カルガモ						
14	コガモ						
15	ヒドリガモ						
16	カワアイサ						
17	タカ目	タカ科	ミサゴ				
18			ハチクマ				
19			トビ				
20			オオタカ				
21			ツミ				
22			ハイタカ				
23			オオノスリ				
24			ノスリ				
25			サシバ				
26			クマタカ				
27	キジ目	キジ科	コジュケイ				
28			キジ				
29			ヤマドリ				
30	ツル目	クイナ科	バン				
31	チドリ目	チドリ科	コチドリ				
32			イカルチドリ				
33			ケリ				
34		シギ科	キアシシギ				
35			イソシギ				
36			ヤマシギ				
37			オオジシギ				
38	ハト目	ハト科	キジバト				
39			アオバト				
40	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ				
41			ツツドリ				
42			ホトトギス				
43	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク				
44			アオバズク				
45			フクロウ				
46	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ				
47	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ				
48	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ				
49			カワセミ				
50	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ				
51			アカゲラ				
52			オオアカゲラ				
53			コゲラ				
54	スズメ目	ツバメ科	ツバメ				
55			コシアカツバメ				
56			イワツバメ				
57		セキレイ科	キセキレイ				
58			ハクセキレイ				
59			セグロセキレイ				

表 6.6-29 ダム湖周辺確認種リスト(鳥類 : 2/2)

No.	目名	科名	種名	ダム湖周辺				
			和名	H5	H9	H14	H18・19	
60	スズメ目	セキレイ科	ビンズイ					
61		サンショウクイ科	サンショウクイ					
62		ヒヨドリ科	ヒヨドリ					
63		モズ科	モズ					
64		カワガラス科	カワガラス					
65		ミソサザイ科	ミソサザイ					
66		イワヒバリ科	カヤクグリ					
67		ツグミ科	ルリビタキ					
68			ジョウビタキ					
69			ノビタキ					
70			トラツグミ					
71			アカハラ					
72			シロハラ					
73			ツグミ					
74			ウグイス科	ヤブサメ				
75				ウグイス				
76				メボソムシクイ				
77		センダイムシクイ						
78		キクイタダキ						
79		ヒタキ科	キビタキ					
80			オオルリ					
81			サメビタキ					
82			エゾビタキ					
83			コサメビタキ					
84		カササギヒタキ科	サンコウチョウ					
85		エナガ科	エナガ					
86		シジュウカラ科	コガラ					
87			ヒガラ					
88			ヤマガラ					
89			シジュウカラ					
90		メジロ科	メジロ					
91		ホオジロ科	ホオジロ					
92			カシラダカ					
93			ミヤマホオジロ					
94			アオジ					
95			クロジ					
96		アトリ科	アトリ					
97			カワラヒワ					
98			マヒワ					
99			ベニマシコ					
100			ウソ					
101		イカル						
102		シメ						
103		ハタオリドリ科	スズメ					
104		ムクドリ科	ムクドリ					
105		カラス科	カケス					
106			ハシボソガラス					
107			ハシブトガラス					
-			カラス属					
16目36科107種				62種	67種	44種	37種	
				86種				

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。

表 6.6-30 ダム湖周辺確認種リスト(両生類)

No.	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
				H5	H10	H15	
1	サンショウウオ	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ				
2			イモリ				
3	カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル				
4			アマガエル				
5			アカガエル	タゴガエル			
6			ヤマアカガエル				
7			トノサマガエル				
8			ヌマガエル				
9			ウシガエル				
10			ツチガエル				
11			アオガエル	シュレーゲルアオガエル			
12					カジカガエル		
2目6科12種				11種	10種	10種	
				11種			

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2. : 「平成19年度 木津川ダム群河川水辺の国勢調査(その2)(室生ダム)(魚類調査)」6月、8月調査時に確認された。

表 6.6-31 ダム湖周辺確認種リスト(爬虫類)

No.	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
				H5	H10	H15	
1	カメ	イシガメ	クサガメ				
2			ミシシippアカミミガメ				
3			イシガメ				
4	トカゲ	トカゲ	トカゲ				
5			カナヘビ				
6			ヘビ	シマヘビ			
7			ジムグリ				
8			アオダイショウ				
9			シロマダラ				
10			ヒバカリ				
11			ヤマカガシ				
12			クサリヘビ	マムシ			
2目5科12種				12種	10種	10種	
				12種			

注) 1. 種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。

表 6.6-32 ダム湖周辺確認種リスト(哺乳類)

No.	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
				H5	H10	H15	
1	モグラ	モグラ	ヒミズ				
2			コウベモグラ				
-			モグラ属				
3	コウモリ	キクガシラコウモ	キクガシラコウモリ				
4			ヒナコウモリ	モモジロコウモリ			
5				ユビナガコウモリ			
6				テングコウモリ			
-				ヒナコウモリ科			
7	サル	オナガザル	ニホンザル				
8	ウサギ	ウサギ	ノウサギ				
9	ネズミ	リス	ニホンリス				
10				ムササビ			
11				アカネズミ			
12		ネズミ		ヒメネズミ			
13				カヤネズミ			
-				ネズミ科			
14			ネコ	イヌ	タヌキ		
15		キツネ					
16	イタチ			テン			
17				イタチ属			
18				アナグマ			
19							
20	ウシ	イノシシ	イノシシ				
		シカ	ホンドジカ				
7目11科20種				11種	17種	18種	
				20種			

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」「…科」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。



表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 1/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
1	クモ綱	クモ目	ジグモ科	ジグモ				
2			ガケジグモ科	ガケジグモ科				
3			ハグモ科	ヒナハグモ				
-				ハグモ科				
4			チリグモ科	チリグモ				
5			ウスグモ科	オウギグモ				
6				マネキグモ				
7				ウスグモ				
8				マシラグモ科	マシラグモ			
-				マシラグモ科				
9				タマゴグモ科	タマゴグモ科			
10				ユウレイグモ科	ユウレイグモ			
11					アケボノユウレイグモ			
12					シモングモ			
13				エンマグモ科	コマツエンマグモ			
14				タナグモ科	クサグモ			
15					コクサグモ			
-					Age lena属			
16					ヤマヤチグモ			
17					クロヤチグモ			
18					シモフリヤチグモ			
19					ヒメヤマヤチグモ			
20					カメンヤチグモ			
21					デボヤチグモ			
22					カミガタヤチグモ			
-					Coelotes属			
23					カチドキナミハグモ			
-					Cybaeus属			
-					タナグモ科			
24				コガネグモ科	キジロオヒキグモ			
25					キザハシオニグモ			
26					ヌサオニグモ			
27					アオオニグモ			
28					ヤマオニグモ			
29					カラオニグモ			
-					Araneus属			
30					ムツボシオニグモ			
31					コガネグモ			
32					チュウガタコガネグモ			
33					ナガコガネグモ			
-					Argiope属			
34					ヤマトカナエグモ			
35					ギンメッキゴミグモ			
36					カラスゴミグモ			
37					ギンナガゴミグモ			
38					ヤマトゴミグモ			
39					ゴミグモ			
40					ヨツデゴミグモ			
-					Cyclosa属			
41					トリノフンダマシ			
42					オオトリノフンダマシ			
43					シロオビトリノフンダマシ			
44					クロトリノフンダマシ			
45					アカイロトリノフンダマシ			
-					Cyrtarachne属			
46					トガリオニグモ			
47					ヨツボシショウジョウグモ			
48					シロスジショウジョウグモ			
49					コガネグモダマシ			
50					ゴマジロオニグモ			
51			ワキグロサツマノミダマシ					
52			コグチャオニグモ					
53			ヤマシロオニグモ					
54			サツマノミダマシ					
55			ヘリジロオニグモ					
-			Neoscona属					
56			サガオニグモ					
57			カラフトオニグモ					
58			ヤマキレアミグモ					
-			コガネグモ科					
59			ミスグモ科	ミスグモ				
60			ハタケグモ科	ヤマハタケグモ				
-				ハタケグモ科				

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 2/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
61	クモ綱	クモ目	サラゲモ科	クロケシグモ						
62				コサラゲモ						
63				オオスギヤミサラゲモ						
64				マルサラゲモ						
65				ハラジロムナキグモ						
66				デーニツサラゲモ						
67				ナニワナンキングモ						
68				ノコギリヒザグモ						
69				ハナサラゲモ						
70				ニセアカムネグモ						
71				アリマケズネグモ						
72				ヤマトケズネグモ						
73				ズキンヌカグモ						
74				クロナンキングモ						
75				アシヨレグモ						
76				ハガタヤセサラゲモ						
77				クボミケシグモ						
78				チビサラゲモ						
79				ツリサラゲモ						
80				ヘリジロサラゲモ						
81				ツノケシグモ						
82				チビアカサラゲモ						
83				クスミサラゲモ						
84				ムネグロサラゲモ						
85				コウシサラゲモ						
86				イマダテテングヌカグモ						
87				ナラヌカグモ						
88				フタスジサラゲモ						
89				アシナガサラゲモ						
90				シロブチサラゲモ						
91				アリマネグモ						
92				ヨツボシサラゲモ						
93				ヌカグモ						
94				ユノハマサラゲモ						
95				セスジアカムネグモ						
96				オオサカアカムネグモ						
97				テングヌカグモ						
-						サラゲモ科				
98						コモリグモ科	チリコモリグモ			
99							スジプトコモリグモ			
100							カガリビコモリグモ			
101							エビチャコモリグモ			
102							ヒノマルコモリグモ			
103							カウベコモリグモ			
104							ハラクロコモリグモ			
105							ウヅキコモリグモ			
106							ヤマハリグコモリグモ			
107							イサゴコモリグモ			
108							ハリグコモリグモ			
109							キクツキコモリグモ			
-							Pardosa属			
110							クラークコモリグモ			
111							ミナミコモリグモ			
112							カイソクコモリグモ			
113							イモコモリグモ			
114							チビコモリグモ			
115							キバラコモリグモ			
116							コガタコモリグモ			
117							ナミコモリグモ			
-							Pirata属			
118							アライトコモリグモ			
-							コモリグモ科			
119						センショウグモ科	センショウグモ			
120							オオセンショウグモ			
121						コツブグモ科	ナンブコツブグモ			
122						ササグモ科	ササグモ			
123						キシダグモ科	シノビグモ			
124							スジプトハシリグモ			
125							スジアカハシリグモ			
126							イオウイロハシリグモ			
-							Dolomedes属			
127							ハヤテグモ			
128							アズマキシダグモ			
-							Pisaura属			
-							キシダグモ科			
129						アシナガグモ科	チュウガタシロカネグモ			
130							オオシロカネグモ			
131							コシロカネグモ			
132							キララシロカネグモ			
-							Leucauge属			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 3/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
133	クモ綱	クモ目	アシナガグモ科	キンヨウグモ					
134				ヤマジドヨウグモ					
135				タニマノドヨウグモ					
136				メガネドヨウグモ					
137				ジョロウグモ					
138				トガリアシナガグモ					
139				ハラビロアシナガグモ					
140				キヌアシナガグモ					
141				ヤサガタアシナガグモ					
142				ミドリアシナガグモ					
143				アシナガグモ					
144				ウロコアシナガグモ					
145				シコクアシナガグモ					
-						Tetragnatha属			
-						アシナガグモ科			
146						ヒメグモ科			
-						ツリガネヒメグモ			
-						Achaearanea属			
147						ヒメグモ			
148			コンビラヒメグモ						
149			オオヒメグモ						
150			アシフトヒメグモ						
151			オナガグモ						
152			フタオイソウロウグモ						
153			ヤリグモ						
154			ヤホシサヤヒメグモ						
155			ヨロイヒメグモ						
156			ボカシミジグモ						
157			カニミジグモ						
158			シモフリミジグモ						
-			Dipoena属						
159			カレハヒメグモ						
160			ヒシガタグモ						
161			ハラナガヒシガタグモ						
-			Episinus属						
162			ツクネグモ						
163			スネグロオチバヒメグモ						
164			バラキヒメグモ						
165			ヒロハヒメグモ						
166			ムナボシヒメグモ						
167			タカコヒメグモ						
-			Theridion属						
-			ヒメグモ科						
168			カラカラグモ科						
169			ヤマジグモ						
170			カラカラグモ						
171			ナルコグモ						
172			イツツグモ科						
173			オビジガバチグモ						
174			カバキコマチグモ						
175			ヤマトコマチグモ						
176			ヤサコマチグモ						
-			Cheiracanthium属						
177			コフクログモ						
178			イナフクログモ						
179			ヤハズフクログモ						
180			ヒメフクログモ						
181			トビイロフクログモ						
182			マイコフクログモ						
183			ムナアカフクログモ						
-			Clubiona属						
184			イタチグモ						
185			オトヒメグモ						
186			コムラウラシマグモ						
187			ウラシマグモ						
-			Phrurolithus属						
188			ネコグモ						
-			フクログモ科						
189			シボグモ科						
190			ワシグモ科						
191			チャクロワシグモ						
-			トラフワシグモ						
-			Drassodes属						
192			エビチャヨリメケムリグモ						
193			クロチャケムリグモ						
194			マエトビケムリグモ						
-			Zelotes属						
-			ワシグモ科						
195			アシダカグモ科						
196			アシダカグモ						
197			ツユグモ						
198			コアシダカグモ						
			カマスグモ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 4/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
199	クモ綱	クモ目	エビグモ科	キンイロエビグモ				
200				キタエビグモ				
201				アサヒエビグモ				
-				Phidromus属				
202				ヤドカリグモ				
203				シャコグモ				
204				ハエトリグモ科	ネコハエトリ			
205					マミジロハエトリ			
206					アシブトハエトリ			
207					ホオジロハエトリ			
-					Evarcha属			
208					アダンソンハエトリ			
209					ジャバラハエトリ			
210					チビクロハエトリ			
-					Heliophanus属			
211					エクスハエトリ			
212					ヨダンハエトリ			
-					Marpissa属			
213				ヤハズハエトリ				
214				アゴブトハエトリ				
215				ヤサアリグモ				
216				アリグモ				
-				ハエトリグモ科	Myrmarachne属			
217					チャイロアサヒハエトリ			
218	ムロテハエトリ(マガネアサヒハエトリ)							
219	メガネアサヒハエトリ							
-	Phintella属							
220	デーニツツハエトリ							
221	イナズマハエトリ(キツネハエトリ)							
222	ヒメカラスハエトリ							
223	アオオビハエトリ							
224	ウススジハエトリ							
225	ムツバハエトリ							
-	ハエトリグモ科							
226	カニグモ科	コハナグモ						
227		アシナガカニグモ						
228		アマギエビスグモ						
-		Lysiteles属						
229		ハナグモ						
230		ワカバグモ						
231		ガザミグモ						
232		フノジグモ						
233		アズチグモ						
234		トラフカニグモ						
235		セマルトラフカニグモ						
236		ヤマイロカニグモ						
237		アスマカニグモ						
238		オオヤマイロカニグモ						
-	Xysticus属							
239	シボグモモドキ科	シボグモモドキ						
240		コクナグモ						
-	クモ目							
241	昆虫綱	トビムシ目(粘管目)	ヒメトビムシ科	ヒメトビムシ科				
242			イボトビムシ科	イボトビムシ科				
243			シロトビムシ科	ヤギシロトビムシ				
-			シロトビムシ科	シロトビムシ科				
244			ミズトビムシ科	ミズトビムシ				
245			アヤトビムシ科	シマツノトビムシ				
246				Sinella属				
-			アヤトビムシ科	アヤトビムシ科				
247			ツチトビムシ科	ミズフシトビムシ				
248				ニセフシトビムシ				
-			ツチトビムシ科	ツチトビムシ科				
249			ウスギヌトビムシ科	ウスギヌトビムシ科				
250			ヒゲナガトビムシ科	トウアヒゲナガトビムシ				
251				アヤヒゲナガトビムシ				
-			ヒゲナガトビムシ科	ヒゲナガトビムシ科				
252			トゲトビムシ科	オオトゲトビムシ				
-				トゲトビムシ科	トゲトビムシ科			
253			マルトビムシ科	キボシマルトビムシ				
254				キマルトビムシ				
-				マルトビムシ科	マルトビムシ科			
255					ヤマシタホソウロコトビムシ			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 5/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
256	昆虫綱	トビムシ目(粘管目)	マルトビムシ科	クモマルトビムシ亜科				
257				クモトビムシ亜科				
258			カマアシムシ目	クシカマアシムシ科	ヨシムシ			
259		コムシ目	ナガコムシ科	イシイナガコムシ				
260		イシノミ目	イシノミ科	Pedetontinus属				
261				Pedetontus属				
-				イシノミ科				
262				カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ		
263				Baetis属				
-				コカゲロウ科				
264			フタオカゲロウ科	フタオカゲロウ科				
265			ヒラタカゲロウ科	オビカゲロウ				
266				チャイロミヤマタニガワカゲロウ				
267				エルモンヒラタカゲロウ				
268				ユミモンヒラタカゲロウ				
269				ヒメヒラタカゲロウ				
270				タテヤマヒメヒラタカゲロウ				
-				ヒラタカゲロウ科				
271			チラカゲロウ科	チラカゲロウ				
272			ヒトリガカゲロウ科	ヒトリガカゲロウ科				
273			トビロカゲロウ科	ヒメトビロカゲロウ				
-				トビロカゲロウ科				
274			モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ				
275				モンカゲロウ				
-				モンカゲロウ科				
276			カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ				
277			マダラカゲロウ科	クロマダラカゲロウ				
-			マダラカゲロウ科					
-			カゲロウ目					
278	トンボ目(蜻蛉目)	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ					
279			アオイトトンボ					
280			オオアオイトトンボ					
281		イトトンボ科	アジアイトトンボ					
282			アオモンイトトンボ					
283			カワトンボ科	ハゲロトンボ				
284			ミヤマカワトンボ					
285			ニホンカワトンボ					
286			アサヒナカワトンボ					
287		ヤンマ科	コシボソヤンマ					
288			ミルンヤンマ					
289		サナエトンボ科	ヤマサナエ					
290			ダビドサナエ					
291			オナガサナエ					
292			コオニヤンマ					
293			オグマサナエ					
294		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ					
295		オニヤンマ科	オニヤンマ					
296		エゾトンボ科	コヤマトンボ					
297		トンボ科	ハラビロトンボ					
298			シオカラトンボ					
299			シオヤトンボ					
300			オオシオカラトンボ					
301			ウスバキトンボ					
302			コシアキトンボ					
303			ナツアカネ					
304			マユタテアカネ					
305			アキアカネ					
306			ノシメトンボ					
307			ネキトンボ					
308			ゴキブリ目(網翅目)	ヒメクロゴキブリ科	ヒメクロゴキブリ			
309				オオゴキブリ科	オオゴキブリ			
310				チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ			
-				チャバネゴキブリ科				
311		カマキリ目(螳螂目)	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ				
312			カマキリ科	ハラビロカマキリ				
313				コカマキリ				
314	チョウセンカマキリ							
315	オオカマキリ							
-			カマキリ科					
316	シロアリ目(等翅目)	ミゾガシラシロアリ科	ヤマトシロアリ					
-			シロアリ目					
317	ハサミムシ目(革翅目)	クロハサミムシ科	クロハサミムシ科					
318		マルムネハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ					
-			マルムネハサミムシ科					
319		クギヌキハサミムシ科	コブハサミムシ					
320		キバネハサミムシ						
-			クギヌキハサミムシ科					
321	カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科	ヤスマツクロカワゲラ					
-				クロカワゲラ科				
322			ミドリカワゲラ科	ミドリカワゲラ科				
323			ハラジロオナシカワゲラ	ハラジロオナシカワゲラ科				
324		オナシカワゲラ科	オナシカワゲラ科					

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 6/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
325	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	カワゲラ科	キベリオスエダカワゲラ				
326				カミムラカワゲラ				
327				ヤマトフタツメカワゲラ				
328				ヤマトカワゲラ				
-				カワゲラ科				
329				アミメカワゲラ科	セスジミドリカワゲラモドキ			
-			アミメカワゲラ科					
330			カワゲラ					
331			バッタ目(直翅目)	コロギス科	ハネナシコロギス			
332					コロギス			
-					コロギス科			
333				カマドウマ科	クチキウマ			
-					Anoplophilus属			
334					Atachycines属			
335					カマドウマ			
336					マダラカマドウマ			
337					モリスミウマ			
-					Diestrammena属			
338		クラズミウマ						
-		Tachycines属						
-		カマドウマ科						
339		キリギリス科			コバネヒメギス			
340					ウスイロササキリ			
341				オナガササキリ				
342				コバネササキリ				
343				ホシササキリ				
344			ササキリ					
345			エソツユムシ					
346			セスジツユムシ					
347			ヒメギス					
348			クビキリギス					
349			キリギリス					
350			ウマオイ					
-			Hexacentrus属					
351			クダマキモドキ					
352			ヤマクダマキモドキ					
353			ツユムシ					
354			アシグロツユムシ					
355			クサキリ					
356		ヤブキリ						
357		ササキリモドキ						
358		ササキリ亜科						
359		ツユムシ亜科						
-		キリギリス科						
360		ケラ科	ケラ					
361		コオロギ科	キンヒバリ					
362			マダラスズ					
363			ヒゲシロスズ					
364			カウラスズ					
365			シバズ					
366			ヤマトヒバリ					
367			ハラオカメコオロギ					
368			ミツカドコオロギ					
369			モリオカメコオロギ					
-			Loxoblemmus属					
370			タンボコオロギ					
371			クマコオロギ					
372			カンタン					
-			Oecanthus属					
373			クサヒバリ					
374			リュウキウマダラスズ					
375			ヒメズ					
376			エソズ					
377			ヤチズ					
378			クマスズムシ					
379			エンマコオロギ					
-			Teleogryllus属					
380			キアシヒバリモドキ					
381			ツツレサセコオロギ					
-			コオロギ科					
382			カネタタキ科	カネタタキ				

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 7/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
383	昆虫綱	バッタ目(直翅目)	アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ科					
384			バッタ科	ショウリョウバッタ					
385				マダラバッタ					
386				ヒナバッタ					
387				ヒロバネヒナバッタ					
388				カウラバッタ					
389				クマバッタモドキ					
390				ハネナガイナゴ					
391				コバネイナゴ					
-				Oxya属					
392				イナゴモドキ					
393				ダイリフキバッタ					
394				ミカドフキバッタ					
395				キンキフキバッタ					
396				ヤマトフキバッタ					
-				Parapodisma属					
397				ツチイナゴ					
398				ツマグロイナゴモドキ					
399				イボバッタ					
-				バッタ科					
400				オンブバッタ科	オンブバッタ				
401				ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ				
402					ハネナガヒシバッタ				
403					コバネヒシバッタ				
404					ハラヒシバッタ				
405					ヤセヒシバッタ				
406					モリヒシバッタ				
-					Tetrix属				
-					ヒシバッタ科				
407				ノミバッタ科	ノミバッタ				
408				ナナフシ目(竹節虫目)	ナナフシ科	トグナナフシ			
409						エダナナフシ			
-						ナナフシ科			
410						チャタテムシ目(嘯虫目)	ケブカチャタテ科	ウスベニチャタテ	
411				チャタテムシ目(嘯虫目)	ケチャタテ科	キモンケチャタテ			
-						ケチャタテ科			
412					ホソチャタテ科	ハグルマチャタテ			
413						ホソチャタテ			
414					スカシチャタテ科	スカシチャタテ			
415					ヒメチャタテ科	ヒメチャタテ			
416			マドチャタテ科		ヒメマドチャタテ				
-					マドチャタテ科				
417			チャタテ科		オオチャタテ				
418					カバイロチャタテ				
419					オオスジチャタテ				
420					スジチャタテ				
-			チャタテ科						
421	コチャタテ科	コチャタテ科							
422	カメムシ目(半翅目)	コガシラウンカ科	ナウコガシラウンカ						
423			スジコガシラウンカ						
424			ヒシウンカ科		オビカワウンカ				
425		ヤナギカワウンカ							
426		キガシラヒシウンカ							
427		イボタヒシウンカ							
428		ヨスジヒシウンカ							
429		ウンカ科	タケウンカ						
430			フタスジオウンカ						
431			クロスジオウンカ						
432			ナガラガウンカ						
433			クワヤマウンカ						
434			ヒメトビウンカ						
435			トビイロウンカ						
436			ホソミドリウンカ						
437			ハコネホソウンカ						
438			セジロウンカ						
439			ハリマナガウンカ						
440			タマガワナガウンカ						
441			セスジウンカ						
442			コブウンカ						
-			ウンカ科						
443			ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ					
444				アヤヘリハネナガウンカ					
445		アカメガシワハネビロウンカ							
446		マエグロハネナガウンカ							
447		テングスケバ科	テングスケバ科						
448		アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ						
449		マルウンカ科	マルウンカ						
450			キボシマルウンカ						
451			クサビウンカ						
452		ハゴロモ科	スケバハゴロモ						
453			ベッコウハゴロモ						
454			アミガサハゴロモ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 8/37)

No.	網名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
455	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ゲンバイウンカ科	タテスジゲンバイウンカ				
456				ヒシウンカモドキ				
457			ゼミ科	テッチゼミ				
458				クマゼミ				
459				アブラゼミ				
460				ミンミンゼミ				
461				ニイニイゼミ				
462				ヒグラシ				
463				ハルゼミ				
464				ツノゼミ科	トビロツノゼミ			
465			アワフキムシ科	マツアワフキ				
466				シロオビアワフキ				
467				モンキアワフキ				
468				ハマベアワフキ				
469				マエキアワフキ				
470				ヒメモンキアワフキ				
471				ホシアワフキ				
472				クロスジアワフキ				
473				マダラアワフキ				
474				コミヤマアワフキ				
475				ホソアワフキ				
-				アワフキムシ科				
476				コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ			
477				ヨコバイ科	カシヒメヨコバイ			
478					トバヨコバイ			
479					モジヨコバイ			
480			カンキツヒメヨコバイ					
481			フタテンヒメヨコバイ					
482			スズキヒメヨコバイ					
483			クサビヨコバイ					
484			ミドリカスリヨコバイ					
485			タケナガヨコバイ					
486			ホシアオズキンヨコバイ					
487			ツマグロオオヨコバイ					
488			Chlorita属					
489			オオヨコバイ					
490			オオトガリヨコバイ					
491			トガリヨコバイ					
492			ミドリヒメヨコバイ					
493			バラヒメヨコバイ					
494			ヨツモンヒメヨコバイ					
495			ヨモギヒメヨコバイ					
496			シロヒメヨコバイ					
497			フタスジトガリヨコバイ					
498			ウスイロヒロヨコバイ					
499			サシヨコバイ					
500			ヒシモンヨコバイ					
501			シダヨコバイ					
502			マエジロオオヨコバイ					
503			ミドリヒロヨコバイ					
504			ミミズク					
505			コミミズク					
506			フタテンヨコバイ					
507			ヨツテンヨコバイ					
508			ムツテンヨコバイ					
509			コチャイロヨコバイ					
510			チャイロヨコバイ					
511	ムナグロスキンヨコバイ							
512	オビヒメヨコバイ							
513	ツマグロヨコバイ							
514	ホソサシヨコバイ							
515	ハンノヒロズヨコバイ							
516	ミナミマダラヨコバイ							
517	クワキヨコバイ							
518	アカシヒメヨコバイ							
519	モモグロヨコバイ							
520	クロヒラタヨコバイ							
521	ヒトツメヨコバイ							
522	クロサジヨコバイ							
523	シマサジヨコバイ							
524	シロスキンヨコバイ							
525	イナズマヨコバイ							
526	イネマダラヨコバイ							
527	シラホシスカシヨコバイ							
528	オサヨコバイ							
529	チマダラヒメヨコバイ							
530	キイロヒメヨコバイ							
531	イグチホシヨコバイ							
532	ホシヨコバイ							
533	ニッコウホシヨコバイ							
534	クロモンヤマトヨコバイ							
535	ヤノトガリヨコバイ							
536	ヤマシロヒメヨコバイ							
537	タカサゴヒメヨコバイ							
538	ミミズク亜科							
539	ヒロズヨコバイ亜科							
540	ホシヨコバイ亜科							
541	ホソサジヨコバイ亜科							
542	ヒメヨコバイ亜科							
543	オオヨコバイ亜科							
-	ヨコバイ科							
-		カメムシ目,同翅目,類吻群						



表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 9/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
544	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	キジラミ科	オビキジラミ				
545				イタドリマダラキジラミ				
546				ハンノキジラミ				
547				ベニキジラミ				
548				クストガリキジラミ				
549				クロトガリキジラミ				
550				アブラムシ科	ヨメナアミナシヒゲナガアブラムシ			
551					ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ			
552					マメアブラムシ			
553					クリオアアブラムシ			
554			ハッカイボアブラムシ					
555			ウツギトックリアアブラムシ					
556			イバラヒゲナガアブラムシ					
557			クヌギトゲマダラアブラムシ					
558			アザミヒゲナガアブラムシ					
559			クヌギハアブラムシ					
-					アブラムシ科			
560			クビナガカメムシ科	ヒメクビナガカメムシ				
561				サシガメ科	マダラカモドキサシガメ			
562			クロバアカサシガメ					
563			トビロサシガメ					
564			クロモンサシガメ					
565			クビアカサシガメ					
566			アカヘリサシガメ					
567			アシナガサシガメ					
568			シマサシガメ					
569			ヒメトビサシガメ					
570			ヤニサシガメ					
-					サシガメ科			
571			ゲンバウムシ科	オオウチワゲンバイ				
572				マルミヤマゲンバイ				
573				ヤナギゲンバイ				
574				シキミゲンバイ				
575				トサカゲンバイ				
-					Stephanitis属			
576			ヒメゲンバイ					
-				ゲンバウムシ科				
577			ハナカメムシ科	ヤサハナカメムシ				
578				ケシハナカメムシ				
579				ズイムシハナカメムシ				
580				ツヤヒメハナカメムシ				
581				ナミヒメハナカメムシ				
-					Orius属			
582			ユミアシハナカメムシ					
-				ハナカメムシ科				
583			トコジラミ科	トコジラミ科				
584			カスミカメムシ科	キエリフタモンカスミカメ				
585				ナカグロカスミカメ				
586				フチヒゲクロカスミカメ				
587				フタモンカスミカメ				
588				マツノヒゲボソカスミカメ				
589				フタモンアカカスミカメ				
590				クロバカスミカメ				
591				モモアカハギカスミカメ				
592				ツマグロアオカスミカメ				
593				ツマグロハギカスミカメ				
-					Apolygus属			
594				コミドリチビトビカスミカメ				
595				ミドリチビトビカスミカメ				
596				ヒメセダカカスミカメ				
597				アカボシカスミカメ				
598	マダラカスミカメ							
599	シロテンツヤカスミカメ							
600	オオクロトビカスミカメ							
601	ウスイロボソカスミカメ							
602	クロトビカスミカメ							
603	ズアカシダカスミカメ							
604	タバコカスミカメ							
605	クロマルカスミカメ							
606	モンキマキバカスミカメ							
607	キアシアカスミカメ							
608	ホソヒョウタンカスミカメ							
609	ツヤヒョウタンカスミカメ							
610	ヒョウタンカスミカメ							
611	クロヒョウタンカスミカメ							
612	ズグロキベリカスミカメ							
613	オオクロセダカカスミカメ							
614	カシワトビカスミカメ							
615	ムギカスミカメ							
616	アカスジカスミカメ							
617	ウスモンミドリカスミカメ							

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 10/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
618	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	カスミカメムシ科	イネホソミドリカスミカメ				
-				カスミカメムシ科				
619			マキバサシガメ科	アカマキバサシガメ				
620				ベニモンマキバサシガメ				
621				ハラビロマキバサシガメ				
622				クロマキバサシガメ				
623				コバナマキバサシガメ				
624				ハネナガマキバサシガメ				
625				キバネアシプトマキバサシガメ				
-				マキバサシガメ科				
626			オオホシカメムシ科	ヒメホシカメムシ				
627				オオホシカメムシ				
628			ホシカメムシ科	フタモンホシカメムシ				
629			ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ				
630				ヒメクモヘリカメムシ				
631				ホソヘリカメムシ				
-				ホソヘリカメムシ科				
632			ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ				
633				オオクモヘリカメムシ				
634				ホソハリカメムシ				
635				ハリカメムシ				
636				ハラビロヘリカメムシ				
637				ホシハラビロヘリカメムシ				
638				オオツマキヘリカメムシ				
639				ツマキヘリカメムシ				
-				ヘリカメムシ科				
640			ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ				
641				アカヒメヘリカメムシ				
642				ケブカヒメヘリカメムシ				
643				ブチヒゲヒメヘリカメムシ				
644			イトカメムシ科	イトカメムシ				
-				イトカメムシ科				
645			ナガカメムシ科	セスジナガカメムシ				
646				ヒョウタンナガカメムシ				
647				Dimorphopterus属				
648				マダラナガカメムシ				
649				ホソコバナナガカメムシ				
650				オオモンシロナガカメムシ				
651				チャイロナガカメムシ				
652				ヒメナガカメムシ				
653				ヒラタヒョウタンナガカメムシ				
654				ヒゲナガカメムシ				
655				クロスジヒゲナガカメムシ				
656				モンシロナガカメムシ				
657				アムールシロヘリナガカメムシ				
658				キベリヒョウタンナガカメムシ				
659				アカアシホソナガカメムシ				
660				クロアシホソナガカメムシ				
661				オオメナガカメムシ				
662				ムラサキナガカメムシ				
663				イチゴチビナガカメムシ				
664				コバナヒョウタンナガカメムシ				
-				ナガカメムシ科				
665			メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ				
666			ツノカメムシ科	オオツノカメムシ				
667				エサキモンキツノカメムシ				
668			ツチカメムシ科	コツチカメムシ				
669				ツチカメムシ				
-				ツチカメムシ科				
670			カメムシ科	ウスラカメムシ				
671				シロヘリカメムシ				
672				トゲカメムシ				
673				ムラサキカメムシ				
674				アオクチプトカメムシ				
675				ハナダカメムシ				
676				ナガメ				
677				トゲシラホシカメムシ				
678				ムラサキシラホシカメムシ				
679				マルシラホシカメムシ				
680				シラホシカメムシ				
681				ツヤアオカメムシ				
682				エビイロカメムシ				
683				クサキカメムシ				
684				ヨツボシカメムシ				
685				ツマジロカメムシ				
686				アオクサカメムシ				
687				イチモンジカメムシ				
688				チャバネアオカメムシ				
-				カメムシ科				
689			マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ				
690				クズマルカメムシ				
691				マルカメムシ				
-				マルカメムシ科				
692			キンカメムシ科	チャイロカメムシ				
-				キンカメムシ科				
693			アメンボ科	アメンボ				
694				コセアカアメンボ				
695				ヒメアメンボ				
696				シマアメンボ				
-				アメンボ科				
697			イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ				

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 11/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
698	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ミスカメムシ科	ミスカメムシ					
699			カタピロアメンボ科	ケシカタピロアメンボ					
700			ミスムシ科	コチビミスムシ					
701				チビミスムシ					
702				ハラグロコミスムシ					
703				コミスムシ					
-				Sigara属					
704				メミスムシ科	メミスムシ				
705				コオイムシ科	コオイムシ				
706				タイコウチ科	タイコウチ				
707					ミスカマキリ				
708				マツモムシ科	マツモムシ				
-					カメムシ幼虫				
-					カメムシ目				
709				アザミウマ目(総翅目)	シマアザミウマ科	ヒラズハナアザミウマ			
710					アザミウマ科	アザミウマ科			
711					クダアザミウマ科	Psallidotherips属			
-					クダアザミウマ科				
-					アザミウマ目				
712				アミメカゲロウ目(脈翅目)	ヘビトンボ科	クロスジヘビトンボ			
713						ヘビトンボ			
714					センブリ科	センブリ科			
715					コナカゲロウ科	マダラコナカゲロウ			
716					シロコナカゲロウ				
717			ヒロバカゲロウ科		ヒロバカゲロウ				
718					ウンモンヒロバカゲロウ				
719					スカシヒロバカゲロウ				
720					キマダラヒロバカゲロウ				
721			ケカゲロウ科		ケカゲロウ				
722			カマキリモドキ科		ヒメカマキリモドキ				
723			ミスカゲロウ科		ミスカゲロウ				
724			クサカゲロウ科		キントキクサカゲロウ				
725					ニッポンクサカゲロウ				
726					ホシクサカゲロウ				
727			ヒメカゲロウ科		ヤマトヒメカゲロウ				
728					アシマダラヒメカゲロウ				
729					ホソバヒメカゲロウ				
730					チャバネヒメカゲロウ				
731					マルバネヒメカゲロウ				
732					ニセヒメカゲロウ				
-					ヒメカゲロウ科				
733			ツノトンボ科		ツノトンボ				
734					オオツノトンボ				
735			ウスバカゲロウ科		ホシウスバカゲロウ				
736					ウスバカゲロウ				
737			シリアゲムシ目(長翅目)		シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ			
738						ブライヤシリアゲ			
739					シリアゲモドキ科	スカシシリアゲモドキ			
740			トビケラ目(毛翅目)		カウトビケラ科	ニホンタニガウトビケラ			
-					カウトビケラ科				
741				イウトビケラ科	オンダケミヤマイウトビケラ				
-					イウトビケラ科				
742				クダトビケラ科	クダトビケラ科				
743				ヒゲナガカウトビケラ科	ヒゲナガカウトビケラ				
744					チャバネヒゲナガカウトビケラ				
745				ヤマトビケラ科	イノブスヤマトビケラ				
-					ヤマトビケラ科				
746				ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ科				
747				ナガレトビケラ科	クレメンズナガレトビケラ				
748					ニッポンナガレトビケラ				
749					トランスウィラナガレトビケラ				
750					ヤマナカナガレトビケラ				
-					Rhyacophila属				
-					ナガレトビケラ科				
751				コエグリトビケラ科	ヒラタコエグリトビケラ				
752				カクスイトビケラ科	クワヤマカクスイトビケラ				
753					マルツツトビケラ				
-					Micrasema属				
-					カクスイトビケラ科				
754				アシエダトビケラ科	コバントビケラ				
-				アシエダトビケラ科					
755		ニンギョウトビケラ科		ニンギョウトビケラ					
-				Goera属					
-				ニンギョウトビケラ科					
756		カクツツトビケラ科		フトヒゲカクツツトビケラ					
757			ツダカクツツトビケラ						
-			カクツツトビケラ科						
758		ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ						
759			ゴマダラヒゲナガトビケラ						
760			ヤマモトセンカイトビケラ						
-			ヒゲナガトビケラ科						
761		エグリトビケラ科	ニセウスバキトビケラ						
762			ウスバキトビケラ						
-			エグリトビケラ科						
763		ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ						
-			ホソバトビケラ科						
764		フトヒゲトビケラ科	ヨツメトビケラ						
765			フタスジキソトビケラ						
766		トビケラ科	トビケラ科						
767		マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ						
-			マルバネトビケラ科						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 12/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
768	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ケトビケラ科	グマガトビケラ						
-				ケトビケラ科						
769				クロツツトビケラ科	クロツツトビケラ					
-					Uenoa属					
770				シマトビケラ科	コガタシマトビケラ					
771					シロズシマトビケラ					
772					イカリシマトビケラ					
773					ウルマーシマトビケラ					
774					セリーシマトビケラ					
775					ナカハラシマトビケラ					
-						Hydropsyche属				
776						オオシマトビケラ				
-						シマトビケラ科				
-						トビケラ目				
777					チョウ目(鱗翅目)	コムロリガ科	キマダラコムロリ			
778						ムモンハモグリガ科	ムモンハモグリガ科			
779				ツヤコガ科		アジサイツヤコガ				
-						ツヤコガ科				
780				マカリガ科		キオビクロヒゲナガ				
781						マカリガ科				
782				ホソガ科		ホソガ科				
783						ホソガ科				
-						ホソガ科				
784				ハモグリガ科		ハモグリガ科				
-						ハモグリガ科				
785		コハモグリガ科	コハモグリガ科							
786		ニセハマキガ科	カザリニセハマキ							
787		ヒロスコガ科	クロモンチビヒロスコガ							
788			マエモンヒロスコガ							
789			ウスモンツマオレガ							
790			アトモンヒロスコガ							
791			コクガ							
792			クロクモヒロスコガ							
793			ツツミノガ科	ツツミノガ科						
794			カザリバガ科	ホソカザリバ						
-				Cosmopterix属						
795				ベニモンマイコモドキ						
-			カザリバガ科							
796		クサモグリガ科	クサモグリガ科							
797		キバガ科	ミドリチビキバガ							
798			ハイロチビキバガ							
799			ハキノシロオビキバガ							
800			イモキバガ							
801			ナラクロオビキバガ							
-				キバガ科						
802		ヒゲナガキバガ科	ゴマフシロキバガ							
803			ムモンヒロキバガ							
804		マルハキバガ科	コクサギヒラタマルハキバガ							
805			クロカギヒラタマルハキバガ							
806			ヨモギヒラタマルハキバガ							
807			ミツボシキバガ							
808			ホソオビキマルハキバガ							
809			モトグロヒラタマルハキバガ							
810			カタキマルハキバガ							
811			スジモンキマルハキバガ							
812			カレハチビマルハキバガ							
813			オビマルハキバガ科							
814			ヒラタマルハキバガ科							
-				マルハキバガ科						
815			ニセマイコガ科	カタアカマイコガ						
816			ニジュウシトリバガ科	ヤマトニジュウシトリバ						
817		シンクイガ科	モモノヒメシンクイ							
818		アトヒゲコガ科	アトヒゲコガ科							
819		メムシガ科	オオキメムシガ							
-			メムシガ科							
820		ヒカリバコガ科	ヒカリバコガ科							
821		スガ科	ヒロバコナガ							
822			ツヤギンバナスガ							
823			コナガ							
824			ツマグロハイスガ							
825			ホソトガリクチブサガ							
826			スガ科							
-				スガ科						
827			ホソハマキモドキガ科	ホソハマキモドキガ科						
828			スカシバガ科	モモプトスカシバ						
829			ボクトウガ科	ゴマフボクトウ						
830			ハマキガ科	ハンノキミダレモンハマキ						
831		ギンヨスジハマキ								
832		ナラコハマキ								
833		チャモンシロハマキ								
834		チャノコカクモンハマキ								
835		リンゴコカクモンハマキ								
836		ネホシウスツマヒメハマキ								
837		グミウスツマヒメハマキ								
-				Apotomis属						
838				アトキハマキ						
839				ミダレカクモンハマキ						
840				オオアトキハマキ						
841				マツアトキハマキ						
842				ナカジロヒメハマキ						
843			イグサヒメハマキ							

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 13/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
844	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ハマキガ科	フタモントガリバヒメハマキ					
845				ハイイロウスモンハマキ					
846				ウスモンハマキ					
847				ウスキカクモンハマキ					
848				アシトヒメハマキ					
849				オオアシトヒメハマキ					
850				ヨツメヒメハマキ					
851				ヨモギネムシガ					
852				ヒノキカワモグリガ					
853				シロズスモンヒメハマキ					
854				カバイロスモンヒメハマキ					
855				トビモンシロヒメハマキ					
856				ニセコシワヒメハマキ					
-				Eucosma属					
857				アカオビホソハマキ					
858				ウスキシロヒメハマキ					
859				ナシヒメシンクイ					
860				マツトビヒメハマキ					
861				グミオオウスツマヒメハマキ					
862				シロモンヒメハマキ					
863				シラフオヒメハマキ					
864				ヒカゲヒメハマキ					
865				チャハマキ					
866				マメノヒメシンクイ					
867				ホソバチビヒメハマキ					
868				スイカズラホソバヒメハマキ					
869				ニセアズキサヤヒメハマキ					
870				コホソシハマキ					
871				フタモンコハマキ					
872				ウスシロモンヒメハマキ					
873				ニセバラシロヒメハマキ					
874				バラシロヒメハマキ					
875				クローバヒメハマキ					
876				ウツギヒメハマキ					
877				ナツハゼヒメハマキ					
878				ウストビハマキ					
879				コエダオビホソハマキ					
880				コホソハマキ					
881				マツアカシンムシ					
882				キカギヒメハマキ					
883				モチツツジマダラヒメハマキ					
884				クロナハイロヒメハマキ					
885				マツマアカシンムシ					
886				クシヒゲムラサキハマキ					
887				シロスジマダラヒメハマキ					
888				Griselda属					
889				テングハマキガ亜科					
890				ハマキガ亜科					
891				ヒメハマキガ亜科					
-				ハマキガ科					
892				ホソハマキガ科		ホソハマキガ科			
893				イラガ科		ムラサキイラガ			
894						カギバイラガ			
895						クロマダライラガ			
896						テングイラガ			
897						イラガ			
898						ナシイラガ			
899						クロスジイラガ			
900						アオイイラガ			
901						クロシタアオイイラガ			
902						タイウンイラガ			
903						アカイラガ			
-						イラガ科			
904				マダラガ科		ウスグロマダラ			
905						ウスバツバメガ			
906						リンゴハマキクロバ			
907						シロシタホタルガ			
908				セセリチョウ科		ダイミョウセセリ			
909						ホソバセセリ			
910						ヒメキマダラセセリ			
911						イチモンジセセリ			
912						チャバネセセリ			
913						オオチャバネセセリ			
914						コチャバネセセリ			
915				マダラチョウ科		アサギマダラ			
916				テングチョウ科		テングチョウ			
917				シジミチョウ科		ルリシジミ			
918						ウラギンシジミ			
919						ツバメシジミ			
920						ウラナミシジミ			
921						ベニシジミ			
922						ムラサキシジミ			
923						ヤマトシジミ			
924						トラフシジミ			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 14/37)

No.	網名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
925	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シジミチョウ科	シルピアシジミ本土亜種			
926			タテハチョウ科	コムラサキ			
927				サカハチチョウ			
928				ミドリヒョウモン			
929				ツマグロヒョウモン			
930				ウラギンスジヒョウモン			
931				オオウラギンスジヒョウモン			
932				ヒメアカタテハ			
933				メスグロヒョウモン			
934				ルリタテハ本土亜種			
935				イチモンジチョウ			
936				アサマイチモンジ			
937				クモガタヒョウモン			
938				ミスジチョウ			
939				コムスジ			
940				ヒオドシチョウ			
941				キタテハ			
942				アカタテハ			
943				アオスジアゲハ			
944				カラスアゲハ			
945				モンキアゲハ			
946				ミヤマカラスアゲハ			
947				キアゲハ			
948				オナガアゲハ			
949				ナガサキアゲハ			
950				クロアゲハ			
951				ナミアゲハ			
952				モンキチョウ			
953				キチョウ			
954				スジグロシロチョウ			
955				モンシロチョウ			
956				クロヒカゲ			
957				クロナマチョウ			
958				ジャノメチョウ			
959				コジャノメ			
960				ヒメジャノメ			
961				サトキマダラヒカゲ			
962				ヤマキマダラヒカゲ			
-				Neope属			
963				ヒメウラナミジャノメ			
964				ヨモギトリバ			
965				ブドウトリバ			
966				フジメトリバ			
967				ホソトリバガ亜科			
-				トリバガ科			
968				ツトガ科	ウスムラサキノメイガ		
969				クロウスムラサキノメイガ			
-				Agroteral属			
970				ホソバソトグロキノメイガ			
971				シロヒトモンノメイガ			
972				ヒメトガリノメイガ			
973				ツトガ			
974				シロモンノメイガ			
975				モンウスグロノメイガ			
-				Bradina属			
976				ヒメキスジツトガ			
977				サツマツトガ			
978				ヘリアカキンノメイガ			
979				オオシロモンノメイガ			
980				ニカメイガモドキ			
981				ウスクロスジツトガ			
982				キベリハネボソノメイガ			
983				キボソノメイガ			
984				カギバノメイガ			
985				ウスムラサキスジノメイガ			
986				コブノメイガ			
987				マツノゴマダラノメイガ			
988				クロスカシトガリノメイガ			
989				シロスジツトガ			
990				トガリキノメイガ			
991				シロアヤヒメノメイガ			
992				シロテンノメイガ			
993				マダラミスメイガ			
994				ヒメマダラミスメイガ			
995				スジボソヤマメイガ			
996				アヤナミノメイガ			
997				オノメイガ			
998				ヘリシロカラスノメイガ			
999				ミヤマエグリツトガ			
1000				クワノメイガ			
1001				クロヘリキノメイガ			
1002				トビヘリキノメイガ			
1003				クロズノメイガ			
1004				ウタノメイガ			
1005				ハイマダラノメイガ			
1006				ウスオビクロノメイガ			
1007				モンキクロノメイガ			
1008				マエキノメイガ			
1009				ミツデンノメイガ			
1010				マメノメイガ			
1011				チビツトガ			
1012				スジマダラノメイガ			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 15/37)

No.	網名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
1013	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ツトガ科	シロテンキノメイガ						
1014				サツマキノメイガ						
1015				クロフキノメイガ						
1016				ミドロミズメイガ						
1017				ホシオビホソノメイガ						
1018				ワモンノメイガ						
1019				アトモンミズメイガ						
1020				キバラノメイガ						
1021				クロミズジノメイガ						
1022				シロアシクロノメイガ						
1023				アワノメイガ						
-				Ostrinia属						
1024				ヨスジノメイガ						
1025				ヘリジロキンノメイガ						
1026				マエウスモンキノメイガ						
1027				ヒメシロノメイガ						
1028				マエアカスカシノメイガ						
1029				ヒロバウスグロノメイガ						
1030				シバツトガ						
1031				ゼニガサミズメイガ						
1032				シロナミミズメイガ						
1033				クロマダラキノメイガ						
1034				クビシロノメイガ						
1035				コガタシロモンノメイガ						
1036				クロスジキンノメイガ						
1037				シロハラノメイガ						
1038				コヨツメノメイガ						
1039				ウスイロキンノメイガ						
1040				ウコンノメイガ						
1041				キオビミズメイガ						
1042				ナカキトガリノメイガ						
1043				キムジノメイガ						
1044				ミカエリソウノメイガ						
1045				ホソスジツトガ						
1046				モンスカシキノメイガ						
1047				クロオビノメイガ						
1048				トモンノメイガ						
1049				アトグロキノメイガ						
1050				ナカキノメイガ						
1051				コガタシロオオメイガ						
1052				シロオビノメイガ						
1053				モンシロクロノメイガ						
1054				クロスジノメイガ						
1055				オオモンシロルリノメイガ						
1056				モンシロルリノメイガ						
1057				オオメイガ亜科						
1058				ノメイガ亜科						
1059				ヤマメイガ亜科						
1060				ツトガ亜科						
1061						メイガ科	チビマエジロホソマダラメイガ			
1062							ウスアカムラサキマダラメイガ			
1063							マエグロツツリガ			
1064							ナシモンクロマダラメイガ			
1065							ウスアカマダラメイガ			
1066							マツノマダラメイガ			
1067							オオマエジロホソメイガ			
1068							ウスオビトガリメイガ			
1069							キモントガリメイガ			
1070							キペルトガリメイガ			
1071							ウスベントガリメイガ			
1072							カバイロトガリメイガ			
1073							チャマダラメイガ			
1074							フタスジツツリガ			
1075							シロマダラメイガ			
1076							アカシマメイガ			
1077							マツムラマダラメイガ			
1078							ウスモンマルバシマメイガ			
1079							トビイロシマメイガ			
1080							キイトメイガ			
1081							ナカムラサキフトメイガ			
1082							エグリミズメイガ			
1083							タンザウシダメイガ			
1084							ミカドマダラメイガ			
1085							アカマダラメイガ			
1086							ナカトビフトメイガ			
1087							ネアフトメイガ			
1088							フタスジシマメイガ			
1089							キンボシシマメイガ			
1090							トビスジマダラメイガ			
1091							クロマダラメイガ			
1092							ギンモンシマメイガ			
1093							オオフトメイガ			
1094							ムラサキシマメイガ			
1095							ヒメアカマダラメイガ			
1096							トビイロフタスジシマメイガ			
1097							ネグロフトメイガ			
1098							マエモンシマメイガ			
1099							ナカアフトメイガ			
1100							キイロツツリガ			
1101							ミドリフトメイガ			
1102							マダラズメイガ			
1103							キボシシマメイガ			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 16/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
1104	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	メイガ科	シマメイガ亜科						
1105				ツツリガ亜科						
1106				マダラメイガ亜科						
-					メイガ科					
1107					マドガ科	チビマダラマドガ				
1108						ヒメマダラマドガ				
1109						マダラマドガ				
1110						アカジママドガ				
1111					マドガ					
1112					カギバガ科	マエキカギバ				
1113						ウスイロカギバ				
1114						オビカギバ				
1115						アカウラカギバ				
1116						スカシカギバ				
1117						モンウスギヌカギバ				
1118						ウスギヌカギバ				
1119						アシベニカギバ				
1120						クロスジカギバ				
1121						ヒメハイロカギバ				
1122						ウコンカギバ				
1123					トガリバガ科	オオアヤトガリバ				
1124						オオバトガリバ				
1125						ホソトガリバ				
1126						モントガリバ				
1127					アゲハモドキガ科	キンモンガ				
1128					フタオガ科	クロオビシロフタオ				
1129					シャクガ科	チビトビスジエダシャク				
1130						アシプトチズモンアオシャク				
1131						ナカウスエダシャク				
1132						ウスイロオエダシャク				
1133						マルバトビスジエダシャク				
1134						ゴマダラシロエダシャク				
1135						クロクモエダシャク				
1136						ヒョウモンエダシャク				
1137						ヨモギエダシャク				
1138						ムスジシロナミシャク				
1139						オオヨスジアカエダシャク				
1140						ホシスジトガリナミシャク				
1141						ヤマトエダシャク				
1142						ホソバハラアカアオシャク				
1143						ウスハラアカアオシャク				
1144						コウスアオシャク				
-							Chlorissa属			
1145							クロスジアオナミシャク			
1146							ヒメシロフアオシャク			
1147							ルリモンエダシャク			
1148							ヘリジロヨツメアオシャク			
1149							ギンシニアオシャク			
1150							クロモンアオシャク			
1151							ヨツデンアオシャク			
1152							ヨツモンマエジロアオシャク			
1153							コヨツメアオシャク			
1154							ウコンエダシャク			
1155							ツマキエダシャク			
1156							マツオエダシャク			
1157							ウスアオシャク			
1158							ナミスジコアオシャク			
1159							オオハガタナミシャク			
1160							ウストビスジエダシャク			
1161							フトフタオビエダシャク			
1162							オオトビスジエダシャク			
1163							ウスジロエダシャク			
1164							ツマキリエダシャク			
1165							モミヅツマキリエダシャク			
1166							サラサエダシャク			
1167							アミメオエダシャク			
1168							ヘリスジナミシャク			
1169							ウスオビヒメエダシャク			
1170							ハコベナミシャク			
1171							クロテンカバナミシャク			
1172							ハラキカバナミシャク			
-							Eupithecia属			
1173							ミヤマアミメナミシャク			
1174							ハガタナミシャク			
1175							セスジナミシャク			
1176							エグリエダシャク			
1177							キマダラオオナミシャク			
1178							キバラエダシャク			
1179							カギシロスジアオシャク			
1180							フタデンオエダシャク			
1181							ウスオエダシャク			
1182							コシロスジアオシャク			
1183							ナミガタエダシャク			
1184							ウラベニエダシャク			
1185							コウスグモナミシャク			
1186							ウスクモナミシャク			
1187							サザナミオビエダシャク			
1188							シロシタトビイロナミシャク			
1189							ウラキトガリエダシャク			
1190							ナカシロオビエダシャク			
1191							オオバナミガタエダシャク			
1192							ウスバミスジエダシャク			



表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 17/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
1193	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シャクガ科	ハミスジエダシャク			
1194				ヨスジキヒメシャク			
1195				ウスキヒメシャク			
1196				ウスモンキヒメシャク			
1197				オオウスモンキヒメシャク			
-				Idaea属			
1198				チャノウンモンエダシャク			
1199				コガタヒメアオシャク			
1200				マルモンヒメアオシャク			
1201				アトクロナミシャク			
1202				オオフタスジシロエダシャク			
1203				クロスウスキエダシャク			
1204				ウスフタスジシロエダシャク			
1205				バラシロエダシャク			
1206				トビカギバエダシャク			
1207				ニッコウエダシャク			
1208				ウスクモエダシャク			
1209				フタモンクロナミシャク			
1210				クロオモモンエダシャク			
1211				クロミスジシロエダシャク			
1212				ウチムラサキヒメエダシャク			
1213				オオマエキトビエダシャク			
1214				マエキトビエダシャク			
1215				テンモンチビエダシャク			
1216				エグリツマエダシャク			
1217				コヨツメエダシャク			
1218				シロツバメエダシャク			
1219				ウスキツバメエダシャク			
1220				ウスアオエダシャク			
1221				ヒロバウスアオエダシャク			
1222				シナトビスジエダシャク			
1223				オオゴマダラエダシャク			
1224				ツマキリウスキエダシャク			
1225				ウラモンアカエダシャク			
1226				クロフヒメエダシャク			
1227				コカバズジナミシャク			
1228				ウスグロナミエダシャク			
1229				トビネオエダシャク			
1230				リンゴツノエダシャク			
1231				ナカキエダシャク			
1232				コナフキエダシャク			
1233				マエキオエダシャク			
1234				クロフオオシロエダシャク			
1235				ヒトツメオオシロヒメシャク			
1236				ニセオレクギエダシャク			
1237				オレクギエダシャク			
-				Protobernia属			
1238				クロテントビイロナミシャク			
1239				フタナミトビヒメシャク			
1240				フタスジエダシャク			
1241				フタヤマエダシャク			
1242				フタマエホシエダシャク			
1243				クロテンシロヒメシャク			
1244				ウスキトガリヒメシャク			
1245				ギンバネヒメシャク			
1246				ヤスジマルバヒメシャク			
1247				ハイロヒメシャク			
1248				サツマヒメシャク			
1249				チビシロヒメシャク			
1250				モントビヒメシャク			
1251				マエキヒメシャク			
1252				ナミスジチビヒメシャク			
1253				ウスサカハチヒメシャク			
1254				ヨツボシウスキヒメシャク			
1255				キナミシロヒメシャク			
-				Scopula属			
1256				ハガタムラサキエダシャク			
1257				ピロードナミシャク			
1258				ウンモンオオシロヒメシャク			
1259				ツマトビシロエダシャク			
1260				クロハグルマエダシャク			
1261				ハグルマエダシャク			
1262				マルハグルマエダシャク			
1263				スジハグルマエダシャク			
1264				カギバアオシャク			
1265				キマダラツバメエダシャク			
1266				ミヤマツバメエダシャク			
1267				ウスベニスジヒメシャク			
-				Timandra属			
1268				ホソバナミシャク			
1269				ヒロオビオエダシャク			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 18/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
1270	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	シラクガ科	シロスジオオエダシヤク					
1271				ツマグロナミシヤク					
1272				フトジマナミシヤク					
1273				フタクロテンナミシヤク					
1274				モンシロツマキリエダシヤク					
1275				ミスジツマキリエダシヤク					
1276				トガリエダシヤク					
1277				Zethenia属					
1278				ツマキリウスエダシヤク					
1279				ヒメシヤク亜科					
-				シラクガ科					
1280				イカリモンガ科		イカリモンガ			
1281				カイコガ科		クワコ			
1282			オビガ科		オビガ				
1283			カレハガ科		マツカレハ				
1284					クヌギカレハ				
1285			ヤママユガ科		オナガミスアオ				
-					Actias属				
1286					ヤママユ				
1287					クスサン				
1288					ヒメヤママユ				
1289			スズメガ科		ブドウスズメ				
1290				クルマスズメ					
1291				ホシヒメホウジャク					
1292				ウンモンズズメ					
1293				トビイロスズメ					
1294				ベニスズメ					
1295				サザナミスズメ					
1296				ヒメクロホウジャク					
1297				ホシホウジャク					
1298				モモスズメ					
1299				クチバズズメ					
1300				エゾシモフリズズメ					
1301				エゾズズメ					
1302				ピロードズズメ					
1303				ミスジピロードズズメ					
1304				ウチズズメ					
1305				コスズメ					
1306				シャチホコガ科		ツマアカシャチホコ			
1307					ホソバネグロシャチホコ				
1308					コトビモンシャチホコ				
1309					クロテンシャチホコ				
1310					ホソバシャチホコ				
1311					コフタオビシャチホコ				
1312					クワゴモドキシャチホコ				
1313					ギンシャチホコ				
1314					ブライヤエグリシャチホコ				
1315					クロシタシャチホコ				
1316			ウスキシヤチホコ						
1317			ヘリスジシャチホコ						
1318			ヒメシャチホコ						
1319			ナカスジシャチホコ						
1320			ネスジシャチホコ						
1321			ナカキシヤチホコ						
1322			ルリモンシャチホコ						
1323			ツマキシヤチホコ						
1324			モンクロナシャチホコ						
1325			スズキシヤチホコ						
1326			オオエグリシャチホコ						
1327			セダカシャチホコ						
1328			ウスイロギンモンシャチホコ						
1329			シャチホコガ						
1330			オオアオシャチホコ						
1331			ブライヤアオシャチホコ						
1332			キシヤチホコ						
1333			モンクログンシャチホコ						
1334			ギンボシシャチホコ						
-			シャチホコガ科						
1335			ヒトリガ科			ホシオビコケガ			
1336					ハガタベニコケガ				
1337					スジベニコケガ				
1338					シロヒトリ				
1339					アカスジシロコケガ				
1340					キシタホソバ				
1341					ムジホソバ				
1342					ヤネホソバ				
1343					キマエホソバ				
1344					ニセキマエホソバ				
1345				クロテンハイイロコケガ					
1346				キマエクロホソバ					
1347				ケベリネズミホソバ					
1348				ヨツボシホソバ					
1349				ヒメホシコケガ					
1350				ハガタキコケガ					
1351				ウスバフタホシコケガ					
1352				スカシコケガ					
1353				スジモンヒトリ					
1354				キハラゴマダラヒトリ					
1355				アカハラゴマダラヒトリ					
1356			クロスジヒコケガ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 19/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
1357	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ドクガ科	スカシドクガ						
1358				スギドクガ						
1359				アカヒゲドクガ						
1360				リンゴドクガ						
1361				マメドクガ						
1362				キドクガ						
1363				チャドクガ						
1364				ゴマフリドクガ						
1365				ドクガ						
1366				ブドウドクガ						
1367				スゲオオドクガ						
1368				マイマイガ						
1369				カシウマイマイ						
1370				ミノオマイマイ						
1371	シロオビドクガ									
1372	ヒメシロモンドクガ									
1373	ウチジロマイマイ									
1374	ニフトコドクガ									
1375	ヤガ科			エゾマダラウワバ						
1376				フジロアツバ						
1377				シラオミクロアツバ						
1378				アケビコノハ						
1379				タマナヤガ						
1380				カブラヤガ						
1381				オオウスツマカラスヨトウ						
1382				カラスヨトウ						
1383				オオシマカラスヨトウ						
1384				シマカラスヨトウ						
1385				シロテンツマキリアツバ						
1386				サビイロコヤガ						
1387				クロテンカバアツバ						
1388				カバマダラヨトウ						
1389				ヒメキイロヨトウ						
1390				アカキリバ						
1391				ヤマトコヤガ						
1392				ハガタウスキヨトウ						
1393				フクラスズメ						
1394				ギンボシリシガ						
1395				シロテンウスグロヨトウ						
1396				テンウスイロヨトウ						
1397				シロモンオビヨトウ						
1398				ヒメサビスジヨトウ						
-							Athetis属			
1399							クロハナコヤガ			
1400							モクメヨトウ			
1401							ハジマヨトウ			
1402							コウモンクチバ			
1403							ムラクモアツバ			
1404							ホシムラサキアツバ			
1405							ウスツマアツバ			
1406							アイモンアツバ			
1407							ヤマガタアツバ			
-							Bomolocha属			
1408							チャイロアツバ			
1409							ウスアオモンコヤガ			
1410							ヒメツマキリヨトウ			
1411							ハイイロコヤガ			
1412							マメキシタバ			
1413							アミメキシタバ			
1414							シロシタバ			
1415							キシタバ			
1416							コガタキシタバ			
1417				カクモンキシタバ						
1418				ハナオイアツバ						
1419				ギンシアツバ						
1420				フタスジシマコヤガ						
1421				シマフコヤガ						
1422				ツマベニシマコヤガ						
1423				ベニシマコヤガ						
-				Corgatha属						
1424				ミツモンキンウバ						
1425				エゾギクキンウバ						
1426				リョクモンオオキンウバ						
1427				ウスアカヤガ						
1428				オオバコヤガ						
1429				コウスチャヤガ						
1430				アカフヤガ						
1431				ムラサキアツバ						
1432				キイロソトオビアツバ						
1433				クロモクメヨトウ						
1434				シロスアツバ						
1435				オオシラホシアツバ						
1436				シンジュキノカワガ						
1437				キスジコヤガ						
1438				シロモンコヤガ						
1439				モンムラサキクチバ						
1440				オオトモエ						
1441				マダラウスムラサキクチバ						
1442				アカテシタバ						
1443				ギンズキンウバ						
1444				カザリツマキリアツバ						
1445				アカガネヨトウ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 20/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
1446	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ヤガ科	ホソバミドリヨトウ			
1447				フサヤガ			
1448				ウスグロヤガ			
1449				クロオビリンガ			
1450				ゴボウトガリヨトウ			
1451				フタキボシアツバ			
1452				Hadennia属			
1453				フタデンヒメヨトウ			
1454				ナカジロアツバ			
1455				タバコガ			
1456				アトヘリヒトホシアツバ			
1457				ウスキミスジアツバ			
1458				フシキアツバ			
1459				クロスジアツバ			
1460				シラナミアツバ			
1461				トビスジアツバ			
-				Herminia属			
1462				クロクモヤガ			
1463				オオシラナミアツバ			
1464				ベニエグリコヤガ			
1465				ソトウスグロアツバ			
1466				ヒロオビウスグロアツバ			
1467				ウスズミケンモン			
1468				クロキシタアツバ			
1469				ソトムラサキアツバ			
1470				トビモンアツバ			
1471				ウスチャモンアツバ			
1472				ムラサキミツボシアツバ			
1473				タイウンキシタアツバ			
-				Hypena属			
1474				モンキコヤガ			
1475				オオシロテンクチバ			
1476				シロホシクロアツバ			
-				Idia属			
1477				マエキリンガ			
1478				キモンコヤガ			
1479				トビフタスジアツバ			
1480				チビアツバ			
1481				クビグロクチバ			
1482				ヒメクビグロクチバ			
1483				ヒメオビコヤガ			
1484				ヒメネジロコヤガ			
1485				シャクドウクチバ			
1486				エチゴチビコブガ			
-				Meganola属			
1487				ホシミミヨトウ			
1488				シロスジトモエ			
1489				フタバシコヤガ			
1490				Micreremites属			
1491				ウスオビチビアツバ			
1492	ニセウンモンクチバ						
1493	ウンモンクチバ						
-	Mocis属						
1494	ゴマケンモン						
1495	アオバセダカヨトウ						
1496	フサキバアツバ						
1497	マダラキヨトウ						
1498	クサンロキヨトウ						
1499	ミヤマフタオビキヨトウ						
1500	クロシタキヨトウ						
1501	フタデンキヨトウ						
1502	マメチャイロキヨトウ						
1503	スジシロキヨトウ						
1504	フタオビキヨトウ						
1505	ベニトガリアツバ						
1506	フタオビコヤガ						
1507	フタデンチビアツバ						
1508	ウチジロコヤガ						
1509	マエモンコヤガ						
1510	ヒゲトクロアツバ						
1511	ナミコブガ						
-	Nola属						
1512	ミヤマクロスジキノカワガ						
1513	クロテンキノカワガ						
1514	マエジロヤガ						
1515	ウスモイロアツバ						
1516	ツمامラサキアツバ						
-	Olutis属						
1517	アカエグリバ						
1518	ノコメセダカヨトウ						
1519	クロミキリガ						
1520	モンシロクルマコヤガ						
1521	アトキスジクルマコヤガ						
1522	ヤジリモンコヤガ						
1523	ツマジロツマキリアツバ						
1524	ムラサキツマキリアツバ						
1525	リンゴツマキリアツバ						
1526	ウンモンツマキリアツバ						
1527	シロモンツマキリアツバ						
1528	シロテムラサキアツバ						
1529	ミスジアツバ						
1530	キボシアツバ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 21/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
1531	昆虫綱	チョウ目(鱗翅目)	ヤガ科	チャバネキボシアツバ						
-							Paragabara属			
1532							ウスグロセニジモンアツバ			
1533							ニセタマナヤガ			
1534							テンモンシマコヤガ			
1535							ウスベニコヤガ			
1536							モンキアカガネヨトウ			
1537							ヨモギコヤガ			
1538							マエテンヨトウ			
1539							イネキンウワバ			
1540							マダラエグリバ			
1541							シロマダラコヤガ			
1542							シロフコヤガ			
-							Protodeltote属			
1543							フタスジヨトウ			
1544							トビモンコヤガ			
1545							アオスジアオリンガ			
1546							アカスジアオリンガ			
1547							マエテナツバ			
1548							ヨシヨトウ			
1549							クロチャマダラキリガ			
1550							クロスジコバ			
1551							マエシロモンアツバ			
1552							タケアツバ			
1553							テングロアツバ			
-							Rivula属			
1554							サツボロチャイロヨトウ			
1555							トビイロトラガ			
1556							シロシタヨトウ			
1557							ハスオビヒメアツバ			
1558							イネヨトウ			
1559							テンオビヨトウ			
1560							オオアカマエアツバ			
1561							ニセアカマエアツバ			
-							Simplicia属			
1562							オオカバシヤガ			
-							Sineugraphe属			
1563							ハグルマトモエ			
1564							オスグロトモエ			
-							Spirama属			
1565							スジキリヨトウ			
1566							ハスモンヨトウ			
1567							シロナヨトウ			
1568							ムモンキイロアツバ			
1569							ウスアオキノコヨトウ			
1570							シロスジキノコヨトウ			
1571							ニセシロフコヤガ			
1572							ネモンシロフコヤガ			
1573							クロシラフクチバ			
1574							シロスジアオヨトウ			
1575							オオシロテンアオヨトウ			
1576							キバラケンモン			
1577							シロオビクルマコヤガ			
1578							ナシケンモン			
1579							マダラヨトウ			
1580							シロモンヤガ			
1581							ウスチャヤガ			
1582							キシタミドリヤガ			
1583							ハイイロキシタヤガ			
1584							ウスグロアツバ			
1585							ツマオビアツバ			
1586							キイロアツバ			
1587							コブヒゲアツバ			
1588							ヒメコブヒゲアツバ			
1589							ツマテンコブヒゲアツバ			
1590							チョウセンコウスグロアツバ			
-							Zanclognatha属			
1591							コウモンクチバ			
1592							アツバ亜科			
-							ヤガ科			
1593						コブガ科	コブガ科			
1594						ヒゲナガガ科	ヒゲナガガ亜科			
1595						ヒルガオハモグリガ科	ヒルガオハモグリガ亜科			
-							チョウ目			
1596					ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ヒメウスバガガンボ			
1597							ミカドガガンボ			
1598							ネグロクシヒゲガガンボ			
1599							ベッコウガガンボ			
1600							Dicranomyia属			
1601							オトヒメガガンボ			
1602							クロバネヒメガガンボ			
1603							ホシヒメガガンボ			
1604							コマダラヒメガガンボ			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 22/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
1605	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	イツモンヒメガガンボ					
1606				ミスジガガンボ					
1607				クチバシガガンボ					
1608				ギフヒゲナガガガンボ					
1609				カスリヒメガガンボ					
-				Limnophila属					
1610				コモンヒメガガンボ					
1611				マダラクロヒメガガンボ					
1612				ホソバネヒメガガンボ					
1613				セアカヒメガガンボ					
1614				タケウチマダラヒメガガンボ					
1615				ウスキバネヒメガガンボ					
1616				ツマジロヒメガガンボ					
-				Limonia属					
1617				Nephrotoma属					
1618				ハスオビガガンボ					
1619				キリウシガガンボ					
1620				マダラガガンボ					
1621				キアシガガンボ					
1622				マドガガンボ					
1623				クロキリウシガガンボ					
1624				ヤチガガンボ					
1625				マエキガガンボ					
-				Tipula属					
1626				シリプトガガンボ亜科					
1627				ヒメガガンボ亜科					
-				ガガンボ科					
1628				ガガンボダマシ科		ニッポンフユガガンボ			
-				ガガンボダマシ科					
1629				アミカ科		シコクアミカ			
-				アミカ科					
1630				チョウバエ科		セベリンチョウバエ			
1631						マツタケチョウバエ			
1632						ホシチョウバエ			
-				チョウバエ科					
1633				ヌカカ科		ケヌカカ			
1634						ニワトリヌカカ			
1635						タンボツヤヌカカ			
1636						シロフケブカヌカカ			
1637						コンイロヌカカ			
1638						モリヌカカ			
1639						モンヌカカ			
1640						フトモムシヒキヌカカ			
-				ヌカカ科					
1641				ケヨソイカ科		アカケヨソイカ			
1642				ユスリカ科		セスジユスリカ			
1643						セスジヒラアシユスリカ			
1644						セボシヒメユスリカ			
1645						ミツオビツヤユスリカ			
-				Cricotopus属					
1646						クロユスリカ			
1647						ボカシヌマユスリカ			
1648						シロアシユスリカ			
1649						ウスモンユスリカ			
1650						ニッポンカユスリカ			
1651						アカムシユスリカ			
1652						ウスギヌヒメユスリカ			
1653						カクスナガレユスリカ			
1654						ハスムグリユスリカ			
1655						アキツキユスリカ			
1656						カスリモンユスリカ			
1657						ミゾチビユスリカ			
1658						ミドリオオユスリカ			
1659						ニッポンケブカユスリカ			
-				ユスリカ科					
1660				カ科		アカイエカ			
-				Culex属					
-				カ科					
1661				ホソカ科		クロホソカ			
1662				マガリスネカ科		マガリスネカ科			
1663				ケバエ科		Bibio属			
-				ケバエ科					
1664				タマバエ科		Dasineura属			
1665						キクタマバエ			
1666						Lestremia属			
-				タマバエ科					
1667				ニセケバエ科		ナガサキニセケバエ			
1668				キノコバエ科		ナミトモナガキノコバエ			
1669						ヒメボソキノコバエ			
1670						ナミボソキノコバエ			
1671						クロヒラモモキノコバエ			
1672						ニセシボソキノコバエ			
1673						Fungivora属			
1674						Macrocera属			
1675						イグチナミキノコバエ			
1676						ケブカマドキノコバエ			
1677						ケアシコンボウキノコバエ			
1678						オオムクゲキノコバエ			
1679						スジヒトヘダキノコバエ			
-				キノコバエ科					
1680				ケズメカ科		ツノケズメカ			
-				ケズメカ科					

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 23/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
1681	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	クロバネキノコバエ科	クロバネキノコバエ科				
1682			コガシラアブ科	シバカウコガシラアブ				
1683				セダカコガシラアブ				
1684			ナガレアブ科	クロモンシギアブ				
-				ナガレアブ科				
1685			シギアブ科	フタモンキイロシギアブ				
-				シギアブ科				
1686			ミズアブ科	エソホソリミズアブ				
1687				ハラキンミズアブ				
1688				コウカアブ				
1689				ルリミズアブ				
-				ミズアブ科				
1690			アブ科		ホルバートアブ			
1691					マルガタアブ			
1692					アカウシアブ			
1693					ヤマトアブ			
1694					アカアブ			
1695					シロフアブ			
1696					ウシアブ			
-		Tabanus属						
1697	ムシヒキアブ科			カウムラヒゲボソムシヒキ				
1698				クロスジイシアブ				
1699			アオメアブ					
1700			ハラボソムシヒキ					
1701			オオイシアブ					
1702			チャイロオオイシアブ					
1703			ミノモボソムシヒキ					
1704			マカリケムシヒキ					
1705			シオヤアブ					
1706			サキグロムシヒキ					
-		ムシヒキアブ科						
1707	ツリアブ科		コウヤツリアブ					
1708			ホツツリアブ					
1709			ニトベハラボソツリアブ					
1710		スズキハラボソツリアブ						
1711	ツルギアブ科		ツルギアブ科					
1712	アシナガバエ科		アシナガキンバエ					
-			Dolichopus属					
1713			マダラアシナガバエ					
-			アシナガバエ科					
1714	オドリバエ科		イトウマルバネオドリバエ					
1715			メスジロナガレオドリバエ					
1716			カマキリナガレオドリバエ					
1717			スジトナガレオドリバエ					
1718			モモトセダカオドリバエ					
1719			イマクオドリバエ					
1720			アカメセダカオドリバエ					
-				オドリバエ科				
1721	ヤリバエ科		ハコネヤリバエ					
1722	アタマアブ科		ツマグロキアタマアブ					
-			アタマアブ科					
1723	ハナアブ科		ツマグロコシボソハナアブ					
1724			オオメヒラタアブ					
1725			ナガヒラタアブ					
1726			マダラコシボソハナアブ					
1727			ハシグロクロハナアブ					
1728			ヤマトヒゲナガハナアブ					
1729			オビヒラタアブ					
1730			ヨコジマオオヒラタアブ					
1731			Epistrophe nitidicollis					
1732			ホソヒラタアブ					
1733			ホシメハナアブ					
1734			シマハナアブ					
1735			ハナアブ					
1736			マドヒラタアブ					
1737			ナミホシヒラタアブ					
1738			アシトハナアブ					
1739			カクモンアシトハナアブ					
1740			ホソツヤヒラタアブ					
1741			ホソツヤヒラタアブ					
-				Melanostoma属				
1742				シマアシトハナアブ				
1743				シマメヒラタアブ				
1744				キアシメヒラタアブ				
1745				ニセキアシメヒラタアブ				
-				Paragus属				
1746				オオハナアブ				
1747				Pipiza属				
1748				Pseudovolucella属				
1749				Sericomyia属				
1750				ナガヒメヒラタアブ				
1751				キタヒメヒラタアブ				
-				Sphaerophoria属				
1752				ケヒラタアブ				
1753				キイロナミホシヒラタアブ				
1754				ニトベナガハナアブ				
1755				ベッコウハナアブ				
1756				ヨツボシヒラタアブ				
1757				ルリイロナガハナアブ				
-				Xylota属				
1758		ノミバエ科		オオキモンノミバエ				
-				ノミバエ科				

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 24/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
1759	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ヒラタアシバエ科	ヒラタアシバエ					
1760			ハモグリバエ科	フジハモグリバエ					
1761			ヨモギハモグリバエ						
1762			スゲハモグリバエ						
1763			ムギキベリハモグリバエ						
1764			オカザキハモグリバエ						
1765			スイカスラハモグリバエ						
1766			ネギハモグリバエ						
1767			カトウハモグリバエ						
1768			ヨモギクキモグリバエ						
1769			タンボボハモグリバエ						
1770			ヨメナクロハモグリバエ						
1771			ヨメナスジハモグリバエ						
1772			ヤナギハモグリバエ						
1773			ニッポンキクハモグリバエ						
1774			ヤブジラミハモグリバエ						
1775			トガリハモグリバエ						
-					ハモグリバエ科				
1776			ニセミギワバエ科	ニセミギワバエ					
1777			アブラコバエ科	アブラコバエ科					
1778			キモグリバエ科	イネキモグリバエ					
1779				Disciphus subelongatus					
1780				ムギキモグリバエ					
1781				ササノアシプトキモグリバエ					
-				キモグリバエ科					
1782			クチキバエ科	キイロクチキバエ					
-				クチキバエ科					
1783			メバエ科	オオスグロメバエ					
1784				クロフタオレメバエ					
1785				ウスグロメバエ					
1786			ヒゲブトコバエ科	クロメマトイ					
1787			ホソショウジョウバエ科	モンホソショウジョウバエ					
1788				マダラメマトイ					
1789				アシクロハシリショウジョウバエ					
1790				ヒメホシショウジョウバエ					
1791				ダンドラショウジョウバエ					
1792				カオジロショウジョウバエ					
1793				フタオビショウジョウバエ					
1794				ヒョウモンショウジョウバエ					
1795				クロツヤショウジョウバエ					
1796				カスリショウジョウバエ					
1797				オオショウジョウバエ					
1798				トビクロショウジョウバエ					
1799				キハダショウジョウバエ					
1800				キイロショウジョウバエ					
1801				スバネショウジョウバエ					
1802				クロショウジョウバエ					
1803				モンコガネショウジョウバエ					
1804				カザリコガネショウジョウバエ					
1805				オトヒメショウジョウバエ					
1806				クロキノコショウジョウバエ					
1807				コフキヒメショウジョウバエ					
1808				ツヤカブトショウジョウバエ					
-				ショウジョウバエ科					
1809				ベッコウバエ科	ベッコウバエ				
1810				ミギワバエ科	Brachydeutera longipes				
-					ミギワバエ科				
1811				トゲハネバエ科	センチトゲハネバエ				
-					トゲハネバエ科				
1812				シマバエ科	シモフリシマバエ				
1813					キイロシマバエ				
1814					ヒラヤマシマバエ				
1815					Homoneura unguiculata				
-					Homoneura属				
1816					ヤブクロシマバエ				
1817					Trigonometopus forficula				
-				シマバエ科					
1818				クロツヤバエ科	ヤマトクロツヤバエ				
1819				ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ				
1820				ヒメコバエ科	Geomyza advena				
-					ヒメコバエ科				
1821				ヒロクチバエ科	ヒロクチバエ科				
1822				テガシラバエ科	フトハチモドキバエ				
1823				ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ				
-					ヤチバエ科				
1824				ツヤホソバエ科	ヒトデンツヤホソバエ				
-			ツヤホソバエ科						
1825			ハヤトビバエ科	ハヤトビバエ科					
1826				ナツササハマダラミバエ					
1827				チャイロハススジハマダラミバエ					
1828				ヒラヤマアミメクブカミバエ					
1829				ノゲシケブカミバエ					
1830				チャイロケブカミバエ					
1831				ヨモギハマダラミバエ					
1832				ミスジハマダラミバエ					
1833				ミサキノナガミバエ					
-				ミバエ科					
1834				ハナバエ科	ハコベハナバエ				
1835			タネバエ						
1836			アカザモグリハナバエ						
1837			ハコベモグリハナバエ						
-			ハナバエ科						
1838			クロバエ科	オオクロバエ					
1839				オビキンバエ					
1840				ホホグロオビキンバエ					
1841				キンバエ					
1842				ヒツジキンバエ					
-				Lucilia属					
1843				イトウコクロバエ					
1844				ツマクロキンバエ					
-			クロバエ科						
1845			ヒメイエバエ科	ヒメイエバエ科					



表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 25/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺			
					H6	H10	H15	
1846	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	イエバエ科	セマダライエバエ				
1847				モモエグリイエバエ				
1848				ヒメクロバエ				
1849				トウヨウカトリバエ				
1850				イエバエ				
1851				オオクロイエバエ				
1852				インドサシバエ				
-				イエバエ科				
1853				ニクバエ科	シリグロニクバエ			
1854					Militogrammatinae亜科			
-			ニクバエ科					
1855			フンバエ科	ヒメフンバエ				
-				フンバエ科				
1856			ヤドリバエ科	チビハマキヤドリバエ				
1857				カイコノウジバエ				
1858				ノコギリハリバエ				
-				Compsilura属				
1859				セスジナガハリバエ				
1860				マルボシヒラヤドリバエ				
1861				クロツヤハリバエ				
1862				ヤドリバエ科	クチナガハリバエ			
1863					マダラヤドリバエ			
-					Sturmia属			
1864			ヨコジマオオハリバエ					
1865			コガネオオハリバエ					
1866			セスジハリバエ					
1867			トガリハリバエ					
-			Thecocarcelia属					
1868			アシナガハリバエ					
-			ヤドリバエ科					
-			ハエ目					
1869			コウチュウ目(鞘翅目)	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ			
1870					ミイデラゴミムシ			
1871				オサムシ科	キイロチビゴモクムシ			
1872					タンゴヒラタゴミムシ			
1873					マルガタゴミムシ			
1874					コアマルガタゴミムシ			
1875					ニセマルガタゴミムシ			
1876					ナガマルガタゴミムシ			
1877					イグチマルガタゴミムシ			
1878	ホシボシゴミムシ							
1879	ゴミムシ							
1880	キベリゴモクムシ							
1881	アキタクロナガオサムシ							
1882	フタモンクビナガゴミムシ							
1883	メダカチビカワゴミムシ							
1884	ヨツモンカタキバゴミムシ							
1885	オオフタモンミズギワゴミムシ							
1886	アオミズギワゴミムシ							
1887	オオアオミズギワゴミムシ							
1888	アトモンミズギワゴミムシ							
1889	クロミズギワゴミムシ							
1890	ツマキミズギワゴミムシ							
1891	ヒメモンナガミズギワゴミムシ							
1892	キアシルリミズギワゴミムシ							
1893	オオズヒメゴモクムシ							
1894	ムネミゾマルゴミムシ							
1895	キガシラアオアトキリゴミムシ							
1896	アオアトキリゴミムシ							
1897	オオオサムシ							
1898	イワウキオサムシ							
1899	ヒメオサムシ							
1900	ヤコンオサムシ							
1901	ヤマトオサムシ							
1902	アカガネアオゴミムシ							
1903	コキベリアオゴミムシ							
1904	ヒメキベリアオゴミムシ							
1905	オオアトボシアオゴミムシ							
1906	アトボシアオゴミムシ							
1907	アオゴミムシ							
1908	キボシアオゴミムシ							

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 26/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
1909	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	アオヘリアオゴミムシ						
1910				ツヤキベリアオゴミムシ						
1911				ムナヒロアトボシアオゴミムシ						
1912				コガシラアオゴミムシ						
1913				アトワアオゴミムシ						
1914				ウスグロモリヒラタゴミムシ						
1915				チビモリヒラタゴミムシ						
1916				オオアオモリヒラタゴミムシ						
1917				ヤセモリヒラタゴミムシ						
1918				ハラアカモリヒラタゴミムシ						
1919				チャイロホソヒラタゴミムシ						
1920				コハラアカモリヒラタゴミムシ						
1921				イクビモリヒラタゴミムシ						
1922				ヒラタマルゴミムシ						
1923				マイマイカブリ						
1924				ミスギワアトキリゴミムシ						
1925				ルリヒラタゴミムシ						
1926				スナハラゴミムシ						
1927				オオスナハラゴミムシ						
1928				ヒメカワチゴミムシ						
1929				セアカヒラタゴミムシ						
1930				ホソアトキリゴミムシ						
1931				アオヘリホソゴミムシ						
1932				キイロセマルコムズギワゴミムシ						
1933				スジアオゴミムシ						
1934				トゲアシゴモクムシ						
1935				オオゴモクムシ						
1936				ツヤアオゴモクムシ						
1937				ケウスゴモクムシ						
1938				ヒメケゴモクムシ						
1939				ニセケゴモクムシ						
1940				ウスアカクロゴモクムシ						
1941				アカアシマルガタゴモクムシ						
1942				コゴモクムシ						
1943				ハマベゴモクムシ						
1944				ケゴモクムシ						
1945				セグロツヤゴモクムシ						
1946				ナガホラアナヒラタゴミムシ						
1947				トックリゴミムシ						
1948				フタバシアトキリゴミムシ						
1949				ホシハネヒロアトキリゴミムシ						
1950				ハネヒロアトキリゴミムシ						
1951				シユウジアトキリゴミムシ						
1952				オオクロナガオサムシ						
1953				クロナガオサムシ						
1954				オオゴミムシ						
1955				キノコゴミムシ						
1956				ノグチアオゴミムシ						
1957				ミヤマメダカゴミムシ						
1958				チャバネクビナゴミムシ						
1959				オオトックリゴミムシ						
1960				ウスケゴモクムシ						
1961				クビナガゴモクムシ						
1962				クロオビコムズギワゴミムシ						
1963				ウスオビコムズギワゴミムシ						
1964				ヒラタアトキリゴミムシ						
1965				キアシヌシチゴミムシ						
1966				カドツブゴミムシ						
1967				ダイショウツブゴミムシ						
1968				クロスホナシゴミムシ						
1969				オオヒラタゴミムシ						
1970				コヒラタゴミムシ						
1971				オオナガゴミムシ						
1972				フジタナガゴミムシ						
1973				マルムネヒメナガゴミムシ						
1974				コガシラナガゴミムシ						
1975				キンナガゴミムシ						
1976				オオクロナガゴミムシ						
1977				キイオナガゴミムシ						
1978				ヒメホソナガゴミムシ						
1979				ヒョウゴナガゴミムシ						
1980				マルガタナガゴミムシ						
1981				アシミソナガゴミムシ						
1982				ウエノオナガゴミムシ						
1983				ヨリトモナガゴミムシ						
-							Pterostichus属			
1984							ケブカヒラタゴミムシ			
1985							ミドリマメゴモクムシ			
1986							ムネアカマメゴモクムシ			
1987							ホソキバナゴミムシ			
1988							ニッポンツヤヒラタゴミムシ			
1989							マルガタツヤヒラタゴミムシ			
1990							キアシツヤヒラタゴミムシ			
1991							クロツヤヒラタゴミムシ			
1992							ヒメツヤヒラタゴミムシ			
1993							コクツヤヒラタゴミムシ			
1994							オオクツヤヒラタゴミムシ			
1995							ヒメミヤマツヤヒラタゴミムシ			
1996							クロチビカワゴミムシ			
1997							ヒラタコムズギワゴミムシ			
1998							クリイロコムズギワゴミムシ			
1999							アトモンコムズギワゴミムシ			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 27/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
2000	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	オサムシ科	ヨツモンコムズギワゴミムシ			
2001				ヨシイメクラチビゴミムシ			
2002				アトスジチビゴミムシ			
2003				ヒメツヤゴモクムシ			
2004				ナガツヤゴモクムシ			
2005				クロツヤゴモクムシ			
2006				アカガネオゴミムシ			
2007				エビアカガネゴミムシ			
2008				フタホシヒメアオゴミムシ			
2009				オオモリヒラタゴミムシ			
2010			ハンミョウ科	ハンミョウ			
2011				アイヌハンミョウ			
2012				ニワハンミョウ			
2013			ゲンゴロウ科	クロスマメゲンゴロウ			
2014				ゲンゴロウ			
2015				ハイロゲンゴロウ			
2016				シマゲンゴロウ			
2017				コシマゲンゴロウ			
2018				ウスイロシマゲンゴロウ			
2019				チビゲンゴロウ			
2020	ケシゲンゴロウ						
2021	ツブゲンゴロウ						
2022	ヒメゲンゴロウ						
2023	ニセケシゲンゴロウ						
2024	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ					
2025		コガシラミズムシ					
2026	ガムシ科	タマガムシ					
2027		トゲバゴマフガムシ					
2028		ゴマフガムシ					
2029		アカケシガムシ					
2030		セマルケシガムシ					
2031		キベリヒラタガムシ					
2032		キイロヒラタガムシ					
2033		マルヒラタガムシ					
2034		ガムシ					
2035		シジミガムシ					
2036		マクソガムシ					
2037		マメガムシ					
2038		ヒメガムシ					
2039		エンマムシ科	ヤマトエンマムシ				
2040	コエンマムシ						
2041	アリツカムシ科	エンマムシ					
2042		アナズアリツカムシ					
2043		オノヒゲアリツカムシ					
2044		コヤマトヒゲフトアリツカムシ					
2045		オオアシナガアリツカムシ					
2046		マメダルマアリツカムシ					
2047		オオズアリツカムシ					
2048		ナミンマアリツカムシ					
-		アリツカムシ科					
2049		デオキノコムシ科	デオキノコムシ科				
2050	シテムシ科						
2051	シテムシ科	オオヒラタシテムシ					
2052		オオモモフトシテムシ					
2053		モモフトシテムシ					
2054		クロシテムシ					
2055		ヤマトモンシテムシ					
2056		ヨツボシモンシテムシ					
2057	ハネカクシ科	オオアカバハネカクシ					
2058		ツヤケシヒゲフトハネカクシ					
2059		セナガヒゲフトハネカクシ					
2060		ウスアカヒゲフトハネカクシ					
2061		ホソセスジヒゲフトハネカクシ					
2062		ムネビロハネカクシ					
2063		キアシヒラタチビハネカクシ					
2064		アカイクビハネカクシ					
2065		キバネニセユミセミソハネカクシ					
2066		ニセユミセミソハネカクシ					
2067		ムナクボヒラナガハネカクシ					
2068		オオヒョウタンメダカハネカクシ					
2069		コガシラホソハネカクシ					
2070		ハラモンムネクボハネカクシ					
2071		オオマルズハネカクシ					
2072		コマルズハネカクシ					
2073		ハイロハネカクシ					
2074		ウスチャセミソハネカクシ					
2075		クロセミソハネカクシ					
2076		ハマベオオハネカクシ					
2077		ツマグロアカバハネカクシ					
2078		チビツヤムネハネカクシ					
2079		ヤマトチビアリノスハネカクシ					
2080		キアシナガハネカクシ					
2081		コバネナガハネカクシ					
2082		アカフタミソチビハネカクシ					
2083		クロズトガリハネカクシ					
2084		ハスオビキノコハネカクシ					
2085		チャバネトガリハネカクシ					
2086		ヤマトイクビハネカクシ					
2087		アカバヒメホソハネカクシ					
2088		ツマキツヤナガハネカクシ					
2089		オオサビイロモンキハネカクシ					
2090		サビハネカクシ					
2091	ツノフトツハネカクシ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 28/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺					
					H6	H10	H15			
2091	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ						
2092				アラバダドウナガハネカクシ						
2093				ルリコガシラハネカクシ						
2094				クロコガシラハネカクシ						
2095				マルコガシラハネカクシ						
2096				キアシチビコガシラハネカクシ						
2097				ミイロチビハネカクシ						
2098				アカバクビフトハネカクシ						
2099				ドウガネハネカクシ						
2100				クロガネハネカクシ						
2101				アカバハネカクシ						
2102				トビムシハネカクシ						
2103				チビバビロハネカクシ						
2104				アカバツヤムハネカクシ						
2105				ホソチャバネコガシラハネカクシ						
2106				クビボソハネカクシ						
2107				ハスモンヒメキノコハネカクシ						
2108				ヒメキノコハネカクシ						
2109				ヒメクロキノコハネカクシ						
-							Sepedophilus属			
2110							ヒゲトチビハネカクシ			
2111							ツヤケシシワチビハネカクシ			
2112							ホソフタホシメダカハネカクシ			
2113							アシマダラメダカハネカクシ			
2114							コクロマルクビハネカクシ			
2115							ヤマトマルクビハネカクシ			
2116							クローズマルクビハネカクシ			
-							Tachinus属			
2117							キベリシリホソハネカクシ			
2118							ツヤグロシリホソハネカクシ			
-							Tachyporus属			
2119							アカアシユミセミソハネカクシ			
2120							ユミセミソハネカクシ			
2121							キバネナガハネカクシ			
2122							ホソガタナガハネカクシ			
2123							ウスイロホソナガハネカクシ			
2124							キノコハネカクシ属			
-							ハネカクシ幼虫			
-							ハネカクシ科			
2125						マルハナノミ科	キイロチビマルハナノミ			
2126							マルガタチビマルハナノミ			
2127							ウスチャチビマルハナノミ			
2128							クロチビマルハナノミ			
2129							トビイロマルハナノミ			
2130						センテコガネ科	オオセンテコガネ			
2131							センテコガネ			
2132						クワガタムシ科	コクワガタ			
2133							ミヤマクワガタ			
2134							スジクワガタ			
2135				アカアシクワガタ						
2136				ノコギリクワガタ						
2137			コガネムシ科	コイチャコガネ						
2138				カブトムシ						
2139				ドウガネブイブイ						
2140				サクラコガネ						
2141				ツヤコガネ						
2142				ハンノヒメコガネ						
2143				ヒメコガネ						
2144				マグソコガネ						
2145				オビマグソコガネ						
2146				セマダラコガネ						
2147				ヒメコエンマコガネ						
2148				マエカドコエンマコガネ						
2149				ハナムグリ						
2150				アオハナムグリ						
2151				コヒゲシマピロウドコガネ						
2152				ナガチャコガネ						
2153				クロコガネ						
2154				オオクロコガネ						
2155				コクロコガネ						
2156				アカピロウドコガネ						
2157				ピロウドコガネ						
2158				カミヤピロウドコガネ						
2159				ヒメピロウドコガネ						
2160				オオピロウドコガネ						
2161				マルガタピロウドコガネ						
2162				コフキコガネ						
2163				オオスジコガネ						
2164				ツヤスジコガネ						
2165				ヒメスジコガネ						
2166				コガネムシ						
2167				スジコガネ						
2168				カバイロピロウドコガネ						
2169				ヒラタハナムグリ						
2170				クロマルエンマコガネ						
2171				コブマルエンマコガネ						
2172				シノエンマコガネ						
2173				マルエンマコガネ						
2174				コアオハナムグリ						
2175				マメダルマコガネ						
2176				キスジコガネ						
2177				ヒゲコガネ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類) : 29/37

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
2178	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	コガネムシ科	マメコガネ			
2179				ナラノチャイロコガネ			
2180				シロテンハナムグリ			
2181				カナブン			
2182				アオカナブン			
2183				ヒゲナガビロウドコガネ			
2184				ツヤチャイロコガネ			
2185				イマダテチャイロコガネ			
2186				ナエドコチャイロコガネ			
2187				オオヒラチャイロコガネ			
2188			ホソケシマグソコガネ				
2189			マルトゲムシ科	シラフチマルトゲムシ			
2190			ヒメドロムシ科	キベリナガアシドロムシ			
2191				キスジミソドロムシ			
2192				イブシアシナガドロムシ			
2193				アシナガミソドロムシ			
2194				アウツヤドロムシ			
2195			ナガドロムシ科	ナガドロムシ			
2196				タテスジナガドロムシ			
2197			ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ			
2198				マスダチヒラタドロムシ			
2199			ナガハナノミ科	コヒゲナガハナノミ			
2200			タマムシ科	アオグロナガタマムシ			
-				Agrius属			
2201				ヒメヒラタタマムシ			
2202				ウバタマムシ			
2203				ヤマトタマムシ			
2204				ヒラタチビタマムシ			
2205				クズノチビタマムシ			
2206				ヤナギチビタマムシ			
2207				マメチビタマムシ			
2208				ズミチビタマムシ			
2209				アカガネチビタマムシ			
-				Trachys属			
2210			コメツキムシ科	マダラチビコメツキ			
2211				サビキコリ			
2212				ムナビロサビキコリ			
2213				ホソサビキコリ			
2214				ヒメサビキコリ			
2215				ミヤマホソチャバネコメツキ			
2216				クリイロアシプトコメツキ			
2217				ホソハナコメツキ			
-				Cardiophorus属			
2218				キバネホソコメツキ			
2219				オオナガコメツキ			
2220				ムネスジダンダラコメツキ			
2221				チャイロコメツキ			
2222				ホソツヤケシコメツキ			
2223				ニセクチプトコメツキ			
2224				クロツヤクシコメツキ			
2225	ハネナガオオクシコメツキ						
2226	クシコメツキ						
2227	チャバネクシコメツキ						
-	Melanotus属						
2228	ミスギワコメツキ						
2229	クロツヤミスギワコメツキ						
2230	ウバタマコメツキ						
2231	ヒゲコメツキ						
2232	オオハナコメツキ						
-	Platynychus属						
2233	ヒメホソキコメツキ						
2234	カタモンチビコメツキ						
2235	ニホンチビマメコメツキ						
-	Quasimus属						
2236	Scutellathous属						
2237	クチプトコメツキ						
2238	オオツヤハダコメツキ						
2239	オオクシヒゲコメツキ						
2240	ヘリムネマメコメツキ						
2241	ウスイロカネコメツキ						
-	コメツキムシ科						
2242	コメツキダマシ科	ヒメフトコメツキダマシ					
2243		キンケヒメフトコメツキダマシ					
2244		フチトリコメツキダマシ					
2245		ツヤヒメミソコメツキダマシ					
2246		オオチャイロコメツキダマシ					
2247		エノキコメツキダマシ					
2248		ナガコメツキダマシ					
-	コメツキダマシ科						
2249	ヒゲプトコメツキ科	ナガヒゲプトコメツキ					
2250		チャイロヒゲプトコメツキ					

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 30/37)

No.	網名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
2251	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ジョウカイボン科	ムネアカクロジョウカイ					
2252				クロホソジョウカイ					
2253				ウスチャジョウカイ					
2254				セスジジョウカイ					
2255				クビアカジョウカイ					
2256				ジョウカイボン					
2257				セボシジョウカイ					
2258				フタイロジョウカイ					
2259				コクロヒメジョウカイ					
2260				クロツマキジョウカイ					
2261				ウスバツマキジョウカイ					
-									
2262									
-									
2263									
-									
2264									
2265									
-									
2266									
2267									
2268									
-									
2269									
2270									
-									
2271			ホタル科	オハボタル					
2272				ゲンジボタル					
2273				ヘイケボタル					
2274			ベニボタル科	ユアサクロベニボタル					
2275				カクムネベニボタル					
2276				クロハナボタル					
2277				ニセクロハナボタル					
2278				クロアミメボタル					
-				ベニボタル科					
2279			カツオブシムシ科	カマキリタマゴカツオブシムシ					
2280				チビカツオブシムシ					
2281			シバンムシ科	タバコシバンムシ					
-				シバンムシ科					
2282			ナガシクイムシ科	ケヤキヒラタキクイムシ					
2283			カッコウムシ科	Opi lo属					
2284			ジョウカイモドキ科	ホソヒメジョウカイモドキ					
2285				クギヌキヒメジョウカイモドキ					
2286				ヒロオビジョウカイモドキ					
2287				キアシオビジョウカイモドキ					
2288				ツマキアオジョウカイモドキ					
2289			ツツシクイ科	ツマグロツツシクイ					
2290			ムクゲキスイムシ科	ハスモンムクゲキスイ					
2291			テントウムシ科	ウンモンテントウ					
2292				ムーアシロホシテントウ					
2293				ナナホシテントウ					
2294				マクガタテントウ					
2295				オオニジュウヤホシテントウ					
2296				ナミテントウ					
2297				アトホシヒメテントウ					
-				Nephus属					
2298				ヨツボシテントウ					
2299				ヒメカメノコテントウ					
2300				ハレヤヒメテントウ					
2301				クモガタテントウ					
2302				ベニヘリテントウ					
2303				ハバヒメテントウ					
2304				バイゼヒメテントウ					
2305				オニヒメテントウ					
2306				クロヘリヒメテントウ					
2307				クロヒメテントウ					
2308				カワムラヒメテントウ					
2309				トビイロヒメテントウ					
2310				コクロヒメテントウ					
2311				クロテントウ					
2312				テントウムシ					
2313			キスイムシ科	ケナガセマルキスイ					
2314				キイロセマルキスイ					
2315				ウスバキスイ					
-				Cryptophagus属					
2316				マルガタキスイ					
2317				Henot icus属					
-				キスイムシ科					
2318			ヒラタムシ科	キボシチビヒラタムシ					
2319				ヒメヒラタムシ					
-				ヒラタムシ科					
2320			ミジナムシダマシ科	クロミジナムシダマシ					
2321				コゲチャミジナムシダマシ					
2322			テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ					
2323				セダカテントウダマシ					
2324				チャイロケブカテントウダマシ					
2325				キボシテントウダマシ					
2326			オオキノコムシ科	カタモンオオキノコ					
2327				ヒメオビオオキノコ					
2328				ミヤマオビオオキノコ					
2329				クロハバヒロオオキノコ					
2330			オオキスイムシ科	ヨツボシオオキスイ					

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 31/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
2331	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	コメツキモドキ科	キムネヒメコメツキモドキ					
2332				ツマグロヒメコメツキモドキ					
2333				Cryptophilus属					
2334				ルイスコメツキモドキ					
2335				ケシコメツキモドキ					
2336				ケナガマルキスイ					
2337				ヒメマキムシ科	ウスチャケシマキムシ				
2338				ケシキスイ科	ドウイロムクゲケシキスイ				
2339					コクロムクゲケシキスイ				
2340					コゲチャセマルケシキスイ				
2341					クロハナケシキスイ				
2342					ウスチャデオキスイ				
2343					クリイロデオキスイ				
-					Carpophilus属				
2344					マルマルケシキスイ				
2345					ナミヒラタケシキスイ				
-					Epuraea属				
2346					マメヒラタケシキスイ				
2347					モンチビヒラタケシキスイ				
2348					キイロチビハナケシキスイ				
2349					クロヒラタケシキスイ				
2350					ヨツボシケシキスイ				
2351					マルヒラタケシキスイ				
2352					キノコヒラタケシキスイ				
2353					ウスオビカケシキスイ				
2354					オオキマダラケシキスイ				
2355					クロキマダラケシキスイ				
2356					マルキマダラケシキスイ				
-					ケシキスイ科				
2357					ヒメハナムシ科	ベニモンアシナガヒメハナムシ			
2358						キイロアシナガヒメハナムシ			
2359						フタスジヒメハナムシ			
2360						エムモンチビヒメハナムシ			
2361					チビヒメハナムシ				
2362					ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ			
2363						ホソヒラタキスイ			
2364						ミツカドコナヒラタムシ			
-					Silvanoprus属				
2365					フタゲホソヒラタムシ				
2366					ニセクビボムシ科	クシヒゲニセクビボムシ			
2367						セグロニセクビボムシ			
2368					クチキムシ科	アオバクチキムシ			
2369						オオクチキムシ			
2370						クチキムシ			
2371				ホソクロクチキムシ					
2372				ウスイロクチキムシ					
2373				クリイロクチキムシ					
2374	クロツヤバネクチキムシ								
2375	アリモドキ科	アカホソアリモドキ							
2376		ツヤチビホソアリモドキ							
2377		コクロホソアリモドキ							
2378		ホソクビアリモドキ							
2379		ヒゲナガクビボムシ							
2380		キアシクビボムシ							
2381		アカクビボムシ							
-		Macratris属							
2382		ヨツボシホソアリモドキ							
2383		アカモンホソアリモドキ							
2384	ハムシダマシ科	アオハムシダマシ							
2385		ナガハムシダマシ							
2386	ナガクチキムシ科	ヒロウドホソナガクチキ							
2387		Falsomordellina属							
2388		ハナノヒメハナノミ							
2389		Glipa属							
2390		アマミヒメハナノミ							
2391		チャオビヒメハナノミ							
2392		カグヤヒメハナノミ							
2393		ミカドヒメハナノミ							
2394		ヤマモトヒメハナノミ							
-		Mordellina属							
2395		クロヒメハナノミ							
-	Mordellistena属								
2396	キンオビハナノミ								
-	ハナノミ科								
2397	コキノコムシ科	ヒゲプトコキノコムシ							
2398	カミキリモドキ科	ルリカミキリモドキ							
2399		ハネアカカミキリモドキ							
2400		モモトカミキリモドキ							
2401		キアシカミキリモドキ							
2402		キイロカミキリモドキ							
2403		キバナカミキリモドキ							
2404		アオカミキリモドキ							
-		Xanthochroa属							
2405		アカハネムシ科	アカハネムシ						
2406		ハナノミダマシ科	ホソフナガタハナノミ						
2407	ヒメゴミムシダマシ								
2408	ゴミムシダマシ科	ヨツボシゴミムシダマシ							
2409		ナガニジゴミムシダマシ							
2410		クロホシテントウゴミムシダマシ							
2411		モンキゴミムシダマシ							
2412		スナゴミムシダマシ							
2413		カクスナゴミムシダマシ							

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 32/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺						
					H6	H10	H15				
2414	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゴミムシダマシ科	ホソスナゴミムシダマシ							
2415				ヒメカクスナゴミムシダマシ							
2416				スジコガシラゴミムシダマシ							
2417				カプトゴミムシダマシ							
2418				マルツヤキノコゴミムシダマシ							
2419				オオメキノコゴミムシダマシ							
2420				クロツヤキノコゴミムシダマシ							
2421				キマワリ							
2422				ヒメマルムネゴミムシダマシ							
2423				ニジゴミムシダマシ							
2424				モトヨツコブゴミムシダマシ							
2425				ヤマトエグリゴミムシダマシ							
2426				ヨツコブゴミムシダマシ							
2427				エグリゴミムシダマシ							
-				ゴミムシダマシ科							
2428				カミキリムシ科	ピロウドカミキリ						
2429						ムモンベニカミキリ					
2430						ツヤケシハナカミキリ					
2431						ゴマダラカミキリ					
2432						サビカミキリ					
2433						ムネツヤサビカミキリ					
2434						キクスイモトカミキリ					
2435						ツシマムナクボカミキリ					
2436						エグリトラカミキリ					
2437						アカハナカミキリ					
2438						ホソカミキリ					
2439						ヨツキボシカミキリ					
2440						アトモンマルケシカミキリ					
2441						シロオビゴマフカミキリ					
2442						シラホシカミキリ					
2443						ヨツスジハナカミキリ					
2444						オオヨツスジハナカミキリ					
2445						ヒシカミキリ					
2446						ヘリグロリンゴカミキリ					
2447						ラミーカミキリ					
2448						ニンフホソハナカミキリ					
2449						チャイロヒメハナカミキリ					
2450						フタオビチビハナカミキリ					
-						Pidonia属					
2451						ノコギリカミキリ					
2452						ウモンサビカミキリ					
2453						トガリシロオビサビカミキリ					
2454						アトモンサビカミキリ					
2455						ヒトオビアラガカミキリ					
2456						クロカミキリ					
2457						ヨツボシカミキリ					
2458						コウヤホソハナカミキリ					
2459						アオスジカミキリ					
2460						ハムシ科	キクピアオハムシ				
2461								ヒメカミナリハムシ			
2462								アザミカミナリハムシ			
2463								カミナリハムシ			
2464								スジカミナリハムシ			
2465								アカバナトビハムシ			
-								Altica属			
2466								キイロツブノミハムシ			
2467								ツブノミハムシ			
2468								サメハダツブノミハムシ			
2469								ホソリトビハムシ			
2470								フタイロセマルトビハムシ			
2471								オオアカマルノミハムシ			
2472								ムナグロツヤハムシ			
2473								カクムネトビハムシ			
2474								オオキイロノミハムシ			
2475								ウリハムシモドキ			
2476								ウリハムシ			
2477								クロウリハムシ			
2478								アオバナサルハムシ			
2479								アズキマソウムシ			
2480								ハラグロヒメハムシ			
2481								ヒメカメノコハムシ			
2482								フタイロヒサゴトビハムシ			
2483								ヒメドウガネトビハムシ			
2484								ヒサゴトビハムシ			
-								Chaetocnema属			
2485								ムシクソハムシ			
2486								ヤナギハムシ			
2487								ウエツキブナハムシ			
2488								アオバミドリトビハムシ			
2489								バラリリツツハムシ			
2490								タテスジキツツハムシ			
2491								ヨツモンクロツツハムシ			
2492								クロボシツツハムシ			
-								Cryptocephalus属			
2493								マダラアラゲサルハムシ			
2494								イネネケイハムシ			
2495								キバラヒメハムシ			
-								Exosoma属			
2496								クワハムシ			
2497								ジュンサイハムシ			
2498								イタドリハムシ			
2499								ズグロキハムシ			



表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 33/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
2500	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ハムシ科	ヤツボシハムシ			
2501				フジハムシ			
2502				キバネマルノミハムシ			
2503				ヒゲナガルリマルノミハムシ			
2504				ケブカクロナガハムシ			
2505				キオビクビボソハムシ			
2506				アカクビボソハムシ			
2507				ヤマモハムシ			
2508				ルリハムシ			
2509				サシゲトビハムシ			
2510				イヌノフグリトビハムシ			
2511				オオバコトビハムシ			
2512				クビアカトビハムシ			
2513				キアシノミハムシ			
-				Luperomorpha属			
2514				クロウスバハムシ			
2515				コフキサルハムシ			
2516				フタスジヒメハムシ			
2517				セマルトビハムシ			
2518				ホタルハムシ			
2519				ムネアカウスイロハムシ			
2520				ヒメウスイロハムシ			
2521				キイロクワハムシ			
-				Monolecta属			
2522				ルリマルノミハムシ			
2523				コマルノミハムシ			
2524				ドウガネツヤハムシ			
2525				アオグロツヤハムシ			
2526				ヒメツヤハムシ			
2527				ブタクサハムシ			
2528				ヒメキバネサルハムシ			
2529				アトボシハムシ			
2530				ダイコンハムシ			
2531				チャバネツヤハムシ			
2532				ヤナギルリハムシ			
2533				フタホシオオノミハムシ			
2534				クビボソトビハムシ			
2535				ナトビハムシ			
2536				サンゴジュハムシ			
2537				ニレハムシ			
2538				ドウガネサルハムシ			
2539				キボシルリハムシ			
2540				アケビタマノミハムシ			
2541				キイロタマノミハムシ			
2542				ルリウスバハムシ			
2543				ヒゲナガウスバハムシ			
2544				クロバヒゲナガハムシ			
2545				イチモンジカメノコハムシ			
2546				トビサルハムシ			
2547				キカサハラハムシ			
2548				ムナグロナガハムシ			
2549				アラハダトビハムシ			
2550				ガマスミトビハムシ			
2551				ヒソバギハムシ			
2552				シリアカタマノミハムシ			
2553				ヒゲナガゾウムシ科			
2554				スネアカヒゲナガゾウムシ			
2555	キノコヒゲナガゾウムシ						
2556	ウスモンツツヒゲナガゾウムシ						
2557	シロヒゲナガゾウムシ						
2558	クロフヒゲナガゾウムシ						
2559	ホソクチゾウムシ科						
2560	マメホソクチゾウムシ						
2561	ヒレルホソクチゾウムシ						
2562	アカクチホソクチゾウムシ						
2563	オトシブミ科						
2564	ウスモンオトシブミ						
2565	ヒメクロオトシブミ						
2566	ムツモンオトシブミ						
2567	エゴツルクビオトシブミ						
2568	コナライクビチョッキリ						
2569	ナラルリオトシブミ						
2570	ハギルリオトシブミ						
2571	カシルリオトシブミ						
2572	リュイスアシナガオトシブミ						
2573	アシナガオトシブミ						
2574	ヒメコブオトシブミ						
2575	ゾウムシ科						
-	Acallinus属						
2576	ナカグロカレキゾウムシ						
2577	ウスモンカレキゾウムシ						
-	Acicnemis属						
2578	トゲアシゾウムシ						
2579	イチコバナゾウムシ						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 34/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
2578	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ゾウムシ科	クワヒメゾウムシ			
2579				ホソクチカクシゾウムシ			
2580				ツヤチビヒメゾウムシ			
2581				ダイコンサルゾウムシ			
2582				カナムグラサルゾウムシ			
-				Ceutorhynchus属			
2583				ジュウジコブサルゾウムシ			
2584				セダカシギゾウムシ			
2585				コナラシギゾウムシ			
2586				ジュウジチビシギゾウムシ			
2587				クリシギゾウムシ			
-				Curculio属			
2588				チビカチカクシゾウムシ			
2589				タバガササゾウムシ			
2590				ヤナギイネゾウムシ			
2591				コクロアナキゾウムシ			
2592				トドマツアナキゾウムシ			
2593				シロコブゾウムシ			
2594				コフキゾウムシ			
2595				タデサルゾウムシ			
2596				マツアナキゾウムシ			
2597				サビノキゾウムシ			
2598				イネミスゾウムシ			
2599				ハスジカツゾウムシ			
2600				ウスアオクチプトゾウムシ			
2601				ヒメクロツツキクイゾウムシ			
2602				ネジキトゲムネサルゾウムシ			
2603				ツツジトゲムネサルゾウムシ			
2604				ホホシロアシナガゾウムシ			
2605				キスジアシナガゾウムシ			
2606				カシアシナガゾウムシ			
2607				クロアシナガゾウムシ			
2608				オジロアシナガゾウムシ			
2609				トゲハラヒラセクモゾウムシ			
-				Metiama属			
2610				カシワクチプトゾウムシ			
-				Myliocerus属			
2611				チビヒョウタンゾウムシ			
2612				マツチャイロキクイゾウムシ			
2613				ヒレルクチプトゾウムシ			
2614				リンゴコフキゾウムシ			
2615				コヒゲボソゾウムシ			
2616				ツチイロヒゲボソゾウムシ			
2617				ヒラズネヒゲボソゾウムシ			
2618				リンゴヒゲナガゾウムシ			
2619				ウスイロヒゲボソゾウムシ			
2620				ハダカヒゲボソゾウムシ			
-				Phyllolobius属			
2621				スグリゾウムシ			
2622				アラハダクチカクシゾウムシ			
2623				ギシギシクチプトサルゾウムシ			
2624				ムネスジノミゾウムシ			
-				Rhynchaenus属			
2625				キイチゴトゲサルゾウムシ			
2626				ニセマツノシラホシゾウムシ			
2627				Smicronyx属			
2628				イコマケシツチゾウムシ			
2629				オサゾウムシ科			
2630				キクイサビゾウムシ			
2631				オオゾウムシ			
-	キクイムシ科						
2632	ネッカコキクイムシ						
2633	Cryphalus属						
2634	フィリピンキクイムシ						
2635	ハイマツアトマルキクイムシ						
2636	タブノキクイムシ						
2637	クワノキクイムシ						
2638	シイノボソキクイムシ						
2639	ハギキクイムシ						
2640	ハンノキクイムシ						
2641	ザイノキクイムシ亜科						
2642	キクイムシ科						
2643	アカシチュウレンジ						
2644	チュウレンジハチ						
2645	ハバチ科						
2646	セクロカブラハバチ						
2647	ニホンカブラハバチ						
2648	クロムネハバチ						
2649	ヒゲナガハバチ						
2650	クロハバチ						
2651	アシフトヒゲナガハバチ						
2652	チャイロハバチ						
2653	ルイスアカマルハバチ						
2654	クロイロシマハバチ						
2655	ヒゲナガクロハバチ						
2656	Priophorus属						
2657	トムソンハムグリハバチ						
2658	セマダラハバチ						
2659	オオコシアカハバチ						
2660	サツクリハバチ						
-	センマイハバチ						
-	ツノキクハバチ						
-	オメガアオハバチ						
-	ハバチ科						
2660	クビナガキハチ科						
2660	クビナガキハチ科						

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 35/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
2661	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	コマユバチ科	サクラスカシサムライコマユバチ					
2662				モモクロサムライコマユバチ					
2663				アオムシサムライコマユバチ					
2664				クワノメイガサムライコマユバチ					
2665				ブランコサムライコマユバチ					
2666				キタカミキリコマユバチ					
2667				マルバラコマユバチ					
2668				ムナカタコウラコマユバチ					
2669				ヒメコウラコマユバチ					
-				Cheilonus属					
2670				ヒメウマノオバチ					
2671				ヒゲナガコマユバチ					
2672				クロヒゲナガコマユバチ					
2673				サラサヒトリハラボソコマユバチ					
2674				クロオオサムライコマユバチ					
2675				タテハオオサムライコマユバチ					
2676				ヨトウオオサムライコマユバチ					
2677				ヨコハママダラコマユバチ					
2678				カモドキバチモドキ					
2679				カモドキバチ					
2680				ヨコハマコマユバチ					
2681				オオアメイロコンボウコマユバチ					
2682				チビキイロコウラコマユバチ					
-				コマユバチ科					
2683				ヒメバチ科	スジコンボウヒメバチ				
2684					クロヒゲフシオナガヒメバチ				
2685					シロテントガリヒメバチ				
2686					イヨヒメバチ				
2687					ハラボソトガリヒメバチ				
2688					エソフタオヒメバチ				
2689					スギハラチビアメバチ				
2690					シロモンヒラタヒメバチ				
2691					クロモンアメバチ				
2692					ムラサキウスアメバチ				
2693					クロヒラタアブヤドリバチ				
2694					シコクホシアメバチ				
2695					キマダラコシホソトガリヒメバチ				
2696					Habronyx heros				
2697					コンボウアメバチ				
2698					ヒョウモンヒメバチ				
2699					アマヒトリヤドリヒメバチ				
2700					マツケムシヒラタヒメバチ				
2701					アオムシヒラタヒメバチ				
2702					Megarhyssa属				
2703					ツバメシジミセアカヒメバチ				
2704					タカオウスグロアメバチ				
2705					ツマグロケンヒメバチ				
2706					シラホシオナガバチ				
2707					エソフタオマルヒメバチ				
-					ヒメバチ科				
2708					カギバラバチ科	キスジセアカカギバラバチ			
2709					ヒゲナガクロバチ科	ヒゲナガクロバチ科			
2710					コンボウヤセバチ科	コンボウヤセバチ			
2711					ハエヤドリクロバチ科	ハエヤドリクロバチ科			
2712					ハラビロクロバチ科	Inostemma属			
-					ハラビロクロバチ科	ハラビロクロバチ科			
2713					シリボソクロバチ科	シリボソクロバチ科			
2714					クシヅメクロバチ科	クシヅメクロバチ科			
2715					イシハラクロバチ科	イシハラクロバチ科			
2716					タマゴクロバチ科	スイムシクロタマゴバチ			
2717						ギフクロタマゴバチ			
-						タマゴクロバチ科			
2718					オオモンクロバチ科	オオモンクロバチ科			
2719					ツヤコバチ科	ツヤコバチ科			
2720					アシプトコバチ科	キアシプトコバチ			
-						アシプトコバチ科			
2721					トビコバチ科	トビコバチ科			
2722					アリヤドリコバチ科	アリヤドリコバチ科			
2723					ヒメコバチ科	ヒメコバチ科			
2724					ナガコバチ科	マツケムシハネミジカタマゴバチ			
-						ナガコバチ科			
2725				カタビロコバチ科	カタビロコバチ科				
2726				コガネコバチ科	コガネコバチ科				
2727				オナガコバチ科	オナガアシプトコバチ				
-					オナガコバチ科				
2728				タマゴコバチ科	タマゴコバチ科				
2729				ホソハネコバチ科	ホソハネコバチ科				
2730				ヤドリタマバチ科	ヤドリタマバチ科				
2731				ツヤヤドリタマバチ科	ツヤヤドリタマバチ科				
2732					コバチ上科				
2733				セイボウ科	セイボウ科				
2734				アリ科	ノコギリハリアリ				
2735					アシナガアリ				
2736					ヤマトアシナガアリ				
2737					オオハリアリ				
2738					ニシムネアカオオアリ				
2739					イトウオオアリ				
2740					クロオオアリ				
2741					ミカドオオアリ				
2742					ナウヨツボシオオアリ				
2743					ヒラスオオアリ				
2744					ムネアカオオアリ				

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 36/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺		
					H6	H10	H15
2745	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	アリ科	ウスマツオオアリ			
2746				ヤマヨツボシオオアリ			
2747				ツチクビレハリアリ			
2748				ツヤシリアゲアリ			
2749				ハリプトシリアゲアリ			
2750				キイロシリアゲアリ			
2751				テラニシリアゲアリ			
2752				トビイロシリアゲアリ			
2753				メクラハリアリ			
2754				ハヤシクロヤマアリ			
2755				クロヤマアリ			
2756				アカヤマアリ			
2757				ツヤクロヤマアリ			
2758				シベリアカタアリ			
2759				ルリアリ			
2760				フシボソクサアリ			
2761				クロクサアリ			
2762				ハヤシケアリ			
2763				トビイロケアリ			
2764				クサアリモドキ			
2765				アメイロケアリ			
2766				ヒメムネボソアリ			
2767				ハリナガムネボソアリ			
2768				ハヤシムネボソアリ			
2769				ミゾガシラアリ			
2770				ヒメアリ			
2771				キイロヒメアリ			
2772				カドフシアリ			
2773				シワクシケアリ			
2774				アメイロアリ			
2775				サクラアリ			
-				Paratrechina属			
2776				ヒラタウロコアリ			
2777				アズマオオズアリ			
2778				オオズアリ			
2779				サムライアリ			
2780				トゲアリ			
2781				ヒメハリアリ			
2782				アミアリ			
2783				トフシアリ			
2784				メクラナガアリ			
2785				ウロコアリ			
-				Strumigenys属			
2786				ヒラフシアリ			
2787				オオシウアリ			
2788				トビイロシウアリ			
2789				ウスマツアリ			
2790				ハリアリ亜科			
2791				フタフシアリ亜科			
2792				ヤマアリ亜科			
-				アリ科			
2793				ドロバチ科			
2794				オオフタオビドロバチ本土亜種			
2795				ミカドトックリバチ			
2796				キアシトックリバチ			
2797				ムモントックリバチ			
2798				サムライトックリバチ			
2799				ミカドドロバチ			
2800				スズバチ			
2801				カバフドロバチ			
2802				ムモンホソアシナガバチ			
2803				トウヨウホソアシナガバチ			
2804				セグロアシナガバチ			
2805				ヤマトアシナガバチ			
2806				キボシアシナガバチ			
2807				コアシナガバチ			
2808				コガタスズメバチ			
2809				オオスズメバチ			
2810				キイロスズメバチ			
2811				ヒメスズメバチ			
2812				クロスズメバチ			
-				スズメバチ			
2813				スズメバチ科			
2814				アケボノベッコウ			
2815				オオモンクロベッコウ			
2816				ヒラカタベッコウ			
2817				ヒメベッコウ			
2818				スギハラベッコウ			
2819				ペレエヒゲベッコウ			
-				キバネトゲアシベッコウ			
2820				ベッコウバチ科			
-				アリバチ科			
2821				アリバチモドキ			
2822				アリバチ科			
2823				Tiphia属			
2824				ツチバチ科			
2825				ヒメハラナガツチバチ			
2826				キンケハラナガツチバチ			
2827				ハラナガツチバチ			
-				オオハラナガツチバチ			
2828				キオビツチバチ			
2829				サトシガバチ			
2830				Amnophila属			
2831				ミカドシガバチ			
2832				コクローアナバチ			
2833				Rhopalum属			
2834				クローアナバチ			
-				オオハヤバチ			
-				シガバチモドキ			
-				ヒメコンボソバチ亜科			

表 6.6-33 ダム湖周辺確認種リスト(陸上昆虫類 : 37/37)

No.	綱名	目名	科名	和名	ダム湖周辺				
					H6	H10	H15		
2835	昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	アナバチ科	ドロバチモドキ亜科					
2836				キングバチ亜科					
2837			ヒメハナバチ科	アブラナマメヒメハナバチ					
2838				キバナヒメハナバチ					
2839				ミカドヒメハナバチ					
2840				ムネアカハラヒロヒメハナバチ					
2841				ウツギヒメハナバチ					
-				Andrena属					
2842				コシブトハナバチ科	スジボソコシブトハナバチ				
2843					ヤマトツヤハナバチ				
-					Ceratina属				
2844					Nomada属				
2845			ミツクリヒゲナガハナバチ						
2846			ニッポンヒゲナガハナバチ						
2847			クマバチ						
2848			ミツバチ科	ニホンミツバチ					
2849				コマルハナバチ					
2850				トラマルハナバチ					
-				Bombus属					
2851			ムカシハナバチ科	アシブトムカシハナバチ					
-				Colletes属					
2852				ツグロチヒムカシハナバチ					
2853				ヒメチヒムカシハナバチ					
2854			コハナバチ科	アカガネコハナバチ					
-				Halictus属					
2855			昆虫綱	ハチ目(膜翅目)	コハナバチ科	ツマルコハナバチ			
2856						ツヤハラナガコハナバチ			
-						Lasioglossum属			
-	コハナバチ科								
2857	ハキリバチ科	オオハキリバチ							
2858		キバラハキリバチ							
-		ハチ目							
2綱24目406科2858種					1347種	1319種	1539種		
						2744種			

注) 1.種名および分類は「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省)に準拠した。  
2.種名に「…属」「…科」「…亜科」「…目」とあるもので、他の種と重複する可能性がある場合は、種数の合計から除外した。